Ⅰ　国民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためにとるべき措置

1 歴史・伝統文化の保存と継承の中核的拠点としての収蔵品の整備と、次代への継承

1-(1) 収蔵品

1-(1)-① 収蔵品一覧表　　（単位：件）　平成24年3月31日現在

		国立博物館			東京国立博物館			京都国立博物館			奈良国立博物館			九州国立博物館		
		計	国宝	重文	計	国宝	重文	計	国宝	重文	計	国宝	重文	計	国宝	重文
合計		122,802	130	946	113,897	87	631	6,621	27	177	1,831	13	109	453	3	29
絵画		13,446	34	201	11,101	20	101	1,983	9	54	288	4	42	74	1	4
書跡		3,246	35	166	1,753	14	58	1,312	15	76	141	5	26	40	1	6
彫刻		1,408	1	45	1,102	0	22	143	0	1	144	1	16	19	0	6
建築		78	0	2	21	0	0	49	0	1	5	0	0	3	0	1
金工		16,380	3	54	15,831	1	17	378	2	24	158	0	11	13	0	2
刀剣		3,419	20	57	3,396	19	57				16	0	0	7	1	0
陶磁		3,760	0	18	2,932	0	12	716	0	2	81	0	0	31	0	4
漆工		4,180	6	30	3,757	4	20	194	0	2	74	2	5	155	0	3
染織		4,652	2	25	3,627	0	18	905	1	6	92	1	1	28	0	0
考古		29,957	4	75	28,529	4	55	659	0	10	731	0	8	38	0	2
民族資料		1,300	0	0	1,190	0	0	0	0	0	101	0	0	9	0	0
歴史資料		4,684	0	6	4,369	0	4	282	0	1	0	0	0	33	0	1
和書		17,562	0	1	17,562	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0
その他		3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3	0	0
東洋	絵画	684	4	31	684	4	31									
	書跡	1,692	10	12	1,692	10	12									
	彫刻	798	0	20	798	0	20									
	金工	986	0	0	986	0	0									
	陶磁	3,040	0	10	3,040	0	10									
	漆工	529	0	4	529	0	4									
	染織	585	0	1	585	0	1									
	考古	5,808	0	2	5,808	0	2									
	民族	3,468	0	0	3,468	0	0									
法隆寺献納宝物		321	11	182	321	11	182									
黒田記念館収蔵品		814	0	2	814	0	2									
準歴史資料（含和書）		2	0	2	2	0	2									

＊東京国立博物館は、列品管理規程による「旧東洋課所掌分」あり。
＊列品に編入されていない資料については「準歴史資料（含和書）」の項目に記し、列品化整理中の資料とを分けて表示している
＊東京国立博物館、京都国立博物館では、国宝・重要文化財の数は文化庁の指定件数に合わせている。（このほか東京国立博物館には建造物の重要文化財が5件ある）。
＊平成15年度以前「歴史資料」と分類していたのものを、平成16年度より「和書」と「歴史資料」にて分けて表示している。
＊平成19年4月1日付けで黒田記念館収蔵品が東京文化財研究所から東京国立博物館に移管となった。
＊平成23年度に、東京国立博物館（東洋考古 重文1件）を九州国立博物館（考古）へ管理換した。

（参考）
【奈良文化財研究所】

○保管及び所蔵文化財・資料概要（主なもの）

平成24年3月31日現在

保管及び所蔵文化財・資料名	数
［文化遺産部］	
国宝・重要文化財建造物保存図	約30,100枚
国宝・重要文化財建造物摺拓本	約26,000枚
国宝・重要文化財建造物写真乾板	約32,200枚
北浦定政関係資料（重要文化財）	約1,100点
棚田嘉十郎関係資料	26点
関野貞関係資料	54点
菅原大三郎関係資料	7箱
森薀資料	約4,500点
村岡正資料	約3,000点
小林剛関係資料	約38箱
牛川喜幸関係資料	2,927点
［都城発掘調査部（平城地区）］	
平城宮跡大膳職推定地出土木簡（重要文化財）	39点
平城宮跡内裏北外郭官衙出土木簡（重要文化財）	1,785点
興福寺旧境内土壙（一乗院宸殿跡下層）出土品（重要文化財）	一括
平城宮・京出土土器・土製品	29,714箱
平城宮・京出土木製品・金属製品・石製品	32,568点
平城宮・京出土瓦類	693,678点
平城宮・京出土木簡	209,062点
［都城発掘調査部(飛鳥･藤原地区)］	
軒丸瓦・軒平瓦	約35,298点
丸瓦・平瓦　　土嚢袋	約167,754袋
丸瓦・平瓦　　整理箱	約37,956箱
土器　　整理箱	約15,994箱
土製品	約14,919点
木器・木製品	約33,942点
木簡	約355,155点
建築部材	約2,956点
金属製品	約19,781点
石器・石製品	約14,182点
漏刻復原模型	1点
幢幡復原模型（台付き）	一式
飛鳥大仏頭部複製（模刻）	1点
藤ノ木古墳鞍復原模型	1点
富本銭枝銭復原模型	一式
碁盤復原模型	1点
鉄釜鋳造土坑復原模型	1点
［飛鳥資料館］	
高松塚古墳出土品（海獣葡萄鏡　銀製太刀金具 棺金具　ガラス小玉漆塗り木棺）（重要文化財）	一式
須弥山石	1点
石人像	1点
飛鳥寺塔跡出土舎利荘厳具	一式
飛鳥寺出土瓦類	一式
山田寺跡出土品（重要文化財）	一括
和田廃寺鴟尾（都城発掘調査部（飛鳥・藤原地区所属）	1点
川原寺出土水波紋土磚	2点
岡出土車石	8点
飛鳥各地出土瓦類	一式
川原寺裏山出土三尊磚仏	2点
飛鳥川原宮出土唐居敷	1点
高松塚古墳壁画模写（前田青邨、平山郁夫等）	3面
高松塚古墳人物復元衣装	一式
石上神宮七枝刀レプリカ	1点
水落遺跡遺構1/20模型	1点
猿石模刻	一式
亀石模刻	1点
須弥山石復元模刻	1点
石人像復元模刻	1点
出水酒船石模刻	2点
阿武山古墳出土　玉枕　冠帽　復元模型	3点
川原寺伽藍1/50模型	1点
山田寺金堂復原	1点
飛鳥京復原模型	1点
山田寺発掘遺構1/100模型	1点
石舞台古墳1/20模型	1点
飛鳥寺発掘遺構1/100模型	1点

保管及び所蔵文化財・資料名	数
石のカラト古墳1/20模型	1点
野中寺銅造弥勒菩薩半伽像レプリカ	1点
銅造摩耶夫人及天人像レプリカ	4点
威奈大村骨蔵器レプリカ	1点
長谷寺法華説相図レプリカ	1点
諸陵周垣成就記並諸陵図譜	1点
鼓銅図録	1点
高松塚古墳木棺模造	1点
八釣マキト５号古墳石室	１点
十二支拓本（表装済み・収納箱あり）	一式
キトラ古墳模型	１点
山東省済南市解放橋北唐墓石棺　青龍・白虎・小口面拓本	各１点
近藤千尋関連資料	一式
武人復原	１点
山田寺灯籠復原	１点
壬申の乱ジオラマ	一式
牽牛子塚古墳ミニジオラマ	1点
［埋蔵文化センター］	
埼玉県真福寺貝塚資料	一式
岡山県福田貝塚資料	一式
埼玉県上福岡貝塚資料	一式
神奈川県田戸遺跡資料	一式
神奈川県子母口貝塚	一式
神奈川県大口坂貝塚資料	一式
能登縄文資料（15遺跡）	一式
千葉県曽谷貝塚資料	一式
長野県石小屋遺跡資料	一式
山形県蛭沢洞窟資料	一式
東京都小豆沢貝塚資料	一式
茨城県広畑貝塚資料	一式
中国・朝鮮瓦磚資料	一式
岡山地方陶棺資料	一式
下総国分寺・尼寺資料	一式
関東地方加曽利B式資料	一式
岩手県足沢遺跡資料	一式
茨城県浮島貝塚資料	一式
千葉県幸田貝塚資料	一式
滋賀県安土遺跡資料	一式
岡山県黒土遺跡資料	一式
神奈川県保土ヶ谷貝塚資料	一式
千葉県姥山貝塚資料	一式
宮城県川下り・響き資料	一式
大木囲貝塚	
東貝塚	
室浜貝塚	
福浦島貝塚	
里浜貝塚	
東北縄文晩期末資料	一式
東北各地発見縄文資料	一式
北海道資料	一式
発見地不詳縄文資料	一式
発見地不詳須恵器資料	一式
発見地不詳石器・石斧資料	一式
愛知県西滋賀貝塚資料	一式
愛知県吉胡貝塚資料	一式
茨城県前浦遺跡資料	一式
関東地方埴輪資料	一式
静岡県登呂遺跡資料	一式
発見地不詳須恵器資料	一式
発見地不詳石器・石斧資料	一式
愛知県西滋賀貝塚資料	一式
愛知県吉胡貝塚資料	一式
茨城県前浦遺跡資料	一式
関東地方埴輪資料	一式
静岡県登呂遺跡資料	一式

1-(1)-①（参考）

収蔵品・寄託品件数合計（過去5ヵ年）

（単位：件）　平成24年3月31日現在

		平成19年度			平成20年度			平成21年度			平成22年度			平成23年度		
		計	国宝	重文	計	国宝	重文	計	国宝	重文	計	国宝	重文	計	国宝	重文
収蔵品・寄託品合計	国立博物館 計	132,997	320	2,117	133,188 (132,950)	313	2,113	133,415	313	2,128	134,077	315	2,128	134,668	316	2,127
	東京国立博物館	115,182	140	883	115,279	140	882	115,510	137	885	115,984	137	886	116,586	137	883
	京都国立博物館	12,540	110	782	12,562 (12,324)	108	779	12,483	108	787	12,589	110	789	12,634	110	787
	奈良国立博物館	3,851	67	426	3,872	62	425	3,769	65	427	3,774	65	423	3,776	66	425
	九州国立博物館	1,424	3	26	1,475	3	27	1,653	3	29	1,730	3	30	1,672	3	32
収蔵品	国立博物館 計	120,952	129	927	121,121	129	932	121,511	129	937	122,102	130	943	122,802	130	946
	東京国立博物館	112,439	87	619	112,529	87	622	112,776	87	624	113,258	87	629	113,897	87	631
	京都国立博物館	6,386	27	177	6,417	27	177	6,526	27	176	6,584	27	177	6,621	27	177
	奈良国立博物館	1,794	12	107	1,805	12	108	1,812	12	110	1,827	13	109	1,831	13	109
	九州国立博物館	333	3	24	370	3	25	397	3	27	433	3	28	453	3	29
寄託品	国立博物館 計	12,045	191	1,190	12,067 (11,829)	184	1,181	11,904	184	1,191	11,975	185	1,185	11,866	186	1,181
	東京国立博物館	2,743	53	264	2,750	53	260	2,734	50	261	2,726	50	257	2,689	50	252
	京都国立博物館	6,154	83	605	6,145 ※(5,907)	81	602	5,957	81	611	6,005	83	612	6,013	83	610
	奈良国立博物館	2,057	55	319	2,067	50	317	1,957	53	317	1,947	52	314	1,945	53	316
	九州国立博物館	1,091	0	2	1,105	0	2	1,256	0	2	1,297	0	2	1,219	0	3

※京都国立博物館平成20年度寄託品件数について計数方法の見直しを行い、以後括弧内の件数となった。

1-(1)-② 平成23年度新収品一覧表

（単位：件）　平成24年3月31日現在

		国立博物館			東京国立博物館			京都国立博物館			奈良国立博物館			九州国立博物館		
		購入	寄贈	編入	購入	寄贈	編入	購入	寄贈	編入	購入	寄贈	編入	購入	寄贈	編入
合計		（＊1） 701			640			37			4			20		
計		34	176	491	0	151	489	13	24	0	4	0	0	17	1	2
絵画		11	23	1	0	12	0	7	11	0	1	0	0	3	0	1
書跡		7	33	0	0	33	0	2	0	0	2	0	0	3	0	0
彫刻		2	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1	0	0
建築		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
金工		1	1	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1	0
刀剣		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
陶磁		0	5	0	0	1	0	0	4	0	0	0	0	0	0	0
漆工		0	24	0	0	22	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0
染織		5	7	0	0	0	0	3	7	0	0	0	0	2	0	0
考古		1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1
民族資料		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
歴史資料		7	0	489	0	0	489	0	0	0	0	0	0	7	0	0
和書		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
その他		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
東洋	絵画	0	0	0	0	0	0									
	書跡	0	44	0	0	44	0									
	彫刻	0	0	0	0	0	0									
	金工	0	0	0	0	0	0									
	陶磁	0	34	0	0	34	0									
	漆工	0	5	0	0	5	0									
	染織	0	0	0	0	0	0									
	考古	0	0	0	0	0	0									
	民族	0	0	0	0	0	0									
法隆寺献納宝物		0	0	0	0	0	0									
黒田記念館収蔵品		0	0	0	0	0	0									

＊東京国立博物館は、列品管理規程による「旧東洋課所掌分」あり。
（＊1）平成23年度新収品数合計は701件であるが、九州国立博物館新収品の編入のうち考古1件については東京国立博物館（東洋考古）からの管理換であるため、収蔵品数は700件増加した。

付表・文化財収集件数の推移

5年間の新収集品一覧表

（単位：件）

		平成19年度			平成20年度			平成21年度			平成22年度			平成23年度		
		購入	寄贈	編入	購入	寄贈	編入	購入	寄贈	編入	購入	寄贈	編入	購入	寄贈	編入
合計		972			168			390			591			（＊1） 701		
小計		93	68	811	52	113	3	46	148	196	65	70	456	34	176	491
絵画		21	16	0	15	5	0	14	66	0	12	16	0	11	23	1
書跡		5	2	0	12	25	0	5	11	0	9	12	1	7	33	0
彫刻		1	9	0	4	0	0	2	12	0	1	2	1	2	0	0
建築		0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0
金工		3	11	0	1	0	2	1	0	0	13	4	0	1	1	0
刀剣		1	2	0	0	2	0	2	1	0	1	0	0	0	0	0
陶磁		14	1	0	1	2	0	7	16	0	2	0	0	0	5	0
漆工		20	1	0	3	11	0	8	2	0	5	11	0	0	24	0
染織		19	4	0	10	14	0	0	2	0	13	7	0	5	7	0
考古		7	2	1	4	11	1	3	29	0	3	2	0	1	0	1
民族資料		0	1	0	0	1	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0
歴史資料		0	1	0	2	1	0	4	0	196	6	2	453	7	0	489
和書		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
その他		1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
東洋	絵画	0	0	0	0	35	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	書跡	0	0	0	0	4	0	0	0	0	0	0	0	0	44	0
	彫刻	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0
	金工	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	陶磁	0	12	0	0	2	0	0	1	0	0	2	0	0	34	0
	漆工	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	5	0
	染織	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	考古	1	3	1	0	0	0	0	2	0	0	1	0	0	0	0
	民族	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	10	0	0	0	0
法隆寺献納宝物		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
黒田記念館収蔵品		0	0	809	0	0	0	0	5	0	0	0	0	0	0	0

1-(1)-③ 平成23年度新収品一覧

【東京国立博物館】(計640件)

(1) 購入（0件）

(2) 寄贈（151 件）

＜絵画＞（12 件）

1　○名　　称　鶴草子(つるのそうし)
　○時　　代　江戸時代・17 世紀
　○品　　質　紙本着色
　○員　　数　3 巻
　○寸 法 等　（上巻）縦 33.5 ㎝　長さ 1572.6 ㎝（中巻）縦 33.5 ㎝　長さ 1685.7 ㎝　（下巻）縦 33.5 ㎝　長さ 1664.7 ㎝
　○作品概要　巻子装。箱書に「鶴由来」とあるが、一般的には「鶴草子」(「鶴のさうし」) の名で呼ばれる報恩・怪婚譚で、お伽草子のひとつである。慈悲深い零落貴族の「宰相」が鶴を救い、この鶴が人に姿を変えた妻と富貴に暮らしていたところ、これに横恋慕して妻を奪おうとした守護官・宮崎の軍勢を夜叉や鳥獣が撃退、妻は自身が鶴であることを告げて去るが、人間の娘として生まれ変わって再び宰相と結ばれ、その後は子供にも恵まれて一家は富貴繁昌するという筋書きをもつ、「流布本」の系統に属する。

2　○名　　称　雉図（きじず）
　○作 者 等　岡本秋暉（1807～62）筆
　○時　　代　江戸時代・天保 13 年(1842)
　○品　　質　紙本着色
　○員　　数　1 幅
　○寸 法 等　本紙　縦 143.2 ㎝　横 88.6㎝
　○作品概要　掛幅装。枯薄や萩など秋草の生い茂る水辺に佇むつがいの雉と、飛来する小禽を描く。雄雉は目元の赤い肉腫を鮮やかに表現し、黒い身体にわずかに青色をにじませ、薄茶の翼には青と白を用いて雄特有の模様を描く。雌雉は薄茶の羽毛に白い斑点を浮かべ、嘴に肌色を施す。秋草の葉や茎には没骨技法を用い、飛来する小禽をはじめとする鳥類の表現には速い運筆を示す跡がみられる。

3　○名　　称　孔雀図（くじゃくず）
　○作 者 等　岡本秋暉（1807～62）筆
　○時　　代　江戸時代・19 世紀
　○品　　質　絹本着色
　○員　　数　1 幅
　○寸 法 等　本紙 縦 120.5 ㎝ 横 50.4 ㎝
　○作品概要　掛幅装。画面中央に岩前で尾を大きく振り上げる雄孔雀と寄り添う雌孔雀を配し、背後に牡丹、足元に蒲公英を描く。

4　○名　　称　波濤図（はとうず）
　○作 者 等　岡本秋暉（1807～62）筆
　○時　　代　江戸時代・19 世紀
　○品　　質　絹本着色
　○員　　数　1 幅
　○寸 法 等　本紙 縦 81.3 ㎝ 横 111.3 ㎝
　○作品概要　掛幅装、牙軸。大きくうねり飛沫をあげる波を描く。霞状に金泥を刷き、波間の陰影に群青を用いて、飛沫として細かな白色を散らす。多くの秋暉作品と同じく、沈南蘋の影響を受けた弧を無数に重ねる波表現がなされている。

5　○名　　称　欹器図　（いきず）
　○作 者 等　岡本秋暉（1807～62）筆
　○時　　代　江戸時代・19 世紀
　○品　　質　絹本着色
　○員　　数　2 幅
　○寸 法 等　本紙 縦 62.5 ㎝ 横 39.4 ㎝
　○作品概要　掛幅装。「荀子」巻第二十宥坐篇第二十八に記される「宥坐之器」を絵画化したもの。欹器は空だと傾き、適量の水を入れれば水平を保つものの、入れすぎると再び傾き水をこぼすことから、何事も適量があり満つれば欠けることを説く鑑戒図の一つ。向かって右幅上方に「宥坐之器」本文を記す。小襖を掛幅装に改変したもので、右幅右端中央および左幅左端中央にそれぞれ引手跡がある。

6　○名　　称　梅に鵲図（うめにかささぎず）
　○作 者 等　岡本秋暉（1807～62）筆
　○時　　代　江戸時代・文久 2 年（1862）
　○品　　質　紙本墨画
　○員　　数　1 幅
　○寸 法 等　本紙 縦 129.8 ㎝ 横 55.8 ㎝
　○作品概要　掛幅装。梅の枝にとまる鵲を描く。梅樹は笹の生い茂る画面右下から立ち上がり、一旦画面右外へ大きく幹を反らせた後、花をつけた枝先 2 本のみを画面に垂らす。長く延びた枝の一つに天を仰ぎ尾羽をピンと伸ばした鵲がとまる。いずれも速い筆致で描かれており、席画の様相を呈している。

7　○名　　称　鳥類写生図巻（ちょうるいしゃせいずかん）
　○作 者 等　岡本秋暉（1807～62）筆
　○時　　代　江戸時代・19 世紀
　○品　　質　紙本着色
　○員　　数　1 巻
　○寸 法 等　本紙 縦 27.2 ㎝ 長さ 984.7 ㎝
　○作品概要　巻子装。雉、燕、郭公、鴫、鶏、雁、鴨、孔雀、鷺、雀、金鶏鳥などの数々の鳥類を表した図巻。摘水軒記念文化振興財団蔵「鳥絵手本」とほぼ同図様を示すものの、秋暉特有の勢いよく速い筆勢がより顕著に確認できる。

8　○名　　称　岡本秋暉所用印（おかもとしゅうきしょよういん）
　○時　　代　江戸時代・19 世紀
　○品　　質　石製
　○員　　数　10 個
　○寸 法 等　①縦 3.2 ㎝　横 1.4 ㎝　高 7.8 ㎝　②縦 1.7 ㎝　横 1.7 ㎝　高 2.9 ㎝　③縦 1.7 ㎝　横 1.4 ㎝　高 3.2 ㎝　④縦 1.8 ㎝　横 1.9 ㎝　高 2.9 ㎝
　　⑤縦 1.5 ㎝　横 1.3 ㎝　高 2.3 ㎝　⑥縦 1.5 ㎝　横 1.4 ㎝　高 4.8 ㎝　⑦縦 1.2 ㎝　横 1.4 ㎝　高 3.0 ㎝　⑧縦 1.9 ㎝　横 0.7 ㎝　高 5.4 ㎝

⑨縦 1.4 ㎝　横 0.7 ㎝　高 2.8 ㎝　⑩縦 0.7 ㎝　横 0.8 ㎝　高 1.3 ㎝
○作品概要　秋暉が使用した「秋暉老人」印を含む岡本家伝来の印章。このうち 4.「岡秋暉印」には、文久 2 年（1862）5 月に四世浜村蔵六より贈られたことを示す側款が印刻されている。

9　○名　　称　曽我物語図屏風（模本）（そがものがたりずびょうぶ（もほん））
○時　　代　江戸時代・19 世紀
○品　　質　紙本墨画
○員　　数　1 巻
○寸 法 等　本紙 縦 25.2 ㎝ 長さ 476.4 ㎝
○作品概要　巻子装。原本伝土佐光茂筆。曽我物語の一場面、富士牧狩の図を屏風に描いた一隻を巻子に写したもの。表紙に「一」と墨書されることから、本巻は「曽我物語図屏風」一双のひとつを写したもので、もう一隻を写した「二」が存在したと推測される。渡辺美術館（鳥取県鳥取市）に土佐光吉筆と目される「曽我物語図屏風」が所蔵されるが、これとは構図や細部の図様が異なる。本巻から推測される原本は、墨書が伝える土佐光茂の画風が認められることから、光吉に先行する土佐派の「曽我物語図屏風」の存在を示唆する貴重な模本と考えられる。

10　○名　　称　江府青山熊野縁起絵巻（模本）（こうふあおやまくまのえんぎえまき（もほん））
○時　　代　江戸時代・19 世紀
○品　　質　紙本墨画
○員　　数　1 巻
○寸 法 等　本紙 縦 27.7 ㎝　長さ 793.1 ㎝
○作品概要　巻子装。武州青山（現渋谷区青山）にある熊野神社の縁起を描いた絵巻の模本。天保 2 年（1831）の奥書によれば、詞書は常徳院・足利義尚、絵は土佐光信が担当し、紀伊国主南龍院（徳川頼宣）が奉納したとする。詞書に多くの紙数が使われる一方で、絵は色紙形一枚程度の小さなものであり、その絵画様式からは室町時代の絵巻とは認めがたい。しかしながら、原本の確認、全国にある熊野神社に関連して各地で制作された「熊野権現縁起絵巻」との比較など研究資料としての価値が高い。

11　○名　　称　新百鬼夜行（模本）（しんひゃっきやぎょう（もほん））
○作 者 等　住吉広尚（1781～1828）模写
○時　　代　江戸時代・文化 5 年（1808）
○品　　質　紙本墨画
○員　　数　1 巻
○寸 法 等　本紙 縦 25.9 ㎝ 長さ 579.9 ㎝
○作品概要　巻子装。よく知られた室町時代制作の「百鬼夜行絵巻」とは異なる図様をもつもので、そのためか表紙に「新百鬼夜行」と題される。本絵巻とほぼ同じ図様を写した模本が、京都市立芸術大学芸術資料館、当館（狩野晴川院養信写、文政 12 年〔1829〕）に所蔵される。後者の墨書によればその原本は、元和 3 年(1617)に住吉内記（如慶）が模写したものの写しであるという。

12　○名　　称　中島和田右衛門の丹波屋八右衛門（なかじまわだえもんのたんばやはちえもん）
○作 者 等　東洲斎写楽（生没年不詳）筆
○時　　代　江戸時代・寛政 6 年(1794)
○品　　質　細判　錦絵
○員　　数　1 枚
○寸 法 等　本紙 縦 30.3 ㎝　横 14.2 ㎝
○作品概要　寛政 6 年（1794）8 月桐座上演の『四方錦故郷旅路』に取材した作品。写楽作品を四期に区別するうち、第二期に属する細判作品。写楽の同図柄としては、世界に 1 点しか知られていない貴重なものである。また、背景の黄潰しなど彩色も鮮やかに残っており、摺りと保存状態の優れた作品である。

＜書跡＞（33 件）

13　○名　　称　白楽天・閒夕（はくらくてん・かんせき）
○作 者 等　青山杉雨（1912～93）筆
○時　　代　昭和 13 年(1938)
○品　　質　紙本墨書
○員　　数　2 幅
○寸 法 等　本紙 縦 267.5cm 横 69.0cm
○作品概要　対幅に白居易（白楽天）の詩を書する。

14　○名　　称　李太白・送友人尋越中山水（りたいはく・そうゆうじんじんえつちゅうさんすい）
○作 者 等　青山杉雨（1912～93）筆
○時　　代　昭和 23 年(1948)
○品　　質　紙本墨書
○員　　数　1 幅
○寸 法 等　本紙 縦 204.8cm 横 54.6cm
○作品概要　対幅に李白の詩「送友人尋越中山水」を書する。

15　○名　　称　李太白・六首（りたいはく・ろくしゅ）
○作 者 等　青山杉雨（1912～93）筆
○時　　代　昭和 25 年(1950)
○品　　質　紙本墨書
○員　　数　2 幅
○寸 法 等　本紙 縦 270.0cm 横 69.0cm
○作品概要　李白の「憶東山二首」「望月有懐」「魯中都東楼醉起作」「獨坐敬亭山」「清溪半夜聞笛」の六首を行書で揮毫する。

16　○名　　称　李太白・見京兆韋参軍量移東陽（りたいはく・けんけいちょういさんぐんりょういとうよう）
○作 者 等　青山杉雨（1912～93）筆
○時　　代　昭和 29 年(1954)
○品　　質　紙本墨書
○員　　数　1 幅
○寸 法 等　本紙 縦 183.0cm 横 48.5cm
○作品概要　李白の五言絶句「見京兆韋参軍量移東陽 」（けいちょうの いさんぐんの とうように りょういせらるるをみる）を草体で揮毫する。

17　○名　　称　詩書継世（ししょけいせい）

○作 者 等　青山杉雨（1912～93）筆
○時　　代　昭和 33 年(1958)
○品　　質　紙本墨書
○員　　数　1 幅
○寸 法 等　本紙 縦 48.0cm 横 132.5cm
○作品概要　吉祥句である「詩書継世」の四文字を篆書で揮毫する。

18 ○名　　称　臨楚王酓　鼎銘（りんそおうえん　　ていめい）
○作 者 等　青山杉雨（1912～93）筆
○時　　代　昭和 35 年(1960)
○品　　質　紙本墨書
○員　　数　1 幅
○寸 法 等　本紙 縦 134.5cm 横 34.0cm
○作品概要　戦国時代の青銅器「楚王酓肎鼎」の銘文を篆書で臨書する。

19 ○名　　称　蘇東坡・湖橋（そとうば・こきょう）
○作 者 等　青山杉雨（1912～93）筆
○時　　代　昭和 37 年(1962)
○品　　質　紙本墨書
○員　　数　1 幅
○寸 法 等　本紙 縦 238.0cm 横 49.0cm
○作品概要　蘇軾の五言絶句「湖橋」を行書で揮毫する。

20 ○名　　称　周易・中孚（しゅうえき・ちゅうふ）
○作 者 等　青山杉雨（1912～93）筆
○時　　代　昭和 38 年(1963)
○品　　質　紙本墨書
○員　　数　1 幅
○寸 法 等　本紙 縦 220.0 cm 横 70.0 cm
○作品概要　易経（周易）「中孚」の句を草書で揮毫する。

21 ○名　　称　商頌 長発（しょうじゅ ちょうはつ）
○作 者 等　青山杉雨（1912～93）筆
○時　　代　昭和 41 年(1966)
○品　　質　紙本墨書
○員　　数　2 幅
○寸 法 等　本紙 縦 231.5cm 横 57.5cm
○作品概要　対幅に『詩経』の「商頌 長発」の句を篆書で揮毫する。

22 ○名　　称　臨石鼓文 第四鼓（りんせきこぶん だいよんこ）
○作 者 等　青山杉雨（1912～93）筆
○時　　代　昭和 45 年(1970)
○品　　質　紙本墨書
○員　　数　2 幅
○寸 法 等　本紙 縦 181.0cm 横 88.0cm
○作品概要　「石鼓文」の第四鼓の銘文を臨書する。

23 ○名　　称　望魯（ぼうろ）
○作 者 等　青山杉雨（1912～93）筆
○時　　代　昭和 47 年(1972)
○品　　質　紙本墨書
○員　　数　1 幅
○寸 法 等　本紙 縦 135.8cm 横 59.5cm
○作品概要　「望魯」の二文字を篆体で大書する。

24 ○名　　称　蘇東坡・石鼓歌（そとうば・せきこか）
○作 者 等　青山杉雨（1912～93）筆
○時　　代　昭和 62 年(1987)
○品　　質　紙本墨書
○員　　数　8 幅
○寸 法 等　本紙 縦 137.0cm 横 34.0cm
○作品概要　蘇軾が石鼓を見て詠んだ詩である「石鼓歌」全文を、８幅にわたって草体で書する。

25 ○名　　称　臨石鼓文（りんせきこぶん）
○作 者 等　青山杉雨（1912～93）筆
○時　　代　昭和 63 年(1988)
○品　　質　紙本墨書
○員　　数　12 幅
○寸 法 等　本紙 縦 228.5cm 横 45.0cm
○作品概要　「石鼓文」全文を１２幅にわたって臨書する。

26 ○名　　称　楽壺斎（らくこさい）
○作 者 等　青山杉雨（1912～93）筆
○時　　代　平成 4 年(1992)
○品　　質　紙本墨書
○員　　数　3 面
○寸 法 等　本紙 縦 52.8cm 横 46.7cm
○作品概要　「楽」「壺」「斎」の三文字を１面づつに書する。

27 ○名　　称　篆書五言聯（てんしょごごんれん）
○作 者 等　青山杉雨（1912～93）筆

○時　　代　昭和 56 年(1981)
○品　　質　紙本墨書
○員　　数　2 幅
○寸 法 等　本紙 縦 136.0cm 横 23.0cm
○作品概要　対幅に五言二句を篆体で書する。

28 ○名　　称　艱難玉汝（かんなんなんじをたまにす）
○作 者 等　青山杉雨（1912～93）筆
○時　　代　昭和時代・20 世紀
○品　　質　紙本墨書
○員　　数　1 面
○寸 法 等　本紙 縦 27.0cm 横 68.5cm
○作品概要　「艱難玉汝」の四文字を書する。

29 ○名　　称　殷文鳥獣戯画（いんぶんちょうじゅうぎが）
○作 者 等　青山杉雨（1912～93）(1912～93)筆
○時　　代　昭和 44 年(1969)
○品　　質　紙本墨書
○員　　数　1 面
○寸 法 等　本紙 縦 68.0cm ；　横 103.0cm
○作品概要　種々の鳥獣を表わす文字を、殷代の甲骨文風に書する。

30 ○名　　称　蘇東坡・臘日遊孤山訪惠勤惠思二僧（そとうば・ろうじつゆうこざんほうけいごんけいしにそう）
○作 者 等　青山杉雨（1912～93）筆
○時　　代　平成 3 年(1991)
○品　　質　紙本墨書
○員　　数　1 幅
○寸 法 等　本紙 縦 137.0cm ；　横 47.0cm
○作品概要　蘇軾（蘇東坡）の詩「臘日、孤山に遊びて惠勤・惠思二僧を訪う」を書し、「辛未秋日録于寄鶴軒、杉雨逸人」と款記を加える。

31 ○名　　称　眼中之人（がんちゅうのひと）
○作 者 等　青山杉雨（1912～93）(1912～93)筆
○時　　代　昭和 54 年(1979)
○品　　質　紙本墨書
○員　　数　1 面
○寸 法 等　本紙 縦 44.5cm ；　横 68.5cm
○作品概要　「眼中之人」の四字を大書する。

32 ○名　　称　聴鹿鳴（ちょうろくめい）
○作 者 等　青山杉雨（1912～93）筆
○時　　代　昭和 34 年(1959)
○品　　質　紙本墨書
○員　　数　1 面
○寸 法 等　本紙 縦 39.0cm ；　横 120.0cm
○作品概要　（本文）「聴鹿鳴　杉雨題　己亥晩冬」

33 ○名　　称　亀山操（きざんそう）
○作 者 等　青山杉雨（1912～93）(1912～93)筆
○時　　代　昭和 45 年(1970)
○品　　質　紙本墨書
○員　　数　1 幅
○寸 法 等　本紙 縦 104.5cm ；　横 51.5cm
○作品概要　孔子が琴曲を付したと伝えられる「亀山操」の一節を書する。

34 ○名　　称　萬方鮮（ばんぽうせん）
○作 者 等　青山杉雨（1912～93）(1912～93)筆
○時　　代　昭和 52 年(1977)
○品　　質　紙本墨書
○員　　数　1 面
○寸 法 等　本紙 縦 108.5cm ；　横 103.5cm
○作品概要　「萬方鮮」の三字を大書する。

35 ○名　　称　隷書七言聯（れいしょしちごんれん）
○作 者 等　青山杉雨（1912～93）筆
○時　　代　昭和 56 年(1981)
○品　　質　紙本墨書
○員　　数　2 幅
○寸 法 等　本紙 縦 137.0cm ；　横 27.0cm
○作品概要　対幅に七言二句を隷体で書する。

36 ○名　　称　巌風（がんぷう）
○作 者 等　青山杉雨（1912～93）筆
○時　　代　昭和 35 年(1960)
○品　　質　紙本墨書
○員　　数　1 面
○寸 法 等　本紙 縦 63.5cm ；　横 93.0cm
○作品概要　「巌風」の二字を大書する。

37 ○名　　称　偃武（えんぶ）
○作 者 等　青山杉雨（1912～93）筆
○時　　代　昭和 49 年(1974)

○品　　質　紙本墨書
○員　　数　1 面
○寸 法 等　本紙 縦 44.7cm ；　横 69.0cm
○作品概要　「偃武」の二字を篆体で大書する。

38 ○名　　称　去駐随縁（きょちゅうずいえん）
○作 者 等　青山杉雨（1912～93）筆
○時　　代　昭和 62 年(1987)
○品　　質　紙本墨書
○員　　数　1 面
○寸 法 等　本紙 縦 29.4cm ；　横 91.0cm
○作品概要　（本文）「去駐随縁／杉逸人」

39 ○名　　称　澹如（たんじょ）
○作 者 等　青山杉雨（1912～93）筆
○時　　代　昭和 62 年(1987)
○品　　質　紙本墨書
○員　　数　1 面
○寸 法 等　本紙 縦 76.5cm ；　横 140.0cm
○作品概要　（本文）「澹如　杉雨書」

40 ○名　　称　人書未熟（じんしょみじゅく）
○作 者 等　青山杉雨（1912～93）筆
○時　　代　昭和 41 年(1966)
○品　　質　紙本墨書
○員　　数　1 面
○寸 法 等　本紙 縦 80.0cm ；　横 98.0cm
○作品概要　「人書未熟」の四字を大書する。

41 ○名　　称　金石有霊（きんせきゆうれい）
○作 者 等　青山杉雨（1912～93）筆
○時　　代　平成 3 年(1991)
○品　　質　紙本墨書
○員　　数　1 面
○寸 法 等　本紙 縦 56.0cm ；　横 53.0cm
○作品概要　（本文）「金石有霊／文書」

42 ○名　　称　古詩十九首其七（こしじゅうきゅうしゅそのしち）
○作 者 等　青山杉雨（1912～93）（1912～93）筆
○時　　代　昭和 53 年(1978)
○品　　質　紙本墨書
○員　　数　1 幅
○寸 法 等　本紙 縦 45.0cm ；　横 69.5cm
○作品概要　『文選』所収の「古詩十九首」の第七「明月皎夜光」を行書で揮毫する。

43 ○名　　称　杜甫・春望（とほ・しゅんぼう）
○作 者 等　青山杉雨（1912～93）作
○時　　代　昭和 56 年(1981)
○品　　質　紙本墨書
○員　　数　1 幅
○寸 法 等　本紙 縦 136.5cm 横 52.0cm
○作品概要　杜甫の詩「春望」を草書で揮毫する。

44 ○名　　称　袁宏道・閒居（えんこうどう・かんきょ）
○作 者 等　青山杉雨（1912～93）筆
○時　　代　昭和 58 年(1983)
○品　　質　紙本墨書
○員　　数　1 幅
○寸 法 等　本紙 縦 137.0cm ；　横 34.5cm
○作品概要　明の袁宏道(1568～1610)の七言律詩「閒居」を草書で揮毫する。

45 ○名　　称　胸中丘壑（きょうちゅうきゅうがく）
○作 者 等　青山杉雨（1912～93）筆
○時　　代　昭和 62 年(1987)
○品　　質　紙本墨書
○員　　数　1 面
○寸 法 等　本紙 縦 89.5cm ；　横 137.0cm
○作品概要　（本文）「胸中丘壑／龐鋳詩、雪谷暁装図云、楊／候胸中富丘壑、酔裏筆／端馳雪落、丁卯夏日、力疾試毫／杉雨逸人」

＜陶磁＞（1 件）

46 ○名　　称　色絵桜花鷲文大皿（いろえおうかわしもんおおざら）
○作 者 等　伊万里
○時　　代　江戸時代・18 世紀
○品　　質　磁質
○員　　数　1 枚
○寸 法 等　径 51.0cm 高 8.0cm 高台径 26.0cm
○作品概要　白色磁胎。ろくろ成形によって、高台からゆるやかに立ち上げ、胴の途中から口縁に向かって外側に広げた大皿。見込には、雉をとらえた大鷲を染付と上絵具、金彩で大きく描く。外周には、菊唐草文の地に花鳥図を描いた扇面や繭形の地紙文様を染付と上絵具、金彩で描いている。裏側には、牡丹、梅、菊の折枝文を染付と赤絵具、金彩で描く。高台脇と高台内側には染付で円をめぐらせる。表側、裏側とも、染付で文様の一部を描いたのち、透明釉を畳付を除いて全面にかけて焼成している。釉上には赤や橙、緑で上絵を施し、さらに金彩で文様を加えている。裏側には、焼成時に釉薬がはがれたとみられる露胎の跡が一部ある。高台内側には焼成時のハリ支えの跡が 5 箇所ある。

＜漆工＞（22 件）

47 ○名　　称　馬蒔絵螺鈿印籠（うままきえらでんいんろう）
○時　　代　江戸時代・18～19 世紀
○品　　質　木製漆塗
○員　　数　1 個
○寸 法 等　縦 8.0 cm　横 5.1 cm
○作品概要　長方形、四段重の印籠。表面は全体を黒漆塗として、高蒔絵と螺鈿を主体にして馬の図柄を表わす。薄紫色の丸紐と瑪瑙製瓢形の緒締が付属している。

48 ○名　　称　亀木彫印籠（かめもくちょういんろう）
○時　　代　明治時代・19～20 世紀
○品　　質　木製漆塗
○員　　数　1 個
○寸 法 等　縦 9.0 cm　横 6.1 cm
○作品概要　亀形、三段重の印籠。亀の甲羅や頭部、肢体の形に彫り出し、表面に透漆を塗っている。内側は黒漆塗。

49 ○名　　称　親子犬牙彫根付（おやこいぬげちょうねつけ）
○時　　代　江戸時代・19 世紀
○品　　質　象牙製
○員　　数　1 個
○寸 法 等　最大径 4.6 cm
○作品概要　犬の親子を象った象牙製根付。

50 ○名　　称　親子犬牙彫根付（おやこいぬげちょうねつけ）
○時　　代　江戸～明治・19～20 世紀
○品　　質　象牙製
○員　　数　1 個
○寸 法 等　最大径 3.6 cm
○作品概要　犬の親子を象った象牙製根付。

51 ○名　　称　犬木彫根付（いぬもくちょうねつけ）
○時　　代　江戸～明治・19～20 世紀
○品　　質　木製
○員　　数　1 個
○寸 法 等　最大径 4.1 cm
○作品概要　じゃれあう 2 匹の犬を象った木製根付。

52 ○名　　称　子犬木彫根付（こいぬもくちょうねつけ）
○時　　代　江戸～明治・19～20 世紀
○品　　質　木製
○員　　数　1 個
○寸 法 等　最大径 3.2 cm
○作品概要　子犬を象った木製根付。

53 ○名　　称　犬盲人木彫根付（いぬにもうじんもくちょうねつけ）
○時　　代　江戸時代・18 世紀
○品　　質　木製
○員　　数　1 個
○寸 法 等　最大径 3.6 cm
○作品概要　盲人にじゃれる犬を象った木製根付。

54 ○名　　称　犬木彫漆塗根付（いぬもくちょううるしぬりねつけ）
○時　　代　江戸～明治・19～20 世紀
○品　　質　木製漆塗
○員　　数　1 個
○寸 法 等　最大径 4.3 cm
○作品概要　犬を象った木製根付。表面は朱漆塗として、首輪に青漆を用いる。

55 ○名　　称　狸腹鼓木彫根付（たぬきはらつづみもくちょうねつけ）
○時　　代　江戸～明治・19 世紀
○品　　質　木製
○員　　数　1 個
○寸 法 等　最大径 3.4 cm
○作品概要　腹鼓を打つ狸を象った木製根付。

56 ○名　　称　狸腹鼓据文根付（たぬきはらつづみすえもんねつけ）
○時　　代　明治時代・19～20 世紀
○品　　質　木製漆塗
○員　　数　1 個
○寸 法 等　最大径 4.1 cm
○作品概要　腹鼓を打つ狸を象った彫金金具を嵌めた、木製漆塗の饅頭形根付。表面には蒔絵で薄を描いている。

57 ○名　　称　虎木彫根付（とらもくちょうねつけ）
○時　　代　江戸時代・19 世紀
○品　　質　木製
○員　　数　1 個
○寸 法 等　最大径 4.2 cm
○作品概要　虎を象った木製根付。

58　○名　　称　川獺牙彫根付（かわうそげちょうねつけ）
　　○時　　代　江戸～明治・19～20 世紀
　　○品　　質　象牙製
　　○員　　数　1 個
　　○寸 法 等　最大径 4.2 cm
　　○作品概要　半截の竹に乗る川獺を象った象牙製根付。

59　○名　　称　葡萄栗鼠牙彫根付（ぶどうりすげちょうねつけ）
　　○時　　代　江戸～明治・19～20 世紀
　　○品　　質　象牙製
　　○員　　数　1 個
　　○寸 法 等　最大径 5.6 cm
　　○作品概要　葡萄の実と栗鼠を象った象牙製根付。

60　○名　　称　馬彫金根付（うまちょうきんねつけ）
　　○時　　代　江戸時代・19 世紀
　　○品　　質　象牙製饅頭形、鏡蓋赤銅製
　　○員　　数　1 個
　　○寸 法 等　最大径 4.3 cm
　　○作品概要　象牙製饅頭形の身に、赤胴魚々子地に馬を高彫した鏡蓋を嵌めた彫金根付。

61　○名　　称　狼牙彫根付（おおかみげちょうねつけ）
　　○時　　代　江戸時代・19 世紀
　　○品　　質　象牙製
　　○員　　数　1 個
　　○寸 法 等　最大径 4.8 cm
　　○作品概要　狼を象った象牙製根付。

62　○名　　称　狼木彫根付（おおかみもくちょうねつけ）
　　○時　　代　江戸～明治・19～20 世紀
　　○品　　質　木彫
　　○員　　数　1 個
　　○寸 法 等　最大径 4.4 cm
　　○作品概要　狼を象った木製根付。

63　○名　　称　狼木彫根付（おおかみもくちょうねつけ）
　　○時　　代　江戸時代・19 世紀
　　○品　　質　木製
　　○員　　数　1 個
　　○寸 法 等　最大径 4.8 cm
　　○作品概要　狼を象った木製根付。

64　○名　　称　狼木彫根付（おおかみもくちょうねつけ）
　　○時　　代　江戸～明治・19～20 世紀
　　○品　　質　木製
　　○員　　数　1 個
　　○寸 法 等　最大径 4.8 cm
　　○作品概要　狼を象った木製根付。

65　○名　　称　狼髑髏木彫根付（おおかみどくろもくちょうねつけ）
　　○時　　代　江戸時代・19 世紀
　　○品　　質　木製
　　○員　　数　1 個
　　○寸 法 等　最大径 4.6 cm
　　○作品概要　狼と髑髏を象った木製根付。

66　○名　　称　狼髑髏木彫根付（おおかみどくろもくちょうねつけ）
　　○時　　代　江戸時代・18 世紀
　　○品　　質　木製
　　○員　　数　1 個
　　○寸 法 等　最大径 4.6 cm
　　○作品概要　狼と髑髏を象った木製根付。

67　○名　　称　菊蒔絵硯箱（きくまきえすずりばこ）
　　○時　　代　室町時代・16 世紀
　　○品　　質　木製漆塗
　　○員　　数　1 口
　　○寸 法 等　縦 21.9 cm　横 20.4 cm　高 4.4 cm
　　○作品概要　長方形、被蓋造の硯箱だが、蓋を欠失している。身の内中央に下水板を敷いて硯と水滴を嵌め、その左右に懸子を収める。箱・懸子の表面は梨子地として、懸子の見込には金の研出蒔絵で菊の折枝を描く。水滴は金銅製饅頭形で、菊水文様が線刻されている。

68　○名　　称　梅枝猿蒔絵硯箱（うめえだにさるまきえすずりばこ）
　　○時　　代　江戸時代・19 世紀
　　○品　　質　木製漆塗
　　○員　　数　1 合
　　○寸 法 等　縦 22.5 cm 横 20.8 cm 高 4.5 cm
　　○作品概要　長方形、被蓋造の箱で、身の内左側に下水板を敷いて硯と水滴を嵌め、右側に懸子を 1 枚収める。
　　箱の外側は黒漆塗として、金高蒔絵と付描を主体にして青貝微塵を交え、梅枝に戯れる手長猿を表わす。箱の内側は梨子地として、蓋裏には金・青金の薄肉高蒔絵に金貝を交えて達磨を、懸子の見込には研出蒔絵で忍草に兎を描いている。

＜東洋書跡＞（44 件）

69 ○名　　称　楼閣山水田黄石印材（ろうかくさんすいでんおうせきいんざい）
○時　　代　清時代・17～19 世紀
○品　　質　石製（寿山石）
○員　　数　1 顆
○寸 法 等　高 6.5cm　幅 8.0cm
○作品概要　福建省福州市北方の寿山村で採取される寿山石を加工した印材。田黄石という水田古層で採れる黄味のある石を材とする。器形は石材の自然な形状を生かすように作り、印面を除く全面に楼閣山水や田園風景を薄く浮き彫りする。

70 ○名　　称　蝙蝠田黄石印材（こうもりでんおうせきいんざい）
○時　　代　清時代・17～19 世紀
○品　　質　石製（寿山石）
○員　　数　1 顆
○寸 法 等　高 4.8cm　縦 1.8cm　横 3.3cm
○作品概要　福建省福州市北方の寿山村で採取される石材を加工した印材。田黄石という水田古層で採れる黄味のある石を材とし、器形は上部を自然の形状を留め、下部を長方柱に作る。上部に雲気と蝙蝠を薄く浮き彫りする。

71 ○名　　称　獅子鈕田黄石印材（ししちゅうでんおうせきいんざい）
○時　　代　明時代・14～17 世紀
○品　　質　石製（寿山石）
○員　　数　1 顆
○寸 法 等　高 5.0cm　方 2.8cm
○作品概要　福建省福州市北方の寿山村で採取される寿山石を加工した印材。田黄石という水田古層で採れる黄味のある石を材とする。器形は上部に獅子形の鈕を彫り出し、下部を方柱に作る。

72 ○名　　称　龍銀裏金田黄石印（りゅうぎんかきんでんおうせきいん）
○時　　代　清時代・17～19 世紀
○品　　質　石製（寿山石）
○員　　数　1 顆
○寸 法 等　高 5.1cm　縦 2.3cm　横 3.0cm
○作品概要　福建省福州市北方の寿山村で採取される寿山石を加工した印材。銀裏金田黄石という水田古層で採れる外側が白味を帯び、内側が黄味を帯びた石を材とする。器形は上部に石材の自然な形状を留め、下部を長方柱に作る。上部に石色の白い部分を生かして龍を浮き彫りする。下部前面に「瘦銭治石壬戌莫春」銘を刻み記し、印面に「林朗庵鑑藏印」印を陰刻する。

73 ○名　　称　獅子鈕紅芙蓉石印（ししちゅうこうふようせきいん）
○時　　代　清時代・17～19 世紀
○品　　質　石製（寿山石）
○員　　数　1 顆
○寸 法 等　高 6.4cm　方 4.0cm
○作品概要　福建省福州市北方の寿山村および月洋村で採取される寿山石を加工した印。紅芙蓉石という山地の地下岩層で採れる薄い赤味を帯びた石を材とする。器形は上部に 2 頭の獅子形の鈕を彫り出し、下部を方柱に作る。印面に「人中麒麟」印を陰刻する。

74 ○名　　称　獅子鈕白芙蓉石印材（ししちゅうはくふようせきいんざい）
○時　　代　清時代・17～19 世紀
○品　　質　石製（寿山石）
○員　　数　3 顆
○寸 法 等　（左右）各高 5.2cm　方 3.0cm　（中）高 5.2cm　縦 3.0cm　横 1.6cm
○作品概要　福建省福州市北方の寿山村および月洋村で採取される寿山石を加工した印材。白芙蓉石という山地の地下岩層で採れる白い石を材とする。器形は 3 顆とも上部に獅子形の鈕を彫り出し、2 顆は下部を長方柱に、1 顆は下部を方柱に作る。

75 ○名　　称　桃黄金虫桃花凍石印材（ももこがねむしとうかとうせきいんざい）
○時　　代　清時代・17～19 世紀
○品　　質　石製（寿山石）
○員　　数　1 顆
○寸 法 等　高 7.4cm　方 2.1cm
○作品概要　福建省福州市北方の寿山村で採取される寿山石を加工した印材。桃花凍石という地下水の豊富な鉱山洞窟で採れる透明感と光沢のある赤味を帯びた石を材とする。器形は上部に桃と黄金虫の形の鈕を彫り出し、下部を方柱に作る。

76 ○名　　称　水晶凍石印材（すいしょうとうせきいんざい）
○時　　代　清時代・17～19 世紀
○品　　質　石製（寿山石）
○員　　数　1 対
○寸 法 等　高 8.3cm　方 2.2cm
○作品概要　福建省福州市北方の寿山村で採取される寿山石を加工した印材。水晶凍石という地下水の豊富な鉱山洞窟で採れる透明感と光沢のある白い石を材とする。器形は細長い方柱に作り、上面に雷文風の雲気を彫り表わし、上縁に雷文帯を刻み表わす。

77 ○名　　称　鶏血石印（けいけつせきいん）
○時　　代　清時代・17～19 世紀
○品　　質　石製（昌化石）
○員　　数　1 顆
○寸 法 等　高 8.2cm　縦 3.2cm　横 1.0cm
○作品概要　浙江省臨安市昌化の玉岩山で採取される昌化石を加工した印。鶏血石という赤味を帯びた石を材とする。器形は薄い長方柱に作り、印面に「積健為雄」印を陽刻する。

78 ○名　　称　雲龍鶏血石印（うんりゅうけいけつせきいん）
○時　　代　清時代・17～19 世紀
○品　　質　石製（昌化石）
○員　　数　1 顆
○寸 法 等　高 9.2cm　縦 4.2cm　横 6.7cm
○作品概要　浙江省臨安市昌化の玉岩山で採取される昌化石を加工した印。鶏血石という赤味を帯びた石を材とする。器形は上部に石材の自然な形状を留め、下部を楕円柱に作る。上部に雲気と龍を彫り表わす。印面に「惜陰堂」印を陽刻する。

79　○名　　称　鶏血石印材（けいけつせきいんざい）
　　○時　　代　清時代・17～19 世紀
　　○品　　質　石製（昌化石）
　　○員　　数　1 対
　　○寸 法 等　各高 8.3cm　方 2.9cm
　　○作品概要　浙江省臨安市昌化の玉岩山で採取される昌化石を加工した印。鶏血石という赤味を帯びた石を材とする。器形は長方柱に作る。

80　○名　　称　牛鈕馬肉紅石印材（ぎゅうちゅうばにくこうせきいんざい）
　　○時　　代　清時代・17～19 世紀
　　○品　　質　石製（寿山石）
　　○員　　数　1 顆
　　○寸 法 等　高 6.2cm　方 3.1cm
　　○作品概要　福建省福州市北方の寿山村および月洋村で採取される寿山石を加工した印材。馬肉紅という山地の地下岩層で採れる赤茶色の石を材とする。器形は上部に牛形の鈕を彫り出し、下部を方柱に作る。

81　○名　　称　獅子鈕黄芙蓉石印（ししちゅうおうふようせきいん）
　　○時　　代　清時代・17～19 世紀
　　○品　　質　石製（寿山石）
　　○員　　数　1 対
　　○寸 法 等　各高 7.8cm　方 2.9cm
　　○作品概要　福建省福州市北方の寿山村および月洋村で採取される寿山石を加工した印。黄芙蓉石という山地の地下岩層で採れる透明感と光沢のある黄味を帯びた石を材とする。器形は上部に 2 頭の子獅子と毬を伴った獅子の形の鈕を彫り出し、下部を方柱に作る。一方は印面に「小事亦粘涂」印を陽刻し、もう一方は「結翰墨縁」印を陰刻する。

82　○名　　称　獅子鈕広東緑石印（ししちゅうかんとんろくせきいん）
　　○時　　代　清時代・17～19 世紀
　　○品　　質　石製（広寧石）
　　○員　　数　1 対
　　○寸 法 等　各高 8.6cm　方 4.5cm
　　○作品概要　広東省広寧県で採取される広寧石を加工した印。広東緑石という山地の地下岩層で採れる緑色を帯びた石を材とする。器形は上部に親子獅子形の鈕を彫り出し、下部を方柱に作る。一方の印面に「楊柳風芭蕉雨梧桐月梅華雪」印を陽刻し、もう一方の印面に「讀異書飲美酒賞名華對麗人」印を陰刻する。

83　○名　　称　五龍烏地高山凍石印材（ごりゅううじこうざんとうせきいんざい）
　　○時　　代　清時代・17～19 世紀
　　○品　　質　石製（寿山石）
　　○員　　数　1 顆
　　○寸 法 等　高 7.8cm　縦 4.4cm　横 8.8cm
　　○作品概要　福建省福州市北方の寿山村で採取される寿山石を加工した印材。牛角凍石という地下水の豊富な鉱山洞窟で採れる透明感と光沢のある灰色を帯びた石を材とする。器形は石材の自然な形状を生かすように作り、上部に雲気と５頭の龍を浮き彫りする。

84　○名　　称　封門青石印材（ふうもんせいせきいんざい）
　　○時　　代　清時代・17～19 世紀
　　○品　　質　石製（青田石）
　　○員　　数　1 対
　　○寸 法 等　各高 6.0cm　方 2.9cm
　　○作品概要　浙江省青田県付近で採取される青田石を加工した印材。封門青石という透明感のある淡青色の石を材とする。器形を長方柱に作り、上面には回文風の鳳凰を彫り表わし、上方縁には雷文帯を陰刻する。

85　○名　　称　怪獣鈕黄金耀石印材（かいじゅうちゅうおうごんようせきいんざい）
　　○時　　代　清時代・17～19 世紀
　　○品　　質　石製（青田石）
　　○員　　数　1 顆
　　○寸 法 等　高 6.4cm　縦 1.5cm　横 3.6cm
　　○作品概要　浙江省青田県付近で採取される青田石を加工した印材。黄金耀石という黄色い石を材とする。器形は上部に親子怪獣を彫り出し、下部を楕円柱に作る。

86　○名　　称　東坡像端渓石天然硯（とうばぞうたんけいせきてんねんけん）
　　○時　　代　明時代・14～17 世紀
　　○品　　質　石製（端渓石）
　　○員　　数　1 面
　　○寸 法 等　縦 29.5cm　横 24.5cm　高 2.5cm
　　○作品概要　広東省西方の端渓で採取される端渓石を加工した硯。器形は石材の自然な形状を生かす天然硯と称される形式である。硯背に、万暦七年（一五七九）李士達による蘇軾像が刻み表わされ、金農の題記や翁方綱の観記がある。「華亭　董氏家蔵」銘を刻んで董其昌旧蔵を示す。

87　○名　　称　蘭亭鷓鴣斑端渓石抄手硯（らんていしゃこはんたんけいせきしょうしゅけん）
　　○時　　代　南宋時代・12～13 世紀
　　○品　　質　石製（端渓石）
　　○員　　数　1 面
　　○寸 法 等　縦 24.4cm　横 15.2cm　高 9.5cm
　　○作品概要　広東省西方の端渓で採取される端渓石を加工した硯。器形は長方形に作り、硯背を刳り、左右硯側を壁状の墻足とする抄手硯と称される形式である。硯堂に鷓鴣斑という白斑状の石紋が出ている。硯辺に漢文を刻み記し、硯側に山水人物図を彫り表わす。硯背に「寶晋齋」銘、「米芾」印を刻んで米芾旧蔵を示す。

88　○名　　称　蘭亭洮河緑石抄手硯（らんていとうがろくせきしょうしゅけん）
　　○時　　代　明時代・14～17 世紀
　　○品　　質　石製（洮河緑石）
　　○員　　数　1 面
　　○寸 法 等　縦 24.6cm　横 15.0cm　高 7.7cm

○作品概要　甘粛省南方の洮河で採取される洮河緑石を加工した硯。器形は長方形に作り、硯背を刳り、左右硯側を壁状の墻足とする抄手硯と称される形式である。表面から硯側にかけて蘭亭曲水宴を、硯背に柳河に鷲鳥を刻み表わす。北京故宮博物院に宋時代の制作とされる同様な意匠の洮河緑石抄手硯があり、そのような作品を模倣した復古硯と推察される。

89 ○名　　称　火捺端渓石抄手硯（かなつたんけいせきしょうしゅけん）
○時　　代　清時代・17～19 世紀
○品　　質　石製（端渓石）
○員　　数　1 面
○寸 法 等　縦 20.1cm　横 11.6cm　高 7.5cm
○作品概要　広東省西方の端渓で採取される端渓石を加工した硯。器形は長方形に作り、硯背を刳り、左右硯側を壁状の墻足とする抄手硯と称される形式である。硯尾に火捺という黒紫色の石紋が出ている。

90 ○名　　称　龍鳳端渓石天然硯（りゅうほうたんけいせきてんねんけん）
○時　　代　明時代・14～17 世紀
○品　　質　石製（端渓石）
○員　　数　1 面
○寸 法 等　縦 17.0cm　横 17.0cm　高 3.7cm
○作品概要　広東省西方の端渓で採取される端渓石を加工した硯。器形は石材の自然な形状を生かす天然硯と称される形式である。眼という石紋を利用し、表に鳳凰、裏に龍のすがたを刻み表わす。硯側に乾隆乙未(一七七五)の御題詩文および「張氏蔵石」印を刻み記す。

91 ○名　　称　氷裂端渓石抄手硯（ひょうれつたんけいせきしょうしゅけん）
○時　　代　南宋時代・12～13 世紀
○品　　質　石製（端渓石）
○員　　数　1 面
○寸 法 等　縦 22.0cm　横 13.3cm　高 7.0cm
○作品概要　広東省西方の端渓で採取される端渓石を加工した硯。器形は長方形に作り、硯背を刳り、左右硯側を壁状の墻足とする抄手硯と称される形式である。全体に氷裂というヒビ割れたような石紋が出ている。硯背に 13 本の眼柱を彫り出す。

92 ○名　　称　雲月端渓石天然硯（うんげつたんけいせきてんねんけん）
○時　　代　明時代～清時代・17～18 世紀
○品　　質　石製（端渓石）
○員　　数　1 面
○寸 法 等　縦 15.8cm　横 12.2cm　高 2.8cm
○作品概要　広東省西方の端渓で採取される端渓石を加工した硯。器形は石材の自然な形状を生かす天然硯と称される形式である。眼という石紋を月に見立てて、硯額に雲を刻み表わす。硯背に清時代の文人である黄任（莘田）の詩文を刻み記す。

93 ○名　　称　玫瑰紫澄泥石長方硯（まいかいしちょうでいせきちょうほうけん）
○時　　代　清時代・17～19 世紀
○品　　質　石製（澄泥石）
○員　　数　1 面
○寸 法 等　縦 25.3cm　横 15.7cm　高 4.0cm
○作品概要　江蘇省蘇州市の西方の霊岩山で採取される澄泥石を加工した硯。石色は玫瑰紫という紫黒色である。器形を長方形に作り、直線形の硯池・硯堂の硯岡に回文を彫り表わす。硯額に唐花草文を、硯辺に雷文帯を刻み表わす。底部に薄い縁足をめぐらせる。

94 ○名　　称　雲気蟹殻青澄泥石長方硯（うんきかいかくせいちょうでいせきちょうほうけん）
○時　　代　清時代・17～19 世紀
○品　　質　石製（澄泥石）
○員　　数　1 面
○寸 法 等　縦 21.2cm　横 12.5cm　高 5.8cm
○作品概要　江蘇省蘇州市の西方の霊岩山で採取される澄泥石を加工した硯。石色は蟹殻青という青黒色である。器形を長方形に作り、楕円形の硯池を彫り、硯額に雲気文を刻み表わす。底部に薄い縁足をめぐらせる。硯側に漢文を刻み記す。

95 ○名　　称　眉子紋歙州石長方硯（びしもんきゅうじゅうせきちょうほうけん）
○時　　代　清時代・17～19 世紀
○品　　質　石製（歙州石）
○員　　数　1 面
○寸 法 等　縦 19.0cm　横 12.8cm　高 3.2cm
○作品概要　江西省龍尾山を中心に採取される歙州石を加工した硯。器形を長方形に作り、硯池を長方形に彫る。硯堂に眉子紋という横筋状の石紋が出ている。

96 ○名　　称　海棠山鵲金星角浪紋歙州石抄手硯（かいどうさんじゃくきんせいかくろうもんきゅうじゅうせきしょうしゅけん）
○時　　代　明時代・14～17 世紀
○品　　質　石製（歙州石）
○員　　数　1 面
○寸 法 等　縦 24.2cm　横 13.6cm　高 4.5cm
○作品概要　江西省龍尾山を中心に採取される歙州石を加工した硯。器形は長方形に作り、硯背を刳り、左右硯側を壁状の墻足とする抄手硯と称される形式である。硯池を海棠花形に彫り、硯額から硯縁にかけて海棠に山鵲を刻み表わす。表面に金星という金斑の石紋と、角浪紋という波状の石紋が出ている。硯側に「道周」印を記す。

97 ○名　　称　楼閣山水双龍洮河緑石楕円硯（ろうかくさんすいそうりゅうとうがろくせきだえんけん）
○時　　代　清時代・17～19 世紀
○品　　質　石製（洮河緑石）
○員　　数　1 面
○寸 法 等　縦 12.0cm　横 7.2cm　高 3.6cm
○作品概要　甘粛省南方の洮河で採取される洮河緑石を加工した硯。器形を楕円形とし、硯背を刳り、硯側を圏足に作る。表面に楼閣・山水・双龍を刻み表わし、楼閣の前庭を硯堂、閣内を硯池とする。硯背に波浪文を刻み表わし、眼柱風の彫り出しをする。宋時代の洮河緑石硯の意匠をふまえた復古硯と推察される。

98 ○名　　称　金暈金星歙州石長方硯（きんうんきんせいきゅうじゅうせきちょうほうけん）
○時　　代　清時代・17～19 世紀
○品　　質　石製（歙州石）
○員　　数　1 面
○寸 法 等　縦 10.5cm　横 7.9cm　高 1.9cm
○作品概要　江西省龍尾山を中心に採取される歙州石を加工した硯。器形を長方形に作り、硯池を円形に彫る。全体に金暈という金色の滲んだ石紋と、金星という金斑の石紋が出ている。硯背に漢文を刻み記す。

99 ○名　　称　松花江緑石鐘形硯（しょうかこうろくせきしょうけいけん）
○時　　代　清時代・17～19 世紀
○品　　質　石製（松花江緑石）
○員　　数　1 面
○寸 法 等　縦 10.1cm　横 8.3cm　高 2.3cm
○作品概要　吉林省から黒龍江省を流れる松花江で採取される松花江緑石を加工した硯。松花江石は清時代から硯材として用いられるようになり、宮廷の御用石とされた。器形は鐘形に作る器物形硯と称される形式である。硯尾側面に清時代の書家である楊沂孫の号「濠叟」銘を刻む。

100 ○名　　称　翡翠硯（ひすいけん）
○時　　代　清時代・17～19 世紀
○品　　質　翡翠
○員　　数　1 面
○寸 法 等　縦 11.0cm　横 6.8cm　高 1.5cm
○作品概要　翡翠を加工した小型の硯。器形を長方形に作る。中国の翡翠は軟玉であり、墨を磨るのに適さないため、翡翠硯は鑑賞用に制作されたと考えられている。

101 ○名　　称　白玉竹形筆洗（はくぎょくたけがたひっせん）
○時　　代　清時代・17～19 世紀
○品　　質　玉製
○員　　数　1 口
○寸 法 等　径 7.9cm　高 6.3cm
○作品概要　白玉を加工した筆洗。器形を竹筒形とし、上中下段に竹節を彫り表わし、3 本の低い脚を作る。清時代の宮廷で愛好された玉製文房具の作風である。

102 ○名　　称　磚硯（せんけん）
○時　　代　明～清時代・14～19 世紀
○品　　質　陶質
○員　　数　1 面
○寸 法 等　縦 13.8cm　横 8.0cm　高 4.2cm
○作品概要　磚を加工した硯。器形を長方形に作り、硯背・硯側に漢文・銭文が表わされ、左硯側に遼の大康七年（1081）の年号のある銘文が残る。宋時代以降、文人趣味として古代建築の磚を利用した硯が作られた。本品は、そのような尚古趣味の磚硯と推察される。

103 ○名　　称　漆沙瓢形硯箱および木製瓢形硯（しっしゃひょうけいすずりばこおよびもくせいひょうけいけん）
○時　　代　清時代・18～19 世紀
○品　　質　木製漆塗
○員　　数　1 具
○寸 法 等　縦 12.8cm　横 8.5cm　高 1.1cm
○作品概要　器形を瓢形に作った木製硯とそれを収納する同形の硯箱。硯箱は全面漆塗とし、蓋表から蓋身側面にかけては漆に金剛砂を混じた漆沙とし、蓋表には瓢箪が蔓茎に実る図を薄彫りして表わし、漢文を刻み記す。底面に「葵生」白文朱印が描かれ、廬棟（字葵生）の作であることを示す。

104 ○名　　称　青斑石琴形硯（せいはんせききんけいけん）
○時　　代　明時代・14～17 世紀
○品　　質　石製（青斑石）
○員　　数　1 面
○寸 法 等　縦 17.1cm　横 7.3cm　高 2.4cm
○作品概要　硯材としては珍しい青斑石を加工した硯。器形は琴形に作る器物形硯と称される形式である。

105 ○名　　称　羅紋歙州石蕉葉硯（らもんきゅうじゅうせきしょうようけん）
○時　　代　清時代・17～19 世紀
○品　　質　石製（歙州石）
○員　　数　1 面
○寸 法 等　縦 15.2cm　横 8.5cm　高 1.2cm
○作品概要　江西省龍尾山を中心に採取される歙州石を加工した硯。器形を芭蕉葉形に作り、裏面に葉脈を彫り表わす。硯堂に羅紋という刷毛目状の石紋が出ている。

106 ○名　　称　松皮紋歙州石硯板（まつかわもんきゅうじゅうせきけんばん）
○時　　代　明～清時代・14～19 世紀
○品　　質　石製（歙州石）
○員　　数　1 面
○寸 法 等　縦 27.0cm　横 18.0cm　高 4.3cm
○作品概要　江西省龍尾山を中心に採取される歙州石を加工した硯。器形は板状に作る硯板と称される形式である。全体に金暈という金色の滲んだ石紋が出ており、これを松皮に見立てられている。

107 ○名　　称　鱔魚黄澄泥石長方硯（せんぎょおうちょうでいせきちょうほうけん）
○時　　代　清時代・17～19 世紀
○品　　質　石製（澄泥石）
○員　　数　1 面
○寸 法 等　縦 27.3cm　横 16.8cm　高 3.2cm
○作品概要　江蘇省蘇州市の西方の霊岩山で採取される澄泥石を加工した硯。石色は鱔魚黄という淡黄色である。器形を長方形に作り、斧形の硯堂を設け、底部に薄い縁足をめぐらせる。

108 ○名　　称　双鳳蝦頭紅澄泥石長方硯（そうほうかとうこうちょうでいせきちょうほうけん）
○時　　代　明時代・14～17 世紀

○品　　質　　石製（澄泥石）
○員　　数　　1 面
○寸 法 等　　縦 17.1cm　横 10.4cm　高 2.5cm
○作品概要　　江蘇省蘇州市の西方の霊岩山で採取される澄泥石を加工した硯。石色は蝦頭紅という赤茶色である。器形を長方形に作り、硯額に 2 羽の鳳凰の頭を彫り表わし、底部に薄い縁足をめぐらせる。硯背に漢文を刻み記す。

109 ○名　　称　　蕉葉白端渓石硯板（しょうようはくたんけいせきけんばん）
○時　　代　　清時代・17～19 世紀
○品　　質　　石製（端渓石）
○員　　数　　1 面
○寸 法 等　　縦 20.5cm　横 13.5cm　高 2.3cm
○作品概要　　広東省西方の端渓で採取される端渓石を加工した硯。器形は板状に作る硯板と称される形式である。蕉葉白という白色の石紋が出ている。

110 ○名　　称　　虫蛀端渓石天然硯（ちゅうしゅたんけいせきてんねんけん）
○時　　代　　清時代・17～19 世紀
○品　　質　　石製（端渓石）
○員　　数　　1 面
○寸 法 等　　縦 20.0cm　横 15.5cm　高 3.5cm
○作品概要　　広東省西方の端渓で採取される端渓石を加工した硯。器形は石材の自然な形状を生かす天然硯と称される形式である。表面に虫蛀という虫食がある。

111 ○名　　称　　双龍銀花紋歙州石方硯（そうりゅうぎんかもんきゅうじゅうせきほうけん）
○時　　代　　明時代・14～17 世紀
○品　　質　　石製（歙州石）
○員　　数　　1 面
○寸 法 等　　縦 26.7cm　横 26.7cm　高 4.7cm
○作品概要　　江西省龍尾山を中心に採取される歙州石を加工した硯。器形を方形とし、低い 4 本脚を作る。硯額に双龍文を刻み表わし、蟬形（蟾蜍形とも）の硯堂の周囲に環状の溝を廻らせる。全体に銀花紋という白斑の石紋が出ている。

112 ○名　　称　　端渓石半裁硯（たんけいせきはんさいけん）
○時　　代　　清時代・17～19 世紀
○品　　質　　石製（端渓石）
○員　　数　　1 面
○寸 法 等　　縦 9.4cm　横 11.6cm　高 2.4cm
○作品概要　　広東省西方の端渓で採取される端渓石を加工した硯。器形は長方形に作り、硯背を刳り、左右硯側を壁状の墻足とする抄手硯と称される形式の硯を半裁したものである。硯右側に「石渠寶笈」印、「三希堂精鑑璽」印を刻み、硯左側に「南田艸衣」印、「壽平」印を刻む。付属箱に清時代の文人である鐵保の号「梅庵」銘を記す。

＜東洋陶磁＞（34 件）

113 ○名　　称　　褐釉劃花文壺　伝タイ出土（かつゆうかっかもんつぼ　でんたいしゅつど）
○時　　代　　12～13 世紀
○品　　質　　陶質
○員　　数　　1 口
○寸 法 等　　高 56.7 cm 口径 15.6 cm 底径 23.5 cm
○作品概要　　灰色陶質胎、長胴、平底の大壺。口部周囲と肩に圏線、肩部と胴部に波状の櫛目文を刻み、底裏を除いて総体に褐釉を施す。

114 ○名　　称　　褐釉刻線文壺（かつゆうこくせんもんつぼ）
○時　　代　　12～13 世紀
○品　　質　　陶質
○員　　数　　1 口
○寸 法 等　　高 6.4 cm 口径 3.7 cm 底径 7.8 cm
○作品概要　　灰色陶質胎、扁平な胴の平底の壺。肩部に二本の圏線を刻み、総体に褐釉を施す。

115 ○名　　称　　褐釉刻線文壺（かつゆうこくせんもんつぼ）
○時　　代　　12～13 世紀
○品　　質　　陶質
○員　　数　　1 口
○寸 法 等　　高 8.5 cm 口径 3.6 cm 底径 10.7 cm
○作品概要　　灰色陶質胎、扁平な胴の平底の壺。肩に波状櫛目文を刻み、底部を除いて総体に褐釉を施す。

116 ○名　　称　　褐釉刻線文壺（かつゆうこくせんもんつぼ）
○時　　代　　12～13 世紀
○品　　質　　陶質
○員　　数　　1 口
○寸 法 等　　高 6.9 cm 口径 2.9 cm 底径 6.3 cm
○作品概要　　灰色陶質胎、扁平な胴の平底の壺。口部の周囲に三本の圏線を刻み、底部を除いて総体に褐釉を施す。

117 ○名　　称　　褐釉刻線文壺（かつゆうこくせんもんつぼ）
○時　　代　　12～13 世紀
○品　　質　　陶質
○員　　数　　1 口
○寸 法 等　　高 4.1 cm 口径 3.2 cm 底径 2.8 cm
○作品概要　　灰色陶質胎、扁平な小壺。高台は平底で糸切痕がある。胴に縦の刻線を刻み、高台とその周囲を除いて褐釉を施す。焼き歪みが生じている。

118 ○名　　称　　褐釉刻線文壺（かつゆうこくせんもんつぼ）
○時　　代　　12～13 世紀
○品　　質　　陶質
○員　　数　　1 口
○寸 法 等　　高 8.9 cm 口径 3.0 cm 底径 7.0 cm
○作品概要　　灰色陶質胎、扁平な胴の平底の壺。肩に刻線の文様帯、胴の七箇所に縦に三重の刻線を刻み、底部を除いて総体に褐釉を施す。

119 ○名　　称　褐釉刻線文壺（かつゆうこくせんもんつぼ）
○時　　代　12～13 世紀
○品　　質　陶質
○員　　数　1 口
○寸 法 等　高 5.1 cm 口径 4.2 cm 高台径 4.3 cm
○作品概要　灰色陶質胎、広口で扁平な小壺。高台は平底。口部の周囲に縦に短い刻線を刻み、高台を除いて総体に褐釉を施す。

120 ○名　　称　褐釉刻線文瓶（かつゆうこくせんもんへい）
○時　　代　12～13 世紀
○品　　質　陶質
○員　　数　1 口
○寸 法 等　高 10.6 cm 口径 4.7 cm 高台径 3.4 cm
○作品概要　灰色陶質胎、球形の胴に広がる口部が付いた瓶。高台は平底。胴部に縦に刻線を刻み、高台とその周囲を除いて総体に褐釉を施す。

121 ○名　　称　褐釉壺（かつゆうつぼ）
○時　　代　12～13 世紀
○品　　質　陶質
○員　　数　1 口
○寸 法 等　高 6.8 cm 口径 4.4 cm 底径 4.6 cm
○作品概要　灰色陶質胎、胴が丸く張り、口縁が張り出した小壺。底部は平底。胴裾以上に褐釉を施す。

122 ○名　　称　褐釉壺（かつゆうつぼ）
○時　　代　12～13 世紀
○品　　質　陶質
○員　　数　1 口
○寸 法 等　高 9.6 cm 口径 7.9 cm 高台径 5.0 cm
○作品概要　灰色陶質胎、肩が張った広口の壺。高台は平底で糸切痕がある。総体に褐釉を施す。

123 ○名　　称　褐釉瓶（かつゆうへい）
○時　　代　12～13 世紀
○品　　質　陶質
○員　　数　1 口
○寸 法 等　高 8.1 cm 口径 2.3 cm 底径 5.3 cm
○作品概要　灰色陶質胎、球形の小瓶。底部は平底。口部の周囲に二重の圏線を刻み、胴裾以上に褐釉を施す。

124 ○名　　称　褐釉杯（かつゆうはい）
○時　　代　12～13 世紀
○品　　質　陶質
○員　　数　1 口
○寸 法 等　高 5.9 cm 口径 9.5 cm 高台径 3.2 cm
○作品概要　灰色陶質胎、胴が丸く張り、口縁の下をわずかに絞った杯。高台は平底。高台を除いて総体に褐釉を施す。

125 ○名　　称　褐釉合子（かつゆうごうす）
○時　　代　12～13 世紀
○品　　質　陶質
○員　　数　1 合
○寸 法 等　総高 10.3 cm 身高 8.9 cm 口径 3.7 cm 底径 5.1 cm
○作品概要　灰色陶質胎、上下の二箇所に稜が立った胴締め形の身に円錐形の蓋が付いた合子。底部は平底。底部と蓋裏を除いて総体に褐釉を施す。

126 ○名　　称　褐釉鳥形壺（かつゆうとりがたつぼ）
○時　　代　12～13 世紀
○品　　質　陶質
○員　　数　1 合
○寸 法 等　総高 7.5 cm 身高 6.2 cm 口径 3.9 cm 高台径 3.7 cm
○作品概要　灰色陶質胎、扁平な胴に鳥頭と尾が付いた小壺。高台は平底で糸切痕がある。円錐形の蓋を伴う。蓋は当初から一具のものではない。刻文で鳥の羽をあらわし、高台とその周囲および蓋裏を除いて総体に褐釉を施す。

127 ○名　　称　褐釉鳥形壺（かつゆうとりがたつぼ）
○時　　代　12～13 世紀
○品　　質　陶質
○員　　数　1 合
○寸 法 等　総高 9.3 cm 口径 3.5 cm 高台径 3.4 cm
○作品概要　灰色陶質胎、扁平な胴に鳥首と尾が付いた小壺。高台は平底で糸切痕がある。円錐形の蓋を伴う。胴部に縦に刻線を刻み、高台とその周囲および蓋裏を除いて総体に褐釉を施す。

128 ○名　　称　褐釉鳥形壺　（かつゆうとりがたつぼ）
○時　　代　12～13 世紀
○品　　質　陶質
○員　　数　1 合
○寸 法 等　総高 7.5 cm 身高 6.3 cm 口径 3.7 cm 高台径 4.1 cm
○作品概要　灰色陶質胎、扁平な胴に鳥頭と尾が付いた小壺。高台は平底。円錐形の蓋を伴う。胴に縦に刻線を刻み。高台とその周囲および蓋裏を除いて褐釉を施す。

129 ○名　　称　褐釉鳥形壺（かつゆうとりがたつぼ）
○時　　代　12～13 世紀
○品　　質　陶質
○員　　数　1 口
○寸 法 等　高 5.3 cm 口径 3.4 cm 高台径 3.3 cm
○作品概要　灰色陶質胎、扁平な胴に鳥頭と尾が付いた小壺。高台は平底で糸切痕がある。胴に斜めの刻線を刻み。高台を除いて総体に褐釉を施す。

130 ○名　　称　褐釉錘（かつゆうおもり）
○時　　代　12～13 世紀
○品　　質　陶質
○員　　数　1 個
○寸 法 等　高 6.4 cm 底径 3.5 cm
○作品概要　灰色陶質胎、滴形の錘。平底で上下に孔が貫通する。上半に八本の圏線を刻み、胴裾以上に褐釉を施す。

131 ○名　　称　褐釉双耳瓶（かつゆうそうじへい）
○時　　代　15 世紀
○品　　質　陶質
○員　　数　1 口
○寸 法 等　高 15.3 cm 口径 3.3 cm 高台径 7.2 cm
○作品概要　灰色陶質胎、肩の両側に耳が付いた下膨れ形の瓶。腰より上に褐釉を施す。

132 ○名　　称　鉄絵唐草文合子（てつえからくさもんごうす）
○時　　代　15～16 世紀
○品　　質　陶質
○員　　数　1 合
○寸 法 等　総高 5.6 cm 径 6.3 cm 底径 3.3 cm
○作品概要　灰色陶質胎、果実を象った合子。蓋と身に鉄絵具で唐草文を描き、底部と蓋裏を除いて総体に透明釉を施す。蔕の部分には褐釉を施す。

133 ○名　　称　白磁花文水滴（はくじかもんすいてき）
○時　　代　朝鮮時代・19 世紀
○品　　質　磁質
○員　　数　1 口
○寸 法 等　高 4.3cm 底径 2.9cm
○作品概要　白色磁質胎、滴形の水滴。側部に小さな注口が付き、頂部に孔がある。胴部に陽刻で花分をあらわす。高台畳付を除いて総体に青みを帯びた透明釉を施す。

134 ○名　　称　瑠璃地扇面形水滴（るりじせんめんがたすいてき）
○時　　代　朝鮮時代・19 世紀
○品　　質　磁質
○員　　数　1 口
○寸 法 等　高 2.8cm 長径 9.3cm
○作品概要　白色磁質胎、扇形の水滴。上面中央と隅に孔がある。上面と側面を呉須で塗りつめ、底裏を除いて総体に透明釉を施す。釉に貫入が生じている。

135 ○名　　称　白磁円面多足硯（はくじえんめんたそくけん）
○時　　代　唐時代・7 世紀
○品　　質　磁質
○員　　数　1 面
○寸 法 等　高 6.2cm 径 16.5cm
○作品概要　円形の身、鍵穴形の十七本の脚、環状の足部からなる硯。硯面の周囲に溝を巡らして墨池とする。硯面を除いて総体に透明釉を施す。釉には貫入が生じている。

136 ○名　　称　白磁長方硯（はくじちょうほうけん）
○時　　代　朝鮮時代・19 世紀
○品　　質　磁質
○員　　数　1 面
○寸 法 等　高 3.1cm 縦 18.2cm 横 11.8cm
○作品概要　白色磁質胎、長方形の硯。表面を長方形に彫り窪めて墨池を作り、外周に溝を巡らす。底面四隅に脚を削り出す。硯面の一部と脚の先端を除いて総体に青みを帯びた透明釉を施す。

137 ○名　　称　粉彩山水文長方硯（ふんさいさんすいもんちょうほうけん）
○作 者 等　景徳鎮窯
○時　　代　清時代･18 世紀
○品　　質　磁質
○員　　数　1 面
○寸 法 等　総高 3.0cm 縦 11.0cm 横 7.0cm
○作品概要　白色磁質胎、長方形の蓋付の硯。墨池を長方形に彫りくぼめ、硯面を丸く彫りくぼめる。身の表面は硯面を除いて松石緑釉を施し、その他は高台畳付と合口部を除き透明釉を施す。蓋表に山水図、側面に唐草文を粉彩で描く。高台畳付に金彩を施す。

138 ○名　　称　白磁水注（はくじすいちゅう）
○作 者 等　徳化窯
○時　　代　明時代・16～17 世紀
○品　　質　磁質
○員　　数　1 口
○寸 法 等　総高 10.6cm 縦 13.0cm 横 20.0cm
○作品概要　白色磁質胎、胴が丸く張った水注。螭龍をかたどった注口と把手が付く。動物をかたどった鈕が付いた蓋を伴う。高台畳付を除いて総体に牙白色を帯びた透明釉を施す。

139 ○名　　称　三彩花鳥人物文六角水注（さんさいかちょうじんぶつもんろっかくすいちゅう）
○時　　代　清時代・17～18 世紀
○品　　質　陶質
○員　　数　1 口
○寸 法 等　総高 16.4cm 縦 9.0cm 横 15.0cm
○作品概要　灰白色陶質胎、型作りで成形され、六角形の裾広がりの胴に注口と把手が付いた水注。胴の各面に型押しで人物文と花鳥文をあらわす。動物をかたどった鈕の付いた蓋を伴う。内面を除いて黄釉を施し、文様部には緑釉を施す。

140 ○名　　称　白磁瓜形水滴（はくじうりがたすいてき）
○作 者 等　徳化窯
○時　　代　清時代・17～18 世紀

○品　　質　磁質
○員　　数　1口
○寸 法 等　高 9.5cm 縦 5.6cm 横 5.3cm
○作品概要　白色磁質胎、瓜をかたどった水滴。葉の一枚を注口とし、頂部に孔がある。身に螭龍が這う。高台畳付を除き総体に牙白色を帯びた透明釉を施す。

141 ○名　　称　青花水禽形水滴（せいかすいきんがたすいてき）
○作 者 等　景徳鎮窯
○時　　代　明時代・16 世紀
○品　　質　磁質
○員　　数　1口
○寸 法 等　高 12.0cm 縦 9.7cm 横 11.0cm
○作品概要　白色磁質胎、型作りでつがいの水禽をかたどった水滴。口と背に孔がある。眼と羽毛を青花であらわす。底裏を除き総体に青みを帯びた透明釉を施す。

142 ○名　　称　粉彩唐子文筆筒（ふんさいからこもんひっとう）
○作 者 等　景徳鎮窯
○時　　代　清時代・18～19 世紀
○品　　質　磁質
○員　　数　1口
○寸 法 等　高 14.5cm 径 20.4cm
○作品概要　白色磁質胎、円筒形の大型の筆筒。口縁と高台畳付を除き総体に透明釉を施す。口縁には雷文をあらわし、鉄銹を塗っている。外面に粉彩で唐子遊びの図を描く。

143 ○名　　称　青磁草花文硯屏（せいじそうかもんけんびょう）
○時　　代　明時代・16～17 世紀
○品　　質　磁質
○員　　数　1基
○寸 法 等　高 9.7cm 幅 9.5cm
○作品概要　灰色磁質胎、板状の身、底部に刳りを入れた基部からなる硯屏。両側面に如意頭形の装飾を付ける。身と基部の接合部に半円形の孔が五つある。肩面に陽刻で草花文をあらわし、反対面に筒状の筆立てが二本ある。底面端部を除いて総体に緑色の青磁釉を施す。

144 ○名　　称　天藍釉筆洗（てんらんゆうひっせん）
○作 者 等　景徳鎮窯
○時　　代　清時代
○品　　質　磁質
○員　　数　1口
○寸 法 等　高 1.7cm 縦 5.5cm 横 5.5cm
○作品概要　白色磁質胎、方形で口縁を稜花形につくった筆洗。高台畳付を除いて総体に天藍釉を施す。高台畳付には鉄銹が塗られている。

145 ○名　　称　青花玉取獅子文墨床（せいかたまとりししもんぼくしょう）
○作 者 等　景徳鎮窯
○時　　代　明時代・16～17 世紀
○品　　質　磁質
○員　　数　1個
○寸 法 等　高 4.2cm 縦 6.4cm 横 10.3cm
○作品概要　白色磁質胎、直方体の墨床。各側面に入隅形の枠を設ける。長側面に玉取り獅子文と鳳凰文、短側面には藍地に白抜きで兎文を青花であらわす。底裏を除いて総体に透明釉を施す。

146 ○名　　称　辰砂石榴形水滴（しんしゃざくろがたすいてき）
○時　　代　朝鮮時代・19 世紀
○品　　質　磁質
○員　　数　1口
○寸 法 等　高 7.7cm 縦 7.7cm 横 8.0cm
○作品概要　白色磁質胎、石榴をかだとった水滴。側部に小さな注口が付く。底裏を除いて総体に辰砂を塗りつめ、畳付を除いて青みを帯びた透明釉を施す。底部に粗い砂粒が付着している。

＜東洋漆工＞（5 件）

147 ○名　　称　彫木面取鉢（ちょうぼくめんとりはち）
○時　　代　朝鮮時代・19 世紀
○品　　質　木製漆塗
○員　　数　1口
○寸 法 等　高 8.0cm 口径 20.0cm 高台径 9.5cm
○作品概要　木材を彫り、外面を八角に面取りした鉢。口縁下に一条の溝を巡らす。拭漆で仕上げられている。

148 ○名　　称　赤壁雅遊竹彫筆筒（せきへきがゆうちくちょうひっとう）
○時　　代　清時代・17～19 世紀
○品　　質　竹製
○員　　数　1口
○寸 法 等　径 14.6cm　高 17.0cm
○作品概要　竹筒の形状を生かして作った筆筒。口縁と台脚に紫檀製の台脚を付す。器体側面に山水人物を彫り表わす。背面に、本品が万暦 44 年（1616）に竹工人の朱稚征（三松）によって蘇軾の赤壁賦に取材して制作したことを示す銘文がある。

149 ○名　　称　林泉雅遊竹彫筆筒（りんせんがゆうちくちょうひっとう）
○時　　代　明時代・17 世紀
○品　　質　竹製
○員　　数　1口
○寸 法 等　径 11.2cm　高 14.7cm
○作品概要　竹筒の形状を生かして作った筆筒。低い 3 本の足を作り出す。器体側面に林泉で雅遊する文人たちを彫り表わす。画面に余白をとり、透かし彫りを駆使するなど、明時代後期の作風が認められる。

150 ○名　　称　蔬菜竹彫筆筒（そさいちくちょうひっとう）
○時　　代　清時代・18 世紀
○品　　質　竹製
○員　　数　1 口
○寸 法 等　径 10.0cm　高 14.5cm
○作品概要　竹筒の形状を生かして作った筆筒。低い 3 本の足を作り出す。器体側面に白菜らしき野菜とそこにとまる蟷螂を彫り表わす。背面には周顥（字芷岩）の銘文が記される。北京故宮博物院には、本品と類似する意匠の竹製筆筒（明時代・朱稚征作）が伝わる。

151 ○名　　称　楼閣人物黄楊彫硯屏（ろうかくじんぶつつげぼりけんびょう）
○時　　代　清時代・17～19 世紀
○品　　質　木製
○員　　数　1 基
○寸 法 等　幅 14.0cm　高 7.5cm
○作品概要　黄楊を透かし彫りして作った硯屏。紫檀製の低い台脚を付す。表面には楼閣の前に騎鳳および長鬚すがたの仙人たち、裏面には楼閣の前で挨拶を交わす唐人物たちが彫り表わされる。彫刻に立体感があり、樹色が明るいなど清時代の黄楊彫の作風がある。

(3) 編入（489 件）
＜歴史資料＞（489 件）
1　○名　　称　（歴史資料）
○時　　代　江戸～昭和時代・18～20 世紀
○品　　質　巻子、掛軸、折仕立等／紙本墨画、紙本著色等
○作品概要　いわゆる「歴史資料(P)」と称されている分野は、昭和 13 年(1938)旧歴史部の解体に伴い、当時のいずれの部署にも属さなかった資料群である。構成としては、江戸幕府からの引継ぎ資料や、当館の前身といえる書籍館、浅草文庫、内務省博覧会事務局収集資料も多く含まれる。平成 13 年度から、歴史資料を列品に編入する作業を行っており、本年度は 489 件を列品に編入する。その内容は種々多様で、今回編入にかかる中には宝物検査の際の器物類の模写、全国各地の金石文の拓本などが含まれる。

【京都国立博物館】（計 37 件）
(1) 購入(13 件)
＜絵画＞(7 件)
1　○名　　称　春秋禽狗遊楽図屏風（しゅんじゅうきんくゆうらくずびょうぶ）
○時　　代　江戸時代初期・17 世紀
○品　　質　紙本金地着色
○員　　数　6 曲 1 隻
○寸 法 等　縦 61.0cm　横 190.0cm
○作品概要　可憐な小屏風。右３扇は「鳥の品評会」の景、左３扇は「闘犬」の景。人物の顔は、剥落や傷が少なく、涼しげな眼が印象的な可憐な表情をしめしている。着物はとても細かく、さまざまな色や模様がみられる。闘犬や鳥の品評会の描写はきわめて珍しく、大きく張り出した縁台の描写も特異。画風等から、制作時期は 17 世紀後半、寛文年間と元禄年間の間、すなわち延宝・天和・貞享期（1673～88）ころと推定される。
鳥籠を描いた屏風としては、「鳥合せ図屏風」や「誰が袖図屏風」・「鳥籠絵屏風」など、江戸初期、17 世紀の屏風が知られるが、購入作のように人々の営みの中に、多数の鳥籠が登場するものは他に例をみない。希少な風俗画の貴重な作例といえよう。

2　○名　　称　文晁墨宝（文晁縮図）（ぶんちょうぼくほう（ぶんちょうしゅくず））
○作 者 等　谷文晁筆
○時　　代　寛政 9 年（1797）
○品　　質　紙本墨画淡彩
○員　　数　1 巻
○寸 法 等　縦 19.7cm　横 365.5cm
○作品概要　須磨弥吉郎（1892～1970）氏の収集品。中国や日本の古書画や墨・印章、七里ヶ浜から江ノ島越しの富士山の景、下野国二荒山産のヤマネ、仙台十三浜に漂着した清国広東人の像、海産物や河豚など 19 項目が縮小模写されたあと「寛政丁巳七月十一日　文晁」の年紀・署名と印がある。関東文人画界の重鎮、谷文晁（1763～1840）35 歳時の縮図である。
大坂の南画家、八木巽処による天保 4 年（1833、文晁存命）の跋があり、文晁が上洛時に眼にした珍品等を帰ってから描き、大坂の文人画家、浜田杏堂に贈ったものという。須磨コレクションの須磨弥吉郎ゆかりの品であり、文晁の若い頃の古書画・古物学習の状況を教えてくれる貴重な遺品である。

3　○名　　称　梅枝双鳥図（ばいしそうちょうず）
○作 者 等　徐悲鴻筆
○時　　代　中国　中華民国 20 年（1931）
○品　　質　紙本墨画著色
○員　　数　1 幅
○寸 法 等　縦 82.4cm　横 46.8cm
○作品概要　近代中国を代表する洋画家の徐悲鴻（1895～1953）が描いた水墨の花鳥図。春の到来を告げる鵲のつがいが紅梅の枝先に止まり、新春を寿ぐ。民国 20 年（1931）に「萬先」なる人物に贈られた一幅で、その後、昭和初期に活動した日本の外交官で南京総領事などを歴任した須磨弥吉郎（1892～1970・号は昇龍山人）のコレクションに入った。徐悲鴻は幼名を寿康といい、江蘇宜興の出身。フランスとドイツに留学して培った写実主義にもとづくアカデミズムを本領とし、その後の中国での社会主義リアリズム隆盛の端緒を切り拓いた。本図が描かれた民国 20 年ごろの徐は国立の中央大学芸術系で教鞭を執っており、南京を拠点に制作活動を展開していた。

4　○名　　称　山水図冊（全九図）（さんすいずさつ（ぜんきゅうず））
○作 者 等　蘇仁山筆
○時　　代　中国・清時代　道光 7 年（1827）
○品　　質　紙本墨画
○員　　数　1 帖
○寸 法 等　（各）縦 25.5cm　横 33.3cm
○作品概要　清末の広東を拠点に活動した奇想の画家・蘇仁山（1814－1850？）が画いた最初期の画帖。蘇仁山は、初名は長春、字は仁山。後に仁山を名、長春を字とした。号は玄妙観道士、嶺南道人など。教圃、静甫、七祖、棲霞とも署す。広東順徳の人。その画の題識は難解で、ときに儒教批判を展開。山水と人物を得意とし、『芥子園画伝』や『十竹斎書画譜』などの木版画譜を典拠にした白描の山水や楼閣の稠密な描写は他に類例を見ない。道光 7 年（1827）、蘇仁山十四歳の作である本図冊は、全九図ともに欠損箇所が多いものの、その学習の過程がよくわかる優品である。須磨弥吉郎の旧蔵品で、広東総領事時代の須磨が積極的に収集したことでその名が世に知られた。

5　○名　　称　山水図（黄山文殊院）（さんすいず（こうざんもんじゅいん））

○作 者 等　張大千筆
○時　　代　中国　中華民国時代・20 世紀
○品　　質　紙本墨画淡彩
○員　　数　1 幅
○寸 法 等　縦 94.7cm　横 33.0cm
○作品概要　中国有数の名山で、安徽省にある黄山の一景を描いた山水図。天都峰と蓮花峰の間に位置する玉屏峰にある文殊院を目指して、二人の高士が険しい峰々を登ってゆく。題識は、明時代の普門和尚の開創になるこの名刹の対聯の句（楹帖）を収録する。筆者は張大千（1899～1983）の名は爰。字は季爰、またの字の大千で知られる。号は大千居士。原籍は広東で、四川内江の生まれ。上海で曾熙、李瑞清に師事した。張は若いころから石濤が周遊した黄山に親しみ、明末清初に黄山周辺で興隆した新安派の漸江や梅清からも多くを学んだ。本図の細筆による特徴的な峰々の稜線は漸江の、本紙を淡く彩るその色調は梅清の画を彷彿させるものがある。須磨弥吉郎の旧蔵品。

6　○名　　称　大雞小雞図（だいけいしょうけいず）
○作 者 等　斉白石筆
○時　　代　中国　中華民国時代・20 世紀
○品　　質　紙本墨画淡彩
○員　　数　1 幅
○寸 法 等　縦 135.7cm　横 34.0cm
○作品概要　雄鶏と雛を描いた家族愛にあふれた一幅。筆勢のある墨線を重ねて華やかな雄鶏を描き、墨のたまりでよちよち歩きの雛を表わす。墨と朱の濃淡のみで鶏雛を表現した本図は、素朴な味わいをもつ斉白石（1863～1957）の翎毛画の本領を示す優品である。斉白石は名を璜といい、白石の号で知られる。湖南湘潭の人。貧農の家に生まれ、木工職人のかたわら絵を学び、鮮麗な水墨淡彩の花卉や翎毛の画は近代中国を代表する画家の一人としてその画名を高めた。本図の題識は、前漢の高祖の孫で『淮南子』の主著者である劉安にちなんだもの。白石は老いてゆく自分と生命力あふれる雛と鶏を対比させ、恬淡とした心境を表明している。須磨弥吉郎の収集品。

7　○名　　称　古松瑞雲図（こしょうずいうんず）
○作 者 等　朱嶠筆
○時　　代　中国・清時代　乾隆 49 年（1784）
○品　　質　絹本墨画淡彩
○員　　数　1 幅
○寸 法 等　縦 97.7cm　横 131.8.0cm
○作品概要　清時代の乾隆年間後期に描かれた大幅の墨松図である。筆を用いずに指や爪に墨を付けて描く指頭画であり、波打つ瑞祥の雲流を背景に二株の古松の大木が交差する。生命を宿して蛟のごとく躍動するかのような臨場感に満ちた本図は、「岐陽」なる人物の六十歳の祝い（花甲）にあわせて贈与された。本図の筆者である朱嶠（1703～？）は、字を赤城、号を巨山といい、上海の人。松の大木を描くことを好み、蒼翠にして濃馥とした作風はいまだかつてないものであった。指墨に優れ、年八十を過ぎても終日画を作り、倦むことがなかったという。本図は漢学者の長尾雨山（1864～1942）の旧蔵品である。

＜書跡＞(2 件)

8　○名　　称　鄭孝胥寄雨山尺牘巻（ていこうしょうざんによするせきとくかん）
○作 者 等　鄭孝胥筆
○時　　代　中国　中華民国時代・20 世紀
○品　　質　紙本墨書
○員　　数　1 巻
○寸 法 等　縦 30.0cm　横 1793.0cm
○作品概要　鄭孝胥（1860～1938）は、清朝の遺臣にして満州国の初代国務院総理をつとめた政治家。本巻は鄭が日本人漢学者の長尾雨山（1864～1942）に宛てて認めた尺牘（書簡）24 通を、長尾本人が巻子に仕立てたものである。長尾雨山は、名を甲、通称槇太郎といい、高松生まれ。光緒 29 年（1903）から民国 3 年（1914）まで上海に居住し、官営の商務印書館で編訳の職にあった。同館の董事（支配人）が鄭であり、古今の詩文に通じる二人は親交を深めた。本巻に収録されている書簡は明治末期から昭和前期までで、近況を尋ねたり詩文の推敲を依頼したりする内容が多い。「危楼」や「送長尾雨山北遊」などいくつかの詩文草稿は、鄭の『海蔵楼詩集』（1937）に収録されている。

9　○名　　称　額字「漢塼斎」（がくじ「かんせんさい」）
○作 者 等　呉昌碩筆
○時　　代　中国　中華民国 3 年（1914）
○品　　質　紙本墨書
○員　　数　1 幀
○寸 法 等　縦 33.0cm　横 106.0cm
○作品概要　近代中国を代表する書画家の一人である呉昌碩（1844～1927）による額字である。民国 3 年（大正 3 年・1914）の冬、親しく交際していた日本人漢学者の長尾雨山が十年余の中国滞在を切り上げて帰国するにあたり、長尾の書斎名「漢塼斎」三字を隷書で揮毫したもの。「漢塼斎」とは、長尾が入手した漢甎「千秋万歳長楽未央」（当館蔵）にちなんだ命名である。呉昌碩は、浙江安吉の人。名を俊、俊卿といい、号は缶廬、老缶、苦鉄など、七十歳以後は字の昌碩で通行した。周代の石鼓文による篆書や、鉄筆の味わいをいかした独自の篆刻は一世を風靡した。本額字は大字で一気呵成に認められており、気骨にみちた呉昌碩の隷書の特徴をよく表している。

＜金工＞(1 件)

10　○名　　称　銭弘俶八万四千塔（せんこうしゅくはちまんしせんとう）
○時　　代　中国・五代　10 世紀
○品　　質　銅鋳造
○員　　数　1 基
○寸 法 等　総高 21.0cm　身高（屋蓋）9.5cm　基壇幅 8.0cm
○作品概要　中国の呉越国王銭弘俶がインド阿育王の造塔故事にならい造塔した八万四千塔のうちの一基。塔身内面に「乙卯歳」と刻し顕徳二年（九五五）の発願と知られる。身部各面と屋蓋、その四隅の方立、相輪を別々に鋳造し鑞付する。身部には龕形内に本生図、須弥壇部に如来坐像、四本柱上に鳥形（迦楼羅か）などを陽鋳で表し、内面には「呉越國王／銭弘俶敬造／八萬四千寶／塔乙卯歳記」と銘を陰鋳し、鉤形の突起を鋳出する。本品は近代に日本へ持ち込まれたものだが、日本でも大峰山寺境内と那智経塚の出土品や、京都・金胎寺、大阪・金剛寺、同・来迎寺、福岡・誓願寺の伝来品が知られ、日中間で仏教文物が行き来したことを象徴する事例である。

＜染織＞(3 件)

11　○名　　称　染分縮緬地文字入扇面桜・雪景橋に松竹梅文様友禅染繍小袖
（そめわけちりめんじもじいりせんめんさくら・せっけいはしにしょうちくばいもんようゆうぜんぞめぬいこそで）
○時　　代　江戸時代・18 世紀
○品　　質　絹（縮緬地　染・繍）
○員　　数　1 領
○寸 法 等　丈 149.5 ㎝　裄 57.0 ㎝（いずれもフキを含む）　袖丈 37.0 ㎝
○作品概要　上半身は淡い黄色、下半身は浅葱色に染め分けられた小袖で、前者には扇面と八重桜を背景に大振りな文字を散らし、後者には雪の降り積もる橋と松竹梅を置いている。いずれも友禅染を主体にしつつ、随所に刺繍を加える。文字は藤原定家の詠歌である「駒とめて袖うちはらふ影もな

しさののわたりの雪のゆふぐれ」（『古今和歌集』）を典拠とする。この一首の歌意と小袖の文様は、下半身の雪景において呼応するのであろう。この小袖のように、腰を中心に上下でまったく異なる文様を配する小袖は、雛形本では正徳年間を中心に流行しており、この小袖の製作年代もその頃に当てることができよう。

12 ○名　　称　淡浅葱麻地宇治景文様友禅染繍帷子（うすあさぎあさじうじけいもんようゆうぜんぞめぬいかたびら）
○時　　代　江戸時代・18～19 世紀
○品　　質　麻（平織地　染・繍）
○員　　数　1 領
○寸 法 等　丈 158.0 ㎝　裄 62.0 ㎝　袖丈 45.0 ㎝
○作品概要　淡い浅葱地を背景に蛍の飛び交う水辺の景色が展開し、随所に仏閣や茶摘みをする女性が配されている。突起状のせり出しがある特徴的な橋、鳳凰を載せた屋根、扇面形に整えられた扇の芝などの景物から、この帷子が宇治の景色を主題とすることが判明する。管見では、宇治の景色のみを採り上げた作例は初出であり、極めて貴重である。糊防染による白上げを主体とし、随所に友禅染と刺繍を加えた、涼やかな一領である。留守文様ではなく人物を表現しており、きものの文様に人物を描き込む作例が多くなる十八世紀後期頃の作例と考えておきたい。

13 ○名　　称　衣裳人形　猩々（いしょうにんぎょう　しょうじょう）
○時　　代　江戸時代・19 世紀
○品　　質　木胎彩色・絹
○員　　数　1 躯
○寸 法 等　人形：高 32.0 ㎝　台：幅 43.0 ㎝　奥行 19.0 ㎝　高 4.5 ㎝
○作品概要　能楽「猩々」の舞台姿を写した台付きの人形である。中啓と盃を手にした赤づくめの出で立ちの猩々が、酒壺の傍らに立つ姿であらわされる。このような猩々人形は、江戸時代後期には疱瘡にかかった子どもの魔除けとして贈られていたことが諸文献から知られており、この人形もまたその一例であろう。錦の厚板に精好の袴、金襴の唐織を身につけた入念なつくりであり、貴顕の子女に贈られたものと推測される。極めて類似する作例として、光格天皇が天保 4 年（1833）に皇女・三麼地院宮（霊厳理欽尼）に贈った猩々人形が宝鏡寺に伝えられており、この人形もほぼ同時期に同じような環境で用いられたものであろう。

(2)寄贈(24 件)
＜絵画＞(11 件)

1 ○名　　称　四季花卉図屏風（しきかきずびょうぶ）
○作 者 等　張莘筆
○時　　代　中国・清時代
○品　　質　絹本著色
○員　　数　6 曲 1 双
○寸 法 等　各扇 本紙縦 155.5cm 横 47.0cm
○作品概要　江戸時代後期に流麗な花卉図で人気を博した来舶清人の張莘の画 12 枚を押絵貼にした屏風。「梅に竹」や「木蓮に蘭」など四季さまざまな草花を濃彩にて細密に描いており、その筆致は乾隆年間に流行した惲寿平の画風を彷彿させる。各扇に自題を加え、「秋穀張莘」の落款と「張莘」（白文方印）と「秋穀」（朱文方印）を伴う。張莘は杭州の人で、初名を崑という。画歴の後半期でもちいた号「秋穀」があり、沈銓（南蘋）来日以後、日本でも引き合いの多かった華美流麗な花卉図を大量に制作していた晩年の作と推察される。屏風に仕立てた際に四季の順序は崩れたものの、日本での中国画鑑賞のあり方をうかがわせる興味深い作品である。

2 ○名　　称　山水図（さんすいず）
○作 者 等　顛道人筆
○時　　代　中国・清時代
○品　　質　絹本墨画淡彩
○員　　数　1 幅
○寸 法 等　縦 151.1cm 横 95.7cm
○作品概要　清時代初期の書画僧・顛道人の筆になる淡彩の山水図。顛道人は原姓名を胡靖といい、号は古丹子、頑顕子、頑礧子など。江寧（現南京）の人。明朝滅亡に際して仏門に入り、山水、花卉、行書に優れた。本図の画面対角線に沿って迫り出す山並みは震えるような短く細い筆線を用いて描かれており、岸辺に小舟を寄せる高士の姿を包み込むかのようだ。一見して粗略な印象を与える本図は、明末清初における浙派山水画の多様な展開を知るうえで参考に供しよう。落款の上部は元絹を欠除しているが、その下に「顛道人」の墨書と、「頑礧子」「曾名靖」と読める白文方印二方がある。

3 ○名　　称　秋嶺古木図（しゅうれいこぼくず）
○作 者 等　溥儒筆
○時　　代　1958 年
○品　　質　紙本墨画
○員　　数　1 幅
○寸 法 等　縦 161.1cm 横 94.5cm
○作品概要　清の皇族にして近代の北京画壇を主導した溥儒（1896～1963）が 1958 年に台湾で描いた山水図。黄茶色がかった熟紙に、断崖絶壁が続く山水の奇観を描く。橋上で立ちすくむ驢馬を曳く行人は石壁からせり出した古木に比して小さく、西洋風景画に倣って遠近感を強調した構図が本図の特徴である。溥儒は、字を心畬、号を西山逸士という。恭王府の生まれで、道光帝の曾孫にして、宣統帝の従兄。清朝が覆ると読書と書画に専心し、民国期の北京画壇第一人者として上海の張大千と合わせて「南張北溥」と並び称された。日中戦争後は国共内戦を経て台湾に移り、台湾師範大学や東海大学で後進を指導した。

4 ○名　　称　松下三賢図（しょうかさんけんず）
○作 者 等　江稼圃筆
○時　　代　中国・清時代
○品　　質　絹本墨画淡彩
○員　　数　1 幅
○寸 法 等　縦 148.4cm 横 82.9cm
○作品概要　来舶清人の江稼圃（？～1804～1815～？）の筆による儒仏道の三教図。樹下に孔子、釈迦、老子の三聖を、樹上に蜂を狙う二頭の猿を描く。猿（猴）と蜂で官位栄達を願う「封侯」を意味するなど、三聖図ながらも世俗的な吉祥の寓意が随所に添加されている。画面が渦巻くかのような肥瘦に富んだ筆線が特徴で、款識には「元人之本、江稼圃臨」とある。ただし、本図が直接参照したのは、明末の浙派に列した「狂態邪学」の一人・鄭顛仙の「三教図」（徳川美術館蔵）である。江稼圃は、諱が大来、字は泰交、連山、号は稼圃。江蘇揚州の人。中国船の商人として来日し、長崎で太田蜀山人や田能村竹田らと交わり、化政以後の日本の南画壇に大きな影響を与えた。

5 ○名　　称　臨楊文聰山水図（りんようぶんそうさんすいず）
○作 者 等　高邕筆
○時　　代　宣統三年（1911）
○品　　質　紙本墨画淡彩
○員　　数　1 幅
○寸 法 等　縦 130.8cm 横 46.4cm

○作品概要　清時代末期の海上派の書画家である高邕（1850～1921）が明朝崩壊に際会してその再起に奔走した楊文驄（号は龍友）の山水図を摸写した一幅。その典拠はつまびらかではないが、濃墨の楊文驄画の特徴をよく伝えている。「辛亥」の年記は、10 月に武昌起義で火蓋を切った辛亥革命が起きた年であり、清朝最末期の混乱のなかで、筆者は董其昌と肝胆相照らした剛毅あふれる異色の文人画家に強く惹かれたのであろう。高邕は字を邕之といい、浙江仁和（杭州）の人。号は李盦、聾公など。憂国の情に厚く、宣統元年（1909）に慈善事業を核とする豫園書画善会の結成に加わり、辛亥革命後は黄冠をつけて儒服をまとい、赤岸山民と号して書画を売って暮らした。

6　○名　　称　万年如意図（まんねんにょいず）
○作 者 等　張莘筆
○時　　代　中国・清時代
○品　　質　紙本墨画
○員　　数　1 幅
○寸 法 等　縦 116.4cm 横 58.4cm
○作品概要　来舶清人の張莘による墨彩の吉祥画。寿石の別称がある太湖石に万年青、竹、霊芝を加えて長寿を願う。本図は「張秋谷」の落款に「張莘之印」があり、異人説があった張莘と張崑の同一人確定に至った作例のひとつである。張莘は杭州の人で、初名を崑という。号ははじめ秋谷、後に秋穀としたが、前者の号に水墨の、後者に濃彩の花卉図が集中することから、『漱芳閣書画銘心録』を著した浅野梅堂（1816～1880）を筆頭に、秋谷を号とする張崑と、秋穀の張莘を別人とする見解があった。本図の描法は万年青の葉に水気の多い墨を用いる一方で、擦れや滲みなども墨の濃淡と組み合わせる。画歴前半期の張秋谷時代の作域をうかがい知ることのできる一幅である。

7　○名　　称　山水図（さんすいず）
○作 者 等　季開生筆
○時　　代　順治 11 年（1654）
○品　　質　絖本墨画
○員　　数　1 幅
○寸 法 等　縦 164.4cm 横 54.1cm
○作品概要　清初の文人・季開生（1627～1659、一説に 1598 生）が順治 11 年（1654）に描いた山水図。光沢のある絖本の長条幅で為書があり、贈答品に用いられた清初の山水図の形式を具える。画面を埋め尽くす山塊や松林には明暗の対比が強調され、山頂にある丸い卵石とともに清初の金陵派に一脈通じる個性的な作風をみせる。季開生は順治 6 年の進士。字を天中といい、江蘇泰興の人。官は兵科給事中などに至る。山水に優れ、弟の振宜とともに季氏双鳳と並称された。光緒年間には戊戌の変法運動を支持した官僚の張兆蘭が収蔵したが、その後日本に流れ、本図の包袋には明治 43 年（1910）に旧山口藩士で宮内省御用掛や議定官などを歴任した杉聴雨（1835～1920）が着賛している。

8　○名　　称　松林山水図（しょうりんさんすいず）
○作 者 等　王震筆
○時　　代　民国 12 年（1923）
○品　　質　紙本墨画淡彩
○員　　数　1 幅
○寸 法 等　縦 136.8cm 横 68.3cm
○作品概要　近代上海の実業家にして呉昌碩の高弟で書画を善くした王一亭（1867～1938）が、日本人収集家の斎藤悦蔵（号は董盦）に贈った山水図。題詩の尾聯「島仏詩吟月下敲」は、中唐の詩人・賈島が「僧敲月下門」の句について「敲」がよいか「推」がよいかを韓愈に尋ねた「推敲」の故事を踏まえる。本図の描写は、潤筆で代赭や淡墨をもちいて遠山や主山の量塊感が醸し出しており、題詩の首聯で詠う雨上がりに松樹が蛟に変身するかのごとき気韻にあふれる。王一亭は、名を震といい、一亭は字。号は白龍山人、海雲楼主など。江蘇省呉興（湖州）の人で、上海生まれ。仏教への帰依が厚く、仏画も善くした。本図が賈島にちなむのも、賈島が一時期、僧籍にあったからであろう。

9　○名　　称　嵐峡泛舟図（らんきょうはんしゅうず）
○作 者 等　張大千筆
○時　　代　民国 17 年（1928）
○品　　質　紙本墨画
○員　　数　1 幅
○寸 法 等　縦 138.4cm 横 34.7cm
○作品概要　近現代中国を代表する水墨画家の張大千（1899～1983）が昭和 3 年（民国 17 年・1928）に楽しんだ京都・嵐山の保津川下りを回想して描いたもの。張大千（1899～1983）の名は爰、字は季爰、またの字の大千で知られる。号は大千居士。斎号は大風堂。四川内江の生まれ。上海で曾熙、李瑞清に師事。古画臨摸をとおして清冽な画風を確立し、北京の溥儒と並び「南張北溥」と称された。本図は淡墨淡彩による簡略な描写であり、二十代後半から三十代前半にかけての張の山水図の特徴がよくあらわれている。絶壁が続く河江に舟を浮べるのは蘇軾の赤壁賦を彷彿させ、文人遊の境地を異国の地・京都にて追体験した一幅である。

10　○名　　称　雲龍図（うんりゅうず）
○作 者 等　狩野永納筆
○時　　代　寛政 9 年（1797）
○品　　質　紙本墨画
○員　　数　2 幅
○寸 法 等　各　縦 115.7cm　横 50.8cm
○作品概要　昇龍と降龍の組み合せだが、右幅「竹に巻きついて登る龍」、左幅「波を潜り抜ける龍」というユニークな図様をしめす。各幅下隅に「狩野永納筆」の署名、「山静」「易亭永納」の二印がある。
筆者狩野永納（1631～1697）は、狩野山雪の長男で京狩野第３代。慶安 4 年（1651）21 才の時、京狩野を継承、寛文 2 年（1662）と延宝 3 年（1675）の京都御所の障壁画制作に、探幽や安信に従って下位ながら参加、阻害されつつあった京狩野の地位に、若干の回復をみせた。著書『本朝画史』は、日本絵画史研究の基本的文献として名高く、父山雪以来の学者的素養の高さをしめす。元禄 10 年（1697）67 才没。
永納の優品として研究上、貴重な一作といえよう。

11　○名　　称　巌下煮茶図（がんかしゃじゃず）
○作 者 等　木下逸雲筆
○時　　代　慶応 2 年（1866）
○品　　質　絹本墨画淡彩
○員　　数　1 幅
○寸 法 等　縦 143.3cm　横 50.9cm
○作品概要　絹地に柔らかなタッチの水墨と明澄な淡彩による南画風をしめす。画中人物は身振り豊かで、ほのぼのとした雰囲気が醸し出される。
木下逸雲（1800～66）は、はじめ唐絵目利の石崎融思に画を学び、来舶清人の江稼圃・張秋谷からは南画の技法を修めた。その後も清人陳逸舟、徐雨亭に画風を学ぶとともに、雪舟・狩野派・大和絵・円山四条派などの諸派や西洋画の画法を熱心に研究し、様々な技法を取り入れた。画僧鉄翁祖門や田能村竹田・頼山陽・広瀬淡窓ら文人との交流が知られる。
年紀「丙寅夏五月望前」から、慶応 2 年（1866）5 月 14 日の作であり、逸雲は同年 9 月に没しているので最も晩年の作品といえ、箱書き等に「絶筆」と伝えられる。

＜陶磁＞(4 件)

12　○名　　称　瀬戸唐津輪花茶碗（せとがらつりんかちゃわん）
　　○時　　代　江戸時代・17 世紀
　　○品　　質　施釉陶器
　　○員　　数　1 口
　　○寸 法 等　高 6.7cm　口径 14.8cm　高台径 4.9cm
　　○作品概要　胎土や釉調などの形質的特徴から、17 世紀に九州肥前地域の窯で焼かれた施釉陶器、いわゆる唐津焼と考えられる。大きさから、喫茶用の碗（茶碗）として作られたものとみられるが、口縁の三方に装飾として輪花が施されているのが茶碗としては珍しい。茶の湯の世界で唐津焼の茶碗が流行するのは、17 世紀初め頃であり、伝世の唐津焼茶碗の多くがその時期に焼かれたものであることを考えると、本例もほぼ同時期の作であろうと推測される。口縁部に小さな欠損があるものの、漆で丁寧に繕われており、展示に支障はない。

13　○名　　称　伊羅保茶碗　銘花の山（いらぼちゃわん　めいはなのやま）
　　○時　　代　朝鮮時代・17 世紀
　　○品　　質　施釉陶器
　　○員　　数　1 口
　　○寸 法 等　高 8.5cm　口径 16.4cm　高台径 5.9cm
　　○作品概要　朝鮮半島で焼かれ、日本へもたらされて喫茶用の碗（茶碗）となったいわゆる高麗茶碗の一種。その独特の胎土や釉調は、高麗茶碗の中でも俗に「伊羅保茶碗」と呼ばれているものとの共通性が高いが、高台周辺が露胎となっている点や、施釉後の胴部に褐色の泥土を塗りつけて意図的に景色をつくっている点など、通常の「伊羅保茶碗」との相違も認められる。あるいは、日本で喫茶用の碗として「伊羅保茶碗」が評価されていることを踏まえて、来航する朝鮮通信使が日本人向けに作らせて持参したという「半使茶碗」の一種ではないかと推測される。

14　○名　　称　御本「日本」文字茶碗（ごほん「にほん」もじちゃわん）
　　○時　　代　朝鮮時代・17 世紀
　　○品　　質　施釉陶器
　　○員　　数　1 口
　　○寸 法 等　高 9.1cm　口径 13.2×13.4cm　高台径 5.7cm
　　○作品概要　朝鮮半島で焼かれ、日本へもたらされて喫茶用の碗（茶碗）となったいわゆる高麗茶碗のうち、日本から型紙などの見本を送って釜山の倭館窯で焼かせた「御本茶碗」の一種と考えられるもので、胴部に銹絵で施された「日本」の文字は、この茶碗が日本向けに作られたものであることを雄弁に物語っている。江戸時代の日本と朝鮮の交流を端的に示す事例として、展示での活用が見込まれる。

15　○名　　称　色絵桜牡丹文皿（いろえさくらぼたんもんさら）
　　○時　　代　明治時代・19 世紀
　　○品　　質　色絵磁器
　　○員　　数　10 枚
　　○寸 法 等　高 4.3cm　口径 14.8cm　高台径 7.7cm
　　○作品概要　江戸時代に佐賀鍋島藩が贈答用に藩直営の窯（鍋島藩窯）で焼かせた高級磁器「鍋島焼」に似ているが、やや厚手のつくりであることや、青色の染付の青色にかなりの濃淡のむらがあることなどを考えると、藩直営の窯が廃止された後に鍋島焼を意識して製作した民間工房の作と考えられる。鍋島藩窯の作と較べると、品質的には劣っていると評価せざるをえないが、真正の鍋島焼との比較検討素材としての活用が見込まれる。

＜漆工＞(2 件)

16　○名　　称　革製宝相華文様金具形残欠（かわせいほうそうげもんようかなぐがたざんけつ）
　　○時　　代　建暦 2 年（1212）頃
　　○品　　質　革製、漆塗、箔押
　　○員　　数　7 片
　　○寸 法 等　１．13.3×2.1cm　２．11.2×4.7cm　３．4.1×4.1cm　４．4.3×2.6cm　５．4.0×4.3cm　６．4.4×2.4cm　７．14.0×4.8cm
　　○作品概要　鞣革を飾り金具の形に切り抜き、表面に漆を塗って金箔を押し、金工と同じような蹴り彫りで宝相華文様を表した装飾品。京都府木津川市にある浄瑠璃寺に、重要文化財の吉祥天立像が伝わり、この指定の附に本品と同様の革製金具形残欠 8 枚がある。かつてこの秘仏を納めた厨子についていた。美しい板絵で知られるこの厨子は、明治時代の廃仏毀釈の折に流出し、現在は東京藝術大学が所蔵する。この厨子にも「革留具の一部」が附属する。吉祥天像、厨子ともに建暦２年（1212）の作とされることから、革製の飾りや蝶番も同時期の作と考えられ、これらに酷似し、恐らくは一連をなす本品も、鎌倉時代初頭の大変珍しい革製品の例と位置づけられよう。

17　○名　　称　貝尽くし蒔絵箱形徳利（かいづくしまきえはこがたとっくり）
　　○時　　代　江戸時代　18 世紀
　　○品　　質　木製、漆塗、蒔絵
　　○員　　数　1 個
　　○寸 法 等　11.3×21.3cm　高 6.5cm
　　○作品概要　木製の直方体形容器の天板の一角に注ぎ口を設け、栓をはめた徳利。全体を銀梨地で覆い、金銀の平蒔絵、付描、針描、金切金などで、ことなる文様をほどこされた蛤や浅蜊と思われる大小の二枚貝を散らす。栓は朱漆塗り。おそらく行厨（提重）の部分として作られた酒器である。重箱や小皿などと組み合わされて箱か枠にぴったりと収納され、主な徳利が空になったころに引き出される「おかわり」用だったのではないだろうか。二枚貝は貝の組み合わせが唯一無二なため、二つとない良縁を祝う気持ちが込められた文様であろう。

＜染織＞(7 件)

18　○名　　称　浅葱麻地隅切三文字紋付鮫小紋裃地（あさぎあさじすみきりさんもじもんつきさめこもんかみしもじ）
　　○時　　代　江戸時代・19 世紀
　　○品　　質　麻（平織地　小紋染）
　　○員　　数　1 反
　　○寸 法 等　長 809.0 ㎝　幅 42.2 ㎝
　　○作品概要　小紋染めは、武家の衣服から発達したと考えられ、その代表的な例として、江戸時代の武家の正装であった裃が挙げられる。裃とは、室町時代の武家が着用していた素袍の両袖をとった形状の衣服で、桃山時代の武将の肖像画にしばしば見いだされることから、その頃には成立していたと考えられる。これは裃を仕立てる前の状態で、反物として伝えられた。錐一丁によって鮫と呼ばれる鱗状の文様を彫った型紙を用いる。半分だけ見えているのは背中心の紋（隅切角に三の字）、すべて見えているのは胸前の紋にあたる。なお、右身頃背面の多くが欠失している。

19　○名　　称　淡浅葱麻地四花菱紋付菱小紋裃地（うすあさぎあさじよつはなびしもんつきひしこもんかみしもじ）
　　○時　　代　江戸時代・18 世紀
　　○品　　質　麻（平織地　小紋染）
　　○員　　数　1 反
　　○寸 法 等　長 1036.5 ㎝　幅 38.0 ㎝
　　○作品概要　小紋染めは、武家の衣服から発達したと考えられ、その代表的な例として、江戸時代の武家の正装であった裃が挙げられる。裃とは、室町時代の武家が着用していた素袍の両袖をとった形状の衣服で、桃山時代の武将の肖像画にしばしば見いだされることから、その頃には成立していたと考えられる。これは裃を仕立てる前の状態で、反物として伝えられた。道具彫によって小さな菱を彫った型紙を用いる。半分だけ見えているのは背中心の紋（花菱）、すべて見えているのは胸前の紋にあたる。身幅が細いことから、江戸時代中期の品と考えておきたい。大名家である

柳沢家伝来と伝えられる。

20　○名　　称　小紋染見本帳（こもんぞめみほんちょう）
　　○時　　代　江戸時代・18 世紀
　　○品　　質　麻（平織地　小紋染）
　　○員　　数　1 冊
　　○寸 法 等　縦 18.5 ㎝　横 27.2 ㎝
　　○作品概要　さまざまな小紋型を木綿地の小裂に染めて貼り込んだ見本帳。ひとつの裂は 5 ㎝四方で、本来は二百八十七種あったと思われるが、12 裂を欠失する。表紙には「玉印」、奥書には「柏屋傳蔵」とあり、もとは染屋の見本台帳であったろう。微細な植物･器物･吉祥の文様で埋め尽くされた小世界は、見飽きることがない。

21　○名　　称　市松人形（いちまつにんぎょう）
　　○時　　代　明治時代・19 世紀
　　○品　　質　木胎彩色・絹
　　○員　　数　1 躯
　　○寸 法 等　高 74.0 ㎝
　　○作品概要　大型の抱人形で、明治十年頃生まれた寄贈者の祖父のために、御所の台所方にあがっていた曽祖父が購入した品という。男子人形で、腹部を押すと音が鳴る仕掛けになっている。この時代には同種のつくりの市松人形が流行したようで、類似の作例が比較的多く残されている。衣装は明治時代の品ではなく、昭和に入ってから改められたものであろう。

22　○名　　称　紙衣（かみこ）
　　○時　　代　大正時代・20 世紀
　　○品　　質　紙・木綿
　　○員　　数　1 領
　　○寸 法 等　丈 92.5 ㎝　幅 56.0 ㎝
　　○作品概要　表地に和紙を、裏地に木綿を用い、薄綿を入れた紙衣の袖無し羽織である。和紙は、柔らかく揉まれ、型染で細縞を置いて紺色に染められている。紙衣とは和紙を用いた衣服で、古来より防寒具として用いられた。現代でも東大寺修二会の練行衆が紙衣を着用しているが、年代がある程度判明する作例としては、上杉謙信が着用した紙衣（上杉神社蔵）が知られている。この紙衣は、紙衣が廃れることを惜しんで、大正十一年（1922）に風俗研究愛好家に頒布されたもので、風俗研究会を主宰していた江馬務の「紙子の由来」という印刷物が附属している。

23　○名　　称　染織裂（せんしょくぎれ）
　　○時　　代　桃山～江戸時代・16～19 世紀
　　○品　　質　絹（染・繡）
　　○員　　数　31 枚
　　○作品概要　桃山時代に製作された辻が花染や繡箔の小袖裂を中心とする染織裂 31 枚が、小ぶりの箪笥に収められている。旧鐘紡コレクション、丸紅コレクション、京都工芸繊維大学に同裂の断片が見いだせることから、本来は打敷であったものが分割されて市中に出回ったものであろう。断片ではあるものの、意匠・技法ともに見どころに富む。日本画家・入江波光の蒐集品である。

24　○名　　称　人形類（にんぎょうるい）
　　○時　　代　江戸時代・18～19 世紀
　　○品　　質　木胎彩色・絹ほか
　　○員　　数　152 種
　　○作品概要　這子・犬張子などの儀礼人形 4 種、立雛・次郎左衛門雛・享保雛などの雛人形 27 種、芥子人形 9 種、嵯峨人形 4 種、賀茂人形 6 種、からくり人形 13 種、衣裳人形 46 種、御所人形 14 種、三つ折人形 6 種、御殿玩具・郷土人形など 11 種、雛屏風・雛道具など 12 種、計 152 種を数える、人形類の一大コレクションである。とりわけ、台からくりを中心とするからくり人形と衣裳人形は、質量ともに高い水準にある。日本画家・入江波光が蒐集したコレクションとして世に名高い。

【奈良国立博物館】（計 4 件）

(1)購入(4 件)

＜絵画＞(1 件)

1　○名　　称　紙本墨画渡唐天神像（しほんぼくがととうてんじんぞう）
　　○作 者 等　近衛信尹（1565～1614）
　　○時　　代　江戸時代・17 世紀
　　○品　　質　紙本墨画　掛幅装
　　○員　　数　1 幅
　　○寸 法 等　108.3 ㎝×45.9 ㎝
　　○作品概要　頭部を「天」、体部を「神」の草書体で表し、文字絵の体裁をなす渡唐天神像で、本図上方には天神を題材とする和歌が記されている。筆者の近衛信尹は寛永の三筆に数えられ、江戸時代末の画人伝『古画備考』によると墨画の渡唐天神像を百幅遺したという。実際、本図とほぼ同一の天神像が各地の天神社を中心に十数幅伝存しており、これらの作例と本図を比較検討すると信尹筆の一幅と考えられる。本図の附属品から、勝海舟（1823～99）寄贈という本品を明治 18 年（1885）に松浦武四郎（1818～88）が求め、同 26 年（1893）には古筆宗家 12 代の了悦（1831～94）が極を付しており、近代以降の伝来が比較的明らかである。

＜書跡＞(2 件)

2　○名　　称　紙本墨書万昆嶋主解（紙背　写千巻経所食物用帳断簡）（しほんぼくしょまこんのしまぬしげ（しはい　しゃせんかんきょうしょしょくもつようちょうだんかん）
　　○作 者 等　万昆嶋主（生没年不詳）
　　○時　　代　奈良時代　天平宝字 2 年（758）
　　○員　　数　1 枚
　　○品　　質　紙本墨書　未装丁
　　○寸 法 等　28.9×24.7
　　○作品概要　本品は正倉院宝庫から流出した古文書の一つで、昭和 18～19 年（1943～44）頃に前所蔵者の手を離れて以降長らく所在不明であった。一次利用面である「万昆嶋主解」は、写経所の経師であった万昆嶋主が重病の姑（父親の姉妹か）を看病するために 4 日間の休暇取得を申請したものである。当文書の事務処理が完了し不要になったのちは、その紙背が写経所の帳簿用紙として再利用され、日々の食物の利用状況を記録する「写千巻経所食物用帳」（二次利用面）が作成された。政府の公文書や役所の帳簿類が多い正倉院文書のなかで、休暇届である万昆嶋主解は当時を生きた人々の生活の一端を窺い知ることができる貴重な歴史資料といえる。

3　○名　　称　紙本墨書足利義満書状案（しほんぼくしょあしかがよしみつしょじょうあん）
　　○時　　代　南北朝時代　14 世紀
　　○員　　数　1 幅
　　○品　　質　紙本墨書　掛幅装

○寸 法 等　119.5×59.8
○作品概要　本品は室町幕府3代将軍・足利義満（1358～1408）が康暦2年（1380）8月26日に関白二条師嗣（1356～1400）に宛てて送ったと考えられ、義満が興福寺僧・円守を当寺別当職に補任するよう推挙したという内容をもつものである。円守は東院僧正と呼ばれ、朝廷や将軍家の仏事にたびたび招請されているほか、応安5年（1372）の強訴の際には解決のために上洛し朝廷側と話し合いを行っている。また当文書冒頭の注記と本文が同筆にみえることから、本品は興福寺東院で作成された案文である可能性が高い。室町幕府が興福寺人事に干渉していたことが明確な史料であり、中世南都と室町幕府の関係を知る上で貴重な歴史資料である。

＜彫刻＞(1件)

4　○名　　称　木造阿弥陀如来坐像（もくぞうあみだにょらいざぞう）
○時　　代　平安時代・9～10世紀
○品　　質　カヤ材　一木造　内刳なし　古色　彫眼
○員　　数　1軀
○寸 法 等　像　　高　35.9㎝　髪 際 高　29.4㎝　頂一顎　14.7㎝　面　長　8.0㎝　面　奥　11.8㎝　耳　張　11.1㎝
胸奥（左）　10.8㎝　胸奥（右）　10.9㎝　腹　奥　13.1㎝　臂　張　20.9㎝　坐　奥　17.8㎝　膝　張　26.9㎝
膝高（左）　5.9㎝　膝高（右）　5.5㎝
○作品概要　腹前で右手を上に両掌を重ね阿弥陀の定印を結び、左脚を外にして趺坐する像である。四肢のバランスを顧慮せず、カヤ材を用い、全体を一個のマスの中に把握するような造形、晦渋味のある微笑を浮かべた迫力ある表情に、平安時代前期彫刻の特徴が示されている。定印の阿弥陀如来像は、京都・仁和寺阿弥陀三尊像の中尊（仁和4年・888）を初例として、同・清涼寺阿弥陀三尊像の中尊（寛平8年・896）が続くが、本像はこの二像に匹敵する古例といえる。しかし、定印を結ぶ手の立てた両第二指の背が接することなくわずかに隙間（約3ミリ）がある点は珍しく今後の検討を要するが、定印阿弥陀像初期の一作例として注目に値する作品である。

(2)寄贈(0件)

【九州国立博物館】(計20件)

(1) 購入 (17件)

＜絵画＞ (3件)

1　○名　　称　紙本著色病草紙断簡（屎を吐く男）　（しほんちゃくしょくやまいのそうしだんかん　くそをはくおとこ）
○時　　代　平安～鎌倉時代・12世紀
○品　　質　紙本著色
○員　　数　1幅
○寸 法 等　縦26.4㎝　横33.7㎝
○作品概要　掛幅装。詞書1紙と絵1紙からなる。萩や薄など秋草の茂る籬に向かい、石に腰を下ろして嘔吐する男を描く。詞書によるとこの男は尻の穴がないために口から排泄をしていたという。作風は「地獄草紙」（国宝、東京国立博物館）や「餓鬼草紙」（国宝、京都国立博物館）に極めて近い表現をしており、本図も同時期に後白河法皇や宮廷絵師・常盤光長の関与により制作されたものと考えられる。現在断簡であるが、本図を含む「病草紙」15段は、昭和初期まで1巻の巻子として名古屋の関戸家に伝来していた。巻子装時に付随していた土佐光貞（1738～1806）の奥書により、本図は寛政8年（1796）には歌人・大館高門（1776～1839）の所蔵であったことがわかる。

2　○名　　称　絹本著色阿弥陀浄土図　（けんぽんちゃくしょくあみだじょうどず）
○時　　代　鎌倉時代・13世紀
○品　　質　絹本著色
○員　　数　1幅
○寸 法 等　本紙：縦85.5cm　横78.0cm　表装：縦181.2cm　横99.1cm　軸長105.3cm
○作品概要　掛幅装。画面に、やや俯瞰気味に阿弥陀の極楽浄土を描く。阿弥陀浄土図は基本的に、浄土を正面から捉えた左右対称の図であり、本図のように浄土を斜めに捉えた作例は珍しいが、法然が熊谷直実に与えたという「迎接曼荼羅」（重要文化財、清涼寺所蔵、鎌倉時代初頭）など、阿弥陀浄土図に限らず同時代の作例を見ていくと、本図が決して特異な図様ではないことが分かる。本図は下描き、彩色、描き起こしという仏画の伝統的な手法で描かれており、彩色および描き起こしは極めて細緻で、截金線は非常に細く丁寧で、文様の種類も豊富である。鎌倉時代以降の浄土教絵画の多様な展開を考えるうえで重要な示唆を与えてくれる作品として、その価値はきわめて高い。

3　○名　　称　絹本墨画羅漢図　（けんぽんぼくがらかんず）
○時　　代　中国　南宋-元時代・13世紀
○品　　質　絹本墨画
○員　　数　1幅
○寸 法 等　本紙：縦109.0cm　横51.8cm　表装：縦201.0cm　横66.9cm　軸長72.6cm
○作品概要　掛幅装。本図は、もとは十六羅漢図または十八羅漢図のうちの1幅であったと考えられる。羅漢は着衣を先割れのある粗放な濃い墨線で簡潔に描き、部分的に淡い墨面で立体感を表す。一方、肉身は穏やかな抑揚をつけたやや淡い墨線で描いて部分的に濃い墨線をアクセントとし、やや荒い筆線で毛描きする。このように肉身と着衣では描写を明確に区別する表現などから判断して、中国・唐時代から五代時代にかけて活躍した画僧である禅月大師・貫休(832～912)の伝承作品との関係が注目される。貫休の伝承作品には制作が元時代に降るものも少なくないため、そのなかにあって本図は彼の様式を知る上で大きな意義をもつ。

＜書跡＞ (3件)

4　○名　　称　紙本墨書足利尊氏願経　妙法聖念処経　（しほんぼくしょあしかがたかうじがんきょう　みょうほうしょうねんしょきょう）
○時　　代　南北朝時代・文和3年(1354)
○品　　質　紙本墨書
○員　　数　5帖
○寸 法 等　各表紙：縦28.4cm　横11.8cm　本紙：各縦28.4cm
全長：巻第一624.5cm　巻第三611.3cm　巻第四400.3cm　巻第五541.7cm　巻第六528.5cm
○作品概要　折本装。室町幕府を開いた足利尊氏（1305～58）が文和3年(1354)正月23日に発願して京、南都、近江、鎌倉の諸僧に書写させた一切経。発願文によると、後醍醐天皇や尊氏の両親、元弘の乱以後の戦乱で亡くなった人々を弔い、天下泰平と民衆の安楽を願ったものである。本願経は南北朝時代を代表する写経で、文化史、宗教史、政治史研究上に貴重であるばかりでなく、宋・元版をテキストとして用いており、一切経の流布と対外交流の関係を知る上でも重要である。

5　○名　　称　紙本墨書舎人国足願経　瑜伽師地論　巻第六十三　（しほんぼくしょとねりくにたりがんきょう　ゆがしじろん　まきだいろくじゅうさん）
○時　　代　奈良時代・天平16年(744)
○品　　質　紙本墨書
○員　　数　1帖
○寸 法 等　表紙：縦24.3cm　横8.5cm　全長709.6cm　折本幅8.1cm
○作品概要　折本装。ただし当初は、巻子装。『瑜伽師地論』は全100巻。300～350年頃に成立。無著(ｱｻﾝｶﾞ)が弥勒菩薩の霊告によって造ったとされる。瑜伽行派の根本論書の一つで、3～4世紀頃のインドの仏教研究を網羅し、ヴェーダ・五明等にまで及んで当時の百科全書の観を呈する。法相宗で

重要経典とされる。本願経は法量や界線の高さ、幅、折本装の幅なども、石山寺所蔵の瑜伽師地論巻第七十のものとほぼ一致することから、もともと石山寺旧蔵の『瑜伽師地論』の一帖であると判断できる。玄奘三蔵が漢訳してから 100 年を経ずして、日本で『瑜伽師地論』が書写されていたことを示す遺品として重要である。

6　○名　　称　絹本墨書周煌墨蹟　（けんぽんぼくしょしゅうこうぼくせき）
　○時　　代　琉球　第二尚氏時代・乾隆 21 年(1756)
　○品　　質　絹本墨書
　○員　　数　1 幅
　○寸 法 等　本紙：縦 82.2cm　横 41.2cm　表具：縦 170.5cm　横 54.1cm　軸張り 59.5cm
　○作品概要　掛幅装。周煌(?～1785)は四川涪州の人。尚穆王の冊封副使として、正使全魁とともに乾隆 21 年(1756)に来琉した。本墨蹟は、王羲之(303?～361?)のほか、漢代の著名な書家、鍾繇(ショウヨウ)(151～230)、張芝、蔡邕(サイヨウ)の書を論じたもの。乾隆丙子は周煌が来琉した年に当たり、「於中山官廨」と記していることからも琉球において書かれたことが明らかであり、琉球が中国・清から冊封されていたことを紹介する資料として有益である。

＜彫刻＞（1 件）

7　○名　　称　地蔵菩薩遊戯坐像　（じぞうぼさつゆげざぞう）
　○時　　代　朝鮮　高麗時代・14 世紀
　○品　　質　銅造
　○員　　数　1 躯
　○寸 法 等　総高 49.2cm　像高 26.6cm
　○作品概要　本像は当時流行の地蔵菩薩信仰を反映した、被帽地蔵菩薩の数少ない彫刻作例として韓国美術史上きわめて貴重な存在である。ふっくらとした面貌の肉付き、明快に表された目鼻立ち、伸びやかな上体の表現等は、高麗時代後期に制作された仏像の特徴であり、優れた造形感覚が認められる。鋳造技術や細部の彫法も手慣れており、極めて完成度が高い。かつて対馬・厳原の寺院に伝来したものと伝えられ、中世における日朝間の活発な往来過程で請来された遺品である。当館が収蔵すべき質と歴史を有する作品である。

＜染織＞（2 件）

8　○名　　称　端物切本帳　（たんものきれほんちょう）
　○時　　代　江戸時代・19 世紀
　○品　　質　和紙仮綴　木綿
　○員　　数　13 冊
　○寸 法 等　各　縦 26.0cm　横 19.0cm
　○作品概要　端物切本帳は、輸入染織に関する史料であり、反物目利と呼ばれる輸入染織を鑑定・評価する長崎奉行配下の役人によって記録された。本切本帳には、オランダを意味する「紅毛」の文字と、反物目利「芦塚」の署名があることから、芦塚家に伝わった切本帳のうち、オランダ船によって輸入された染織資料であることがわかる。また、本切本帳に貼られた裂のほとんどが更紗という珍しいものであり、現存する他の端物切本帳を補完する資料として貴重である。

9　○名　　称　緑地花菱繋ぎ文更紗　（みどりじはなびしつなぎもんさらさ）
　○時　　代　18-19 世紀
　○品　　質　木綿平織、片面染め、描き染め、蠟防染
　○員　　数　1 枚
　○寸 法 等　縦 358.0cm　横 113.0cm
　○作品概要　本品は本来、タイ向けに作られたインド更紗。極薄の上手木綿生地を織幅いっぱい使用し、濃い地色を基調に、蠟防染で白抜きされた細線で細かな文様をあらわす他、タイの伝統文様も取り入れられている。肌理細やかな木綿の生地や複雑で巧緻な文様構成ともに秀逸である。本品の裏には中国の数字「蘇州号碼」で取引額が墨書されており、通交に関わった中国商人の存在を明らかにしている点で貴重な記録である。南アジア、東南アジア、東アジアを結ぶ資料として活用が期待できる。

＜考古＞（1 件）

10　○名　　称　白磁経筒　（はくじきょうづつ）
　○時　　代　中国　宋代・12 世紀
　○品　　質　磁器
　○員　　数　1 合
　○寸 法 等　総高 36.7cm　口径（身）12.0cm　（蓋）15.1cm　底径 12.1cm
　○作品概要　平安時代末には、末法思想を背景に極楽往生を願う信仰が各地で流行し、仏教の経典を地中に埋めて正しい教えを後世に残そうとした経塚の造営が盛んとなり、多くの経筒が埋納された。経筒は青銅製が主流で、白磁の経筒は現在知られているものでも 10 点もなく、さらに本作品のように蓮弁を厚肉深彫で立体的に仕上げた例は稀少で、極めて貴重である。

＜歴史資料＞（7 件）

11　○名　　称　朝鮮通信使川御座船図六曲屏風　（ちょうせんつうしんしかわござぶねろっきょくびょうぶ）
　○時　　代　江戸時代・17～18 世紀
　○品　　質　紙本金地著色
　○員　　数　1 隻
　○寸 法 等　本紙：縦 78.3cm　横 251.0cm　屏風装：縦 95.5cm　横 268.0cm
　○作品概要　屏風装。画面左右に金雲を配し、中央に大きく水上を航行する 2 階建の屋形をもつ川御座船を描く。本図は、淀川を航行する川御座船を描いたもので、「上判事第三船」の旗が描かれることから朝鮮通信使のうち上判事を乗せた船と考えられる。朝鮮通信使の姿は描かれていないが、扉の閉じられた牀几の間の中に座しているという想定かと推測される。また、この船は扇紋から肥前国島原藩主松平家のものと考えられ、九州との縁が深く当館にとって重要な作品である。

12　○名　　称　紙本墨書今川了俊書下　（しほんぼくしょいまがわりょうしゅんかきくだし）
　○時　　代　南北朝時代・嘉慶 2 年(1388)
　○品　　質　紙本墨書
　○員　　数　1 幅
　○寸 法 等　本紙：縦 27.0cm　横 46.0cm　表具：縦 115.0cm　横 59.1cm　軸張り 64.5cm
　○作品概要　竪紙。掛幅装。今川了俊(貞世、1326-?)は、貞治 6 年(1367)に室町幕府引付頭人となり、同年末、第 2 代将軍足利義詮の死去を機縁に出家し貞世から了俊にあらためた。応安 4 年(1371)には第 3 代将軍足利義満によって南朝方制圧のため九州探題に任命された。本文書は、宗像大宮司宗像氏頼に対して、所々神領ならびに筑前国朝町村（現宗像市）、山口郷（現宮若市）、土穴郷（現宗像市）、平等寺（現宗像市）等に関する義満の安堵を施行したもので、その内容は、吉田ツヤ所蔵「宗像系図」所収の写しによって知られていたが、このたび正文の存在が初めて知られることとなった。

13　○名　　称　紙本墨書島津氏等文書集　（しほんぼくしょしまづしとうもんじょしゅう）
　○時　　代　鎌倉～江戸時代・14～17 世紀
　○品　　質　紙本墨書

○員　　数　1巻（10通）
○寸 法 等　巻子　縦38.9cm　全長565.7cm　　表紙　縦38.9cm　横28.7cm
○作品概要　巻子装。島津氏と家臣に関連する古文書10通が1巻に成巻されている。内容は、織豊期の島津氏関連、鎌倉・南北朝期の稲本氏・小浜氏関連文書、島津義久(1533～1611)が父貴久(1514～71)の三十三回忌追善に手向けた和歌、義久の甥忠恒(家久、1576～1638)が受け取った書状、加藤清正(1562～1611)が釜山浦の番船の進退を確認したもの、島津氏家臣頴娃久虎が息子の病気平癒を祈願した願文、宗像氏の一族稲本氏純の南朝方肝付兼重討伐に係る着到状、加瀬田城（現鹿児島県曾於郡輝北町）における南朝方肝付兼隆攻略にかかる稲本氏純宛の足利直義の感状、小浜十郎への大隅国鹿屋院（現鹿児島県鹿屋市）下村半分地頭代官職を預け置いた島津貞久(1269～1363)の預状、小浜村（現鹿児島県姶良郡隼人町）に対して宮の祭礼費用負担を命じた領家下文で、九州の歴史上、重要な史料群である。

14　○名　　称　紙本墨書朝鮮通信使進物目録　（しほんぼくしょちょうせんつうしんししんもつもくろく）
○時　　代　江戸時代・享保4年(1719)
○品　　質　紙本墨書
○員　　数　1通
○寸 法 等　本紙：縦42.6cm　横63.0cm　封筒：縦43.5cm　横9.0cm　朱印：縦5.5cm　横5.5cm
○作品概要　紙本墨書。竪紙。本目録は、享保4年(1719)に徳川幕府第8代将軍徳川吉宗襲封祝儀のために来日した朝鮮通信使の正使・副使・従事官が、連名で石見津和野藩主亀井隠岐守玆親(コレチカ)(1669～1731)へ送った贈答品の目録である。朝鮮通信使から大名宛に出されたこのような目録は、他に3通が知られるが、差出が「通信使」となっており、三使が連署しているのは本状が唯一である。朝鮮通信使は近世の日朝関係史上、重要な事象であり、本資料は当館の文化交流というテーマで活用が期待される。

15　○名　　称　紙本墨書豊臣秀吉朱印状　遠藤彦右衛門・助二郎宛
（しほんぼくしょとよとみひでよししゅいんじょう　えんどうひこえもん・すけじろうあて）
○時　　代　安土桃山時代・16世紀 天正15年(1587)
○品　　質　紙本墨書
○員　　数　1通
○寸 法 等　縦32.1cm　横47.6cm
○作品概要　折紙。補修や表具の跡が無く、うぶなままの状態を保つ。豊臣秀吉が天正15年(1587)に行った島津氏平定の戦いである九州征伐の最中に発給されたもの。遠藤彦右衛門と助二郎に宛てて、受け取った書状を読んだことと送られた煎海鼠30連の礼を述べ、近日中に薩摩へ攻め込む事、中納言(羽柴秀長、1541～91)から日向の戦況についても順調な旨の報告があったことなどを伝えている。本状を取り次いでいる木下半介は吉隆(?～1598)。戦況についての秀吉の生々しい表現も含まれ貴重である。

16　○名　　称　紙本墨書豊臣秀吉朱印状　高麗国中宛　（しほんぼくしょとよとみひでよししゅいんじょう　こうらいこくちゅうあて）
○時　　代　安土桃山時代・天正20年(1592)
○品　　質　紙本墨書
○員　　数　1幅
○寸 法 等　本紙：縦43.5cm　横59.8cm　表具：縦122.0cm　横68.2cm　軸張74.2cm
○作品概要　竪紙。天正20年(1592)4月半ば、小西行長・宗義智の第一軍が釜山鎮を襲撃して、文禄・慶長の役の口火が切られ、5月初旬にはソウルを陥落した。本禁制は高麗国中に宛てられたもので、秀吉の軍勢による濫妨狼藉、放火、朝鮮人への非分を禁じている。島津家文書（国宝、東京大学史料編纂所所蔵）には、これに先立つ天正20年4月26日付けの禁制がのこされている。本状は、東アジアの対外関係に激震を与えた豊臣秀吉の朝鮮侵略に関わる史料である。

17　○名　　称　紙本墨書豊臣秀吉朱印状　蜂須賀阿波守宛　（しほんぼくしょとよとみひでよししゅいんじょう　はちすかあわのかみあて）
○時　　代　安土桃山時代・天正20年(1592)
○品　　質　紙本墨書
○員　　数　1幅
○寸 法 等　本紙：縦45.4cm　横66.1cm　表具：縦142.0cm　横70.3cm　軸張77.0cm
○作品概要　折紙。天正20年(1592)4月半ば、小西行長・宗義智の第一軍が釜山鎮を襲撃して、文禄・慶長の役の口火が切られ、5月初旬にはソウルが陥落した。本状の内容は、翌年3月に予定された秀吉の渡海に備えて、釜山からソウルまでの往還を確保し、城普請や兵糧確保につとめること。船を漕ぎ戻し、加子を休め兵糧を積みよこすこと、などを指示したもの。同日付けで同様の指示を記した朱印状が島津家など他の武将へも送られている。本紙の朱印から徳島藩に伝来したとことが分かる。

(2) 寄贈（1件）
＜金工＞（1件）

1　○名　　称　金銅阿弥陀不動毘沙門天像懸仏（こんどうあみだふどうびしゃもんてんぞうかけぼとけ）
○時　　代　室町時代・15世紀
○品　　質　銅板鍛造鍍金
○員　　数　1面
○寸 法 等　面径34.0cm
○作品概要　中央に結跏趺坐して定印を結んだ阿弥陀如来を、向かって左に不動明王、右に毘沙門天を配した金銅板貼付式の懸仏。不動明王と毘沙門天を脇侍とする三尊形式は、千手観音を中尊とした延暦寺宝幢院や、聖観音を中尊とする延暦寺横川中堂に始まり、天台系寺院で多く見られる構成である。全体的な構成としては南北朝時代・14世紀中頃から見られるものであるが、舟形光背の唐草の表現が甘くなっている点や、蓮池に見られる形式化、支柱と一体化している花瓶、獅噛座と管形鐶台の表現から、本品の製作は15世紀に入ってからのものと思われる。

(3) 編入（2件）
＜絵画＞（1件）

1　○名　　称　絹本著色　柳舜翼像模写　附彩色見本および下絵（けんぽんちゃくしょく　ゆすにくぞうもしゃ　つけたりさいしきみほんおよびしたえ）
○作 者 等　靖齋文化財保存研究所・大韓民国ソウル市
○時　　代　現代・21世紀　（原品：朝鮮時代　17世紀　京畿道博物館所蔵）
○品　　質　絹本著色
○員　　数　1幅（附：彩色見本3面・下絵4枚）
○寸 法 等　本紙：縦172.5cm 横94.8cm　表具:縦242.0cm　横108.9cm
附(彩色見本:各縦56.0cm　横48.2cm　厚2.0cm
下絵:①縦64.7cm　横46.3cm　②縦64.5cm　横45.7cm　③縦64.5cm　横45.5cm　④縦64.2cm　横45.6cm)
○作品概要　烏紗帽に雲紋緞黒団領を着用した全身椅像模写。柳舜翼(1559～1632)は朝鮮中期の文臣で、本貫は晋州。1623年に光海君から王位を簒奪した仁祖反正のとき、西宮に宿直していて反正軍の侵入を助け、宮殿の護衛を抑える任務を遂行し、その功により靖社功臣三等に叙された。この肖像模写は、平成21年度九州国立博物館トピック展示「巨大掛軸をめぐる文化交流」開催の際に、展示資料として韓国・靖齋文化財保存研究所に依頼して製作したもので、京畿道博物館が模写事業を行なった際の資料および原本の再調査に基づき描かれた。

＜考古＞（1 件）

2　○名　　称　彩画人馬鏡（さいがじんばきょう）
　　○指　　定　重要文化財
　　○時　　代　前漢時代
　　○品　　質　銅製鋳造
　　○員　　数　1 面
　　○寸 法 等　径 22.6cm
　　○作品概要　鋳造後に顔料等で図文を描いた装飾鏡を彩画鏡と呼んでいる。本鏡は面径 22.5cm、縁高 8mm、鈕高 9mm をはかる重圏彩画鏡で、赤・緑・青・白・黒の 5 色が遺存する。本鏡は、二重の匙面帯を巡らせた内区と、主文帯である外区から構成され、各々は乳で四分される。内区は乳間を虺龍文でうめる。主文帯は左向きの白衣青裙の人物群や樹木、白馬や人物等が認められるが、光学分析の結果、ほとんどが後補であり、当初から遺残する図文は内区文様や馬脚部や樹木などに過ぎない。彩画鏡は中国の戦国時代から漢代にかけて約 30 面余りが知られている。本鏡は洛陽金村出土と伝えるが、完形彩画鏡の全体像をうかがう好資料と考えられる。本品は、平成 23 年 4 月 1 日付けで東京国立博物館から無期管理換となったものである。

1-(1)-④ 寄託品一覧表

（単位：件）　平成24年3月31日現在

	国立博物館			東京国立博物館			京都国立博物館			奈良国立博物館			九州国立博物館		
	計	国宝	重文	計	国宝	重文	計	国宝	重文	計	国宝	重文	計	国宝	重文
合計	11,866	186	1,181	2,689	50	252	6,013	83	610	1,945	53	316	1,219	0	3
絵画	3,247	54	404	410	12	63	2,035	27	240	581	15	101	221	0	0
書跡	1,856	65	268	469	12	29	955	40	201	311	13	36	121	0	2
彫刻	767	11	205	138	1	40	253	1	62	352	9	103	24	0	0
建築	4	0	0	0	0	0	4	0	0	0	0	0	0	0	0
金工	1,032	12	87	170	4	18	531	1	38	240	7	31	91	0	0
刀剣	245	10	70	210	8	57				34	2	13	1	0	0
陶磁	1,332	1	6	139	0	2	797	1	3	11	0	0	385	0	1
漆工	753	10	53	136	3	16	464	4	15	104	3	22	49	0	0
染織	719	7	34	73	2	4	489	3	29	47	2	1	110	0	0
考古	920	12	34	157	4	12	448	6	13	230	2	9	85	0	0
民族資料	121	0	0	5	0	0	0	0	0	6	0	0	110	0	0
歴史資料	89	0	9	1	0	0	37	0	9	29	0	0	22	0	0
和書	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
その他	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
東洋 絵画	150	2	9	150	2	9									
東洋 書跡	25	1	0	25	1	0									
東洋 彫刻	11	0	0	11	0	0									
東洋 金工	1	0	1	1	0	1									
東洋 陶磁	74	1	0	74	1	0									
東洋 漆工	25	0	1	25	0	1									
東洋 染織	9	0	0	9	0	0									
東洋 考古	486	0	0	486	0	0									
東洋 民族	0	0	0	0	0	0									

＊京都国立博物館・奈良国立博物館・九州国立博物館は、東洋の寄託品も「日本」に含む。
＊東京国立博物館では、国宝・重要文化財の数は文化庁の指定件数に合わせることとした。

1-(1)-⑤ 寄託品増減表

（単位：件）　平成24年3月31日現在

	国立博物館				東京国立博物館				京都国立博物館				奈良国立博物館				九州国立博物館			
	22年度	23年度			22年度	23年度			22年度	23年度			22年度	23年度			22年度	23年度		
	計	新規	返却	計	計	新規	返却	計	計	新規	返却	計	計	新規	返却	計	計	新規	返却	計
合計	11,975	130	239	11,866	2,726	(＊1) 8	(＊1)45	2,689	6,005	93	85	6,013	1,947	12	14	1,945	1,297	17	95	1,219
絵画	3,225	67	45	3,247	412	5	(＊1) 7	410	2,018	50	33	2,035	579	3	1	581	216	9	4	221
書跡	1,859	13	16	1,856	480	0	11	469	952	7	4	955	306	5	0	311	121	1	1	121
彫刻	772	9	14	767	140	0	2	138	247	7	1	253	360	1	9	352	25	1	2	24
建築	4	0	0	4	0	0	0	0	4	0	0	4	0	0	0	0	0	0	0	0
金工	1,032	12	12	1,032	170	0	0	170	526	9	4	531	241	3	4	240	95	0	4	91
刀剣	260	0	15	245	225	0	15	210					34	0	0	34	1	0	0	1
陶磁	1,355	11	34	1,332	139	0	0	139	790	11	4	797	11	0	0	11	415	0	30	385
漆工	764	4	15	753	136	2	2	136	470	2	8	464	104	0	0	104	54	0	5	49
染織	763	4	48	719	73	0	0	73	514	3	28	489	47	0	0	47	129	1	20	110
考古	939	9	28	920	157	0	0	157	446	4	2	448	230	0	0	230	106	5	26	85
民族資料	121	0	0	121	5	0	0	5	0	0	0	0	6	0	0	6	110	0	0	110
歴史資料	93	0	4	89	1	0	0	1	38	0	1	37	29	0	0	29	25	0	3	22
和書	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
その他	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
東洋 絵画	149	1	0	150	149	(＊1) 1	0	150												
東洋 書跡	28	0	3	25	28	0	3	25												
東洋 彫刻	11	0	0	11	11	0	0	11												
東洋 金工	1	0	0	1	1	0	0	1												
東洋 陶磁	77	0	3	74	77	0	3	74												
東洋 漆工	26	0	1	25	26	0	1	25												
東洋 染織	9	0	0	9	9	0	0	9												
東洋 考古	487	0	1	486	487	0	1	486												
東洋 民族	0	0	0	0	0	0	0	0												

＊東京国立博物館は、列品管理規程による「旧東洋課所掌分」あり。
＊1東京国立博物館の23年度新規寄託品件数は7件、返却44件であるが、23年度に絵画から東洋絵画への移管が１件あり、これについては寄託品全体の統計との整合性をとるため統計上は絵画返却1件、東洋絵画新規1件として取り扱い、増減表では新規8件、返却45件と記載している。

1-(1)-⑥ 登録美術品一覧表

平成24年3月31日現在

	国立博物館			東京国立博物館			京都国立博物館			奈良国立博物館			九州国立博物館		
	計	国宝	重文	計	国宝	重文	計	国宝	重文	計	国宝	重文	計	国宝	重文
合計	7	0	4	3	0	3	3	0	0	1	0	1	0	0	0
絵画	2	0	2	2	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0
書跡	2	0	1	1	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0
彫刻	1	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0
染織	1	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0
金工	1	0	1	0	0	0	0	0	0	1	0	1	0	0	0

1-(2) 収蔵品の管理・保存

1-(2)-① 保存カルテ作成件数

【東京国立博物館】

合計		1,187		
計		列品貸与時	本格修理調査時	応急修理時
		608	86	493
絵画		116	2	302
書跡		19	2	35
彫刻		27	0	2
建築		0	0	0
金工		7	0	0
刀剣		35	4	17
陶磁		17	4	0
漆工		15	2	0
染織		53	2	3
考古		75	30	2
歴史資料		14	0	8
民族資料		0	0	0
和書		18	0	9
東洋	絵画	30	4	11
	書跡	7	2	4
	彫刻	6	0	0
	金工	1	0	0
	陶磁	128	2	0
	漆工	12	2	0
	染織	3	0	5
	考古	22	0	1
	民族	0	0	0
法隆寺献納宝物		2	30	2
その他（黒田含）		1	0	92

【京都国立博物館・奈良国立博物館・九州国立博物館】

計	京都国立博物館	奈良国立博物館	九州国立博物館
	249	130	107
絵画	90	49	5
書跡	24	8	1
彫刻	5	18	0
建築	0	0	0
金工	} 9	12	0
刀剣		0	0
陶磁	15	0	0
漆工	7	7	3
染織	81	8	16
考古	18	28	1
民族資料	0	0	0
歴史資料	0	0	7
和書	0	0	0
その他	0	0	74

1-(2)-② 各収蔵庫、展示場の温湿度

【東京国立博物館】

会場等		空調実施時間	温度			湿度（年間）
			冬	夏	中	
本館	展覧会場	09：00～17：00	16～25℃	22～29℃	19～28℃	15～85%
	収蔵庫	09：30～17：00	15～23℃	24～29℃	23～25℃	46～63%
平成館	展覧会場	09：00～17：00	23～24℃	24～27℃	23～25℃	45～60%
	収蔵庫	09：30～17：00 ※4:00～8:00、20:00～24：00	22～24℃	26～27℃	23～25℃	45～60%
東洋館	展覧会場	閉室中	閉室中	閉室中	閉室中	閉室中
	収蔵庫	09：30～17：00 （一部運用開始）	19～21℃	閉室中	閉室中	53～58%
宝物館	展覧会場	24時間運転	22～23℃	24～25℃	22～25℃	54～57%
	収蔵庫	24時間運転	22～23℃	22～23℃	22～23℃	52～57%
表慶館	展覧会場	09：00～17：00	9～22℃	22～27℃	14～27℃	25～80%
	（仮）収蔵庫	09：00～17：00	9～22℃	22～28℃	17～25℃	40～70%
黒田記念館	展覧会場	24時間運転	23～24℃	23～24℃	23～24℃	50～60%
	収蔵庫	24時間運転	23～24℃	23～24℃	23～24℃	50～60%

※電力使用制限期間（23年7月1日～9月9日）

【京都国立博物館】

会場等		空調実施時間	温度（年間）	湿度（年間）
特別展示館	展覧会場	09：00～18：00	18～25℃	57～60%
	収蔵庫	09：00～17：30	18～22℃	55～60%
平常展示館	展覧会場	——	——	——
	収蔵庫	——	——	——
北収蔵庫		——	——	——
東収蔵庫		09：00～17：30	18～22℃	55～60%
文化財保存修理所		09：00～17：30	22～24℃	57～60%

【奈良国立博物館】

会場等		空調実施時間	温度（年間）		湿度（年間）
			冬	夏	
本館	展覧会場	24時間運転	20±2℃	24±2℃	60±5%
西新館	展覧会場	24時間運転	20±2℃	24±2℃	60±5%
東新館	展覧会場	24時間運転	20±2℃	24±2℃	60±5%
	収蔵庫	24時間運転	20±1℃	22±1℃	60±2%
地下回廊	収蔵庫	24時間運転	20±1℃	22±1℃	60±2%

【九州国立博物館】

会場等	空調実施時間	温度（年間）	湿度（年間）
3階展覧会場	7:00～21:00	22～26℃	55±5%
4階展覧会場	7:00～21:00	22～26℃	55±5%
収蔵庫	8:30～21:30	22～24℃	材質別に50±2%、55±2%、60±2%

1-(3) 収蔵品の修理

1-(3)-① 本格修理件数

平成24年3月31日現在

		計	東京国立博物館	京都国立博物館	奈良国立博物館	九州国立博物館
合　計		146	106 (15) [1]	10	11	19
絵　画		15	6	1	3	5
書　跡		12	5 [1]	4	2	1
彫　刻		2	0	1	1	0
建　築		0	0	0	0	0
金　工		2	2	0	0	0
刀　剣		4	4	0	0	0
陶　磁		2	2	0	0	0
漆　工		7	2	2	0	3
染　織		40	39	1	0	0
考　古		35	26 (15)	1	5	3
歴史資料		7	0	0	0	7
和　書		2	2	0	0	0
民族資料		0	0	0	0	0
東洋	絵　画	4	4			
	書　跡	4	4			
	彫　刻	3	3			
	金　工	0	0			
	陶　磁	1	1			
	漆　工	3	3			
	染　織	0	0			
	考　古	2	2			
	民　族	0	0			
法隆寺献納宝物		0	0			
黒田記念館収蔵品		0	0			
館史資料(収蔵品外)		1	1			

※東京国立博物館(　)内は考古相互貸借経費、[　]内は九州国立博物館経費で、内数。

1-(3)-② 修理概況

【東京国立博物館】（106件）

〈絵画〉（6件）

1　○列品番号　A-5
○名　　称　阿弥陀如来像(あみだにょらいぞう)
○時　　代　鎌倉
○年代世紀　14c
○品　　質　絹本着色
○員　　数　1幅
○寸 法 等　128.0×54.4cm
○施工会社　(株)岡墨光堂
○修理内容　1.解体する。 2.クリーニングする。 3.裏打ちなど補強を施す。 4.補彩する。 5.表装裂、軸首を新調し、掛幅装に仕立てる。 6.桐製保存箱、桐製太巻添軸、包裂、布貼帙などを新調する。(平成23年度は3まで)

2　○列品番号　A-1155
○名　　称　扇面雑画(せんめんざつが)
○時　　代　江戸
○年代世紀　19c
○品　　質　紙本着色・紙本墨画
○員　　数　5面(60面のうち)
○寸 法 等　(上弦/下弦/高)(cm)No.2「桜」49.8/20.2/19.7、No.3「桃」49.8/20.2/19.8、No.5「早蕨」50.1/20.1/19.7、No.7「菜の花に蝶」50.9/21.1/20.0、No.10「鉄線」49.9/19.5/19.8
○施工会社　(株)半田九清堂
○修理内容　1.台紙を剥がし、本紙を分離する。 2.剥落止めを行う。 3.中性紙マットを製作し、ヒンジで本紙をマットに留め付ける。 4.新調した収納箱に収納する。(平成23年度は3から)

3　○列品番号　A-1155
○名　　称　扇面雑画(せんめんざつが)
○時　　代　江戸
○年代世紀　19c
○品　　質　紙本着色・紙本墨画
○員　　数　5面(60面のうち)
○寸 法 等　(上弦/下弦/高)(cm)No.12「沢潟」49.7/19.8/19.6、No.14「布袋葵」50.0/20.1/19.7 、No.15「枇杷」50.1/19.9/ 19.7、No.16「蘭」50.3/20.1/19.3 、No.17「酸漿」50.4/19.9/20.0
○施工会社　(株)半田九清堂
○修理内容　1.台紙を剥がし、本紙を分離する。 2.剥落止めを行う。 3.中性紙マットを製作し、ヒンジで本紙をマットに留め付ける。 4.新調した収納箱に収納する。(平成23年度は2まで)

4　○列品番号　未決
○名　　称　応挙館障壁画(松に岩図)(おうきょかんしょうへきが・まつにいわず)
○時　　代　江戸
○年代世紀　天明4年(1784)
○品　　質　紙本墨画
○員　　数　1面(54面のうち)
○寸 法 等　各90.0×180.0cm
○施工会社　(株)半田九清堂
○修理内容　1.肌裏紙以外の旧裏打紙を除去する。 2.洗浄する。 3.剥落止めを施す。 4.本紙に表打ちを施して保護し、肌裏紙を除去する。 5.裏打ちを行い、欠損部に補彩する。 6.下地を新調し、本紙・裏張り紙を張り込み、展示用椽木を新調して取り付ける。(平成23年度は3から)

5　○列品番号　A-10447
○名　　称　宇治橋図屏風（柳橋水車図屏風）（うじばしずびょうぶ・りゅうきょうすいしゃずびょうぶ）
○指　　定　重要美術品
○指定年月　昭和23年(1948)4月27日
○時　　代　安土桃山～江戸
○年代世紀　16～17c
○品　　質　紙本金地着色
○員　　数　6曲1双
○寸 法 等　各154.9×326.7cm
○施工会社　アソシエイトフェロー、国宝修理装こう師連盟
○修理内容　1.修理前の状態を調査し、記録する。 2.屏風装を解体し、本紙を下地から取り外す。解体の前後に剥落止めを施す。 3.部分表打ちを施して画面を保護し、旧裏打紙と旧補紙を除去する。 4.補紙を施し、肌裏打ち、増裏打ちを行う。 5.仮張りをし、補紙に補彩を施す。 6.骨下地を新調し、下張りを施し、蝶番を付ける。本紙を仮張りから外し、新調した下地に貼り込み、裏面には裏張紙を張り込む。 7.新調した表装裂、尾背紙、縁木、金具を取り付け、屏風装に仕立てる。 8.旧裏打紙、旧下地、旧金具などのための保存箱を作成する。(平成23年度は4から)

6　○列品番号　A-1459
○名　　称　花車図屏風(はなぐるまずびょうぶ)
○時　　代　江戸
○年代世紀　17c
○品　　質　紙本金地着色
○員　　数　6曲1双
○寸 法 等　各154.5×364.2cm
○施工会社　アソシエイトフェロー
○修理内容　1.修理前の状態を調査し、記録する。 2.屏風装を解体し、本紙を下地から取り外す。解体の前後に剥落止めを施す。 3.ろ過水を表面から噴霧し、下に敷いた吸い取り紙に汚れを吸収させる。 4.表打ちを施して画面を保護し、旧裏打紙と旧補紙を除去する。 5.補紙を施し、肌裏打ち、増裏打ちを行う。 6.仮張りをし、補紙に補彩を施す。7.骨下地を新調し、下張りを施し、蝶番を付ける。本紙を仮張りから外し、新調した下地に貼り込み、裏面には裏張紙を張り込む。 8.新調した表装裂、尾背紙、縁木、金具を取り付け、屏風装に仕立てる。 9.旧裏打紙、旧下地、旧金具などのための保存箱を作成する。(平成23年度は2まで)

〈東洋絵画〉(4件)

7　○列品番号　TA-140
○名　　称　寒江独釣図(かんこうどくちょうず)
○指　　定　重文
○指定年月　昭和6年(1931)1月19日　絵第39号
○時　　代　南宋
○年代世紀　13c
○品　　質　絹本墨画淡彩
○員　　数　1幅
○寸 法 等　本紙 縦26.7 横50.6cm
○施工会社　(株)桂文化財修理工房
○修理内容　1.解体する。 2.裏打ちなど補強を施す。 3.表装裂、軸首を再使用し、掛幅装に仕立てる。 4.桐製保存箱、桐製太巻添軸、包裂、布貼帙等を新調する。(平成23年度は1まで)

8　○列品番号　TA-143
○名　　称　六祖截竹図(りくそせっちくず)
○指　　定　重文
○指定年月　昭和24年(1949)2月18日　絵第69号
○時　　代　南宋
○年代世紀　13c
○品　　質　紙本墨画
○員　　数　1幅
○寸 法 等　本紙 縦72.7　横31.5cm
○施工会社　(株)半田九清堂
○修理内容　1.解体する。 2.裏打ち等補強を施す。 3.表装裂、軸首を再使用し、掛幅装に仕立てる。 4.桐製保存箱、桐製太巻添軸、包裂、布貼帙等を新調する。(平成23年度は1まで)

9　○列品番号　TA-535
○名　　称　驢図(ろず)
○時　　代　中華民国
○年代世紀　20c
○品　　質　紙本着色
○員　　数　1幅
○寸 法 等　126.7×73.8cm
○施工会社　(株)岡墨光堂
○修理内容　1.解体する。 2.クリーニングする。 3.裏打ちなど補強を施す。 4.補彩する。 5.表装裂、軸首を新調し、掛幅装に仕立てる。 6.桐製保存箱、桐製太巻添軸、包裂、布貼帙などを新調する。(平成23年度は4から)

10　○列品番号　TA-363
○名　　称　五龍図巻(ごりゅうずかん)
○指　　定　重文
○指定年月　昭和39年(1964)1月28日　絵第1567号
○時　　代　南宋
○年代世紀　13c
○品　　質　紙本墨画淡彩
○員　　数　1巻
○寸 法 等　本紙 縦45.2 横299.5cm
○施工会社　(株)岡墨光堂
○修理内容　1.解体する。 2.裏打ち等補強を施す。 3.表装裂等を新調し、巻子装に仕立てる。 4.桐製保存箱、桐製太巻添軸、包裂等を新調する。 (平成23年度は1まで)

〈書跡〉(5件)

11　○列品番号　B-1648
○名　　称　大毘盧遮那成佛神變加持經疏玄記 巻1(だいびるしゃなじょうぶつしんぺんかじきょうしょげんき)
○時　　代　鎌倉
○年代世紀　13c
○品　　質　紙本墨書
○員　　数　1帖
○寸 法 等　25.3×16.2cm
○施工会社　清申堂
○修理内容　1.朱字に剥落止めを施す。 2.折本装を解体する。 3.本紙を洗浄する。 4.虫損箇所に補紙を施す。 5.表紙を再利用し、元の折本装に仕立てる。(平成23年度は4から)

12　○列品番号　B-1986
○名　　称　額字(がくじ)
○時　　代　江戸
○年代世紀　19c
○品　　質　紙本墨書
○員　　数　2巻
○寸 法 等　31.6×869.9、32.1×951.0cm
○施工会社　国宝修理装こう師連盟九州支部
○修理内容　1.巻子装を解体する。 2.補修紙を製作する。 3.欠失箇所に補紙を施す。 4.表装裂、軸首などを新調し、巻子装に仕立てる。 5.包裂、桐製保存箱などを新調する。(平成23年度は3の途中から)

13　○列品番号　B-3161
○名　　称　偈頌(げじゅ)
○時　　代　江戸
○年代世紀　寛永20年(1643)
○品　　質　紙本墨書
○員　　数　1幅
○寸 法 等　33.2×51.9cm
○施工会社　(株)坂田墨珠堂

○修理内容　1.軸装を解体する。　2.クリーニングする。　3.裏打ちなど補強を施す。　4.表装裂などを新調し、掛幅装に仕立てる。　5.桐製保存箱、桐製太巻添軸、包裂などを新調する。(平成23年度は3の途中から)

14　○列品番号　B-2539
○名　　称　千利休書状(せんのりきゅうしょじょう)
○時　　代　安土桃山
○年代世紀　16c
○品　　質　紙本墨書
○員　　数　1幅
○寸 法 等　本紙　縦29.5　横40.2cm
○施工会社　アソシエイトフェロー
○修理内容　1.本紙を外す。　2.裏打ち紙を除去する。　3.ろ過水で湿りを与え、クリーニングを行う。　4.画面を養生し、肌裏紙を除去する。　5.欠失箇所に補紙を施す。　6.新たに裏打ちを行う。　7.表装裂、軸首などを新調し、掛幅装に仕立てる。　8.桐製太巻添軸、包裂、桐製保存箱などを新調する。

15　○列品番号　B-3238
○名　　称　和歌懐紙(わかかいし)
○時　　代　室町
○年代世紀　15c
○品　　質　紙本墨書
○員　　数　1幅
○寸 法 等　本紙 縦31.5 横42.5cm
○施工会社　(株)桂文化財修理工房
○修理内容　1.軸装を解体する。　2.裏打ち等補強を施す。　3.表装裂等を新調し、掛幅装に仕立てる。　4.桐製保存箱、桐製太巻添軸、包裂等を新調する。(平成23年度は1まで)

〈東洋書跡〉(4件)

16　○列品番号　TB-1173
○名　　称　与無相居士尺牘(むそうこじにあたうせきとく)
○指　　定　国宝
○指定年月　昭和25年(1950)8月25日　書第2号
○時　　代　南宋時代
○年代世紀　12c
○品　　質　紙本墨書
○員　　数　1幅
○寸 法 等　縦37.9 横65.5cm
○施工会社　(株)松鶴堂
○修理内容　1.解体する。　2.裏打ち等補強を施す。　3.表装裂、軸首を再使用し、掛幅装に仕立てる。　4.桐製保存箱、桐製太巻添軸、包裂、布貼帙等を新調する。(平成23年度は1まで)

17　○列品番号　TB-1179
○名　　称　偈頌(げじゅ)
○指　　定　重文
○指定年月　昭和31年(1956)6月28日　書第1757号
○時　　代　南宋
○年代世紀　紹定2年(1229)
○品　　質　紙本墨書
○員　　数　1幅
○寸 法 等　縦31.8 横80.9cm
○施工会社　(株)半田九清堂
○修理内容　1.解体する。　2.裏打ち等補強を施す。　3.表装裂、軸首を再使用し、掛幅装に仕立てる。　4.桐製保存箱、桐製太巻添軸、包裂、布貼帙等を新調する。(平成23年度は1まで)

18　○列品番号　TB-1198
○名　　称　跋語(ばつご)
○指　　定　重文
○指定年月　昭和25年(1950)8月25日　書第290号
○時　　代　南宋
○年代世紀　淳祐7年(1247)
○品　　質　紙本墨書
○員　　数　1幅
○寸 法 等　縦38.3　横47.3cm
○施工会社　(株)桂文化財修理工房
○修理内容　1.解体する。　2.裏打ち等補強を施す。　3.表装裂、軸首を再使用し、掛幅装に仕立てる。　4.桐製保存箱、桐製太巻添軸、包裂、布貼帙等を新調する。(平成23年度は1まで)

19　○列品番号　TB-1546
○名　　称　楷書七言聯(かいしょしちごんれん)
○時　　代　清～民国
○年代世紀　20c
○品　　質　蝋箋墨書
○員　　数　2幅
○寸 法 等　各137.7×27.3cm
○施工会社　(株)文化財保存
○修理内容　1.軸装を解体する。　2.クリーニングする。　3.裏打ちなど補強を施す。　4.表装裂地を新調し、掛幅装に仕立てる。　5.桐製保存箱、桐製太巻添軸、包裂、布貼帙などを新調する。(平成23年度は3から)

〈東洋彫刻〉(3件)

20　○列品番号　TC-382
○名　　称　ヴィシュヌ立像 (ヴィシュヌりゅうぞう)
○時　　代　アンコール
○年代世紀　12c

○品　　質　砂石彩色
○員　　数　1 躯(11 片)
○寸 法 等　総高 125 ㎝
○施工会社　文化財修復工房明舎
○修理内容　1.心棒の抜き取り。　2.埃の洗浄。　3.分解部分の再接合。　4.充填及び補彩。　5.安定台の製作。(平成 23 年度は 3 から)

21 ○列品番号　TC-407
○名　　称　観音立像（かんのんりゅうぞう）カンボジア、シュムリアップ、アンコール・トム死者の門
○時　　代　アンコール
○年代世紀　13c
○品　　質　砂岩
○員　　数　1 躯
○寸 法 等　高 146.1㎝
○施工会社　文化財修復工房明舎
○修理内容　1.頭部を取り外す。　2.セメントを除去する。　3.再接合する。　4.亀裂を補修する。　5.浮き上がり部分を接合する。　6.安定台を作製する。　(平成 23 年度は 2 まで)

22 ○列品番号　TC-471
○名　　称　供養者頭部(くようしゃとうぶ)
○年代世紀　7～8c
○品　　質　塑造、彩色
○員　　数　1 個
○寸 法 等　面長 10㎝
○施工会社　独立行政法人国立文化財機構奈良文化財研究所
○修理内容　1.　事前調査(X 線 CT スキャナーなど)を行う。　2.表面を養生して、展示台から分離する。　3.表面の養生を除去した後、最小限のクリーニングを行う。　4.彩色層の剥落止めを行う。　5.塑土の崩落が進行する部分に新たな塑土を充填する。　6.展示台及び保存箱を作製する。　(平成 23 年度は 2 から)

〈金工〉(2 件)

23 ○列品番号　E-14413
○名　　称　青白磁合子(せいはくじごうす)
○時　　代　鎌倉
○年代世紀　建久 7 年(1196)
○品　　質　磁製
○員　　数　1 合
○寸 法 等　蓋高 1.5、口径 8　身高 1.7、口径 8 ㎝
○施工会社　繭山隆司
○修理内容　1.解体する。　2.接着剤や汚れをクリーニングする。　3.エポキシ系樹脂で接合する。　4.エポキシ系樹脂や各種粘土粉末により補填･復元する。　5.アクリル系樹脂を媒剤とした各種粘土粉末や顔料で補彩する。(平成 23 年度は 3 から)

24 ○列品番号　E-15012
○名　　称　青白磁合子(せいはくじごうす)
○時　　代　平安
○年代世紀　12c
○品　　質　磁製
○員　　数　1 合
○寸 法 等　蓋高 1.5、口径 9.5　身高 1.7、口径 9.5 ㎝
○施工会社　繭山隆司
○修理内容　1.解体する。　2.接着剤や汚れをクリーニングする。　3.エポキシ系樹脂で接合する。　4.エポキシ系樹脂や各種粘土粉末により補填･復元する。　5.アクリル系樹脂を媒剤とした各種粘土粉末や顔料で補彩する。　(平成 23 年度は 3 から)

〈刀剣〉(4 件)

25 ○列品番号　F-260
○名　　称　太刀 銘・大和国住藤原政長作（たち　めい・やまとのくににすまうふじわらまさながさく）
○時　　代　室町
○年代世紀　永正 3 年(1506)
○品　　質　鉄製
○員　　数　1 口
○寸 法 等　刃長 75.0、反り 2.5㎝
○施工会社　小野　博
○修理内容　1.全身を研磨する。　2.白鞘を新調する。(平成 23 年度は 1 の途中まで)

26 ○列品番号　F-20159
○名　　称　脇指 銘・南部住金房兵衛尉政次(わきざし　めい・なんぶにすまうかなぼうひょうえのじょうまさつぐ)
○時　　代　安土桃山
○年代世紀　天正 18 年(1590)
○品　　質　鉄製
○員　　数　1 口
○寸 法 等　刃長 43.1、反 1.0㎝
○施工会社　本阿彌道弘
○修理内容　1.全身を研磨する。　2.白鞘を新調する。　(平成 23 年度は 1 の途中まで)

27 ○列品番号　F-20166
○指　　定　重文
○指定年月　昭和 16 年(1941)7 月 3 日(工芸第 1383 号)
○名　　称　太刀　銘・正恒(たち　めい・まさつね)
○時　　代　鎌倉
○年代世紀　13c
○品　　質　鍛鉄製
○員　　数　1 口
○寸 法 等　刃長 69.9、反り 2.0 ㎝
○施工会社　本阿彌道弘

○修理内容　1.全身を研磨する。　2.白鞘を新調する。金着太刀鎺の作製。(平成23年度は1の途中から)

28　○列品番号　F-20200
○指　　定　重美
○指定年月　昭和12年(1937)5月27日
○名　　称　太刀　銘・備州長船住景光(たち　めい・びしゅうおさふねかげみつ)
○時　　代　鎌倉
○年代世紀　延慶2年(1309)
○品　　質　鍛鉄製
○員　　数　1口
○寸 法 等　刃長73.0、反り2.1㎝
○施工会社　小野　博
○修理内容　1.全身を研磨する。　2.白鞘を新調する。金着太刀鎺の作製。(平成23年度は1の途中から)

〈陶磁〉(2件)

29　○列品番号　G-1077
○名　　称　色絵七宝文盃洗(いろえしっぽうもんはいせん)　永楽和全 (1823～96) 作
○時　　代　江戸～明治
○年代世紀　19c
○品　　質　陶製
○員　　数　1口
○寸 法 等　高11.0 口径14.8 底径6.0㎝
○施工会社　繭山隆司
○修理内容　1.全体をクリーニングする。　2.欠損部分を元に戻す。　3.ひび部分を補強する。(平成23年度は1まで)

30　○列品番号　G-5293
○指　　定　重文
○指定年月　平成2年(1990)6月29日　工第2536号
○名　　称　染付龍濤文提重(そめつけりゅうとうもんさげじゅう)　青木木米 (1767～1833) 作
○時　　代　江戸
○年代世紀　19c
○品　　質　磁製
○員　　数　1具
○寸 法 等　提(高23.0 径23.0×22.5) 箱(高14.0 径16.3×16.0) ㎝
○施工会社　ますぶち工房
○修理内容　1.旧修理部分を取り除き、クリーニングする。　2.オーバーペイントを除去した後、最小限の補填・補彩をする。(平成23年度は1まで)

〈東洋陶磁〉(1件)

31　○列品番号　TG-938
○名　　称　緑彩龍文瓶(りょくさいりゅうもんへい)　景徳鎮窯
○時　　代　明
○年代世紀　万暦年間(1573～1620年)
○品　　質　磁製
○員　　数　1口
○寸 法 等　高21.6 口径14.3 底径10.8㎝
○施工会社　ますぶち工房
○修理内容　1.全体をクリーニングする。　2.旧修理のオーバーペイントを除去する。　3.欠失部分へ状況に応じて補填する。　4.補填部分へ補彩する。(平成23年度は2の途中まで)

〈漆工〉(2件)

32　○列品番号　H-4496
○名　　称　檜垣枝菊蒔絵沈箱(ひがきえだきくまきえじんばこ)
○時　　代　安土桃山～江戸
○年代世紀　17c
○品　　質　木製漆塗
○員　　数　1合
○寸 法 等　縦10.1 横8.8 高7.2㎝
○施工会社　北村　繁
○修理内容　1.クリーニングする。　2.塗膜を強化する。　3.欠失部分を補填する。　4.周囲と色あわせを行なう。(平成23年度は1まで)

33　○列品番号　H-4510
○名　　称　吉野山蒔絵棚(よしのやまま きえだな)
○時　　代　江戸
○年代世紀　19c
○品　　質　木製漆塗
○員　　数　1基
○寸 法 等　幅88.4　奥行39.4　高81.6㎝
○施工会社　(株)小西美術工藝社
○修理内容　1.クリーニングする。　2.梨子地部分を保護しながら、漆塗膜を強化する。　3.漆塗膜の亀裂や剥離箇所の安定をはかる。　4.旧修理の塗料を除去し、色合わせをおこなう。(平成23年度は1まで)

〈東洋漆工〉(3件)

34　○列品番号　TH-18
○名　　称　広寒宮螺鈿合子(こうかんきゅうらでんごうす)
○時　　代　元
○年代世紀　14c
○品　　質　木製漆塗
○寸 法 等　径32.5　高10.4㎝
○員　　数　1合
○施工会社　(株)目白漆芸文化財研究所

○修理内容　1.全体をクリーニングする。　2.塗膜を強化する。　3.欠失部分を補填する。　4.周囲と色あわせを行う。(平成23年度は1まで)

35　○列品番号　TH-441
○名　　称　朱漆十二角脚付膳(しゅうるしじゅうにかくきゃくつきぜん)
○時　　代　朝鮮
○年代世紀　19～20c
○品　　質　木製漆塗
○寸 法 等　盤径39.9　底径40.3　高25.8cm
○員　　数　1基
○施工会社　(株)小西美術工藝社
○修理内容　1.クリーニングする。　2.塗膜を強化する。　3.欠失部分を補填する。　4.周囲と色あわせを行う。　5.金具の錆を除去し、安定化させる。(平成23年度は1まで)

36　○列品番号　TH-442
○名　　称　朱漆十二角脚付膳(しゅうるしじゅうにかくきゃくつきぜん)
○時　　代　朝鮮
○年代世紀　19-20c
○品　　質　木製漆塗
○員　　数　1脚
○寸 法 等　高25.9、径40.2cm
○施工会社　(株)小西美術工藝社
○修理内容　1.クリーニングする。　2.ひび、割れを漆で接着する。　3.欠失部分を補填する。　4.旧修理の塗料は取り除き、色あわせをする。(平成23年度は3から)

〈染織〉(39件)

37　○列品番号　I-336-5
○名　　称　緑地目結文縮緬平絹(みどりじめゆいもんこうけちへいけん)
○時　　代　奈良
○年代世紀　8c
○品　　質　絹製、縮緬・平絹
○員　　数　4枚
○寸 法 等　①7.1×5.2、②5.0×23.2、③3.3×18.4、④7.5×3.2cm
○施工会社　澤田むつ代、アソシエイトフェロー
○修理内容　1.ガラスを外して裂を取り出す。　2.汚れ等を除去する。　3.糸目を揃えながら文様を合わせて形を整える。　4.新糊を用いて和紙で裏打ちする。　5.マット装に仕立てる。

38　○列品番号　I-336-6
○名　　称　淡緑地目結文縮緬平絹　(うすみどりじめゆいもんこうけちへいけん)
○時　　代　奈良
○年代世紀　8c
○品　　質　絹製、縮緬・平絹
○員　　数　1枚
○寸 法 等　27.3×7.4cm
○施工会社　澤田むつ代、アソシエイトフェロー
○修理内容　1.ガラスを外して裂を取り出す。　2.汚れ等を除去する。　3.糸目を揃えながら文様を合わせて形を整える。　4.新糊を用いて和紙で裏打ちする。　5.マット装に仕立てる。

39　○列品番号　I-336-7
○名　　称　青地二重目結文縮緬平絹　(あおじにじゅうめゆいもんこうけちへいけん)
○時　　代　奈良
○年代世紀　8c
○品　　質　絹製、縮緬・平絹
○員　　数　1枚
○寸 法 等　12.6×14.2cm
○施工会社　澤田むつ代、アソシエイトフェロー
○修理内容　1.ガラスを外して裂を取り出す。　2.汚れ等を除去する。　3.糸目を揃えながら文様を合わせて形を整える。　4.新糊を用いて和紙で裏打ちする。　5.マット装に仕立てる。

40　○列品番号　I-336-8
○名　　称　紺地格子襷文縮緬平絹　(こんじこうしたすきもんこうけちへいけん)
○時　　代　奈良
○年代世紀　8c
○品　　質　絹製、縮緬・平絹
○員　　数　3枚
○寸 法 等　①6.0×4.5、②5.7×4.7、③6.0×4.2cm
○施工会社　澤田むつ代、アソシエイトフェロー
○修理内容　1.ガラスを外して裂を取り出す。　2.汚れ等を除去する。　3.糸目を揃えながら文様を合わせて形を整える。　4.新糊を用いて和紙で裏打ちする。5.マット装に仕立てる。

41　○列品番号　I-336-9
○名　　称　緑地縮緬平絹　(みどりじこうけちへいけん)
○時　　代　奈良
○年代世紀　8c
○品　　質　絹製、縮緬・平絹
○員　　数　1枚
○寸 法 等　24.6×3.7 cm
○施工会社　澤田むつ代、アソシエイトフェロー
○修理内容　1.ガラスを外して裂を取り出す。　2.汚れ等を除去する。　3.糸目を揃えながら文様を合わせて形を整える。　4.新糊を用いて和紙で裏打ちする。　5.マット装に仕立てる。

42　○列品番号　I-336-12
○名　　称　茶地草花文描絵縮緬平絹　(ちゃじそうかもんかきえこうけちへいけん)

○時　　代　奈良
○年代世紀　8c
○品　　質　絹製、縫纐纈、描絵・平絹
○員　　数　1 枚
○寸 法 等　13.6×5.3 cm
○施工会社　澤田むつ代、アソシエイトフェロー
○修理内容　1.ガラスを外して裂を取り出す。 2.汚れ等を除去する。 3.糸目を揃えながら文様を合わせて形を整える。 4.新糊を用いて和紙で裏打ちする。 5.マット装に仕立てる。

43 ○列品番号　I-336-13
○名　　称　淡茶地目結文縫纐纈平絹（うすちゃじめゆいもんこうけちへいけん）
○時　　代　奈良
○年代世紀　8c
○品　　質　絹製、縫纐纈・平絹
○員　　数　1 枚
○寸 法 等　18.0×9.6 cm
○施工会社　澤田むつ代、アソシエイトフェロー
○修理内容　1.ガラスを外して裂を取り出す。 2.汚れ等を除去する。 3.糸目を揃えながら文様を合わせて形を整える。 4. 新糊を用いて和紙で裏打ちする。 5.マット装に仕立てる。

44 ○列品番号　I-336-14
○名　　称　黄緑地目結文縫纐纈平絹天蓋垂飾（きみどりじめゆいもんこうけちへいけんてんがいすいしょく）
○時　　代　奈良
○年代世紀　8c
○品　　質　絹製、縫纐纈・平絹
○員　　数　1 枚
○寸 法 等　15.6×12.6 cm
○施工会社　澤田むつ代、アソシエイトフェロー
○修理内容　1.ガラスを外して裂を取り出す。 2.汚れ等を除去する。 3.糸目を揃えながら文様を合わせて形を整える。 4.新糊を用いて和紙で裏打ちする。 5.マット装に仕立てる。

45 ○列品番号　I-336-15
○名　　称　紺地目結文縫纐綾（こんじめゆいもんこうけちあや）
○時　　代　奈良
○年代世紀　8c
○品　　質　絹製、縫纐纈・綾
○員　　数　1 枚
○寸 法 等　10.8×9.6 cm
○施工会社　澤田むつ代、アソシエイトフェロー
○修理内容　1.ガラスを外して裂を取り出す。 2.汚れ等を除去する。 3.糸目を揃えながら文様を合わせて形を整える。 4.新糊を用いて和紙で裏打ちする。 5.マット装に仕立てる。

46 ○列品番号　I-336-16
○名　　称　緑地目結文縫纐纈平絹（みどりじめゆいもんこうけちへいけん）
○時　　代　奈良
○年代世紀　8c
○品　　質　絹製、縫纐纈・平絹
○員　　数　1 枚
○寸 法 等　15.4×10.2 cm
○施工会社　澤田むつ代、アソシエイトフェロー
○修理内容　1.ガラスを外して裂を取り出す。 2.汚れ等を除去する。 3.糸目を揃えながら文様を合わせて形を整える。 4.新糊を用いて和紙で裏打ちする。 5.マット装に仕立てる。

47 ○列品番号　I-336-17
○名　　称　淡黄緑地目結文縫纐綾 （うすきみどりじめゆいもんこうけちあや）
○時　　代　奈良
○年代世紀　8c
○品　　質　絹製、縫纐纈・綾
○員　　数　1 枚
○寸 法 等　16.4×15.0 cm
○施工会社　澤田むつ代、アソシエイトフェロー
○修理内容　1.ガラスを外して裂を取り出す。 2.汚れ等を除去する。 3.糸目を揃えながら文様を合わせて形を整える。 4.新糊を用いて和紙で裏打ちする。 5.マット装に仕立てる。

48 ○列品番号　I-336-24
○名　　称　赤地小菱文綾 （あかじしょうひしもんあや）
○時　　代　飛鳥-奈良
○年代世紀　7～8c
○品　　質　絹製、綾
○員　　数　1 枚
○寸 法 等　14.3×12.6cm
○施工会社　澤田むつ代、アソシエイトフェロー
○修理内容　1.ガラスを外して裂を取り出す。 2.汚れ等を除去する。 3.糸目を揃えながら文様を合わせて形を整える。 4.新糊を用いて和紙で裏打ちする。5.マット装に仕立てる。

49 ○列品番号　I-336-25
○名　　称　黄緑地山形文綾幡足 （きみどりじやまがたもんあやばんそく）
○時　　代　飛鳥-奈良
○年代世紀　7～8c
○品　　質　絹製、綾
○員　　数　1 枚

○寸 法 等　29.7×15.4 cm
○施工会社　澤田むつ代、アソシエイトフェロー
○修理内容　1.ガラスを外して裂を取り出す。 2.汚れ等を除去する。 3.糸目を揃えながら文様を合わせて形を整える。 4.新糊を用いて和紙で裏打ちする。5.マット装に仕立てる。

50 ○列品番号　I-336-26
○名　　称　黄地花鳥入り亀甲繋文綾幡足 （きじかちょういりきっこうつなぎもんあやばんそく）
○時　　代　飛鳥-奈良
○年代世紀　7～8c
○品　　質　絹製、綾
○員　　数　1 枚
○寸 法 等　17.0×15.9 cm
○施工会社　澤田むつ代、アソシエイトフェロー
○修理内容　1.ガラスを外して裂を取り出す。 2.汚れ等を除去する。 3.糸目を揃えながら文様を合わせて形を整える。 4.新糊を用いて和紙で裏打ちする。 5.マット装に仕立てる。

51 ○列品番号　I-336-28
○名　　称　白地双竜二重連珠円文綾（しろじそうりゅうにじゅうれんじゅえんもんあや）
○時　　代　飛鳥-奈良
○年代世紀　7～8c
○品　　質　絹製、綾
○員　　数　1 枚
○寸 法 等　20.5×26.8 cm
○施工会社　澤田むつ代、アソシエイトフェロー
○修理内容　1.ガラスを外して裂を取り出す。 2.汚れ等を除去する。 3.糸目を揃えながら文様を合わせて形を整える。 4.新糊を用いて和紙で裏打ちする。 5.マット装に仕立てる。

52 ○列品番号　I-336-30
○名　　称　赤地葡萄唐草文綾天蓋垂飾 （あかじぶどうからくさもんあやてんがいすいしょく）
○時　　代　飛鳥-奈良
○年代世紀　7～8c
○品　　質　絹製、綾
○員　　数　1 枚
○寸 法 等　14.1×10.3cm
○施工会社　澤田むつ代、アソシエイトフェロー
○修理内容　1.ガラスを外して裂を取り出す。 2.汚れ等を除去する。 3.糸目を揃えながら文様を合わせて形を整える。 4.新糊を用いて和紙で裏打ちする。 5.マット装に仕立てる。

53 ○列品番号　I-336-31
○名　　称　赤地葡萄唐草文綾天蓋垂飾（あかじぶどうからくさもんあやてんがいすいしょく）
○時　　代　飛鳥-奈良
○年代世紀　7～8c
○品　　質　絹製、綾
○員　　数　1 枚
○寸 法 等　13.5×10.3cm
○施工会社　澤田むつ代、アソシエイトフェロー
○修理内容　1.ガラスを外して裂を取り出す。 2.汚れ等を除去する。 3.糸目を揃えながら文様を合わせて形を整える。 4.新糊を用いて和紙で裏打ちする。 5.マット装に仕立てる。

54 ○列品番号　I-336-32
○名　　称　淡茶地葡萄唐草文綾幡足 （うすちゃじぶどうからくさもんあやばんそく）
○時　　代　飛鳥-奈良
○年代世紀　7～8c
○品　　質　絹製、綾
○員　　数　1 枚
○寸 法 等　16.3×15.3cm
○施工会社　澤田むつ代、アソシエイトフェロー
○修理内容　1.ガラスを外して裂を取り出す。 2.汚れ等を除去する。 3.糸目を揃えながら文様を合わせて形を整える。 4.新糊を用いて和紙で裏打ちする。 5.マット装に仕立てる。

55 ○列品番号　I-336-38
○名　　称　赤地双鳥連珠円文綾 （あかじそうちょうれんじゅえんもんあや）
○時　　代　飛鳥-奈良
○年代世紀　7～8c
○品　　質　絹製、綾
○員　　数　1 枚
○寸 法 等　19.0×10.9cm
○施工会社　澤田むつ代、アソシエイトフェロー
○修理内容　1.ガラスを外して裂を取り出す。 2.汚れ等を除去する。 3.糸目を揃えながら文様を合わせて形を整える。 4.新糊を用いて和紙で裏打ちする。 5.マット装に仕立てる。

56 ○列品番号　I-336-39
○名　　称　赤紫地双鳥連珠円文綾 （あかむらさきじそうちょうれんじゅえんもんあや）
○時　　代　飛鳥-奈良
○年代世紀　7～8c
○品　　質　絹製、綾
○員　　数　1 枚
○寸 法 等　12.9×13.1cm
○施工会社　澤田むつ代、アソシエイトフェロー
○修理内容　1.ガラスを外して裂を取り出す。 2.汚れ等を除去する。 3.糸目を揃えながら文様を合わせて形を整える。 4.新糊を用いて和紙で裏打ちする。 5.マット装に仕立てる。

57 ○列品番号　I-336-42
○名　　称　緑地花文綾（みどりじかもんあや）
○時　　代　奈良
○年代世紀　8c
○品　　質　絹製、綾
○員　　数　1枚
○寸 法 等　19.5×22.7cm
○施工会社　澤田むつ代、アソシエイトフェロー
○修理内容　1.ガラスを外して裂を取り出す。 2.汚れ等を除去する。 3.糸目を揃えながら文様を合わせて形を整える。 4.新糊を用いて和紙で裏打ちする。5.マット装に仕立てる。

58 ○列品番号　I-336-49
○名　　称　赤地甃文綾幡足（あかじいしだたみもんあやばんそく）
○時　　代　飛鳥-奈良
○年代世紀　7～8c
○品　　質　絹製、綾
○員　　数　1枚
○寸 法 等　13.2×16.0cm
○施工会社　澤田むつ代、アソシエイトフェロー
○修理内容　1.ガラスを外して裂を取り出す。 2.汚れ等を除去する。 3.糸目を揃えながら文様を合わせて形を整える。 4.新糊を用いて和紙で裏打ちする。 5.マット装に仕立てる。

59 ○列品番号　I-336-50
○名　　称　黄地甃文綾（きじいしだたみもんあや）
○時　　代　飛鳥-奈良
○年代世紀　7～8c
○品　　質　絹製、綾
○員　　数　1枚
○寸 法 等　15.0×8.9cm
○施工会社　澤田むつ代、アソシエイトフェロー
○修理内容　1.ガラスを外して裂を取り出す。 2.汚れ等を除去する。 3.糸目を揃えながら文様を合わせて形を整える。 4.新糊を用いて和紙で裏打ちする。 5.マット装に仕立てる。

60 ○列品番号　I-336-59
○名　　称　茶紫地小花目結襷文錦 （ちゃむらさきじしょうかめゆいたすきもんにしき）
○時　　代　飛鳥ー奈良
○年代世紀　7～8c
○品　　質　絹製、錦
○員　　数　1枚
○寸 法 等　13.7×11.0cm
○施工会社　澤田むつ代、アソシエイトフェロー
○修理内容　1.ガラスを外して裂を取り出す。 2.汚れ等を除去する。 3.糸目を揃えながら文様を合わせて形を整える。 4.新糊を用いて和紙で裏打ちする。 5.マット装に仕立てる。

61 ○列品番号　I-336-61
○名　　称　雑色変り甃文錦（ざっしょくかわりいしだたみもんにしき）
○時　　代　奈良
○年代世紀　8c
○品　　質　絹製、錦
○員　　数　1枚
○寸 法 等　11.6×10.7cm
○施工会社　澤田むつ代、アソシエイトフェロー
○修理内容　1.ガラスを外して裂を取り出す。 2.汚れ等を除去する。 3.糸目を揃えながら文様を合わせて形を整える。 4.新糊を用いて和紙で裏打ちする。 5.マット装に仕立てる。

62 ○列品番号　I-336-62
○名　　称　淡紅地雲山錦（うすべにじくもやまにしき）
○時　　代　奈良
○年代世紀　8c
○品　　質　絹製、錦
○員　　数　1枚
○寸 法 等　17.1×7.7cm
○施工会社　澤田むつ代、アソシエイトフェロー
○修理内容　1.ガラスを外して裂を取り出す。 2.汚れ等を除去する。 3.糸目を揃えながら文様を合わせて形を整える。 4.新糊を用いて和紙で裏打ちする。 5.マット装に仕立てる。

63 ○列品番号　I-336-63
○名　　称　赤地花唐草文錦 （あかじはなからくさもんにしき）
○時　　代　奈良
○年代世紀　8c
○品　　質　絹製、錦
○員　　数　1枚
○寸 法 等　10.8×5.5cm
○施工会社　澤田むつ代、アソシエイトフェロー
○修理内容　1.ガラスを外して裂を取り出す。 2.汚れ等を除去する。 3.糸目を揃えながら文様を合わせて形を整える。 4.新糊を用いて和紙で裏打ちする。5.マット装に仕立てる。

64 ○列品番号　I-336-72
○名　　称　黄地唐花文錦 （きじからはなもんにしき）
○時　　代　奈良

○年代世紀　8c
○品　　質　絹製、錦
○員　　数　1枚
○寸 法 等　16.2×28.3cm
○施工会社　澤田むつ代、アソシエイトフェロー
○修理内容　1.ガラスを外して裂を取り出す。 2.汚れ等を除去する。 3.糸目を揃えながら文様を合わせて形を整える。 4.新糊を用いて和紙で裏打ちする。 5.マット装に仕立てる。

65 ○列品番号　I-336-73
○名　　称　黄地蓮唐花文錦（きじはすからはなもんにしき）
○時　　代　奈良
○年代世紀　8c
○品　　質　絹製、錦
○員　　数　1枚
○寸 法 等　10.3×26.7cm
○施工会社　澤田むつ代、アソシエイトフェロー
○修理内容　1.ガラスを外して裂を取り出す。 2.汚れ等を除去する。 3.糸目を揃えながら文様を合わせて形を整える。 4.新糊を用いて和紙で裏打ちする。 5.マット装に仕立てる。

66 ○列品番号　I-336-75
○名　　称　黄緑地花文錦（きみどりじかもんにしき）
○時　　代　奈良
○年代世紀　8c
○品　　質　絹製、錦
○員　　数　1枚
○寸 法 等　4.4×5.0cm
○施工会社　澤田むつ代、アソシエイトフェロー
○修理内容　1.ガラスを外して裂を取り出す。 2.汚れ等を除去する。 3.糸目を揃えながら文様を合わせて形を整える。 4.新糊を用いて和紙で裏打ちする。 5.マット装に仕立てる。

67 ○列品番号　I-336-76
○名　　称　緑地唐花文錦（みどりじからはなもんにしき）
○時　　代　奈良
○年代世紀　8c
○品　　質　絹製、錦
○員　　数　2片
○寸 法 等　①9.3×10.4、②8.9×9.0cm
○施工会社　澤田むつ代、アソシエイトフェロー
○修理内容　1.ガラスを外して裂を取り出す。 2.汚れ等を除去する。 3.糸目を揃えながら文様を合わせて形を整える。 4.新糊を用いて和紙で裏打ちする。 5.マット装に仕立てる。

68 ○列品番号　I-336-77
○名　　称　黄緑地花文錦 （きみどりじかもんにしき）
○時　　代　奈良
○年代世紀　8c
○品　　質　絹製、錦
○員　　数　1枚
○寸 法 等　13.8×5.5cm
○施工会社　澤田むつ代、アソシエイトフェロー
○修理内容　1.ガラスを外して裂を取り出す。 2.汚れ等を除去する。 3.糸目を揃えながら文様を合わせて形を整える。 4.新糊を用いて和紙で裏打ちする。 5.マット装に仕立てる。

69 ○列品番号　I-336-78
○名　　称　緑地目結欅文風通（みどりじめゆいたすきもんふうつう）
○時　　代　奈良
○年代世紀　8c
○品　　質　絹製、風通
○員　　数　1枚
○寸 法 等　15.4×12.7cm
○施工会社　澤田むつ代、アソシエイトフェロー
○修理内容　1.ガラスを外して裂を取り出す。 2.汚れ等を除去する。 3.糸目を揃えながら文様を合わせて形を整える。 4.新糊を用いて和紙で裏打ちする。 5.マット装に仕立てる。

70 ○列品番号　I-336-79
○名　　称　甃文交織裂 （いしだたみもんこうしょくぎれ）
○時　　代　奈良
○年代世紀　8c
○品　　質　絹製、平織
○員　　数　1枚
○寸 法 等　4.5×4.2cm
○施工会社　澤田むつ代、アソシエイトフェロー
○修理内容　1.ガラスを外して裂を取り出す。 2.汚れ等を除去する。 3.糸目を揃えながら文様を合わせて形を整える。 4.新糊を用いて和紙で裏打ちする。 5.マット装に仕立てる。

71 ○列品番号　I-336-80
○名　　称　小甃文風通 （こいしだたみもんふうつう）
○時　　代　奈良
○年代世紀　8c
○品　　質　絹製、錦
○員　　数　1枚
○寸 法 等　18.4×2.2cm

○施工会社　澤田むつ代、アソシエイトフェロー
○修理内容　1.ガラスを外して裂を取り出す。　2.汚れ等を除去する。　3.糸目を揃えながら文様を合わせて形を整える。　4.新糊を用いて和紙で裏打ちする。　5.マット装に仕立てる。

72　○列品番号　I-336-81
○名　　称　縞地入子菱繋文錦　(しまじいりこびしつなぎもんにしき)
○時　　代　奈良
○年代世紀　8c
○品　　質　絹製、錦
○員　　数　1枚
○寸 法 等　11.6×10.6cm
○施工会社　澤田むつ代、アソシエイトフェロー
○修理内容　1.ガラスを外して裂を取り出す。　2.汚れ等を除去する。　3.糸目を揃えながら文様を合わせて形を整える。　4.新糊を用いて和紙で裏打ちする。　5.マット装に仕立てる。

73　○列品番号　I-336-86
○名　　称　雑色縦縞文裂(ざっしょくたてじまもんぎれ)
○時　　代　飛鳥-奈良
○年代世紀　7～8c
○品　　質　絹製、平織
○員　　数　1枚
○寸 法 等　24.4×16.6cm
○施工会社　澤田むつ代、アソシエイトフェロー
○修理内容　1.ガラスを外して裂を取り出す。　2.汚れ等を除去する。　3.糸目を揃えながら文様を合わせて形を整える。　4.新糊を用いて和紙で裏打ちする。　5.マット装に仕立てる。

74　○列品番号　I-2861
○名　　称　唐織　濃茶茶浅葱段秋草模様(からおり　こいちゃあさぎだんあきくさもよう)
○時　　代　江戸
○年代世紀　16～17c
○品　　質　絹製
○員　　数　1領
○寸 法 等　丈152.7、裄71.6cm
○施工会社　(株)染技連
○修理内容　1.解体する。　2.クリーニングする。　3.表裂の裂けた部分には、類似の補修裂を用いて、損傷部分にあてて縫いとめる。　4.裏裂の劣化部分と裂け部分には類似の色に染めた補修裂を用いて、損傷部分にあてて縫いとめる(状況に応じて全面にあてるかは検討を要する)。　5.中に入れる真綿を再利用し、元の状態に仕立てる。(平成23年度は1まで)

75　○列品番号　I-3865
○指　　定　重文
○指定年月日　昭和40年(1965)5月29日(染織第2192号)
○名　　称　小袖 白練緯地松皮菱竹模様(こそで しろねりぬきじまつかわびしたけもよう)
○時　　代　安土桃山
○年代世紀　16～17c
○品　　質　絹(練緯)製
○員　　数　1領
○寸 法 等　丈142.0、裄67.0cm
○施工会社　(株)染技連
○修理内容　1.表と裏に分ける。　2.表裂は解体する。　3.旧補修糸を外す。　4.補修用の練緯を製織する。　5.全面に補修裂をあてて縫い止める。　6.裏地と真綿は元使いするが、真綿が不足する場合は補う。　7.元の状態に仕立てる。　8.絹の包み裂を新調して納める。(平成23年度は5の途中から)

〈考古〉(26件)

76　○列品番号　J-1548
○名　　称　鉢形土器(はちがたどき)
○時　　代　縄文
○年代世紀　前2000～前1000年
○品　　質　土製
○員　　数　1個
○寸 法 等　高13、口径23.5cm
○施工会社　(有)武蔵野文化財修復研究所
○修理内容　1.接着剤や汚れをクリーニングする。　2.セルロース系樹脂で接合する。　3.エポキシ系樹脂により補填･復元する。　4.アクリル系絵具で補彩する。(平成23年度は2から)

77　○列品番号　J-5659
○名　　称　須恵器 甕(すえき　かめ)
○時　　代　古墳
○年代世紀　6c
○品　　質　陶製
○員　　数　1個
○寸 法 等　高20.5、口径14.5cm
○施工会社　(株)東都文化財保存研究所
○修理内容　1.解体する。　2.接着剤や汚れをクリーニングする。　3.セルロース系樹脂で接合する。　4.エポキシ系樹脂により補填･復元する。　5.アクリル系絵具で補彩する。(平成23年度は3から)

78　○列品番号　J-7880
○名　　称　鉄刀(てっとう)
○時　　代　古墳
○年代世紀　6c
○品　　質　鉄製
○員　　数　1本
○寸 法 等　長76.5、刀身長67.7、刀身幅3.0cm

○施工会社　(株)東都文化財保存研究所
○修理内容　1.汚れをクリーニングし、旧修理を除去する。　2.脱塩処理を行う。　3.アクリル系樹脂で強化する。　4.セルロース系樹脂で接合する。　5.エポキシ系樹脂により補填･復元する。　6.アクリル系絵具で補彩する。(平成23年度は3から)

79　○列品番号　J-7881
○名　　称　鉄刀（てっとう）
○時　　代　古墳
○年代世紀　6c
○品　　質　鉄製
○員　　数　1本
○寸 法 等　長79.0、刀身長72.2、刀身幅2.9cm
○施工会社　(株)東都文化財保存研究所
○修理内容　1.汚れをクリーニングし、旧修理を除去する。　2.脱塩処理を行う。　3.アクリル系樹脂で強化する。　4.セルロース系樹脂で接合する。　5.エポキシ系樹脂により補填･復元する。　6.アクリル系絵具で補彩する。　(平成23年度は2まで)

80　○列品番号　J-7892-1.2
○名　　称　鉄刀子（てつとうす）
○時　　代　古墳
○年代世紀　6c
○品　　質　鉄製
○員　　数　2本
○寸 法 等　長5.0・10.4、身幅1.2・1.4cm
○施工会社　(株)東都文化財保存研究所
○修理内容　1.汚れをクリーニングし、旧修理を除去する。　2.脱塩処理を行う。　3.アクリル系樹脂で強化する。　4.セルロース系樹脂で接合する。　5.エポキシ系樹脂により補填･復元する。　6.アクリル系絵具で補彩する。(平成23年度は2まで)

81　○列品番号　J-7893-1～12
○名　　称　鉄鏃（てつぞく）
○時　　代　古墳
○年代世紀　6c
○品　　質　鉄製
○員　　数　12本
○寸 法 等　長4.7～13.8、身幅1.2～2.8cm
○施工会社　(株)東都文化財保存研究所
○修理内容　1.汚れをクリーニングし、旧修理を除去する。　2.脱塩処理を行う。　3.アクリル系樹脂で強化する。　4.セルロース系樹脂で接合する。　5.エポキシ系樹脂により補填･復元する。　6.アクリル系絵具で補彩する。(平成23年度は2まで)

82　○列品番号　J-11623
○名　　称　深鉢形土器（ふかばちがたどき）
○時　　代　縄文
○年代世紀　前2000～前1000年
○品　　質　土製
○員　　数　1個
○寸 法 等　高14.5、口径17cm
○施工会社　(有)武蔵野文化財修復研究所
○修理内容　1.解体する。　2.接着剤や汚れをクリーニングする。　3.セルロース系樹脂で接合する。　4.エポキシ系樹脂により補填･復元する。　5.アクリル系絵具で補彩する。(平成23年度は3から)

83　○列品番号　J-20194
○名　　称　壺（つぼ）
○時　　代　弥生
○年代世紀　1～3ｃ
○品　　質　土製
○員　　数　1個
○寸 法 等　高22.5、口径10.5cm
○施工会社　(有)武蔵野文化財修復研究所
○修理内容　1.解体する。　2.接着剤や汚れをクリーニングする。　3.セルロース系樹脂で接合する。　4.エポキシ系樹脂により補填･復元する。　5.アクリル系絵具で補彩する。(平成23年度は3から)

84　○列品番号　J-22892
○名　　称　須恵器 長頸壺（すえき　ちょうけいこ）
○時　　代　古墳
○年代世紀　6c
○品　　質　陶製
○員　　数　1個
○寸 法 等　高25、胴部径17.5cm
○施工会社　(株)東都文化財保存研究所
○修理内容　1.解体する。　2.接着剤や汚れをクリーニングする。　3.セルロース系樹脂で接合する。　4.エポキシ系樹脂により補填･復元する。　5.アクリル系絵具で補彩する。(平成23年度は3から)

85　○列品番号　J-22893
○名　　称　土師器 壺（はじき　つぼ）
○時　　代　古墳
○年代世紀　6c
○品　　質　土製
○員　　数　1個
○寸 法 等　高24、口径17cm
○施工会社　(株)東都文化財保存研究所
○修理内容　1.解体する。　2.接着剤や汚れをクリーニングする。　3.セルロース系樹脂で接合する。　4.エポキシ系樹脂により補填･復元する。　5.アクリル系絵具で補彩する。(平成23年度は3から)

86 ○列品番号　J-8925
○名　　称　甕　(かめ)
○時　　代　擦文時代
○年代世紀　8～9c
○品　　質　土製
○員　　数　1 個
○寸 法 等　高 16.4 口径 15.5 cm
○施工会社　(有)武蔵野文化財修復研究所
○修理内容　1.解体する。　2.クリーニングする(カビの除去)。　3.接合する。　4.補填･復元する。　5.補彩する。

87 ○列品番号　J-1541
○名　　称　甕　(かめ)
○時　　代　擦文時代
○年代世紀　8～9c
○品　　質　土製
○員　　数　1 個
○寸 法 等　高 25.5 口径 22.2 cm
○施工会社　(有)武蔵野文化財修復研究所
○修理内容　1.解体する。　2.クリーニングする(カビの除去)。　3.接合する。　4.補填･復元する。　5.補彩する。

88 ○列品番号　J-14066
○名　　称　須恵器 四耳壺 (すえき　しじこ)
○時　　代　古墳時代
○年代世紀　5c
○品　　質　陶製
○員　　数　1 個
○寸 法 等　高 18.5 胴部径 20.5 cm
○施工会社　(株)東都文化財保存研究所
○修理内容　1.クリーニングする。　2.補填･復元する。　3.補彩する。

89 ○列品番号　J-14072-1
○名　　称　須恵器 坩　(すえき　かん)
○時　　代　古墳時代
○年代世紀　5c
○品　　質　陶製
○員　　数　1 個
○寸 法 等　高 14.5 口径 10.8 cm
○施工会社　(株)東都文化財保存研究所
○修理内容　1.クリーニングする。 2.補填･復元する。　3.補彩する。

90 ○列品番号　J-70
○名　　称　須恵器　提瓶　(すえき　ていへい)
○時　　代　古墳時代
○年代世紀　6c
○品　　質　陶製
○員　　数　1 個
○寸 法 等　高 29.8　口径 14.0 cm
○施工会社　繭山隆司
○修理内容　1.クリーニングする。 2.補填･復元する。 3.補彩する。

91 ○列品番号　J-3270-1
○名　　称　須恵器　平瓶　(すえき　ひらべ)
○時　　代　古墳時代
○年代世紀　7c
○品　　質　陶製
○員　　数　1 個
○寸 法 等　高 24.5　胴部径 24.0 cm
○施工会社　(株)東都文化財保存研究所
○修理内容　1.クリーニングする。 2.補填･復元する。 3.補彩する。

92 ○列品番号　J-3410
○名　　称　須恵器　提瓶　(すえき　ていへい)
○時　　代　古墳時代
○年代世紀　6～7c
○品　　質　陶製
○員　　数　1 個
○寸 法 等　高 29.1　口径 12.7 cm
○施工会社　(株)東都文化財保存研究所
○修理内容　1.解体する。 2.クリーニングする。 3.接合する。 4.補填･復元する。 5.補彩する。

93 ○列品番号　J-8402
○名　　称　須恵器　長頸壺　(すえき　ちょうけいこ)
○時　　代　古墳 (飛鳥)
○年代世紀　7c
○品　　質　陶製
○員　　数　1 個
○寸 法 等　高 26.8　口径 8.0 cm
○施工会社　(株)東都文化財保存研究所
○修理内容　1.クリーニングする。 2.接合する。　3.補填･復元する。　4.補彩する。

94 ○列品番号　J-8403
○名　　称　須恵器　台付長頸壺　（すえき　だいつきちょうけいこ）
○時　　代　古墳（飛鳥）
○年代世紀　7c
○品　　質　陶製
○員　　数　1個
○寸 法 等　高22.1　胴部径13.0cm
○施工会社　(株)東都文化財保存研究所
○修理内容　1.クリーニングする。 2.接合する。　3.補填･復元する。 4.補彩する。

95 ○列品番号　J-23635
○名　　称　須恵器　平瓶　（すえき　ひらべ）
○時　　代　古墳（飛鳥）
○年代世紀　7c
○品　　質　陶製
○員　　数　1個
○寸 法 等　高18.0 胴部径19.0cm
○施工会社　(株)東都文化財保存研究所
○修理内容　1.クリーニングする。 2.補填･復元する。　3.補彩する。

96 ○列品番号　J-7548
○名　　称　鉄鏃　（てつぞく）
○時　　代　古墳
○年代世紀　5c
○品　　質　鉄製
○員　　数　2本
○寸 法 等　長7.7・7.2　幅1.5・1.5cm
○施工会社　(株)東都文化財保存研究所
○修理内容　1.クリーニングする。　2.必用な前処置を行なった上で脱塩処理する。　3.強化する。　4.補填･復元する。　5.補彩する。

97 ○列品番号　J-8070-1・2
○名　　称　鉄鏃　（てつぞく）
○時　　代　古墳
○年代世紀　6c
○品　　質　鉄製
○員　　数　6本
○寸 法 等　長8.5～12.8 幅0.7～1.1cm
○施工会社　(株)東都文化財保存研究所
○修理内容　1.クリーニングする。 2.必用な前処置を行なった上で脱塩処理する。 3.強化する。 4.補填･復元する。5.補彩する。

98 ○列品番号　J-8071-1～4
○名　　称　鉄鏃　（てつぞく）
○時　　代　古墳
○年代世紀　6c
○品　　質　鉄製
○員　　数　5本
○寸 法 等　長8.5～12.8 幅0.7～1.1cm
○施工会社　(株)東都文化財保存研究所
○修理内容　1.クリーニングする。　2.必用な前処置を行なった上で脱塩処理する。　3.強化する。 4.補填･復元する。　5.補彩する。

99 ○列品番号　J-8964
○名　　称　鉄鏃　（てつぞく）
○時　　代　古墳
○年代世紀　6c
○品　　質　鉄製
○員　　数　43本
○寸 法 等　長4.3～14.5 幅0.5～0.7cm
○施工会社　(株)東都文化財保存研究所
○修理内容　1.クリーニングする。　2.必用な前処置を行なった上で脱塩処理する。　3.強化する。　4.接合する。　5.補填･復元する。　6.補彩する。

100 ○列品番号　J-8965
○名　　称　鉄刀子残欠（てつとうすざんけつ）
○時　　代　古墳
○年代世紀　6c
○品　　質　鉄製
○員　　数　2本
○寸 法 等　長6.7・3.3 幅1.5・1.0cm
○施工会社　(株)東都文化財保存研究所
○修理内容　1.クリーニングする。　2.必用な前処置を行なった上で脱塩処理する。　3.強化する。　4.破片を接合する。　5.補填･復元する。　6.補彩する。

101 ○列品番号　寄託品
○名　　称　片口土器（埼玉県ふじみ野市上福岡貝塚出土）（かたくちどき）
○指　　定　重文
○指定年月　昭和35年(1960)6月9日　考第220号
○時　　代　縄文前期
○年代世紀　前4000-前3000
○品　　質　土製
○員　　数　1個
○寸 法 等　高46.6
○施工会社　(有)武蔵野文化財修復研究所

○修理内容　1.解体する。 2. クリーニングする。 3. 接合・組み立てる。 4. 強化・整形する。 5. 補填する。 6. 補彩する。

〈東洋考古〉(2件)

102 ○列品番号　TJ-2216
○名　　称　環頭太刀（かんとうたち）
○時　　代　漢
○年代世紀　前2c-2c
○品　　質　鉄製
○員　　数　1本
○寸 法 等　長116.1、刀身幅2.9㎝
○施工会社　(株)東都文化財保存研究所
○修理内容　1.クリーニングする。 2.必用な前処置を行なった上で脱塩処理する。 3.強化する。 4.補填･復元する。 5.補彩する。

103 ○列品番号　TJ-5719
○名　　称　銅戈（どうか）
○時　　代　戦国～前漢
○年代世紀　前3～前2c
○品　　質　銅製
○員　　数　1本
○寸 法 等　長25.5　幅7.5㎝
○施工会社　(株)東都文化財保存研究所
○修理内容　1.クリーニングする。 2.必用な前処置を行なった上でベンゾトリアゾール処理を実施する。 3.強化する。 4.補填･復元する。 5.補彩する。

〈和書〉(2件)

104 ○列品番号　QA-4191
○名　　称　伊豆国図(いずのくにず)
○時　　代　江戸
○年代世紀　19c
○品　　質　紙本着色、折仕立
○員　　数　1鋪
○寸 法 等　162.3×132.7㎝
○施工会社　(株)墨仁堂
○修理内容　1.本紙の剥落止めを行った後、裏打ち紙を除去する。 2.本紙の紙質に合わせた補修紙を作成し、欠損箇所に補紙を施す。 3.美濃紙にて裏打ちを行う。 4.表紙は補修して再使用する。 5.もとの折り目で畳んで、表紙を取り付け、折り畳み装に仕立てる。

105 ○列品番号　QA-4196
○名　　称　尾張国図(おわりのくにず)
○時　　代　江戸
○年代世紀　19c
○品　　質　紙本着色、折仕立
○員　　数　1鋪
○寸 法 等　127.4×188.7㎝
○施工会社　(株)墨仁堂
○修理内容　1.本紙の剥落止めを行った後、裏打ち紙を除去する。 2.本紙の紙質に合わせた補修紙を作成し、欠損箇所に補紙を施す。 3.美濃紙にて裏打ちを行う。 4.表紙は補修して再使用する。 5.もとの折り目で畳んで、表紙を取り付け、折り畳み装に仕立てる。

〈館資〉(1件)

106 ○列品番号　館資678
○名　　称　重要雑録(じゅうようざつろく)
○時　　代　明治26年
○年代世紀　1893年
○品　　質　紙製
○員　　数　1冊
○寸 法 等　27.8×19.5×7.6㎝
○施工会社　(株)東京修復保存センター
○修理内容　1.冊子本を解装する。 2.各頁ごとに折れや皺をのばす。 3.劣化が著しい箇所には両面より典具帖紙による補強を行う。 4.欠失部分に漉き嵌めにて補紙を施す。 5.表紙は新調し、題簽、ラベルなどは再用する。 6.封筒や付箋は、補紙等を施し、元の場所に貼り付ける。 7.冊子本に仕立てる。

【京都国立博物館】(10件)

＜絵画＞(1件)

1 ○名　　称　二十四孝図屏風（にじゅうしこうずびょうぶ）
○品　　質　紙本著色
○員　　数　6曲1隻
○寸 法 等　各扇：本紙縦 96.6㎝　横 42.2㎝　総縦 121.3㎝　総横 48.0㎝
隻　：総丈縦 121.3㎝　横 288.0㎝
○施工会社　(株)松鶴堂
○修理内容　1 本紙の損傷状態、絵具層の状態調査を行い、撮影・記録する。2 損傷地図を作成する。3 本紙を下地より取り外す。4 絵具層の剥落止めを行う。5 旧裏打紙（肌裏紙以外）を除去する。6 安全に画面表面の汚れを除去する。7 必要な箇所に剥落止めを行い、仮裏打ちをし、一時仮張りする。8 肌裏紙を除去する。9 不良補紙を除去し、本紙料紙欠失箇所に補修紙で補修を行う。10 本紙周囲に補紙を足し回す。11 肌裏打を行う。12 2度目の裏打を行い、一時仮張り乾燥を行う。13 補修箇所に地色合わせの補彩を行う。14 杉材下地を新調し、両面共に下張りを行う。下張りは、骨縛り・胴張り、3 重蓑掛･蓑縛りを行う。15 下地に、両面共に 2 重浮張を行う。16 本紙を仮張りより取り外し、下地に上張りする。17 下地の裏面に紺地の唐紙にて裏張りする。18 黒漆掾を新調し、屏風装に仕上げる。

＜書跡＞(4件)

2 ○名　　称　後二条天皇宸翰消息（ごにじょうてんのうしんかんしょうそく）
○指　　定　重文
○時　　代　鎌倉時代（13世紀）
○品　　質　紙本墨書
○員　　数　1幅
○寸 法 等　本紙縦 29.9㎝　横 42.5㎝
○施工会社　(株)光影堂

○修理内容　1 損傷状態について調査・撮影記録を行う。2 墨層状態調査を行う（パッチテスト）。3 剥離箇所への糊挿し、及び剥落止めを行う。4 表装を解装し、旧総裏紙・旧増裏紙を除去する。5 画面の汚れを除去する。6 旧肌裏紙の除去を行う。7 旧不良補紙を除去する。8 本紙欠失箇所に補修を施す。9 薄美濃紙にて本紙に肌裏打を施す。10 美栖紙にて1度目の増裏打を施し、一時仮張する。11 相剥ぎによる損傷箇所については、薄美栖紙にて相剥ぎ直しを施す。12 本紙の折損脆弱箇所に折伏せによる補強補修を施す。13 美栖紙にて 2 度目の増裏打を施し、一時仮張する。14 表装裂地については、一文字風帯は汚れの除去及び補修を施し再使用とする。中縁には緞子・上下には無地裂を新調する。各種裂地に美濃紙にて肌裏打、美栖紙にて増裏打を施し、一時仮張する。15 本紙・表装裂地を仮張りから外し、三段表装に付廻しを行う。16 宇陀紙にて総裏打を施す。17 表・裏2回の仮張を行う。18 上巻絹・紐・鐶・軸木(上下一組)・軸首(牙軸)・包裂等を新調する。19 桐材太軸巻(木口詰)・桐材屋郎中箱・渋紙製覆いを新調する。20 十分に乾燥後、仕上げを行う。21 完成後の撮影・記録を行い、修理報告書を作成する。

3　○名　　称　後伏見天皇宸翰消息（今朝自是云々）（ごふしみてんのうしんかんしょうそく(けさよりこれうんぬん)）
○時　　代　鎌倉時代（文保2年1318年）
○品　　質　紙本墨書
○員　　数　1巻
○寸 法 等　縦 33.8cm　総横 102.6cm
○施工会社　(株)光影堂
○修理内容　1 本紙料紙の状態を調査し、撮影・記録する。2 本紙の剥離箇所に糊挿しを施し、巻子装を解体する。3 墨層の状態を調査し、必要に応じて膠水溶液にて剥落止を行う。4 本紙の継ぎを外し、浄化水を用い汚れの除去を行い、必要に応じて再度剥落止めを行う。5 料紙の繊維組成検査を行い、それに応じた補修紙を選定・準備する。6 欠失箇所に削繕補修を行う。7 表紙に緞子裂を新調し裏打を施し、見返し・巻末紙を新調し、継いだ本紙と接合させる。8 紐・軸木・八双竹・包裂等を新調し、巻子装に仕立てる。軸首は象牙印可軸を新調する。9 桐材木口詰太軸巻、桐材屋郎中箱1合を新調する。旧箱鑑は新調した保存箱の箱下へ収める。10 中箱蓋部分に渋紙製覆いを新調する。11 完成後の撮影・記録を行い、修理報告書を作成する。

4　○名　　称　大般若経巻第五百二（だいはんにゃきょうかんだい502）
○時　　代　北宋時代　元祐5年（1090）
○品　　質　紙本墨書
○員　　数　1帖
○寸 法 等　縦 31.7cm　折幅 11.0cm
○施工会社　(株)光影堂
○修理内容　1 修理前に本紙料紙の状態を調査し、撮影・記録する。2 墨・朱箇所の状態調査を行い、必要であれば膠水溶液にて剥落止めを行う。3 折本装を解体する。4 浄化水を用い汚れの除去を行い、必要に応じて再度剥落止めを行う。5 適度の湿り気をもって旧裏打紙を除去する。6 料紙の繊維組成検査を行い、それに応じた補修紙を準備する。7 本紙欠失箇所に削繕補修を行う。8 天然染料にて染め、媒染、水洗いを施した薄美濃紙・新糊で肌裏打を行い、一時仮張する。裏打ちは1層のみ施す。9 元通りに本紙を折り、継ぎ合せる。10 折本装に仕立てる。板表紙はヒビ割れ箇所のみ補彩を施し再使用とする。11 四方紙帙・桐材屋郎箱を新調する。旧裏打紙等は旧箱へ収納し、四方帙に収めた本紙と旧箱を新調した保存箱へ収納する。12 完成後の撮影・記録を行い、修理報告書を作成する。(23 年度より・2ヶ年事業)

5　○名　　称　金剛般若経開題残巻　弘法大師筆（こんごうはんにゃきょうかいだいざんかん）
○指　　定　国宝
○品　　質　紙本墨書
○員　　数　1巻
○寸 法 等　本紙 縦 27.9cm　横 201.8cm　表紙 縦 32.3cm　横 24.0cm
○施工会社　(株)松鶴堂
○修理内容　1 修理前に本紙の状態等を調査・記録し、写真撮影を行う。2 本紙のクリーニングを行い、必要箇所に膠水にて剥落止めを行う。3 裏打紙を除去し、各紙の継目を離す。4 本紙の欠失、破損箇所には同質の補修紙を作製し、繕う。5 美濃紙にて肌裏打を施す。6 折損箇所及び脆弱箇所には美濃紙にて折伏を施す。7 美栖紙にて増裏打を施す。8 縁紙に本紙と同様に美濃紙にて肌裏打、美栖紙にて増裏打を施し、仮張りに掛けて乾燥させる。9 本紙四辺に縁紙を付け廻しする。10 混合紙にて総裏打を施す。11 仮張りにかけて乾燥させる。12 巻末軸巻紙を新調する。13 各紙を継ぎ、長時間乾燥させる。14 表紙を新調し、本紙と同様に裏打ちを行った後、仮張りにかけて乾燥させる。15 見返しを新調する。16 本紙と表紙を継ぎ合せる。17 軸首、中軸、八双、紐はそれぞれ新調し、巻子装に仕立てる。18 修理後の写真撮影を行い、比較検討の資料とする。19 包裂、桐太巻芯(木口詰仕様)、桐材保存箱（中箱：桐屋郎箱、外箱：黒漆塗桐台差箱（旧箱並列収納））を新調し、収納する。(23 年度より・2ヶ年事業)

＜彫刻＞（1件）

6　○名　　称　木造菩薩坐像および像内納入品のうち　像内納入品（もくぞうぼさつざぞうおよびぞうないのうにゅうひんのうち　ぞうないのうにゅうひん）
○時　　代　中国　元～明
○員　　数　1括
○寸 法 等　版本　5巻・2塊　本紙　縦 約11.0cm　横 約75.0cm
○施工会社　(株)光影堂
○修理内容　1 本紙料紙の状態を調査し、撮影・記録する。2 本紙を平らな状態にする。3 墨層の状態を調査し、必要に応じて膠水溶液にて剥落止を行う。4 浄化水を用い汚れの除去を行い、必要に応じて再度剥落止を行う。5 料紙の繊維組成検査を行い、それに応じた補修紙を選定・準備する。6 欠失箇所に削繕補修を行う。状況により裏打を施す。7 平置きで1紙ずつ畳紙で挟み、1セットずつ中性紙にて挟み、中性紙上にラベルを貼付する。8 計7セットを中性箱に保存する。9 完成後の撮影・記録を行い、修理報告書を作成する。

＜漆工＞（2件）

7　○名　　称　蜻蛉蒔絵鞍・鐙（とんぼまきえくら・あぶみ）
○時　　代　江戸時代（万延元年1860年）
○品　　質　木製および鉄製　漆塗　蒔絵
○員　　数　1具
○寸 法 等　鞍：38.7cm×35.8cm、高29.0cm　鐙：各12.1cm×29.2cm、高25.1cm
○施工会社　北村繁
○修理内容　1 一体になっている下鞍や馬氈などを鞍本体から取り外す。　2　修理前に写真撮影と調査を行い、修理計画を立てる。3　毛先の柔らかい筆などを用いて埃を掃った後、精製水やエタノール水溶液等を用いて可能な範囲でクリーニングを行う。4　鞍に生じた漆塗膜の亀裂には生上味漆を割れ目から流しこんで木地を強化した後、希釈した麦漆を含浸して隙間を接着する。この際に浮き上がった可能な範囲で加圧して段差を押さえるよう試みるが、塗膜が厚く不可能な場合は現状のままで接着する。5　鐙に生じた漆塗膜の亀裂には生上味漆を割れ目から十分に含浸し、素地の鉄の表面に漆の皮膜を作って空気との接触を出来るだけ遮断する。その後、希釈した麦漆を含浸して隙間を接着する。この際に浮き上がった可能な範囲で加圧して段差を押さえるよう試みるが、塗膜が厚く不可能な場合は現状のままで接着する。6　漆塗膜の接着後、亀裂の隙間に木屎や漆下地を充填して形状を整える。7　漆塗膜の欠失したところは木屎や漆下地で形状を整える。8　新たに施した漆下地は形状を整えた後、違和感なく周囲と調和するように仕上げる。9　修理後の写真撮影を行う。10　木製外箱の蓋の欠損した横桟を新たに補い、接合部を接着して補強する。11　修理前に取り外した下鞍など一式を組み立てる。(22 年度より継続・2ヶ年事業)

8　○名　　称　龍骨車蒔絵鞍・鐙（りゅうこつしゃまきえ・くら・あぶみ）
○時　　代　江戸時代（17～18世紀）
○品　　質　木製および鉄製　漆塗　蒔絵
○員　　数　1具
○寸 法 等　鞍：後輪　馬狭 38.0cm　高さ 25.5cm　居木　長さ 30.0cm　鐙：長さ 30.2cm　幅 14.3cm　高さ 26.6cm
○施工会社　北村繁
○修理内容　1 修理前の写真撮影と調査を行う。修理計画を立てる。2 安全なクリーニングを行う。3 表面の金刑部梨子地の捲れをすべて漆で圧着する。剥落分も本体に貼り戻

す。4 鞍の亀裂を漆で接着する。5 鐙の塗膜の亀裂は、支持胎である鉄の酸化が進まないよう処置した上で、漆で圧着する。6 漆塗膜の接着後、亀裂の隙間や欠失部分を木屎や漆下地で整える。7 新たに加えた漆下地は、オリジナル部分と違和感のないよう調整する。8 鐙の包み布を新調する。9 修理後の撮影を行う。修理報告を作成する。(23 年度より・2 ヶ年事業)

＜染織＞（1 件）

9　○名　　称　鉄藍絽地冬田落雁文単衣（てつあいろじふゆだらくがんもんひとえ）
　　○時　　代　江戸後期
　　○品　　質　鉄藍絽地 染・繍 振切り留袖
　　○員　　数　1 領
　　○寸 法 等　身丈 157.5㎝　身幅 28.0㎝　袖丈 42.3㎝　袖幅 32.0㎝　衿幅 11.0㎝
　　○施工会社　染技連
　　○修理内容　1 解体前に全体像・各部分を安全な方法で撮影し、寸法・破損箇所などを記録・撮影する。2 絽地の透ける素材のため、補強裂には材料を吟味する。3 使用材料は作品に対するなじみなどを考慮して選定する。4 補強裂・補修糸を染色する。5 損傷を考慮して全面解体する。6 全体的にしわ・縫込み部分を伸ばす。7 全面に補強裂兼裏地を当て、損傷箇所は糸目を整えながら綴付け補強を行い、損傷箇所以外に仮留めを施し表地に沿わせる。8 損傷箇所には渡し縫い・ぐし縫いを併用して補修する。9 金駒繍の乱れを整える。10 基本的に修理前の旧縫い目をたどり仕立てるが、必要に応じてつれが起こらないように調整する。11 身頃中心に綿布団を入れ、和紙畳紙を製作する。12 仕立後に全体像を撮影し、さらに寸法・修理箇所などを記録、撮影する。

＜考古＞（1 件）

10　○名　　称　秋田県湯沢市松岡経塚出土品のうち 陶製甕（あきたけんゆざわしまつおかきょうづかしゅつどひんのうち とうせいかめ）
　　○時　　代　平安時代
　　○品　　質　陶製
　　○員　　数　1 口
　　○寸 法 等　胴回り直径 35.0㎝　口縁部直径 16.0㎝　高さ 37.5㎝
　　○施工会社　(株)京都科学
　　○修理内容　1 仕様確認、準備・写真記録 2 解体（溶剤を用いて接着に使用しているセメダインを再溶解する。）3 クリーニング（解体後全て水洗いをする。セメダインは全て除去する。）4 再接合（エポキシ樹脂）5 復元（エポキシ樹脂を使用）6 彩色（復元部が分かるように仕上げる。）

【奈良国立博物館】（11件）

＜絵画＞(3 件)

1　○名　　称　紙本墨画淡彩山水図　〈伝周文筆/〉（しほんぼくがたんさいさんすいず　〈でんしゅぶんひつ〉）
　　○員　　数　1 幅
　　○時　　代　室町時代　　文安二年（1445）
　　○品　　質　紙本墨画淡彩
　　○寸 法 等　縦 108.0 ㎝　横 32.7㎝
　　○施工会社　(株)文化財保存
　　○修理内容　解体修理。表面の水溶性の汚れが修理中に移動しないようクリーニングを施す。乾式肌上げ法により古い裏打紙を全て除去し、新しい裏打紙に取り替える。墨と淡彩については、その定着状況に応じて剥落止めを行う。旧補彩については、本紙と大変よく馴染んでいることから基本的に再使用する。表装裂は全て再使用する。(継続 2 か年事業のうちの第 2 年目)

2　○名　　称　絹本著色十王像　〈陸仲淵筆/〉(けんぽんちゃくしょくじゅうおうぞう　〈りくちゅうえんひつ〉)
　　○員　　数　3 幅
　　○時　　代　元時代(中国)　　14 世紀
　　○品　　質　絹本著色
　　○寸 法 等　各　縦 85.8 ㎝　横 50.6 ㎝
　　○施工会社　(株)文化財保存
　　○修理内容　解体修理。多数ある横折れや料絹の欠失に、折れ伏せや剥落止めなど、適切な処置を施し、掛軸装としてのしなやかさを回復させるため、裏打紙を全て取り替える。本品には肌裏紙上への補筆や旧補絹への補筆が見られることから、詳細な損傷地図を作成し、除去及び再使用の検討を行う。旧肌裏紙の取り替えに際しては、裏面の状態を確認しながら作業を行える乾式肌上げ法を採用する。表装裂、軸木はいたみがあるため新調し、軸首は再使用する。各幅に桐材太巻添軸を新調する。箱は三幅入りの二重箱に改め、外側を黒漆塗桐台差箱、中箱は桐印籠蓋箱とする。なお、修理過程では、必要に応じて高精細デジタルカメラや蛍光エックス線分析器等の光学機器を用いた調査を実施し、当館研究員と密に情報を共有しながら修理方針を決定する。また調査や修理の過程で得られたデータを報告書の形で提出する。(継続 3 か年事業のうちの第 1 年目)

3　○名　　称　絹本著色春日宮曼荼羅（けんぽんちゃくしょくかすがみやまんだら）
　　○員　　数　1 幅
　　○時　　代　室町時代　　14 世紀
　　○品　　質　絹本著色
　　○寸 法 等　縦 78.8 ㎝　横 35.8 ㎝
　　○施工会社　(株)文化財保存
　　○修理内容　解体修理。修理前・中に実体顕微鏡、蛍光エックス線等の光学機器を用いた調査を実施し、当館研究員と密に情報を共有しつつ修理方針を決定する。軸装を解体し、濾過水を噴霧してクリーニングを行う。膠を用いて絵具の剥落止めを行う。乾式肌上げ法によって旧肌裏紙を除去する。本紙欠失箇所に電子線劣化絹を使用して補絹を施した後、新たに肌裏打ちを施す。細切りの楮紙で折れ伏せを施す。表装裂を新調し、仏表具の形式に整える。補修箇所にのみ補彩を施す。軸首・上下軸を新調して軸装に仕立てる。桐材太巻添軸、桐材印籠箱および裂貼り帙を新調し、包裂に包んで納入する。修理報告書を作成する。

＜書跡＞(2 件)

4　○名　　称　紺紙金字一字宝塔法華経　〈巻第三、第五〉（こんしきんじいちじほうとうほっけきょう）
　　○員　　数　2 巻
　　○時　　代　平安時代　　12 世紀
　　○品　　質　紺紙金泥書銀泥界　(見返)金銀泥絵
　　○寸 法 等　巻第三：縦 29.9㎝　長 1106.6㎝　　巻第五：縦 29.8㎝　長 1256.8㎝
　　○施工会社　(株)文化財保存
　　○修理内容　表紙は現状の補紙を取り外し、新たな補紙を入れる。表紙と見返しの間に一紙（紺色）を足す。見返しは旧補紙を取り外し、新たな補紙を入れる。ただし、巻第五の旧補紙部分にある金銀泥の補筆は、可能な限り生かす。本紙の天地辺に施された旧補紙はすべて取り外し、新補紙に代える。天地辺以外の欠損部を繕っている補紙は現状のままとする。金泥文字の欠損（穴）部は紙背から補紙で繕う。必要に応じて、折れ伏せ、剥落どめ等を施す。本紙のももけは、これを改善する。紙継目の糊離れ部に糊を差す。また修理にともない光学的調査機器を用いた紙質調査をおこなう。(継続 2 か年事業のうちの第 1 年目)

5　○名　　称　法華経　巻第二（蝶鳥下絵料紙）(ほっけきょう　まきだいに　（ちょうとりしたえりょうし))
　　○員　　数　1 巻
　　○時　　代　平安時代　　12 世紀
　　○品　　質　紙本墨書　金銀泥絵
　　○寸 法 等　縦 25.2㎝　　長 1125.3㎝
　　○施工会社　(株)文化財保存

○修理内容　旧補修時に生じた不適切な紙の継ぎ直しを修正し、旧裏打・補紙は除去する。料紙はプレスにより皺・暴れを修正し、第一紙や虫穴は補修紙による補填・補強を行う。金銀泥などの状態を確認し、必要な場合剥落止めを施す。修理に伴い、光学調査機器等を用いた紙質調査を行う。また表紙・軸・軸付紙を新調し、収納については太巻きを付け、箱（桐製）を新調する。

＜彫刻＞(1 件)

6　○名　　称　木造如来立像（もくぞうにょらいりゅうぞう）
　○員　　数　1 軀
　○時　　代　奈良～平安時代　　8～9 世紀
　○品　　質　木造　素地(現状)　彫眼
　○寸 法 等　像高 166.7 ㎝
　○施工会社　財団法人　美術院
　○修理内容　形状不適合の新補の台座(蓮華座)を除去し、木製黒漆塗の方座を新造。

＜考古＞(5 件)

7　○名　　称　二塚古墳出土遺物（ふたつかこふんしゅつどいぶつ）
　　金属製品　23 件、琥珀玉　1 点、ほか 破片 一括
　○員　　数　金属製品：一括、琥珀玉：　1 点
　○時　　代　古墳時代後期　　6 世紀中ごろ
　○品　　質　金属製品：鉄製および青銅製、琥珀製棗玉：琥珀製
　○施工会社　財団法人 元興寺文化財研究所
　○修理内容　金属製品：処理前調査、クリーニング、脱塩処理、樹脂含浸、接合、樹脂塗布による強化、防錆処理、一部復元、仕上げ、処理後調査。
　　琥珀製棗玉：処理前調査、クリーニング、接合、アクリル樹脂含浸、仕上げ、処理後調査。(継続 3 か年事業のうちの第 3 年目)

8　○名　　称　珠城山１号墳出土遺物（たまきやま１ごうふんしゅつどいぶつ　うず、つじかなぐ、ぎょうよう）
　　雲珠、辻金具、杏葉
　○員　　数　雲珠：2 点、辻金具：11 個、杏葉：3 点、ほか 破片 一括
　○時　　代　古墳時代後期　　6 世紀
　○品　　質　雲珠：金銅製、辻金具：金銅製、杏葉：金銅製
　○寸 法 等　雲珠：①縦 12.7 横 13.5 高 4.3　②縦 7.5 横 7.5 高 1.8、辻金具：最大片 縦 9.8 ㎝ 横 9.8 ㎝、
　　杏葉：①縦 9.5 横 8.8　②縦 8.8 横 8.6　③縦 9.0 横 8.7
　○施工会社　財団法人 元興寺文化財研究所
　○修理内容　処理前調査（Ｘ線撮影）、クリーニング、脱塩処理、樹脂含浸、第 1 次樹脂塗布、接合・復原、第 2 次樹脂塗布、仕上げ、処理後調査。
　　(継続 2 か年事業のうちの第 2 年目)

9　○名　　称　鉄製大刀　珠城山３号墳出土（てつせいたち　たまきやま３ごうふんしゅつど）
　○員　　数　4 振、ほか 破片 一括
　○時　　代　古墳時代後期　　6 世紀
　○品　　質　鉄製
　○寸 法 等　最大 約 110 ㎝　最小 約 70 ㎝
　○施工会社　財団法人 元興寺文化財研究所
　○修理内容　処理前調査（Ｘ線撮影）、クリーニング、脱塩処理、樹脂含浸、第 1 次樹脂塗布、接合・復原、第 2 次樹脂塗布、仕上げ、処理後調査。
　　(継続 2 か年事
　業のうちの第 2 年目)

10　○名　　称　鉄製大刀　佐味田出土（てつせいたち　さみたしゅつど）
　○員　　数　1 振、ほか 破片 一括
　○時　　代　古墳時代
　○品　　質　鉄製
　○寸 法 等　長 99.3 ㎝(修理前)
　○施工会社　財団法人 元興寺文化財研究所
　○修理内容　処理前調査（Ｘ線撮影）、クリーニング、脱塩処理、樹脂含浸、第 1 次樹脂塗布、接合・復原、第 2 次樹脂塗布、仕上げ、処理後調査。
　　(継続 2 か年事業のうちの第 2 年目)

11　○名　　称　銅鐸　奈良市山町出土（どうたく　ならしやままちしゅつど）
　○員　　数　1 口、ほか 破片 一括
　○時　　代　弥生時代　　2～3 世紀
　○品　　質　青銅製　鋳造
　○寸 法 等　高 43.7 ㎝、最大幅 27.2 ㎝、底部長径 23.5 ㎝、底部短径 16.3 ㎝
　○施工会社　財団法人 元興寺文化財研究所
　○修理内容　現在の形態を維持・保存する。樹脂含浸を十分に施して器壁の強化をはかり、欠落片を接着する。仕上げに樹脂特有の光沢を押さえるつや消し処理を施す。

【九州国立博物館】（19件）

＜絵画＞ (5 件)

1　○名　　称　旧円満院宸殿障壁画（きゅうえんまんいんしんでんしょうへきが）　4 面 11 枚（54 面 11 枚のうち）(19 年度より継続・6 ヵ年計画)
　○所 蔵 者　京都国立博物館
　○時　　代　江戸時代・17 世紀
　○品　　質　紙本金地著色、襲木：黒漆塗。引手：木瓜金鍍金
　○寸 法 等　No.2）縦 108.5 ㎝　横 85.9 ㎝　　No.3）縦 174.4 ㎝　横 84.3 ㎝　　No.4）縦 127.4 ㎝　横 33.9 ㎝、縦 127.0 ㎝　横 52.0 ㎝
　　No.5）縦 176.5 ㎝　横 52.0 ㎝　　No.25）縦 176.4 ㎝　横 89.0㎝　　No.26）縦 134.1 ㎝　横 55.0㎝、縦 132.8 ㎝　横 67.0 ㎝
　○施工会社　一般社団法人国宝修理装潢師連盟九州支部
　○修理内容　1. 京都国立博物館内にて運搬の為の仮剥落止を行なう（平成 19 年度に施工済）。　2. 九州国立博物館にて写真撮影を行い、修理前の状態を調査・記録する。　3. 解体前の絵具層の剥落止を行なう。　4. 襖装を解体する。　5. 精製水にて表面の汚れ等を除去する。　6. 布苔糊にて絵具層を保護するため表打ちを行なう。　7. 本紙の旧裏打紙、旧補紙を除去する。　8. 本紙欠失箇所には補修紙にて補紙を施す。　9. 本紙の色合いに合わせて，染薄美濃紙にて肌裏を打つ。　10. 楮紙にてさらに裏打紙を打つ。　11. 表打ちの紙を除去する。　12. 杉材を用い総納組隅止めとした下地を８枚新調する。　13. 下地両面に８層の下貼りを施し、よく乾燥させる。　14. 補紙の箇所に補彩を行う。　15. 下貼が完了した下地に本紙上貼りする。下地の裏面には新調の鳥の子紙を貼る。　16. 最終的な絵具層の剥落止を行なう。　17. 引手は元のものを修理し用いる。　18. 漆塗襲木を新調し，襖に仕立てる。

2　○名　　称　諸宗祖師像（しょしゅうそしぞう）　1 幅（22 年度より継続・2 ヶ年計画）
　○所 蔵 者　奈良国立博物館
　○時　　代　中国　南宋時代・13 世紀

○品　　質　絹本著色、掛軸装、総縁：茶地唐草文海気、中廻風帯：菱金地牡丹文金襴
一文字：紺地縹菱金地桐文金襴、軸：蓮華唐草文金軸、箱：漆塗屋郎箱
○寸 法 等　本紙）縦111.8cm　横55.0cm
○施工会社　一般社団法人国宝修理装潢師連盟九州支部
○修理内容　1.写真撮影を行い、本紙の状態を調査する。　2.本紙の旧裏打紙を肌裏紙を残して除去する。　3.浄化水を表面から噴霧し，浸透させる方法で汚れを出来る限り除去する。　4.布海苔を用い，養生紙にて表打を行う。　5.旧肌裏紙及び旧補絹を除去する。　6.本紙裏面より料絹欠失箇所に劣化絹にて補絹を行う。　7.本紙の色合いに合わせて，染薄美濃紙にて肌裏を打つ。　8.表打の養生紙を除去する。　9.表装裂地は支給の裂地を調整し，肌裏を打つ。　10.美栖紙にて増裏打を行い，仮張りをする。　11.折れ伏せを入れ，折れを直す。　12.仮張りされた本紙と表装裂地を軸装の形に付け廻しをする。　13.美栖紙にて中裏打を行い，仮張りをする。　14.宇陀紙にて総裏打を行い，仮張りし充分な乾燥期間をおく。　15.補絹の箇所に補彩をする。　16.軸首，軸木，発装，啄木等を新調し軸装に仕立てる。　17.桐太巻添軸，桐屋郎箱を新調し，羽二重の包裂に包み納入する。

3　○名　　称　仏涅槃図（ぶつねはんず）　1幅（22年度より継続・4ヶ年計画）
○所 蔵 者　九州国立博物館
○時　　代　鎌倉時代・元亨3年（1323）
○品　　質　絹本著色、書表装、軸：蓮華唐草文金軸、箱：樅桟蓋箱
○寸 法 等　本紙）縦261.0cm　横212.6cm
○施工会社　一般社団法人国宝修理装潢師連盟九州支部
○修理内容　1. 写真撮影を行い，本紙の状態を調査する。　2. 表装の解体を行う。　3. 浄化水を表面から噴霧し，浸透させる方法で汚れを除去する。　4. 本紙表面より料絹欠失箇所に劣化絹にて補絹を行う。　5. 布海苔を用い，養生紙にて表打を行う。　6. 旧肌裏紙及び旧補絹を除去する。　7. 本紙裏面より料絹欠失箇所に劣化絹にて補絹を行う。　8. 本紙の色合いに合わせて，染薄美濃紙にて肌裏を打つ。　9. 表打の養生紙を除去する。　10. 美栖紙にて増裏打を行い，仮張りをする。　11. 折れ伏せを入れ，折れを直す。　12. 本紙両端に金箔押し紙にて覆輪を施す。　13. 美栖紙にて増裏打を行い，仮張りをする。　14. 美栖紙にて中裏打を行い，仮張りをする。　15. 宇陀紙にて総裏打を行い，仮張りし充分な乾燥期間をおく。　16. 補絹の箇所に補彩をする。　17. 新調した軸木，発装，啄木等と軸首・座鐶を取り付け軸装に仕立てる。　18. 桐太巻添軸，桐屋郎箱を新調し，羽二重の包裂に包み納入する。

4　○名　　称　群童遊戯図屏風（ぐんどうゆうぎずびょうぶ）　6曲1双
○所 蔵 者　九州国立博物館
○時　　代　江戸時代・18世紀
○品　　質　紙本銀地著色、屏風装、襲木：山丸桑材襲木
○寸 法 等　右隻　縦 156.3cm　横370.2cm、 左隻　縦 156.3cm　横370.2cm
○施工会社　一般社団法人国宝修理装潢師連盟九州支部
○修理内容　1. 写真撮影を行い，本紙の状態を調査する。　2. 屏風装を解体し，本紙の旧裏打紙を肌裏紙を残して除去する。　3. 膠水溶液にて絵具層の剥落止を行う。　4. 浄化水を表面から噴霧し，浸透させる方法で汚れを出来る限り除去する。　5. 旧肌裏紙及び旧補紙を除去する。　6. 本紙繊維に類似した補修紙を製作する。　7. 本紙裏面より料紙欠失箇所に上記補修紙にて補紙を行う。　8. 本紙の色合いに合わせて，染薄美濃紙にて肌裏を打つ。　9. 美濃紙にて 2 回目の裏打ちを行う。　10. 杉材を用い総納組隅止めとした下地を１２枚新調する。　11. 両面に８度下貼りを施し、よく乾燥させる。　12. 補紙の箇所に補彩を行う。　13. 下地に本紙を上貼りする。裏には新調の唐紙を貼る。　14. 欠失の金物と欠失の丸鋲を新調する。　15. 襲木を新調し，屏風装に仕立てる。

5　○名　　称　羅漢図　陸信忠筆（らかんず　りくしんちゅうひつ）　1幅
○所 蔵 者　九州国立博物館
○時　　代　中国　南宋時代・13世紀
○品　　質　絹本著色、掛軸装、総縁：茶地唐草文緞子、中廻：縹地中牡丹唐草文金襴
一文字・風帯：茶地桐菱繋ぎ文色糸入り金襴、軸：木軸、箱：太巻添軸・桐印籠箱・漆塗台差箱
○寸 法 等　本紙　縦54.3cm　横36.3cm
○施工会社　一般社団法人国宝修理装潢師連盟九州支部
○修理内容　1. 写真撮影を行い，本紙の状態を調査する。　2. 本紙の旧裏打紙を肌裏紙を残して除去する。　3. 膠水溶液にて絵具層の剥落止を行う。　4. 浄化水を表面から噴霧し，浸透させる方法で汚れを出来る限り除去する。　5. 布海苔を用い，養生紙にて表打を行う。　6. 旧肌裏紙及び旧補絹を除去する。　7. 本紙裏面より料絹欠失箇所に劣化絹にて補絹を行う。　8. 本紙の色合いに合わせて，染薄美濃紙にて肌裏を打つ。　9. 表打の養生紙を除去する。　10. 表装裂地は新調し，肌裏を打つ。　11. 美栖紙にて増裏打を行い，仮張りをする。　12. 折れ伏せを入れ，折れを直す。　13. 仮張りされた本紙と表装裂地を軸装の形に付け廻しをする。　14. 美栖紙にて中裏打を行い，仮張りをする。　15. 宇陀紙にて総裏打を行い，仮張りし充分な乾燥期間をおく。　16. 補絹の箇所に補彩をする。　17. 軸首，軸木，発装，啄木等を新調し軸装に仕立てる。　18. 桐太巻添軸は調整し桐印籠箱・漆塗台差箱を再使用し羽二重の包裂に包み納入する。

＜書跡＞（1件）

6　○名　　称　額字（がくじ）　2巻（22年度より継続・2ヶ年計画）
○所 蔵 者　東京国立博物館
○時　　代　江戸時代・19世紀
○品　　質　紙本墨書、巻子装、表紙：藍染紙、見返：金野毛散装飾紙、軸：木軸頭切、箱：被箱2巻入
○寸 法 等　第1巻）縦31.6cm　横869.9cm（20紙合計）　第2巻）縦32.1cm　横951.0cm（22紙合計）
○施工会社　一般社団法人国宝修理装潢師連盟九州支部
○修理内容　1.写真撮影を行い、本紙の状態を調査する。　2.巻子装を解体し，本紙の旧裏打紙を除去する。　3.本紙繊維に類似した補修紙を製作する。　4.本紙欠失箇所に，上記補修紙にて補紙を行う。　5.本紙の色合いに合わせて，染薄美濃紙にて1層の裏打ちを行う。　6.折れ伏せを入れ，折れを直す。　7.仮張りし充分な乾燥期間をおく。　8.表紙，見返は新たに作製しそれぞれ裏打ちを行い充分な乾燥期間をおく。　9.仮張りされた本紙，表紙，見返を継ぐ。　10.軸巻紙，軸首，軸木，八双，紐等を新調し巻子装に仕立てる。　11.桐屋郎箱を新調し，旧箱甲板は新箱底に納入する。本紙はそれぞれ羽二重の包裂に包み納入する。

＜漆工＞（3件）

7　○名　　称　亀甲地螺鈿鞍（きっこうじらでんくら）　1背
○所 蔵 者　九州国立博物館
○時　　代　平安時代・12世紀
○品　　質　木製漆塗、螺鈿
○寸 法 等　前輪）高29.0cm　　後輪）高30.3cm　　居木）長39.0cm
○施工会社　(株)目白漆芸文化財研究所
○修理内容　1.解体・付着物除去；前輪・後輪・居木を結んである紐を外して解体を行い、4つの部材に分ける。過去の修理の際に螺鈿部分に被った付着物を除去する。2.クリーニング；螺鈿の貝がかなり浮き上がり、今にも剥落しそうな状態であるため、危険な箇所に薄い雁皮紙を細かく切り糊で仮止めを行い、剥落を防止しながらクリーニング作業を行う。　3.接合・組立；麦漆で木地の亀裂接着および安定処理を行う。最後に解体した部材を紐で結び、組み立てる。　4.強化・整形；螺鈿がほぼ全面にわたり剥落が進み、不安定な状態であるため、前輪・後輪・居木の各部が安定するような受け台をそれぞれ製作した上で、接着作業を行う。接着は原則として膠を使用する。鞍の形状はほとんどが曲面なので、一度に接着作業が行えないため、順次行うこととする。螺鈿が安定した後、一枚一枚の貝の際に錆を施し、貝裏に漆が浸み込まないように養生を行う。塗膜の剥離および亀裂部に順次麦漆を含浸し、接着を行う。　5.補填；居木の左右の裏面がそれぞれ欠失しているため、同部の欠失した形に合わせ、木材を削り加工した材を嵌め込み、形態の復元を行う。この欠失部は安定の悪い箇所のため、接着は麦漆で行い、後補材との隙間には、刻苧により形態の復元を行う。そして居木と共に下地を施し、後補箇所が特定できるように仕上げつつ、展示上違和感のないようにする。接着した塗膜に際錆を施す。塗膜の劣化を防ぐため、全体に漆固めを行う。

8　○名　　称　孔雀鎗金経箱（くじゃくそうきんきょうばこ）　1合
○所 蔵 者　九州国立博物館

○時　　代　平安時代・12世紀
○品　　質　木製漆塗、螺鈿
○寸 法 等　縦22.3㎝　横40.0㎝　高25.9㎝
○施工会社　(株)目白漆芸文化財研究所
○修理内容　1.応急修理に引き続き、彫りのない部分の塗膜に漆固めを行う。　2.残りの木地接合部、金具周辺部、底裏面等、亀裂や塗膜剥離箇所には、順次接着用に調合した麦漆を含浸させ圧着し、安定をはかる。　3.紐金具の穴には、穴とほぼ同径に加工した、身の側板と同じ厚みの檜材を嵌め込む。木地は膠で接着し、乾燥し固定できた後、表裏にそれぞれ下地を施し、違和感のないように仕上げる。

9　○名　　称　菊蒔絵手箱（きくまきえてばこ）　1合
○所 蔵 者　九州国立博物館
○時　　代　室町時代・15世紀
○品　　質　木製漆塗
○寸 法 等　縦24.0㎝　横31.3㎝　高18.5㎝
○施工会社　(株)目白漆芸文化財研究所
○修理内容　1.全体に及ぶ汚れの除去を行う。クリーニング時に塗膜剥落の危険がある箇所には、短冊状に切った雁皮紙を弱い糊で貼り養生を行う。　2.劣化した塗膜に漆固めを行う。　3.構造安定処置として、塗膜亀裂部分から充填接着用に調合した麦漆を溶剤で希釈して流し入れ、木地構造の弛みから生じた隙間に充填を行う。　4.構造安定後、塗膜接着を行う。塗膜に亀裂が生じている箇所には、亀裂部より塗膜接着用に調合した麦漆を溶剤で希釈し塗膜下に流し入れ、溶剤が揮発し麦漆が締まった状態で圧着固定し塗膜安定処置を行う。　5.金具の接着には膠を使用し、膠水を剥離箇所より金具下に流し入れ、圧着固定を行う。　6.欠損箇所は刻苧で形態を復元し、下地付けで刻苧の肌面を整える。　7.漆固めを行い仕上げとする。

＜考古＞（3件）

10　○名　　称　辻金具（つじかなぐ）・棘葉形杏葉（きょくようけいぎょうよう）・心葉(楕円)形杏葉（しんよう（だえん）けいぎょくよう）
魚尾形杏葉（ぎょびけいぎょうよう）（新羅古墳出土遺物のうち）　16点
○所 蔵 者　九州国立博物館
○時　　代　朝鮮　三国時代・6世紀
○品　　質　辻金具）鉄、金銅　　棘葉形杏葉）鉄、金銅　　心葉(楕円)形杏葉）金銅　　魚尾形杏葉）鉄、金銅
○寸 法 等　辻金具）径11㎝　高2.8㎝ほか　　棘葉形杏葉）幅10㎝ほか　　心葉(楕円)形杏葉）長11.5㎝　幅9.4㎝ほか
魚尾形杏葉）長8㎝　下端幅：4.9㎝　上端幅：2.9㎝ほか
○施工会社　(株)芸匠
○修理内容　1.観察・記録；修理前の状態及びX線写真を撮影し記録する。　2.クリーニング（一次）；埃や錆等のクリーニングをおこなう。　3.脱塩処理；純水を定期的に交換しながら、採取した水の陰イオンがイオンメータで測定し0ppmに近くなるまで脱塩処理をおこなう。　4.防錆処理；ベンゾトリアゾールのアルコール溶液に含浸する。含浸後一定期間乾燥させる。　5.クリーニング（二次）；仕上の錆取り作業をおこなう。　6.樹脂含浸；アクリル樹脂を含浸させる。　7.接合・樹脂強化；接合及び脆弱箇所に、アクリル樹脂で接合後、エポキシ樹脂を充填し補強をおこなう。　8.安定台座作製；資料の形状に合わせエポキシ樹脂で枕を製作し、資料を安定させる。　9.補彩；修理箇所にアクリル絵具で補彩色を施す。　10.観察・記録；修理後の状態を撮影し記録する。

11　○名　　称　大宰府式鬼瓦ＩＡ式（だざいふしきおにがわら）　1点
○所 蔵 者　九州歴史資料館
○時　　代　奈良時代・8世紀
○品　　質　土製
○施工会社　(株)芸匠
○修理内容　1.観察・記録；修理前の状態を撮影し記録する。　2.クリーニング；作業前に全体の埃等を除去する。その後再修理箇所の古い修理材（石膏や接着剤等）をメスや刷毛、竹串等で除去する。　3.樹脂強化；亀裂や脆弱部分にパラロイドB72（アセトン希釈：5%程度）を塗布し、樹脂による強化をおこなう（強度が出るまで複数回おこなう）。　4.接合・樹脂充填；亀裂や隙間をエポキシ樹脂を用いて、接合及び充填成形をおこなう。　5.補彩色；修理部分に、違和感がない様にアクリル絵具で補彩色を施す。　6.観察・記録；修理後の状態を撮影し、報告書を作成する。

12　○名　　称　黒釉陶器四耳壷（こくゆうとうきしじこ）　1点
○所 蔵 者　九州歴史資料館
○時　　代　鎌倉－室町時代・14世紀前半－中頃
○品　　質　陶器
○施工会社　(株)芸匠
○修理内容　1.観察・記録；修理前の状態を撮影し記録する。　2.クリーニング・解体；資料の現状を把握し、接合面を確認しながら、石膏及び接着剤による接合・復元部分をデザインカッターやリュウター、アセトンや注射器、綿棒やブラシ等を用いて解体し、クリーニングをおこなう。　3.樹脂強化；必要に応じて脆弱部分にパラロイドB72（アセトン希釈：5%程度）を塗布し、樹脂による強化をおこなう。その際、器表裏面の質感の変化を最小限となる様に注意する。　4.接合・樹脂充填；エポキシ系接着剤（ハイスーパー5で接合後、隙間や復元部分をエポキシ樹脂（アラルダイトXNR－6504：主剤、XNH-6504：硬化剤)、パラロイドB72(溶剤アセトン)とマイクロバルーン及び顔料（個体の基本色）を混合したものを使用して、仕上げの充填成形をおこなう。　5.観察・記録；修理後の状態を撮影し、報告書を作成する。

＜歴史資料＞（7件）

13　○名　　称　A.対馬宗家関係資料（つしまそうけかんけいしりょう）21箱19巻　（20年度より継続・6ヶ年計画）
B.宗義暢書状（そうよしながしょじょう）（対馬宗家関係資料のうち）6通
○所 蔵 者　九州国立博物館
○時　　代　A.江戸時代・19世紀　　B.江戸時代・18世紀
○品　　質　A.　紙本墨書
B.　紙本墨書、折紙、包紙2枚、印籠箱（紐、金具付き）
○寸 法 等　A.　縦17.6-34.5　横45.7-57.2
B.　P13626）　縦36.0㎝　横49.1㎝、P13627）　縦36.0㎝　横48.9㎝、P13628）　縦41.0㎝　横54.6㎝、
P13629）　縦41.1㎝　横55.6㎝、P13630）　縦36.7㎝　横49.1㎝、P13631）　縦36.7㎝　横49.3㎝
○施工会社　一般社団法人国宝修理装潢師連盟九州支部
○修理内容　A.21箱19巻　※平成23年度は巻11～13を施工
1.写真撮影を行い、本紙の状態を調査する。　2.巻子装を解体する。　3.本紙の汚れ等を取り去る。　4.本紙の旧裏打紙を除去し、継ぎを外し、シワ等を伸ばして整形する。　5.本紙と類似した補修紙を作成する。　6.本紙欠失箇所に上記補修紙にて補紙を施し、上下には足し紙をつける。　7.旧裏打紙と同様の色調に染色した薄美濃紙にて肌裏打を施す。　8.将来折れが予想される箇所に折れ伏せを入れる。　9.混合紙にて総裏打を施す。　10.仮張りし、充分な乾燥期間をおく。　11.各料紙を継ぎ、巻末に新調の軸巻紙を取り付ける。　12.表紙，軸首，紐，中軸，八双は元のものを用い，巻子装に仕立てる。　13.羽二重の包み裂に包み納入する　　14.桐太巻添軸を施工巻数分製作する。　　15.　施工巻数分を納入できる紙箱を新調する。
B.　「宗義暢書状」
1.写真撮影を行い，本紙の状態を調査する。　2.本紙の旧裏打紙を除去する。　3.本紙繊維に類似した補修紙を製作する。　4.本紙欠失箇所に上記補修紙にて補紙を行う。　5.本紙をプレス乾燥し、元の状態に折り畳む。　6.包紙を新調して本紙を包み、元箱に納入する。

14　○名　　称　宝満山絵図（ほうまんざんえず）　2鋪　（22年度より継続・2ヶ年計画）
○所 蔵 者　福岡県立美術館
○時　　代　江戸時代・17世紀

○品　　質　紙本著色
○寸 法 等　東図：縦82cm　横138cm　　西図：縦80cm　横132cm
○施工会社　一般社団法人国宝修理装潢師連盟九州支部
○修理内容　1.写真撮影を行い、本紙の状態を調査する。　2.膠水溶液にて絵具層の剥落止を行う。　3.浄化水を表面から噴霧し，浸透させる方法で汚れを出来る限り除去する。　4.旧裏打紙を除去する。　5.本紙繊維に類似した補修紙を製作する。　6.本紙欠失箇所に上記補修紙にて補紙を行う。　7.美濃紙にて肌裏を打つ。　8.美栖紙にて増裏を打ち，仮張りをする。　9.混合紙にて総裏を打ち，仮張りし充分な乾燥期間をおく。　10.中性紙製の巻芯及び仮表紙を作成する。　11.2鋪入の桐保存箱を新調し，納入する。

15　○名　　称　福州沿海図（ふくしゅうえんかいず）　1枚
○所 蔵 者　九州国立博物館
○時　　代　オランダ王国・ネーデルラント連邦共和国時代
○品　　質　羊皮紙著彩
○寸 法 等　本紙　縦78.4cm　横94.4cm
○施工会社　一般社団法人国宝修理装潢師連盟九州支部
○修理内容　1.写真撮影を行い，本紙の状態を調査する。　2.柔らかい筆や刷毛を用い本紙の汚れを除去する。　3.水蒸気による加湿を行いプレスする。　4.亀裂、欠失箇所に補填を行う。　5.マットボードにヒンジで固定する。　6.下足板付き桐屋朗箱を新調し納入する。

16　○名　　称　徳川家康交趾渡海朱印状（とくがわいえやすこうちとかいしゅいんじょう）　1幅
○所 蔵 者　九州国立博物館
○時　　代　江戸時代・慶長19年(1614)
○品　　質　紙本墨書、筋割二段表装、総縁：鼠地揉み紙、小筋：白地楮紙(中廻、風帯)、本紙(萌黄地色紙)
軸：漆塗撥軸、箱：桐屋朗箱(中箱、外箱)
○寸 法 等　本紙　縦43.4cm　横60.6cm
○施工会社　一般社団法人国宝修理装潢師連盟九州支部
○修理内容　1.写真撮影を行い，本紙の状態を調査する。　2.軸装を解体し，本紙の旧裏打紙を除去する。　3.浄化水を表面から噴霧し，浸透させる方法で本紙の汚れを出来る限り除去する。　4.本紙繊維に類似した補修紙を製作する。　5.本紙欠失箇所に，上記補修紙にて補紙を行う。　6.本紙の色合いに合わせて，染薄美濃紙にて肌裏を打つ。　7.表装紙の補修を行い，肌裏を打つ。　8.美栖紙にて増裏打を行い，仮張りをする。　9.折れ伏せを入れ，折れを直す。　10.仮張りされた本紙と表装紙を元の形式に付廻しをする。　11.美栖紙にて中裏打を行い，仮張りをする。　12.宇陀紙にて総裏打を行い，仮張りし充分な乾燥期間をおく。　13.補紙の箇所に補彩をする。　14.軸首は元のものを調整，軸木，発装，啄木等を新調し軸装に仕立てる。　15.桐太巻添軸，桐屋朗箱を新調し，羽二重の包裂に包み納入する。極書及び旧上巻墨書部分は畳紙に包み新箱底に納入する。

17　○名　　称　長崎阿蘭陀通詞西吉兵衛家関係文書（ながさきおらんだつうじにしきちべえかんけいもんじょ）　35点
○所 蔵 者　九州国立博物館
○時　　代　江戸時代・18-19世紀
○品　　質　紙本ペン書、洋斐紙
○寸 法 等　縦21.2cm　横16.5cmほか
○施工会社　一般社団法人国宝修理装潢師連盟九州支部
○修理内容　1.写真撮影を行い，本紙の状態を調査する。　2.本紙のクリーニングを行う。　3.本紙繊維に類似した補修紙を製作する。　4.本紙欠失箇所に，上記補修紙にて補紙を行う。　5.本紙をプレス乾燥する。　6.中性紙製の台紙を新調して本紙を納め、新調した保存箱に納入する。

18　○名　　称　大内氏家臣安富氏関係文書（おおうちしかしんやすとみしかんけいもんじょ）　1巻
○所 蔵 者　九州国立博物館
○時　　代　室町-江戸時代・15-18世紀
○品　　質　紙本墨書、巻子装、表紙：萌葱地小牡丹唐草文金襴、見返：金切箔散装飾紙、軸：黒檀印可軸、箱：漆塗り桐屋朗箱
○寸 法 等　縦25.5cm　横34cmほか
○施工会社　一般社団法人国宝修理装潢師連盟九州支部
○修理内容　1.写真撮影を行い，本紙の状態を調査する。　2.巻子装を解体し，本紙の旧裏打紙を除去しクリーニングを行う。　3.本紙繊維に類似した補修紙を製作する。　4.本紙欠失箇所に，上記補修紙にて補紙を行う。　5.本紙をプレス乾燥する。　6.本紙はそれぞれ畳紙に納め、新調した桐屋朗箱に納入する。

19　○名　　称　大内義隆袖判安堵状幷大内義長袖判下文（おおうちよしたかそでばんあんどじょうならびにおおうちよしながそでばんくだしぶみ）　2通
○所 蔵 者　九州国立博物館
○時　　代　大内義隆袖判安堵状）室町時代・天文20年（1551）
大内義長袖判下文）室町時代・天文22年（1553）
○品　　質　紙本墨書、折紙、保存帙あり
○寸 法 等　大内義隆袖判安堵状）縦31.6cm　横47.2cm
大内義長袖判下文）縦31.8cm　横48.6cm
○施工会社　一般社団法人国宝修理装潢師連盟九州支部
○修理内容　1.写真撮影を行い，本紙の状態を調査する。　2.本紙のクリーニングを行う。　3.本紙繊維に類似した補修紙を製作する。　4.本紙欠失箇所に，上記補修紙にて補紙を行う。　5.本紙をプレス乾燥する。　6.包紙を新調して本紙を包み、新調した保存箱に納入する。

1-(3)-③ 文化財修理データのデータベース化件数

単位：件　　平成24年3月31日現在

		計	東京国立博物館	京都国立博物館	奈良国立博物館
合　計		286	114	118 (343)	54 (466)
絵　画		71	5	49 (133)	17 (161)
書　跡		40	6	23 (82)	11 (116)
彫　刻		54	1	35 (95)	18 (124)
建　築		0	0	0 (0)	0 (0)
金　工		6	6	0 (0)	0 (1)
刀　剣		1	1	0 (0)	0 (0)
陶　磁		2	2	0 (0)	0 (0)
漆　工		9	0	1 (2)	8 (32)
染　織		16	13	3 (14)	0 (1)
考　古		50	50	0 (0)	0 (0)
歴史資料		27	20	7 (15)	0 (31)
和　書		2	2	0 (0)	0 (0)
民族資料		0	0	0 (0)	0 (0)
その他		0	0	0 (2)	0 (0)
東洋	絵　画	0	0		
	書　跡	1	1		
	彫　刻	4	4		
	金　工	0	0		
	陶　磁	2	2		
	漆　工	1	1		
	染　織	0	0		
	考　古	0	0		
	民　族	0	0		
法隆寺献納宝物		0	0		
黒田記念館収蔵品		0	0		
館史資料(収蔵品外)		0	0		

※ 東京国立博物館は、列品管理規程による「旧東洋課所掌分」あり。

※ 記載の件数は当年度新規入力件数、（　）内は総数。

2 文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信

2-(1)　　ﻭ　の充実

2-(1)-① 来館者数推移（ﻩﻭﻭ館料別）

（後述の資料に記載）◎共通資料a-①

2-(1)-② 来館者数推移（展覧会別）

（後述の資料に記載）◎共通資料a-②

2-(1)-③ 入場料収入

（後述の資料に記載）◎共通資料a-③

2-(1)-④ 展示テーマ毎にその時代背景等を説明した外国語パネル等の設置

平成24年3月31日現在

東京国立博物館	京都国立博物館	奈良国立博物館	九州国立博物館
96%	－%	89%	94%
110件(外国語)	－件(外国語)	32件(外国語)	46件(外国語)
115件(日本語)	－件(日本語)	36件(日本語)	49件(日本語)

パネル等（パネルと同内容の配布資料・音声ガイドを含む）

【東京国立博物館】

・総合文化展（特集陳列を除く）　78件（外国語）／78件（日本語）　含国宝室・表慶館
・特集陳列　32件（外国語）／32件（日本語）
・黒田記念館　0件（外国語）／ 5件（日本語）

※参考　本館2階陳列“日本美術の流れ”案内・解説パンフレットを作成・配布した。

【京都国立博物館】

（平常展示館建て替え工事に伴い平常展示休止中）

【奈良国立博物館】

・名品展（なら仏像館）　24件（外国語）／24件（日本語）
・名品展（西新館）　0件（外国語）／ 4件（日本語）
・特別陳列「初瀬にますは与喜の神垣」　3件（外国語）／ 3件（日本語）
・特別陳列「おん祭と春日信仰の美術」　3件（外国語）／ 3件（日本語）
・特別陳列「お水取り」　2件（外国語）／ 2件（日本語）

【九州国立博物館】

・文化交流展示（トピック展示・特別公開を除く）　27 件(外国語)/33 件(日本語)
・文化交流展示　音声ガイド　3 件(外国語)/ 0 件(日本語)
・文化交流展示　トピック展示・特別公開　16 件(外国語)/16 件(日本語)
　うち「日本の建築をめぐって」　1 件(外国語)/1 件(日本語)
　　「日本とタイーふたつの国の巧と美」　4 件(外国語)/4 件(日本語)
　　「特別公開　国宝　琉球国王尚家関係資料　修理完成記念展示」　1 件(外国語)/1 件(日本語)
　　「彫漆　漆に刻む文様の美」　1 件(外国語)/1 件(日本語)
　　「平戸オランダ商館会館記念　平戸－海外に開かれた港市－」　1 件(外国語)/1 件(日本語)
　　「斉明天皇と飛鳥」　1 件(外国語)/1 件(日本語)
　　「インドの染織と細密画」　1 件(外国語)/1 件(日本語)
　　「茶の湯を楽しむⅣ」　1 件(外国語)/1 件(日本語)
　　「館蔵水墨画名品展」　1 件(外国語)/1 件(日本語)
　　「発掘された日本列島 2011 地域展　九州最古の狩人とその時代」　1 件(外国語)/1 件(日本語)
　　「琉球と袋中上人展―エイサーの起源をたどる―」　1 件(外国語)/1 件(日本語)
　　「九州大学百年の宝物」　1 件(外国語)/1 件(日本語)
　　「新春特別公開　初音の調度」　1 件(外国語)/1 件(日本語)

2-(1)-⑤ 平常展・特別展・海外展

（後述の資料に記載）◎共通資料a-④

2-(2) 教育活動の充実

2-(2)-① 学習機会の提供（過去5ヵ年）

	19年度	20年度	21年度	22年度	前中期期間(18～22年度)の平均値	23年度
○キャンパスメンバーズ						
東京国立博物館	22校	29校	35校	35校	27校	37校
京都国立博物館	21校	29校	30校	29校	25校	30校
奈良国立博物館	20校	25校	27校	28校	22校	28校
九州国立博物館	21校	22校	29校	27校	―	28校
○講演会等の回数						
東京国立博物館						
講演会等　実施回数	142回	132回	153回	126回	130回	112回
講演会等　参加者数	11,361人	12,332人	12,546人	13,319人	12,119人	12,664人
①講演会	24回	29回	24回	39回	29回	32回
	4,770人	7,134人	5,600人	9,290人	6,667人	8,224人
アンケート結果	79%	82%	87%	91%	83%	91%
（内訳）						
・月例講演会等	12回	12回	12回	11回	12回	13回
	1304人	2,008人	1,887人	1,637	1,690人	2,457人
アンケート結果	82%	82%	87%	89%	83%	91%
・記念講演会	6回	15回	11回	12回	11回	15回
	1,869人	4,409人	3,516人	3,467人	3,356人	4,669人
アンケート結果	81%	81%	85%	91%	84%	89%
・テーマ別講演会	4回	2回	1回	1回	2回	3回
	908人	717人	197人	180人	592人	775人
アンケート結果	69%	83%	90%	92%	84%	―
・その他講演会	2回	―	―	15回	―	1回
	689人	―	―	4,006人	―	323人
アンケート結果	―	―	―	―	―	―
②列品解説（ギャラリートーク等）	101回	101回	126回	83回	90回	76回
	3,934人	4,774人	6,550人	3,659人	4,394人	3,963人
③連続講座	1回（3日）	1回（3日）	1回（3日）	1回（3日）	1回（3日）	1回（3日）
	288人	356人	320人	278人	313人	380人
アンケート結果	77%	81%	82%	81%	81%	89%
④公開講座	16回	1回	2回	3回	10回	3回
	2,369人	68人	76人	92人	744人	97人
アンケート結果	72%	―	93%	100%	―	97%
京都国立博物館						
講演会等　実施回数	46回	37回	21回	17回	34回	15回
講演会等　参加者数	4,489人	3,413人	3,002人	2,313人	3,639人	1,450人
①土曜講座	45回	36回	19回	15回	32回	13回
	4,329人	3,254人	2,791人	2,076人	3,455人	1199人
アンケート結果	81%	82%	80%	81%	82%	77%
②夏期講座	1回（3日）	1回（3日）	1回（3日）	1回（3日）	1回（3日）	1回（3日）
	160人	159人	179人	205人	171人	193人
アンケート結果	88%	95%	94%	92%	93%	78%
③社会科教員のための向上講座	―	―	―	1回	―	1回
	―	―	―	32人	―	58人
奈良国立博物館						
講演会等　実施回数	28回	32回	33回	28回	29回	28回
講演会等　参加者数	2,949人	3,655人	3,421人	3,349人	3,223人	3,006人
①特別展等講座	15回	19回	16回	15回	15回	15回
	1,943人	2,706人	2,043人	2,172人	2,090人	1,839人
アンケート結果	87%	90%	96%	93%	90%	87%
②夏期講座	1回（3日）	1回（3日）	1回（3日）	1回（3日）	1回（3日）	1回（3日）
	358人	362人	391人	556人	431人	522人
アンケート結果	84%	90%	92%	95%	91%	90%
③サンデートーク	12回	12回	11回	12回	12回	12回
	648人	587人	584人	621人	622人	645人
アンケート結果	―	―	91%	88%	―	88%
④大学との合同公開講座	―	―	4回	―	―	―
	―	―	353人	―	―	―
アンケート結果	―	―	86%	―	―	―
⑤世界遺産学習特別勉強会の共同	―	―	1回	―	―	―
	―	―	50人	―	―	―
アンケート結果	―	―	―	―	―	―
九州国立博物館						
講演会等　実施回数	61回	56回	73回	64回	66回	89回
講演会等　参加者数	4,168人	5,507人	6,806人	3,996人	5,423人	7,833人
①特別展記念講演会	7回	11回	6回	9回	9回	7回
	1,892人	2,670人	1,622人	1,410人	1,949人	1,500人
アンケート結果	―	―	―	―	―	―
②ミュージアムトーク	42回	37回	42回	44回	42回	43回
	1,320人	1,096人	1,285人	1,320人	1,365人	1,741人
③講演及びシンポジウム	1回	6回	24回	11回	10回	38回
	316人	1,555人	3,849人	1,266人	1,653人	4,532人
アンケート結果	―	―	―	―	―	―
④ミュージアム講座	11回	2回	1回	0回	5回	1回
	640人	186人	50人	0人	455人	60人
アンケート結果	―	―	―	―	―	―
○大学等との連携事業						
奈良国立博物館						
①放送大学の面接授業	2回	2回	1回	1回	―	0回
	150人	178人	98人	―	―	―
②奈良女子大学との連携講座	216人	5人	3人	7人	―	7人
③神戸大学との連携講座	10人	10人	10人	10人	―	10人
九州国立博物館						
①放送大学の面接授業	2回	2回	2回	2回	2回	1回
	34人	37人	50人	50人	45人	50人

2-(2)-② キャンパスメンバーズ

平成24年3月31日現在

東京国立博物館	京都国立博物館	奈良国立博物館	九州国立博物館
37校	30校（※）	28校（※）	28校

※うち京都国立博物館・奈良国立博物館共通加入23校

【東京国立博物館】

①加入校数（37校）

	学校名	学生数	入会日	備考
1	桜美林大学	9,357人	20年4月1日	
2	武蔵野美術大学	8,164人	20年4月1日	
3	文化学園（文化学園大学, 文化ファッション大学院大学, 文化学園大学短期大学部, 文化服装学院, 文化服装学院広島校 , 文化外国語専門学校）	8,815人	20年4月1日	
4	東京学芸大学	6,231人	20年4月1日	
5	東京藝術大学	3,342人	20年4月1日	
6	東京大学	28,926人	20年4月1日	
7	お茶の水女子大学	3,346人	20年4月1日	
8	杉野学園（杉野服飾大学, 杉野服飾大学短期大学部, ドレスメーカー学院）	1,558人	20年4月1日	
9	大正大学	4,249人	20年4月1日	
10	東海大学	29,905人	20年4月1日	
11	青山学院大学・青山学院女子短期大学	23,080人	20年4月1日	
12	ハリウッド大学院大学・ハリウッドビューティ専門学校	790人	20年4月1日	
13	成蹊大学（文学部）	2,046人	20年4月1日	
14	多摩美術大学	4,890人	20年4月1日	
15	立教大学	20,962人	20年4月1日	
16	首都大学東京	9,216人	20年4月1日	
17	女子美術大学・女子美術大学短期大学部	3,476人	20年4月1日	
18	東京造形大学	1,968人	20年4月1日	
19	法政大学	37,792人	20年4月1日	
20	筑波大学	17,334人	20年4月1日	
21	昭和女子大学・昭和女子大学短期大学部	5,355人	20年4月1日	
22	実践女子大学・実践女子短期大学	4,650人	20年5月1日	
23	東洋大学	32,368人	20年6月1日	
24	東洋美術学校	1,015人	20年6月1日	
25	日本大学（芸術学部）	4,444人	20年6月1日	
26	文教大学・文教大学女子短期大学部	8,922人	20年7月1日	
27	上智学院（上智大学、上智短期大学、上智社会福祉専門学校）	13,006人	20年10月1日	
28	国際基督教大学	2,972人	21年4月1日	
29	了徳寺大学	898人	21年4月1日	
30	学習院女子大学	1,772人	21年11月1日	
31	尚美学園大学	3,129人	21年12月1日	
32	獨協大学	9,507人	22年4月1日	
33	学習院大学	8,876人	22年4月1日	
34	東京工業大学	10,287人	22年7月1日	
35	日本女子大学	9,122人	23年4月1日	
36	二松学舎大学	3,133人	23年5月1日	
37	東京家政大学・東京家政大学短期大学部	6,099人	23年6月1日	

②キャンパスメンバーズを対象とした事業

事業名：キャンパスメンバーズ博物館セミナー	
期　　間	8月15・16日（計7回実施）
開催場所	平成館大講堂
参加者数	160人
担当研究員数	7人
事業内容	キャンパスメンバーズ加入校の学生を対象に、博物館の歴史、保存修復、博物館情報、教育普及事業等について当館の職員が実例を交えた解説を実施。
事業名：キャンパスメンバーズ教育連携事業	
期　　間	8月15～20日（6日間）
開催場所	全館
参加者数	31人
担当研究員数	12人
事業内容	キャンパスメンバーズ加入校の学芸員志望学生を対象として、作品の取り扱いを含む博物館実務全般について演習・実習の形式により体験的講座を実施。

【京都国立博物館】

①加入校数（30校）

	学校名	学生数	入会日	入会内容	申請場所	備考
1	佛教大学	21,147人	19年4月1日	奈良博との2館併用	京博	通信教育部含む
2	奈良教育大学	1,434人	18年4月1日	奈良博との2館併用	奈良博	
3	就実大学人文科学部	1,405人	20年4月1日	奈良博との2館併用	京博	
4	学校法人同志社	38,496人	19年4月1日	奈良博との2館併用	奈良博	
5	奈良大学	4,376人	19年5月1日	奈良博との2館併用	奈良博	通信教育部含む
6	学校法人　関西大学	33,025人	23年6月1日	奈良博との2館併用	奈良博	
7	実践女子大学･実践女子短期大学	4,650人	20年5月1日	奈良博との2館併用	奈良博	
8	京都伝統工芸大学校	396人	20年5月1日	奈良博との2館併用	奈良博	

	学校名	学生数	入会日	入会内容	申請場所	備考
9	帝塚山大学・附属高等学校	6,262人	18年6月1日	奈良博との2館併用	奈良博	
10	奈良女子大学	2,880人	18年6月1日	奈良博との2館併用	奈良博	
11	京都造形芸術大学	8,754人	18年6月1日	京博のみ	京博	通信教育部含む
12	京都工芸繊維大学	4,068人	19年6月1日	奈良博との2館併用	京博	
13	大阪成蹊大学芸術学部	573人	19年6月1日	奈良博との2館併用	奈良博	
14	京都嵯峨芸術大学・京都嵯峨芸術大学短期大学	1,034人	18年7月1日	奈良博との2館併用	京博	
15	京都精華大学	4,231人	18年7月1日	奈良博との2館併用	京博	
16	龍谷大学・龍谷短期大学	19,520人	18年7月1日	奈良博との2館併用	京博	
17	京都女子大学・京都女子短期大学	7,556人	18年7月1日	京博のみ	京博	高等学校含む
18	京都橘大学	3,217人	18年7月1日	奈良博との2館併用	京博	正規生のみ
19	京都教育大学・附属高等学校	2,555人	20年7月1日	奈良博との2館併用	京博	
20	成安造形大学	979人	18年8月1日	京博のみ	京博	正規生のみ
21	京都市立芸術大学	1,078人	20年8月1日	京博のみ	京博	正規生及び研究生等
22	京都大学	22,787人	18年9月1日	奈良博との2館併用	京博	京都アメリカ大学コンソーシアムより受入の学生を含む
23	近畿大学文芸学部	2,294人	18年9月1日	奈良博との2館併用	奈良博	
24	花園大学	2,280人	18年11月1日	京博のみ	京博	
25	奈良先端科学技術大学院大学	1,056人	19年12月1日	奈良博との2館併用	奈良博	正規生及び研究生等
26	大谷大学・大谷短期大学	3,979人	18年12月1日	京博のみ	京博	
27	大阪大学	24,894人	20年12月1日	奈良博との2館併用	奈良博	
28	京都文教大学	2,950人	21年6月1日	奈良博との2館併用	奈良博	
29	京都外国語大学・京都外国語短期大学	4,957人	21年8月1日	奈良博との2館併用	京博	
30	京都府立大学	2,160人	23年7月1日	京博のみ	京博	

【奈良国立博物館】

①加入校数（28校）

	学校名	学生数	入会日	入会内容	備考
1	奈良産業大学　（奈良文化高等学校、奈良学園高等学校、奈良文化女子短期大学、奈良学園登美ヶ丘高等学校）	1,977 人	18 年 10 月 1 日	奈良博のみ	
2	奈良佐保短期大学	277人	18 年 11 月 29 日	同上	
3	天理大学	3,290人	20 年 7 月 1 日	同上	
4	奈良県立大学	656人	21年4月1日	同上	
5	奈良工業高等専門学校	1095人	23年7月1日	同上	
6	奈良教育大学	1,434人	18年4月4日	京博との2館併用	
7	帝塚山大学（帝塚山高校）	6,262人	18 年 5 月 8 日	同上	
8	奈良女子大学	2,280人	18年5月15日	同上	
9	京都嵯峨芸術大学、京都嵯峨芸術大学短期大学部	1,034人	18年6月9日	同上	
10	京都精華大学	4,231人	18年6月28日	同上	
11	京都橘大学	2,829人	18年6月30日	同上	
12	龍谷大学、龍谷大学短期大学部	19,021人	18年6月30日	同上	
13	京都大学	22,787人	18年8月22日	同上	
14	近畿大学　文芸学部、近畿大学大学院文芸学研究科	2,294人	18年8月24日	同上	
15	佛教大学	21,147人	19年4月1日	同上	
16	奈良大学	4,376人	19 年 5 月 2 日	同上	
17	京都工芸繊維大学	4,068人	19年6月1日	同上	
18	学校法人　同志社　（同志社大学、同志社女子大学、同志社高等学校、同志社香里高等学校、同志社女子高等学校、同志社国際高等学校）	38,496人	19年6月1日	同上	
19	大阪成蹊大学 芸術学部	573人	19年6月1日	同上	
20	奈良先端科学技術大学院大学	1,056人	19年11月7日	同上	
21	就実大学　人文科学部	1,405人	20年4月1日	同上	
22	実践女子大学　実践女子短期大学	4,650人	20年5月1日	同上	
23	京都伝統工芸大学校	433人	20年5月1日	同上	
24	京都教育大学	2,555人	20年7月1日	同上	
25	大阪大学	24,894人	20年12月1日	同上	
26	京都文教大学、京都文教短期大学	2,950人	21年6月1日	同上	
27	京都外国語大学、京都外国語短期大学	4,503人	21年8月1日	同上	
28	関西大学、関西大学第一高等学校、関西大学北陽高等学校、関西大学高等部	33,025人	23年6月1日	同上	

②キャンパスメンバーズを対象とした事業

事業名：キャンパスメンバーズカード	
内　　容	キャンパスメンバーズ加入大学の学生のリピート来館を促すことを目的にキャンパスメンバーズカードを作成、 来館毎にスタンプを押印し、３回目と６回目に当館のオリジナルグッズを進呈するスタンプラリーを実施。 キャンパスメンバーズカードと併せて、告知のポスターとカード立てを作成しキャンパスメンバーズ加入大学に配布。

【九州国立博物館】

①加入校数（28校）

	学校名	学生数	入会日	備考
1	九州大学	19,395人	23年4月1日	
2	九州工業大学	6,063人	23年4月1日	
3	九州産業大学	11,651人	22年4月1日	

	学校名	学生数	入会日	備考
4	九州情報大学	756人	23年4月1日	
5	近畿大学産業理工学部経営ビジネス学科	440人	21年4月1日	
6	久留米大学	7,726人	22年4月1日	
7	西南学院大学	8,300人	22年4月1日	
8	日本赤十字九州国際看護大学	486人	23年4月1日	
9	崇城大学芸術学部	265人	23年4月1日	
10	筑紫女学園大学	2,609人	23年4月1日	
11	日本経済大学	2,496人	21年4月1日	
12	福岡大学	20,823人	22年4月1日	
13	福岡教育大学	5,808人	23年6月1日	
14	福岡国際大学	489人	22年4月1日	
15	放送大学福岡学習センター	2,147人	23年4月1日	
16	早稲田大学大学院情報生産システム研究科（北九州キャンパス）	517人	23年4月1日	
17	九州造形短期大学	326人	22年4月1日	
18	筑紫女学園短期大学部	462人	23年4月1日	
19	福岡こども短期大学	465人	21年4月1日	
20	福岡女子短期大学	563人	22年4月1日	
21	東海大学福岡短期大学	187人	23年10月1日	
22	久留米大学医学部附属臨床検査専門学校	147人	22年4月1日	
23	久留米大学附設高等学校	615人	22年4月1日	
24	西南学院高等学校	1,292人	22年4月1日	
25	筑紫女学園高等学校	1,816人	23年4月1日	
26	筑紫台高等学校	1,591人	23年4月1日	
27	福岡大学附属大濠高等学校	1,915人	22年4月1日	
28	福岡大学附属若葉高等学校	1,116人	22年4月1日	

②キャンパスメンバーズを対象とした事業

事業名： 出張講義	
開 催 日	5月10日
開催場所	筑紫台高等学校
出席校	筑紫台高等学校
参加者数	472人
担当研究員数	1人
事業内容	キャンパスメンバーズ加入校の学生を対象に、博物館概要を説明。

事業名：筑紫女学園大学文学部アジア文化学科必修科目「体験-ミュージアムで学ぶアジア」	
開 催 日	4月20日、4月27日、5月11日、5月25日、6月1日、6月8日、6月22日、6月29日、7月6日（計9日）
開催場所	筑紫女学園大学、文化交流展示室、体験型展示室「あじっぱ」
出席校	筑紫女学園大学
参加者数	150人
担当研究員数	1人
事業内容	キャンパスメンバーズ加入校の学生を対象に、博物館の概要について講義、博物館展示見学、博物館体験型展示室での異文化体験を実施。

2-(2)-③ 講座・講演会等の開催実績

平成 24 年 3 月 31 日現在

	東京国立博物館	京都国立博物館	奈良国立博物館	九州国立博物館
回数・人数	**112回・12,664人** 講演会32回・8,224人 列品解説（ギャラリートーク等）76回・3,963人 連続講座1回（3日）・380人 公開講座3回・97人	**15回・1,450人** 土曜講座13回・1199人 夏期講座1回（3日）・193人 社会科教員のための向上講座1回・58人	**28回・3,006人** 特別展等講座15回・1,839人 （公開講座14回　1,660人、シンポジウム1回　179人） 夏季講座1回(3日)・522人 サンデートーク12回・645人	**89回・7,833人** 特別展記念講演会7回・1,500人 特別展シンポジウム1回・263人 講演及びシンポジウム37回・4,269人 ミュージアムトーク43回・1,741人 ミュージアム講座1回・60人
	その他展示に関連する事業 2回・292人	その他展示に関連する事業　5回・366人	その他展示に関連する事業　9回・1,118人	その他展示に関連する事業　47回・48,366人

【東京国立博物館】

1)　講演会　32回　参加者数8,224人

①月例講演会　計13回　参加者数2,457人

開催日	テーマ・講師等	参加者数(人)	担当研究員数(人)	″良い″の割合
4月17日	キリシタンの祈り―ミサとオラショ 講皆: 立教大学名誉教授　皆川達夫	144	2	99.3%
4月23日	キリシタンの祈り・親指のマリアをめぐって 講師：博物館情報課長　高橋裕次、教育講座室主任研究員　神辺知加	141	2	93.2%
5月7日	東京国立博物館所蔵の正倉院裂 講師：特任研究員　澤田むつ代	112	2	89.2%
6月18日	関東大震災からの復興本館ものがたり―国産技術に裏付けられた建築デザイン 講師：デザイン室長　木下史青、居住技術研究所　加藤雅久	136	2	86.0%
7月30日	運慶　その造形と人物像 講師：東洋室長　浅見龍介	380	2	91.0%
8月13日	日本の城―文献史料・絵図からみる城郭の姿 講師：書跡・歴史室主任研究員　高梨真行	275	2	94.0%
9月10日	装飾経－祈りと美の世界－ 講師：副館長　島谷弘幸	215	2	94.0%
10月1日	室町時代の舞楽装束 講師：工芸室主任研究員　小山弓弦葉	90	2	75.9%
11月5日	呉昌碩の書・画・印 講師：列品管理課長　富田淳、書道博物館主任研究員　鍋島稲子氏	196	2	92.4%
12月10日	変革期の風俗表現　－舟木本「洛中洛外図屏風」考－ 講師：絵画・彫刻室長　田沢裕賀	188	2	93.3%
24年1月10日	博物館を楽しむ　トーハクへようこそ 講師：館長　銭谷眞美	151	2	83.6%
24年2月4日	東京国立博物館コレクションの形成と魅力―書を中心に― 講師：副館長　島谷弘幸	197	2	95.6%
24年3月10日	東博の茶室と茶の焼物 講師：学芸研究部長　伊藤嘉章	232	2	96.7%

②記念講演会　計15回　参加者数4,669人

開催日	テーマ・講師等	参加者数(人)	担当研究員数(人)	″良い″の割合
4月30日	ブッダと仏像　～インドの風を感じよう！～/ブッダ展のたのしい見かた 講師：仏像ナビゲーター　廣瀬郁実（仏像ガール(R)）、学芸企画部長　松本伸之	257	2	88.4%
5月22日	写楽の役者絵の成立事情を探る 講師：大和文華館長　浅野秀剛	310	2	89.4%
5月29日	美術史の中の写楽の役者絵 講師：絵画・彫刻室長　田沢裕賀	255	2	95.6%
6月4日	能と仏教 講師：能楽観世流二十六世家元　観世清和	249	2	98.9%
7月24日	密教美術の醍醐味 講師：学芸企画部長　松本伸之	370	2	94.7%
7月29日	「孫文の生きた時代」「曾祖父・梅屋庄吉」 講師：東京大学大学院准教授　川島真、梅屋庄吉曾孫　小坂文乃	230	2	92.4%
7月31日	弘法大師と仁和寺　－阿弥陀仏について－/神護寺創成期の歴史　－弘法大師空海と伝教大師最澄の交友と訣別－ 講師：総本山仁和寺執行・真言宗御室派財務部長　大西智城、高野山真言宗遺迹本山神護寺貫主　谷内弘照	380	2	86.2%
8月27日	心の中に息づく祈り－弘法大師空海－ 講師：総本山醍醐寺座主・真言宗醍醐寺派管長　仲田順和	380	2	90.1%
8月28日	吉野・高野の道/空海大師と讃岐－御誕生所善通寺の歴史と寺宝－ 講師：総本山金剛峯寺執行・高野山真言宗教学部長　村上保壽、総本山善通寺執行・真言宗善通寺派財務部長　坂田知應	336	2	87.7%
10月28日	法然と親鸞 講師：編集工学研究所所長・日本文化研究家　松岡正剛	365	2	73.4%
11月19日	特別展『法然と親鸞　ゆかりの名宝』について 講師：博物館情報課長　高橋裕次	306	2	85.0%
11月26日	法然上人に近づく 講師：奈良国立博物館学芸部長　西山厚	370	2	97.0%

開催日	テーマ・講師等	参加者数(人)	担当研究員数(人)	″良い″の割合
24年1月8日	清朝の礼制文化 講師：貸与特別観覧室主任研究員　猪熊兼樹	240	2	88.3%
24年1月28日	乾隆帝の書画鑑賞 講師：東洋室研究員　塚本麿充	263	2	97.0%
24年3月20日	継続する歴史：ボストンの日本美術 講師：ボストン美術館日本美術課長　　アン・ニシムラ・モース	358	2	92.2%

③テーマ別講演会　計3回　参加者数775人

開催日	テーマ・講師等	参加者数(人)	担当研究員数(人)	″良い″の割合
7月2日	よみがえるヤマトの王墓―東大寺山古墳と謎の鉄刀― 講師：天理大学名誉教授・大阪府立弥生文化博物館館長　　金関恕	350	2	―
24年2月18日	古墳時代終末期の「二つの飛鳥」―大阪府塚廻古墳と奈良県牽牛子塚古墳・越塚御門古墳を中心に―	242	2	97.0%
24年3月24日	桜セミナー　京菓子の歴史と季節のお菓子 講師：株式会社鶴屋吉信　松本国吉	183	2	95.5%

④その他講演会　計1回　参加者数323人

実施日	内容	参加者数(人)	担当研究員(人)	″良い″の割合
24年1月7日	シンポジウム「『清明上河図』の魅力に迫る―東アジア文化史のなかの『清明上河図』」 講師：故宮博物院研究員ほか	323	2	93.1%

2)　列品解説（ギャラリートーク等）　76回　　参加者総数　3,903人

○列品解説　46回　参加者総数　3,142人

開催日	テーマ・講師等	参加者数(人)	担当研究員数(人)
4月5日	十二ヶ月花鳥図 国際交流室研究員　遠藤楽子	62	2
4月6日	漆器に咲く桜 工芸室長　竹内奈美子	72	2
4月6日	国宝　花下遊楽図屏風 教育普及室長　伊藤信二	64	2
4月13日	国宝　花下遊楽図屏風 教育普及室長　伊藤信二	80	2
4月13日	屏風に咲く桜 出版企画室研究員　小野真由美	82	2
4月19日	南太平洋の暮らしと祈り 東洋室研究員　川村佳男	38	2
4月26日	日御碕神社の白糸威鎧 上席研究員　池田宏	55	2
5月10日	11世紀の仏画の名品　国宝 善無畏像・慧文大師像 特別展室主任研究員　沖松健次郎	74	2
5月17日	足利尊氏書状について 書跡・歴史室主任研究員　高梨真行	72	2
5月24日	新羅の馬 平常展調整室長　白井克也	60	2
5月31日	国宝　和歌体十種 博物館情報課長　高橋裕次	64	2
6月7日	和鏡　日本で制作された銅鏡の文様と形 教育普及室長　伊藤信二	51	2
6月14日	褐釉蟹貼付台付鉢をみる 特別展室研究員　横山梓	53	2
6月28日	蒔絵の流れ 工芸室長　竹内奈美子	70	2
7月12日	清原雪信筆花鳥図 出版企画室研究員　小野真由美	60	2
7月26日	東大寺山古墳出土大刀群と金象嵌銘文の世界 列品管理課主任研究員　古谷毅	114	2
8月2日	国宝　宝簡集　巻第二 書跡・歴史室主任研究員　高梨真行	88	2
8月9日	東大寺山古墳の埴輪を読み解く 考古室研究員　山田俊輔	91	2
8月12日	東大寺山古墳の副葬品をめぐって 特任研究員　望月幹夫	53	2
8月16日	愛染明王像について 教育普及室長　伊藤信二	125	2
8月26日	博物館の妖 教育講座室主任研究員　神辺知加	72	2
8月30日	一遍上人伝絵巻　第巻七 平常展調整室研究員　瀬谷愛	95	2
9月2日	朝鮮半島の古墳文化 平常展調整室長　白井克也	35	2
9月6日	古写経の世界 調査研究課長　田良島哲	60	2
9月13日	石に魅せられた先史時代の人びと 考古室研究員　品川欣也	85	2
10月4日	呉昌碩について 列品管理課長　富田淳	76	2

開催日	テーマ・講師等	参加者数(人)	担当研究員数(人)
10月18日	こんなに楽しい中国絵画 東洋室研究員　塚本麿充	71	2
10月25日	古唐津の窯址出土陶片 博物館教育課長　今井敦	45	2
11月1日	江戸幕府御用絵師板谷家のはじまり 平常展調整室研究員　瀬谷愛	52	2
11月15日	国宝　観楓図屏風 出版企画室研究員　小野真由美	115	2
11月22日	頭上に宇賀神をあらわす弁才天像 東洋室長　浅見龍介	101	2
11月29日	長船長光の太刀 酒井元樹　平常展調整室研究員	80	2
12月6日	仮名手本忠臣蔵 絵画・彫刻室長　田沢裕賀	45	2
24年1月17日	上代幡の形式・技法・文様等の変遷 特任研究員　澤田むつ代	55	2
24年1月24日	国宝　秋冬山水図 登録室長　救仁郷秀明	104	2
24年2月4日	童子、旅に出る―「華厳五十五所絵巻」をめぐって― 絵画・彫刻室研究員　土屋貴裕	54	2
24年2月14日	古墳時代の神マツリ 列品管理課主任研究員　古谷毅	88	2
24年2月21日	東京国立博物館の保存修復事業について 保存修復課長　神庭信幸	50	2
24年2月28日	東京国立博物館の保存修復事業について 保存修復課アソシエイトフェロー　鈴木晴彦	59	2
24年3月6日	国宝　白氏詩巻 調査研究課長　田良島哲	50	2
24年3月16日	絵画・書跡作品の保存と修理 保存修復室長　冨坂賢	38	2
24年3月21日	国宝「花下遊楽図屏風」 教育普及室長　伊藤信二	52	2
24年3月21日	着物に咲く桜 工芸室主任研究員　小山弓弦葉	39	2
24年3月27日	屏風修理の事前調査 保存修復室主任研究員　土屋裕子	58	2
24年3月28日	国宝「花下遊楽図屏風」 教育普及室長　伊藤信二	58	2
24年3月28日	屏風に咲く桜 絵画・彫刻室研究員　金井裕子	77	2

○東京藝術大学学生ボランティアによるギャラリートーク　30回　参加者総数821人

・総合文化展　ギャラリートーク　30回　参加者総数821人

実施日	回数	テーマ	氏名	参加者(人)
12月8・15・22、24年1月14･26、2月2日	6	真言密教と一木造―観心寺聖観音立像―	大海奈緒子	186
12月10・17・24、24年2月11・25、3月3日	6	ガラス器にみる西と東―重要文化財・白瑠璃碗と国宝・文禰麻呂骨壺の比較を通じて一	林佳美	159
24年1月11・25、2月5・8･19･22日	6	古瀬戸のやきものにみる日本らしさ一日本画選んだもの・選ばなかったもの一	奥村悠	129
24年1月12・19･27、2月3･10･17日	6	横山大観「五柳先生」一亡き友に捧ぐ金屏風	中尾真希子	187
24年1月15･21･28、2月4･9･15日	6	橋口五葉「髪梳る女」新しい浮世絵美人―	山本由梨	160

3)　連続講座「空海と密教美術」　計1回(3日)　参加者総数380人

開催日	テーマ・講師等	参加者数(人)	担当研究員数(人)	″良い″の割合
8月4日	弘法大師の生涯と思想／ 密教の絵画 講師：高野山大学名誉教授　村上保壽 特別展室主任研究員　沖松健次郎	380	2	89.3%
8月5日	密教と工芸／ 空海と日本の書 講師：教育普及室長　伊藤信二 副館長　島谷弘幸			
8月6日	弘法大師空海と東寺の文化財／ 東寺講堂の立体曼荼羅 講師：教王護国寺文化財保護課長　新見康子 教育講座室長　丸山士郎			

4)　公開講座　計3回　参加者総数　97人

開催日	テーマ・講師等	参加者数(人)	担当研究員数(人)	“良い”の割合
24年3月1・2日	見学ツアー 保存と修理の現場へ行こう 講師：保存修復課長　神庭信幸、保存修復室長　冨坂賢、保存修復室主任研究員　土屋裕子、環境保存室主任研究員 荒木臣紀、環境保存室研究員 和田浩、特任研究員 澤田むつ代	97	2	97.3%

5) その他展示に関連する事業　計2回　参加者総数　292人

実施日	内容	会場	参加者数(人)	担当研究員(人)
5月15日	恩賜上野動物園・国立科学博物館連携事業 上野の山でねずみめぐり	恩賜上野動物園・国立科学博物館・東京国立博物館	25	2
8月12日	特別展記念上映会　孫文100年先を見た男	平成館大講堂	267	2

【京都国立博物館】

1)　土曜講座13回　参加者総数1,199人

全て特別展覧会関連講座

開催日	テーマ	講師	参加者数(人)
4月2日	（京都ミュージアムズ・フォー連携講座）浄土宗の美術	研究員　大原嘉豊	158
4月9日	像内納入品―仏像と古文書―	研究員　羽田聡	142
7月16日	動物の眼ざし、動物への眼ざし―近世絵画編―	連携協力室長　山下善也	85
7月23日	百獣の楽園をめざして　動物たちが幸せに暮らせる動物園に	京都市動物園 獣医師　坂本英房	64
7月30日	動物をみること、表現すること―分類とシンボル	主任研究員　永島明子	97
10月15日	永青文庫の歴史とコレクション	永青文庫学芸員　三宅秀和	133
10月29日	コレクター細川護立―日本近代美術の視点から―	東京文化財研究所企画情報部文化形成研究室長　塩谷純	99
11月12日	細川氏と永源庵―永青文庫の古文書―	研究員　羽田聡	84
11月19日	永青文庫の中国彫刻―コレクションをめぐる人々―	主任研究員　淺湫毅	43
24年1月7日	中国絵画の近代化と日本影響	学芸部長　西上実	74
24年1月21日	東方芸術の奇葩―北京画院美術館 斉白石コレクションの研究と展示―	北京画院美術館斉白石紀念館館長　呉洪亮	81
24年2月4日	洋画における中国と日本の交流―近代上海を中心に―	早稲田大学講師　陸偉榮	57
24年2月25日	海上画派と日本および西洋絵画の影響	上海博物館書画研究部主任　單国霖	82

2)　夏期講座　1回（3日）

開講日	テーマ	講師	参加者数(人)
7月27日	第1講 「京焼陶工と文人―近松門左衛門「生玉心中」に登場する乾山焼―」	工芸室長　尾野善裕	193
	第2講「魯迅が夢みた中国の美術革命」	研究員　呉孟晋	
	第3講「歌絵の世界―和歌と物語にたどる歌心の造形―」	和泉市久保惣記念美術館館長　河田昌之	
7月28日	第1講「紫式部日記と王朝美術の建築・庭園」	文化財管理監　中村康	
	第2講「改琦原図『紅楼夢図詠』について」	学芸部長　西上実	
	第3講「アルカディアの風景―牧人生活をめぐる絵画と文学―」	静岡県立美術館学芸部長　小針由紀隆	
7月29日	第1講「源氏物語の風景」	同志社女子大学名誉教授　朧谷寿	
	宇治市源氏物語ミュージアムと宇治十帖古蹟見学会	引率:企画室長 久保智康、研究員 羽田聡･大原嘉豊	

3)　社会科教員のための向上講座　1回　58人

開講日	テーマ	講師	参加者数(人)
10月25日	講演「美の世界では天下人」 館内実地研修「細川家の至宝　珠玉の永青文庫コレクション」展	主任研究員　淺湫毅	58

4)　その他展示に関連する事業　5回　366人

実施日	内容	会場	参加者数(人)
7月22日	「ジャングル大帝」野外上映会	京都国立博物館庭園	120
7月29日	「ジャングル大帝」野外上映会	京都国立博物館庭園	130
8月2日	小学・中学生向け鑑賞会「博物館 まるまるアニマル！」（講師：水谷研究員）	京都国立博物館特別展示館	42
8月5日	小学・中学生向け鑑賞会「博物館 まるまるアニマル！」（講師：水谷研究員）	京都国立博物館特別展示館	33
11月10日	京都国立博物館　文化大使・竹下景子さんと行く特別展覧会「細川家の至宝―珠玉の永青文庫コレクション―」観覧ツアー	京都国立博物館特別展示館	41

【奈良国立博物館】

1)　特別展等講座　15回　　参加者総数　1,839人

開催日	テーマ	講師	参加者数(人)
4月16日	「中国古代の建築－七層楼閣に見る明器の世界－」	学芸部研究員　岩戸晶子	68
4月30日	「中国文明の考古学」	京都大学教授　岡村秀典	186
5月14日	「宝冠仏の系譜－龍門石窟の彫像を中心に」	学芸部企画室長　稲本泰生	103
5月28日	「正倉院宝物と河南省の文物」	学芸部長補佐　内藤栄	120
7月30日	「與喜天満神社の歴史と信仰」	学芸部情報サービス室長　野尻忠	101
8月6日	「高僧伝絵としての玄奘三蔵絵」	京都国立博物館名誉会員　若林準治	194
8月20日	「藤田傳三郎と藤田美術館－玄奘三蔵絵をはじめとするコレクションについて－」	藤田美術館学芸員　前野絵里・藤田清	187
8月27日	「與喜天満神社の神像について」	学芸部長補佐　岩田茂樹	82
10月29日	「金銀鈿荘唐大刀と奈良時代の刀剣をめぐって」	東京藝術大学・大学美術館教授　原田一敏	145
10月30日	「国家珍宝帳と除物」	宮内庁正倉院事務所長　杉本一樹	179
	「東大寺献物帳と王羲之書法」	神戸大学名誉教授　魚住和晃	

開催日	テーマ	講師	参加者数(人)
	「献物帳とその時代」	奈良文化財研究所都城発掘調査部史料研究室長 渡辺晃宏	
	「宝物献納と布施行」	学芸部企画室長　稲本泰生	
	パネル・ディスカッション「正倉院宝物のはじまりと国家珍宝帳」	杉本一樹・魚住和晃・渡辺晃宏・稲本泰生	
11月3日	「正倉院宝物にみられる経帙をめぐって」	学芸部研究員　永井洋之	79
11月5日	「正倉院宝物にみる染め」	宮内庁正倉院事務所保存課保存科学室員　中村力也	86
11月12日	「香と仏教」	学芸部研究員　清水健	146
24年1月7日	「春日社旧社家の大東家文書と『皇年代記』」	東京大学史料編纂所助教授　藤原重雄	68
24年2月11日	「不退の行法　東大寺修二会（お水取り）」	華厳宗管長・東大寺別当　北河原公敬	95

2)　夏季講座　第40回「玄奘三蔵とシルクロード」　1回（3日間）

開講日	テーマ	講師	参加者数(人)
8月24日	「玄奘三蔵はるかなる旅－唯識思想を求めて－」	駒澤大学仏教学部准教授　吉村誠	522
	「奈良時代における大般若経（玄奘訳）の受容－藤田美術館・薬師寺ほか所蔵の大般若経（魚養経）を中心に」	学芸部情報サービス室長　野尻忠	
	「日本中世における玄奘の位置」	群馬県立女子大学文学部教授　市川浩史	
8月25日	「玄奘の将来図像と東アジアの仏教美術」	学芸部企画室長　稲本泰生	
	「玄奘がみたインドの仏」	九州国立博物館学芸部企画課長　小泉惠英	
	「玄奘の見た未知なる仏教世界－中央アジアを中心に－」	龍谷大学文学部教授　入澤崇	
	「玄奘取経伝説と明恵上人」	東北大学東北アジア研究センター教授　磯部彰	
8月26日	「玄奘の画像と伝記絵」	元上智大学国際教養学部教授　米倉迪夫	
	「憧憬の天竺－玄奘三蔵絵の世界」	学芸部保存修理指導室長　谷口耕生	

3)　サンデートーク　12回　参加者総数　645人

実施日	テ ー マ	解　説　者	参加者数(人)
4月17日	「牛玉の話」	学芸部長補佐　内藤栄	47
5月15日	「男はなぜ烏帽子を被るのか－髪型と被り物の文化史」	学芸部研究員　斎木涼子	65
6月19日	「山形の話－作り物閑話の弐」	学芸部研究員　清水健	28
7月17日	「鬼か龍か－統一新羅の鬼瓦－」	学芸部研究員　岩戸晶子	74
8月21日	「空海の伝えた絵画」	学芸部研究員　原瑛莉子	86
9月18日	「法然上人周辺の絵画」	学芸部研究員　北澤菜月	50
10月16日	「茶室・八窓庵をのぞいてみましょう」	学芸部教育室長　吉澤悟	60
11月20日	「二躰の僧形坐像－その像主をめぐって－」	学芸部長補佐　岩田茂樹	35
12月18日	「写経生の労務管理」	学芸部情報サービス室長　野尻忠	49
24年1月15日	「吉祥天と金光明経の美術」	学芸部保存修理指導室長　谷口耕生	57
24年2月19日	「脚と格狭間」	学芸部研究員　永井洋之	48
24年3月18日	「奈良国立博物館の近代建築―仏教美術資料研究センター（旧奈良県物産陳列所）の過去と現在―」	学芸部資料室長　宮崎幹子	46

4)　その他展示に関連するイベント

「中国文明展」・「玄奘三蔵展」・「正倉院展」関連　9回　参加者総数　1,118人

実施日	内容	会場	参加者数(人)
4月29日	葉衛陽＆さくら親子　中国琵琶競演　（コンサート）	講堂	134
7月23日	玄奘三蔵フォーラム	奈良県新公会堂能楽ホール	390
8月13日	親と子のワークショップ「そんごくうのおはなし絵巻を作ろう」（体験イベント）	講堂	59
8月16日～21日	ならファンタージア～SANZO　（観光イベント）	なら仏像館西側広場	―
10月15日	「香木の魅力」　～シルクロードの香りをそえて～　（講演会） 講師：鳥毛逸平（株式会社日本香堂取締役）	講堂	134
10月29日 ～11月14日	正倉院展作文コンクール入賞作品展示	地下回廊	―
10月30日	正倉院学術シンポジウム２０１１ 「正倉院宝物のはじまりと国家珍宝帳」	ならまちセンター市民ホール	179
11月3日	第63回正倉院展　親子鑑賞会 小学生とその保護者を対象に正倉院展の見所を解説。展覧会を自由観覧。 講師：内藤　栄　（奈良国立博物館学芸部長補佐）	講堂	189
12月10日	特別陳列「おん祭と春日信仰の美術」関連イベント「相撲と神事」 講師：杉山邦博氏	講堂	33

【九州国立博物館】

1)　特別展記念講演会　7回　　参加者総数　1,500人

開催日	テーマ	講師	参加者数(人)
7月 9日	「よみがえる国宝」展関連 特別展記念講演会「日本のこころをつたえる―文化財の保存と修理―」 （会場：そぴあしんぐう（新宮町））	博物館科学課保存修復室長　藤田励夫	300
7月17日	「よみがえる国宝」展関連 特別展記念講演会「まもる、つたえる、その手法―文化財の修理と復元―」 （会場：筑紫野市文化会館（筑紫野市））	副館長　森田稔	200
7月23日	「よみがえる国宝」展関連 特別展講演会　守り伝える日本の宝 「寺宝を守り継ぐ―神護寺の歴史と宝物 」 「冷泉家八百年―日本文化の継承―」	高野山真言宗遺迹本山高雄山神護寺貫首　谷内弘照 （公財）冷泉家時雨亭文庫　理事長　冷泉為人	200

開催日	テーマ	講師	参加者数(人)
7月24日	「よみがえる国宝」展関連 特別展記念講演会「国宝のはなし」 （会場：NHK福岡放送局（福岡市））	館長　三輪嘉六	200
7月30日	「よみがえる国宝」展関連 特別展記念講演会「日本の宝をまもる、美をつたえる―文化財の保存と修理―」 （会場：ミリカローデン那珂川（那珂川町））	博物館科学課長　本田光子	250
10月16日	「草原の王朝　契丹　美しき3人のプリンセス」展関連 特別展記念講演会「慶陵と慶州白塔―契丹・章聖皇太后の祈りと生涯」	岡山大学教授　古松崇志	50
24年1月22日	「細川家の至宝～珠玉の永青文庫コレクション～」展関連 特別展記念講演会「細川家　美と戦いの700年」	永青文庫理事長・細川家18代当主　細川護熙	300

2)　特別展シンポジウム　1回　　参加者数　263人

開催日	テーマ	講師	参加者数(人)
24年3月10日	国際シンポジウム 百済文化と古代日本～百済研究の新展開～ 「半跏思惟像の美―百済の半跏思惟像を中心に」 「百済寺院の展開と日本の初期寺院」 「考古資料から考える錦江流域の日韓古代文化交流」	韓国国立中央博物館展示課長　関丙贊 韓国国立中央博物館学芸研究官　李炳鎬 韓国国立全州博物館学芸研究室長　金鍾萬	263

3)　講演及びシンポジウム等　37回　　参加者数　4,269人

開催日	テーマ	講師	参加者数(人)
4月 9日	「黄檗」展関連 法話「黄檗再発見」～日本文化発展に果たした役割とその魅力～	黄檗山宝蔵院住職　住谷瓜頂師	110
4月10日	「黄檗」展関連 講演会「普茶料理講演会」	元萬福寺典座　田谷昌弘師	100
4月17日	「黄檗」展関連 講座「范道生と黄檗の仏像」	展示課主任研究員　楠井隆志	42
4月23日	「黄檗」展関連 講座「長崎と黄檗文化～興福寺を中心として～」	長崎史談会会長　原田博二	180
4月23日	トピック展示「日本とタイ―ふたつの国の巧と美」関連 アクロス・文化学び塾 「日本とタイ- ふたつの国の巧と美」展講座	文化財課主任研究員　原田あゆみ	26
5月 1日	トピック展示「日本とタイ―ふたつの国の巧と美」関連 講演会「日本とタイ―ふたつの国の文化の違い」	大阪外国語大学名誉教授　赤木功	40
5月 3日	「黄檗」展関連 講座「黄檗肖像画と長崎のお絵像」	北九州市立大学名誉教授　錦織亮介	35
5月 7日	「黄檗」展関連 法話「黄檗の文人趣味について」	大阪瑞龍寺住職　中村秀晴師	65
5月14日	トピック展示「日本とタイ―ふたつの国の巧と美」関連 講座「タイの仏（ほとけ）日本の仏」	文化財課主任研究員　原田あゆみ	30
5月15日	「黄檗」展関連 法話と座禅会「座禅と提唱」	長崎霊源院住職　松本普成師	40
7月 2日	「よみがえる国宝」展関連 文化財保存交流セミナーⅠ 「曝涼はIPMのルーツ？-虫干しにかわるものは何か-」 「文化財害虫各論」	博物館科学課長　本田光子 (公財)文化財虫害研究所　小峰幸夫	38
7月 8日	「よみがえる国宝」展関連 展示解説講座 ～しっとこ九博～ 『よみがえる国宝～守り伝える日本の美～』（会場：筑紫野市）	博物館科学課長　本田光子	70
7月30日	全国縦断古代史講演会　第16回明日香村まるごと博物館フォーラム 「斉明天皇と飛鳥～牽牛子塚古墳の発掘から」 「最近の発掘成果と飛鳥の遺跡」 「うたと時代―斉明朝から―」 「考古学からみた斉明天皇陵」	奈良県明日香村教育委員会主任技師　西光慎治 奈良大学教授　上野誠 大阪府立近つ飛鳥博物館長　白石太一郎	300
7月31日	「よみがえる国宝」展関連 文化財保存交流セミナーⅡ　日本の宝を守る、技とこころ 「展示作品の保存修理事例解説」 「彩色や刺繍糸、技法から見た天寿国繍帳の変遷」 「神護寺山像の保存修理をめぐって」 「文化財を守る技を継ぐ―北村大通の遺したもの―」	東京国立博物館　澤田むつ代 国宝修理装潢師連盟理事長　岡岩太郎 漆芸家：重要無形文化財保持者・選定保存技術保持者　北村昭斎	238
8月 6日	「よみがえる国宝」展関連 文化財保存交流セミナーⅡ　日本の宝を守る、蔵を継ぐ 「展示作品の保存修理事例解説」 「宮内庁書陵部の資料管理」 「正倉院宝物の保存」 「正倉院―一つの場所の物語―」	宮内庁書陵部図書寮文庫　中村一紀 宮内庁正倉院事務所　成瀬正和 宮内庁正倉院事務所長　杉本一樹	187
8月 7日	「よみがえる国宝」展関連 文化財保存交流セミナーⅡ　日本の宝を守る、美を伝える 「展示作品の保存修理事例解説」 「正倉院宝物の模造」 「皇室の名宝をまもる―皇后陛下の小石丸と修理事業の成果」 「茶陶修理と漆のわざ」	宮内庁正倉院事務所　西川明彦 宮内庁三の丸尚蔵館　太田彩 漆芸家：重要無形文化財保持者　室瀬和美	255

開催日	テーマ	講師	参加者数(人)
8月12日	「よみがえる国宝」展関連 NHKネットクラブ特別鑑賞会 「よみがえる国宝―まもり伝える日本の美」	博物館科学課長　本田光子	125
8月21日	「よみがえる国宝」展関連 文化財保存交流セミナーⅢ　　日本の宝を守る、文化を伝える 「和本リテラシーのすすめ」	九州大学名誉教授　中野三敏	110
9月30日	「草原の王朝　契丹　美しき3人のプリンセス」展関連 ふるさと館ちくしの展示解説講座「契丹と日本」	企画課研究員　市元塁	40
10月 1日	「草原の王朝　契丹　美しき3人のプリンセス」展関連 特別展企画　契丹大学　秋季講座　第1回 「契丹文化への招待」 「壁画から見た契丹社会」	企画課研究員　市元塁 文化財課長　臺信祐爾	161
10月 8日	「草原の王朝　契丹　美しき3人のプリンセス」展関連 特別展企画　契丹大学　秋季講座　第2回 「唐と契丹　華麗なる金銀器」 「奇跡の彩色木棺を救え！－日本・内モンゴルの共同保存事業」	東京藝術大学大学美術館教授　原田一敏 博物館科学課保存修復室長　今津節生	145
10月10日	「草原の王朝　契丹　美しき3人のプリンセス」展関連 特別展企画　契丹大学　秋季講座　特別講義 「日本と契丹―11世紀の仏教遺産」	平等院住職　神居文彰	195
10月22日	「草原の王朝　契丹　美しき3人のプリンセス」展関連 特別展企画　契丹大学　秋季講座　第3回 「陶磁器が語る草原の王朝」 「蒼天にそびえる白亜の仏塔」	展示課研究員　遠藤啓介 企画課長　小泉惠英	147
10月22日	トピック展示「琉球と袋中上人展―エイサーの起源をたどる―」関連 アクロス・文化学び塾 「琉球と袋中上人展―エイサーの起源をたどる―」展講座	博物館科学課保存修復室長　藤田励夫	21
11月13日	トピック展「琉球と袋中上人展―エイサーの起源をたどる―」関連 講演会「袋中上人とエイサー・檀王法林寺」 「檀王法林寺―京都と沖縄の架け橋になって―」 「袋中上人と檀王法林寺の宝物」 「エイサーの過去・現在・未来」	檀王法林寺住職　信ケ原雅文 伝統文化財保存研究所代表　石川登志雄 沖縄県立博物館・美術館主幹　園原謙	70
11月25日	平成23年度　第4回 九州国立博物館文化財保存交流セミナー 「大英博物館　オーエン・E・ケリー　日本での研修について」	大英博物館日本絵画保存修理技術者　オーエン・E・ケリー	13
24年1月14日	公開シンポジウム　「市民と共にミュージアムIPM」 特別講演 「ある公立美術館で“IPM” が普通のことになるまで」 「スタートした文化財IPM コーディネータ資格の意義」	愛知県美術館長　村田眞宏 (公財) 文化財虫害研究所理事長　三浦定俊	107
24年1月15日	「細川家の至宝～珠玉の永青文庫コレクション～」展関連 講演会（会場:えーるピア久留米（久留米市））	企画課研究員　川畑憲子	172
24年1月27日	「細川家の至宝～珠玉の永青文庫コレクション～」展関連 展示解説講座 ～しっとこ九博～ 『細川家の至宝～珠玉の永青文庫コレクション～』（会場：筑紫野市）	企画課研究員　川畑憲子	72
24年1月28日	「細川家の至宝～珠玉の永青文庫コレクション～」展関連 講演会「細川家と永青文庫の名品」	永青文庫館長　竹内順一	170
24年1月29日	「細川家の至宝～珠玉の永青文庫コレクション～」展関連 講演会（会場:メイトム宗像（宗像市））	展示課研究員　酒井芳司	123
24年1月29日	九州歴史資料館開館1周年記念シンポジウム 「祈りの世界―北部九州の霊山と経塚」 「浄土への祈り－経塚が語る永遠の世界－」 「創建縁起からみた北部九州の霊山」 「北部九州の経塚」 「近畿の経塚とその影響」 「経塚と仏像－国玉神社の銅筥にみる－」	奈良文化財研究所国際遺跡研究室長　杉山洋 展示課研究員　酒井芳司 福岡県世界遺産登録推進室技術主査　森井啓次 国立歴史民俗博物館准教授　村木二郎 九州歴史資料館学芸員　井形進	170
24年2月7日	文化庁海外展「日本　仏教美術－琵琶湖周辺の仏教信仰」関連 講演会「日本　仏教美術－琵琶湖周辺の仏教信仰」 （会場：韓国国立中央博物館）	井上ひろ美（琵琶湖文化館） 根立研介（京都大学教授）	150
24年2月11日	「細川家の至宝～珠玉の永青文庫コレクション～」展関連 講演会（会場:北九州市立商工貿易会館（北九州市））	企画課研究員　川畑憲子	172
24年2月12日	「細川家の至宝～珠玉の永青文庫コレクション～」展関連 講演会「どこが見どころ？細川家の至宝展」	企画課研究員　川畑憲子 展示課研究員　酒井芳司	244
24年3月6日	平成23年度　第5回 九州国立博物館文化財保存交流セミナー 「東日本大震災の文化財レスキュー事業」	東京文化財研究所所長被災文化財等救援委員会委員長　亀井伸雄	57
24年3月21日	平成23年度　第6回 九州国立博物館文化財保存交流セミナー 「鷹島沖海底遺物から元寇の実態を探る」 「鷹島海底発見の沈没船と遺物」 「元時代の文物から見た元寇遺物」 「元時代の武器から見た元寇遺物」	琉球大学教授　池田栄史 内蒙古文物考古研究所所長　陳永志 内蒙古博物院研究員　于宝東	49

4)　ミュージアムトーク　43回　参加者総数　1,741人

・担当研究員数　延べ　43人

・事業内容　文化交流展示室にて担当の研究員が作品に関する解説を行った。
（原則として毎週火曜日の午後3時より15～30分間）

実施日	テーマ	解 説 者	参加者数(人)
4月5日	魅惑のパルメット	企画課研究員　市元塁	27
4月12日	国宝　琉球国王尚家関係資料の保存修理について	博物館科学課保存修復室長　藤田励夫	26
4月19日	奈良の大仏再建と後白河法皇	展示課研究員　酒井芳司	50
4月26日	文化財と科学調査	文化財課主任研究員　鳥越俊行	40
5月10日	トピック展「日本とタイ　ふたつの国の巧と美」について	文化財課主任研究員　原田あゆみ	30
5月17日	燃燈仏本生・仏の最後の前生の物語	企画課長　小泉惠英	50
5月24日	弥生の赤	博物館科学課長　本田光子	40
5月31日	もう一つの銅鐸史 － 尾張徳川江戸屋敷のお宝展示 －	文化財課資料管理室長　小林公治	30
6月7日	弥生青銅器の大型化	展示課研究員　坂元雄紀	55
6月14日	博物館の環境について	博物館科学課アソシエイトフェロー　秋山純子	30
6月21日	中国の彫漆	企画課研究員　川畑憲子	55
6月28日	古代の鏡に触れて見よう	博物館科学課環境保全室長　今津節生	40
7月5日	仏像の材質	文化財課長　臺信祐爾	46
7月12日	「中国地方との交流」解説 － 鉄を中心に －	展示課主任研究員　進村真之	53
7月26日	仏像を科学する	展示課主任研究員　楠井隆志	43
8月2日	斉明天皇と大宰府観世音寺	展示課長　赤司善彦	63
8月9日	槍先形の祭器	博物館科学課主任研究員　志賀智史	60
8月23日	弥生時代の王	展示課研究員　坂元雄紀	60
8月30日	田中丸コレクションの魅力	展示課研究員　遠藤啓介	25
9月6日	金銀の島、日本	文化財課主任研究員　鳥越俊行	40
9月13日	断ち切られた病草紙	企画課研究員　森實久美子	40
9月27日	タッチ　ザ　古墳時代	企画課文化交流展室長　河野一隆	38
10月4日	水墨画の「筆」と「墨」　（トピック展示「館蔵水墨画名品展」解説１）	企画課主任研究員　畑靖紀	68
10月18日	東アジアの文化交流と水墨画　（トピック展示「館蔵水墨画名品展」解説２）	企画課主任研究員　畑靖紀	46
10月25日	国宝 来国光 － 刀の魅力 －	文化財課アソシエイトフェロー　末兼俊彦	43
11月1日	琉球と袋中上人	博物館科学課保存修復室長　藤田励夫	39
11月8日	「琉球と袋中上人展」の彫刻	展示課主任研究員　楠井隆志	35
11月15日	「九大百年の宝物展」の見どころ	展示課主任研究員　進村真之	38
11月22日	暦をつくる	展示課研究員　酒井芳司	32
11月29日	狩人の道具・石器 － 石の匠の技をみる －	九州歴史資料館　杉原敏之	40
12月4日	狩人の道具・石器 － 石の匠の技をみる －	九州歴史資料館　杉原敏之	38
12月6日	輸出された古伊万里	展示課研究員　遠藤啓介	30
12月13日	海底のタイムカプセル － 沈没船と蒙古襲来 －	博物館科学課環境保全室長　今津節生	35
12月20日	輸出螺鈿漆器の謎	文化財課資料管理室長　小林公治	28
24年1月3日	国宝　初音の調度について	企画課研究員　川畑憲子	30
24年1月17日	涅槃図大解剖	企画課研究員　森實久美子	35
24年1月24日	装飾古墳の秘密	企画課文化交流展室長　河野一隆	32
24年1月31日	農耕のはじまり	展示課長　赤司善彦	35
24年2月14日	日本の埴輪と中国の人物俑	企画課研究員　市元塁	41
24年2月21日	お墓の中の色	博物館科学課長　本田光子	45
24年2月28日	赤色にこだわる縄文人	博物館科学課主任研究員　志賀智史	35
24年3月6日	インドの神像	企画課長　小泉惠英	40
24年3月13日	カガミよ鑑（かがみ）、一番立派なお殿様は誰？	企画課研究員　鷲頭桂	35

5)　ミュージアム講座　1回　　参加者数　60人

開催日	テーマ	講師	会場	参加者数（人）
7月23日	ミュージアムトーク・特別回 銘文塼に見る日中韓資料	館長　三輪嘉六	ミュージアムホール	60

6)　その他展示に関連するイベント　47回　　参加者数　48,366人

展覧会名	期間	内容	会場	参加者数(人)
文化交流展	4月30日（2回）	トピック展示「日本とタイ―ふたつの国の巧と美」関連イベント ワークショップ　久留米絣の糸と腰機でコースターを織ってみよう！	研修室	14
	5月5日	トピック展示「日本とタイ―ふたつの国の巧と美」関連イベント 微笑みの国からやってくる魅惑のタイ舞踊	ミュージアムホール	340
	11月13日	トピック展示「京都・檀王法林寺開創400年記念　琉球と袋中上人展―エイサーの起源をたどる―」関連イベント うるま市無形民俗文化財「平敷屋エイサー」（平敷屋エイサー保存会）	エントランス	800
	12月4日	トピック展示「発掘された日本列島2011地域展　九州最古の狩人とその時代」関連イベント ワークショップ　「石の匠に学ぶ―石器作り体験―」	研修室	38
特別展「黄壁」	4月1日～5月22日	巡照朝課（じゅんしょうちょうか）	特別展示室／エントランス	1,034
	4月 3日・10日・17日・24日・5月4日（5回）	茶席	茶室／研修室	968
	4月 3日・10日・17日・24日・5月3日～8日・15日（11回）	厄よけストラップ手づくり教室	エントランス	157
	4月 3日	開山忌（かいさんき）	ミュージアムホール	400
	4月 3日	蛇踊り	エントランス	600
	4月16日	中国茶振る舞い	エントランス	200

展覧会名	期間	内容	会場	参加者数(人)
	4月16日	中国茶ミニ講座	研修室	47
	4月16日	瓢箪笛（ひょうたんぶえ）コンサート	ミュージアムホール	200
	4月26日～5月8日	京の老舗　名産品展	エントランス	40,000
	5月 1日	二胡コンサート	ミュージアムホール	200
	5月 4日	声明（しょうみょう）「梵唄（ぼんばい）」	ミュージアムホール	700
	5月15日	フルートコンサート「隠元禅師の夢ー瞑想のひととき」	エントランス	140
特別展「よみがえる国宝」	7月 3日	トークショー「古美術のススメ～修復文化財に見る匠たち～」	ミュージアムホール	250
	7月 9日、30日、8月13日（3回）	親子で楽しむバックヤードツアー「大きな博物館の探検！」	バックヤード	106
	8月21日	子どもイベント みて！さわって！！岩絵具のふしぎな世界	研修室	40
	8月21日	ワークショップ　古本の虫と九博の杜の虫をくらべてみよう！ 「江戸の本の虫たちー和本の扱い・観察・虫干しー」	研修室	40
	8月23日	ワークショップ　古本の虫と九博の杜の虫をくらべてみよう！ 「九博の杜の虫たち」	研修室	40
特別展「契丹」	10月 8、9、10日（3回）	契丹のいまを知る。（ゲル&衣装体験コーナー）	エントランス	300
	10月29日、30日（2回）	特別上映会　「楊家将伝記　兄弟たちの乱世」	ミュージアムホール	340
特別展「細川家の至宝」	24年1月 8日	ワークショップ「剣豪・宮本武蔵になろう！」	ミュージアムホール	62
	24年1月 9日	「聴いて見て楽しむ、細川展と能」	ミュージアムホール	300
	24年1月29日、2月19日（2回）	くまモンin九州国立博物館	エントランス	1,050

2-(2)-④ 児童生徒を対象とした教育普及事業

【東京国立博物館】

1) みどりのライオンプロジェクト

開催期間	4月1日～平成24年3月31日
開催場所	本館20室
入場者数	112,500人　（※本館20室で実施した体験型プログラム参加者数を計数）
担当研究員数	7人
事業内容	みんなで楽しむ教育普及スペース「みどりのライオン」を運営。パネル展示により館全体のガイダンス機能をもたせるとともに、各種レクチャーや体験型プログラム、製作工程模型展示などを児童生徒から一般まで幅広い層に向けて展開。博物館へのアプローチから作品の鑑賞を深めるためのプログラムまで、伝統文化の理解促進に寄与するさまざまな教育普及活動を実施した。また、総合文化展鑑賞の手引きとして、ワークシート3種を制作し、通年配布した。

2)「親と子のギャラリー」

「博物館できもだめし－妖怪、化け物　大集合－」	
開催期間	7月20日～8月28日（36日間）
開催場所	本館特別2室
入場者数	70,726人
担当研究員数	1人
事業内容	家族での来館のきっかけ、および、総合文化展鑑賞の一助となることを目的に、わかりやすいテーマ設定のもと時代やジャンルを超えた作品を展示する教育普及的展示を夏休みにあわせて実施。古くから人びとの生活に根づいていた妖怪の背景や展開をわかりやすく伝えることを目指した。日本人の想像力の豊かさに触れ、その想像力を生かして作られた「ほんもの」の作品の鑑賞を通して、歴史のなかで培われてきた日本文化のすばらしさを伝える。関連ワークショップも実施。
関連事業	・ファミリーワークショップ「博物館できもだめし」　8月20日　（※詳細は下記 3)③ワークショップ　を参照）

3) 体験型プログラムの実施　　参加者数計 119,186人、　観覧者数計 117,215人

① 平常展示関連体験型プログラム　　参加者数計　94,609人

ハンズオン体験型展示	平常陳列「暮らしの調度」関連「日本のもようでデザインしよう」	
	期　　間	4月5日～4月30日、6月14日～24年3月31日
	開催場所	本館20室
	参加者数	88,221人
ハンズオン体験型展示	特集陳列「天翔ける龍」（本館特別2室）関連「東博龍めぐり＆掛軸ふうカレンダー」	
	期　　間	24年1月2日～1月3日
	開催場所	本館20室
	参加者数	4,715人
ハンズオン体験型展示	表慶館トラベル　アジアの香り	
	期　　間	10月1日～12月24日毎週土曜日
	開催場所	表慶館エントランス
	参加者数	1,147人
ハンズオン体験型展示	表慶館トラベル　まぼろしの作品調査書	
	期　　間	10月2日～12月25日毎週日曜日
	開催場所	表慶館エントランス
	参加者数	526人

② 制作工程模型展示　　観覧者数計　117,215人（※本館20室にて実施した体験型プログラム参加者数と一体化してカウント）

ハンズオン体験型展示	「悉皆金色　阿弥陀如来像ができるまで」	
	期　　間	23年1月2日～4月3日
	開催場所	本館20室
	観覧者数	（4月1日～3日は、ボランティア活動休止のため、データなし）
ハンズオン体験型展示	「盧舎那仏のひみつ」	
	期　　間	4月5日～6月12日
	開催場所	本館20室
	観覧者数	28,936人
ハンズオン体験型展示	「国宝・孔雀明王像ができるまで」	
	期　　間	6月14日～8月21日
	開催場所	本館20室
	観覧者数	22,151人
ハンズオン体験型展示	「国宝・仏頭ができるまで」	
	期　　間	8月23日～24年2月5日
	開催場所	本館20室
	観覧者数	51,834人
ハンズオン体験型展示	「裏彩色　隠れた色彩の効果」	
	期　　間	24年2月7日～5月13日
	開催場所	本館20室
	観覧者数	14,294人（24年3月31日までの観覧者数）

③ ワークショップ　　回数 16回　参加者数計 287人

ワークショップ及び関連事業	総合文化展「屏風と襖絵」（本館7室）関連 ファミリーワークショップ「屏風体験！」（事前申込制）	
	期　　間	5月21日
	開催場所	応挙館
	参加者数	14人

	担当研究員数	3人
ワークショップ及び関連事業	総合文化展「暮らしの調度」(本館8室)関連 おとなのためのワークショップ「季節のもようのお皿作り」（事前申込制）	
	期　　間	①②6月25日、③④6月26日 ※①23年3月12日、③3月13日に予定していた同内容のワークショップの振替実施2回分を含め計4回実施
	開催場所	平成館小講堂
	参加者数	①13人　②18人　③14人　④18人
	担当研究員数	3人
ワークショップ及び関連事業	親と子のギャラリー「博物館できもだめし　－妖怪、化け物　大集合－」(本館特別2室)関連 ファミリーワークショップ「博物館できもだめし」（事前申込制）	
	期　　間	8月20日
	開催場所	平成館小講堂
	参加者数	26人
	担当研究員数	3人
ワークショップ及び関連事業	総合文化展「日本の考古」（平成館考古展示室）関連 ファミリーワークショップ「考古学者に挑戦！」（事前申込制）	
	期　　間	①10月15日、②10月16日
	開催場所	平成館小講堂
	参加者数	①24人、②27人
	担当研究員数	3人
ワークショップ及び関連事業	総合文化展「屏風と襖絵」（本館7室）関連 ファミリーワークショップ「屏風体験！」（事前申込制）	
	期　　間	11月19日　①10時～　②14時～
	開催場所	応挙館
	参加者数	①12人　②2人
	担当研究員数	3人
ワークショップ及び関連事業	総合文化展「金工」（本館13室）関連 ファミリーワークショップ「からだが動くエビを作ってみよう」（事前申込制）	
	期　　間	①24年1月28日、②24年1月29日
	開催場所	平成館小講堂
	参加者数	①16人、②34人
	担当研究員数	3人
ワークショップ及び関連事業	日本美術の流れ「暮らしの調度」（本館8室）関連 おとなのためのワークショップ「オリジナル貝合せを作ってみよう」（事前申込制）	
	期　　間	①24年3月10日、②24年3月11日
	開催場所	平成館小講堂
	参加者数	①14人、②18人
	担当研究員数	3人
ワークショップ及び関連事業	日本美術の流れ「暮らしの調度」（本館8室）関連 ファミリーワークショップ「貝合せに挑戦」（事前申込制）	
	期　　間	①24年3月10日、②24年3月11日
	開催場所	平成館小講堂
	参加者数	①14人、②23人
	担当研究員数	3人

④ 特別展関連体験型プログラム　　参加者数計　24,290人

ワークショップ及び関連事業	特別展「手塚治虫のブッダ展」関連　ワークショップ「ものがたりを描く　仏像×漫画×アニメーション」	
	期　　間	6月18日
	開催場所	本館20室
	参加者数	11人
ハンズオン体験型展示	特別展「写楽」関連　「写楽に挑戦！」	
	期　　間	5月1日～6月12日
	開催場所	本館20室
	参加者数	24,279人

4) 東博スクールプログラム

期　　間	年間
開催場所	全館対象
参加者数	小学校 17校 781人／中学校 105校 5,817人／高校 30校 1,112人 計152校7,710人　※児童・生徒のみを計数。この他引率教員が493名 盲学校のためのスクールプログラム 3校　23名
担当研究員数	3人
事業内容	総合的な学習などでより充実した見学ができるよう、ガイダンスや対話形式の伝統文化理解のための鑑賞教育プログラムを児童・生徒に実施した。スクールプログラムのパンフレットは近隣県の学校へ配布し、全国で閲覧・ダウンロードできるよう、ウェブサイトにも掲載した。 視覚障害者の鑑賞支援プログラムとして今年度より「盲学校のためのスクールプログラム」の受入実施を開始した。

5) 職場体験の受入

期　　間	年間
開催場所	全館対象
参加者数	中学校 20校 58人／高校 4校 46人、計24校104 人

担当研究員数	3名
事業内容	学校教育活動の一環として実施される職場体験の受入を行った。生涯学習ボランティアとともに、お客様案内やアクティビティの補助等、お客様サービスに関わる業務の体験をする。要項は近隣学校へ配布し、全国で閲覧・ダウンロードできるよう、ウェブサイトにも掲載した。

6) 教員を対象とした事業の実施

○ 教員鑑賞会の実施

期　　間	①8月2日（特別展「空海と密教美術展」）、②8月10日（東博スクールプログラム）、 ③11月4日（特別展「法然と親鸞　ゆかりの名宝」）、④24年1月22日（特別展「北京故宮博物院200選」）
開催場所	①②③④平成館大講堂、小講堂、本館20室
参加者数	①405人、②29人、③218人、④228人　　計880人
担当研究員数	5人
事業内容	学校との連携を考慮した教員を対象のプログラム。スクールプログラムを中心とした博物館利用方法、特別展観覧の手引きとして作成したジュニアガイドの活用方法の説明とともに、展示の解説を行った上で実際に展示を観覧することで、博物館利用についての興味関心、理解を深める。また、指導要領と関連した授業案を提案した。

○ 全国高等学校美術・工芸教育研究会との連携事業の実施（共催：東京藝術大学）

期　　間	7月27日～7月29日
開催場所	本館展示室、会議室／東京藝術大学
参加者数	38人
担当研究員数	3人
事業内容	全国の高等学校で美術、工芸の授業を担当している教員を対象とした研修会。研修を通じて伝統美術や工芸に対する理解を深めることを目指す。今年度は第8回目として「日本の金工」をテーマに博物館では歴史に関する講義と鑑賞、大学では実技研修を実施した。

○ 盲学校のためのスクールプログラム教員研修会

期　　間	8月25日
開催場所	本館展示室
参加者数	17人
担当研究員数	4人
事業内容	全国の盲学校教員を対象とした研修会。盲学校の児童・生徒に向けたスクールプログラムの解説および実際にプログラムを体験することを通じ、プログラムや博物館利用について理解を促すとともに、プログラムの向上のために意見交換を行った。

【京都国立博物館】

1) 少年少女博物館くらぶ

事業名：小学・中学生向け鑑賞会「博物館 まるまるアニマル！」	
実施日	8月2日、5日
対象	小学生から中学生
参加者数	75人

2) 博物館Ｄｉｃｔｉｏｎａｒｙの発行　　1回

・発行部数　5,000部
・配 布 先　館内観覧者等

3) 特別展観 「百獣の楽園　―美術にすむ動物たち―」小中学生の入場料を無料

4) 特別展観 「百獣の楽園　―美術にすむ動物たち―」小中学生向けワークシート作成

・発行部数　30,000部
・配 布 先　館内観覧者

5) 京都市内の小中学校への訪問授業

事業名：建仁寺「綴プロジェクト作品展」キッズプログラム	
実施日	4月4日　11:00～11:30、14:00～14:30
場所	大本山　建仁寺
対象	小・中学生、保護者
参加者数	20人
事業内容	NPO法人京都文化協会との連携事業。小中学生を対象に対話型の鑑賞プログラムを実施。高精細複製の俵屋宗達筆「風神雷神図屏風」、伊藤若冲筆「樹花鳥獣図屏風」2点を中心に解説。講師は、文化財ソムリエ（京都国立博物館小中学生学習支援プログラム講師）が担当した。
主催	京都国立博物館、NPO法人京都文化協会
事業名： 文化財に親しむ授業　「風神雷神図屏風」俵屋宗達筆	
実施日	6月13日　13:45～14:30
場所	京都市立紫明小学校
対象	京都市立紫明小学校　6年生
参加者数	32名
事業内容	NPO法人京都文化協会、京都市教育委員会との連携事業。高精細複製を教材とした訪問授業を実施。講師は、文化財ソムリエ（京都国立博物館小中学生学習支援プログラム講師）が担当した。
主催	京都国立博物館、NPO法人京都文化協会
事業名： 文化財に親しむ授業　「風神雷神図屏風」俵屋宗達筆	

実施日	7月13日　8:55～12:25
場所	京都市立納所小学校
対象	京都市立納所小学校　5.6年生、保護者
参加者数	120人
事業内容	NPO法人京都文化協会、京都市教育委員会との連携事業。高精細複製を教材とした訪問授業を実施。講師は、研究員と文化財ソムリエ（京都国立博物館小中学生学習支援プログラム講師）が担当した。
主催	京都国立博物館、NPO法人京都文化協会
事業名：　文化財に親しむ授業　「八橋図屏風」尾形光琳筆	
実施日	10月3日　9:40～12:20
場所	京都市立金閣小学校
対象	京都市立金閣小学校　6年生
参加者数	110人
事業内容	NPO法人京都文化協会、京都市教育委員会との連携事業。高精細複製を教材とした訪問授業を実施。講師は、文化財ソムリエ（京都国立博物館小中学生学習支援プログラム講師）が担当した。
主催	京都国立博物館、NPO法人京都文化協会
事業名：　文化財に親しむ授業　「風神雷神図屏風」俵屋宗達筆	
実施日	10月31日　10:45～11:30
場所	京都市立新洞小学校
対象	京都市立新洞小学校　6年生
参加者数	13人
事業内容	NPO法人京都文化協会、京都市教育委員会との連携事業。高精細複製を教材とした訪問授業を実施。講師は、文化財ソムリエ（京都国立博物館小中学生学習支援プログラム講師）が担当した。
主催	京都国立博物館、NPO法人京都文化協会
事業名：　文化財に親しむ授業　「風神雷神図屏風」俵屋宗達筆	
実施日	11月28日　8:45～15:05
場所	京都市立蜂ヶ岡中学校
対象	京都市立蜂ヶ岡中学校　1年生
参加者数	220人
事業内容	NPO法人京都文化協会、京都市教育委員会との連携事業。高精細複製を教材とした訪問授業を実施。講師は、文化財ソムリエ（京都国立博物館小中学生学習支援プログラム講師）が担当した。
主催	京都国立博物館、NPO法人京都文化協会
事業名：　文化財に親しむ授業　「鶴下絵三十六歌仙和歌巻」俵屋宗達下絵　本阿弥光悦書	
実施日	11月30日　13:55～16:00
場所	京都市立鷹峯小学校
対象	京都市立鷹峯小学校　5.6年生
参加者数	40人
事業内容	NPO法人京都文化協会、京都市教育委員会との連携事業。高精細複製を教材とした訪問授業を実施。講師は、文化財ソムリエ（京都国立博物館小中学生学習支援プログラム講師）が担当した。
主催	京都国立博物館、NPO法人京都文化協会
事業名：　文化財に親しむ授業　「風神雷神図屏風」俵屋宗達筆	
実施日	12月19日　10:55～11:40
場所	京都市立一橋小学校
対象	京都市立一橋小学校　6年生
参加者数	17人
事業内容	NPO法人京都文化協会、京都市教育委員会との連携事業。高精細複製を教材とした訪問授業を実施。講師は、文化財ソムリエ（京都国立博物館小中学生学習支援プログラム講師）が担当した。
主催	京都国立博物館、NPO法人京都文化協会

6）社会科教員のための向上講座

実施日	10月25日
開催場所	管理棟3階研修室及び特別展示館
参加者数	58人
担当研究員数	1人
事業内容	京都市教育委員会との連携事業。研究員による講義のあと、特別展覧会ギャラリートークと質疑応答を実施した。小中学校社会科教員と総合支援学校全教員を対象とする。　（詳細は2⑵③講座・講演会等の開催実績を参照）

【奈良国立博物館】

1）修学旅行生等を対象とした文化財の案内・説明資料等の作成と解説

・期間　　開館中随時
・場所　　展示会場・講堂等
・学校団体案内数　　27件、計 1,341名
・担当研究員数　3人
・事業内容　　解説ボランティアによる展示作品の解説

2）世界遺産学習への対応

・期間　　4月～12月　　事前申し込み制
・対応実績　　奈良市内の小学校34校　（5年生の全クラスを対象）　計 2,182名
・担当研究員数　3人
・事業内容　　奈良市教育委員会との共同で、市内の全小学校5年生を対象に、世界遺産「奈良」を通して歴史や文化への愛着を育み、未来に伝え残すことの重要性を学んでもらう。
解説ボランティアによる「世界遺産学習」プログラム（スライド解説と実際の仏像を前にした観賞など）を1時間程度で実施する。

3）子ども向け音声ガイドの制作

・特別展「第63回正倉院展」で制作、計 1,289台の利用があった。

4）子ども向けイベントの実施

実施日	内　　容	会　場	参加者数
7月16日 ～8月28日	「子供絵画館 in NARA」 ふるさとのお盆の思い出」絵画コンクール入賞作品展覧会	地下回廊	―
７月24日	香り袋手作り教室	地下回廊	74
8月13日	親と子のワークショップ「そんごくうのおはなし絵巻を作ろう」（体験イベント）	講堂	59
10月29日 ～11月14日	正倉院展作文コンクール入賞作品展示	地下回廊	―
11月3日	第63回正倉院展　親子鑑賞会 小学生とその保護者を対象に正倉院展の見所を解説。展覧会を自由観覧。 講師：内藤　栄　（奈良国立博物館学芸部長補佐）	講堂	189

5）職場体験の受入

期　　間	年間
開催場所	全館対象
参加者数	中学校 2校 6人
担当職員数	2名
事業内容	学校教育活動の一環として実施される職場体験の受入を行った。利用者サービス業務や資料整理業務、ミュージアムショップや館内レストラン等に関わる業務の体験をする。

【九州国立博物館】

1）博物館における体験型事業の充実

① 教育普及ゾーン（体験型展示室「あじっぱ」）で活用する様々な教育キットの開発

体験型キットの開発・展開	
内容	「あじっぱ」の展示に関する理解を促進するための体験型キット・プログラムの開発 新規開発キット、プログラム： 「なりきり考古学者　拓本ヴァージョン」「中国の剪紙」「阿蘇4火砕流と埋もれ木くん」「いろんな国の将棋」「ウズベキスタンの帽子をつくろう」「あじっぱカルタ」「ワヤンぬりえ」「天神さまぬりえ」
対象	こどもおよび親子連れを中心とした来館者全般
人数	定員なし
実施	開館時は常時開放

② 幅広い層に向け体験活動の促進を図るため、教育活動の場を提供

夏休み子ども向けイベント「いこうよ！あじっぱ夏祭り」	
内容	「あじっぱ」の資料・コンテンツを活用して夏休みに博物館を訪れた子ども、および親子連れに対して博物館体験の場を提供するとともに、ボランティア活動の活性化を図る。平成23年度は「紙で着物を作ろう」「ベトナムの版画を刷ってみよう」「韓国のお菓子の型でかたちをつくろう」「中国のパズルで遊ぼう」「日本の切り絵〔もんきり〕で遊ぼう」の5コンテンツを実施。
対象	こどもおよび親子連れを中心とした来館者全般
人数	定員なし
実施	7月16日～17日　参加者合計約300名
ボランティアワークショップ	
内容	「来館者へのサービス向上」「博物館ボランティアの周知」を目的に、博物館ボランティアの企画・準備・実施による参加体験型のプログラム（イベント）実施 ①プラ板キーホルダーづくり　②ハニワ色付け体験（２回）　③七夕飾り　④ループ組紐ストラップづくり　⑤和綴じ本を作ろう　⑥餅つき　⑦折り紙⑧書き初め
対象	子どもおよび親子連れを中心とした来館者全般
人数	定員　①300名　②200名（各回）　③800名　④50名　⑤60名　⑥600名　⑦100名　⑧200名
実施	①5月5日　②8月21日・10月23日　③7月26日～8月4日　④8月21日　⑤10月23日　⑥平成24年1月3日　⑦平成24年1月4日　⑧平成24年1月8日
九博子どもフェスタ	
内容	「博物館を楽しいところ」「博物館に子どもたちを」を目的に、主に子どもが楽しめるに視点を当てた参加体現型のプログラムやイベントをボランティアによる自主的な企画・運営のもと、十数種類実施。
対象	子どもおよび親子連れを中心とした来館者全般
人数	定員なし（参加者2,000人～3,000人）
実施	平成24年2月19日
「絵本でおはなし」	
内容	文化交流展示室やあじっぱにおいて、きゅーはくの絵本「月夜のおおさわぎ」や「じろじろぞろぞろ」、サインプロジェクト制作絵本「あじっぱにいこう」の読み聞かせ。
対象	小学生まで、およびその保護者
人数	各回8名程度
実施	4月24日(1回実施、12名)　6月4日（1回実施、4名）　8月3日（計3回実施、計25名）　9月18日（計2回実施、計20名）
茶道体験（「親子で茶道体験」、「はじめての茶道体験」）	
内容	茶室にて茶道初心者に対して茶道体験を実施
対象	「親子で茶道体験」小・中・高校生とその保護者、「はじめての茶道体験」高校生以上
人数	「親子で茶道体験」30名程度、「はじめての茶道体験」20名程度
実施	各月1回実施

③ アジア諸国の文化を理解する様々な体験学習プログラムの開発

体験型展示室「あじっぱ」の運営	
内容	日本と古くから交流のあるアジア・ヨーロッパ7ヵ国の文物を屋台風に展示、資料を実際に使用する・制作する等の体験をとおして素材やデザイン、用途などにおける国相互の類似性や相違性を体感する。 「あじっぱ」における特集展示 ①「あじ庵」：「タイの町並み」「染めと織り」「いろんな国の子どもの衣装」「アジアの楽器」「桃の節句」「青」（計6回） ②「あじぎゃら」：「はらのなかのはらっぱで」「ウズベキスタンの細かな手仕事」「やきもの動物園」「郷土人形」（計4回） ③ディスプレイ：「ウズベキスタン」「ベトナムの水上人形」「モンゴルの生活」「アジアの龍」 ④あじっぱ屋台展示替え：8カ国の展示について延べ10回
対象	こどもおよび親子連れを中心とした来館者全般
人数	最大収容可能人数約80人
実施	開館時は常時開放

④ 博物館の諸活動を体験できるプログラムの開発

なりきり学芸員体験、なりきり考古学者体験	
内容	①なりきり学芸員体験：「あじっぱ」において、学芸員の仕事の一部を40～50分で体験するワークショップ。収蔵棚から文化財に見立てた資料を選び、実際に手にとって観察し、調査カードを作成し、展示ケースに展示する。 ②なりきり考古学者体験：「あじっぱ」において、考古学者が行う調査の一部を40～50分で体験するワークショップ。出土遺物や陶磁器の形状を調査し、実測図を作成したり、拓本を取ったりする
対象	小学校中学年以上
人数	1回につき最大8名
実施	ボランティアによる司会進行で実施。毎月第2土曜日「考古学者」、第3土曜「学芸員」のほか、希望者に対して随時実施（計37回）

2) 九州大学との共同研究成果に基づき、平常展を利用して来館者ニーズに合った情報提供を行うためのプログラムの研究・開発

文化交流展示室における音声ガイドコンテンツの開発	
内容	・最新のメディア機器を用いて、より豊かな博物館体験を提供する。 ・来館者の能動的鑑賞による歴史の魅力の発見を支援する。
目的・方針	・本研究は次世代型博物館に向けたインタラクティブな自動誘導機能が付加された展示解説コンテンツと、その展示を効率的に評価できる展示評価支援システムの開発を目的としている。 ・来館者に優しいパーソナル・ミュージアム・コンシェルジュの開発と実証実験を行う。
調査方法	・展示室内のインタラクティブな映像を組み込んだコンテンツを児童に事前に見せて、実際の展示室内での観覧状況を調査した。
実施	・24年1月29日（日）に九州大学　金教授他学生4名、小学生6名が来館し実証実験を実施。

3) 学校教育との連携事業の実施

① 職場体験（中学生）の受け入れ

中学生の職場体験	
内容	中学校で実施される「総合的な学習」に対応し、働く現場での体験を提供することで、自らの進路や職業について考える機会を提供するとともに、博物館への理解を促進する。
人数	1回について最大6名まで
実施	12校に対して実施、体験中学生数66名（実施中学校：太宰府市立太宰府中学校、太宰府市立学業院中学校、小郡市立三国中学校、福岡雙葉中学校、大野城市立大利中学校、春日市立春日野中学校、春日市立春日北中学校、大野城市立大野東中学校、筑紫野市立筑紫野中学校、筑紫野市立二日市中学校、筑紫野市立筑紫野南中学校、大野城市立大野中学校）

② ジュニア学芸員（高校生）による教育プログラムの開発

ジュニア学芸員活動	
内容	博物館に関心のある高校生が、学芸員による講話や演習を体験することで、博物館の活動を理解するとともに、自らの進路や職業を考える機会を提供する。
人数	5校14名
実施	12月～3月の日曜日を中心に全9回

③ 博物館活用の促進を図るため、教員研修の場の設置

教師社会体験研修	
内容	学校の教師に対して社会貢献等の体験の場を提供し、教師の資質の向上を支援しつつ、博物館活動への理解促進をはかる。
人数	7名
実施	8月1日～2日（4名）、8月20日～22日（3名）

④ 教員を対象としたプログラムの実践

内容	学校の教師に対して博物館の機能や展示内容について解説し、教師の博物館理解を深め、学校による博物館利用を促進する。
人数	50名
実施	5月19日 福岡県高等学校歴史研究会総会「黄檗-京都宇治萬福寺の名宝と禅の新風-」「学校貸出キット『きゅうぱっく』について」 7月29日 九州国立大学附属学校連盟社会科部会「「よみがえる国宝」展について」「学校貸出キット『きゅうぱっく』について」

⑤ 学校貸出キット「きゅうぱっく」の貸し出し

学校貸出キット「きゅうぱっく」	
内容	博物館の展示に関連するハンズオン資料をパック化して学校等に向けて貸し出し、学校教育および社会教育を支援する。
対象	学校教育団体、社会教育団体その他
実施	小学校33件、中学校31件、高等学校10件、特別支援学校3件、その他8件、計85件

⑥ 出前講座への対応

出前講座への対応	
内容	学校で実施される「総合的な学習」等に対応し、学校に出向いて博物館の機能やアジア各地・日本の歴史・文化についての講義を行う。
対象	研究員による出前講座を希望した学校
実施	4月27日　鳥栖市立鳥栖北小学校　（参加30名）　対応研究員1名 4月30日　飯塚市立高田小学校　（参加10名）　対応研究員1名 5月13日　春日市立須玖小学校　（参加30名）　対応研究員1名 5月30日　那珂川町立南畑小学校　（参加20名）　対応研究員1名 6月10日　春日市立須玖小学校　（参加90名）　対応研究員1名 9月21日　春日市立春日西中学校　（参加35名）　対応研究員1名 9月29日　春日市立春日北中学校　（参加35名）　対応研究員1名 10月19日　春日市立春日西中学校　（参加35名）　対応研究員1名 11月 3日　福岡県立修猷館高等学校　（参加15名）　対応研究員1名 11月 7日　太宰府市立太宰府東中学校　（参加90名）　対応研究員1名 11月 8日　太宰府市立太宰府東中学校　（参加90名）　対応研究員1名 11月10日　太宰府市立太宰府東中学校　（参加90名）　対応研究員1名 12月12日　太宰府市立太宰府東中学校　（参加90名）　対応研究員1名 24年2月27日　春日市立春日北中学校　（参加70名）　対応研究員1名 24年3月 2日　春日市立春日北中学校　（参加35名）　対応研究員1名

⑦ 来館学校団体への対応

来館学校団体への対応	
内容	団体で来館した学校団体のうち、特に希望した学校に対し、体験プログラム等を実施
対象	団体で来館した学校団体のうち、特に体験を希望した学校
実施	5月 6日　筑紫野市立原田小学校（92名）「きゅうぱっくを活用した博物館体験」 11月15日～16日　山口県立宇部高等学校（40名）「博物館の機能と博物館科学」（文科省スーパーサイエンスハイスクール事業） 11月25日　福岡県立福岡視覚特別支援学校（4名）「展示室観覧支援、展示室における資料触察支援」 平成24年 2月24日　福岡県立太宰府高等学校芸術科（40名）「博物館の機能と展示」

4）文化交流展、特別展に関連した教育普及事業の実施

特別展「黄檗」展　解説パネル「はじめての黄檗」・「教育普及コーナー　」	
内容	解説パネル「はじめての黄檗」は、黄檗文化の特色について分かりやすい挿図と文章によって紹介した。展示室導入部に「教育普及コーナー」を設けて、食文化（普茶料理や隠元和尚請来の食材について）や印刷などの黄檗宗の文化が身近な生活とつながりがあることをグラフィックや模型を用いて紹介した。
開催場所	特別展示室
実施	3月15日～5月22日
トピック展示「日本とタイーふたつの国の巧と美」　ワークショップ　久留米絣の糸と腰機でコースターを織ってみよう！	
内容	久留米絣の糸を用い、板綜絖を使用して体全体でコースター大の布を織りあげるワークショップ
開催場所	1 階研修室
人数	各回最大8名（午前1回、午後1回、最大16名）
実施	4月30日、午前6名、午後8名、計14名
特別展「よみがえる国宝」展　「解説パネル」・「子どもガイドー宝のひみつ虫のめがねでさぐってみようー」	
内容	「解説パネル」は源頼朝像の修理課程をイラストでわかりやすく紹介するなど、解説パネルを掲出し、修理・保存方法について作品を通して理解できるようにした。「子どもガイドー宝のひみつ虫のめがねでさぐってみようー」は小学生にわかりやすいように、修理技術や保存の工夫を写真やイラストでまとめた。広報活動として博物館近隣の小学校へ配り、解説補助として展示室でも配布した。
開催場所	特別展示室
実施	6月28日～8月28日
特別展「よみがえる国宝」展　親子で楽しむバックヤードツアー「大きな博物館の探検！」	
内容	夏休み期間を利用した親子で楽しむ企画として、九博の絵本『大きな博物館』のストーリーを題材として、文化財保存施設を中心とした博物館のバックヤードツアーを実施した
開催場所	バックヤードなど
人数	106人
実施	7月 9日、30日、8月13日
特別展「よみがえる国宝」展　「みて！さわって！！岩絵の具のふしぎな世界」	
内容	古くから日本画に使われている「岩絵具」とはどんな絵の具なのか、実際に見たり触ったりしながらそのふしぎな世界を学ぶことができる、体験型のイベント
開催場所	研修室
人数	40名
実施	8月21日
特別展「よみがえる国宝」展　ワークショップ　古本の虫と九博の杜の虫をくらべてみよう！　「江戸の本の虫たちー和本の扱い・観察・虫干しー」	
内容	文化財保存の大切さを学ぶワークショップとして、「江戸の本の虫たち」と題し、和本の扱い、虫の観察、虫干しなどの実例を通し、先人達が大切な本や宝を守ってきたことを実感した。
開催場所	研修室
人数	40人
実施	8月21日
特別展「よみがえる国宝」展　ワークショップ　古本の虫と九博の杜の虫をくらべてみよう！　「九博の杜の虫たち」	
内容	文化財保存の大切さを学ぶワークショップとして、「九博の杜の虫たち」と題し、周辺の自然観察、昆虫採集、標本作製を行い、風土や虫の生態を知ることによって、自然とつきあいながら文化財保存に努めることを学んだ。
開催場所	研修室
人数	40人
実施	8月23日
特別展「契丹」展　「解説パネル」・「プリンセス着せ替え」・「プリンセスポストカード」	
内容	「解説パネル」は、展示品によりよく親しんでもらうために、契丹の歴史やプリンセスの装飾品などをファッション雑誌風のデザインでパネルにまとめて紹介した。「プリンセス着せ替え」は、展示された装飾品を擬似的に身につけることができるコーナーを展示室前に設置し、記念撮影ができるようにした。これらは巡回先（静岡県立美術館等）でも引き継がれた。「プリンセスポストカード」は、契丹展の出品作品に関わる3 人の女性をモティーフとして、イラストによるポストカードを作成し、内容理解の助けとした。

開催場所	特別展示室など
実施	9月27日～11月27日
トピック展示「発掘された日本列島 2011 地域展　九州最古の狩人とその時代」　ワークショップ　石の匠に学ぶ―石器作り体験―	
内容	旧石器時代の主要な道具であった石器を、実際に用いられた石材を使って製作し紙を切るなどの体験を通して、石器の機能や当時の生活技術を体験する企画として、好評を博した。
開催場所	研修室
人数	38名
実施	12月4日
特別展「細川家の至宝」展　「細川家のたからものすごろく」	
内容	細川家ゆかりの人々や永青文庫のコレクションについて、遊びながら理解していただけるよう双六を作成、配付した。また展示室内で歴史資料や、歴代当主などの人物を分かりやすく伝えるためのパネルを制作、展示室内で展示した。
開催場所	特別展示室
実施	平成24年1月1日～3月4日
特別展「細川家の至宝」展　ワークショップ　「剣豪・宮本武蔵になろう！」	
内容	本展覧会では宮本武蔵の「五輪書」や水墨画が展示される。これにあわせて、武蔵の人物像に迫るイベントとして、宮田和宏氏（細川家伝統兵法二天一流第十一代継承者）を講師に招き、二天一流の剣術ワークショップを実施した。
開催場所	ミュージアムホール
人数	午前、午後各回30人　（平成24年1月8日　参加者数62人）
実施	平成24年1月8日

5）高等教育との連携

① 筑紫女学園大学の指導によるガムランワークショップ

内容	筑紫女学園大学の指導によるガムランワークショップの定期的な開催 （筑紫女学園大学准教授と学生、卒業生の指導で、ジャワの伝統的な楽器であるガムランの演奏を体験するワークショップ。事前申込のほか当日の参加も可能。）
実施期間	5月28日（土）、6月12日（日）、7月10日（日）、8月21日（日）、全4回
開催場所	1階ミュージアムホール、エントランスホール
参加者数	5月28日（土）27名、6月12日（日）29名、7月10日（日）32名、8月21日（日）20名、計108名

② 九州産業大学との協働による「あじっぱサインプロジェクト」

内容	九州産業大学芸術学部デザイン学科と協働で、体験型展示室「あじっぱ」における各種サイン・ピクトグラム等のデザイン検討、設置試行、ワークシート等ツール制作
実施期間	5月26日～9月18日
開催場所	1階体験型展示室「あじっぱ」
参加者数	プロジェクト参加学生16名、検討会実施8回

2-(2)-⑤　大学生・大学院生を対象とした教育事業

1)　大学等との連携事業

【京都国立博物館】

内　　容	京都大学大学院人間・環境学研究科の歴史文化社会論講座
実施日	通年
開催場所	当館
受入人数	5人
担当研究員数	5人

内　　容	保存修復技術を専攻する学生のための研修会
実施期間	9月3日
開催場所	京都国立博物館
参加者数	16人
担当研究員数	1人

内　　容	京都橘大学との教育提携・学術交流
実施期間	通年
開催場所	京都国立博物館、京都橘大学
参加者数	18人
担当研究員数	7人

【奈良国立博物館】

内　　容	奈良女子大学との連携講座
実施期間	前期、後期
開催場所	奈良女子大学、奈良国立博物館
参加者数	前期　3人、後期　4人
担当研究員数	1人

内　　容	神戸大学大学院文化学研究科との連携講座
実施期間	通年
開催場所	神戸大学、奈良国立博物館
参加者数	10人
担当研究員数	2人

【九州国立博物館】

内　　容	放送大学の面接授業　「博物館における公開-展示編-」
実施期間	11月19日～20日
開催場所	九州国立博物館1階研修室
参加者数	50人

内　　容	筑紫女学園大学文学部アジア文化学科必修科目「ミュージアムで学ぶアジア」 （博物館の概要について講義、博物館展示見学、博物館体験型展示室での異文化体験）
実施期間	4月20日、4月27日、5月11日、5月25日、6月1日、6月8日、6月22日、6月29日、7月6日（計9日）
開催場所	筑紫女学園大学、九州国立博物館文化交流展示室、体験型展示室「あじっぱ」
参加者数	150人

内　　容	博物館における文化財保存修復に関する研修
実施期間	8月15日～19日の5日間
開催場所	九州国立博物館保存修復施設
参加者数	8人（吉備国際大学2名、九州産業大学2名、別府大学2名、佐賀大学1名、広島市立大学1名の計5大学8名）

内　　容	博物館実習生の受け入れ
実施期間	7月27日～8月8日の間、延べ10日間実施
参加者数	大学名:福岡女子短期大学、京都造形芸術大学、九州産業大学、福岡教育大学、山口大学、西南学院大学、八洲学園大学、福岡大学、筑紫女学園大学、久留米大学、佐賀大学、九州大学大学院、活水女子大学、立命館大学、大阪芸術大学、計15大学20名

内　　容	カフェコンサート（福岡女子短期大学の学生による演奏）
実施期間	4月15日、22日、5月13日、27日、6月10日、17日、7月15日、22日、8月19日、9月30日、11月18日、12月9日、22日、24年1月20日、27日、2月17日、3月9日
開催場所	九州国立博物館1階エントランス（オープンカフェ）
参加者数	毎回80人程度。出演者は毎回8人程度。

2)　インターンシップ

【東京国立博物館】

受入期間	7月22日～24年3月31日
受入部署	学芸企画部　デザイン室、教育普及室、教育講座室、情報資料室、広報室 学芸研究部　平常展調整室、東洋室、保存修復課
参加者数	20人（8大学）
担当研究員数	のべ20人
事業内容	博物館学芸員を目指す学生の学習意欲の喚起、高い職業意識の育成を目的とした就業体験プログラム。学生は受入部署において、10～30日間の活動を行った。

【京都国立博物館】

受入期間	8月16日～9月10日
開催場所	文化財保存修理所
参加者数	4人（2大学）
担当研究員数	1人
事業内容	文化財修復大学院生インターンシップ協議会より推薦を受けた学生について、文化財修復に関わる加盟大学院生4名のインターンを受け入れた。11月27日には事務棟研修室にて4名による報告会を行った。

【奈良国立博物館】

受入期間	平成23年度は実施なし
受入部門	総務課
参加者数	
担当研究員数	
事業概要	

【九州国立博物館】

受入期間	平成23年度は実施なし
受入部署	交流課
参加者数	
担当研究員数	
事業内容	

3)　学生ボランティア

【東京国立博物館】

期　　間	①ギャラリートーク班 12月8日、12月10日、12月15日、12月17日、12月22日、12月24日、24年1月11日、24年1月12日、24年1月14日、24年1月15日、24年1月19日、24年1月21日、24年1月25日、24年1月26日、24年1月27日、24年1月28日、24年2月2日、24年2月3日、24年2月4日、24年2月5日、24年2月8日、24年2月9日、24年2月10日、24年2月11日、24年2月15日、24年2月17日、24年2月19日、24年2月22日、24年2月25日、24年3月3日 ②制作工程模型班 平成23年7月～平成25年3月（予定）
開催場所	①本館11室、13室、18室、20室、平成館考古展示室 ②東京藝術大学、東京国立博物館内ほか
参加者数	①ボランティア5人　聴講者821人 ②ボランティア1人
担当研究員数	①8人 ②5人
事業内容	①東京藝術大学大学院生ギャラリートーク班により入館者に対する総合文化展でのギャラリートークを実施。 ②国宝「紅白芙蓉図」の5工程の制作工程模型の調査および制作。平成24年度に展示および関連する教育普及事業を行う予定。

【京都国立博物館】

実施日	平成23年4月25日、5月16日、6月6日、6月27日、7月4日、8月1日、8月8日、9月5日、9月12日、9月26日、10月17日、10月24日、11月7日、11月21日、12月12日、平成24年2月27日（16回）
開催場所	京都国立博物館
参加者数	14人
担当研究員数	2人
内容	京都市内の小中学校で訪問授業を行う「文化財ソムリエ」養成のためのスクーリングを実施した。 参加者は、京都市内の大学で日本美術を専門に学ぶ大学生、大学院生。

実施日	平成23年4月4日、6月13日、7月13日、10月3日、10月31日、11月28日、11月30日、12月19日（8回）
開催場所	京都市内の小中学校ほか
参加者数	ボランティア14人、聴講者572人 （小学校6校　聴講者332人、中学校1校　聴講者220人、建仁寺（キッズプログラム）1回　聴講者20名）
担当研究員数	2人
内容	「文化財ソムリエ」として登録している大学生・大学院生が、研究員によるスクーリングを受けたのち、京都市内で訪問授業等を実施した。

実施日	平成23年10月18日～11月11日　（毎火・水・金曜日　12回）
開催場所	京都国立博物館
参加者数	18名
担当研究員数	7人
内容	京都橘大学との教育提携に基づき、観覧者アンケート調査を実施した。

4)　見学対応

【東京国立博物館】

期　　間	年間
開催場所	全館対象
参加者数	10件（大学9件、269人／専門学校1件、17名　計286人）
担当研究員数	3人
事業内容	鑑賞の手助け、文化財・博物館への理解促進のため、大学生や大学院生、専門学校生を対象に、東京国立博物館の展示や事業についての解説を含めたガイダンスを実施した。

2-(2)-⑥ ボランティア受入れ実績

（後述の資料に記載）◎共通資料b

2-(2)-⑦ 友の会

1) 会員数

友の会　　平成24年3月31日現在

区分 館名	友の会会員数	友の会会員 (年会費10,000円)	友の会会員 (一般) (年会費3,000円)	友の会会員 (学生) (年会費2,000円)	友の会会員 (家族) (年会費6,000円)
東京国立博物館	1,802人	1,802人	―	―	―
京都国立博物館	2,667人	―	2,607人	60人	―
奈良国立博物館	2,615人	―	(＊1)　2,503人	(＊1)　88人	24人
九州国立博物館	117人	117人	―	―	―

(＊1) 奈良国立博物館「友の会」は、平成24年1月より「パスポート」に名称変更した。会費・特典等に変更はなく、上記の23年度「友の会」会員数は、名称変更後に入会した会員数を含む。

＊　京都国立博物館「友の会」は、平成24年4月より「パスポート」に名称変更予定である。

パスポート　　平成24年3月31日現在

区分 館名	パスポート会員数	パスポート会員 (一般) (年会費4,000円)	パスポート会員 (一般) (年会費3,000円)	パスポート会員 (学生) (年会費2,500円)	パスポート会員 (学生) (年会費2,000円)
東京国立博物館	17,672人	16,661人	―	1,011人	―
九州国立博物館	3,093人	―	1,388人	―	1,705人

2) 友の会会員を対象とした事業

【東京国立博物館】

①東京国立博物館友の会対象旅行会の実施を予定していたが、催行人数にいたらなかったため、中止となった。

②その他
東京国立博物館ニュース送付、イベントの鑑賞割引等

【京都国立博物館】

①年1回（4月）、年間催事案内を送付

②京都国立近代美術館、国立国際美術館、国立民族学博物館、京都府京都文化博物館、京都市美術館の平常展、特別展を団体料金に割引(共催展の場合は、割引が適用されない場合あり)

③公益財団法人京都古文化保存協会が春・秋に実施する【京都非公開文化財特別拝観】の協力社寺拝観料の割引

④当館ミュージアムショップの一部商品の10%割引

【奈良国立博物館】

①第40回夏季講座「玄奘三蔵とシルクロード」
- ･実施期間　8月24日～26日
- ･事業内容　奈良県文化会館国際ホールにおいて9講座、展覧会概説を行い、博物館に移動し展覧会を見学した。
- ･参加者数　522人

②京都国立近代美術館、国立国際美術館、国立民族学博物館の平常展、特別展を団体料金に割引

③ミュージアムショップ及びレストランでの割引特典

【九州国立博物館】

季刊情報誌「アジアージュ」、トピック展ちらし、特別展連続講座等イベント案内送付、当館ミュージアムショップ・レストラン･カフェでの割引、入会時の記念品プレゼント。

2-(2)-⑧賛助会

1) 会員数

平成24年3月31日現在

館名	東京国立博物館	京都国立博物館		奈良国立博物館
		（社団法人清風会）	（ミュージアム・パートナー）	
件数	292件	373人	2件	65件
内訳	特別会員：19団体 維持会員(団体)：　35団体 維持会員(個人)：238人	賛助会員：34人 特別会員：61人 普通会員：278人	団体会員：2件	特別支援会員：5団体 特別会員：5団体 一般会員(団体)：19団体 一般会員(個人)：36人

2) 賛助会員を対象とした事業

【東京国立博物館】

① 各特別展開会式へのご招待
② 各特別展につき1回の特別鑑賞会へのご招待

【京都国立博物館】

①「京都国立博物館だより」（年4回）の配布
②当館平常展、特別展の無料観覧
③清風会が行う鑑賞会、見学会、会報に協力
④当館ミュージアムショップの商品の一部割引
⑤国際シンポジウム（年1回）案内の発送

【奈良国立博物館】

①当館平常展、特別展の無料観覧
②各特別展開会式へのご招待
③展覧会図録の1冊贈呈
④「奈良国立博物館だより」（年4回）の配布
⑤当館ミュージアムショップでの展覧会図録の割引
⑥当館レストランでの飲食料金の割引
⑦当館研究員による解説付きの賛助会員特別鑑賞会を実施

４月６日（火）　特別展「誕生！中国文明」
　　特別鑑賞会　参加人数45名
７月19日（月）　特別展「天竺へ～三蔵法師３万キロの旅」
　　特別鑑賞会　参加人数38名
10月31日（月）　特別展「第63回正倉院展」
　　特別鑑賞会　参加人数65名

2-(2)-⑨ 渉外活動

【東京国立博物館】

1) 会場提供　7 件

期間	種類	イベント等の概要	会場	出席者数（人）
7 月 6 日	懇談会	キョーリン製薬ホールディングス株式会社　経営方針説明会・懇親会	法隆寺宝物館	61
7 月 19 日	発表会	COTY PRESTIGE JAPAN K.K による「BOTTEGA VENTA」香水新商品発表会	法隆寺宝物館	約 300
8 月 22 日	発表会	ダイソン株式会社新製品　家電量販店向けプレゼンテーション及びワークショップ	法隆寺宝物館	約 600
8 月 29 日	発表会	ダイソン株式会社新製品プレス向けデモンストレーション及び発表会	法隆寺宝物館	約 200
9 月 29 日	懇親会	柿本榮三出版記念パーティー	法隆寺宝物館	約 250
10 月 31 日 ～11 月 7 日	展示会	台東区主催によるイベント(伝統工芸職人展)	平成館ラウンジ	―
24 年 2 月 20 日	懇談会	クインエマニュエル外国法事務弁護士事務所開設 5 周年記念パーティー	法隆寺宝物館	約 120

2) 館主催・協力イベント　20 件

期間	種類	タイトル	会場	出席者数（人）	備考
4 月 2 日	音楽会	東京・春・音楽祭 2011「ヴィーヴ！サクソフォーンカルテット」	法隆寺宝物館	約 70	東京・春・音楽祭実行委員会共催
6 月 19 日	音楽会	生田流・箏とトランペットとピアノコンサート	平成館	174	ｻﾛﾝ･ﾄﾞ･ﾂﾈｯﾄ共催
6 月 25 日	音楽会	ファミリーコンサート	平成館大講堂	約 500（2 回）	東京ｸﾗﾘﾈｯﾄ･ｸﾜｲｱｰ共催 上野のれん会協力
7 月 17 日	イベント	納涼東博寄席　～東日本大震災復興支援～	平成館大講堂	232	当館主催
8 月 6 日	音楽会	夏休み子ども音楽会	東京文化会館ほか	394	東京文化会館他主催　当館協力 （平常展無料入館の協力）
9 月 9 日	講演会	東大寺講演会	平成館大講堂	310	東大寺共催
10 月 2 日	音楽会	亀渕友香とＶＯＪＡによるコンサート	平成館	248	ｻﾛﾝ･ﾄﾞ･ﾂﾈｯﾄ共催
10 月 6 日～30 日	展示会	Ⅰ期　美術学科彫刻作品展	柳瀬荘	343	日本大学芸術学部共催
11 月 6 日	ワークショップ	日光写真と手彩色	柳瀬荘	約 10	日本大学芸術学部共催
11 月 12 日	講演会	上野の山文化ゾーン講演会「法隆寺献納宝物をめぐって」	平成館大講堂	185	
11 月 16 日	ワークショップ	竹のドームをみんなで作る	柳瀬荘	約 10	日本大学芸術学部共催
11 月 3 日～27 日	展示会	Ⅱ期　美術学科絵画、版画および立体作品展	柳瀬荘	288	日本大学芸術学部共催
12 月 11 日	音楽会	千葉純子によるトリオコンサート	平成館	247	ｻﾛﾝ･ﾄﾞ･ﾂﾈｯﾄ共催
12 月 25 日	音楽会	竹山愛フルート・リサイタル	平成館	249	東京藝術大学協力
24 年 3 月 4 日	イベント	春爛漫東博寄席	平成館大講堂	291	当館主催
24 年 3 月 16 日	音楽会	東京･春･音楽祭 2012「東博でバッハ vol.7」田崎悦子	平成館大講堂	145	東京・春・音楽祭実行委員会共催
24 年 3 月 16 日	音楽会	東京・春・音楽祭 2012「ヴィーヴ！サクソフォーンカルテット」	本館エントランス	約 203	東京・春・音楽祭実行委員会共催
24 年 3 月 17 日	音楽会	東京･春･音楽祭 2012「東博でバッハ vol.8」コルトベルク協奏曲	平成館大講堂	156	東京・春・音楽祭実行委員会共催
24 年 3 月 27 日	音楽会	東京･春･音楽祭 2012「東博でバッハ vol.9」高木和弘	法隆寺宝物館	116	東京・春・音楽祭実行委員会共催
24 年 3 月 28 日	音楽会	東京･春･音楽祭 2012「東博でバッハ vol.10」中野振一郎	法隆寺宝物館	117	東京・春・音楽祭実行委員会共催

【京都国立博物館】

1) 会場提供　44 件

期間	種類	イベント等の概要	会場	出席者（人）	備考
4 月 8 日	研修	研修の開催	研修室	20	国宝修理装こう師連盟
4 月 16 日	茶席	茶会	茶室	30	京都大學茶の湯文化研究會
4 月 17 日	茶席	茶会	茶室	15	荒本千代子
4 月 19 日	鑑賞会	法然展に関する鑑賞会	研修室	15	（株）大丸松坂屋友の会
4 月 24 日	茶席	茶会	茶室	150	京都長生会　池下享子
4 月 29 日	茶席	撮影会	茶室	8	松田沙織
5 月 5 日	茶席	茶会	茶室	5	小梶朋子
5 月 6 日	茶席	茶会	茶室	25	小梶朋子
5 月 10 日	茶席	撮影会	茶室	6	山根はる奈
5 月 14 日	試験	資格試験の開催	研修室及び会議室	20	国宝修理装こう師連盟
5 月 22 日	茶席	撮影会	茶室	7	藤川愛美
6 月 24 日	庭園の撮影	ＮＨＫテレビテキスト用口絵写真撮影	本館前広場及び南門周辺	10	ＮＨＫ出版
7 月 9 日	研修	研修の開催	会議室	15	国宝修理装こう師連盟
10 月 1 日	資格試験	資格試験の開催	研修室及び会議室	15	国宝修理装こう師連盟
10 月 8 日	茶席	茶会	茶室	80	松庵会　野村拓也
10 月 9 日	茶席	茶会	茶室	5	山茶花社　西島真森
10 月 10 日	茶席	茶会	茶室	50	山茶花社　西島真森
10 月 15 日	茶席	茶会	茶室	10	表千家京都青年部　手塚裕忠

期間	種類	イベント等の概要	会場	出席者（人）	備考
10月16日	茶席	茶会	茶室	100	表千家京都青年部　手塚裕忠
10月22日	資格試験	資格試験の開催	研修室及び会議室	15	国宝修理装こう師連盟
10月24日	車両の積み込み	車両の積み込み	駐車場	20	一般財団法人ラリーニッポン
10月28日	茶席	茶会	茶室	15	京都大學茶の湯文化研究會
10月29日	茶席	茶会	茶室	15	京都大學茶の湯文化研究會
11月3日	茶席	同窓会の開催	茶室	6	上念弥生
11月6日	茶席	撮影会	茶室	3	上東愛
11月12日	茶席	撮影会	茶室	8	田代千里
11月13日	茶席	茶会	茶室	10	池田織隆
11月19日	茶席	茶会	茶室	4	菊地原節子
11月20日	茶席	茶会	茶室	20	内山節子
11月22日	茶席	茶会	茶室	18	相光寺　西田承元
11月23日	茶席	撮影会	茶室	6	藤川愛美
12月3日	研修	講習会の開催	研修室及び会議室	15	国宝修理装こう師連盟
12月5日	研修	研修の開催	研修室	15	国宝修理装こう師連盟
24年1月7日	茶席	茶会	茶室	3	茶道南坊流明鏡庵　中野宗淳
24年1月8日	茶席	茶会	茶室	8	茶道南坊流明鏡庵　中野宗淳
24年1月9日	茶席	茶会	茶室	8	茶道南坊流明鏡庵　中野宗淳
24年1月13日	茶席	茶会	茶室	3	白珪会　三木ひとみ
24年1月14日	茶席	茶会	茶室	20	白珪会　三木ひとみ
24年1月15日	茶席	茶会	茶室	12	小川流煎茶　野口久楽
24年1月26日	茶席	茶会	茶室	45	京都府立すばる高等学校
24年1月28日	茶席	茶会	茶室	3	苗加良子
24年1月29日	茶席	茶会	茶室	15	苗加良子
24年2月17日	研修	研修の開催	研修室	50	ＮＨＫ文化センター神戸支社
24年3月11日	茶席	撮影会	研修室	3	上東愛

2)　館主催・協力イベント　　5件

期間	種類	タイトル	会場	出席者（人）	備考
4月22日	落語	京都・らくご博物館（春） ～新緑寄席～	ハイアット・リージェンシー京都 ドローイングルーム	157	米朝事務所共催
7月22日、7月29日	上映会	「ジャングル大帝」野外映画上映会	庭園	約250	
9月10日	音楽会	音燈華～DEPAPEPE コンサート～	庭園	375	京阪電気鉄道株式会社 特別協賛
10月28日	落語	京都・らくご博物館（秋） ～紅葉寄席～	ハイアット・リージェンシー京都 ドローイングルーム	202	米朝事務所共催
11月10日	イベント	竹下景子さんと行く特別展覧会「細川家の至宝」観覧ツアー	特別展示館及び ハイアット・リージェンシー京都 ボールルーム	41	

【奈良国立博物館】

1) 会場提供　　37件

期間	種類	イベント等の概要	会場	出席者（人）	備考
4月10日	見学会	茶室「八窓庵・路地」の見学会	茶室・庭園	30	箱根カルチャー
4月17日	結婚式	結婚式	仏教美術資料研究センター	19	オーシャンフロント
5月24日	研究会	文化財保存修理所研究会	講堂	50	（財）美術院
6月4日	結婚式	結婚式	仏教美術資料研究センター	40	オーシャンフロント
7月1日 ～7月2日	研究会	文化財写真技術研究会　研究集会	講堂	100	文化財写真技術研究会
9月5日	講義	幼年消防クラブ　文化財防火教室	講堂	120	奈良市消防署
8月5日	研修	奈良仏像研修	講堂	43	日本観光協会
8月5日 ～8月14日	休憩所	飲料の販売	なら仏像館北側	―	（有）日本クリーンシステムズ
8月8日	セミナー	世阿弥忌セミナー	講堂	200	能楽学会
8月8日	会議	能楽学会委員会	会議室	25	能楽学会
8月16日	講義	「天竺展」鑑賞のための講義	講堂	12	京都観光企画（株）
8月16日	休憩所	「天竺展」鑑賞のための休憩所	茶室控室	12	京都観光企画（株）
8月26日	研修	奈良市教職員研修講座	講堂	150	奈良市教育センター
8月28日	茶会	茶会	茶室	30	華泉会
10月8日	結婚式	結婚式	仏教美術資料研究センター	40	オーシャンフロント
10月29日 ～11月14日	茶会	野点の茶会	西新館 ピロティー	16,600	奈良国立博物館特別支援会員結の会
同上	休憩所	休憩所及び甘味の販売	新館西側 敷地	―	株式会社 鶴屋吉信
同上	休憩所	休憩所及び喫茶の販売	同上	―	有限会社日本クリーンシステムズ

期間	種類	イベント等の概要	会場	出席者（人）	備考
同上	キャンペーン	奈良県特産品の物販	同上	—	校倉な会
同上	キャンペーン	奈良県特産品の物販	同上	—	奈良和み館
同上	キャンペーン	記念切手の販売	同上	—	郵政事業株式会社
同上	キャンペーン	奈良県特産品の物販	地下回廊	—	奈良県農林部マーケティング課
同上	キャンペーン	パネル展示	地下回廊	—	奈良県観光局国際観光課
11 月 11 日	講義	「第 63 回正倉院展」鑑賞のための講義	会議室	40	NPO 法人 檜の会
11 月 15 日	研修	近畿私立幼稚園連合会役員会　役員研修	講堂	60	奈良県私立幼稚園連合会
11 月 15 日	研修	近畿私立幼稚園連合会役員会　役員研修	会議室	12	奈良県私立幼稚園連合会
11 月 15 日	研修	近畿私立幼稚園連合会役員会　役員研修	応接室	3	奈良県私立幼稚園連合会
11 月 20 日	茶会	茶会	茶室	25	庭舎ＭＡＫＩＯＫＡ
12 月 17 日	敷地提供	春日若宮おん祭執行に係る敷地提供	一の鳥居付近の敷地	—	春日大社
12 月 19 日	会議	文化財　買取会議	会議室	—	文化庁
24 年 1 月 9 日	茶会	茶会	茶室	15	井上宗和
24 年 1 月 14 日	茶会	茶会	茶室	20	汀会
24 年 1 月 16 日	講義	幼稚園児を対象としたお話	講堂	150	奈良市立六条幼稚園
24 年 2 月 17 日	講義	奈良Ｓ．Ｇ．Ｇ．クラブ会員向けセミナー	講堂	30	奈良Ｓ．Ｇ．Ｇ．クラブ
24 年 2 月 29 日	講義	幼稚園児を対象としたお話	講堂	55	奈良教育大学附属幼稚園
24 年 3 月 14 日	シンポジウム	なら観光シンポジウム	講堂	130	主催：奈良県立大学 奈良信用金庫
24 年 3 月 23 日	茶会	茶会	茶室	25	みかのはら幼稚園

2) 館主催・協力イベント　　43 件

期間	種類	イベント等の概要	会場	出席者（人）	備考
4 月 6 日	鑑賞会	賛助会員特別鑑賞会	展示室	45	
4 月 7 日 4 月 8 日	鑑賞会	タクシー乗務員・ホテル関係者特別鑑賞会	展示室	96	
4 月 29 日	コンサート	葉衛陽＆さくら親子　中国琵琶競演	講堂	134	
6 月 13 日	茶会	茶室「八窓庵」お披露目の茶会	茶室、茶室控室	11	
6 月 19 日	コンサート	音楽の祭日 in 奈良　２０１１	地下回廊	—	主催：ＮＰＯ法人京都・奈良ＥＵ協会
7 月 15 日	コンサート	仏教美術資料研究センターお披露目のコンサート	仏教美術資料研究センター	50	
7 月 16 日 ～8 月 28 日	展示	「子供絵画館 in NARA」 ふるさとのお盆の思い出」絵画コンクール入賞作品展覧会	地下回廊	—	主催：日本香堂
7 月 16 日 ～9 月 26 日	観光 イベント	ライトアッププロムナード・なら	なら仏像館、仏教美術資料研究センター外観	—	主催：ライトアッププロムナード・なら実行委員会
7 月 19 日	鑑賞会	アスパラクラブ会員向特別鑑賞会	展示室	821	主催：朝日新聞社
7 月 19 日	講演会	賛助会員特別鑑賞会	展示室	38	
7 月 20 日 7 月 25 日	鑑賞会	タクシー乗務員・ホテル関係者特別鑑賞会	展示室	122	
7 月 23 日	フォーラム	玄奘三蔵フォーラム	奈良県新公会堂 能楽ホール	390	
7 月 24 日	体験 イベント	香り袋手作り教室	地下回廊	74	主催：日本香堂
7 月 31 日	落語	「まほろば寄席－奈良国立博物館落語シリーズ第 12 回－」 桂　治門、桂　三金、林家　小染、桂 小春團治、による落語会	講堂	171	
8 月 5 日～14 日	観光 イベント	「なら燈花会」 なら燈花会会場としてｶｯﾌﾟ、ｵﾌﾞｼﾞｪ等を配置	新館周辺	—	主催：なら燈花会の会
8 月 13 日	体験 イベント	親と子のワークショップ「そんごくうのおはなし絵巻を作ろう」	講堂	59	
8 月 16 日～21 日	観光 イベント	ならファンタージア～SANZO	なら仏像館 西側広場	—	主催：ならファンタージア実行委員会
9 月 17 日	コンサート	音燈華　SPECIAL LIVE 東日本大震災文化財支援 －松谷卓ピアノコンサート－	新館前特設ステージ	2,500	主催：奈良市市民連携企画実行委員会
9 月 24 日	コンサート	言霊と音霊の夜会	仏教美術資料研究センター前庭園	250	主催：ライトアッププロムナード・なら実行委員会
10 月 15 日	講演会	「香木の魅力」 ～シルクロードの香りをそえて～	講堂	134	主催：日本香堂

期間	種類	イベント等の概要	会場	出席者（人）	備考
10月26日	観光 イベント	「柿の日」に因み、奈良県特産物である柿を配布し「奈良の柿」をPR	新館前 広場	—	主催：奈良県農林部 奈良県農業協同組合
10月29日 ～11月14日	観光 イベント	「あるくん奈良スタンプラリー」 奈良町を巡るスタンプラリー	正倉院展読売新聞ブース	—	主催：はじまりは正倉院展実行委員会
10月29日 ～11月14日	展示	「いけばな展示」 法華寺小池御流のいけばな展示	西新館 1階ロビー	—	
10月29日 ～11月14日	展示	正倉院展作文コンクール入賞作品展示	地下回廊	—	主催：奈良国立博物館 読売新聞社
10月30日	オペラ	東日本大震災支援チャリティー公演 オペラ「月の影」より「源氏幻想」	仏教美術資料研究センターホール・会議室	250	主催：声藝舎
10月30日	シンポジウム	正倉院学術シンポジウム２０１１ 「正倉院宝物のはじまりと国家珍宝帳」	ならまちセンター市民ホール	179	
10月31日	鑑賞会	賛助会員特別鑑賞会	講堂 展示室	65	
11月1日 11月2日	鑑賞会	タクシー乗務員・ホテル関係者特別鑑賞会	講堂 展示室	285	
11月3日	鑑賞会	第63回正倉院展　親子鑑賞会 小学生とその保護者を対象に正倉院展の見所を解説。展覧会を自由観覧。 講師：内藤　榮　（奈良国立博物館学芸部長補佐）	講堂	189	
11月3日	コンサート	奈良県芸術祭「なら音楽の祝祭」	仏教美術資料研究センターホール	500	主催：奈良県
12月10日	講演会 体験	特別陳列「おん祭と春日信仰の美術」関連イベント「相撲と神事」、春日大社特別ツアー 講師：杉山邦博氏	講堂、春日大社本殿、春日大社慶雲殿、春日若宮御旅所	33	
12月16日 12月17日	研究会	全国美術館会議　情報・資料研究部会	講堂	38	主催：奈良国立博物館 全国美術館会議情報・資料研究部会
12月17日	茶会	陶燈茶夜	茶室・庭園、西新館南側ピロティー	145	主催：奈良市市民連携企画実行委員会
24年1月19日	研修	ハラスメント研修	講堂	26	
24年1月22日	落語	「まほろば寄席－奈良国立博物館落語シリーズ第13回－」 桂　吉の丞、笑福亭　喬若、桂　春雨、桂 小春團治による落語会	講堂	147	
24年1月26日	研修	個人情報保護研修	講堂	28	
24年2月8日	観光 イベント	なら瑠璃絵の会場として、西新館北側壁面にプロジェクターによる画像を投影	西新館 北側壁面	—	主催：なら瑠璃絵実行委員会
24年2月9日	講演会	特別講演会「神と仏の出会い」 講師：西山　厚（奈良国立博物館学芸部長）	講堂	195	主催：なら瑠璃絵実行委員会
24年2月12日	講演会 体験	お水取り講話と粥の会	講堂、展示室、茶室控室、二月堂	38	
24年2月15日	特別公開	「文化財保存修理所特別公開」 普段は公開していない修理所を当館研究員の解説付きで見学	講堂 修理所	第1回　35 第2回　36 第3回　39 計110	
24年3月2日	講演 体験	お水取り展鑑賞とお松明	講堂、展示室、東大寺本坊、二月堂	95	主催：奈良国立博物館特別支援会員　結の会
24年3月10日	Ustream中継	「お水取り」	地下回廊	—	主催：奈良トライアングルミュージアムズ推進会議
24年3月17日	シンポジウム コンサート	市民連携企画企画事業残したもの－観光の未来を考える 音燈華スペシャルコンサート	仏教美術資料研究センター 西新館庭園	96	主催：奈良市市民連携企画実行委員会

【九州国立博物館】

1）会場提供　30件

期間	種類	イベント等の概要	会場	出席者（人）	備考
4月24日	コンサート	Ｆｒｅｅ Ｓｔｙｌｅ×池上眞吾　箏・尺八ライブ	ミュージアムホール	200	主催：田中一平
4月29日	コンサート	弦楽合奏団ムジークルンデ　春のコンサート	ミュージアムホール	150	主催：弦楽合奏団「ムジーク・ルンデ」村上康子
4月30日	コンサート	川口京子＆ＬＫソングサークル「うたは心のふるさと」	ミュージアムホール	200	主催：ＬＫソングサークル　阪東厚子
5月3日	コンサート	ラ・フォル・ジュルネ鳥栖「熱狂の日」音楽祭プレ公演	ミュージアムホール	200	主催：ラ・フォル・ジュルネ鳥栖「熱狂の日」音楽祭実行委員会事務局
5月10日～29日	展示	第50回記念 日本現代工芸美術福岡展	ミュージアムホール/エントランス	52,000	主催：現代工芸美術家協会九州会
7月9日	イベント	喜界島の島唄と志戸桶八月踊り	エントランス	50	主催：喜界町文化協会／志戸桶十五夜会／筑紫女学園大学日本語・日本文学科
7月12日～24日	展示	コロタイプ複製でよみがえる法隆寺金堂壁画と国宝絵巻	エントランス	36,799	主催：コロタイプ技術の保存と印刷文化を考える会
7月26日～31日	展示	九州国立博物館／北九州市立自然史・歴史博物館連携・交流事業展示	エントランス	29,405	主催：北九州市立自然史・歴史博物館

期間	種類	イベント等の概要	会場	出席者（人）	備考
8月9日～20日	展示	京築神楽写真展	エントランス	45,200	主催：京築連帯アメニティ都市圏推進会議／京築神楽の里づくり推進会議
8月20日	イベント	エレキット夏休み工作教室 in 太宰府 2011	研修室	102	主催：（株）イーケイジャパン
8月20日	公演	京築神楽　九州国立博物館公演	ミュージアムホール	300	主催：京築連帯アメニティ都市圏推進会議／京築神楽の里づくり推進会議
8月23日～9月4日	展示	古代山城ブース展示	エントランス	40,155	主催：熊本県／熊本県教育委員会
9月18日～19日	展示	久高良治 探求８　映像影像「私たちは、自然から何を知り得るのだろう・・・」	ミュージアムホール	850	主催：クダカスタジオ
9月25日	イベント	第10回西日本バンドフェスティバル 2011 in 福岡・太宰府	屋外	1,523	主催：九州吹奏楽連盟
9月25日	イベント	第6回太宰府 古都の光	屋外	150	主催：太宰府ブランド創造協議会
9月27日～10月2日	展示	「あさくら路・燦」～朝倉の祭りと匠の技展～	エントランス	15,234	主催：朝倉市観光協会
10月16日	コンサート	2011 北九州国際音楽祭 in 九州国立博物館 ～東日本大震災復興支援コンサート～	ミュージアムホール	260	主催：九州国立博物館振興財団／北九州国際音楽祭実行委員会
10月25日～30日	展示	建築士事務所キャンペーン～信頼のあかし～ 「歴史あるみどり豊かな文化と歴史」作品展示	エントランス	19,322	主催：(社)福岡県建築士事務所協会／(社)日本建築士事務所協会連合会
10月28日～30日	イベント	出前温泉「足湯」事業 ～お！館外にもあった　至福の時～	屋外	150	主催：福岡県観光温泉地協会
10月28日	講演等	建築士事務所キャンペーン～信頼のあかし～ 「歴史あるみどり豊かな文化と歴史」基調講演・設計コンペ表彰式	ミュージアムホール	80	主催：(社)福岡県建築士事務所協会／(社)日本建築士事務所協会連合会
11月1日～6日	展示	九州銘菓協会60周年記念展「九州銘菓の伝統と創造」展示	ミュージアムホール/研修室	4,072	主催：九州銘菓協会
11月1日～6日	販売	九州銘菓協会60周年記念展「九州銘菓の伝統と創造」販売	エントランス	4,400	主催：九州銘菓協会
11月3日	展示	「いいな、いい歯。」週間普及啓発事業	屋外	1,000	主催：(社)筑紫歯科医師会
24年1月12日～15日	展示	長崎べっ甲展	エントランス	11,806	主催：一般社団法人　日本べっ甲協会
24年2月18日	イベント	博多伝統芸能～博多芸妓の世界～	ミュージアムホール	250	主催：九州国立博物館振興財団
24年2月21日～26日	展示	大川匠の世界コレクション	ミュージアムホール／エントランス	33,249	主催：(財)大川総合インテリア産業振興センター
24年2月28日～3月4日	展示	第2回ステンドグラスアート・九州会作品展	ミュージアムホール	8,250	主催：ステンドグラスアート・九州会（SGA九州会）
24年3月13日～18日	展示	第6回福岡県景観大会　「景観文化展作品等展示」	エントランス	11,028	主催：福岡県／福岡県美しいまちづくり協議会
24年3月18日	イベント	第6回福岡県景観大会 「表彰式」「まちづくり団体活動発表会」	ミュージアムホール	90	主催：福岡県／福岡県美しいまちづくり協議会
24年3月24日	講座	太宰府発見塾公開講座	ミュージアムホール	250	主催：太宰府市、太宰府市教育委員会

2)　館主催・協力イベント　73件

期間	種類	イベント等の概要	会場	出席者（人）	備考
4月9日	イベント	第4回 親子で茶道体験	茶室	11	主催：九州国立博物館
4月10日	コンサート	第83回 きゅーはくミュージアムコンサート “SAW much in LOVE”	エントランス	150	主催：九州国立博物館
4月15日	コンサート	きゅーはくカフェコンサート	エントランス	40	主催：九州国立博物館／福岡女子短大
4月22日	コンサート	きゅーはくカフェコンサート	エントランス	50	主催：九州国立博物館／福岡女子短大
4月29日	イベント	第1回 ペアで茶道体験	茶室	6	主催：九州国立博物館
5月5日	イベント	ボランティア企画イベント　こどもの日 プラ板キーホルダーづくり	エントランス	300	主催：九州国立博物館ボランティア
5月8日	イベント	第5回 親子で茶道体験	茶室	42	主催：九州国立博物館
5月8日	コンサート	第84回 きゅーはくミュージアムコンサート 「絵本と音の玉手箱」	ミュージアムホール	150	主催：九州国立博物館
5月13日	コンサート	きゅーはくカフェコンサート	エントランス	110	主催：九州国立博物館／福岡女子短大
5月22日	イベント	第2回 ペアで茶道体験	茶室	8	主催：九州国立博物館
5月27日	コンサート	きゅーはくカフェコンサート	エントランス	60	主催：九州国立博物館／福岡女子短大
5月28日	ワークショップ	第1回 ガムランワークショップ	エントランス	18	主催：九州国立博物館
6月10日	コンサート	きゅーはくカフェコンサート	エントランス	50	主催：九州国立博物館／福岡女子短大
6月12日	ワークショップ	第2回 ガムランワークショップ	ミュージアムホール	18	主催：九州国立博物館
6月17日	コンサート	きゅーはくカフェコンサート	エントランス	45	主催：九州国立博物館／福岡女子短大
6月25日	イベント	第6回 親子で茶道体験	茶室	40	主催：九州国立博物館
6月25日	コンサート	第85回 きゅーはくミュージアムコンサート 「World Music from Japan」	エントランス	70	主催：九州国立博物館

期間	種類	イベント等の概要	会場	出席者（人）	備考
6月26日	コンサート	太宰府市民吹奏楽団第7回まほろばコンサート	ミュージアムホール	550	主催：太宰府市民吹奏楽団／九州国立博物館
7月9日	イベント	第7回 親子で茶道体験	茶室	34	主催：九州国立博物館
7月10日	ワークショップ	第3回 ガムランワークショップ	ミュージアムホール	18	主催：九州国立博物館
7月15日	コンサート	きゅーはくカフェコンサート	エントランス	120	主催：九州国立博物館／福岡女子短大
7月16日～17日	イベント	いこうよ！あじっぱ夏祭り2011	ミュージアムホール	300	主催：九州国立博物館
7月22日	コンサート	きゅーはくカフェコンサート100回記念演奏会	ミュージアムホール	100	主催：九州国立博物館／福岡女子短大
7月23日	イベント	第1回 はじめての茶道体験	茶室	11	主催：九州国立博物館
7月23日	コンサート	第86回 きゅーはくミュージアムコンサート【和の競演】～夢よ伝われ、世界へこどもたちへ～	エントランス	200	主催：九州国立博物館
7月26日～8月7日	イベント	ボランティア企画イベント　七夕 短冊書き＆七夕飾り	エントランス	500	主催：九州国立博物館ボランティア
8月19日	コンサート	きゅーはくカフェコンサート	エントランス	100	主催：九州国立博物館／福岡女子短大
8月21日	ワークショップ	ボランティア夏休みワークショップ ハニワの色付け体験・ループ組紐ストラップづくり	エントランス	250	主催：九州国立博物館ボランティア
8月21日	ワークショップ	第4回 ガムランワークショップ	ミュージアムホール	18	主催：九州国立博物館
8月21日	イベント	第2回 はじめての茶道体験	茶室	27	主催：九州国立博物館
8月27日～28日	イベント	吉野ヶ里Days in 九博	ミュージアムホール	1,266	主催：佐賀県教育委員会／（財）佐賀県芸術文化育成基金／国営吉野ヶ里歴史公園事務所／（財）公園緑地管理財団吉野ヶ里公園管理センター
8月27日	イベント	第8回 親子で茶道体験	茶室	31	主催：九州国立博物館
8月27日	コンサート	第87回 きゅーはくミュージアムコンサート「博多んジャズば 聴いてんしゃい！」	エントランス	200	主催：九州国立博物館
9月17日	イベント	第3回 はじめての茶道体験	茶室	15	主催：九州国立博物館
9月17日	コンサート	第88回 きゅーはくミュージアムコンサート 古楽器でつづるバロック～クラシック音楽の源流を体感しよう～	エントランス	150	主催：九州国立博物館
9月25日	イベント	第9回 親子で茶道体験	茶室	47	主催：九州国立博物館
9月30日	コンサート	きゅーはくカフェコンサート	エントランス	70	主催：九州国立博物館／福岡女子短大
10月8日～16日	イベント	第6回九州地域ブランドフォーラム「九州郷土品祭り」	屋外/エントランス	28,700	主催：(社)日本イベントプロデュース協会九州本部
10月8日	イベント	アサヒ緑健スポーツメセナ　第9回ふれあい健康ウォーク	屋外	3,700	主催：西日本新聞社
10月14日～15日	イベント	第2回九州人形浄瑠璃フェスティバル	ミュージアムホール	500	主催：九州国立博物館
10月15日	イベント	第10回 親子で茶道体験	茶室	26	主催：九州国立博物館
10月15日	コンサート	第89回 きゅーはくミュージアムコンサート ～草原のプリンセス～	エントランス	150	主催：九州国立博物館
10月16日	イベント	第4回 はじめての茶道体験	茶室	20	主催：九州国立博物館
10月23日	ワークショップ	ボランティア秋のワークショップ ハニワの色付け体験・和綴じ本をつくろう	エントランス	200	主催：九州国立博物館ボランティア
11月3日	イベント	第5回 はじめての茶道体験（留学生限定）	茶室	59	主催：九州国立博物館
11月3日	イベント	第90回 きゅーはくミュージアムコンサート「DO YOU 能?」 ～現存する世界最古の演劇“能”を体感してみよう～	エントランス	200	主催：九州国立博物館
11月6日	イベント	第11回 親子で茶道体験	茶室	40	主催：九州国立博物館
11月18日	コンサート	きゅーはくカフェコンサート	エントランス	90	主催：九州国立博物館／福岡女子短大
12月9日	コンサート	きゅーはくカフェコンサート	エントランス	45	主催：九州国立博物館／福岡女子短大
12月17日	イベント	第6回 はじめての茶道体験	茶室	20	主催：九州国立博物館
12月17日	コンサート	第91回 きゅーはくミュージアムコンサート	エントランス	320	主催：九州国立博物館
12月22日	コンサート	きゅーはくカフェコンサート	エントランス	35	主催：九州国立博物館／福岡女子短大
12月23日	イベント	第12回 親子で茶道体験	茶室	47	主催：九州国立博物館
24年1月3日	イベント	ボランティア企画「九博のお正月」餅つき	屋外	600	主催：九州国立博物館ボランティア
24年1月4日	イベント	ボランティア企画「九博のお正月」折り紙	エントランス	75	主催：九州国立博物館ボランティア
24年1月8日	イベント	ボランティア企画「九博のお正月」書初め	エントランス	130	主催：九州国立博物館ボランティア
24年1月15日	イベント	第7回 はじめての茶道体験	茶室	9	主催：九州国立博物館
24年1月15日	コンサート	第92回 きゅーはくミュージアムコンサート	エントランス	300	主催：九州国立博物館
24年1月17日	イベント	ひなの国九州フェスタ2012	エントランス	35,820	主催：九州のひなまつり広域振興協議会

期間	種類	イベント等の概要	会場	出席者（人）	備考
24年1月20日	コンサート	きゅーはくカフェコンサート	エントランス	60	主催：九州国立博物館／福岡女子短大
24年1月21日	イベント	第13回 親子で茶道体験	茶室	34	主催：九州国立博物館
24年1月27日	イベント	きゅーはくカフェコンサート	エントランス	80	主催：九州国立博物館／福岡女子短大
24年2月17日	イベント	きゅーはくカフェコンサート	エントランス	100	主催：九州国立博物館／福岡女子短大
24年2月18日	イベント	第8回 はじめての茶道体験	茶室	10	主催：九州国立博物館
24年2月19日	イベント	第14回 親子で茶道体験	茶室	46	主催：九州国立博物館
24年2月19日	コンサート	第93回 きゅーはくミュージアムコンサート	エントランス	300	主催：九州国立博物館
24年2月19日	イベント	九博子どもフェスタ	ミュージアムホール／エントランス	6,866	主催：九州国立博物館
24年3月3日	イベント	第15回 親子で茶道体験	茶室	11	主催：九州国立博物館
24年3月3日	コンサート	第94回 きゅーはくミュージアムコンサート	エントランス	250	主催：九州国立博物館
24年3月4日	イベント	第9回 はじめての茶道体験	茶室	8	主催：九州国立博物館
24年3月6日～18日	展示	筑紫地区文化財写真展「ちくし再発見～わがまちの宝～」展	エントランス	22,608	主催：九州国立博物館
24年3月9日	コンサート	きゅーはくカフェコンサート	エントランス	60	主催：九州国立博物館／福岡女子短大
24年3月25日	イベント	九博こども文化芸能祭	ミュージアムホール／エントランス	300	主催：九州国立博物館

2-(2)-⑩ 「留学生の日」

館名・日程	内容	アンケート結果概要
東京国立博物館 10月8日(土) 9：30～17：00	○参加者数　1,032人《1,065人》 留学生　948人《977人》 同伴者　84人《 88人》 ・無料観覧（総合文化展のみ） ・ボランティアによる茶会 参加者数：110人（3回計） ・ボランティアによる英語ガイド 参加者数：81人 ・ボランティアによるガイドツアー 参加者数：145人	・留学生アンケート回答者数545人 回収率　53% ・出身国：中国48%、台湾11%、韓国8%、アメリカ9%　他 ・認知経路：ポスター57%(ポスターと回答したうちの掲示場所：学校266件、駅37件) 友人から22%、学校関係者から14% ・参加したイベント： 観覧のみ42%、 お茶会17%、 ガイドツアー(考古11%,浮世絵10%,陶磁8%,法隆寺宝物館10%) 英語ガイド11%
京都国立博物館 11月5日(土) 9：30～18：00	○参加者数　107人《184人》 留学生　106人《182人》 同伴者　1人《 2人》 ・特別展覧会「細川家の至宝」無料観覧	・留学生アンケート回答者数21人 (回収率20%) ・初めて来館した人が95% ・48%がポスター･チラシで知り、38%が先生･友達から聞いて来た ・出身国：約9割がアジア ・特別展の満足度　100% ・日本の歴史、美術に興味のある方が多い
奈良国立博物館 11月2日(水) 9：00～18：00 (正倉院展会期中のため9：00開館)	○来館者数 15,411人《11,806人》 留学生　157人《 99人》 ・「正倉院展」(特別展)及び平常展の無料観覧	・アンケート実施せず
九州国立博物館 11月3日(木・祝) 9：30～17：00	○来館者数 文化交流展(平常展)　1,463人《1,464人》 留学生　156人《 178人》 ・平常展のみ無料観覧 ・きゅーはくミュージアムコンサート	・留学生アンケート回答者数11人 (回収率0.7%) ・出身国：中国90%、 ・初めて来館した人81% ・認知経路：友達から聞いた 27%、学校関係者から36% ・来館理由：日本文化をもっと知りたいから43%、博物館を観察することが好きだから18% ・参加イベント：どれにも参加していない 27%、茶道体験54%、ﾐｭｰｼﾞｱﾑｺﾝｻｰﾄ18% ・文化交流展満足度：81%（感想、ご意見より）

＊来館者数、参加者数等：《　》内は平成22年度

2-(3) 快適な観覧環境の提供

2-(3)-① 高齢者、障がい者等に配慮した設備等

平成24年3月31日現在

	東京国立博物館	京都国立博物館	奈良国立博物館	九州国立博物館
障がい者用トイレ	10か所 （本館5、平成館2、東洋館1、法隆寺宝物館1、資料館1）	4か所 （特別展示館1、南門施設1（乳児ベッド併設）、屋外トイレ1、文化財保存修理所1	3か所 （東新館1、地下回廊2）	6か所 （本体建物）
障がい者用エレベータ	8基 （本館2、平成館1、東洋館4、法隆寺宝物館1）	昇降装置1基 （管理棟1）	4基 （なら仏像館1、なら仏像館附属棟1、東新館1、西新館1）	2基 （本体建物）
スロープ	4か所 （本館、東洋館、法隆寺宝物館、表慶館）	3か所 （特別展示館1、南門施設1、文化財保存修理所1）	3か所 （なら仏像館1、なら仏像館附属棟1、西新館1）	—
ハンディキャップ優先駐車	2台	3台	—	3台
車椅子	13台 （本館2台、東洋館1、平成館7、法隆寺宝物館1、表慶館1、正門1）	15台	10台	28台
乳幼児用設備	○ベビーカー 2台 ○ベビーシート 11か所 ○ベビーチェア 10か所	○ベビーカー 7台 ○ベビーシート 6か所 ○チャイルドシート 1か所	○ベビーシート 2か所	○ベビーカー 7台 ○ベビーシート 15か所 ○ベビーチェア 6か所
23年度整備事項	・貸出用ベビーカー2台を配置し、12月7日から貸出を開始した。			・障がい者用トイレ3ヶ所に、音声案内装置を設置した。

2-(3)-② 音声ガイド実施状況

東京国立博物館	京都国立博物館	奈良国立博物館	九州国立博物館
23年度計：319,172台	23年度計：34,095台	23年度計：46,113台	23年度計：56,993台
・特別展 「写楽」 47,957台 ・特別展 「手塚治虫のブッダ展」 13,852台 ・特別展 「空海と密教美術」 139,048台 ・特別展 「孫文と梅屋庄吉」 4,427台 ・特別展 「法然と親鸞　ゆかりの名宝」 55,806台 ・特別展 「北京故宮博物院200選」 58,082台 （参考） ・総合文化展「とーはくナビ」 23年度：2,829台 （期間：23年1月17日～4月17日）	・特別展 「法然」 （日本語版・一般向け） 4/1以降：15,915台 （会期中（3/26～）：17,586台） ・特別展観 「百獣の楽園」 （日本語版・一般向け） 2,168台 ・特別展 「細川家の至宝」 （日本語版・一般向け） 14,906台 ・特別展 「中国近代絵画と日本」 （日本語版・一般向け） 1,106台	・特別展 「誕生！中国文明」 （日本語版・一般向け） 2,630台 （日本語版・子供向け） 5台 （日本語版・一般/子供セット） 80台 ・特別展 「天竺へ～三蔵法師3万キロの旅」 （日本語版・一般向け） 6,566台 ・特別展 「第63回正倉院展」 （日本語版・一般向け） 35,415台 （英語版・一般向け） 128台 （日本語版・子供向け） 1,289台	・文化交流展示 4,706台 （英語版 1,402台） （中国語版 950台） （韓国語版 2,354台） ・特別展 「黄檗」展 6,173台 ・特別展 「よみがえる国宝」展 18,028台 ・特別展 「草原の王朝　契丹」展 10,673台 ・特別展 「細川家の至宝」展 17,413台

2-(4) 文化財情報の発信と広報の充実

2-(4)-① 収蔵品写真（フィルム）等のデジタル化件数

東京国立博物館	京都国立博物館	奈良国立博物館	九州国立博物館
画像　1,468件	画像　2,165件 文字　3,410件	画像　5,297件 文字　4,370件	画像　2,146件

2-(4)-② 収集した情報資料数（総数）

		東京国立博物館		京都国立博物館		奈良国立博物館		九州国立博物館	
		23年度新規	総数	23年度新規	総数	23年度新規	総数	23年度新規	総数
写真原板(フィルム)		1,379枚	(*1)319,952枚	3,410枚	253,550枚	219枚	(*1)372,043枚	2,175枚	21,316枚
デジタル撮影		9,187枚	(*1)27,561枚	170枚	170枚	5,884枚	(*1)16,561枚	2,266枚	16,866枚
資料	模造	0	0	0	0	0	0	0	0
	模写	0	0	0	0	0	0	0	0
	その他	0	0	0	0	0	0	0	0
	計	0	0	0	0	0	0	0	0
図書	和書	3,765冊	174,303冊	47,400冊	117,385冊	1,681冊	73,655冊	5,422冊	67,494冊
	漢書	80冊	38,081冊	1,830冊	21,007冊	56冊	4,984冊	0冊	0冊
	洋書	125冊	12,113冊	1,765冊	3,970冊	44冊	1,622冊	163冊	2,104冊
	計	3,970冊	224,497冊	50,995冊	142,362冊	1,781冊	80,261冊	5,585冊	69,598冊
映画フィルム		0	0	0	24巻	0巻	30巻	0	0
スライド		0	0	0	26本 2,779コマ	0本 0コマ	21本 2,192コマ	0	12コマ
マイクロフィルム		0巻	(*1)3,657巻	0巻	359巻	0巻	(*1)68巻	0巻	515巻

※(*1)の項目については、総数再確認の結果、平成22年度年報に記載の22年度総数が修正となった(<東博>写真原板(フィルム)318,773枚→318,573枚、デジタル撮影17,945枚→18,374枚、マイクロフィルム3,656巻→3,657巻、<奈良博>写真原板(フィルム)361,128枚→361,147枚)、デジタル撮影9,959枚→10,677枚、マイクロフィルム0巻→68巻)。本表の記載は、この修正を踏まえたものである。

東京国立博物館資料館の利用者数（過去5年間）

	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度
利用者数	3,134人	2,764人	2,898人	2,796人	3,385人
閉架図書（閲覧）	3,321件	3,757件	7,527件	3,138件	3,032件
マイクロフィルム(閲覧)	650件	596件	577件	994件	573件
レファレンスサービス	3,299件	4,024件	2,973件	3,339件	2,783件
コピーサービス	23,287枚	22,669枚	22,438枚	26,210枚	19,983枚

※震災の影響により、23年3月14日～31日および23年4月1日～30日は臨時休館。
※23年9月1日より、従来からの西門入館利用に加え、正門からの来館者に対し資料館東口からの利用を開始した。以後の利用者数はこれを含む。

2-(4)-③ 特別観覧件数

申請件数

平成24年3月31日現在

区分	国立博物館			東京国立博物館			京都国立博物館			奈良国立博物館			九州国立博物館		
	合計	有料	無料	合計	有料	無料	合計	有料	無料	合計	有料	無料	合計	有料	無料
合計	315	15	300	134	5	129	53	5	48	50	3	47	78	2	76
写真撮影	64	3	61	7	0	7	14	1	13	20	2	18	23	0	23
映画撮影	19	11	8	7	5	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0
テレビ撮影							0	0	0	1	1	0	7	2	5
ビデオ撮影							3	3	0				1	0	1
模写	10	0	10	0	0	0	0	0	0	1	0	1	1	0	1
模造				4	0	4	0	0	0				4	0	4
熟覧	222	1	221	116	0	116	36	1	35	28	0	28	42	0	42

点数

平成24年3月31日現在

区分	国立博物館			東京国立博物館			京都国立博物館			奈良国立博物館			九州国立博物館		
	合計	有料	無料	合計	有料	無料	合計	有料	無料	合計	有料	無料	合計	有料	無料
合計	1,477	31	1,446	535	16	519	389	7	382	259	6	253	294	2	292
写真撮影	558	6	552	42	0	42	291	1	290	112	5	107	113	0	113
映画撮影	39	24	15	21	16	5	0	0	0	0	0	0	0	0	0
テレビ撮影							0	0	0	1	1	0	7	2	5
ビデオ撮影							5	5	0				5	0	5
模写	19	0	19	0	0	0	0	0	0	2	0	2	3	0	3
模造				6	0	6	0	0	0				8	0	8
熟覧	861	1	860	466	0	466	93	1	92	144	0	144	158	0	158

2-(4)-④ 画像利用件数（フィルムを含む）

申請件数

平成24年3月31日現在

区分			国立博物館			東京国立博物館			京都国立博物館			奈良国立博物館			九州国立博物館		
			合計	有料	無料	合計	有料	無料	合計	有料	無料	合計	有料	無料	合計	有料	無料
画像利用	フィルムでの提供	モノクロ	0	0	0	（画像提供業務を外部へ委託）			0	0	0				0	0	0
		カラー	347	247	100				342	246	96				5	1	4
	デジタルデータ提供	モノクロ	386	219	167				356	303	53	263	167	96	18	2	16
		カラー													105	50	55
	プリントでの提供	モノクロ	137	107	30				135	106	29	2	1	1			
		カラー	6	4	2				0	0	0	6	4	2			
画像再利用			143	92	51							137	90	47	6	2	4

点数

平成24年3月31日現在

区分			国立博物館			東京国立博物館			京都国立博物館			奈良国立博物館			九州国立博物館		
			合計	有料	無料	合計	有料	無料	合計	有料	無料	合計	有料	無料	合計	有料	無料
画像利用	フィルムでの提供	モノクロ	0	0	0	（画像提供業務を外部へ委託）			0	0	0				0	0	0
		カラー	1,769	801	968				1,761	799	962				8	2	6
	デジタルデータ提供	モノクロ	3,172	1,613	1,559				1,630	1,114	516	1,537	384	1,153	68	6	62
		カラー													453	109	344
	プリントでの提供	モノクロ	373	210	163				363	209	154	10	1	9			
		カラー	12	9	3				0	0	0	12	9	3			
画像再利用			290	174	116							259	169	90	31	5	26

2-(4)-⑤ 広報実績一覧

【東京国立博物館】

(1) 総合文化展（平常展）

・特集陳列「呉昌碩の書・画・印」　台東区立書道博物館との連携企画
+会期：平成 23 年 4 月 12 日（火）～6 月 5 日(日)
ターゲット：書道愛好家
重点項目：新聞および書・美術専門雑誌に向けてのプロモート
特記事項：台東区立書道博物館と連携してリリースを配信
報道内覧会の実施　(9月12日、21人出席)

種類	設置場所・件数等
ポスター・チラシ・ＤＭ送付	台東区書道博物館から送付
交通広告	9月上旬　駅貼り広告(ＪＲ上野駅、鶯谷駅)
新聞・雑誌広告	―
テレビ広告	―
新聞掲載	―
テレビなど	―
雑誌掲載	「月刊書道界」など
博物館ニュース	注目の特集蘭掲載　1回　催し物掲載1回
インターネット	当館ウェブサイトでの紹介、ブログ関連記事8回、メールマガジンでの情報配信

・特別企画
「留学生の日」
+会期：平成23年10月8日（土）
ターゲット：留学生
重点項目：学校を通じた広報
特記事項：リリースの配信(約280件)、ポスター・チラシの制作、学校へのＤＭ、京王線大学所在駅の交通広告

種類	設置場所・件数等
ポスター・チラシ・ＤＭ送付	約510件(大学、語学専門学校等)
交通広告	京王線　大学所在7駅駅貼り
新聞・雑誌広告	―
テレビ広告	―
新聞掲載	―
テレビ・ラジオなど	―
雑誌掲載	―
博物館ニュース	告知2回
インターネット	当館ウェブサイトでの紹介、ブログ関連記事2回メールマガジンでの情報配信

・特別企画
「博物館に初もうで」、東京国立博物館140周年キャンペーン
+会期：平成24年1月2日（月・休）～29日(日)
ターゲット：一般の美術愛好家、家族連れ、日本人および外国人観光客
重点項目：タレントを起用したイメージポスターによるキャンペーンを展開
特記事項：「ブンカのちからにありがとう」キャンペーン。140周年を機に、来館者、館の歴史を作った人々、さらに文化がここに伝わったことへの感謝を表明するともに、未来への文化継承の意義を訴える広告を制作。館の認知度をアップを図ると共に文化財保護を訴えるキャンペーンとした。
24年1月2日鏡開きイベントに中谷美紀氏出演

種類	設置場所・件数等
ポスター・チラシ・ＤＭ送付	約1,950件(博物館・美術館・学校・大使館・ギャラリー・カルチャーセンター等)
交通広告	駅貼り（JR上野駅集中貼、ＪＲ鶯谷駅、東京メトロ、東急、京王、京成　計約30駅約160枚) 駅ボード（ＪＲ主要駅　ＳＷボード27駅　37面）
新聞・雑誌広告	朝日新聞夕刊15段カラー１回、読売新聞夕刊10段カラー1回、毎日新聞夕刊10段カラー1回、産経新聞5段カラー1回、ジャパンタイムズ1／16　2回、デイリー読売1／16　1回
テレビ広告	―
新聞掲載	読売新聞、毎日新聞、東京新聞、産経新聞、公明新聞
テレビ・ラジオなど	とくダネ！（フジテレビ）、ＰＯＮ！(日本テレビ)　LOHAS SUNDAY（J-WAVE）ほか
雑誌掲載	東京ウオーカー（角川マガジンズ）、展覧会ガイド　ほか
博物館ニュース	140周年特集１回、初もうで特集1回
インターネット	当館ウェブサイトでの紹介、ブログ関連記事10回、メールマガジンでの情報配信 日本テレビニュースネット、NTTiコンシェルほか

・特別企画
「博物館でお花見を」
+会期：平成24年3月20日（火・祝）～4月15日(日)
ターゲット：一般の美術愛好家、家族連れ、日本人および外国人観光客
重点項目：広く一般のマスコミを通じた情報提供。
特記事項:イベント広報を通じて、まだ博物館に来たことのない人の来館を促進。家族づれや外国人観光客向けの媒体へのプロモートを実施。Ｊ－ＷＡＶＥとのタイアップイベントを開催。事前告知及び当日の公開生放送、イベント等で広く一般への周知と新規来館者の獲得と図った。

種類	設置場所・件数等
ポスター・チラシ・ＤＭ送付	約1,256件(全国博物館・美術館・学校・ホール・大使館・ギャラリー・ホテル・旅館・インターナショナルスクール・カルチャーセンター等)
交通広告	駅貼り(ＪＲ京浜エリアシングル　23駅Ｂ1 46枚、中央総武シングル　19駅38枚、東京メトロ、東京メトロシングル24駅　Ｂ160枚　京王電鉄　約10駅80枚)
新聞・雑誌広告	朝日新聞、読売新聞、ジャパンタイムズ、デイリーヨミウリ　各1回
テレビ広告	―
新聞掲載	―
テレビなど	Ｊ－ＷＡＶＥタイアップイベント
雑誌掲載	春ぴあ　など
博物館ニュース	特集2回
インターネット	当館ウェブサイトでの紹介、ブログ関連記事4回、メールマガジンでの情報配信

・長期的な広報
　羽田空港　京成新国際ターミナル駅　上下線ホームピラー、可動柵広告22年12月1日～24年3月31日
　都営バス　ラッピング広告（3台）　22年3月25日～24年3月24日

(2) 特別展・共催展等(海外展・巡回展を含む)

展覧会名：特別展「写楽」

+会期：平成23年5月1日（日）～6月12日(日)
ターゲット：広く一般の歴史および美術ファン、浮世絵ファン
重点項目：マスコミおよび交通広告、新聞広告等による広く一般への情報提供
特記事項：東日本大震災による会期変更に関する情報発信（交通広告・新聞広告掲出・リリースの配信等）、首都圏の約600書店と上野のれん会との連携にて割引引換券付しおり28種のキャンペーン実施

① 広報媒体

種類	設置場所・件数等
ポスター・チラシ・ＤＭ送付 ジュニア用ワークシートＤＭ送付	約8,000件(博物館・美術館・学校（小・中・高・大）、ギャラリー、図書館等) ジュニア用ワークシート：東京近郊小中学校に送付、ウェブサイトからのダウンロード、会場内にて配布
交通広告	駅ボード(JR：SVA（43駅60面）、Zボード（21駅23面）、新SWボード（35駅40面）、東京メトロ：SSボード　7日間（26駅40面）)、ポスター駅貼り等(東京メトロ、京王、西武、京成、東急　多数) 車内吊等（京王、京王井の頭、西武　多数）、電飾看板（20駅20面）
新聞・雑誌広告	東京新聞　33回、朝日新聞　5回、読売新聞　2回
テレビ広告	―
新聞掲載	東京新聞(特集、連載コラム、10万人報道)ほか
テレビ/ラジオ	日曜美術館アートシーン（NHK）、美の巨人たち（テレビ東京）、レディス４(テレビ東京)ほか
雑誌掲載	ぴあ（ぴあ）、クロワッサン Premium（マガジンハウス）、Pen（阪急コミュニケーションズ）、サライ（小学館）、婦人画報（アシェット婦人画報社）、BAILA（集英社）、婦人公論（中央公論新社）、美術の窓（生活の友社）、美術手帳（美術出版ホールディングス）ほか
博物館ニュース	告知1回、特集2回
インターネット	当館ウェブサイトでの紹介、メールマガジンでの情報配信、公式ウェブサイト、共催者(東京新聞)ウェブサイトでの紹介、公式サイトでのブログによる情報発信 Fuji-TV Artnet（フジテレビ）、ANA旅達空間（ANA）、Oz Mall（スターツ出版）、WEDGE Infinity（ウェッジ）ほか

②パブリシティー情報掲載・放映
　新聞　416件、雑誌　131件、テレビ/ラジオ 5件、インターネット　67件
③報道発表会　10月28日　平成館大講堂にて　(54人出席)
④報道内覧会　5月3日(201人出席)
⑤教員鑑賞会　実施を予定していたが、東日本大震災の影響により中止となった。

展覧会名：特別展「手塚治虫のブッダ展」

+会期：平成23年4月26日（火）～6月26日(日)
ターゲット：手塚ファン・アニメファン、仏像ファン、広く一般の歴史および美術ファン
重点項目：マスコミおよび交通広告、新聞広告等による広く一般への情報提供。
特記事項：東日本大震災による開場時間変更に関する情報発信（交通広告・新聞広告掲出・リリースの配信等）、幻のお宝チケットプレゼント企画、音声ガイド声優・水樹奈々さんの関連広報企画（リリース、開会式出席、クイズプレゼント企画等）、仏像ガール講演会など

① 広報媒体

種類	設置場所・件数等
ポスター・チラシ・ＤＭ送付 ジュニア用ワークシートＤＭ送付	約2,800件(博物館・美術館、学校（小・中・高・大）、ギャラリー、図書館、秋葉原・神田の古本屋街、アニメ系店舗・学校、エスニックレストラン　等) ジュニア用ワークシート：東京近郊小中学校に送付、ウェブサイトからダウンロード、および会場内にて配布
交通広告	ＪＲ上野駅大型フラッグ１箇所、ＪＲ上野駅公園口デジタルサイネージ４台 メトロ大型ボード　１７駅２０面 京王線新宿駅改札口前ラウンド柱まわり、京王線明大前ホーム４連貼 京王線吉祥寺駅アップルボード１０連貼 銀座４丁目三愛ビジョン

新聞・雑誌広告	読売新聞　半５段カラー、全５段 日経新聞　全５段、朝日新聞　全５段 映画「ブッダ」とのタイアップ広告
テレビ広告	TBS
新聞掲載	産経エキスプレス　産経新聞（サブカルちゃんねる）、東京スポーツ、大阪スポーツ、中京スポーツ、九州スポーツ、デイリー読売ほか
テレビ放映	「ZIP!」（日本テレビ）、「不思議発見」(TBS)、ミトカナイト東京（フジテレビ）、王様のブランチ（TBS）、クウェート国営放送、MBCテレビ（ドバイ）、France24ほか
雑誌掲載	週刊漫画サンデー、宣伝会議、「一個人　仏教入門」（ベストセラーズ）、「日経ビジネスアソシエ」（日経BP社）、「東京ウォーカー」（角川マーケティング）、週刊ポスト（小学館）、
博物館ニュース	特集2回
インターネット	当館ウェブサイトでの紹介、ブログ関連記事1回メールマガジンでの情報配信 公式ウェブサイト、共催者(東映、TBS)ウェブサイトでの紹介 JAL webサイト、WEDGE Infinity、メディア芸術プラザ（文化庁）など

②パブリシティー情報掲載・放映
　新聞　310件、雑誌　131件、テレビ/ラジオ 15件、インターネット　52件
③記者説明会・映画「ブッダ」試写会　23年3月25日　東映株式会社７階　試写室にて　(40人出席)
④報道内覧会　4月25日(90人出席)

展覧会名：「空海と密教美術」展

+会期：平成23年7月20日（火）～9月25日(日)
ターゲット：広く一般の歴史および美術ファン、仏像ファン
重点項目：マスコミおよび新聞広告、交通広告による広く一般への情報提供。
「国宝・重要文化財98.9%」「マンダラのパワー」などのキャッチで、寺社仏閣ファンのみならず「仏像好きの女子」など若年層にアプローチ
特記事項：展覧会公式ツイッターアカウント開設、展覧会の感想をリプライした全員にオリジナル待受画像プレゼント
展示室での作品落下事故のお詫び掲載（当館ウェブサイト、公式ホームページ）

① 広報媒体

種類	設置場所・件数等
ポスター・チラシ・ＤＭ送付 ジュニア用ワークシートＤＭ送付	約12,000件(博物館・美術館・学校（小・中・高・大）、ギャラリー、図書館等) ジュニア用ワークシート：東京近郊小中学校に送付、ウェブサイトからダウンロード、および会場内にて配布
交通広告	駅ボード　JR沿線（主要駅95面）、私鉄沿線（都内私鉄主要駅100面）、JR新宿駅西口 B1ポスター62面、ポスター駅貼り等(東京メトロ、京王、西武、京成、東急　多数) 車内吊等（京王、京成、西武　多数）、有楽町ビックビジョンＣＭ
新聞・雑誌広告	読売新聞　35回、朝日新聞　5回
テレビ広告	NHKスポット多数回、BSプレミアム画像コンテンツ（仏像ガール・廣瀬郁美氏の解説）
新聞掲載	読売新聞(特集、連載コラム、10万人報道、行幸啓報道)ほか
テレビ放映	日曜美術館(NHK)、首都圏ニュース845（NHK）、情報7daysニュースキャスター（TBS）、モーニングバード（テレビ朝日）、ミヤネ屋（日本テレビ）、上柳昌彦ごごばん！（ニッポン放送）、Re:Wind（FMヨコハマ）ほか
雑誌掲載	空海と密教美術を訪ねる旅（ぴあムック）、Discover Japan（エイ出版社）、仏像探訪（エイ出版社）、男の隠れ家「密教」（グローバルプラネット）、芸術新潮（新潮社）、日経おとなのOFF（日経BP）、Casa BRUTUS（マガジンハウス）、家庭画報（世界文化社）、いきいき（いきいき）ほか
博物館ニュース	予告2回、特集1回
インターネット	当館ウェブサイトでの紹介、ブログ関連記事12回、メールマガジンでの情報配信 公式ウェブサイト、共催者(NHK、NHKプロモーション)ウェブサイトでの紹介 WEBサライ（小学館）、日テレNEWS24（日本テレビ）、MSN産経ニュース（産経新聞）、クラブツーリズム（クラブツーリズム）、上野経済新聞（上野経済新聞）ほか

②パブリシティー情報掲載・放映
　新聞　637件、雑誌　154件、テレビ/ラジオ 16件、インターネット　38件
③記者発表会　23年3月10日　平成館大講堂にて　(86人出席)
④報道内覧会　7月19日(175人出席)
⑤教員鑑賞会　8月2日(405人出席)
⑥雑誌「ぴあ」読者内覧会　8月23日(112人出席)

展覧会名：特別展「孫文と梅屋庄吉　100年前の中国と日本」

+会期：平成23年7月26日（火）～9月4日(日)
ターゲット：広く一般の歴史および美術ファン、中国ファン、在日中国人
重点項目：マスコミおよび新聞広告、交通広告による広く一般への情報提供
特記事項：日比谷・松本楼でのプレスランチ（発表会）実施（国内メディア1回＋中国メディア1回）
　　松本楼の絆カレープレゼント企画、中国人メディアに向けたプレスランチ、ギャラリートーク開催とチラシによる周知、
　　空海と密教美術展の半券提示でポストカードプレゼント企画とチラシ設置など。

① 広報媒体

種類	設置場所・件数等
ポスター・チラシ等ＤＭ送付	約600件(博物館・美術館・大学（中国語関連学部学科、写真学科）、小・中学校（中華学校）、図書館、中国語関連（語学学校、カルチャースクール）、中国関連の協会、レストラン等)

交通広告	駅ボード(東京メトロ電飾8面) ポスター駅貼り等(京王線・主要駅)、 中吊り（東京メトロ全線　1週間+空き枠にランダムに掲出）
新聞・雑誌広告	突出雑報、大型雑報、全2段、半2段、全5段、半5段 開幕半月前～閉幕前日まで、空き枠に掲載
ラジオ広告	TBSラジオ ワイドラジオTOKYO永六輔（土9時）、エキサイトベースボール（水18時）、 ニュース探求ラジオ（月-金22時）20秒スポット×計52本 エフエム東京　20秒スポット×25本
新聞掲載	毎日新聞(特集、連載コラム)ほか
テレビ放映	「TOKYO　MX　NEWS」(東京MX)、CCTV、CCTV English、新華社通信社ほか
雑誌掲載	「東京人」（都市出版）、「歴史読本」（新人物往来社）、月刊書道界（藤樹社）ほか
博物館ニュース	特集1回
インターネット	当館ウェブサイトでの紹介、ブログ関連記事2回、メールマガジンでの情報配信 公式ウェブサイト、共催者(毎日新聞)ウェブサイトでの紹介 男子食堂、歴史人、博物館へ行こう！など

②パブリシティー情報掲載・放映
　新聞　234件、雑誌　34件、テレビ/ラジオ 1件、インターネット　22件
③記者発表会（プレスランチ）　6月2日日比谷松本楼にて　(30人出席)
④記者発表会（プレスランチ）　7月14日日比谷松本楼にて　(13人出席)
⑤報道内覧会　7月25日(79人出席)

展覧会名：特別展「法然と親鸞　ゆかりの名宝」

+会期：平成23年10月25日（火）～12月4日(日)
ターゲット：広く一般の歴史および美術ファン、両宗派の門徒および寺院関係者
重点項目：マスコミおよび新聞広告、交通広告による広く一般への情報提供。
震災後の社会状況と法然・親鸞の生きた時代を重ねたキャッチコピー等で、訴求効果を高めた。
特記事項：　トーハンとのタイアップ企画（書店ブックフェアに合わせ7種のしおり、プレゼント企画）。
　　上野商店街飲食店とのタイアップ企画、法然・親鸞ゆかりの小豆と豆腐のしおりを配布。
　　グッズ付チケットの発売。

① 広報媒体

種類	設置場所・件数等
ポスター・チラシ等ＤＭ送付	約7,756件(博物館・美術館・学校（小・中・高・大）、ギャラリー、図書館等)
交通広告	駅ボード(ＪＲステーションボードNTボード100面、JR・メトロ駅SSボード100面、メトロUボード電飾、ポスター駅貼り等(東急、京王)、　ポスター車内（東急、京王）、ビジョン（東急）
新聞・雑誌広告	朝日新聞　26回、NHKテレビテキスト　2回
ラジオ広告	カルチャーラジオ（NHK第2）、ラベンダークルーズ（調布FM）、ラジオ深夜便（NHK第1）、LOHAS SUNDAY(J-WAVE)
新聞掲載	朝日新聞(特集、連載コラム、10万人報道、20万人報道)
テレビ放映	歴史ヒストリア（NHK）、ブランニュー・ステーション（朝日ニュースター）、情報宅急便　きたくん（11北チャンネル）、レールに乗って（信越放送テレビ）、上野・浅草うぃーくえんど（千葉テレビ）、日曜美術館（NHK　Eテレ）
雑誌掲載	「サライ」（小学館）、「家庭画報」（世界文化社）、日経おとなのOFF（日経BP社）、 「一個人」（KKベストセラーズ）、芸術新潮（新潮社）歴史読本（新人物往来社）、ほか
博物館ニュース	告知2回、特集1回
インターネット	当館ウェブサイトでの紹介、ブログ関連記事10回、メールマガジンでの情報配信 公式ウェブサイト、共催者(NHK、朝日新聞)ウェブサイトでの紹介 ブログ貼り付け用画像の提供

②パブリシティー情報掲載・放映
　新聞　220件、雑誌　192件、テレビ/ラジオ 10件、インターネット　38件
③記者発表会　6月17日日本外国特派員協会にて　(58人出席)
④報道内覧会　10月24日(173人出席)
⑤教員鑑賞会　11月4日(218人出席)

展覧会名：　日中国交正常化40周年　東京国立博物館140周年　特別展「北京故宮博物院200選」

+会期：平成24年1月2日（月・祝）～2月19日(日)
ターゲット：広く一般の美術ファン、中国ファン、在日中国人
重点項目：マスコミおよび新聞広告、交通広告による広く一般への情報提供
特記事項：「清明上河図」出品確定の遅れ、中国政府との調印の遅れにより、情報提供、前売発売等が大幅に遅れた。
　　「清明上河図」が出品された場合、されなかった場合を想定し、プレスリリース、ちらし、ポスター、交通広告等すべて2パターン以上を制作。「清明上河図」出品決定後、追加リリース配信、さらに特別報道内覧会の実施等、広報の現場は混乱を極めた。

① 広報媒体

種類	設置場所・件数等
ポスター・チラシ・ＤＭ送付	約8,000件(博物館・美術館・学校（小・中・高・大）、ギャラリー、図書館等)
交通広告	駅ボード(ＪＲ88駅103面のNTボード、JR35駅40面SWボード、メトロ38駅39面SWボード、私鉄SSアクセスボード100駅100面)

新聞・雑誌広告	朝刊社会面下半２段：６回　朝刊社会面下２と１／４段：５回 朝刊興業広告ページ半１０段：２回 夕刊題字下：８回 夕刊全５段：１回　朝刊題字下：１回　ほか
テレビ広告	スポット　多数
新聞掲載	朝日新聞　1面トップ掲載（清明上河図出品のニュース）　特集記事、連載コラム　ほか
テレビ/ラジオ	NHK日曜美術館本編(NHK)、NHKニュース(NHK)　CCTV　ほか
掲載	芸術新潮（新潮社）、東京人(都市出版)、月刊書道界(藤樹社)、日経おとなのOFF(日経BP社)、美術の窓（生活の友社）、男の隠れ家(朝日新聞出版)、書21（匠出版）ほか
博物館ニュース	特集2回
インターネット	当館ウェブサイトでの紹介、ブログ関連記事13回、メールマガジンでの情報配信 公式ウェブサイト、共催者(朝日新聞)ウェブサイトでの紹介 首都高で行こう！、オズグランデ、上野経済新聞、「行こう！博物館美術館」

②パブリシティー情報掲載・放映
　新聞　317件、雑誌　66件、テレビ/ラジオ 3件、インターネット　70件、中国メディア　20件
③記者説明会　11月25日本館会議室にて　(62人出席)
④「清明上河図」特別報道内覧会　12月26日(31人出席)
⑤報道内覧会　24年1月4日(182人出席)

展覧会名：海外展「仏教美術と宮廷の美」　（ヒューストン美術館）
　+会期：平成24年2月19日（日）～4月6日(金)
　2011東京国立博物館展示と催しのご案内、東京国立博物館ニュース、ウェブサイト

【京都国立博物館】

(1)平常展

平常展示館建て替え工事に伴い、平常展示休止中。

(2)特別展等・共催展等

展覧会名：特別展覧会「法然上人八百回忌　法然―生涯と美術―」
会　　期：3月26日～5月8日(39日間)
広報媒体：ポスター、ちらし、情報誌、ホームページ、新聞、ラジオ、公共放送等

展覧会名：特別展観「百獣の楽園―美術にすむ動物たち―」
会　　期：7 月 16 日～8 月 28 日(38 日間)
広報媒体：ポスター、ちらし、情報誌、ホームページ、新聞、ラジオ、公共放送等
記者発表会：7月15日に実施

展覧会名：特別展覧会「細川家の至宝―珠玉の永青文庫コレクション―」
会　　期：10 月 8 日～11 月 23 日(40 日間)
広報媒体：ポスター、ちらし、情報誌、ホームページ、新聞、ラジオ、公共放送等
記者発表会：10月7日に実施

展覧会名：特別展覧会「中国近代絵画と日本」
会　　期：24 年 1 月 7 日～2 月 26 日(44 日間)
広報媒体：ポスター、ちらし、情報誌、ホームページ、新聞、ラジオ、公共放送等
記者発表会：1月6日に実施

展覧会名：京都国立博物館所蔵「典雅なる御装束　―宮廷のオートクチュール―」
会　　期：10 月 1 日～11 月 27 日(50 日間)
広報媒体：ポスター、ちらし、情報誌、ホームページ、新聞、公共放送等

展覧会名：京都国立博物館名品展「京都千年の美の系譜　―祈りと風景―」
会　　期：10月22日～12月 4日(39日間)
広報媒体：ポスター、ちらし、情報誌、ホームページ、新聞、公共放送等

【奈良国立博物館】

(1)名品展(平常展)

広報媒体：博物館だより、新聞、テレビ等

(2)特別展・共催展等

展覧会名：特別展「誕生！中国文明」
会期：平成23年4月5日～5月29日
広報媒体：ポスター、ちらし、博物館だより、新聞、テレビ等

展覧会名：特別展「天竺へ　三蔵法師３万キロの旅」
会期：平成23年7月16日～8月28日
広報媒体：ポスター、ちらし、博物館だより、新聞、テレビ特集番組等

展覧会名：特別展「第63回正倉院展」
会期：平成23年10月29日～11月14日
広報媒体：ラジオ、ポスター、ちらし、博物館だより、新聞広告、駅構内看板、テレビ特集番組等

【九州国立博物館】

(1)文化交流展（平常展）

特記事項: 九州新幹線全通によって近くなった南九州への知名度の浸透をはかるため、CM「きゅうはく行かなきゃ！」を制作・放映した。
博物館情報の充実を図るため、九州国立博物館 CM をウェブサイトでも提供し、YouTube で配信した。
九州新幹線の熊本駅・鹿児島中央駅に特別展・トピック展などの刊行物を配布するラックを設置した。

①広報媒体

種類	設置場所・件数等
ポスター・チラシ等送付	約 360 件（学校・公共施設・旅行会社等）
交通広告	ポスター駅貼り等（西鉄・ＪＲ）、チラシの設置（西鉄・ＪＲ）
雑誌掲載	太宰府市の広報誌に博物館コラムを毎月掲載、九州国立博物館&太宰府天満宮フリーペーパーに掲載（年 4 回）
テレビ	CM を制作・放映
季刊情報誌「アジア―ジュ」	年 4 回発行（4 月 1 日、7 月 1 日、10 月 1 日、平成 24 年 1 月 1 日） 文化交流展室セレクション、トピック展特集、KyuhakuNews、KyuhakuSquare、イベントスケジュール等
インターネット	当館ウェブサイトでの紹介、メールマガジンでの情報配信、文化庁月報 6 月号、文部科学時報 12 月号

・トピック展示「日本とタイーふたつの国の巧と美―」
会期：平成 23 年 4 月 12 日（火）～6 月 5 日(日)
①広報媒体

種類	設置場所・件数等
ポスター・チラシ等送付	約 250 件（博物館・美術館・図書館・文化施設等）
新聞掲載	西日本新聞、朝日新聞、読売新聞　記事掲載
雑誌掲載	月刊文化財 4 月号、文教速報、文教ニュース
テレビ	FBS 福岡放送、NHK 福岡放送局
季刊情報誌「アジア―ジュ」	特集 1 回
インターネット	当館ウェブサイトでの紹介、メールマガジンでの情報配信、文化庁月報 4 月号

②報道内覧会　　4 月 11 日（17 人出席）

・特別公開「国宝　琉球国王尚家関係資料　修理完成記念展示」
会期：平成 23 年 4 月 12 日(火)～5 月 22 日(日)
①広報媒体

種類	設置場所・件数等
季刊情報誌「アジア―ジュ」	特集 1 回
インターネット	当館ウェブサイトでの紹介、メールマガジンでの情報配信

・トピック展示「彫漆　漆に刻む文様の美」
会期：平成 23 年 6 月 14 日（火）～7 月 31 日（日）
①広報媒体

種類	設置場所・件数等
ポスター・チラシ等送付	約 15 件（博物館・美術館・図書館・文化施設等）
新聞掲載	西日本新聞、毎日新聞　記事掲載
季刊情報誌「アジア―ジュ」	特集 1 回
インターネット	当館ウェブサイトでの紹介、メールマガジンでの情報配信、文化庁月報 5 月号

・トピック展示「平戸オランダ商館会館記念　平戸－海外に開かれた港市－」
会期：平成 23 年 7 月 6 日(水)～8 月 15 日(月)
①広報媒体

種類	設置場所・件数等
新聞掲載	西日本新聞、熊本日日新聞　記事掲載
季刊情報誌「アジア―ジュ」	特集 1 回
インターネット	当館ウェブサイトでの紹介、メールマガジンでの情報配信

・トピック展示「斉明天皇と飛鳥」
会期：平成 23 年 7 月 20 日(水)～8 月 28 日(日)
①広報媒体

種類	設置場所・件数等
ポスター・チラシ等送付	約 5 件（文化施設等）
新聞掲載	西日本新聞、毎日新聞、読売新聞　記事掲載
季刊情報誌「アジア―ジュ」	特集 1 回
インターネット	当館ウェブサイトでの紹介、メールマガジンでの情報配信

・トピック展示「インドの染織と細密画」
会期：平成 23 年 8 月 3 日（水）～9 月 11 日（日）
①広報媒体

種類	設置場所・件数等
新聞掲載	西日本新聞　記事掲載
雑誌掲載	文部科学時報 8 月号

季刊情報誌「アジア―ジュ」	特集１回
インターネット	当館ウェブサイトでの紹介、メールマガジンでの情報配信、

・トピック展示「茶の湯を楽しむⅣ」
会期：平成 23 年 9 月 14 日(水)～10 月 23 日(日)
①広報媒体

種類	設置場所・件数等
ポスター・チラシ等送付	約 115 件（博物館・美術館・図書館・文化施設等）
新聞掲載	西日本新聞、毎日新聞　記事掲載
季刊情報誌「アジア―ジュ」	特集１回
インターネット	当館ウェブサイトでの紹介、メールマガジンでの情報配信

・トピック展示「館蔵水墨画名品展」
会期：平成 23 年 9 月 28 日(水)～11 月 6 日(日)
①広報媒体

種類	設置場所・件数等
ポスター・チラシ等送付	約 35 件（博物館・美術館・図書館・文化施設等）
新聞掲載	西日本新聞、読売新聞、毎日新聞、朝日新聞　記事掲載
テレビ	ＴＯＳテレビ大分
季刊情報誌「アジア―ジュ」	特集１回
インターネット	当館ウェブサイトでの紹介、メールマガジンでの情報配信

・トピック展示「発掘された日本列島 2011 地域展　　九州最古の狩人とその時代」
会期：平成 23 年 10 月 29 日(土)～12 月 18 日(日)
①広報媒体

種類	設置場所・件数等
ポスター・チラシ等送付	約 255 件（博物館・美術館・図書館・文化施設等）
新聞掲載	朝日新聞、西日本新聞、毎日新聞　記事掲載
テレビ	ＮＢＣ長崎放送
季刊情報誌「アジア―ジュ」	特集１回
インターネット	当館ウェブサイトでの紹介、メールマガジンでの情報配信

・トピック展示「琉球と袋中上人展-エイサーの起源をたどる-」
会期：平成 23 年 11 月 1 日（火）～12 月 11 日（日）
①広報媒体

種類	設置場所・件数等
ポスター・チラシ等送付	約 70 件（博物館・美術館・図書館・文化施設等）
新聞掲載	西日本新聞、毎日新聞、日本 PTA 新聞 11 月号　記事掲載
テレビ	ＴＶＱ九州放送
季刊情報誌「アジア―ジュ」	特集１回
インターネット	当館ウェブサイトでの紹介、メールマガジンでの情報配信、文化庁月報 10 月号

・トピック展示「九州大学百年の宝物」
会期：平成 23 年 11 月 15 日(火)～12 月 18 日(日)
①広報媒体

種類	設置場所・件数等
ポスター・チラシ等送付	約 380 件（博物館・美術館・図書館・学校・文化施設等）
新聞掲載	西日本新聞、日本経済新聞、毎日新聞、産経新聞　記事掲載
テレビ	テレビ西日本、NHK 福岡放送局
季刊情報誌「アジア―ジュ」	特集１回
インターネット	当館ウェブサイトでの紹介、メールマガジンでの情報配信

・新春特別公開「徳川美術館所蔵　国宝　初音の調度」
会期：平成 24 年 1 月 1 日（日・祝）～1 月 29 日(日)
①広報媒体

種類	設置場所・件数等
ポスター・チラシ等送付	約 20 件（博物館・美術館・図書館・文化施設等）
新聞掲載	西日本新聞　記事掲載
季刊情報誌「アジア―ジュ」	特集１回
インターネット	当館ウェブサイトでの紹介、メールマガジンでの情報配信

・長期的な広報
　西鉄太宰府駅　　広告ボードの設置　（平成 21 年～）
　福岡空港　　宣伝用看板（電照広告）の設置　（平成 22 年～）

(2)特別展・共催展等

展覧会名：特別展「黄檗―OBAKU」
会期：平成23年3月15日（火）～5月22日（日）（61日間）
①広報媒体

種類	設置場所・件数等
ポスター・チラシ等送付	約 1,200 件（博物館・美術館・キャンパスメンバーズ・友の会・図書館・文化施設等）

交通広告	駅ボード（西鉄・ＪＲ）、ポスター駅貼り等（西鉄・ＪＲ）、ポスター車内（西鉄・ＪＲ）
新聞掲載	西日本新聞（展示解説を連載），西日本新聞、朝日新聞、読売新聞、毎日新聞　記事掲載
雑誌掲載	九州国立博物館&太宰府天満宮フリーペーパー　特集１回
テレビ	展覧会告知 CM
季刊情報誌「アジア―ジュ」	告知１回、特集１回、送付 約 30,000 件（博物館・美術館・キャンパスメンバーズ・友の会・図書館・文化施設・大学等）
インターネット	当館ウェブサイトでの紹介、メールマガジンでの情報配信

②記者発表会　　1 月 19 日　黄檗宗大悲山千眼寺「本堂」にて（15 人出席）
③報道内覧会　　3 月 14 日（23 人出席）

展覧会名：特別展「よみがえる国宝-守り伝える日本の美」

会期：6月28日（火）～8月28日（日）（54日間）
特記事項：トークショー「古美術のススメ～修復文化財に見る匠たち～」（出演者：片岡鶴太郎氏、中島誠之助氏、冷泉貴実子氏　7 月 3 日）を開催し、期間中にテレビ放映した。

①広報媒体

種類	設置場所・件数等
ポスター・チラシ等送付	約 1,200 件（博物館・美術館・キャンパスメンバーズ・友の会・図書館・文化施設等）
交通広告	駅ボード（西鉄・ＪＲ）、ポスター駅貼り等（西鉄・ＪＲ）、ポスター車内（西鉄・ＪＲ）
新聞掲載	西日本新聞（展示解説を連載），西日本新聞、毎日新聞、朝日新聞、読売新聞、産経新聞、日本 PTA 新聞 7 月号　記事掲載
雑誌掲載	文教速報、文教ニュース、九州国立博物館&太宰府天満宮フリーペーパー　特集１回
テレビ	展覧会告知 CM、特別番組２本
季刊情報誌「アジア―ジュ」	告知１回、特集１回、送付 約 30,000 件（博物館・美術館・キャンパスメンバーズ・友の会・図書館・文化施設・大学等）
インターネット	当館ウェブサイトでの紹介、メールマガジンでの情報配信、文化庁月報 7 月号

②記者発表会　　4 月 16 日　九州国立博物館にて（20 人出席）
③報道内覧会　　6 月 27 日（28 人出席）

展覧会名：特別展「草原の王朝　契丹－美しき3人のプリンセス」

会期：9月27日（火）～11月27日（日）（54日間）
特記事項：テレビ番組「草原の王朝　契丹」を制作、期間中に放映した。
ウェブサイトにて研究員が展覧会の解説を行う動画を YouTube で配信した。

①広報媒体

種類	設置場所・件数等
ポスター・チラシ等送付	約 1,200 件（博物館・美術館・キャンパスメンバーズ・友の会・図書館・文化施設等）
交通広告	駅ボード（西鉄・ＪＲ）、ポスター駅貼り等（西鉄・ＪＲ）、ポスター車内（西鉄・ＪＲ）
新聞掲載	西日本新聞（展示解説を連載），西日本新聞、朝日新聞、毎日新聞、読売新聞、産経新聞　記事掲載
雑誌掲載	文教速報、文教ニュース、九州国立博物館&太宰府天満宮フリーペーパー　特集１回
テレビ	展覧会告知 CM、特別番組１本
季刊情報誌「アジア―ジュ」	告知１回、特集１回、送付 約 30,000 件（博物館・美術館・キャンパスメンバーズ・友の会・図書館・文化施設・大学等）
インターネット	当館ウェブサイトでの紹介、メールマガジンでの情報配信、文化庁月報 11 月号

②記者発表会　　8 月 2 日　ロイヤルチェスター福岡「ウィンザーホール」（大野城市）にて（19 人出席）
③報道内覧会　　9 月 26 日（28 人出席）

展覧会名：特別展「細川家の至宝―珠玉の永青文庫コレクション」

会期：平成24年1月1日（日・祝）～3月4日（日）（56日間）
特記事項：ウェブサイトにて研究員が展覧会の解説を行う動画をYouTubeで配信した。

①広報媒体

種類	設置場所・件数等
ポスター・チラシ等送付	約 1,200 件（博物館・美術館・キャンパスメンバーズ・友の会・図書館・文化施設等）
交通広告	駅ボード（西鉄・ＪＲ）、ポスター駅貼り等（西鉄・ＪＲ）、ポスター車内（西鉄・ＪＲ）
新聞掲載	西日本新聞（展示解説を連載），西日本新聞、朝日新聞、毎日新聞　記事掲載
雑誌掲載	月刊文化財 2 月号、文教速報、文教ニュース、九州国立博物館&太宰府天満宮フリーペーパー　特集１回
テレビ	展覧会告知 CM
季刊情報誌「アジア―ジュ」	告知１回、特集１回、送付 約 30,000 件（博物館・美術館・キャンパスメンバーズ・友の会・図書館・文化施設・大学等）
インターネット	当館ウェブサイトでの紹介、メールマガジンでの情報配信、文化庁月報 1 月号

②記者発表会　　10 月 12 日　九州国立博物館にて（21 人出席）
③報道内覧会　　12 月 26 日（32 人出席）

(3)海外展

展覧会名：文化庁海外展「日本　仏教美術－琵琶湖周辺の仏教信仰」

会期：12月20日（火）～平成24年2月19日（日）（51日間）

①広報媒体

種類	設置場所・件数等
ポスター・チラシ等送付	約 150 件(韓国国内美術館・博物館等)
交通広告	ポスター駅貼り(韓国地下鉄)
新聞掲載	朝日新聞、読売新聞、毎日新聞、中日新聞、京都新聞、滋賀報知新聞　記事掲載
雑誌掲載	M･O･H 通信 34 号

インターネット	文化庁、滋賀県ウェブサイトでの紹介

(参考)

【平城宮跡資料館】

(1)平常展

広報媒体：チラシ、ホームページ、情報誌等

(2)特別展等

展覧会名：春期企画展「発掘速報展 平城 2009･2010」

会　　期：23年2月19日(土)～5月8日(日)

広報媒体：ポスター・チラシ・ホームページ・新聞・情報誌等

展覧会名：秋期企画展「地下の正倉院展－コトバと木簡」

会　　期：23年10月18日(火)～11月27日(日)

広報媒体：ポスター・チラシ・ホームページ・新聞・情報誌等

展覧会名：春期企画展「発掘速報展　平城2011/文化財レスキュー展」

会　　期：24年3月10日(土)～5月27日(日)

※24年度評価にて実績報告を行う。

【藤原宮跡資料室】

(1)平常展

広報媒体：チラシ・ホームページ等

【飛鳥資料館】

(1)平常展

広報媒体：チラシ・ホームページ・情報誌等

(2)特別展等

展覧会名：春期特別展「星々と日月の考古学」

会　　期：23年4月16日(土)～5月29日(日)

広報媒体：ポスター・チラシ・ホームページ・新聞。情報誌等

展覧会名：夏期特別展「鋳造技術の考古学―東アジアにひろがる鋳物師のわざ―」

会　　期：23年8月2日(火)～9月4日(日)

広報媒体：ポスター・チラシ・ホームページ・新聞。情報誌等

展覧会名：秋期企画展「飛鳥遺珍―のこされた至宝たち―」

会　　期：23年10月14日(金)～　11月27日(日)

広報媒体：ポスター・チラシ・ホームページ・新聞。情報誌等

展覧会名：冬期特別展「飛鳥の考古学2011」

会　　期：24年1月20日(金)～2月26日(日)

広報媒体：ポスター・チラシ・ホームページ・新聞。情報誌等

2-(4)-⑥ 広報刊行物一覧

【東京国立博物館】

刊　行　物　名	発　行　部　数	配　　布　　先
東京国立博物館ニュース707号～ 712号	隔月刊年6回発行　各30,000部	館内で来館者に無償配布 マスコミ媒体等に送付 定期郵送希望者　2,295件 寄贈　国内1,292件　海外89件（国内外の美術館・博物館・大学・研究所等） 賛助会　280件、キャンパスメンバーズ　35件 友の会　1,638件 （2012年3月現在）
本館フロアガイド 日本語版・英語版 中国語版・韓国語 （24年3月、24年度4月版に改訂）	日本語版 24.3　改訂　60,000部 英語版　24.3　改訂　40,000部 中国語版 24.3　改訂　10,000部 韓国語版 24.3　改訂　10,000部	館内で来館者に無償配布
東洋館フロアガイド 日本語版・英語版 中国語版・韓国語版 （休館中のため増刷・改訂なし）	日本語版 英語版 中国語版 韓国語版	休館中のため配布せず
東京国立博物館マップ （24年3月、24年度4月版に改訂）	日本語版 24.3　改訂　90,000部 英語版　24.3　改訂　80,000部 中国語版 24.3　改訂　32,000部 韓国語版 24.3　改訂　15,000部 仏語版　24.3　改訂　5,000部 独語版　24.3　改訂　3,000部 西語版　24.3　改訂　3,000部	館内で来館者に無償配布 マスコミ媒体、大使館、学校等に送付 特記事項：英語版の一部は東芝国際交流財団の助成金で制作
東京国立博物館　展示・催しのご案内	24.3　24年度版 35,000部	館内で来館者に無償配布 観光案内所、大使館、美術館・博物館、マスコミ媒体等に送付
法隆寺宝物館パンフレット	―――	法隆寺宝物館で配布
庭園ガイド	24.3　増刷　60,000部	館内で配布
１４０周年記念パンフレット	23.12　60,000部	館内で配布

【京都国立博物館】

刊　行　物　名	発行時期	発　行　部　数	配　　布　　先
京都国立博物館だより	4、7、10月、24年1月	170号（4・5・6月）　15,000部 171号（7・8・9月）　10,000部 172号（10・11・12月）　15,000部 173号（24年1・2・3月）　10,000部	観覧者、新聞・雑誌・放送局各社、学校・図書館・美術館・博物館ほか、郵送希望者にも発送
Kyoto National Museum Newsletter Vol.110～113	4、7、10月、24年1月	各5,000部	観覧者
博物館Dictionary No.168	7月	5,000部	観覧者（小学・中学生向け）
特別展観「百獣の楽園」こども向けワークシート	7月	30,000部	
留学生の日ポスター・チラシ	9月	ポスター500部、チラシ10,000部	観覧者（関西圏の大学、専門学校へ送付）
展示替予定表京都国立博物館案内リーフレット（展示案内改訂版）	24年3月	（日本語・改訂版）　20,000部	
平成24年度年間スケジュール	24年3月	20,000部	

【奈良国立博物館】

刊　行　物　名	発 行 部 数	配　　布　　先
奈良国立博物館だより （年4回）	春・夏号　各20,000部 秋号　35,000部 冬号　15,000部	美術館・博物館・大学・研究所等　約120件
奈良国立博物館リーフレット	日本語版　50,000部 英語版　10,000部 中国語版　2,500部 韓国語版　5,000部 ドイツ語版　1,000部 フランス語版　1,000部 スペイン語版　1,000部	館内で来館者に配布
奈良国立博物館展示案内	35,000部	館内で来館者に配布

【九州国立博物館】

刊　行　物　名	発行部数	配　　布　　先
九州国立博物館案内リーフレット	日本語版　110,000部 中国語版　7,000部 韓国語版　11,000部 英語版　14,000部 ドイツ語版　3,000部 フランス語版　3,000部 スペイン語版　3,000部 合計　151,000部	・館内で来館者に配布 ・旅行会社等へ郵送

刊　行　物　名	発行部数	配　　布　　先
文化交流展示室案内マップ	日本語版　20,000部 中国語版　2,000部 韓国語版　4,000部 英語版　2,000部	・館内で来館者に配布 ・旅行会社等へ郵送
九州国立博物館概要	日本語版　3,000部 中国語版　300部 韓国語版　300部 英語版　300部	・視察者等に配布
季刊情報誌「アジアージュ」	春(20)号　50,000部 夏(21)号　40,000部 秋(22)号　50,000部 冬(23)号　50,000部	・館内で来館者に配布 ・美術館・博物館、近隣文化施設、 近隣大学、太宰府市、友の会会員等へ郵送
九州国立博物館の展示並びにイベントのご案内	毎月　13,000部	・館内で来館者に配布 ・郵便局、学校、病院、図書館、ホテル、公共施設、道の駅等に配布

2-(4)-⑦ ウェブサイトアクセス件数
（後述の資料に記載）◎共通資料ｄ

3 我が国における博物館の中核としての機能の強化

3-(1)調査研究の成果の発信

3-(1)-① 学会、研究会等発表実績一覧

（後述の資料に記載）　◎共通資料c-③

3-(1)-② シンポジウム開催実績一覧

（後述の資料に記載）　◎共通資料c-④

3-(1)-③ 論文等発表実績一覧

（後述の資料に記載）　◎共通資料c-⑤

3-(1)-④ 調査研究刊行物一覧

（後述の資料に記載）　◎共通資料c-⑥

3-(2) 海外研究者の招聘等研究交流の実施

3-(2)-① 研究交流実績一覧

（後述の資料に記載）　◎共通資料c-①

3-(4) 収蔵品の貸与

3-(4)-① 公私立博物館等への収蔵品・寄託品貸与件数

平成24年3月31日現在

		国立博物館計			東京国立博物館			京都国立博物館			奈良国立博物館			九州国立博物館		
		計	国内	海外	計	国内	海外	計	国内	海外	計	国内	海外	計	国内	海外
貸与先件数		266	255	11	129	122	7	74	73	1	37	35	2	26	25	1
合　　計		1,571	1,522	49	905	865	40	429	426	3	118	113	5	119	118	1
絵画		376	368	8	148	143	5	170	170	0	48	46	2	10	9	1
書跡		75	72	3	15	12	3	55	55	0	4	4	0	1	1	0
彫刻		146	144	2	118	116	2	11	11	0	16	16	0	1	1	0
建築		3	3	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	2	2	0
金工		61	54	7	20	15	5	} 30	} 29	} 1	10	9	1	1	1	0
刀剣		42	42	0	42	42	0				0	0	0	0	0	0
陶磁		98	88	10	48	38	10	20	20	0	0	0	0	30	30	0
漆工		66	62	4	40	37	3	14	14	0	12	11	1	0	0	0
染織		152	151	1	50	50	0	98	98	0	4	3	1	0	0	0
考古		203	199	4	77	75	2	29	27	2	24	24	0	73	73	0
民族資料		12	12	0	12	12	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
歴史資料		24	24	0	21	21	0	2	2	0	0	0	0	1	1	0
和書		21	21	0	21	21	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
東洋	絵画	15	14	1	15	14	1									
	書跡	9	7	2	9	7	2									
	彫刻	9	2	7	9	2	7									
	金工	1	1	0	1	1	0									
	陶磁	9	9	0	9	9	0									
	漆工	6	6	0	6	6	0									
	染織	0	0	0	0	0	0									
	考古	30	30	0	30	30	0									
	民族	0	0	0	0	0	0									
法隆寺献納宝物		2	2	0	2	2	0									
黒田記念館収蔵品		211	211	0	211	211	0									

＊巡回展等で複数館に貸与する場合は、それぞれ館数と文化財件数をカウント。

付表・貸与件数の推移

		平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度
貸与先件数		283	271	249	301	266
合　　計		1,714	1,640	1,729	1,936	1,571
絵画		449	277	436	395	376
書跡		114	79	78	89	75
彫刻		129	168	124	198	146
建築		3	7	3	2	3
金工		111	110	98	100	61
刀剣		18	76	121	24	42
陶磁		186	100	103	117	98
漆工		52	92	92	92	66
染織		92	409	102	63	152
考古		269	224	414	350	203
民族資料		3	0	13	9	12
歴史資料		16	26	11	95	24
和書		15	13	12	4	21
東洋	絵画	18	21	23	27	15
	書跡	23	3	4	23	9
	彫刻	50	15	8	9	9
	金工	0	0	0	0	1
	陶磁	141	5	44	91	9
	漆工	0	2	0	2	6
	染織	0	0	0	2	0
	考古	22	12	21	53	30
	民族	0	0	0	0	0
法隆寺献納宝物		3	1	0	8	2
黒田記念館収蔵品		0	0	22	183	211

＊東京国立博物館は、列品管理規程による「旧東洋課所掌分」あり。

3-(4)-② 公私立博物館等への収蔵品・寄託品貸与先別件数

○収蔵品

平成24年3月31日現在

	国立博物館計		東京国立博物館		京都国立博物館		奈良国立博物館		九州国立博物館	
	貸与先件数	文化財件数	貸与先件数	文化財件数	貸与先件数	文化財件数	貸与先件数	文化財件数	貸与先件数	文化財件数
国内	189	1,081	116	761	34	219	23	51	16	50
国・国立	26	97	19	75	3	12	3	9	1	1
地方・公立	123	804	74	601	21	122	15	35	13	46
私立団体	40	180	23	85	10	85	5	7	2	3
海外	8	17	6	13	0	0	2	4	0	0

○寄託品

平成24年3月31日現在

	国立博物館計		東京国立博物館		京都国立博物館		奈良国立博物館		九州国立博物館	
	貸与先件数	文化財件数	貸与先件数	文化財件数	貸与先件数	文化財件数	貸与先件数	文化財件数	貸与先件数	文化財件数
国内	108	299	26	19	46	150	23	62	13	68
国・国立	19	81	7	7	7	58	4	15	1	1
地方・公立	61	166	12	7	26	65	12	28	11	66
私立団体	28	52	7	5	13	27	7	19	1	1
海外	4	6	1	1	1	3	1	1	1	1

3-(4)-③ 海外への列品貸与

【東京国立博物館】　海外貸与先 7件　　海外貸与文化財 40件[うち寄託品 1件]

展覧会名称	申請者 【 会場 】	貸与期間	種別・員数
特別展「肖像画の秘密」	大韓民国 国立中央博物館【国立中央博物館(大韓民国ソウル市)】	平成23年9月27日～平成23年11月6日	絵画3
「蘭亭特展」	北京故宮博物院【北京故宮博物院(中華人民共和国北京市)】	平成23年9月21日～平成23年11月5日	東洋書跡2
「朝鮮画員大展」	三星文化財団【三星美術館 Leeum（大韓民国ソウル市)】	平成23年10月13日～平成24年1月29日	東洋絵画1
文化庁海外展「日本　仏教美術－琵琶湖周辺の仏教信仰－」	文化庁【国立中央博物館(大韓民国ソウル市)】	平成23年12月20日～平成24年2月19日	絵画1[1]
海外展　ヒューストン美術館日本室開室記念「仏教美術と宮廷の美 東京国立博物館コレクション展」および常設展示	ヒューストン美術館（アメリカ合衆国テキサス州ヒューストン市）	平成24年2月17日～平成24年4月8日(常設展示分は平成26年2月16日まで)	絵画1、書跡3、彫刻2、金工5、陶磁10、漆工3、考古2
「東南アジア展示」（長期貸与）	大韓民国 国立中央博物館【国立中央博物館(大韓民国ソウル市)】	平成22年2月1日～平成24年3月10日	東洋彫刻5
常設展示（長期貸与）	フランス国立ギメ美術館【フランス国立ギメ美術館（フランス共和国パリ市)】	平成14年1月1日～平成24年12月31日	東洋彫刻2

【京都国立博物館】　海外貸与先 1件　　海外貸与文化財 3件[うち寄託品 3件]

展覧会名称	申請者 【 会場 】	貸与期間	種別・員数（件）
文化庁主催「日本 仏教美術－琵琶湖周辺の仏教信仰－（仮称)」展	文化庁【韓国国立中央博物館】	平成23年11月24日 ～平成24年3月5日	3 (考古2[2]、金工1[1])

【奈良国立博物館】　海外貸与先 2件　　海外貸与文化財 5件[うち寄託品 1件]

展覧会名称	申請者 【 会場 】	貸与期間	種別・員数（件）
企画特別展「肖像画の秘密」	韓国国立中央博物館	平成23年9月22日～11月14日	絵画2
文化庁主催「日本　仏教美術－琵琶湖周辺の仏教信仰－」	文化庁【韓国国立中央博物館】	平成23年11月16日～平成24年3月6日	金工1、漆工1[1]、染織1

【九州国立博物館】　海外貸与先 1件　　海外貸与文化財 1件[うち寄託品 1件]

展覧会名称	申請者 【 会場 】	貸与期間	種別・員数（件）
特別展「朝鮮画員大展」	大韓民国三星美術館	平成23年12月1日～平成24年2月15日	絵画1[1]

3-(4)-④ 考古の相互貸借実績

【東京国立博物館】

貸与先名	貸与件数（件）	借用件数（件）
長野県立歴史館	14	53
館山市立博物館	5	20

【奈良国立博物館】

貸与先名	貸与件数（件）	借用件数（件）
浜松市博物館（静岡県）	1	4

3-(5) 公私立博物館・美術館等に対する援助・助言の推進

3-(5)-① 公私立博物館等に対する援助・助言

計	東京国立博物館	京都国立博物館	奈良国立博物館	九州国立博物館
412件	126件	91件	98件	97件

【東京国立博物館】126件

	機　関	内　容	期　間	担当者
1	文化庁（ワシントン）	日米文化教育交流会議（カルコン）に出席	平成23年5月16日～21日	副館長　島谷弘幸
2	文化庁（文化庁・陽明文庫）	世界記憶遺産推薦者会議（陽明文庫）に出席	平成23年8月17日、10月8日・9日	同上
3	サンフランシスコ・アジア美術館	アジア美術館長フォーラムに出席・パネル参加	平成23年11月8日・9日	同上
4	ヒューストン美術館	ヒューストン美術館・日本室開室記念「洗練の美：東京国立博物館蔵　宮廷美術と宗教美術」展打ち合わせ	平成23年11月11日・12日	同上
5	毎日新聞社・ギメー美術館	「SHOI」展監修	平成23年10～24年３月	同上
6	毎日新聞社・新美術館	「熊谷恒子展」監修	平成24年9月～24年8月（11月3日、12月４日、1月14日）	同上
7	東京国立近代美術館	東京国立近代美術館評議委員会（美術・工芸部会）	平成23年6月24日	学芸企画部長　松本伸之
8	国立台南藝術大学・台湾博物館	「博物館のマーケティングと運営」に関する講習	平成23年6月11日・12日	同上
9	ウズベキスタン共和国芸術アカデミー「平山郁夫文化のキャラバンサライ」	博物館概論の講義	平成23年9月26日～10月1日	企画課長　井上洋一
10	松戸市教育委員会	松戸市小金の東漸寺所蔵「二十五菩薩来迎図」を市指定文化財に指定するに当たっての助言。	平成23年9月～10月	企画課特別展室主任研究員　沖松健次郎
11	東京藝術大学美術学部デザイン科	デザイン科３年・デザイン実技課題『東京国立博物館に対するデザインサイドからの提案』への指導(ガイダンス)・助言(講評)を行った。	平成23年4月～5月	企画課デザイン室長　木下史青
12	文化庁文化財部美術学芸課	第7回指定文化財(美術工芸品)企画・展示セミナー(第2年度)魅力ある企画・展示の実現『展示構成と会場デザイン』の講師	平成23年6月30日	同上
13	武蔵野美術大学美術館・図書館（神野教授/元館長）	展覧会『暮らしの造形19 災厄防除-まもる姿・ふせぐ形』(平成23年9月5日～10月8日開催)の展示・照明のデザインおよび施工手順等について助言した。	平成23年7月29日(金)	同上
14	京都国立博物館 総務課	新館展示館の設計者(谷口建築設計研究所、および展示・照明設計者、製作担当業者)より館内の展示照明等について調査希望があり、対応・説明した。	平成23年9月20日(火)	同上
15	シルク博物館（横浜市所在、担当学芸員：大野美也子氏）	シルク博物館のリニューアル(平成24年4月開館予定)にかかわる展示デザインおよび照明仕様/設計について助言した。	平成23年10月	同上
16	渋谷区立松涛美術館（展覧会企画者・熊谷博人氏）	展覧会『和更紗 熊谷コレクション』(平成24年2月5日～2月19日開催)の展示および照明計画について助言した。	平成23年12月16日	同上
17	九州国立博物館	特別展・業者選定委員会	平成24年2月7日(火)	同上
18	独立行政法人国立文化財機構　九州国立博物館	特別展「草原の王朝　契丹　美しき３人のプリンセス」請負候補者選定委員会　請負候補者選定委員	平成23年8月5日-6日	企画課デザイン室主任研究員　矢野賀一
19	大英博物館	当館の国際展の現況について	平成23年6月22日	企画課国際交流室研究員　遠藤楽子
20	ヴィクトリア・アンド・アルバート博物館	当館の国際展の現況について	平成23年6月23日	同上
21	ヒューストン美術館	「Elegant Perfection」展図録英訳監修	平成24年1月-2月(平成24年2月発行)	同上
22	サンフランシスコ・アジア美術館	アジア美術館長フォーラムにて副館長付会議通訳	平成23年11月8日、9日	同上
23	長崎県立対馬歴史民俗資料課	宗家文庫史料絵図類等史料調査	平成23年5月25日～27日、12月17日～18日	博物館教育課教育普及室長　伊藤信二
24	社団法人日本工芸会	第58回日本伝統工芸展第1次鑑査会（金工）	平成23年8月11日	同上
25	韓国国立民俗博物館	同館の博物館教育事業討論会における評価・指導・助言	23年10月28日	博物館教育課ボランティア室長　鈴木みどり
26	韓国国立済州博物館・済州海女博物館	教育普及事業調査、指導・助言	23年10月29日	同上
27	吉川市教育委員会	吉川市史編纂事業にかかる近世部会での調査・助言・資料解説執筆	平成23年4月30日,6月18日,8月20日,11月26日,1月21日	博物館教育課ボランティア室主任研究員　髙梨真行
28	八潮市教育委員会	八潮市立資料館への寄贈予定書跡作品についての助言	平成24年1月14日	同上
29	前橋市	前橋市における美術館基本計画に関わる情報システムの整備について助言	平成23年4月21日	博物館情報課情報管理室長　村田良二
30	貨幣博物館	ウェブサイト構築・運営に関する助言	平成23年6月13日	博物館情報課情報管理室長　村田良二、広報室　奥田緑
31	文化庁	文化庁メディア芸術コンソーシアム／デジタルアーカイブ構築事業　メディアアート分野会議に出席	平成23年9月8日	博物館情報課情報管理室長　村田良二
32	全国美術館会議	美術情報・資料の活用法－展覧会カタログからWebまで－(全国美術館会議　情報・資料研究部会企画セミナーⅢ）第1講「展覧会カタログ」講師	平成23年12月16日	博物館情報課情報資料室専門職員　住広昭子
33	東京国立近代美術館	広報活動に関する助言	平成23年4月16日	広報室長小林 牧

	機　関	内　容	期　間	担当者
34	春日大社	赤糸威鎧の修理、保存についての助言	4月1日～3月31日	上席研究員　池田　宏
35	東京都北区教育委員会	刀剣の取扱い、保存方法の指導助言	4月21日	同上
36	國學院高等学校　日本文化資料館	収蔵品の展示、保管方法の指導助言	6月29日	同上
37	ポーランド　ポーランド軍事博物館(ワルシャワ)	日本の武器武具などの展示、保存方法の指導助言	11月1日～5日	同上
38	神奈川県教育委員会	鎌倉市下馬周辺遺跡出土の鎧の保存方法の助言	12月7日	同上
39	神奈川県教育委員会	神奈川県文化財保護審議委員会委員（考古分野担当）	平成23年11月28日、12月15日、24年1月16日	特任研究員　望月幹夫
40	厚木市史編集委員会	厚木市史編さん事業に関する調査･助言	平成23年5月17日、6月19日、10月2日、24年1月28日	同上
41	厚木市教育委員会	あつぎの歴史-古墳時代編-（あつぎ協働大学における講演）	平成23年8月20日	同上
42	逗子市教育委員会・葉山町教育委員会	長柄桜山1号墳の発掘調査・整備に関する助言	平成23年8月26日	同上
43	秦野市教育委員会	二子塚古墳の発掘調査に関する助言	平成23年11月24日	同上
44	文化庁	文化庁文化審議会専門委員会(第４部会)	平成23年6月29日	特任研究員　澤田むつ代
45	木更津市教育委員会	金鈴塚古墳研究(出土品調査と助言、国立歴史民俗博物館於いて)	平成23年11月2日	同上
46	千葉県	千葉県伝統産業指定会議	平成23年11月4日日	同上
47	木更津市教育委員会	金鈴塚古墳研究(繊維関係の出土品調査と助言、木更津市郷土博物館金のすず)	平成24年2月17日	同上
48	文化庁	文化庁文化審議会専門委員会(第１部会)	平成24年3月21日～3月23日	同上
49	土浦市上高津貝塚ふるさと歴史の広場	武者塚古墳の調査・研究(出土品調査と保存方法の助言、土浦市上高津貝塚ふるさと歴史の広場に於いて)	平成24年3月27日	同上
50	逓信総合博物館（日本郵政　郵政資料館）	同館が主催する郵政歴史文化研究会に参加し､同館の所蔵する歴史資料の調査を援助した。	平成23年12月～平成24年1月	調査研究課長　田良島　哲
51	国立民族学博物館	国際協力機構(JICA)が主催し、同館が運営する研修事業「博物館学集中コース」で外国人学芸員に対して文化財保護の歴史と行政について講義を行った。	平成23年6月24日	同上
52	（公財）大田区文化振興協会	「写楽」特別展関連文化講演会講師	平成23年4月19日	調査研究課絵画・彫刻室長　田沢裕賀
53	（財）北区文化振興財団	「写楽」特別展関連文化講演会講師	平成23年4月21日	同上
54	千葉市美術館	「蔦屋重三郎と歌麿・写楽」講演会講師	平成23年5月1日	同上
55	福島県立美術館	記念講演会　「ギッタ―コレクションにみる近世絵画の魅力」講演会講師	平成23年11月12日	同上
56	東京文化財研究所	在外古美術品保存修復協力事業運営委員会	23年6月1日	調査研究課工芸室長　竹内奈美子
57	明治大学博物館	「漆器JAPANWARE」展における展示指導	23年6月17日	調査研究課工芸室長　竹内奈美子
58	金沢能楽美術館	『金沢能楽美術館　開館5周年記念特別展　東京国立博物館所蔵　金春座伝来能面・能装束』展にかかる能面・能装束の展示、撤収指導	平成23年9月27～30日 10月24～25日、11月20～23日	調査研究課工芸室主任研究員　小山弓弦葉
59	松坂屋美術館	作品の展示・保存環境についての調査・指導	平成22年4月21日～平成23年6月16日	保存修復課長　神庭信幸 保存修復課環境保存室 主任研究員　荒木臣紀 保存修復課環境保存室 主任研究員　和田浩
60	碧南市藤井達吉現代美術館	作品の展示・保存環境についての調査・指導	平成22年7月30日～6月6日	同上
61	横浜ユーラシア文化館	作品の展示・保存環境についての調査・指導	平成22年10月28日～平成23年8月16日	同上
62	財団法人岐阜現代美術財団	作品の展示・保存環境についての調査・指導	平成22年12月6日～平成23年4月13日	同上
63	田原市博物館	作品の展示・保存環境についての調査・指導	平成23年3月10日～4月25日	同上
64	広島県立美術館	作品の展示・保存環境についての調査・指導	平成23年4月27日～6月6日	同上
65	龍谷ミュージアム	作品の展示・保存環境についての調査・指導	平成23年4月27日～12月19日	同上
66	金沢能楽美術館	作品の展示・保存環境についての調査・指導	平成23年4月27日～平成23年9月28日	保存修復課長　神庭信幸 保存修復課環境保存室 主任研究員　荒木臣紀 保存修復課環境保存室 主任研究員　和田浩
67	国文学研究資料館	作品の展示・保存環境についての調査・指導	平成22年12月15日～平成24年2月3日	保存修復課長　神庭信幸 保存修復課環境保存室 主任研究員　荒木臣紀 保存修復課環境保存室 主任研究員　和田浩

	機　関	内　容	期　間	担当者
68	浜松市博物館	作品の展示・保存環境についての調査・指導	平成 23 年 4 月 8 日～7 月 4 日	保存修復課長　神庭信幸 保存修復課環境保存室 主任研究員　荒木臣紀 保存修復課環境保存室 主任研究員　和田浩
69	松江歴史館	作品の展示・保存環境についての調査・指導	平成 23 年 9 月 29 日～平成 24 年 3 月 9 日	同上
70	宮崎県立美術館	作品の保存・修理に関する指導	平成 23 年 10 月 27 日	保存修復課長　神庭信幸 保存修復課環境保存室 主任研究員　和田浩 保存修復課保存修復室 AF鈴木晴彦
71	宮崎県立美術館	作品の保存・修理に関する指導	平成23年10月27日	保存修復課長　神庭信幸 保存修復課環境保存室 主任研究員　和田浩 保存修復課保存修復室 AF鈴木晴彦
72	仙台市博物館	被災文化財等救出作業支援	平成23年4月27日～28日	保存修復課長　神庭信幸
73	仙台市博物館、気仙沼市	被災文化財等救出作業支援	平成23年5月6日～7日	副館長　島谷弘幸
74	石巻文化センター	被災文化財等救出作業支援	平成23年5月9日～13日	保存修復課環境保存室 主任研究員　和田浩
75	石巻文化センター、東松島市野蒜地区埋蔵文化財収蔵庫、女川町公民館、マリンパル女川、サンファン館	被災文化財等救出作業支援	平成23年5月16日～20日	企画課長　井上洋一
76	石巻文化センター、仙台市博物館、東北歴史博物館	被災文化財等救出作業支援	平成23年5月22日～27日	保存修復課保存修復室長　冨坂賢
77	宮城県庁、東北歴史博物館	被災文化財等救出作業支援	平成23年5月24日	学芸研究部長　伊藤嘉章
78	宮城県庁、東北歴史博物館、岩手県博	被災文化財等救出作業支援	平成23年5月24日～5月25日	保存修復課長　神庭信幸
79	仙台市博物館、名取市熊野那智社、石巻文化センター	被災文化財等救出作業支援	平成23年5月29日～6月8日	列品管理課貸与特別観覧室主任研究員　猪熊兼樹
80	名取市熊野那智社、東北歴史博物館	被災文化財等救出作業支援	平成23年5月31日～6月2日	列品管理課平常展調整室　研究員　酒井元樹
81	宮城県教育委員会、東北歴史博物館、東松島市野蒜地区埋蔵文化財収蔵庫、仙台市博物館	被災文化財等救出作業支援	平成23年6月5日～6月6日	館長　銭谷眞美
82	宮城県教育委員会、東北歴史博物館、東松島市野蒜地区埋蔵文化財収蔵庫、仙台市博物館	被災文化財等救出作業支援	平成23年6月5日～6月6日	本部事務局長　金谷史明
83	仙台市博物館、石巻文化センター、男山酒造、リアスアーク美術館	被災文化財等救出作業支援	平成23年6月6日～6月15日	調査研究課東洋室研究員　塚本麿充
84	石巻文化センター、東松島市野蒜地区埋蔵文化財収蔵庫	被災文化財等救出作業支援	平成23年6月6日～6月10日	列品管理課平常展調整室長　白井克也
85	岩手県立博物館、陸前高田市立博物館、陸前高田埋蔵文化財収蔵庫、陸前高田市旧生出小学校	被災文化財等救出作業支援	平成23年6月6日～6月7日	学芸研究部長　伊藤嘉章
86	仙台市博物館、石巻市牡鹿民俗収蔵庫、牡鹿ホエールランド、仙台市科学館	被災文化財等救出作業支援	平成23年6月25日～7月1日	保存修復課保存修復室長　冨坂賢
87	東北歴史博物館、石巻市門脇小学校、サンファン館、亘理町立郷土資料館、東松島市野蒜地区埋蔵文化財収蔵庫	被災文化財等救出作業支援	平成23年7月1日～7月6日	保存修復課環境保存室 主任研究員　和田浩
88	旧生出小学校、陸前高田市立博物館、岩手県立博物館	被災文化財等救出作業支援	平成23年6月30日～7月1日	保存修復課長　神庭信幸
89	東松島市野蒜地区埋蔵文化財収蔵庫、亘理町立郷土資料館	被災文化財等救出作業支援	平成23年7月6日～7月8日	調査研究課考古室研究員　品川欣也
90	石巻文化センター、亘理町江戸家	被災文化財等救出作業支援	平成23年7月11日～7月13日	調査研究課絵画・彫刻室長　田沢裕賀
91	陸前高田市旧生出小学校、岩手県立博物館	被災文化財等救出作業支援	平成23年7月19日～7月21日	保存修復課長　神庭信幸
92	陸前高田市旧生出小学校、岩手県立博物館	被災文化財等救出作業支援	平成23年7月19日～7月21日	保存修復課保存修復室　北川美穂
93	仙台市博物館	被災文化財等救出作業支援	平成23年7月25日～7月31日	保存修復課保存修復室長　冨坂賢
94	陸前高田市旧生出小学校	被災文化財等救出作業支援	平成23年8月10日～8月11日	保存修復課長　神庭信幸
95	遠野市立博物館、陸前高田市旧生出小学校、大船渡市、釜石市、盛岡市	被災文化財等救出作業支援	平成23年8月24日～8月26日	同上
96	遠野市立博物館、陸前高田市旧生出小学校、大船渡市、釜石市、盛岡市	被災文化財等救出作業支援	平成23年8月24日～8月26日	保存修復課保存修復室AF　米倉乙世

	機　関	内　容	期　間	担当者
97	陸前高田市旧生出小学校、陸前高田市立博物館、海と貝のミュージアム	被災文化財等救出作業支援	平成23年9月5日～9月7日	保存修復課長　神庭信幸
98	陸前高田市旧生出小学校	被災文化財等救出作業支援	平成23年9月7日～9月9日	博物館教育課教育普及室長　伊藤信二
99	陸前高田市旧生出小学校	被災文化財等救出作業支援	平成23年9月7日～9月9日	保存修復課保存修復室AF　米倉乙世
100	盛岡市旧衛生研究所	被災文化財等救出作業支援	平成23年9月15日～9月19日	保存修復課非常勤職員　池上久美
101	盛岡市旧衛生研究所	被災文化財等救出作業支援	平成23年9月17日～9月19日	保存修復課非常勤職員　三浦知佳
102	陸前高田市旧生出小学校	被災文化財等救出作業支援	平成23年9月28日～9月30日	保存修復課長　神庭信幸
103	陸前高田市旧生出小学校	被災文化財等救出作業支援	平成23年10月12日～10月14日	同上
104	陸前高田市旧生出小学校	被災文化財等救出作業支援	平成23年10月14日	保存修復課環境保存室 主任研究員　荒木臣紀
105	陸前高田市旧生出小学校	被災文化財等救出作業支援	平成23年10月18日～10月20日	保存修復課長　神庭信幸
106	陸前高田市旧生出小学校	被災文化財等救出作業支援	平成23年11月7日～11月10日	同上
107	陸前高田市旧生出小学校	被災文化財等救出作業支援	平成23年11月7日～11月10日	保存修復課環境保存室 主任研究員　和田浩
108	陸前高田市旧生出小学校	被災文化財等救出作業支援	平成23年11月7日～11月10日	保存修復課保存修復室AF　鈴木晴彦
109	陸前高田市旧生出小学校	被災文化財等救出作業支援	平成23年11月7日～11月10日	保存修復課保存修復室AF　沖本明子
110	岩手県立博物館	被災文化財等救出作業支援	平成23年11月30日～12月1日	保存修復課保存修復室長　冨坂賢
111	岩手県立博物館	被災文化財等救出作業支援	平成23年11月30日～12月1日	保存修復課環境保存室 主任研究員　和田浩
112	岩手県立博物館、奥州市埋蔵文化財調査センター	被災文化財等救出作業支援	平成23年11月30日～12月2日	保存修復課保存修復室AF　鈴木晴彦
113	奥州市埋蔵文化財調査センター	被災文化財等救出作業支援	平成23年12月1日～12月2日	保存修復課長　神庭信幸
114	奥州市埋蔵文化財調査センター	被災文化財等救出作業支援	平成23年12月14日～12月19日	保存修復課保存修復室AF　鈴木晴彦
115	奥州市埋蔵文化財調査センター	被災文化財等救出作業支援	平成23年12月15日～12月17日	保存修復課環境保存室 主任研究員　和田浩
116	奥州市埋蔵文化財調査センター	被災文化財等救出作業支援	平成23年12月22日～12月27日	保存修復課保存修復室AF　鈴木晴彦
117	奥州市埋蔵文化財調査センター、陸前高田市旧生出小学校、陸前高田市立米崎中学校	被災文化財等救出作業支援	平成23年12月26日～12月27日	保存修復課長　神庭信幸
118	奥州市埋蔵文化財調査センター	被災文化財等救出作業支援	平成24年1月10日～1月13日	保存修復課保存修復室AF　鈴木晴彦
119	奥州市埋蔵文化財調査センター	被災文化財等救出作業支援	平成24年1月17日～1月21日	保存修復課非常勤職員　宋亨蘭
120	岩手県立博物館	被災文化財等救出作業支援	平成24年1月19日～1月20日	保存修復課保存修復室　主任研究員　土屋裕子
121	奥州市埋蔵文化財調査センター	被災文化財等救出作業支援	平成24年1月20日～1月24日	保存修復課保存修復室AF　鈴木晴彦
122	奥州市埋蔵文化財調査センター	被災文化財等救出作業支援	平成24年2月7日～2月9日	保存修復課長　神庭信幸
123	奥州市埋蔵文化財調査センター	被災文化財等救出作業支援	平成24年2月8日～2月13日	保存修復課保存修復室AF　鈴木晴彦
124	奥州市埋蔵文化財調査センター	被災文化財等救出作業支援	平成24年2月19日～2月21日	保存修復課保存修復室AF　鈴木晴彦
125	陸前高田市立米崎中学校	被災文化財等救出作業支援	平成24年2月21日～2月23日	保存修復課長　神庭信幸
126	陸前高田市立米崎中学校	被災文化財等救出作業支援	平成24年3月12日～3月13日	保存修復課長　神庭信幸

【京都国立博物館】91件

	機　関	内　容	期　間	担当者
1	福井県立美術館長	染色作品の調査について	4月20日	学芸部列品管理室 主任研究員　山川　曉
2	野崎家塩業歴史館	所蔵資料の調査	4月19日～20日	学芸部工芸室長　尾野　善裕
3	奈良国立博物館長	文化財の調査について	4月12日	学芸部工芸室長　尾野　善裕
4	一般社団法人　文化財保存修復学会	文化財保存修復学会　平成23年度第1回理事会	4月22日	学芸部上席研究員　村上　隆
5	岡山大学大学院自然科学研究科	バイオセラミックスに関する研究のため	4月26日～27日	学芸部上席研究員　村上　隆
6	島根大学法文学部	「出雲鰐淵寺の歴史的・総合的研究」全体会　会議	5月21日～22日	学芸部連携協力室 主任研究員　淺湫　毅

	機　関	内　容	期　間	担当者
7	東京文化財研究所	在外日本古美術品保存修復協力事業運営委員会	6月1日	学芸部長　西上　実
8	野崎家塩業歴史館	所蔵資料の調査	6月7日～8日	学芸部工芸室長　尾野　善裕
9	島根県教育委員会教育	第7回石見銀山遺跡調査活用委員会の開催	5月30日～31日	学芸部上席研究員　村上　隆
10	石巻文化センター 亘理町立郷土資料館　他	被災文化財等救出作業支援	5月30日～6月4日	学芸部連携協力室 主任研究員　淺湫　毅
11	島根県大田市教育委員会	第10回石見銀山遺跡整備検討委員会	5月31日～6月1日	学芸部上席研究員　村上　隆
12	京都織物卸商業組合	「京都きものサローネ」研修会における講義	6月22日	学芸部列品管理室 主任研究員　山川　暁
13	慶長使節船ミュージアム 東北歴史博物館浮島収蔵庫　他	被災文化財等救出作業支援	7月10日～7月16日	学芸部企画室 研究員　羽田　聡
14	東北大学埋蔵文化財センター 亘理町立郷土資料館　他	被災文化財等救出作業支援	7月17日～7月21日	学芸部長　西上　実
15	亘理町立郷土資料館 東北学院大学博物館　他	被災文化財等救出作業支援	7月18日～7月23日	学芸部考古室長　宮川　禎一
16	島根県大田市教育委員会	第11回石見銀山遺跡整備検討委員会	7月19日～20日	学芸部上席研究員　村上　隆
17	読売新聞東京本社事業局	「空海と密教美術」展作品開梱・撤収点検立ち合い	7月13日,8月1日 ,8月15日	学芸部企画室 研究員　大原　嘉豊
18	公益財団法人　徳川黎明会 徳川美術館	徳川美術館平成２３年度夏期講座	8月24日	学芸部列品管理室 主任研究員　山川　暁
19	豊田市郷土資料館	出土遺物鑑定のため	7月29日	学芸部工芸室長　尾野　善裕
20	島根県教育庁文化財課	石見銀山遺跡調査に伴う調査指導	8月23日	学芸部上席研究員　村上　隆
21	越前市教育委員会	越前市の文化財指定に向けての調査	7月31日	学芸部企画室 研究員　大原　嘉豊
22	野崎家塩業歴史館	所蔵資料の調査	8月16日～17日	学芸部工芸室長　尾野　善裕
23	東京文化財研究所	保存修復科学センター連絡会議	7月28日	学芸部連携協力室 主任研究員　淺湫　毅
24	九州国立博物館	九州国立博物館のIPMメンテナンスについての指導・助言について	8月5日～6日	学芸部上席研究員　村上　隆
25	岩手県立博物館	被災文化財等救出作業支援視察	8月29日～31日	館長　佐々木　丞平
26	川西市教育委員会	平成２３年度第１回川西市文化財審議委員会開催	8月31日	学芸部　文化財管理監 中村　康
27	成城大学	金剛寺蔵の聖教調査	8月21日	学芸部上席研究員　赤尾栄慶
28	文化庁文化財部美術学芸課	醍醐寺所蔵の文化財調査	8月29日	学芸部上席研究員　赤尾栄慶、企画室研究員　羽田　聡
29	名古屋大学大学院文学研究科	東山６１号窯に関する発掘調査指導	9月8日	学芸部工芸室長　尾野　善裕
30	京都市動物園	「百獣の楽園 in 京都市動物園」講演会	8月6日	学芸部企画室 主任研究員　永島　明子
31	岡山大学大学院自然科学研究科	バイオセラミックスに関する研究のため	8月25日	学芸部上席研究員　村上　隆
32	大阪府教育委員会事務局	有形文化財の現地調査について	9月5日～6日	学芸部工芸室長　尾野　善裕
33	京都文化博物館	特別展「ギッターコレクション展」についての講演	9月10日	館長　佐々木　丞平
34	九州国立博物館	特別展「よみがえる国宝-守り伝える日本の美-」に係る作品撤収作業立ち合い	8月29日	学芸部列品管理室長 鬼原　俊枝
35	山口市教育委員会	大内氏関連町並遺跡出土金属生産遺物調査指導	9月20日～22日	学芸部上席研究員　村上　隆
36	文化庁文化財部美術学芸課	第5回文化財（美術工芸品）修理技術者講習会の講師の委託について（依頼）	10月19日	学芸部上席研究員　村上　隆
37	一般社団法人軽金属学会東海支部	東海支部特別講演会への講師派遣のお願い	10月4日	学芸部上席研究員　村上　隆
38	野崎家塩業歴史館	所蔵資料の調査	9月28日～29日	学芸部工芸室長　尾野　善裕
39	佐渡市	第１回遺跡・建造物専門会議に係る職員の派遣について	9月27日～28日	学芸部上席研究員　村上　隆
40	京都国立近代美術館	作品修復に関する企画競争審査委員会審査委員	10月7日	学芸部列品管理室長 鬼原　俊枝
41	山口市教育委員会	大内氏関連町並遺跡出土金属生産遺物調査指導	10月27日～29日	学芸部上席研究員　村上　隆
42	静岡県立美術館	展覧会に係る展示・展示替・撤収作業	10月17日～21日 11月13日～14日 12月5日～7日	学芸部連携協力室長　山下善也、列品管理室　主任研究員山川暁、企画室研究員　羽田聡、アソシエイトフェロー水谷亜希
43	東京芸術大学大学院美術研究科	金属材料科学史非常勤講師の派遣	10月20日	学芸部上席研究員　村上　隆
44	株式会社NHKプロモーション	「法然と親鸞　ゆかりの名宝」に伴う職員の派遣	10月19日	学芸部上席研究員　赤尾栄慶
45	公益財団法人東芝国際交流財団	ベトナム国立歴史博物館収蔵品に関しての調査	11月8日～12日	学芸部工芸室長　尾野　善裕
46	野崎家塩業歴史館	所蔵資料の調査	12月13日～14日	学芸部工芸室長　尾野　善裕
47	滋賀県教育委員会	滋賀県文化財保護審議会の開催に伴う職員の派遣について	11月21日	学芸部列品管理室 主任研究員　山川　暁
48	国際仏教学大学院大学	研究会発表及び公開研究会	11月11日～12日	学芸部上席研究員　赤尾栄慶
49	島根県教育委員会	第８回石見銀山遺跡調査活用委員会	11月17日～18日	学芸部上席研究員　村上　隆
50	兵庫陶芸美術館	平成２３年度兵庫陶芸美術館収集予定作品の価格評価	11月18日	学芸部工芸室長　尾野　善裕
51	文化庁文化財部美術学芸課	文化財（美術工芸品）の調査協力について	11月9日	学芸部上席研究員　村上　隆
52	財団法人大阪市博物館協会 大阪文化財研究所	唐津市山瀬窯跡の出土陶片資料熟覧・記録・検討作業	11月21日～22日	学芸部工芸室長　尾野　善裕
53	一般社団法人　国宝修理装潢師連盟	文化財保存修理の概要及び保存修理所の取り組み・役割に関する講演	12月5日	学芸部上席研究員　村上　隆
54	株式会社NHKプロモーション	「法然　生涯と美術」に伴う職員の派遣	12月5日	学芸部企画室 研究員　大原　嘉豊
55	学習院大学文学部	田原本融通念仏絵巻の調査及び研究会	12月11日	学芸部企画室 研究員　大原　嘉豊
56	東京国立博物館	収蔵品に関する共同研究「工芸（陶磁）」の開催	12月7日～8日	学芸部工芸室長　尾野　善裕
57	株式会社NHKプロモーション	特別展「細川家の至宝」九州展に伴う職員の派遣	12月20日～22日	学芸部企画室長　久保　智康

	機　関	内　容	期　間	担当者
58	大阪文化財研究所	理兵衛焼の伝世資料について熟覧・記録・検討作業	24 年 1 月 6 日～8 日	学芸部工芸室長　尾野　善裕
59	滋賀県教育委員会	滋賀県文化財保護審議会の現地調査	24 年 1 月 10 日	学芸部列品管理室 主任研究員　山川　曉
60	東京国立博物館	重要文化財の貸与の立会い	24 年 1 月 13 日	学芸部美術室 研究員　呉　孟晋
61	西尾市教育委員会	長圓寺文化財調査	24 年 1 月 30 日～31 日	学芸部工芸室長　尾野　善裕
62	東京文化財研究所	第４回理事会への派遣	24 年 1 月 23 日	学芸部上席研究員　村上　隆
63	元離宮二条城事務所	二条城二之丸御殿障壁画保存修理委員会	24 年 2 月 6 日	学芸部上席研究員　村上隆、連携協力室長　山下善也
64	国際仏教学大学院大学　私立大学戦略的研究基盤形成支援事業	岩屋寺所蔵古写本及び南宋思渓版一切経の調査	24 年 2 月 21 日～22 日	学芸部上席研究員　赤尾栄慶
65	野崎家塩業歴史館	所蔵資料の調査	24 年 1 月 13 日～14 日	学芸部工芸室長　尾野　善裕
66	北九州市立自然史・歴史博物館	真如堂縁起絵巻の撤収の指導	24 年 2 月 12 日	学芸部列品管理室長 鬼原　俊枝
67	東京国立博物館	収蔵品に関する共同研究（「書跡」特別調査会）	24 年 2 月 7 日～8 日	学芸部企画室 研究員　羽田　聡
68	東京国立博物館	収蔵品に関する共同研究（「工芸（漆工）」特別調査会）	24 年 3 月 1 日～2 日	学芸部企画室 主任研究員　永島　明子
69	東京国立博物館	収蔵品に関する共同研究（「工芸」特別調査会）	24 年 3 月 4 日～5 日	学芸部企画室長　久保　智康
70	株式会社 NHK プロモーション	特別展「細川家の至宝」九州展撤収に伴う職員の派遣	24 年 3 月 6 日～7 日	学芸部企画室長　久保　智康
71	山口市教育委員会	大内氏関連町並遺跡出土金属生産遺物調査指導	24 年 3 月 1 日～3 日	学芸部上席研究員　村上　隆
72	伊丹市教育委員会	文化財の保存方法に対する指導者の派遣（發音寺）	24 年 2 月 24 日	学芸部文化財管理監 中村　康
73	愛知県	愛知県史編さん委員会文化財部会工芸班会議	24 年 3 月 13 日	学芸部列品管理室 主任研究員　山川　曉
74	川西市教育委員会	第２回川西市文化財審議委員会	24 年 3 月 23 日	学芸部文化財管理監 中村　康
75	豊田市郷土資料館	出土遺物鑑定のため	24 年 3 月 6 日	学芸部工芸室長　尾野　善裕
76	長野県埋蔵文化財センター	第８回柳沢遺跡調査指導委員会	24 年 3 月 12 日～13 日	学芸部上席研究員　村上　隆
77	八幡市教育委員会	資料調査・指導（八幡市立松花堂美術館）	24 年 3 月 24 日	学芸部列品管理室 主任研究員　山川　曉
78	文化庁	カルコン美術対話委員会	24 年 3 月 27 日	学芸部列品管理室長 鬼原　俊枝
79	文化庁	アメリカ：カルコン美術対話委員会への参加	5 月 17 日～21 日	学芸部列品管理室長 鬼原　俊枝
80	大阪大学科学研究費補助金	大韓民国：金銅仏を中心とした彫刻作品の調査	6 月 19 日～23 日	学芸部連携協力室 主任研究員　淺湫　毅
81	国際仏教学大学院大学　私立大学戦略的研究基盤形成支援事業	ベルギー・イギリス：日本の古写経および敦煌写経の調査	7 月 9 日～18 日	学芸部上席研究員　赤尾栄慶
82	京都大学	台湾：国立台湾博物館所蔵銅鏡の調査（学生の調査指導）	8 月 9 日～12 日	学芸部企画室長　久保　智康
83	フリーデン・シュタイン城美術館	ドイツ：明治天皇から英国王子への贈答品などの調査	9 月 8 日～16 日	学芸部企画室 主任研究員　永島　明子
84	韓国技術教育大学校 文理閣研究所	大韓民国：国際ワークショップ「新羅写経と奈良写経」参加	9 月 1 日～4 日	学芸部上席研究員　赤尾栄慶
85	ハーグ市立美術館 アムステルダム国立美術館　他	オランダ・スイス：漆器調査および漆器に関する情報収集	10 月 18 日～30 日	学芸部企画室 主任研究員　永島　明子
86	浙江省博物館	中国：浙江省博物館「呉越勝覧」展学術討論会参加	9 月 27 日～10 月 1 日	学芸部企画室長　久保　智康
87	ベトナム歴史博物館	ベトナム：ベトナム歴史博物館所蔵品調査	11 月 8 日～12 日	学芸部工芸室長　尾野　善裕
88	国立中央博物館	大韓民国：愛知県美術館所蔵「鉄製交椅」保存処理に伴う類品調査	11 月 20 日～22 日	学芸部企画室長　久保　智康
89	ヤンゴン国立博物館 パガン考古博物館	タイ・ミャンマー：彫刻作品・遺跡等の調査	12 月 19 日～31 日	学芸部連携協力室 主任研究員　淺湫　毅
90	日本女子大学 科学研究費分担金	ドイツ：蝋管の調査研究（ドイツ博物館）	24 年 2 月 18 日～22 日	学芸部上席研究員　村上　隆
91	北海道大学 科学研究費分担金	大韓民国：韓国口訣学会メンバーと意見交換会および古印刷物に関する調査研究	24 年 3 月 23 日～25 日	学芸部上席研究員　赤尾栄慶

【奈良国立博物館】98件

	機　関	内　容	期　間	担当者
1	読売新聞大阪本社	読売新聞あおによし賞選考委員会出席	4 月 3 日	館長　湯山　賢一
2	サントリー美術館	出陳借用立会	5 月 26 日	学芸部長補佐　内藤　栄
3	東日本大震災文化財等支援奈良プロジェクト実行委員会	文化財レスキュー事業	5 月 27 日	副館長　畑中　裕良
4	読売新聞大阪本社	読売新聞あおによし賞表彰式出席	5 月 29 日	館長　湯山　賢一
5	文化庁	在外日本古美術修復検討委員会出席	6 月 1 日	学芸部長　西山　厚
6	神奈川県立金沢文庫	特別展「解脱上人貞慶」に関する打合せ	6 月 2 日	学芸部長　西山　厚 学芸部長補佐　岩田　茂樹 保存修理指導室長　谷口　耕生 研究員　斎木　涼子
7	東大寺	東大寺境内整備計画委員会出席	6 月 3 日	館長　湯山　賢一
8	ユネスコ・アジア文化センター文化遺産保護協力事業運営審議会	審議会出席	6 月 9 日	副館長　畑中　裕良
9	サントリー美術館	特別展「不滅のシンボル　鳳凰と獅子」展示指導	6 月 7 日	学芸部長補佐　内藤　栄
10	奈良市	奈良市市民連携企画実行委員会出席	6 月 13 日	副館長　畑中　裕良
11	法隆寺、日本経済新聞社	「聖徳太子 1390 年御遠忌記念 法隆寺」展打合せ	6 月 14 日	学芸部長補佐　岩田　茂樹
12	仙台市博物館等	文化財レスキュー事業	6 月 20 日～6 月 25 日	研究員　岩戸　晶子
13	甲賀市教育委員会	文化財調査	6 月 23 日	学芸部長補佐　岩田　茂樹

	機　関	内　容	期　間	担当者
14	サントリー美術館	「工芸意匠に見る鳳凰と獅子―正倉院宝物を中心に―」講演	6 月 25 日	学芸部長補佐　内藤　栄
15	仙台市博物館等	文化財レスキュー事業	6 月 25 日～7 月 1 日	学芸部長補佐　内藤　栄
16	仙台市博物館等	文化財レスキュー事業	6 月 27 日～7 月 6 日	研究員　清水　健
17	冷泉家時雨亭文庫	評議員選定委員会出席	6 月 30 日	館長　湯山　賢一
18	大津市歴史博物館	木造阿弥陀三尊像のエックス線写真撮影	6 月 29 日	学芸部長補佐　岩田　茂樹 稲本　泰生
19	浜松市博物館	考古資料相互活用促進事業に伴う文化財輸送	7 月 5 日～7 月 6 日	研究員　岩戸　晶子
20	仙台市博物館等	文化財レスキュー事業	7 月 11 日～7 月 16 日	研究員　岩戸　晶子
21	東北歴史博物館	文化財レスキュー事業	7 月 6 日～7 月 14 日	技術職員　佐々木　香輔
22	岐阜市歴史博物館	「国宝　薬師寺展」展示指導	7 月 26 日	学芸部長補佐　岩田　茂樹
23	法隆寺、日本経済新聞社	「聖徳太子 1390 年御遠忌記念 法隆寺」展に係る文化財調査	8 月 2 日～3 日	学芸部長補佐　岩田　茂樹 企画室長　稲本　泰生 研究員　山口　隆介 学芸部長補佐　内藤　栄 研究員　清水　健 アソシエイトフェロー　永井洋之 情報サービス室長　野尻　忠 研究員　斎木　涼子 保存修理指導室長　谷口　耕生 研究員　北澤　菜月 アソシエイトフェロー　原　瑛莉子
24	法隆寺、日本経済新聞社	「聖徳太子 1390 年御遠忌記念 法隆寺」展に係る文化財調査	8 月 4 日	学芸部長補佐　岩田　茂樹 企画室長　稲本　泰生 研究員　山口　隆介
25	文化庁	醍醐寺所蔵文化財の調査	8 月 25 日～8 月 26 日	館長　湯山　賢一
26	東大寺	撮影協力	9 月 2 日	技術職員　佐々木　香輔
27	東大寺	撮影協力	9 月 12 日	資料室長　宮崎　幹子 技術職員　佐々木　香輔
28	奈良県立美術館 入江泰吉記念奈良市写真美術館	講演（奈良トライアングルミュージアム）	9 月 17 日	学芸部長　西山　厚
29	韓国国立中央博物館	特別展「肖像画の秘密」輸送同行・展示立会	9 月 22 日～9 月 24 日	保存修理指導室長　谷口　耕生
30	法隆寺、日本経済新聞社、土浦市立博物館	「聖徳太子 1390 年御遠忌記念 法隆寺」展出陳交渉	9 月 30 日	教育室長　吉澤　悟
31	岐阜市歴史博物館	「国宝　薬師寺展」撤収立会	10 月 5 日	学芸部長補佐　岩田　茂樹
32	法隆寺、日本経済新聞社	「聖徳太子 1390 年御遠忌記念 法隆寺」展打合せ	10 月 6 日	企画室長　稲本　泰生
33	独立行政法人国立文化財機構	法人本部役員会出席	10 月 14 日	館長　湯山　賢一 副館長　畑中　裕良
34	法隆寺、日本経済新聞社	「聖徳太子 1390 年御遠忌記念 法隆寺」展打合せ	11 月 2 日	企画室長　稲本　泰生
35	法隆寺、日本経済新聞社	「聖徳太子 1390 年御遠忌記念 法隆寺」展に係る文化財調査	11 月 2 日	教育室長　吉澤　悟
36	神奈川県立金沢文庫	特別展「解脱上人貞慶」に関する打合せ	11 月 5 日	保存修理指導室長　谷口　耕生
37	韓国国立中央博物館	特別展「肖像画の秘密」輸送同行・撤収立会	11 月 6 日～11 月 8 日	研究員　北澤　菜月
38	法隆寺、日本経済新聞社	「聖徳太子 1390 年御遠忌記念 法隆寺」展に係る文化財調査	11 月 10 日	企画室長　稲本　泰生
39	韓国国立中央博物館	特別展「肖像画の秘密」輸送同行・返却立会	11 月 14 日	研究員　北澤　菜月
40	奈良県立美術館 入江泰吉記念奈良市写真美術館	講演（奈良トライアングルミュージアム）	11 月 20 日	学芸部長　西山　厚
41	国立情報学研究所	文献データ取扱に関する指導・助言	12 月 1 日	資料室長宮崎　幹子
42	ホテル協議会	定例会出席	12 月 6 日	副館長　畑中　裕良
43	読売新聞大阪本社	平成 23 年度作文コンクール「わたしたちの正倉院」審査会	12 月 6 日	館長　湯山　賢一
44	法隆寺、日本経済新聞社	「聖徳太子 1390 年御遠忌記念 法隆寺」展出陳作品撮影立会	12 月 12 日	企画室長　稲本　泰生 研究員　山口　隆介 研究員　北澤　菜月 技術職員　佐々木　香輔
45	土浦市立博物館	特別展「暮らしをささえる女性たち－紡ぐ・織る・仕立てる・繕う」出陳借用立会	12 月 15 日	教育室長　吉澤　悟
46	文化庁	文化財買取協議会出席	12 月 22 日	教育室長　吉澤　悟
47	法隆寺、日本経済新聞社	「聖徳太子 1390 年御遠忌記念 法隆寺」展出陳作品点検等	平成 24 年 1 月 6 日	研究員　岩戸　晶子
48	東京国立博物館	文化財調査	平成 24 年 1 月 25 日～1 月 27 日	保存修理指導室長　谷口　耕生
49	神戸大学	博士論文審査	平成 24 年 1 月 26 日	学芸部長補佐　内藤　栄 企画室長　稲本　泰生
50	読売新聞大阪本社	平成 23 年度作文コンクール「わたしたちの正倉院」表彰式	平成 24 年 1 月 28 日	館長　湯山　賢一 学芸部長　西山　厚
51	法隆寺、日本経済新聞社	「聖徳太子 1390 年御遠忌記念 法隆寺」展打合せ	平成 24 年 2 月 3 日	企画室長　稲本　泰生 研究員　北澤　菜月
52	東大寺金鐘会館	東大寺境内整備計画委員会出席	平成 24 年 2 月 7 日	館長　湯山　賢一 学芸部長　西山　厚
53	甲賀市教育委員会	文化財調査	平成 24 年 2 月 16 日	学芸部長補佐　岩田　茂樹 研究員　山口　隆介
54	神戸大学	神戸大学美術史研究会総会出席	平成 24 年 2 月 17 日	学芸部長補佐　内藤　栄
55	中宮寺	「聖徳太子 1390 年御遠忌記念 法隆寺」展に伴う館蔵品の貸出、展示作業	平成 24 年 2 月 20 日	学芸部長補佐　内藤　栄

	機　関	内　容	期　間	担当者
56	法隆寺	「聖徳太子 1390 年御遠忌記念 法隆寺」展出陳品梱包	平成 24 年 2 月 20 日	企画室長　稲本　泰生 研究員　清水　健
57	法隆寺	「聖徳太子 1390 年御遠忌記念 法隆寺」展出陳品集荷	平成 24 年 2 月 21 日	研究員　清水　健 研究員　北澤　菜月 アソシエイトフェロー　永井洋之 アソシエイトフェロー　原　瑛莉子
58	神奈川県立金沢文庫	特別展「解脱上人貞慶」に関する打合せ	平成 24 年 2 月 23 日～2 月 24 日	学芸部長　西山　厚
59	法隆寺、日本経済新聞社	「聖徳太子 1390 年御遠忌記念 法隆寺」展梱包作業	平成 24 年 2 月 23 日	企画室長　稲本　泰生 研究員　清水　健 研究員　北澤　菜月 アソシエイトフェロー　永井洋之
60	法隆寺、日本経済新聞社	「聖徳太子 1390 年御遠忌記念 法隆寺」展出陳品集荷	平成 24 年 2 月 24 日	企画室長　稲本　泰生 研究員　清水　健 研究員　北澤　菜月
61	法隆寺、日本経済新聞社	「聖徳太子 1390 年御遠忌記念 法隆寺」展出陳品集荷	平成 24 年 2 月 27 日	企画室長　稲本　泰生 研究員　北澤　菜月
62	法隆寺、日本経済新聞社	「聖徳太子 1390 年御遠忌記念 法隆寺」展出陳品集荷	平成 24 年 2 月 29 日	企画室長　稲本　泰生 研究員　北澤　菜月
63	法隆寺、日本経済新聞社	「聖徳太子 1390 年御遠忌記念 法隆寺」展展示・開会式出席	平成 24 年 3 月 1 日～3 月 3 日	館長　湯山　賢一 学芸部長補佐　岩田　茂樹 企画室長　稲本　泰生 研究員　清水 健 研究員　北澤　菜月
64	壱岐市立一支国博物館	考古資料相互活用促進事業に伴う文化財調査	平成 24 年 3 月 15 日～3 月 17 日	研究員　岩戸　晶子
65	法隆寺、日本経済新聞社	「聖徳太子 1390 年御遠忌記念 法隆寺」展撤収作業	平成 24 年 3 月 20 日～3 月 21 日	学芸部長補佐　内藤　栄 企画室長　稲本　泰生 研究員　北澤　菜月
66	浜松市博物館	考古資料相互活用促進事業に伴う文化財輸送	平成 24 年 3 月 22 日～23 日	研究員　岩戸　晶子
67	法隆寺、日本経済新聞社	「聖徳太子 1390 年御遠忌記念 法隆寺」展出陳品返却、集荷	平成 24 年 3 月 27 日	企画室長　稲本　泰生 研究員　北澤　菜月 アソシエイトフェロー　永井洋之
68	法隆寺、日本経済新聞社	「聖徳太子 1390 年御遠忌記念 法隆寺」展展示・開会式出席	平成 24 年 3 月 28 日～3 月 29 日	学芸部長補佐　内藤 栄 企画室長　稲本 泰生 研究員　北澤 菜月
69	(社)国宝修理装潢師連盟	顧問	5 月 21 日～平成 24 年 3 月 31 日	館長　湯山　賢一
70	(財)ユネスコ・アジア文化センター	文化遺産保護協力事業運営審議会委員	4 月 1 日～平成 24 年 3 月 31 日	館長　湯山　賢一
71	(財)元興寺文化財研究所	評議員	6 月 15 日～平成 24 年 3 月 31 日	館長　湯山　賢一
72	社団法人 日本工芸会	運営委員	4 月 1 日～平成 24 年 3 月 31 日	館長　湯山　賢一
73	奈良ﾌｪｽﾃｨﾊﾞﾙ実行委員会	委員	9 月 1 日～平成 24 年 3 月 31 日	館長　湯山　賢一
74	京都国立博物館	評議員	4 月 1 日～平成 24 年 3 月 31 日	館長　湯山　賢一
75	(財)仏教美術協会	評議員	4 月 1 日～平成 24 年 3 月 31 日	館長　湯山　賢一
76	(財)松伯美術館	理事	4 月 1 日～平成 24 年 3 月 31 日	館長　湯山　賢一
77	(財)大和文華館	理事	4 月 1 日～平成 24 年 3 月 31 日	館長　湯山　賢一
78	(財)日本博物館協会	理事	4 月 1 日～平成 24 年 3 月 31 日	館長　湯山　賢一
79	(財)仏教美術研究上野記念財団	理事	4 月 1 日～平成 24 年 3 月 31 日	館長　湯山　賢一
80	奈良女子大学	経営協議会委員	4 月 1 日～平成 24 年 3 月 31 日	館長　湯山　賢一
81	(財)奈良県万葉文化振興財団	理事	4 月 1 日～平成 24 年 3 月 31 日	館長　湯山　賢一
82	和歌山県立博物館	協議会委員	4 月 1 日～平成 24 年 3 月 31 日	館長　湯山　賢一
83	文化庁	工芸技術記録映画制作委員会委員	4 月 1 日～平成 24 年 3 月 31 日	館長　湯山　賢一
84	中宮寺奉賛会	参与	4 月 1 日～平成 24 年 3 月 31 日	館長　湯山　賢一
85	宮内庁	懇談会会員	4 月 1 日～平成 24 年 3 月 31 日	館長　湯山　賢一
86	文化庁	文化審議会専門委員（文化財分科会）	4 月 1 日～平成 24 年 2 月 27 日	館長　湯山　賢一

	機　関	内　容	期　間	担当者
87	奈良市民連携企画実行委員会	委員	4 月 14 日～12 月 31 日	副館長　畑中　裕良
88	独立行政法人国立青少年教育振興機構 国立淡路青少年交流の家	企画委員	7月8日～平成24年1月31日	総務課長　貴志　徹
89	奈良市教育委員会	奈良市世界遺産学習推進委員会委員	4月1日～平成24年3月31日	学芸部長　西山　厚
90	（財）大和文華館	評議員	4月1日～平成24年3月31日	学芸部長　西山　厚
91	九州国立博物館	文化財保存修復施設運営委員会委員	4月1日～平成24年3月31日	学芸部長　西山　厚
92	奈良文化財研究所飛鳥資料館	飛鳥資料館運営に関する懇談会会員	4月1日～平成24年3月31日	学芸部長　西山　厚
93	奈良県教育委員会	奈良県文化財保護審議会委員	7月1日～平成24年3月31日	学芸部長補佐　内藤　栄
94	愛知県美術館	愛知県美術館所蔵 木村コレクション M1027「鉄製交椅」保存処置のための専門委員会委員	10 月 28 日～平成 24 年 3 月 31 日	学芸部長補佐　内藤　栄
95	奈良県伝統的工芸品指定委員会	委員	4月1日～平成24年3月31日	学芸部長補佐　内藤　栄
96	香芝市教育委員会	香芝市文化財保護審議会委員	8月1日～平成24年3月31日	学芸部長補佐　岩田　茂樹
97	圓教寺	性空上人調査委員会委員	4月1日～平成24年3月31日	学芸部長補佐　岩田　茂樹
98	龍谷大学龍谷ミュージアム	客員研究員	5月6日～平成24年3月31日	企画室長　稲本　泰生

【九州国立博物館】97件

	機　関	内　容	期　間	担当者
1	日本学術会議	連携会員（史学委員会）	4月1日～3月31日	博物館科学課長　本田光子
2	文化庁	埋蔵文化財発掘調査体制等の整備充実に関する調査研究委員会委員	4月1日～3月31日	博物館科学課長　本田光子
3	福岡県立美術館	福岡県立美術館協議会委員	4月1日～3月31日	博物館科学課長　本田光子
4	九州歴史資料館	九州歴史資料館協議会副会長	4月1日～3月31日	博物館科学課長　本田光子
5	大分県立歴史博物館	大分県立歴史博物館協議会委員	4月1日～3月31日	博物館科学課長　本田光子
6	長崎県埋蔵文化財センター	原の辻遺跡保存活用整備委員会委員	4月1日～3月31日	博物館科学課長　本田光子
7	福井県立一乗谷朝倉氏遺跡資料館	福井県立一乗谷朝倉氏遺跡資料館協議会委員	4月1日～3月31日	博物館科学課長　本田光子
8	熊本市熊本博物館	熊本市熊本博物館協議会委員	4月1日～3月31日	博物館科学課長　本田光子
9	福岡県太宰府市	太宰府市公文書館構想調査研究委員会委員	4月1日～3月31日	博物館科学課長　本田光子
10	佐賀県唐津市	唐津市文化財保護委員会委員	4月1日～3月31日	博物館科学課長　本田光子
11	一般社団法人文化財保存修復学会	一般社団法人文化財保存修復学会理事	4月1日～3月31日	博物館科学課長　本田光子
12	長崎歴史文化博物館	IPM とボランティア活動についての助言	4月2日	博物館科学課長　本田光子
13	公益財団法人文化財虫害研究所	公益財団法人文化財虫害研究所平成２３年度第１回評議委員会	5 月 17 日	館長　三輪嘉六
14	イコム日本委員会	平成２３年度イコム日本委員会役員会・総会	5 月 26 日	館長　三輪嘉六
15	九州大学大学院芸術工学研究院	X 線 CT による楽器の調査の助言	5 月 26 日	博物館科学課環境保全室長 今津節生
16	一般社団法人文化財保存修復学会	「一般社団法人文化財保存修復学会第３３回大会」における講演	6 月 4 日～6 月 5 日	副館長　森田稔
17	一般社団法人文化財保存修復学会	「一般社団法人文化財保存修復学会第３３回大会」における講演	6 月 4 日～6 月 5 日	博物館科学課長　本田光子
18	日本文化財科学会	X 線 CT スキャナによる中国古代青銅器の構造技法解析に関する講演	6 月 10 日～6 月 12 日	博物館科学課環境保全室長 今津節生
19	仙台市博物館、宮城県内被災地	被災文化財等救出作業支援	6月12日～6月18日	文化財課資料管理室長 小林公治
20	仙台市博物館	被災文化財等救出作業支援	6 月 12 日～6 月 22 日	展示課研究員　坂元雄紀
21	文部科学省	平成２３年度全国博物館長会議（第１８回）	6 月 15 日	館長　三輪嘉六
22	仙台市博物館	被災文化財等救出作業支援	6 月 20 日～6 月 29 日	博物館科学課保存修復室主任研究員　志賀智史
23	奈良女子大学	奈良女子大学増井研究室セミナー講座	6月23日	館長　三輪嘉六
24	京都大学生存圏研究所	アメリカンザイロシロアリの被害材調査の助言	6月29日	博物館科学課環境保全室長 今津節生
25	仙台市博物館、石巻文化センター、東松島市野蒜地区収蔵庫、東北歴史博物館、石巻文化センター	被災文化財等救出作業支援	7 月 3 日～7 月 9 日	展示課主任研究員　進村真之
26	九重町教育委員会	X 線 CT による大分県指定無形民俗文化財「玖珠神楽」神楽面の調査の助言	7 月 4 日	博物館科学課環境保全室長 今津節生
27	筑紫野市歴史博物館	「九州国立博物館特別展展示解説講座」講師	7月8日	博物館科学課長　本田光子
28	総合的防除対策検討委員会	平成２３年度第１回総合的防除対策検討委員会	7 月 11 日	博物館科学課長　本田光子 博物館科学課アソシエイトフェロー　秋山純子
29	仙台市博物館、宮城県・岩手県内被災地	被災文化財等救出作業支援	7 月 11 日～7 月 16 日	文化財課資料管理室長 小林公治
30	仙台市博物館	被災文化財等救出作業支援	7 月 11 日～7 月 20 日	企画課特別展室主任研究員 畑靖紀
31	宮崎県都城市教育委員会	市所蔵文化財の保存修理について援助・助言	7月12日、13日	博物館科学課保存修復室長 藤田励夫
32	「市民と共にミュージアム IPM」実行委員会	「ミュージアム IPM 支援者研修会」基礎編講師	7月16日、7月28日、8月26日	博物館科学課長　本田光子

	機　関	内　容	期　間	担当者
33	瑞浪市陶磁資料館	「加藤孝造展」講演及び対談	7月17日	館長　三輪嘉六
34	仙台市博物館、旧牡鹿町公民館、東北福祉大学、悠理館、サンファン館、旧牡鹿町民俗収蔵庫	被災文化財等救出作業支援	7 月 17 日～7 月 23 日	展示課主任研究員　進村真之
35	仙台市博物館	被災文化財等救出作業支援	7 月 17 日～7 月 23 日	交流課主任研究員　池内一誠
36	中国首都博物館	講演	7 月 19 日～7 月 22 日	館長　三輪嘉六
37	首都博物館（中国）	講演	7月20日	館長　三輪嘉六
38	長崎県歴史文化博物館	黄檗展調査報告講演	7 月 30 日	文化財課アソシエイトフェロー　末兼俊彦
39	大阪府立近つ飛鳥博物館	X 線 CT による一須賀古墳群出土耳環の調査の助言	8 月 1 日～8 月 2 日	博物館科学課環境保全室長今津節生
40	京都府京田辺市教育委員会	X 線 CT による京田辺市指定文化財　木造大日如来坐像（大徳寺蔵）の調査の助言	8 月 5 日	博物館科学課環境保全室長今津節生
41	内蒙古博物院	東アジア文化遺産保存学会第２大会において講演	8 月 14 日～8 月 18 日	博物館科学課環境保全室長今津節生
42	奈良国立博物館	X 線 CT による国宝　天寿国繍帳残闕（中宮寺所蔵）の調査の助言	8 月 17 日	博物館科学課環境保全室長今津節生
43	筑紫地区社会教育振興協議会	「ライブラリーIPM に向けて」研修会講師	8月25日	博物館科学課長　本田光子
44	中央大学　大学史編纂課（歴史館（仮称）開設準備担当）	体験型展示・展示理解用体験ツール制作についての助言	8 月 30 日	交流課主任研究員　池内一誠
45	公益財団法人文化財虫害研究所	IPM コーデイネータ委員会委員長	9月1日～3月31日	博物館科学課長　本田光子
46	玉名市文化財保護審議会	「博物館の施設と機能・文化財の保存修復」見学研修講師	9月29日	博物館科学課長　本田光子
47	福岡県田川市	山本作兵衛氏の炭鉱記録画並びに記録文書の保存・活用等検討委員会保存調査検討部会長	10月1日～3月31日	博物館科学課長　本田光子
48	佐賀県教育委員会	佐賀城築城400年記念の講演会	10月9日	館長　三輪嘉六
49	福岡市教育委員会	X 線 CT による元岡古墳群Ｇ６号墳出土庚寅銘大刀の調査の助言	10 月 14 日	博物館科学課環境保全室長今津節生
50	九州歴史資料館	X 線 CT による矢加部町屋敷遺跡出土遺物の調査の助言	10 月 26 日	博物館科学課環境保全室長今津節生
51	浜松市楽器博物館	X 線 CT による古管尺八の調査の助言	11 月 1 日	博物館科学課環境保全室長今津節生
52	松浦市教育委員会	X 線ＣＴによる鷹島海底遺跡出土遺物の調査の助言	11 月 11 日、11 月 12 日	博物館科学課環境保全室長今津節生
53	「市民と共にミュージアム IPM」実行委員会	「ミュージアム IPM 支援者研修会」技術編講師	11月14日	博物館科学課長　本田光子
54	愛知県美術館	X 線 CT による鏡掛調査の助言	11 月 15 日	博物館科学課環境保全室長今津節生
55	松浦市教育委員会	X 線 CT による鷹島海底遺跡出土遺物の調査の助言	11 月 15 日、11 月 16 日	博物館科学課環境保全室長今津節生
56	国宝修理装潢師連盟	「平成２３年度第１７回国宝修理装潢師連盟定期研修会」にて基調講演	11 月 18 日	博物館科学課長　本田光子
57	国宝修理装潢師連盟	平成２３年度第１７回国宝修理装潢師連盟定期研修会での指導・助言	11 月 18 日～11 月 19 日	副館長　森田稔
58	国立西洋美術館	体験型展示・展示理解用体験ツール制作についての助言	11 月 25 日	交流課　主任研究員　池内一誠
59	久留米市市民文化部文化財保護課	水分遺跡第５次調査 SI4 出土広片口鉢および遺跡出土赤色顔料の調査の助言	12 月 2 日	博物館科学課保存修復室　志賀智史
60	一般社団法人文化財保存修復学会	一般社団法人文化財保存修復学会　公開シンポジウムにて基調講演	12月3日	館長　三輪嘉六
61	一般社団法人文化財保存修復学会	一般社団法人文化財保存修復学会　公開シンポジウムにてパネルディスカッション座長	12月3日	副館長　森田稔
62	一般社団法人文化財保存修復学会	一般社団法人文化財保存修復学会　公開シンポジウムにて事例報告・パネラー	12月3日	博物館科学課長　本田光子
63	鹿児島県埋蔵文化財センター	X 線 CT による大刀の構造調査の助言	12 月 6 日	博物館科学課環境保全室長今津節生
64	静岡県立美術館	特別展「草原の王朝 契丹」に係る展示指導・助言	12月12日～12月16日	企画課特別展室研究員　市元塁
65	喜界町教育委員会	X 線 CT による土器の調査の助言	12 月 12 日	博物館科学課環境保全室長今津節生
66	岡山大学	岡山大学考古資料 CT 調査結果検討会のため	12 月 24 日	文化財課主任研究員　鳥越俊行
67	大分県竹田市	三次元計測による重要文化財　サンチャゴの鐘の調査の助言	12 月 26 日	博物館科学課環境保全室長今津節生
68	ＮＰＯ法人文化財保存支援機構	ＮＰＯ法人文化財保存支援機構主催シンポジウムにて講演	24 年 1 月 8 日	館長　三輪嘉六
69	沖縄県立博物館・美術館	展示作業への指導	24 年 1 月 18 日	博物館科学課保存修復室長藤田励夫
70	沖縄県立博物館・美術館	沖縄県立博物館・美術館企画展「琉球と袋中上人展」に係る展示指導	24 年 1 月 18 日～1 月 19 日	文化財課アソシエイトフェロー末兼俊彦
71	火薬学会西部支部	海底から蘇る「てつはう」講演	24 年 1 月 30 日	博物館科学課環境保全室長今津節生
72	長崎県	長崎県ミュージアム連携促進事業シンポジウムでの講演及びパネリスト	24 年 1 月 31 日	館長　三輪嘉六
73	八女市教育委員会	岩戸山歴史文化交流館（仮称）建設に係る検討会	24 年 1 月 31 日	企画課文化交流展室長　河野一隆
74	公益財団法人文化財虫害研究所	公益財団法人文化財虫害研究所平成２３年度第２回評議委員会	24 年 2 月 2 日～2 月 3 日	館長　三輪嘉六
75	公益財団法人文化財虫害研究所	平成２３年度第２回文化財 IPM コーディネータ委員会	24 年 2 月 7 日	博物館科学課長　本田光子
76	文化庁	公開承認施設会議における講演講師	24 年 2 月 10 日	副館長　森田稔
77	名古屋市	名古屋城本丸御殿展示・観覧等検討会	24 年 2 月 17 日	副館長　森田稔

	機　関	内　容	期　間	担当者
78	沖縄県立博物館・美術館	「琉球と袋中上人展」に係る撤収指導	24年2月19日～2月20日	文化財課アソシエイトフェロー末兼俊彦
79	総合研究大学院大学	博物館どうしの連携・大学との連携にかかる助言	24年2月21日	博物館科学課長　本田光子、交流課主任研究員　池内一誠、同主任主事　澤野真由美
80	福島市子どもの夢をはぐくむ施設　こむこむ	体験型展示・展示理解用体験ツール制作についての助言	24年2月22日	交流課主任研究員　池内一誠
81	文化財保存修復学会	保存修復学会プログラム作成委員会	24年2月24日	博物館科学課環境保全室長　今津節生
82	佐賀県唐津市教育委員会	佐賀県唐津市鵜殿石仏群保存対策調査委員会	24年2月27日	博物館科学課環境保全室長　今津節生
83	八女市教育委員会	岩戸山歴史文化交流館（仮称）建設に係る検討会	24年2月28日	企画課文化交流展室長　河野一隆
84	第１回　日田広域文化観光･フォーラム実行委員会	第１回　日田広域文化観光・フォーラムにて講演	24年2月26日	館長　三輪嘉六
85	独立行政法人日本芸術文化振興会	平成２４年度芸術文化振興基金運営委員会第１回文化財部会	24年3月2日	館長　三輪嘉六
86	文化学園大学文化ファッション研究機構	文部科学省「特色ある共同研究拠点の整備の推進事業」委託費による「服飾文化共同研究」－東アジア古代の服飾の図像学と考古学に係る研究会「服飾文化研究会」	24年3月3日～3月4日	企画課特別展室研究員　市元塁
87	高良大社崇敬会	高良大社崇敬会総会にて講演	24年3月5日	館長　三輪嘉六
88	奈良国立博物館	奈良国立博物館文化財保存修理所運営委員会	24年3月7日	学芸部長　谷豊信
89	国営飛鳥歴史公園事務所	国営飛鳥歴史公園キトラ古墳周辺地区体験的歴史学習に関する報告会	24年3月7日	館長　三輪嘉六
90	北海道開拓記念館	第３回北海道博物館設置プラン検討委員会	24年3月13日～3月14日	館長　三輪嘉六
91	独立行政法人日本芸術文化振興会	第２７回芸術文化振興基金運営委員会	24年3月15日	館長　三輪嘉六
92	文化庁	「埋蔵文化財発掘調査体制等の整備充実に関する調査研究委員会」	24年3月20日	博物館科学課長　本田光子
93	熊本博物館	平成２３年度第３回熊本博物館協議会	24年3月27日	博物館科学課長　本田光子
94	文化庁	「民族共生の象徴となる空間」における博物館の整備・運営に関する調査検討委員会（第１回）	24年3月28日～3月29日	副館長　森田稔
95	佐賀県唐津市教育委員会	佐賀県唐津市鵜殿石仏群保存対策調査委員会	24年3月29日	博物館科学課環境保全室長　今津節生
96	長崎県立対馬歴史民俗資料館	館所蔵歴史資料の調査と保存についての援助・助言	通年	博物館科学課保存修復室長　藤田励夫
97	大分県臼杵市教育委員会	市所蔵国絵図の修理ついての援助・助言	通年	博物館科学課保存修復室長　藤田励夫

4 文化財に関する調査及び研究の推進

4-(1) 文化財に関する基礎的・体系的な調査・研究の推進

4-(1)-① 調査研究テーマ一覧　（後述の資料に記載）◎共通資料c-②

4-(1)-② 学会、研究会等発表実績一覧　（後述の資料に記載）◎共通資料c-③

4-(1)-③ 論文等発表実績一覧　（後述の資料に記載）◎共通資料c-⑤

4-(1)-④ 調査研究刊行物一覧　（後述の資料に記載）◎共通資料c-⑥

4-(2) 文化財の研究に関する調査手法の研究・開発の推進

4-(2)-① 調査研究テーマ一覧　（後述の資料に記載）◎共通資料c-②

4-(2)-② 学会、研究会等発表実績一覧　（後述の資料に記載）◎共通資料c-③

4-(2)-③ 論文等発表実績一覧　（後述の資料に記載）◎共通資料c-⑤

4-(2)-④ 調査研究刊行物一覧　（後述の資料に記載）◎共通資料c-⑥

4-(3) 科学技術の活用等による文化財の保存科学や修復技術に関する中核的な支援拠点として、先端的調査研究等の推進

4-(3)-① 調査研究テーマ一覧　（後述の資料に記載）◎共通資料c-②

4-(3)-② 学会、研究会等発表実績一覧　（後述の資料に記載）◎共通資料c-③

4-(3)-③ 論文等発表実績一覧　（後述の資料に記載）◎共通資料c-⑤

4-(3)-④ 調査研究刊行物一覧　（後述の資料に記載）◎共通資料c-⑥

4-(4) 国・地方公共団体の要請に応じた保存措置等のために必要な実践的な調査・研究の実施

4-(4)-① 調査研究テーマ一覧　（後述の資料に記載）◎共通資料c-②

4-(4)-② 学会、研究会等発表実績一覧　（後述の資料に記載）◎共通資料c-③

4-(4)-③ 論文等発表実績一覧　（後述の資料に記載）◎共通資料c-⑤

4-(4)-④ 調査研究刊行物一覧　（後述の資料に記載）◎共通資料c-⑥

4-(5) ― ה ᴚ ה ה ה ⌐ ⅛⅛ ╢ ה

4-(5)-① 調査研究テーマ一覧　（後述の資料に記載）◎共通資料c-②

4-(5)-② 学会、研究会等発表実績一覧　（後述の資料に記載）◎共通資料c-③

4-(5)-③ 論文等発表実績一覧　（後述の資料に記載）◎共通資料c-⑤

4-(5)-④ 調査研究刊行物一覧　（後述の資料に記載）◎共通資料c-⑥

4-(5)-⑤ 科学研究費補助金による調査研究　（後述の資料に記載）◎共通資料c-⑦

4-(5)-⑥ 客員研究員一覧　（後述の資料に記載）◎共通資料c-⑧

5 文化財保護に関する国際協力の推進

5-(1) [illegible]

5-(1)-① 調査研究テーマ一覧
（後述の資料に記載）◎共通資料c-②

5-(1)-② 国際ワークショップ開催実績一覧
【東京文化財研究所】
23年度は実績なし。

5-(1)-③ 学会、研究会等発表実績一覧
（後述の資料に記載）◎共通資料c-③

5-(1)-④ 論文等発表実績一覧
（後述の資料に記載）◎共通資料c-⑤

5-(2) 諸外国における文化財の保存・修復に関する技術移転の推進

5-(2)-① 調査研究テーマ一覧
（後述の資料に記載）◎共通資料c-②

5-(3) 研修、専門家の派遣を通じた諸外国における人材育成、技術移転

5-(3)-① アジア諸国文化財保護担当者などの人材養成に関する研修等実施状況
【東京文化財研究所】　1件

	研修課程	研修期間	日数	研修対象	参加者数
1	中国文化財専門家研修	24年2月27日～3月20日	19日	敦煌研究院保護研究所研究員	3人

【奈良文化財研究所】　2件

	研修課程	研修期間	日数	研修対象	参加者数
1	ACCUの実施する文化遺産の保護に資する研修2011（集団研修）	8月30日～9月29日	31日	アジア太平洋地域の政府機関、大学、研究所などに勤務し、文化遺産の管理、保護、修復に携わっているもの。	16人
2	ACCUの実施する文化遺産の保護に資する研修2011（個人研修・インドネシア）	7月5日～8月4日	31日	インドネシア文化観光省歴史考古総局職員	3人

5-(4) アジア太平洋地域における無形文化遺産保護に関する基礎的な調査・研究

5-(4)-① 研究交流実績一覧　（後述の資料に記載）◎共通資料c-①

5-(4)-② 調査研究テーマ一覧　（後述の資料に記載）◎共通資料c-②

5-(4)-③ 学会、研究会等発表実績一覧　（後述の資料に記載）◎共通資料c-③

5-(4)-④ シンポジウム開催実績一覧　（後述の資料に記載）◎共通資料c-④

5-(4)-⑤ 論文等発表実績一覧　（後述の資料に記載）◎共通資料c-⑤

5-(4)-⑥ 調査研究刊行物一覧　（後述の資料に記載）◎共通資料c-⑥

5-(4)-⑦ ウェブサイトアクセス件数　（後述の資料に記載）◎共通資料d

6 情報資料の収集・整備及び調査研究成果の発信

6-(1) ネットワークのセキュリティの強化及び情報基盤の整備充実

6-(1)-① 文化財関係資料及び図書の受入件数

	東京文化財研究所		東京文化財研究所	
	23年度受入件数	総件数	23年度受入件数	総件数
図　　書	4,699冊	237,931冊	9,473冊	320,345冊

6-(2) 研究所の研究成果の発信

6-(2)-① 公開講演会、現地説明会

【東京文化財研究所】

公開講演会　1件（2日）

○公開講演会「平成23年度オープンレクチャー「モノ／イメージとの対話」　日本美術史における様式の複線性－様式の選択と編集―」
・開 催 日：11月11日
・開催場所：東京文化財研究所セミナー室
・主　　催：上野の山文化ゾーン連絡協議会
・参加人数：236人（11月11日、12日の2日間延べ数）
・事業内容：美術史研究の成果を一般に公表すること
「平安時代前期から後期へ－六波羅蜜寺十一面観音像の造像―」
「鎌倉時代から室町時代へ－中世やまと絵様式の源流と再生―」

○公開講演会「平成23年度オープンレクチャー「モノ／イメージとの対話」　古美術のコンセプト」
・開 催 日：11月12日
・開催場所：東京文化財研究所セミナー室
・主　　催：上野の山文化ゾーン連絡協議会
・参加人数：236人（11月11日、12日の2日間延べ数）
・事業内容：美術史研究の成果を一般に公表すること
「室町漢画の基盤－周文と雪舟の場合―」
「平安～鎌倉時代の印仏－スタンプのほとけ－」

【奈良文化財研究所】

公開講演会　6件

○公開講演会「飛鳥資料館春期特別展「星々と日月の考古学」記念講演会」
・開 催 日：5月14日
・開催場所：飛鳥資料館講堂
・主　　催：奈良文化財研究所飛鳥資料館
・参加人数：160人
・事業内容：文化財に関する調査・研究に基づく成果について、積極的に公開・提供する。
「星々と日月の考古学」

○公開講演会「第108回公開講演会」
・開 催 日：6月18日
・開催場所：平城宮跡資料館講堂
・主　　催：奈良文化財研究所
・参加人数：250人
・事業内容：文化財に関する調査・研究に基づく成果について、積極的に公開・提供する。
「石槨構築技術からみた高松塚古墳」
「古代土木技術の系譜を探る」

○公開講演会「第109回公開講演会」
・開 催 日：10月15日
・開催場所：平城宮跡資料館講堂
・主　　催：奈良文化財研究所
・参加人数：141人
・事業内容：文化財に関する調査・研究に基づく成果について、積極的に公開・提供する。
「東アジアにおける失蝋法の展開－鋳造技術からみた中国・朝鮮・日本－」
「春日座大工の大工道具」

○公開講演会「飛鳥資料館秋期特別展「飛鳥遺珍－のこされた至宝たち－」記念講演会」
・開 催 日：11月6日
・開催場所：明日香村立中央公民館
・主　　催：奈良文化財研究所飛鳥資料館
・参加人数：102人
・事業内容：文化財に関する調査・研究に基づく成果について、積極的に公開・提供する。
「飛鳥発掘前夜－その成果に学ぶ－」
「飛鳥考古学の軌跡－調査研究と保護の歩み－」

○公開講演会「特別講演会（東京会場）　文化遺産を救出する－奈良文化財研究所の挑戦－」
・開 催 日：12月3日
・開催場所：学術綜合センター（一橋記念講堂）
・主　　催：奈良文化財研究所
・参加人数：250人
・事業内容：文化財に関する調査・研究に基づく成果について、積極的に公開・提供する。
「大津波と三陸沿岸の埋蔵文化財－東日本大震災被災文化財の救出－」
「大津波で被災した古文書を救え！－保存修復科学の貢献－」
「アンコール西トップ遺跡の修復－カンボジアでの文化遺産活用支援－」
「ハノイ・タンロン皇城遺跡の宮殿遺構－日越国際協力で調査研究保護をめざす－」
「バーミヤーン仏教遺跡の保護－厳しい状況下での国際支援事業の展開－」
「高松塚古墳・キトラ古墳壁画を守る－古墳壁画の保存修理－」

○公開講演会「新春特別講演会」
・開 催 日：24年1月14日
・開催場所：飛鳥資料館講堂

・共　　催：両槻会・奈良文化財研究所飛鳥資料館
・参加人数：36人
・事業内容：文化財に関する調査・研究に基づく成果について、積極的に公開・提供する。
「仏教伝来の頃の飛鳥」

現地説明会　6件

○現地説明会「平城第481次（平城宮跡東院地区）発掘調査」
・開 催 日：6月19日
・開催場所：奈良市佐紀町
・主　　催：奈良文化財研究所
・参加人数：650人
・事業内容：文化財に関する調査・研究に基づく成果について、積極的に公開・提供する。
発掘調査

○現地見学会「平城第483次（興福寺北円堂）発掘調査」
・開 催 日：9月17日
・開催場所：奈良市登大路町
・主　　催：奈良文化財研究所
・参加人数：800人
・事業内容：文化財に関する調査・研究に基づく成果について、積極的に公開・提供する。
発掘調査

○現地説明会「飛鳥藤原第169次(藤原宮朝堂院朝庭)」
・開 催 日：11月5日
・開催場所：橿原市高殿町
・主　　催：奈良文化財研究所
・参加人数：620人
・事業内容：文化財に関する調査・研究に基づく成果について、積極的に公開・提供する。
発掘調査

○現地見学会「平城486次（平城京左京三条一坊一坪）発掘調査」
・開 催 日：11月19日
・開催場所：奈良市二条大路南
・主　　催：奈良文化財研究所
・参加人数：200人
・事業内容：文化財に関する調査・研究に基づく成果について、積極的に公開・提供する。
発掘調査

○現地説明会「飛鳥藤原第171次（甘樫丘東麓遺跡）発掘調査」
・開 催 日：24年3月4日
・開催場所：高市郡明日香村
・主　　催：奈良文化財研究所
・参加人数：1,005人
・事業内容：文化財に関する調査・研究に基づく成果について、積極的に公開・提供する。
発掘調査

○現地説明会「平城第488次（平城京左京三条一坊一坪）発掘調査」
・開 催 日：24年3月10日
・開催場所：奈良市二条大路南
・主　　催：奈良文化財研究所
・参加人数：850人
・事業内容：文化財に関する調査・研究に基づく成果について、積極的に公開・提供する。
発掘調査

6-(2)-② シンポジウム開催実績一覧

（後述の資料に記載）◎共通資料c-④

6-(2)-③ 調査研究刊行物一覧

（後述の資料に記載）◎共通資料c-⑥

6-(2)-④ ウェブサイトアクセス件数

（後述の資料に記載）◎共通資料d

6-(3) 研究所所管の展示公開施設の充実

6-(3)-①　館者数推移（入館料別）　（過去５ヵ年）
（後述の資料に記載）◎共通資料a-①

6-(3)-②　館者数推移（展覧会別）　（過去５ヵ年）
（後述の資料に記載）◎共通資料a-②

6-(3)-③ 入場料収入
（後述の資料に記載）◎共通資料a-③

6-(3)-④ 平常展・特別展・海外展
（後述の資料に記載）◎共通資料a-④

6-(4) 文化庁が行う平城宮跡、飛鳥・藤原宮跡等の公開・活用への協力

6-(4)-① ボランティア受入れ実績
（後述の資料に記載）◎共通資料b

7 地方公共団体への協力等による文化財保護の質的向上

7-① 国・地方公共団体等に対する専門的・技術的な協力・助言

計	東京文化財研究所	奈良文化財研究所
652件	319件	333件

【東京文化財研究所】319件

	プロジェクト名称	件数
1	無形文化遺産に関する助言	32件
2	文化財の修復及び整備に関する調査・助言(33件)　(※Ⅰ4(3)①文化財のカビ被害予防と対策のシステム化についての研究に係る指導・助言 46件、Ⅰ4(3)②文化財の保存環境の研究に係る指導・助言 123件、Ⅰ4(3)③ア文化財の材質及び劣化調査法に関する研究に係る指導・助言 26件)	228件
3	文化財レスキュー事業（被災文化財等救出作業支援）※文化庁受託経費からの件数	59件

*参考：他施設における文化財レスキュー事業（被災文化財等救出作業支援）件数　※文化庁受託経費以外も含む

東京国立博物館	京都国立博物館	奈良国立博物館	九州国立博物館	奈良文化財研究所
55件	5件	6件	8件	55件

【奈良文化財研究所】333件

	プロジェクト名称	件数
1	地方公共団体等が行う史跡の整備、復原事業等に関する技術的助言	315件
2	地方公共団体が行う平城京域発掘調査への援助・助言	5件
3	地方公共団体が行う飛鳥・藤原地区の発掘調査への援助・助言	13件

7-② 専門指導者層を対象とした研修等実施状況及び研究参加者等に対するアンケート結果

計	東京文化財研究所	奈良文化財研究所
17件	4件	13件

【東京文化財研究所】　4件

	研修課程	研修期間	日数	研修対象	研修内容	参加者数	満足度
1	博物館・美術館等の保存担当学芸員研修	7月11日～7月22日	9日	博物館・美術館等の文化財の保存担当者	文化財の保存科学の基礎と実践上の諸問題についての講義と実習	27人	100%
2	保存担当学芸員フォローアップ研修	6月27日	1日	博物館・美術館等の保存担当学芸員研修修了生	研修修了生に対して最新の保存科学の知識を講義する	87人	99%
3	国際研修「紙の保存と修復」	8月29日～9月16日	15日	海外の博物館・図書館・文書館などの学芸員、修復技術者、教員など	日本の紙文化財の保存と修復に関する講義と実習、研修旅行	10人	100%
4	資料保存地域研修	11月16日～11月17日	2日	博物館・美術館等の文化施設に勤務する者	文化財の保存環境に関する基礎的な知識について、それぞれの地域に出向いて講義を行う	67人	100%

【奈良文化財研究所】　13件

	研修課程	研修期間	日数	研修対象	研修内容	参加者数	満足度
1	建築遺構調査課程	6月13日～17日	5日	地方公共団体の埋蔵文化財担当職員若しくはこれに準ずる者	建築遺構調査	9人	100%
2	建造物保存活用基礎課程	6月20日～24日	5日	地方公共団体の埋蔵文化財担当職員若しくはこれに準ずる者	建造物保存活用基礎	20人	100%
3	石器・石製品調査課程	9月12日～16日	5日	地方公共団体の埋蔵文化財担当職員若しくはこれに準ずる者	石器・石製品調査	14人	100%
4	自然科学的年代測定法課程	9月29日～30日	5日	地方公共団体の埋蔵文化財担当職員若しくはこれに準ずる者	自然科学的年代測定法	3人	100%
5	保存科学Ⅰ(金属製遺物)課程	10月4日～13日	10日	地方公共団体の埋蔵文化財担当職員若しくはこれに準ずる者	保存科学Ⅰ(金属製遺物)	7人	100%
6	保存科学Ⅱ(木製遺物)課程	10月13日～21日	9日	地方公共団体の埋蔵文化財担当職員若しくはこれに準ずる者	保存科学Ⅱ(木製遺物)	6人	100%
7	遺跡測量課程	10月26日～11月2日	8日	地方公共団体の埋蔵文化財担当職員若しくはこれに準ずる者	遺跡測量	4人	100%
8	遺跡情報記録調査課程	11月14日～18日	5日	地方公共団体の埋蔵文化財担当職員若しくはこれに準ずる者	遺跡情報記録調査	8人	100%
9	文化財写真課程	11月28日～12月8日	11日	地方公共団体の埋蔵文化財担当職員若しくはこれに準ずる者	文化財写真	12人	100%
10	報告書作成課程	12月8日～16日	9日	地方公共団体の埋蔵文化財担当職員若しくはこれに準ずる者	報告書作成	11人	100%
11	遺跡等環境整備課程	24年1月10日～20日	11日	地方公共団体の埋蔵文化財担当職員若しくはこれに準ずる者	遺跡等環境整備	13人	100%
12	保存科学Ⅲ(応急処置)課程	24年2月6日～10日	10日	地方公共団体の埋蔵文化財担当職員若しくはこれに準ずる者	保存科学Ⅲ(応急処置)	20人	100%
13	地質環境調査課程	24年2月14日～22日	9日	地方公共団体の埋蔵文化財担当職員若しくはこれに準ずる者	地質環境調査	9人	100%

Ⅱ　業務運営の効率化に関する目標を達成するためにとるべき措置

Ⅱ-1　一般管理費の削減

Ⅱ-1-① 施設の有効利用件数

○件数

		国立文化財機構計	博物館					文化財研究所		
			計	東京国立博物館	京都国立博物館	奈良国立博物館	九州国立博物館	計	東京文化財研究所	奈良文化財研究所
合 計	総件数	2,698	1,068	618	42	144	264	1,630	181	1,449
	うち有償	566	494	341	35	28	90	72	20	52
	うち無償	2,132	574	277	7	116	174	1,558	161	1,397
茶室	総件数	189	189	113	24	9	43			
	うち有償	97	97	48	24	8	17			
	うち無償	92	92	65	0	1	26			
講堂等（講堂、会議室、研修室）	総件数	2,168	555	313	9	97	136	1,613	181	1,432
	うち有償	237	178	101	2	9	66	59	20	39
	うち無償	1,931	377	212	7	88	70	1,554	161	1,393
その他（左記以外の建物、敷地）	総件数	146	129	7	8	37	77	17	0	17
	うち有償	40	27	7	8	11	1	13	0	13
	うち無償	106	102	0	0	26	76	4	0	4
撮影利用	総件数	195	195	185	1	1	8	0	0	0
	うち有償	192	192	185	1	0	6	0	0	0
	うち無償	3	3	0	0	1	2	0	0	0

○有償利用の利用金額　（単位：千円）

	国立文化財機構計	博物館					文化財研究所		
		計	東京国立博物館	京都国立博物館	奈良国立博物館	九州国立博物館	計	東京文化財研究所	奈良文化財研究所
合 計	52,546	48,296	45,584	663	1,145	904	4,250	193	4,057
茶室	4,860	4,860	4,315	234	160	151			
講堂等（講堂、会議室、研修室）	7,242	6,818	5,946	14	246	612	424	193	231
その他（左記以外の建物、敷地）	13,747	9,921	8,661	399	739	122	3,826	0	3,826
撮影利用	26,697	26,697	26,662	16	0	19	0	0	0

※アジア太平洋無形文化遺産研究センターは、堺市博物館の施設の一部を使用しているため、外部利用は行っていない。

◎共通資料

a 展示

a-① 来館者数推移（[illegible]館料別）

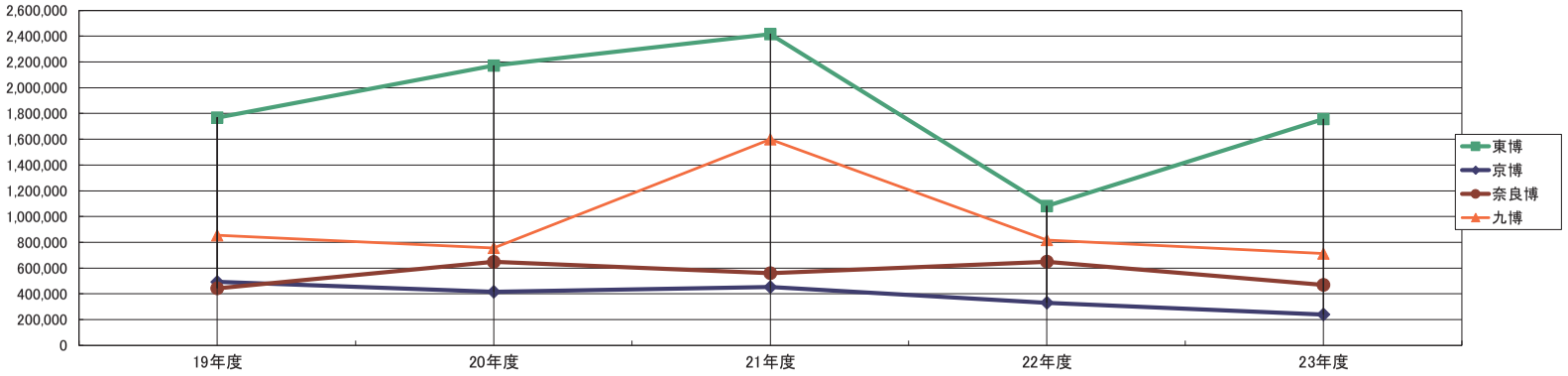
平成24年3月31日現在

施設	区分	種別	対象	19	20
国立文化財機構	総来館者数			3,764,567	4,193,381
	平常展	計		1,095,925	1,041,212
	平常展	有料	一般	506,568	461,649
	平常展	有料	大学生 高校生	99,428	90,861
	平常展	有料	小・中生	—	—
	平常展	有料	友の会	70,641	78,718
	平常展	無料	一般	106,078	116,058
	平常展	無料	高校生	15,270	16,192
	平常展	無料	小・中生	175,712	134,489
	平常展	招待者等		122,228	143,245
	特別展	計		2,668,642	3,152,169
	特別展	有料	一般	1,769,987	2,003,625
	特別展	有料	高・大生	131,777	116,329
	特別展	有料	小・中生	27,172	60,359
	特別展	有料	友の会	86,194	51,276
	特別展	無料	小・中生	65,033	52,769
	特別展	招待者等		588,479	867,811
東京国立博物館	総来館者数			1,768,198	2,171,942
	平常展	計		334,297	412,675
	平常展	有料	一般	165,190	210,423
	平常展	有料	大学生	28,514	27,225
	平常展	有料	小・中・高	—	—
	平常展	有料	友の会	52,862	65,232
	平常展	無料	高校生	15,270	16,192
	平常展	無料	小・中生	26,471	35,261
	平常展	招待者等		45,990	58,342
	特別展	計		1,433,901	1,759,267
	特別展	有料	一般	946,113	1,162,200
	特別展	有料	高・大生	80,862	64,854
	特別展	有料	小・中生	—	—
	特別展	有料	友の会	52,662	12,988
	特別展	無料	小・中生	50,499	38,903
	特別展	招待者等		303,765	480,322
京都国立博物館	総来館者数			492,414	416,001
	平常展	計		165,080	141,965
	平常展	有料	一般	67,586	54,043
	平常展	有料	高・大生	21,182	17,631
	平常展	有料	小・中生	—	—
	平常展	有料	友の会	5,968	3,915
	平常展	無料	小・中生	15,325	13,674
	平常展	招待者等		55,019	52,702
	特別展	計		327,334	274,036
	特別展	有料	一般	197,198	157,900
	特別展	有料	高・大生	17,763	16,264
	特別展	有料	小・中生	4,279	2,858
	特別展	有料	友の会	12,092	11,348
	特別展	無料	小・中生	—	—
	特別展	招待者等		96,002	85,666
奈良国立博物館	総来館者数			442,914	647,854
	平常展	計		131,336	112,849
	平常展	有料	一般	58,914	47,099
	平常展	有料	高・大生	9,919	7,777
	平常展	有料	小・中生	—	—
	平常展	有料	友の会	4,188	2,708
	平常展	無料	小・中生	48,069	35,209
	平常展	招待者等		10,246	20,056
	特別展	計		311,578	535,005
	特別展	有料	一般	235,865	370,001
	特別展	有料	高・大生	13,430	19,907
	特別展	有料	小・中生	6,463	12,393
	特別展	有料	友の会	9,790	14,544
	特別展	無料	小・中生	—	—
	特別展	招待者等		46,030	118,160
九州国立博物館	総来館者数			854,138	756,918
	平常展	計		341,282	241,423
	平常展	有料	一般	207,350	142,538
	平常展	有料	高・大生	37,835	36,858
	平常展	有料	小・中生	—	—
	平常展	有料	友の会	7,623	6,863
	平常展	無料	小・中生	81,707	47,402
	平常展	招待者等		6,767	7,762
	特別展	計		512,856	515,495
	特別展	有料	一般	356,430	285,004
	特別展	有料	高・大生	16,981	12,103
	特別展	有料	小・中生	16,430	45,108
	特別展	有料	友の会	11,650	12,396
	特別展	招待者等		111,365	160,884
黒田記念館	総来館者数			13,707	19,038
	平常	計		13,707	19,038
	平常	無料	一般	13,707	19,038
平城宮跡資料館	総来館者数			85,486	92,597
	平常	計		85,486	92,597
	平常	無料	一般	85,486	92,597
藤原宮跡資料室	総来館者数			6,885	4,423
	平常	計		6,885	4,423
	平常	無料	一般	6,885	4,423
飛鳥資料館	総来館者数			100,825	84,608
	平常展	計		17,852	16,242
	平常展	有料	一般	7,528	7,546
	平常展	有料	高・大生	1,978	1,370
	平常展	無料	小・中生	4,140	2,943
	平常展	招待者等		4,206	4,383
	特別展	計		82,973	68,366
	特別展	有料	一般	34,381	28,520
	特別展	有料	高・大生	2,741	3,201
	特別展	無料	小・中生	14,534	13,866
	特別展	招待者等		31,317	22,779

施設	区分	種別	対象	21	22	23
国立文化財機構	総来館者数			5,156,358	3,392,243	3,356,159
	平常展	計		1,080,509	947,439	913,409
	平常展	有料	一般	320,974	344,070	293,323
	平常展	有料	大学生	33,061	34,579	27,778
	平常展	有料	小・中・高生	—	—	—
	平常展	有料	友の会	73,872	67,151	53,383
	平常展	無料	一般（黒田含む）	49,813	212,611	96,561
	平常展	無料	小・中・高生	163,663	156,236	173,323
	平常展	招待者等		439,126	132,792	269,041
	特別展	計		4,075,849	2,444,804	2,442,750
	特別展	有料	一般	2,885,476	1,459,486	1,585,799
	特別展	有料	高・大生	156,452	88,515	89,985
	特別展	有料	小・中生	69,774	48,563	24,501
	特別展	有料	友の会	53,074	47,012	40,845
	特別展	無料	小・中生・一般	56,155	198,991	95,130
	特別展	招待者等		854,918	602,237	606,490
東京国立博物館	総来館者数			2,416,281	1,082,269	1,756,590
	平常展	計（23年度：黒田含む）		330,536	373,068	324,597
	平常展	有料	一般	162,674	196,312	143,017
	平常展	有料	大学生	20,437	24,140	16,073
	平常展	有料	小・中・高生	—	—	—
	平常展	有料	友の会	64,816	58,496	44,388
	平常展	無料	高校生	13,499	17,570	13,861
	平常展	無料	小・中生	25,890	33,585	33,401
	平常展	招待者等		43,220	42,965	60,620
	平常展	黒田記念館（無料）				13,237
	特別展	計		2,085,745	709,201	1,431,993
	特別展	有料	一般	1,505,088	424,337	972,328
	特別展	有料	高・大生	78,355	24,169	52,296
	特別展	有料	小・中生	—	—	—
	特別展	有料	友の会	16,680	9,867	12,072
	特別展	無料	小・中生	42,065	15,301	31,888
	特別展	招待者等		443,557	235,527	363,409
京都国立博物館	総来館者数			452,920	331,131	239,767
	平常展	計		—	—	—
	平常展	有料	一般	—	—	—
	平常展	有料	大学生	—	—	—
	平常展	有料	小・中・高生	—	—	—
	平常展	有料	友の会	—	—	—
	平常展	無料	高校生	—	—	—
	平常展	無料	小・中生	—	—	—
	平常展	招待者等		—	—	—
	特別展	計		452,920	331,131	239,767
	特別展	有料	一般	276,754	205,194	140,395
	特別展	有料	高・大生	28,127	18,386	13,912
	特別展	有料	小・中生	7,297	3,856	2,375
	特別展	有料	友の会	11,529	10,953	10,719
	特別展	無料	小・中生	1,103	862	3,007
	特別展	招待者等		128,110	91,880	69,359
奈良国立博物館	総来館者数			560,293	649,878	469,463
	平常展	計		136,672	71,566	130,839
	平常展	有料	一般	53,033	36,436	56,747
	平常展	有料	大学生	5,391	2,417	4,578
	平常展	有料	小・中・高生	—	—	—
	平常展	有料	友の会	3,168	2,891	3,765
	平常展	無料	小・中・高生	38,825	15,293	40,864
	平常展	招待者等		36,255	14,529	24,885
	特別展	計		423,621	578,312	338,624
	特別展	有料	一般	315,128	428,121	243,704
	特別展	有料	高・大生	15,411	24,411	12,508
	特別展	有料	小・中生	13,824	19,106	9,380
	特別展	有料	友の会	11,131	15,358	9,417
	特別展	無料	小・中生	—	6,107	—
	特別展	招待者等		68,127	85,209	63,615
九州国立博物館	総来館者数			1,599,704	818,034	712,594
	平常展	計		544,661	274,545	358,366
	平常展	有料	一般	98,600	105,638	86,974
	平常展	有料	大学生	6,737	7,560	6,561
	平常展	有料	小・中・高生	—	—	—
	平常展	有料	友の会	5,888	5,764	5,230
	平常展	無料	高校生	27,907	35,990	28,625
	平常展	無料	小・中生	52,658	50,295	51,740
	平常展	招待者等		352,871	69,298	179,236
	特別展	計		1,055,043	543,489	354,228
	特別展	有料	一般	757,650	343,079	219,615
	特別展	有料	高・大生	32,892	19,068	10,570
	特別展	有料	小・中生	48,653	25,601	12,746
	特別展	有料	友の会	13,734	10,834	8,637
	特別展	招待者等		202,114	144,907	102,660
黒田記念館	総来館者数			20,345	18,458	（東京国立博物館平常展に含む）
	平常	計		20,345	18,458	
	平常	無料	一般	20,345	18,458	
平城宮跡資料館	総来館者数			25,127	354,346	132,295
	平常展	無料	一般	25,127	189,338	80,353
	特別展	無料	一般	—	165,008	51,942
藤原宮跡資料室	総来館者数			4,341	4,815	2,971
	平常	計		4,341	4,815	2,971
	平常	無料	一般	4,341	4,815	2,971
飛鳥資料館	総来館者数			77,347	133,312	42,479
	平常展	計		18,827	15,649	16,283
	平常展	有料	一般	6,667	5,684	6,585
	平常展	有料	大学生	496	462	566
	平常展	無料	小・中・高生	4,884	3,503	4,832
	平常展	招待者等		6,780	6,000	4,300
	特別展	計		58,520	117,663	26,196
	特別展	有料	一般	30,856	58,755	9,757
	特別展	有料	大学生	1,667	2,481	699
	特別展	無料	小・中・高生	12,987	11,713	8,293
	特別展	招待者等		13,010	44,714	7,447

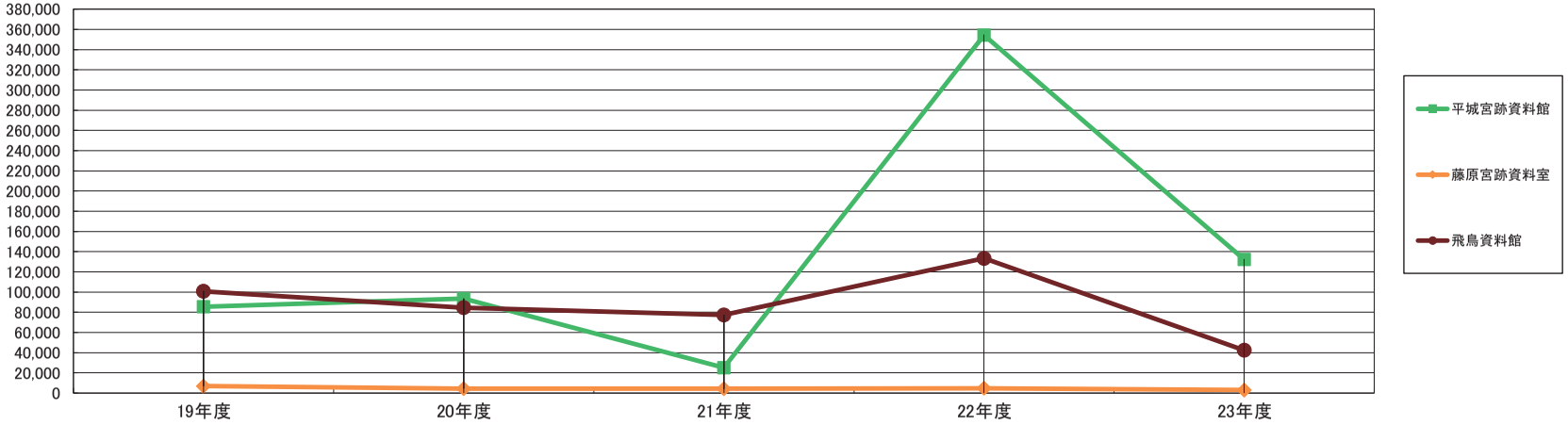
※21年度より、機構内全施設にて高校生以下平常展無料となった
※東京国立博物館パスポートによる特別展入場者数は、19年度まで友の会に含み、20年度より有料に含む
※21年度以降の飛鳥資料館特別展有料大学生入場者数は、春期特別展のみ高校生を含む

a-②　館者数推移（展覧会別）
1）国立博物館、国立文化財機構総合計



	19年度		20年度		21年度		22年度		23年度	
計	総　合　計	3,557,664	総　合　計	3,992,715	総　合　計	5,029,198	総　合　計	2,881,312	総　合　計	3,178,414
	平常展のみの来館者	971,995	平常展のみの来館者	908,912	平常展のみの来館者	1,011,869	平常展のみの来館者	719,179	平常展のみの来館者	813,802
	特別（共催）展計	2,585,669	特別（共催）展計	3,083,803	特別（共催）展計	4,017,329	特別（共催）展計	2,162,133	特別（共催）展計	2,364,612
東博	総　計	1,768,198	総　計	2,171,942	総　計	2,416,281	総　計	1,082,269	総計(黒田記念館含む)	1,756,590
	平常展のみの来館者	334,297	平常展のみの来館者	412,675	平常展のみの来館者	330,536	平常展のみの来館者	373,068	平常展のみの来館者(黒田記念館含む)	324,597
	特別（共催）展計	1,433,901	特別（共催）展計	1,759,267	特別（共催）展計	2,085,745	特別（共催）展計	709,201	特別（共催）展計	1,431,993
	特別展「レオナルド・ダ・ヴィンチ　天才の実像」	689,775	特別展「平城遷都1300年記念　国宝 薬師寺展」	742,910	特別展「STORY OF･･･」	115,568	特別展「細川家の至宝」	182,470	特別展「手塚治虫のブッダ展」	99,088
	特別展「京都五山　禅の文化」展	108,917	特別展「フランスが夢見た日本」	58,342	特別展「国宝　阿修羅展」	933,895	特別展「誕生！中国文明」	105,538	特別展「写楽」	229,625
	特別展「大徳川展」	425,492	特別展「対決－巨匠たちの日本美術」	326,784	特別展「染付－藍が彩るアジアの器」	52,731	特別展「東大寺大仏-天平の至宝-」	232,791	特別展「空海と密教美術」展	550,399
	特別展「宮廷のみやび―近衛家1000年の名宝」	157,718	特別展「スリランカ-輝く島の美に出会う-」	80,865	特別展「伊勢神宮と神々の美術」	114,796	特別展「仏教伝来の道　平山郁夫と文化財保護」	188,402	特別展「孫文と梅屋庄吉―100年前の中国と日本」	28,780
	特別展「平城遷都1300年記念　国宝 薬師寺展」	51,999	特別展「大琳派展－継承と変奏－」	308,213	特別展「皇室の名宝―日本美の華」	447,944			特別展「法然と親鸞　ゆかりの名宝」	212,150
			特別展「未来をひらく福澤諭吉」展	73,128	特別展「国宝　土偶展」	128,285			特別展「北京故宮博物院200選」	258,252
			特別展「妙心寺」	151,833	特別展「長谷川等伯展」	292,526			特別展「ボストン美術館 日本美術の至宝」	53,699
			特別展「STORY OF･･･」	4,915						
			特別展「国宝　阿修羅展」	12,277						
黒田記念館									総　計	13,237
									平常展のみの来館者	13,237
									特別（共催）展計	0
京博	総　計	492,414	総　計	416,001	総　計	452,920	総　計	331,131	総　計	239,767
	平常展のみの来館者	165,080	平常展のみの来館者	141,965	平常展のみの来館者	0	平常展のみの来館者	0	平常展のみの来館者	0
	特別（共催）展計	327,334	特別（共催）展計	274,036	特別（共催）展計	452,920	特別（共催）展計	331,131	特別（共催）展計	239,767
	特別展「藤原道長　－極めた栄華・願った浄土－」	37,411	特別展「絵画の冒険者　暁斎 kyosai」	76,686	特別展「開山無相大師650 年遠諱記念 妙心寺」	92,144	特別展「没後400年　長谷川等伯」	244,347	特別展「法然－生涯と美術－」	84,682
	特別展「狩野永徳」	230,656	特別展「japan 蒔絵－宮殿を飾る 東洋の煌めき－」	67,050	特別展「シルクロード 文字を辿って」	25,511	特別展観「没後200年記念　上田秋成」	21,705	特別展「百獣の楽園－美術にすむ動物たち－」	35,259
	特別展「憧れのヨーロッパ陶磁」	59,267	特別展「御即位二十年記念 京都御所ゆかりの至宝」	116,363	特別展「日蓮と法華の名宝－華ひらく京都町衆文化－」	88,187	特別展「高僧と袈裟-ころもを伝え こころを繋ぐ-」	19,297	特別展「細川家の至宝～珠玉の永青文庫コレクション」	106,536
			特別展「妙心寺」	13,937	特別展「THE ハプスブルク」	247,078	特別展「筆墨精神　中国書画の世界」	37,535	特別展「中国近代絵画と日本」	13,290
							特別展「法然-生涯と美術-」	8,247		
奈良博	総　計	442,914	総　計	647,854	総　計	560,293	総　計	649,878	総　計	469,463
	平常展のみの来館者	131,336	平常展のみの来館者	112,849	平常展のみの来館者	136,672	平常展のみの来館者	71,566	平常展のみの来館者	130,839
	特別（共催）展計	311,578	特別（共催）展計	535,005	特別（共催）展計	423,621	特別（共催）展計	578,312	特別（共催）展計	338,624
	特別展「神仏習合」	40,493	特別展「天馬 －シルクロードを翔ける夢の馬－	31,910	特別展「国宝 鑑真和上展」	93,779	特別展「大遣唐使展」	202,166	特別展「誕生！中国文明」	35,679
	特別展「美麗　院政期の絵画」	22,696	特別展「国宝　法隆寺金堂展」	132,919	特別展「聖地寧波」	30,548	特別展「仏像修理100年」「至宝の仏像 東大寺法華堂金剛力士像特別公開」	81,342	特別展「天竺へ～ 三蔵法師3万キロの旅」	63,364
	特別展「第59回正倉院展」	248,389	特別展「西国三十三所-観音霊場の祈りと美」	106,411	特別展「第61回正倉院展」	299,294	特別展「第62回正倉院展」	294,804	特別展「第63回正倉院展」	239,581
			特別展「第60回正倉院展」	263,765						
九博	総　計	854,138	総　計	756,918	総　計	1,599,704	総　計	818,034	総　計	712,594
	平常展のみの来館者	341,282	平常展のみの来館者	241,423	平常展のみの来館者	544,661	平常展のみの来館者	274,545	平常展のみの来館者	358,366
	特別（共催）展計	512,856	特別（共催）展計	515,495	特別（共催）展計	1,055,043	特別（共催）展計	543,489	特別（共催）展計	354,228
	特別展「未来への贈りもの」	77,380	特別展「国宝 大絵巻展」	115,740	特別展「聖地チベット ポタラ宮と天空の至宝」	140,917	特別展「パリに咲いた古伊万里の華」	84,738	特別展「黄檗－OBAKU」	46,530
	特別展「日本のやきもの 曰選び抜かれた名宝120点」	50,986	特別展「島津の国宝と篤姫の時代」	152,420	特別展「国宝 阿修羅展」	711,154	特別展「馬　アジアを駆けた二千年」	42,022	特別展「よみがえる国宝―守り伝える日本の美」	118,528
	特別展「本願寺展－親鸞と仏教伝来の道」	197,697	特別展「国宝　天神さま」	174,698	特別展「古代九州の国宝」展	72,741	特別展「誕生！中国文明」	53,409	特別展「草原の王朝　契丹 － 美しき3人のプリンセス」	75,880
	特別展「京都五山　禅の文化」展	171,336	特別展「工芸のいま 伝統と創造」	72,637	特別展「京都妙心寺－禅の至宝と九州・琉球」	130,231	特別展「没後120年　ゴッホ展」	354,311	特別展「細川家の至宝－珠玉の永青文庫コレクション」	113,290
	特別展「国宝 大絵巻展」	15,457					特別展「黄檗－OBAKU」	9,009		

2) 研究成果公開施設



	19年度		20年度		21年度		22年度		23年度	
計	**総　合　計**	**206,903**	**総　合　計**	**200,666**	**総　合　計**	**127,160**	**総　合　計**	**510,931**	**総　合　計**	**177,745**
	平常展のみの来館者	**123,930**	**平常展のみの来館者**	**132,300**	**平常展のみの来館者**	**68,640**	**平常展のみの来館者**	**228,260**	**平常展のみの来館者**	**99,607**
	特別(共催)展計	**82,973**	**特別(共催)展計**	**68,366**	**特別(共催)展計**	**58,520**	**特別(共催)展計**	**282,671**	**特別(共催)展計**	**78,138**
黒田記念館	総　計	13,707	総　計	19,038	総　計	20,345	総　計	18,458	(23年度より東京国立博物館に含めて記載)	
	平常展のみの来館者	13,707	平常展のみの来館者	19,038	平常展のみの来館者	20,345	平常展のみの来館者	18,458		
	特別(共催)展計		特別(共催)展計		特別(共催)展計		特別(共催)展計			
平城宮跡資料館	総　計	85,486	総　計	92,597	総　計	25,127	総　計	354,346	総　計	132,295
	平常展のみの来館者	85,486	平常展のみの来館者	92,597	平常展のみの来館者	25,127	平常展のみの来館者	189,338	平常展のみの来館者	80,353
	特別(共催)展計		特別(共催)展計		特別(共催)展計		特別(共催)展計	165,008	特別(共催)展計	51,942
							企画展「平城宮跡 今・昔－岡田庄三写真展－」	38,443	企画展「発掘速報展 平城 2009・2010」	24,238
							特別展「天平びとの声をきく-地下の正倉院・平城宮木簡のすべて-」	92,394	企画展「地下の正倉院展－コトバと木簡」	20,120
							企画展「測る、知る、伝える　－平城京と文化財－」	20,282	企画展「発掘速報展　平城2011/文化財レスキュー展」	7,584
							企画展「発掘速報展2009・2010」	13,889		
藤原宮跡資料室	総　計	6,885	総　計	4,423	総　計	4,341	総　計	4,815	総　計	2,971
	平常展のみの来館者	6,885	平常展のみの来館者	4,423	平常展のみの来館者	4,341	平常展のみの来館者	4,815	平常展のみの来館者	2,971
	特別(共催)展計		特別(共催)展計		特別(共催)展計		特別(共催)展計		特別(共催)展計	
飛鳥資料館	総　計	100,825	総　計	84,608	総　計	77,347	総　計	133,312	総　計	42,479
	平常展のみの来館者	17,852	平常展のみの来館者	16,242	平常展のみの来館者	18,827	平常展のみの来館者	15,649	平常展のみの来館者	16,283
	特別(共催)展計	82,973	特別(共催)展計	68,366	特別(共催)展計	58,520	特別(共催)展計	117,663	特別(共催)展計	26,196
	特別展「キトラ古墳壁画四神玄武」	67,007	特別展「キトラ古墳壁画十二支－子・丑・寅－」	51,471	特別展「キトラ古墳壁画四神－青龍・白虎－」	41,242	特別展「キトラ古墳壁画四神」	100,307	特別展「星々と日月の考古学」	10,679
	企画展「「とき」を撮す－発掘調査と写真－」	3,344	企画展「飛鳥　古寺巡礼」	3,658	企画展「甦るクメール文明」	3,824	企画展「小さな石器の大きな物語」	5,435	企画展「鋳造技術の考古学」	3,047
	特別展「奇偉荘厳　山田寺」	9,342	特別展「まぼろしの唐代精華」	11,695	特別展「三燕文化の考古新発見」	11,006	特別展「木簡黎明―飛鳥に集ういにしえの文字たち」	10,140	特別展「飛鳥遺珍」	10,454
	速報展「飛鳥の考古学2007」	1,589	企画展「飛鳥の考古学2008」	1,542	企画展「飛鳥の考古学2009」	2,448	企画展「飛鳥の考古学2010」	1,781	企画展「飛鳥の考古学2011」	2,016
	企画展「絵で見る考古学－早川和子原画展」	1,691								

a-③ 入場料収入

（単位：円）

	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度
国立文化財機構　計	1,081,301,672	1,159,630,962	1,323,819,776	891,598,757	808,397,161
東京国立博物館	514,039,330	611,637,800	662,347,500	268,900,600	428,268,290
京都国立博物館	130,218,030	126,305,930	111,512,790	93,829,670	71,429,440
奈良国立博物館	228,339,500	265,576,036	267,397,290	355,735,620	213,777,640
九州国立博物館	182,000,762	134,177,251	262,889,871	131,683,367	90,862,831
飛鳥資料館	24,975,310	20,121,140	18,006,130	41,449,500	4,058,960
東京文化財研究所黒田作品共催展	1,728,740	1,812,805	1,666,195	0	0

a-④ 平常展・特別展・海外展

【東京国立博物館】

(1) 総合文化展（平常展）

1)開館期間　4月1日～24年3月31日(314日間)　　平常展のみの開館日数　106日間

2)会　　場

①本　館　1階、2階
②東洋館　1階、2階、3階、4階、5階（耐震改修のため休館中）
③表慶館　1階（東日本大震災後の安全確認のため4月30日まで休館、12月26日以降東洋館展示準備のため休館）
④法隆寺宝物館　1階、2階（東日本大震災後の安全確認のため4月30日まで休館）
⑤平成館　1階
⑥黒田記念館　2階（東日本大震災後の安全確認のため4月30日まで休館、夏期の節電のため6月30日～10月8日休館）

3)陳列品総件数　7,394件(うち国宝189件、重要文化財842件)
①本館・平成館企画展示室　4,674件(うち国宝119件、重要文化財466件)
②東洋館　0件(うち国宝 0件、重要文化財　0件)
③表慶館　326件(うち国宝 0件、重要文化財　8件)
④法隆寺宝物館　383件(うち国宝14件、重要文化財210件)
⑤平成館考古展示室　1,894件(うち国宝56件、重要文化財154件)
⑥黒田記念館　117件(うち国宝 0件、重要文化財　4件)

4)陳列替件数　4,914件　・　陳列替回数　延べ304回

5)入場料金
黒田記念館以外　一般600円、大学生400円
黒田記念館　無料

6)特集陳列　全32件
●国宝　◎重要文化財　○重要美術品

場所	テーマ	開催期間	陳列件数(国宝・重文)
本館1階 15室	アイヌの文様	23年1月2日(日)～4月3日(日)	42(0.0)
	＜主な作品＞盆、アットゥシ、頭巾、丸盆、飾矢筒		
	「アイヌの文様」をテーマとして展示した。アイヌ民族の代表的な文様であるモレウとよばれる渦巻き文を中心に、祭具や衣服、工具や木工品などに施された多彩な飾りや文様を紹介した。アイヌ民族のものだけでなく、樺太ニブヒやウィルタの人びとがつくりだした文様についても紹介した。『蝦夷島奇観』等の写真パネルを多く用いて、展示品の使用された場面がより具体的にイメージできるよう工夫した。		
本館1階 14室	おひなさまと日本の人形	23年2月22日(火)～4月24日(日)	65(0.0)
	＜主な作品＞箪笥 紫檀象牙細工蒔絵雛道具、立雛 次郎左衛門頭、雛道具 三ツ葉葵紋付		
	三月三日の桃の節句にちなみ、毎年恒例の雛飾りの特集を行った。今回は古今雛や、大名家に伝わった雛道具のほか、京都の伝統工芸である御所人形や衣装人形、各地の特色豊かな郷土雛を特集して展示した。		
本館1階 12室	漆芸にみる桜	23年3月29日（火）～6月5日(日)	18(0.2)
	＜主な作品＞◎初瀬山蒔絵硯箱、◎比良山蒔絵硯箱、桜西行蒔絵硯箱、吉野山蒔絵見台		
	古来、わが国の人々にもっとも親しまれてきた花の一つである、桜を主題にした漆芸品を集めて陳列した。様々な用途・形式の作品に、様々な技法によって表わされた桜の意匠を通して、日本人がいかに桜を愛でてきたかをご覧いただいた。		
本館1階 16室	シリーズ「歴史を伝える」 キリシタンの祈り-ミサとオラショ	23年3月29日（火）～4月24日(日)	54(0.36)
	＜主な作品＞◎天正遣欧使節記、◎聖母像(親指のマリア)、祈祷書		
	16世紀後半、日本はキリスト教を受容し、南蛮寺と呼ばれた教会などが各地に造られ、祈りが捧げられた。そこではヨーロッパからもたらされた楽器により教会の音楽が奏でられていたことが、当時の楽譜である『サカラメンタ提要』、ヨーロッパで喝采を浴びた日本の少年たちの演奏を記録した『天正遣欧使節記』から知られる。キリスト教禁制の後、潜伏して隠れキリシタンとなった人々の間に伝わった『祈祷書』は、ラテン語の祈りの言葉を平仮名で記したものであるが、研究によりその旋律がわかっている。今回の展示は、これら祈りの場に流れた音楽を取り上げ、受容期の南蛮寺の祭壇に置かれたキリスト像、聖母子図、そして禁制下のキリシタンたちの祈りの対象であるマリア観音像など礼拝と信仰に焦点をあてて展示した。		
本館2階 特別2室	南太平洋の暮らしと祈り	23年3月29日（火）～4月24日(日)	44(0.0)
	＜主な作品＞仮面、ワニ、クジラの歯のペンダント、ココナッツジュース容器		
	東京国立博物館には、おもに19世紀後半から20世紀初頭にかけて、南太平洋の島々から将来された約500件の民族資料が所蔵されている。当時の南太平洋では、伝統的な暮らしと信仰が近代文明の影響を受けて急激に変わりつつあった。そのため、収蔵品のなかには、すでに現地では見られなくなったものもある。本特集陳列では、当館所蔵の貴重な南太平洋民族資料のなかから、伝統的な暮らしや宗教儀礼にかかわる代表的なものを展示することで、日本に隣接していながらあまり知られていない南太平洋の文化の魅力を紹介した。		
平成館 企画展示室	拓本とその流転	23年3月29日（火）～5月15日(日)	41(0.0)
	＜主な作品＞孔子廟堂碑、孟法師碑、善才寺碑、定武蘭亭序(独孤本)、西嶽華山廟碑(順徳本)、夏承碑、天発神讖碑、定武蘭亭		

	序(韓珠船本)、十七帖（上野本）		
	毎年開催している台東区立書道博物館との連携企画として、今年度は中国の拓本を取り上げた。現存する最古の拓本は、敦煌の蔵経洞で発見された唐時代の温泉銘であるが、拓本の起源はそれ以前に遡ると考えられる。しかし唐時代の拓本は、ごく僅かの遺例しかない。宋時代には、上質の紙や墨の製造にともない拓本の技法も多様化し、精緻な拓本は収蔵家の垂涎の的となった。本展は名拓の数々とともに、拓本のたどった流転にも目をむけ、さまざまなエピソードを交えながら、唐拓や宋拓をはじめとする拓本の魅力を紹介した。		
平成館 考古展示室	古墳時代の人々―人物埴輪の表情と所作―	23年3月29日（火）～7月31日(日)	28(0.0)
	＜主な作品＞埴輪 あごひげの男子頭部、埴輪 笠を被る男子頭部、埴輪 琴を弾く男子、埴輪 頭部に箱を載せる女子、埴輪 袈裟状衣の女子		
	東京国立博物館には多数の人物埴輪が収蔵されているが、完全な形として残っているものは少ない。ただし、一部が欠落しているものの造形的に極めて優れたものもある。そこで、本特集陳列では人物埴輪の様ざまな表情や所作がわかる資料を中心にして、古墳時代の人々の姿にせまった。		
本館2階 特別1室・2室	平成23年新指定重要文化財	23年4月26日(火)～5月8日(日)	39(0.39)
	＜主な作品＞◎母子　上村松園筆、◎善導大師立像		
	平成23年（2011）に新たに指定された39件の重要文化財（絵画部門5件、彫刻部門4件、工芸部門6件、書跡・典籍部門6件、古文書部門5件、考古資料部門8件、歴史資料部門5件）を展示した。		
本館1階 14室	和鏡―鏡に表された文様の雅	23年4月26日(火)～7月10日(日)	35(0.3)
	＜主な作品＞瑞花狻猊方鏡、◎瑞花双鳳八稜鏡、◎松喰鶴長方鏡、桐竹文鏡		
	古来鏡は青銅製であり、その鏡背にはさまざまな文様が表わされた。日本では弥生時代に大陸から銅鏡がもたらされ、古墳時代から奈良時代にはそうした舶載鏡の模倣が行われた。平安時代以降は日本独自の文様や形式が展開し、以後江戸時代まで続いたが、これらを総称して和鏡と呼んでいる。ここでは中国鏡を模倣した奈良時代の唐式鏡からはじめて、平安～江戸時代までの和鏡を展示し、その形式的変遷や多彩な文様表現をご覧いただいた。		
本館2階 特別１室	平成22年度新収品展	23年5月17日(火)～6月26日(日)	26(0.1)
	＜主な作品＞◎刀、一休宗純墨跡 七言絶句「峯松」		
	平成22年度に新たに収蔵品に加わった、購入4件、寄贈24件、計28件のうち、高円宮コレクション（高円宮コレクション室にて展示）以外の26件の文化財を陳列した。新収品を通じ、文化財の収集という当館の事業の一端をご理解いただいた。		
平成館 企画展示室	よみがえるヤマトの王墓　―東大寺山古墳と謎の 鉄刀―	23年6月7日(火)～8月28日(日)	93(0.53)
	＜主な作品＞◎金象嵌銘花形飾環頭大刀、対置式神獣鏡、◎家形飾環頭大刀 、模造 家屋文鏡、◎勾玉、◎鍬形石、◎石製台付坩、◎銅鏃、◎巴形銅器、◎短甲・草摺、◎素環頭大刀、鰭付朝顔形円筒埴輪、◎靫形埴輪残片、素環頭大刀、素環頭大刀、◎埴輪 子持家		
	東大寺山古墳は奈良県天理市に位置する全長130mの前方後円墳である。昭和36～37年（1961～1962）の発掘調査で多量の碧玉製腕飾類等が出土し、大刀の１本に金象嵌で「中平□□五月丙午造作文刀百練清剛上応星宿下避不祥」の24文字が刻まれていたことで著名である。しかし、他にも最多の出土量を誇る鍬形石のほか、大量の石製品や刀剣類などが出土し、初期大和王権中枢の様相を物語るきわめて重要な古墳である。平成19～21年度に行なった天理大学との共同調査の成果を踏まえ、出土資料の全貌を関連資料を交えて公開することを目的とした。		
本館1階 14室	運慶とその周辺の仏像	23年7月12日(火)～10月2日(日)	15(0.8)
	＜主な作品＞◎大日如来坐像、十二神将立像 巳神、◎十二神将立像 戌神、◎大日如来坐像		
	運慶作の可能性が高い栃木・光得寺と真如苑の大日如来坐像と、運慶の作風に近い仏像、運慶の孫康円の作品を展示した。		
本館2階 特別2室	親と子のギャラリー「博物館できもだめしー妖怪、 化け物　大集合ー」	23年7月20日(水)～8月28日(日)	34(0.0)
	＜主な作品＞上方震下り瓢磐鯰の化物、三彩狸炉蓋、百物語化物屋敷の圖　林屋正蔵工夫の怪談		
	妖怪、物の怪、鬼等に関連した展示。怪談は老若男女に人気があるテーマであり、日本美術に親しむ入口として適している。しかも、日本の妖怪、物の怪は民間伝承と深く関わり根底には自然崇拝、アミニズム観に通じることから、奥の深い存在で研究対象に充分値する。「怪」をひとつの伝統文化として捉え、見た目の怪奇さだけではなくそれらが生まれた背景にある信仰、環境も伝える展示をした。		
平成館 考古展示室	石に魅せられた先史時代の人びと	23年8月2日(火)～10月30日(日)	126(0.0)
	＜主な作品＞ナイフ形石器、石鏃、石鋸、片刃石斧、両尖匕首、石棒、青龍刀形石器、磨製石鏃、磨製石鏃、有角石斧、模造 石鏃		
	人間はさまざまな道具をつくり、より豊かで便利な生活を求めてきた。その道具の歴史の基礎を支えてきたのは石の道具であった。本展では旧石器時代から弥生時代のさまざまな石器をとりあげ、日本における石器研究のはじまりやその素材と製作工程等も視野に入れ、石器とそこに暮らす人々の生活実態に迫った。また、近来報告がなされた長野県諏訪湖底曽根遺跡から採集された資料を取り上げ、その石器研究に邁進した石器研究者の「物語」もあわせて紹介した。		
本館2階 9室	室町時代の舞楽	23年8月9日(火)～10月10日(月)	28(0.6)
	＜主な作品＞◎半臂 紺地亀甲花菱模様、◎裲襠 紺地牡丹二重唐草模様金襴		
	当館所蔵の天野社伝来の舞楽面、舞楽装束、天冠のほか、伝来は不明であるが、珍しい室町時代の和錦で製作された括り袴、大内家に伝来したと伝えられる大内菱文金襴の裲襠などを展示した。また、長らく公開されてこなかった旧鐘紡コレクションの天野社伝来舞楽装束（重要文化財　5件）を併せて展示することにより、縫い締め絞り・摺絵・板締・錦・刺し繍など、室町時代特有のさまざまな染織技法を紹介し、現代に遺された伝統とは異なる、中世的な舞楽の意匠表現に迫った。		

本館 特別1室	古写経の世界	23年9月6日(火)～10月16日(日)	16(1.3)
	＜主な作品＞●法華経 方便品（竹生島経）、◎金光明経 巻第二･第四 断簡　（目無経）		
	古来、仏教経典を書写することは大きな功徳があると考えられてきた。日本でも仏教の伝来以降、時代や社会的な地位を問わず多くの人々によって経典の書写が行われてきた。当館所蔵の古写経を網羅した『東京国立博物館図版目録古写経篇』が刊行されたことを機に、奈良時代以降の古写経の優品を集め、その美しさと書写にかけた信仰をうかがった。		
平成館 企画展示室	呉昌碩の書・画・印	23年9月13日(火)～11月6日(日)	32(0.0)
	＜主な作品＞荷花図、篆書般若心経十二屏、墨梅自寿図、臨石鼓文軸、行書詩翰軸、斉雲館印譜、缶廬印存		
	清時代の末期から民国の初期にかけて、書・画・印に妙腕をふるった呉昌碩(1844～1927)は、清王朝300年の掉尾を飾る文人として知られている。初名を俊、のちに俊卿といい、民国元年(1912)から昌碩と改めた。56歳のとき、安東県(江蘇省)の知事となるものの、一ヶ月で辞職し、生涯を在野で過ごした。呉昌碩は、終生にわたって石鼓文の臨書に励み、その風韻を書・画・印に結実させた。日本人との交流も深く、日本に現存する呉昌碩の書画や尺牘から、その一端を窺うことができる。本展では、呉昌碩の若き模索時代から円熟した最晩年までの作品を、年代ごとに紹介するとともに、日本人との交流を示す貴重な資料もあわせて公開した。台東区立書道博物館との連携企画第9弾。		
本館1階 14室	陶片の美	23年10月4日(火)～12月4日(日)	4(0.0)
	＜主な作品＞肥前窯址出土陶片、御室窯址出土陶片、越州窯址出土陶片、南宋官窯址出土陶片		
	当館には数箇所の窯址出土陶片が収蔵されているが、展示で公開される機会はほとんどない。窯址出土の陶片は、産地の同定、技術の解明などの基準となる資料であり、近代的な陶磁史研究は古窯址の調査とともに進展したといっても過言ではない。また、学史的な意義とともに、破片とはいえ製作当初の色や艶、文様を残しており、陶片の美そのものが鑑賞の対象となる。当館所蔵の窯址出土陶片を展示し、陶片の見方や魅力、その価値などを紹介した。		
本館1階 16室	東叡山寛永寺	23年10月12日(水)～11月12日(日)	24(0.1)
	＜主な作品＞霜月会定書、◎天海版木活字、砲弾		
	東叡山寛永寺は、江戸城の鬼門を守るために寛永二年（1625）慈眼大師天海が創建した。住職には代々親王が就任し、門跡寺院として「輪王寺宮」と称された。上野の山全域に広大な寺地を占め格式を誇ったが、一方で江戸の住民には折々の行楽地でもあった。幕末の彰義隊の戦いで本坊をはじめ多くの建物を焼失し、維新後、境内の大半は上野公園となったが、天台の法灯を維持して今日に至っている。江戸時代の寛永寺の創建と繁栄、名所としての賑わいなどをしのぶ特集を行った。		
本館2階 特別2室	板谷家の絵画とその下絵	23年10月25日(火)～12月4日(日)	29(0.0)
	＜主な作品＞住吉広守・住吉広行・板谷広当像、毘沙門天像、安永二年被召出候一件、図案下絵切抜帳		
	公開に向けて整理を進めてきた平成21年度寄贈の「板谷家伝来資料」から、今後の研究のトピックスとなる絵画資料、古文書、館蔵品から住吉派・板谷家による作品（本画）を紹介した。本画と下絵の比較、印章の紹介、また伝来資料等から知りえた板谷家系図を提示した。江戸時代御用絵師板谷家の作画活動について来館者が臨場感をもって理解できるように構成した。		
平成館 考古展示室	古墳時代の神マツリ	23年11月1日(火)～3月11日(日)	121(0.0)
	＜主な作品＞石釧残欠、銅鏃、子持勾玉、滑石製槽形品、滑石製盾、鐸形土製品、鈴鏡形土製品、勾玉形土製品、手捏土器、子持勾玉		
	古墳時代の祭祀遺跡は交通の難所である峠や岬、離島などに多くみられる。これらは『風土記』などにみえる神を我々の祖先が恐れ敬ってきたことを示すが、『延喜式』等の国家的祭祀の神統譜に編制される以前の神の姿を伝えるものとして貴重である。臨海の安房地方や山に囲まれた信濃地方の祭祀遺跡出土品を中心に、奈良時代以前の多様な神マツリの姿とその変遷を紹介した。		
平成館 企画展示室	信濃の赤い土器	23年11月22日(火)～24年2月12日(日)	157(0.0)
	＜主な作品＞鉢、高杯、壺、筒形土器、ベンガラ素材、ベンガラ精製用台石・磨石、ベンガラ塗土器棺、高坏、壺、壺、壺		
	長野県の北部地域には、弥生時代中期後半から後期にかけて、鮮やかな赤で飾られた独特の土器が発達する。今回の考古資料相互活用促進事業では、長野県立歴史館より長野市松原遺跡・篠ノ井遺跡群から出土したこの地域の「赤い土器」の代表とも言える資料やその「赤」を生み出すベンガラおよびそれをすりつぶす道具などをまとめて拝借することができた。本特集陳列では、これらの資料に当館所蔵の当該地域の土器・石器ならびに同時期の「東海の赤い土器」、「北部九州の赤い土器」を展示し、それぞれを比較することで「信濃の赤い土器」のもつ意味を考え、あわせて「赤」に込められた当時の人びとの思いを考察した。		
本館1階 14室	日本の仮面	23年12月6日(火)～24年2月5日(日)	29(0.6)
	＜主な作品＞土面、◎舞楽面　崑崙八仙、行道面　五部浄居天、追儺面　鬼、能面　万媚、狂言面　狐		
	縄文時代の土面、古代から中世の舞楽面、行道面、中世から近世の能面、狂言面という日本の多彩な仮面を展示した。		
本館1階 18室	浅井忠の日本風景―高野コレクション	24年1月2日(月)～2月19日(日)	6(0.1)
	＜主な作品＞聖護院の庭、◎春畝		
	実業家高野時次氏の蒐集による、明治の洋画家浅井忠の作品は、油彩画11点、水彩・デッサン56点、掛軸6点の計73点におよび、浅井の円熟した画技を示す滞欧期の水彩画を多く含んでいる。高野コレクションは、この浅井作品全73点が、昭和60年(1985)に氏のご遺志によりご遺族の方々から当館に一括寄贈されたものである。　今回の特集陳列は重要文化財「春畝」とともに、高野コレクションのうち浅井が留学から帰国した後、京都に移住してから描いた日本の風景作品5点を展示する。この特集によって、欧州留学をはさんだ浅井がどのように日本の情景を表現したのかを探り、あわせて浅井作品の魅力を堪能していただく。		
本館2階 特別1･2室	天翔ける龍	24年1月2日(月)～1月29日(日)	77(2.8)
	＜主な作品＞●龍文帯金具、◎龍濤螺鈿稜花盆、●十六羅漢像（第十四尊者）、龍図屏風 龍虎図屏風のうち、陣羽織 猩々緋羅紗地応龍波濤模様、自在置物　龍		

	開館140年を記念して開催する特集陳列の第1弾。平成24年の干支、辰にちなみ、当館が所蔵する龍に関わる日本・中国・朝鮮半島の作品を集めて展示した。龍は干支の中で唯一架空の動物である。中国商時代の青銅器や玉器に表わされた姿は蛇に似た長い体、足があり、短い羽、角を持つ。漢時代には鱗や鰭なども表現され、現在の龍の形が完成した。龍は古墳の壁画で東の壁に青龍として描かれ、西の白虎、すなわち虎とは龍虎として組み合わせて表わされることが多い。また、龍は鳳凰、麒麟、龜とともに四霊として、尊ばれた。雲を呼ぶと言い、雨、水に関係が深い。水神として祀られ、祈雨、止雨、航海の安全などを祈る対象でもあった。中国では特に五爪の龍は皇帝の象徴であった。そのため、宮廷で使用する器物には五爪の龍が表わされた。虎に匹敵する強さと考えられたことから、武将が身につける刀、兜、陣羽織などに龍が表わされた。このように十二支の中でも際立って造形化されることの多い龍の作品を集めた展示であった。		
本館1階 14室	おひなさまと日本の人形	24年2月7日(火)～3月4日(日)	51(0.0)
	＜主な作品＞古今雛、台付きからくり 輪舞人形		
	三月三日の桃の節供にちなみ、毎年恒例となった雛飾り。今年度は図録刊行記念(予定) ということで、紙雛、室町雛、享保雛、といった町雛の歴史を紹介するほか、大名家や公家に伝わった雛道具、京都の伝統工芸である嵯峨人形・御所人形・衣装人形、機巧人形のような技巧を凝らした人形など、当館の優品を紹介した。		
本館2階 特別1・2室	江戸時代の地図	24年2月14日(火)～3月25日(日)	21(0.9)
	＜主な作品＞坤輿万国全図屏風、◎日光道中分間延絵図 千住、総泉寺、草加、越谷、大相模不動、		
	地図は自分の住む空間を認識する道具であるとともに、未知の世界をうかがう窓口ともなる。江戸時代は日本列島の姿が次第に正確に捉えられるとともに、ヨーロッパ諸国との接触が始まり、世界のありさまも地図を通じて知られるようになった。この特集では16世紀末から幕末までに日本に制作されたり、伝来したりした地図を一堂に集め、日本と世界の見方の変遷をたどった。		
本館1階 18室	黒田清輝ー作品に見る「憩い」の情景	24年2月21日(火)～4月1日(日)	27(0.2)
	＜主な作品＞◎舞妓、◎湖畔		
	フランスでサロンの画家ラファエル・コランに師事し、アカデミックな絵画教育を受けた黒田は、当時のフランス画壇の価値観を受け継ぎ、抽象的な概念を人物群像によって表現する大画面のコンポジションを画家の本業と位置づけていた。そうした作品の主題として、黒田が画業の初期から晩年まで大切にしていたのが「労働」と「休息」の主題である。滞欧期の作品としては、窓辺で読書をする女性を描いて、初めてのサロン入選作となった≪読書≫（1891年）、1892 年のサロン出品を目指して構想し、水辺で遊ぶ女性群像を描いた≪夏図≫などがその例として挙げられる。帰国後も、ピュヴィス・ド・シャヴァンヌの≪休息≫図の構図を意識した大作≪昔語り≫（1898年）（焼失）をはじめ、人々が語らう、遊ぶ、眠るといった憩いの情景を黒田は好んで描いている。平成20年度の特集陳列「田園（農村）へのまなざし」は、黒田が田園とそこでの「労働」を描いた作品を鑑賞する機会として企画したが、本展示では黒田にとってもうひとつの重要な主題であった「休息」を絵画化した作品を集め、絵画が醸す憩いを鑑賞者に届ける空間とした。		
平成館 企画展示室	東京国立博物館コレクションの保存と修理	24年2月21日(火)～4月1日(日)	15(0.0)
	＜主な作品＞〇柳橋水車図屏風、小袖 白綸子地桐樹模様、埴輪 靫、ヴィシュヌ立像		
	東京国立博物館が手がける保存と修理の成果を、よりわかりやすく紹介するため、平成22年度に修理が完了した作品を中心に展示した。絵画、書跡、工芸、考古にわたるさまざまな分野、形態、技法の作品を取り上げ、修理工程および修理過程で得られた情報をパネルにて詳細に紹介することにより、博物館が担う文化財修理の役割に広い理解を期待した。		
本館1階 14室	酒宴のうつわ	24年3月6日(火)～5月13日(日)	33(0.0)
	＜主な作品＞色絵祥瑞文瓢形徳利、黄釉酒呑、古染付捻文杯		
	古くから飲酒の習慣は日常の愉しみの一つであり、そのなかではさまざまな酒器が用いられてきた。酒器には、形のユニークなもの、華やかなもの、侘びたものなど多様な趣があり、それらは酒宴の席に彩を加え、愛好家を楽しませてきた。本展示では、当館が所蔵する陶磁の酒器を一堂に会した。酒器類のなかでも群を抜いて数が多い徳利を中心に、銚子、盃、猪口、酒呑と宴席を彩るうつわを紹介しながら、多様性に富んだ意匠を目で「味わい」ながら鑑賞していただいた。		
本館1階 16室	博物館の創始者・蜷川式胤の文化財保護	24年3月27日(火)～5月20日(日)	40(0.16)
	＜主な作品＞古今珎物集覧、◎旧江戸城写真帖、◎壬申検査社寺宝物図集;第12		
	蜷川式胤は東寺の公人の家に生まれ、幕末は独自の文化財調査活動を行っていた。明治に入り、政府に雇われて上京、制度局につとめた後に博物館の創立に関わった。蜷川が寄贈・制作した作品の中には、重文「壬申検査社寺宝物図集」や重文「旧江戸城写真帖」など、蜷川及び博物館の文化財保護活動を示す資料がたくさん含まれている。蜷川が収集した作品や資料から、文化財保護に関連するものを中心に展示することで、蜷川式胤の事蹟を顕彰するとともに、当館が創立当時から文化財保護活動に深く関わってきたことをご紹介した。		
本館2階 特別1室	小袖・振袖図―明治四十四年特別展覧会の記録―	24年3月27日(火)～4月22日(日)	24(0.1)
	＜主な作品＞振袖模写図（前面） 黒紅綸子地梅樹模様、振袖模写図 白綸子地若竹模様、◎振袖 黒綸子地梅樹模様		
	東博140周年を記念して、約100年前の帝室博物館における博物館活動の一面を紹介する。当館には、江戸時代の小袖や振袖、帯を実物大で描いた模写図、37件が保管される。これらは明治四十四年特別展覧会「徳川時代婦人風俗展」に際し、出品作品を模写したものであることが、近年の調査により明らかとなった。またこの時、同様の経緯で撮影されたガラス乾板も残されている。小袖や振袖の模写図、原品（振袖）、同じく同展覧会の際に模写された花下遊楽図屏風模写図、加えてガラス乾板の写真パネルを展示し、明治四十四年特別展覧会の一部を再現し、当時の博物館活動の一面を紹介した。		

(2) 特別展・共催展等(海外展・巡回展を含む)

展覧会名：特別展「写楽」

会　　期：平成23年5月1日（日）～6月12日（日）（41日間）
会　　場：平成館2階　特別展示室第1室～第4室
主　　催：東京国立博物館、東京新聞、NHK、NHKプロモーション

協　　力：国際浮世絵学会
後　　援：文化庁
協　　賛：日本写真印刷、みずほ銀行、三井物産
輸送協力：日本航空
作品件数：286件（うち重要文化財：22件、重要美術品：19件）
来館者数：229,625人（目標来館者数 160,000人・達成率 143.5%）
入場料金：一般1500円(1300円／1200円)、大学生1200円(1000円／900円)、高校生900円(700円／600円)、中学生以下無料
＊（　）内は前売り／20名以上の団体料金
担当研究員数：2人（並びにゲストキュレーター2人）

展覧会の内容：
写楽作品を集成し、写楽の歴史的な意義及びその芸術性などを改めて考察した。

講演会等：「写楽の役者絵の成立事情を探る」　講師：大和文華館長　浅野秀剛、平成館大講堂　　5月22日
「美術史の中の写楽の役者絵」　講師：絵画・彫刻室長　田沢裕賀、平成館大講堂　　5月29日

展覧会名：特別展「手塚治虫のブッダ展」
会　　期:平成23年4月26日（火）～6月26日（日）(57日間)
会　　場：本館特別5室
主　　催：東京国立博物館、東映、TBS
協　　力：手塚プロダクション、日本通運、財団法人全日本仏教会、ニトリ、カラーキネティクス・ジャパン
後　　援：文化庁、読売新聞社
作品件数：72件（うち重要文化財：6件）
来館者数：99,088人(目標来館者数 70,000人・達成率 141.5%)
入場料金：一般800円(700円)、大学生600円(500円)、高校生400円(300円)、中学生以下無料　＊(　)内は前売りおよび20名以上の団体料金
担当研究員数：3人

展覧会の内容：
手塚治の漫画「ブッダ」のオリジナル原画とともに、仏陀にかかわる文化財によって仏伝を紹介した。

講演会等：「ブッダと仏像　～インドの風を感じよう！～/ブッダ展のたのしい見かた」　講師：仏像ナビゲーター　廣瀬郁実（仏像ガール(R)）、学芸企画部長　松本伸之、平成館大講堂　　4月30日

展覧会名：「空海と密教美術」展
会　　期：平成23年7月20日（水）～9月25日（日）（61日間）
会　　場：平成館特別展示室第1～4室
主　　催：東京国立博物館、読売新聞社、NHK、NHKプロモーション
特別協力：総本山仁和寺、総本山醍醐寺、総本山金剛峯寺、総本山教王護国寺（東寺）、総本山善通寺、遺迹本山神護寺
協　　力：真言宗各派総大本山会、南海電気鉄道
協　　賛：あいおいニッセイ同和損保、きんでん、大日本印刷、トヨタ自動車、非破壊検査
作品件数：99件（うち国宝：52件、重要文化財：46件）
来館者数：550,399人(目標来館者数 240,000人・達成率 229.2%)
入場料金：一般1500円(1300円／1200円)、大学生1200円(1000円／900円)、高校生900円(700円／600円)　中学生以下無料
＊(　)内は前売り／20名以上の団体料金
担当研究員数：3人

展覧会の内容：
空海が広めた密教文化について、空海と同時代の文化財の特色等を広く一般に紹介した。

講演会等：「密教美術の醍醐味」　講師：学芸企画部長　松本伸之、平成館大講堂　　7月24日
「弘法大師と仁和寺　－阿弥陀仏について－」　講師：総本山仁和寺執行・真言宗御室派財務部長　大西智城、平成館大講堂　7月31日
「神護寺創成期の歴史　－弘法大師空海と伝教大師最澄の交友と訣別－」講師：高野山真言宗遺迹本山神護寺貫主　谷内弘照、平成館大講堂　7月31日
「心の中に息づく祈り－弘法大師空海－」　講師：総本山醍醐寺座主・真言宗醍醐寺派管長　仲田順和、平成館大講堂　8月27日
「吉野・高野の道/空海大師と讃岐－御誕生所善通寺の歴史と寺宝－」　講師：総本山金剛峯寺執行・高野山真言宗教学部長　村上保壽、総本山善通寺執行・真言宗善通寺派財務部長　坂田知應、平成館大講堂　8月28日

展覧会名：金沢能楽美術館　開館5周年記念特別展「東京国立博物館所蔵　金春座伝来　能面・能装束」
会　　期：平成23年10月1日（土）～11月20日（日）（43日間）
会　　場：金沢能楽美術館2階展示室
主　　催：東京国立博物館、金沢能楽美術館［(公財)金沢芸術創造財団］
作品件数：46件（うち重要文化財：16件）
来館者数：8,206人(目標来館者数 －人・達成率 －%)
入場料金：一般・大学生　300円　　65歳以上　200円　高校生以下　無料　団体（20名以上）250円
担当研究員数：1人

展覧会の内容：
東京国立博物館所蔵の金春座に伝来した能面と能装束を紹介した

展覧会名：法然上人８００回忌・親鸞上人７５０回忌　特別展「法然と親鸞 ゆかりの名宝」

会　　期：平成23年10月25日（火）～12月4日（日）（36日間）
会　　場：平成館特別展示室第1～4室
主　　催：東京国立博物館、NHK、NHKプロモーション、朝日新聞社
後　　援：文化庁
協　　賛：トヨタ自動車、日本写真印刷、三井住友海上火災保険
特別協力：知恩院、増上寺、金戒光明寺、知恩寺、清浄華院、善導寺、光明寺（鎌倉市）、善光寺大本願、光明寺（長岡京市）、禅林寺、誓願寺、遊行寺、西本願寺、京都 東本願寺、専修寺、佛光寺、興正寺、錦織寺、毫摂寺、誠照寺、専照寺、證誠寺
作品件数：189件（うち国宝：11件、重要文化財：83件）
来館者数：212,150 人(目標来館者数 108,000 人・達成率 196.4%)
入場料金：一般1500円(1300円／1200円)、大学生1200円(1000円／900円)、高校生900円(700円／600円)　中学生以下無料
＊（　）内は前売り／20名以上の団体料金
担当研究員数：4人

展覧会の内容：
浄土宗・浄土真宗の開祖にちなむ歴代の寺宝を一堂に集めて展観した。

講演会等：「法然と親鸞」　講師：編集工学研究所所長・日本文化研究家　松岡正剛、　平成館大講堂　　10月28日
「特別展『法然と親鸞　ゆかりの名宝』について」　講師：博物館情報課長　高橋裕次、平成館大講堂　　11月19日
「法然上人に近づく」　講師：奈良国立博物館学芸部長　西山厚、平成館大講堂　　11月26日

展覧会名：日中国交正常化40周年　東京国立博物館140周年　特別展「北京故宮博物院200選」

会　　期：平成24年1月2日（月・休）～2月19日（日）(43日間)
会　　場：平成館特別展示室第1～4室
主　　催：東京国立博物館、故宮博物院、朝日新聞社、ＮＨＫ、ＮＨＫプロモーション
特別協力：毎日新聞社
後　　援：外務省、中国大使館
協　　賛：三井物産、凸版印刷、あいおいニッセイ同和損害保険、華為技術日本(ファーウェイ・ジャパン)、竹中工務店
協　　力：全日本空輸、東京中国文化センター
作品件数：200件(うち一級文物90件)
来館者数：258,252 人(目標来館者数 152,000 人・達成率 170%)
入場料金：一般1500円(1300円／1200円)、大学生1200円(1000円／900円)、高校生900円(700円／600円)　中学生以下無料
＊(　)内は前売り／20名以上の団体料金
担当研究員数：5人

展覧会の内容：
北京故宮博物院が所蔵する書画、工芸品等の優品を展示する。

展覧会名：特別展「孫文と梅屋庄吉―100年前の中国と日本」

会　　期：平成23年7月26日（火）～ 9月4日（日）(37日間)
会　　場：本館特別5室
主　　催：東京国立博物館、毎日新聞社
後　　援：外務省、中国大使館
特別協力：小坂文乃、長崎県、長崎大学附属図書館
協　　力：日本中華總商会、日本通運、東京スタデオ、日比谷松本楼
協　　賛：全日本空輸、リンガーハット、小西国際交流財団
作品件数：249件(うち重要文化財：24件)
来館者数：28,780人(目標来館者数 20,350人・達成率 141.4%)
入場料金：一般800円(700円)、大学生600円(500円)、高校生400円(300円)　中学生以下無料　＊(　)内は前売りおよび20名以上の団体料金
担当研究員数：2人

展覧会の内容：
孫文と彼を支援した梅屋庄吉らに関わる古写真等を通じて、彼らの生きた時代の様相を展覧した。

講演会等：「孫文の生きた時代」　講師：東京大学大学院准教授　川島真　平成館大講堂　　7月29日
「曾祖父・梅屋庄吉」　講師：梅屋庄吉曾孫　小坂文乃　平成館大講堂　　7月29日

【京都国立博物館】

(1)平常展

平常展示館建て替え工事に伴い、平常展示休止中。

(2)特別展等・共催展等

展覧会名：特別展覧会「法然上人８００回忌　法然―生涯と美術―」

会　　期：平成23年3月26日(土)～5月8日(日)(39日間)
来館者数：92,929人（23年度84,682人）（目標来館者数50,000人・達成率185.86%）
陳列件数(うち指定品数)：120件(87件)（国宝29、重文58）
主 催 者：京都国立博物館、ＮＨＫ京都放送局、ＮＨＫプラネット近畿、京都新聞社
講 演 会：2回　　参加者数合計 300人
・関連土曜講座

4月2日　浄土宗の美術
大原嘉豊（研究員）
158人参加
4月9日　像内納入品―仏像と古文書―
羽田　聡（研究員）
142人参加

広報媒体：ポスター、ちらし、情報誌、ホームページ、新聞、ラジオ、公共放送等

展覧会名：特別展観「百獣の楽園　―美術にすむ動物たち―」
会　　期：平成23年7月16日(土)～8月28日(日)(38日間)
来館者数：35,259人(目標来館者数 20,000人・達成率 176.30%)
陳列件数(うち指定品数)：117件(31件)（国宝3、重文25、重美3)
主 催 者：京都国立博物館
講 演 会：3回　　参加者数合計　246人
・関連土曜講座
7月16日　動物の眼ざし、動物への眼ざし―近世絵画編―
山下善也（連携協力室長）
85人参加
7月23日　百獣の楽園をめざして　動物たちが幸せに暮らせる動物園に
坂本英房 氏（京都市動物園 獣医師）
64人参加
7月30日　動物をみること、表現すること―分類とシンボル
永島明子（主任研究員）
97人参加
鑑 賞 会：2回　　参加者数合計　75人
・関連少年少女博物館くらぶ
8月2日、5日　小学・中学生向け鑑賞会「博物館 まるまるアニマル！」
水谷亜希（研究員）

関連イベント
7月22日、29日　「ジャングル大帝」野外上映会

広報媒体：ポスター、ちらし、情報誌、ホームページ、新聞、ラジオ、公共放送等

展覧会名：特別展覧会「細川家の至宝　―珠玉の永青文庫コレクション―」
会　　期：平成23年10月8日(土)～11月23日(水・祝)(40日間)
来館者数：106,536人(目標来館者数 50,000人・達成率213.07%)
陳列件数(うち指定品数)：244件(35件)　(国宝8、重文28)
主 催 者：京都国立博物館、永青文庫、ＮＨＫ京都放送局、ＮＨＫプラネット近畿、朝日新聞社
講 演 会：4回　　参加者数合計 359人
・関連土曜講座
10月15日　永青文庫の歴史とコレクション
三宅秀和 氏（永青文庫学芸員）
133人参加
10月29日　コレクター細川護立―日本近代美術の視点から―
塩谷　純 氏（東京文化財研究所企画情報部文化形成研究室長）
99人参加
11月12日　細川氏と永源庵―永青文庫の古文書―
羽田　聡（研究員）
84人参加
11月19日　永青文庫の中国彫刻―コレクションをめぐる人々―
淺湫　毅（主任研究員）
43人参加
関連イベント
11月10日　京都国立博物館　文化大使・竹下景子さんと行く特別展覧会「細川家の至宝―珠玉の永青文庫コレクション―」観覧ツアー
広報媒体：ポスター、ちらし、情報誌、ホームページ、新聞、ラジオ、公共放送等

展覧会名：特別展覧会「中国近代絵画と日本」
会　　期：平成24年1月7日(土)～2月26日(日)(44日間)
来館者数：13,286人(目標来館者数 20,000人・達成率66.4%)
陳列件数(うち指定品数)：226件(0件)
主 催 者：京都国立博物館
講 演 会：5回　　参加者数合計444人
・関連土曜講座
1月 7日　中国絵画の近代化と日本影響
西上　実（学芸部長）
74人参加

1月21日　東方芸術の奇葩―北京画院美術館 斉白石コレクションの研究と展示―
呉洪亮 氏（北京画院美術館斉白石紀念館館長））
81人参加
2月 4日　洋画における中国と日本の交流―近代上海を中心に―
陸偉榮 氏（早稲田大学講師）
57人参加
2月25日　海上画派と日本および西洋絵画の影響
單国霖 氏（上海博物館書画研究部主任）
82人参加

・国際シンポジウム
2月11日　「中国近代絵画の形成と日本」　　国立京都国際会館アネックスホール150人参加

広報媒体：ポスター、ちらし、情報誌、ホームページ、新聞、ラジオ、公共放送等

展覧会名：京都国立博物館名品展「京都千年の美の系譜　―祈りと風景―」
会　　期：平成23年10月22日(土)～12月 4日(日)(39日間)
会　　場：静岡県立美術館
来館者数：24,070人(目標来館者数 ―)
陳列件数(うち指定品数)：66件(33件)（国宝6、重文22、重美5）
主 催 者：静岡県立美術館、静岡第一テレビ　（特別協力：京都国立博物館）
講 演 会：2回

・関連特別講演会
11月13日　きらめく京都、きらめく近世の絵画
山下善也（連携協力室長）
11月19日　京都千年の美術 － そのかざりとかたち－
久保智康（企画室長）

広報媒体：ポスター、ちらし、情報誌、ホームページ、新聞、公共放送等

展覧会名：京都国立博物館所蔵「典雅なる御装束　―宮廷のオートクチュール―」
会　　期：平成23年10月1日(土)～11月27日(日)(50日間)
会　　場：細見美術館
来館者数：12,023人(目標来館者数 ―)
陳列件数(うち指定品数)：34件(重美1件)
主 催 者：細見美術館、京都新聞社（特別協力：京都国立博物館）
講 演 会：1回

・関連ギャラリートーク
11月19日　　山川　曉（主任研究員）

広報媒体：ポスター、ちらし、情報誌、ホームページ、新聞

【奈良国立博物館】

(1)名品展（平常展）

①開館日数：321日(名品展のみの開館日数：216日)
②陳列件数：1,092件
名品展
珠玉の仏像（なら仏像館）　　164件
珠玉の仏教美術（西新館）　　423件
中国古代青銅器（青銅器館）　256件
特別陳列等

	名称	会期	陳列件数（うち指定品件数）
特別陳列	初瀬にますは与喜の神垣	7月16日～8月28日	45件(重要文化財8件)
特別陳列	おん祭と春日信仰の美術	12月6日～24年1月15日	62件(重要文化財7件)
特別陳列	お水取り	24年2月11日～24年3月18日	65件(重要文化財16件)
(新収蔵品展)	新収蔵品展	9月13日～10月2日	27件
特集展示	新たに修理された文化財	12月6日～12月25日	14件
特集展示	龍	12月27日～24年1月15日	18件(重要文化財6件、重要美術品1件)
特集展示	経典を写す・刻む・飾る	24年1月24日～24年2月19日	12件(国宝1件、重要文化財3件)
特集展示	東北の古瓦―泉官衙遺跡を中心に―	24年2月28日～24年3月18日	6件
特別公開	海住山寺本尊　十一面観音像	4月26日～9月11日	1件(重要文化財1件)
特別公開	東大寺法華堂　金剛力士像	22年7月22日～23年9月11日	1件(国宝1件)
特別公開	金剛寺　降三世明王坐像	10月4日～24年3月31日	1件(重要文化財1件)
特別公開	大和高田・弥勒寺　弥勒仏坐像	10月4日～24年1月29日	1件

③陳列替件数：481件

(2)特別展・共催展等

展覧会名：特別展「誕生！中国文明」

会　　期：4月5日(火)～5月29日(日)(49日間)
来館者数：35,679人(目標来館者数 50,000人・達成率 71.4%)
陳列件数(うち指定品数)：147件（中国国家一級文物63件）
主催：奈良国立博物館、読売新聞社、中国河南省文物局
講演会：4回　　参加者数合計　477人
イベント：1回　参加者数合計　134人

公開講座

期日	講座名	講師(所属)	参加者数
4月16日	「中国古代の建築 -七層楼閣に見る明器の世界」	岩戸 晶子(学芸部研究員)	68人
4月30日	「中国文明の考古学」	岡村 秀典(京都大学教授)	186人
5月14日	「宝冠仏の系譜 -龍門石窟の彫像を中心に」	稲本泰生(学芸部企画室長)	103人
5月28日	「正倉院宝物と河南省の文物」	内藤　栄(学芸部長補佐)	120人

イベント等

期日	内容	出演	参加者数
4月29日	「葉衛陽＆さくら親子 中国琵琶競演」	葉衛陽（中国琵琶奏者） さくら（中国琵琶奏者）	134人

広報媒体：ポスター、ちらし、博物館だより、新聞、テレビ等

展覧会名：特別展「天竺へ　三蔵法師３万キロの旅」

会　　期：7月16日(土)～8月28日(日)(39日間)
来館者数：63,364人(目標来館者数 50,000人・達成率 126.7%)
陳列件数(うち指定品数)： 55件(国宝4件、重要文化財14件)
主催：奈良国立博物館、朝日新聞社
講演会：2回　　参加者数合計　381人
フォーラム：1回　参加者数合計　390人
ワークショップ：1回　参加者数合計　59人

公開講座

期日	講座名	講師(所属)	参加者数
8月 6日	「高僧伝絵としての玄奘三蔵絵」	若杉 準治(京都国立博物館名誉館員)	194人
8月20日	「藤田傳三郎と藤田美術館 ―玄奘三蔵絵をはじめとするコレクションについて―」	前野 絵里(藤田美術館学芸員) 藤田 清　（　〃　）	187人

フォーラム

期日	内容	パネリスト	参加者数
7月23日	「玄奘三蔵フォーラム」	山田 法胤（薬師寺管主） 西山 厚（学芸部長） 滝田 栄（俳優）	390人

ワークショップ

期日	内容	参加者数
8月13日	「そんごくうのおはなし絵巻を作ろう！」	59人

広報媒体：ポスター、ちらし、博物館だより、新聞、テレビ特集番組等

展覧会名：特別展「第63回正倉院展」

会　　期：10月29日(土)～11月14日(月)(17日間)
来館者数：239,581人(目標来館者数 180,000人・達成率133.1%)
陳列件数：62件
主催：奈良国立博物館
講演会：4回　　参加者数合計 456人
シンポジウム：1回　参加者数合計 179人

公開講座

期日	講座名	講師(所属)	参加者数
10月29日	「金銀鈿荘唐大刀と奈良時代の刀剣をめぐって」	原田 一敏（東京藝術大学・大学美術館教授）	145人
11月 3日	「正倉院宝物にみられる経帙をめぐって」	永井 洋之（学芸部研究員）	79人

11月 5日	「正倉院宝物にみる染め」	中村 力也 （宮内庁正倉院事務所保存課保存科学室員）	86人
11月12日	「香と仏教」	清水　健（学芸部研究員）	146人

シンポジウム

期日	内容	パネリスト	参加者数
10月30日	正倉院学術シンポジウム2011 「正倉院宝物のはじまりと国家珍宝帳」	杉本 一樹（宮内庁正倉院事務所長） 魚住 和晃（神戸大学名誉教授） 渡辺 晃宏 （奈良文化財研究所都城発掘調査部史料研究室長） 稲本 泰生（学芸部企画室長）	179人

広報媒体：ラジオ、ポスター、ちらし、博物館だより、新聞広告、駅構内看板、テレビ特集番組等

【九州国立博物館】

(1)文化交流展（平常展）

①開館日数：　310 日(うち平常展のみ開館日数　100 日)
②陳列替件数：　1,373 件
③陳列総件数：　2,417 件(うち国宝　25 件　重要文化財　82 件)
④入場料金：　一般 420 円、大学生 130 円
⑤トピック展示・特別公開：全　13 件

トピック展示名称	「日本の建築をめぐって」				
開催期間	平成 23 年 1 月 21 日(金)～ 4 月 3 日(日)	開催場所	文化交流展示室 関連展示室 11 室	陳列件数（うち指定品件数）	22 件（うち国宝 0 件、重文 0 件）
内容	日本の城郭建築、寺院建築などを建築模型を通じて紹介する。				

トピック展示名称	「日本とタイ－ふたつの国の巧と美」				
開催期間	平成 23 年 4 月 12 日(火)～ 6 月 5 日(日)	開催場所	文化交流展示室 関連展示室 9・10・11 室	陳列件数（うち指定品件数）	日本側：56 件（うち国宝 2 件、重文 7 件、重要美術品 2 件）、タイ側：50 件
イベント等	講演会等 4 月 23 日　アクロス・文化学び塾「日本とタイ－ ふたつの国の巧と美」展講座　原田あゆみ（文化財課主任研究員）　26 人 5 月　1 日　講演会　「日本とタイ－ふたつの国の文化の違い」　赤木功（大阪外国語大学名誉教授）　40 人 5 月 14 日　講座「タイの仏（ほとけ）日本の仏」　原田あゆみ（文化財課主任研究員）　30 人 イベント等 4 月 30 日　ワークショップ　久留米絣の糸と腰機でコースターを織ってみよう！　14 人 5 月　5 日　微笑みの国からやってくる魅惑のタイ舞踊　340 人				参加者数
内容	日タイ共同の企画展。 先史時代の稲作分野や仏教美術、また両国の文化交流によってつくりだされた美術工芸品を紹介する。				

トピック展示名称	特別公開　国宝　琉球国王尚家関係資料　修理完成記念展示				
開催期間	平成 23 年 4 月 12 日(火)～ 5 月 22 日(日)	開催場所	文化交流展示室 基本展示室第Ｖテーマ	陳列件数（うち指定品件数）	6 件（うち国宝 6 件、重文 0 件）
内容	平成 22 年度に当館にて修理完了した琉球国王尚家関係資料を、特別公開する。				

トピック展示名称	彫漆　漆に刻む文様の美				
開催期間	平成 23 年 6 月 14 日(火)～ 7 月 31 日(日)	開催場所	文化交流展示室 関連展示 9 室	陳列件数（うち指定品件数）	32 件（うち国宝 0 件、重文 0 件）
内容	東京国立博物館と九州国立博物館が所蔵する、彫漆の名品を一同に展示する。				

トピック展示名称	平戸オランダ商館会館記念　平戸－海外に開かれた港市－				
開催期間	平成 23 年 7 月 6 日(水)～ 8 月 15 日(月)	開催場所	文化交流展示室 関連展示 11 室	陳列件数（うち指定品件数）	50 件（うち国宝 0 件、重文 0 件）
内容	松浦史料博物館の所蔵品や、生月島のかくれキリシタン信仰物などを通して、平戸の長く多彩な海外交流の歴史を紹介する。				

トピック展示名称	斉明天皇と飛鳥				
開催期間	平成 23 年 7 月 20 日(水)～ 8 月 28 日(日)	開催場所	文化交流展示室 関連展示 8 室	陳列件数（うち指定品件数）	16 件（うち国宝 2 件、重文 0 件）
イベント等	シンポジウム等 7 月 30 日　全国縦断古代史講演会　第 16 回明日香村まるごと博物館フォーラム				参加者数 300 人

	「斉明天皇と飛鳥～牽牛子塚古墳の発掘から」 「最近の発掘成果と飛鳥の遺跡」　奈良県明日香村教育委員会主任技師　西光慎治 「うたと時代―斉明朝から―」　奈良大学教授　上野誠 「考古学からみた斉明天皇陵」　大阪府立近つ飛鳥博物館長　白石太一郎
内容	斉明天皇が繋いだ飛鳥と筑紫にゆかりのある出土品・歴史資料などを展示する。

トピック展示名称	インドの染織と細密画				
開催期間	平成23年8月3日(水)～9月11日(日)	開催場所	文化交流展示室 関連展示9室	陳列件数(うち指定品件数)	17件(うち国宝0件、重文0件)
内容	インド・ムガル王朝時代に焦点をあて、17世紀から19世紀に制作された更紗と細密画をご紹介する。				

トピック展示名称	茶の湯を楽しむⅣ				
開催期間	平成23年9月14日(水)～10月23日(日)	開催場所	文化交流展示室 関連展示9室	陳列件数(うち指定品件数)	38件(うち国宝0件、重文3件)
内容	中国や朝鮮半島、東南アジアやインド、西洋からもたらされ、茶道具として取り上げられた作品から、茶の湯に見える国際交流を紹介する。				

トピック展示名称	館蔵水墨画名品展				
開催期間	平成23年9月28日(水)～11月6日(日)	開催場所	文化交流展示室 関連展示11室	陳列件数(うち指定品件数)	13件(うち国宝1件、重文2件)
内容	九博が所蔵する絵画のうち、日本・中国・韓国の水墨画から名品を選んで展示する。				

トピック展示名称	発掘された日本列島2011地域展　九州最古の狩人とその時代				
開催期間	平成23年10月29日(土)～12月18日(日)	開催場所	文化交流展示室関連展示1室 および基本展示第1テーマ	陳列件数(うち指定品件数)	31件(うち国宝0件、重文0件)
イベント等	ワークショップ　参加者数 12月4日　「石の匠に学ぶ―石器作り体験―」　38人				
内容	旧石器時代の石器に焦点を当て、最新の旧石器資料や動物化石などから、狩猟を中心とする当時の人びとの暮らしを紹介する。				

トピック展示名称	京都・檀王法林寺開創400年記念　琉球と袋中上人展―エイサーの起源をたどる―				
開催期間	平成23年11月1日(火)～12月11日(日)	開催場所	文化交流展示室 関連展示9・10室	陳列件数(うち指定品件数)	36件(うち国宝0件、重文5件)
イベント等	講演会等　参加者数 10月22日　アクロス・文化学び塾　事前レクチャー講座 「京都・檀王法林寺開創４００年記念　琉球と袋中上人―エイサーの起源をたどる―」　21人 藤田励夫（保存修復室長） 11月13日　講演会「袋中上人とエイサー・檀王法林寺」　70人 「檀王法林寺―京都と沖縄の架け橋になって―」　信ケ原雅文（檀王法林寺住職） 「袋中上人と檀王法林寺の宝物」　石川登志雄（伝統文化財保存研究所代表） 「エイサーの過去・現在・未来」　園原謙（沖縄県立博物館・美術館主幹） イベント 11月13日　うるま市無形民俗文化財「平敷屋エイサー」　平敷屋エイサー保存会　800人				
内容	檀王法林寺開創400年を記念して、はじめて琉球に浄土念仏を広めた袋中上人の事蹟に拠りつつ、日琉交流の歴史をたどる。				

トピック展示名称	九州大学百年の宝物				
開催期間	平成23年11月15日(火)～12月18日(日)	開催場所	文化交流展示室 関連展示11室・ミュージアムホール・エントランス	陳列件数(うち指定品件数)	58件(うち国宝0件、重文0件)
内容	九州大学が誇る貴重な所蔵品の中から、選りすぐりの名品を一同に紹介する。				

トピック展示名称	新春特別公開　初音の調度				
開催期間	平成24年1月1日(日)～1月29日(日)	開催場所	文化交流展示室 アプローチ付近	陳列件数(うち指定品件数)	3件（うち国宝3件、重文0件）
内容	徳川美術館が所蔵する大名婚礼調度の最高傑作、「初音の調度」から3件を展示する。				

(2)特別展・共催展等

展覧会名：特別展「黄檗―OBAKU」

会期：　23年3月15日（火）～5月22日（日）（61日間）
会場：　九州国立博物館　特別展示室
主催：　九州国立博物館・福岡県、黄檗宗大本山萬福寺、西日本新聞社、ＴＶＱ九州放送
陳列品総件数：　142件（国宝　0件、重文　14件）
来館者数：　55,539人(23年度46,530人)（目標来館者数　30,000人・達成率185%）

入場料金：　一般　1,300 円、高大生　1,000 円、小中生　600 円
アンケート結果：満足度　88%
講演会等：　7回　参加者合計　572人

期日	講演会名	講師（所属）	参加者
4月 9日	法話「黄檗再発見」 ～日本文化発展に果たした役割とその魅力～	住谷瓜頂師（黄檗山宝蔵院住職）	110人
4月10日	講演会「普茶料理講演会」	田谷昌弘師（元萬福寺典座）	100人
4月17日	講座「范道生と黄檗の仏像」	楠井隆志（展示課主任研究員）	42人
4月23日	講座「長崎と黄檗文化～興福寺を中心として～」	原田博二（長崎史談会会長）	180人
5月 3日	講座「黄檗肖像画と長崎のお絵像」	錦織亮介（北九州市立大学名誉教授）	35人
5月 7日	法話「黄檗の文人趣味について」	中村秀晴師（大阪瑞龍寺住職）	65人
5月15日	法話と座禅会「座禅と提唱」	松本普成師（長崎霊源院住職）	40人

イベント等

期日	イベント名	参加者
4月1日～5月22日	巡照朝課（じゅんしょうちょうか）	1,034人
4月 3日・10日・17日・24日・5月4日	茶席	968人
4月 3日・10日・17日・24日・5月3日～8日・15日	厄よけストラップ手づくり教室	157人
4月 3日	開山忌（かいさんき）	400人
4月 3日	蛇踊り	600人
4月16日	中国茶振る舞い	200人
4月16日	中国茶ミニ講座	47人
4月16日	瓢箪笛（ひょうたんぶえ）コンサート	200人
4月26日～5月8日	京の老舗　名産品展	40,000人
5月 1日	二胡コンサート	200人
5月 4日	声明（しょうみょう）「梵唄（ぼんばい）」	700人
5月15日	フルートコンサート「隠元禅師の夢ー瞑想のひととき」	140人

展覧会名：特別展「よみがえる国宝 － 守り伝える日本の美」

会期：　6 月 28 日（火）～8 月 28 日（日）（54 日間）
会場：　九州国立博物館　特別展示室
主催：　九州国立博物館・福岡県、西日本新聞社、ＮＨＫ福岡放送局、ＮＨＫプラネット九州
陳列品総件数：　77 件（国宝　11 件、重文　18 件）
来館者数：　118,528 人（目標来館者数　40,000 人・達成率　296%）
入場料金：一般　1,300 円、高大生　1,000 円、小中生　600 円
アンケート結果：満足度　83%
講演会等：　12回　参加者合計　2,173人

記念講演会

期日	講演会名	講師（所属）	参加者
7月 9日	特別展記念講演会　「日本のこころをつたえる一文化財の保存と修理―」（会場：新宮町）	藤田励夫（博物館科学課保存修復室長）	300人
7月17日	特別展記念講演会　「まもる、つたえる、その手法―文化財の修理と復元―」（会場：筑紫野市）	森田稔（副館長）	200人
7月23日	特別展講演会　守り伝える日本の宝 「寺宝を守り継ぐ一神護寺の歴史と宝物 」 「冷泉家八百年―日本文化の継承―」	 谷内弘照（高野山真言宗遺跡本山高雄山神護寺貫首） 冷泉為人（(公財）冷泉家時雨亭文庫　理事長）	200人
7月24日	特別展記念講演会　「国宝のはなし」（会場：福岡市）	三輪嘉六（館長）	200人
7月30日	特別展記念講演会　「日本の宝をまもる、美をつたえる一文化財の保存と修理―」（会場：那珂川町）	本田光子（博物館科学課長）	250人

講座等

期日	講演会名	講師（所属）	参加者
7月2日	文化財保存交流セミナーⅠ 「曝涼はIPMのルーツ？-虫干しにかわるものは何か-」 「文化財害虫各論」	 本田光子（博物館科学課長） 小峰幸夫（(公財)文化財虫害研究所）	38人
7月 8日	展示解説講座 ～しっとこ九博～ 『よみがえる国宝～守り伝える日本の美～』（会場：筑紫野市）	本田光子（博物館科学課長）	70人
7月31日	文化財保存交流セミナーⅡ　　日本の宝を守る、技とこころ 「展示作品の保存修理事例解説」 「彩色や刺繍糸、技法から見た天寿国繍帳の変遷」 「神護寺山像の保存修理をめぐって」 「文化財を守る技を継ぐ一北村大通の遺したもの一」	 澤田むつ代（東京国立博物館） 岡岩太郎（国宝修理装潢師連盟理事長） 北村昭斎（漆芸家：重要無形文化財保持者・選定保存技術保持者）	238人
8月 6日	文化財保存交流セミナーⅡ　　日本の宝を守る、蔵を継ぐ 「展示作品の保存修理事例解説」 「宮内庁書陵部の資料管理」 「正倉院宝物の保存」 「正倉院―一つの場所の物語―」	 中村一紀（宮内庁書陵部図書寮文庫） 成瀬正和（宮内庁正倉院事務所） 杉本一樹（宮内庁正倉院事務所長）	187人
8月 7日	文化財保存交流セミナーⅡ　　日本の宝を守る、美を伝える 「展示作品の保存修理事例解説」 「正倉院宝物の模造」 「皇室の名宝をまもる一皇后陛下の小石丸と修理事業の成果」	 西川明彦（宮内庁正倉院事務所） 太田彩（宮内庁三の丸尚蔵館）	255人

	「茶陶修理と漆のわざ」	室瀬和美（漆芸家：重要無形文化財保持者）	
8月12日	NHKネットクラブ特別鑑賞会 「よみがえる国宝―まもり伝える日本の美」	本田光子（博物館科学課長）	125人
8月21日	文化財保存交流セミナーⅢ　日本の宝を守る、文化を伝える 「和本リテラシーのすすめ」	中野三敏（九州大学名誉教授）	110人

イベント等

期日	イベント名	参加者
7月 3日	トークショー「古美術のススメ～修復文化財に見る匠たち～」	250人
7月 9日、30日、8月13日	親子で楽しむバックヤードツアー「大きな博物館の探検！」	106人
8月21日	子どもイベント　「みて！さわって！！岩絵具のふしぎな世界」	40人
8月21日	ワークショップ　古本の虫と九博の杜の虫をくらべてみよう！ 「江戸の本の虫たち―和本の扱い・観察・虫干し―」　講師：中野三敏（九州大学名誉教授）	40人
8月23日	ワークショップ　古本の虫と九博の杜の虫をくらべてみよう！ 「九博の杜の虫たち」	40人

展覧会名：特別展「草原の王朝　契丹　美しき3人のプリンセス」

会期：　9月27日（火）～11月27日（日）（54日間）
会場：　九州国立博物館　特別展示室
主催：　九州国立博物館・福岡県、西日本新聞社、ＲＫＢ毎日放送、内蒙古博物院
陳列品総件数：　125件（中国・一級文物　45件）
来館者数：　75,880人（目標　60,000人・達成率 126%）
観覧料：一般　1,300円、高大生　1,000円、小中生　600円
アンケート結果：満足度　90%
講演会等：　6回　参加者合計　738人

記念講演会等

期日	講演会名	講師（所属）	参加者
10月16日	記念講演会「慶陵と慶州白塔―契丹・章聖皇太后の祈りと生涯」	古松崇志（岡山大学教授）	50人

講座等

期日	講演会名	講師（所属）	参加者
9月30日	ふるさと館ちくしの展示解説講座「契丹と日本」	市元塁（企画課研究員）	40人
10月 1日	特別展企画　契丹大学　秋季講座　第1回		161人
	「契丹文化への招待」	市元塁（企画課研究員）	
	「壁画から見た契丹社会」	臺信祐爾（文化財課長）	
10月 8日	特別展企画　契丹大学　秋季講座　第2回		145人
	「唐と契丹　華麗なる金銀器」	原田一敏（東京藝術大学大学美術館教授）	
	「奇跡の彩色木棺を救え！－日本・内モンゴルの共同保存事業」	今津節生（博物館科学課保存修復室長）	
10月10日	特別展企画　契丹大学　秋季講座　特別講義		195人
	「日本と契丹―11世紀の仏教遺産」	神居文彰（平等院住職）	
10月22日	特別展企画　契丹大学　秋季講座　第3回		147人
	「陶磁器が語る草原の王朝」	遠藤啓介（展示課研究員）	
	「蒼天にそびえる白亜の仏塔」	小泉惠英（企画課長）	

イベント等

期日	イベント名	参加者
10月 8,9,10日	契丹のいまを知る。（ゲル&衣装体験コーナー）	300人
10月 29日, 30日	特別上映会　「楊家将伝記　兄弟たちの乱世」	340人

展覧会名：特別展「細川家の至宝－珠玉の永青文庫コレクション」

会期：平成24年1月1日（日）～3月4日（日）（56日間）
会場：　九州国立博物館　特別展示室
主催：　九州国立博物館・福岡県、財団法人永青文庫、NHK福岡放送局、NHKプラネット九州、西日本新聞社
陳列品総件数：　232件（国宝　8件、重要文化財　25件、重要美術品　18件）
来館者数：　113,290人（目標来館者数　70,000人・達成率　162%）
入場料金：　一般　1,300円、高大生　1,000円、小中生　600円
アンケート結果：満足度　83%
講演会等：7回　参加者合計　1,253人

記念講演会

期日	講演会名	講師（所属）	参加者
24年1月22日	記念講演会「細川家　美と戦いの700年」	細川護熙（永青文庫理事長・細川家18代当主）	300人

講座等

期日	講演会名	講師（所属）	参加者
24年1月27日	展示解説講座 ～しっとこ九博～ 『細川家の至宝～珠玉の永青文庫コレクション～』（会場：筑紫野市）	川畑憲子	72人
24年1月28日	講演会「細川家と永青文庫の名品」	竹内順一（永青文庫館長）	170人
24年2月12日	講演会「どこが見どころ？細川家の至宝展」	川畑憲子（企画課研究員） 酒井芳司（展示課研究員）	244人

地域講演会

期日	講演会名	講師（所属）	参加者
24年1月15日	講演会（会場:えーるピア久留米（久留米市））	川畑憲子（企画課研究員）	172人
24年1月29日	講演会（会場:メイトム宗像（宗像市））	酒井芳司（展示課研究員）	123人

24年2月11日　講演会（会場:北九州市立商工貿易会館（北九州市））　川畑憲子（企画課研究員）　172人

イベント等

期日	イベント名	参加者
24年1月 8日	ワークショップ「剣豪・宮本武蔵になろう！」 講師：宮田和宏（細川家伝統兵法二天一流第11代継承者）	62人
24年1月 9日	「聴いて見て楽しむ、細川展と能」 講師：白坂保之氏、森田徳和氏、幸正悟氏ほか	300人
24年1月29日、2月19日	くまモンin九州国立博物館	1,050人

(3)海外展

展覧会名：文化庁海外展「日本　仏教美術ー琵琶湖周辺の仏教信仰」

会期：12 月 20 日（火）～平成 24 年 2 月 19 日（日）（51 日間）
会場：　韓国国立中央博物館
主催：　九州国立博物館・福岡県、文化庁、滋賀県、韓国国立中央博物館
陳列品総件数：　59 件（うち国宝　4 件、重文　31 件）
来館者数：　52,316 人
入場料金：　無料
講演会等：　1回　参加者合計　150人

講座等

期日	講演会名	講師（所属）	参加者
24年2月7日	講演会 「日本　仏教美術ー琵琶湖周辺の仏教信仰」 （会場：韓国国立中央博物館）	井上ひろ美（琵琶湖文化館） 根立研介（京都大学教授）	150人

(参考)

【平城宮跡資料館】

(1)平常展

開館日数：291日（平常展のみの開館日数：202日）　陳列件数：656件　陳列替回数：1回
ガイダンスコーナー開館日数：244日
平常展のみの来館者数：80,353人
入場料金：無料

(2)特別展等・共催展等

展覧会名：春期企画展「発掘速報展　平城　2009･2010」

会　期：23年2月19日(土)～5月8日(日)　(69日間。23年度：34日間)
会　場：平城宮跡資料館　企画展示室
主　催：奈良文化財研究所
陳列件数（うち指定品数）：104件（0件）
来館者数：38,127人　(23年度：24,238人)
入場料金：無料
アンケート結果：満足度90%（無回答を除く）
講演会等：ギャラリートーク11回・参加者数合計294人(23年度：5回・156人)

展覧会名：秋期企画展「地下の正倉院展ーコトバと木簡」

会　期：23年10月18日(火)～11月27日(日)　(36日間)
会　場：平城宮跡資料館　企画展示室
主　催：奈良文化財研究所
陳列件数（うち指定品数）：71件（21件）
来館者数：20,120人
入場料金：無料
アンケート結果：満足度92%（無回答を除く）
講演会等：ギャラリートーク3回（10月23日、11月6日、11月20日）

展覧会名：春期企画展「発掘速報展　平城　2011／文化財レスキュー展」

会　期：24年3月10日(土)～5月27日(日)　(68日間。23年度：19日間)
来館者数：（23年度：7,584人）
※24年度評価にて実績報告を行う。

【藤原宮跡資料室】

(1)平常展

①開館日数：192日　陳列件数：99件　陳列替回数：4回

②特集陳列等　7件

名称	会期	陳列件数（うち指定品件数）
【特集陳列】		
キトラ古墳壁画2004ﾌｫﾄﾏｯﾌﾟ映像を公開	23年3月10日～5月31日	
東北日本太平洋沖地震被災文化財レスキュー事業活動報告	23年7月25日～	
藤原宮造営期の馬の骨に認められる骨病変（「紀要2011」より研究報告）	23年7月27日～	骨1件（0件）
坂田寺SK160出土の地鎮具（「紀要2011」より研究報告）	23年3月10日～	銭80件、土器4件、金銅製金具1件 金箔土壌の剥取り1件（0件）
【速報展】		
水落遺跡	22年12月8日～23年7月25日	瓦1件、銅管1件（0件）
水落遺跡(165次西区)	23年7月28日～	瓦1件、銅管1件（0件）
檜隈寺周辺　瓦組暗渠遺構	23年1月18日～7月25日	瓦8件（0件）

入場料金：無料
来館者数：2,971人

【飛鳥資料館】

(1)平常展

開館日数：319日（平常展のみの開館日数：167日）　陳列件数：350件　陳列替回数：0回
入場料金：一般260円（170円）　大学生130円(60円)　高校生および18歳未満は無料
※（　）は20名以上の団体
平常展のみの来館者数：16,283人

(2)特別展等・共催展等

展覧会名：春期特別展「星々と日月の考古学」
会　期：23年4月16日(土)～5月29日(日)　(44日間)
会　場：飛鳥資料館　特別展示室
主　催：奈良文化財研究所
陳列件数（うち指定品数）：13件（0件）
来館者数：10,679人
入場料金：一般260円（170円）　大学生130円(60円)　高校生および18歳未満は無料
※（　）は20名以上の団体
講演会：１回　参加者数合計　160人

期日	講演会名	講師(所属)
5月14日	「星々と日月の考古学」	加藤真二（奈良文化財研究所 飛鳥資料館 学芸室長） 相馬秀廣（奈良女子大学教授）

展覧会名：夏期企画展「鋳造技術の考古学―東アジアにひろがる鋳物師のわざ―」
会　期：　23年8月2日(火)～9月4日(日)　(30日間)
会　場：飛鳥資料館　特別展示室
主　催：奈良文化財研究所
陳列件数（うち指定品数）：246件（0件）
来館者数：3,047人
入場料金：一般260円（170円）　大学生130円(60円)　高校生および18歳未満は無料
※（　）は20名以上の団体
講演会：０回

展覧会名：秋期特別展「飛鳥遺珍―のこされた至宝たち―」
会　期：　23年10月14日(金)～　11月27日(日)　(45日間)
会　場：飛鳥資料館　特別展示室
主　催：奈良文化財研究所、奈良県立橿原考古学研究所、明日香村教育委員会
陳列件数（うち指定品数）：400件（10件）
後　援：朝日新聞社、ＮＨＫ奈良放送局
来館者数：10,454人
入場料金：一般260円（170円）　大学生130円(60円)　高校生および18歳未満は無料
※（　）は20名以上の団体
講演会：1回　参加者数合計102 人

期日	講演会名	講師(所属)
11月6日	「飛鳥遺珍―のこされた至宝たち―」	木下正史（東京学芸大学名誉教授） 相原嘉之（明日香村教育委員会文化財課調整員）

展覧会名：冬期企画展「飛鳥の考古学2011」
会　期：　24年1月20日(金)～2月26日(日)　(33日間)
会　場：飛鳥資料館　特別展示室
主　催：奈良文化財研究所、明日香村、奈良県立橿原考古学研究所
陳列件数（うち指定品数）：200件（0件）

来館者数：2,016人
入場料金：一般260円（170円）　大学生130円(60円)　高校生および18歳未満は無料
※（　）は20名以上の団体
講演会：０回

b ボランティア受入れ実績

1　受入人数

平成24年3月31日現在

国立文化財機構計	東京国立博物館	京都国立博物館	奈良国立博物館	九州国立博物館	奈良文化財研究所
848人	169人	64人	87人	355人	173人

2　活動内容

【東京国立博物館】　計　169人

種別　(登録人数)	概　　要
生涯学習ボランティア (163人)	1)各種教育普及事業の補助活動の充実を図る 【教育普及事業の補助】 ・みどりのライオン ハンズオン体験コーナー「写楽に挑戦！」実施 (平成23年5月1日～6月12日) ・みどりのライオン ハンズオン体験コーナー「日本のもようでデザインしよう！」実施（平成23年4月5日～4月30日、6月14日～平成24年3月31日） ・学校向けワークショップ補助（通年） ・ファミリー向けワークショップ補助（6回） ・一般向けワークショップ補助（4回） ・制作工程模型展示鑑賞補助　（通年） ・列品解説、各種講演会、イベント事業の実施補助(通年) ・教育普及事業の告知(「本日の博物館」シール貼替え・通年) 【館内案内】 ・本館（1階エントランス、2階、17室、20室みどりのライオン紹介コーナー　通年実施） ・多言語案内・手話の告知バッジによる来館者の案内・誘導 【資料印刷・作成】 ・パンフレット「日本美術の流れ」日本語版の印刷（通年） ・ハンズオン体験コーナーリーフレットの印刷（通年） ・たんけんマップの作成・印刷（通年） 【職場体験実施活動補助】 受入数：24校　生徒数：104人　(中学、高校合計数) 【障がい者対応】 ・バリアフリー対応班の発足（18名） ・東京国立博物館紹介パンフレットの点訳版作成(36冊) ・ボランティアによるガイドツアー「たてもの散歩」において手話通訳付ガイドツアー（毎月1回実施） ・ボランティアによるガイドツアー「本館ハイライトツアー」において手話通訳付ガイドツアー実施（1回） ・博物館案内・各ガイドにおける聴覚障がい者対応のためのコミュニケーションボードの使用(通年) ・触知図を使用した館内案内（通年） ・盲学校のためのスクールプログラムの実施補助（通年） 【各種連携事業】 ・「留学生の日」(10月6日)内プログラム　ボランティアによる応挙館茶会，法隆寺宝物館ガイド、浮世絵ガイド、考古ガイド、陶磁ガイド、英語ガイドの実施，館内案内 【ボランティアデー開催】 ・新規ボランティア募集説明会、ボランティアによる活動紹介ツアー、各ガイドツアー、お茶会、ワークショップの実施（12月3・4日） 2)来館者参加型ガイドツアー等の実施　459回11,815人 自主企画プログラム（予約ガイド、各種連携事業、留学生の日、ボランティアデーにおける対応を含む。一日複数回実施の場合は、延べ回数） ・樹木ツアー　35回　734人参加 ・浮世絵ガイド　48回 1,219人 ・本館ハイライトツアー　57回 2,017人 ・法隆寺宝物館ガイド　54回 1,438人 ・考古展示室ガイド　37回　849人 ・陶磁ガイド　25回　572人 ・庭園茶室ツアー　25回　562人 ・お茶会　29回　808人 ・彫刻ガイド　40回　909人 ・英語ガイド　37回 1,161人(留学生の日の定点ガイド含む) ・こどもたちのアートスタジオ　10回　144人 ・たてもの散歩ツアー　48回 1,075人 ・たんけんマップツアー　3回　82人 ・庭園茶室ツアー・お茶会合同企画　9回　126人 ・基本活動紹介ツアー　2回　119人

種別　(登録人数)	概　　要
東京芸術大学学生ボランティア (6人)	当館研究員と東京藝術大学大学院生が連携し準備、事業を行った。学生の貴重な経験や研究の一助となり、かつ、来館者にとっても展示についての理解を深めるきっかけとなった。 【ギャラリートーク班】5名 総合文化展展示作品に関するギャラリートークを展示室で行った。【計30回、821人】 真言密教と一木造－観心寺聖観音立像－　6回、186人 ガラス器にみる西と東－重要文化財・白瑠璃碗と国宝・文禰麻呂骨壺の比較を通じて―　6回、159人 古瀬戸のやきものにみる日本らしさ―日本が選んだもの・選ばなかったもの―　6回、129人 横山大観「五柳先生」－亡き友に捧ぐ金屏風－」　6回、187人 橋口五葉「髪梳る女」－新しい浮世絵美人－」　6回、160人 【制作工程模型班】1名 古典的制作技法に着目し、当館所蔵品「紅白芙蓉図」の制作工程模型制作のための調査を行った。

【生涯学習ボランティアに対する研修の実施】　計39回
- ・新規ボランティア研修　2回
- ・基本活動関連研修会　4回
- ・表慶館トラベル関連研修　3回
- ・バリアフリー班研修　5回
- ・イベント班研修　2回
- ・ワークショップ班研修　7回
- ・各種自主企画グループ研修　16回

【生涯学習ボランティアに対する解説会の実施】(以下の展示等につき実施)　計6回
- ・VRシアター「東大寺　大仏の世界」1回
- ・VRシアター「DOGU　縄文人が込めたメッセージ」1回
- ・特別展「空海と密教美術展」1回
- ・特別展特別展「法然と親鸞」1回
- ・特集陳列「天翔ける龍」1回
- ・特集陳列「東京国立博物館コレクションの保存と修理」1回

【京都国立博物館】　計64人

種　別　(登録人数)	概　　要
京都橘大学学生によるアンケートボランティア(18人)	京都橘大学との学術協定に基づき、ボランティアによる観覧者アンケート調査を実施した。 (10月18日から11月11日までの毎週火・水・金曜日)
調査・研究支援ボランティア (22人)	当館研究員が行う収蔵品調査・社寺調査等の調査・研究業務を支援した。
文化財ソムリエ(14人)	「文化財ソムリエ」として登録している大学生・大学院生のボランティアが、当館研究員によるスクーリングを受けたのち、京都市内の小中学校訪問授業において講師をつとめた。(6月13日紫明小学校、7月13日納所小学校、10月3日金閣小学校、10月31日新洞小学校、11月28日蜂ヶ岡中学校、11月30日鷹峯小学校、12月19日一橋小学校) また、建仁寺で23年3月から4月にかけて行われた「綴プロジェクト作品展」(NPO法人京都文化協会主催) にて、キッズプログラム (4月4日) の講師をつとめた。
京都・らくご博物館学生ボランティア (10人)	年2回当館主催で開催する「京都・らくご博物館」において、京都女子大学落語研究会の有志が運営に協力した。

【奈良国立博物館】　計87人

種　別　(登録人数)	概　　要
解説ボランティア (79人)	・展示会場での作品解説　延べ 241日 ・学校団体グループ案内(事前予約受付分　平常展、特別陳列のみ) 27件、1,341人 ・その他団体グループ案内(事前予約受付分　平常展、特別陳列のみ) 25件、　653人 ・講堂での作品解説(正倉院展のみ)　88回(１日4～7回) ・公開講座、サンデートーク等の支援　21回 ・世界遺産学習の対応　34校、2,182人
イベントボランティア(8人)	・当館主催のイベントで受付、会場整理、誘導等を担当　9回

【九州国立博物館】　計　355人

種　別　(登録人数)	概　　要
展示解説ボランティア (84人)	文化交流展示室での案内、及び？ボックスや展示室入口において来館者の質問や案内依頼等に対応。 展示案内は予約団体(一般・学校)、当日受付(個人・グループ)に対応。
教育普及ボランティア (48人)	「あじっぱ」で来館者への対応。 参加体験型のものづくり教室などを企画・実施。 来館者と展示物を介して交流し、体験を通してアジアの文化を伝える。
館内案内ボランティア (31人)	館内の概要・施設案内(ガイド)およびバックヤードツアーの案内。 館内案内は予約団体(一般・学生)、及び当日来館者に対応。 バックヤードツアーも毎週火・金曜は予約団体のみ、日曜は当日受付で実施。
外国語通訳ボランティア (89人)	英語・韓国語・中国語で、館内のガイド、バックヤードツアーの案内、及び 文化交流展示室での展示物解説を行う。

種　別　(登録人数)	概　　要
環境ボランティア (38人)	IPM(総合的有害生物管理)活動に関する支援。
イベントボランティア (10人)	お正月、昭和の日、七夕関連のボランティアイベントの企画・立案・実施。
資料整理ボランティア (20人)	郷土人形(土人形)の調書の作成・データ化。 あじぎゃらでの郷土人形の企画展示。
サポートボランティア (25人)	ボランティア広報紙の作成や他部会のボランティアの活動のサポート。 ボランティア同士の横のつながりや、他館ボランティアとの交流の構築。
学生ボランティア (10人)	他部会のボランティアの活動のサポート。 各種イベントの企画・立案・実施。

・この他、地域の手話ボランティアグループ34名が障がい者対応として活動。
(研修)全体研修3回、部会別研修40回、グループ研修27回
(対応来館者数)展示解説(11,316人)、館内案内(6,738人)、バックヤードツアー(3,082人)

【奈良文化財研究所】　計173人

種　別　(登録人数)	概　　要
解説ボランティア (173人)	平城京跡資料館、遺構展示館、復原建物等の案内・解説

・各種ボランティアに対する学習会等
平城宮跡資料館秋期企画展示研修　3回
〃　　春期企画展示研修　1回
講演形式専門研修　2回
臨地ガイド研修　1回

c 調査研究

c-① 研究交流実績一覧

1) 海外研究者招聘・受入実績（延べ人数）

<table>
<tr><td rowspan="5">国立文化財機構合計</td><td>博物館計</td><td>東京国立博物館</td><td>京都国立博物館</td><td>奈良国立博物館</td><td>九州国立博物館</td></tr>
<tr><td>78 人</td><td>16 人</td><td>21 人</td><td>20 人</td><td>21 人</td></tr>
<tr><td rowspan="3">209 人</td><td>文化財研究所計</td><td colspan="2">東京文化財研究所</td><td colspan="2">奈良文化財研究所</td></tr>
<tr><td>119 人</td><td colspan="2">60 人</td><td colspan="2">59 人</td></tr>
<tr><td>アジア太平洋無形文化遺産研究センター</td></tr>
<tr><td></td><td colspan="5">12 人</td></tr>
</table>

【東京国立博物館】16人

	氏名	国名	所属機関・職名	用務	期間
1	施　遠	中国	上海博物館　工芸研究部　副研究員	東京国立博物館・上海博物館間の学術交流および研究推進のため	4月5日～12日
2	顧　玉才	中国	国家文物局副局長	特別展「甦る中国大文明展」(仮称)打ち合わせおよび視察のため	9月5日～10日
3	王　軍	中国	中国文物交流中心　主任	同上	同上
4	何　暁雷	中国	国家文物局博物館及び社会文物司博物館処　副処長	同上	同上
5	劉　大明	中国	国家文物局督察司督察処　副処長	同上	同上
6	李　微	中国	中国文物交流中心	同上	同上
7	金　恩珍	韓国	大韓民国国立中央博物館国際交流広報課主務官	東京国立博物館・韓国国立中央博物館間の学術交流および研究推進のため	10月25日～11月5日
8	張　恩晶	韓国	大韓民国国立中央博物館遺物管理部学芸研究員	同上	11月7日～20日
9	陳　麗華	中国	故宮博物院　副院長	北京故宮展にかかる意見交換および会場視察	11月7日～12日
10	丁　孟	中国	故宮博物院古器物部副主任	同上	同上
11	王　燕晋	中国	計画財務処副処長	同上	同上
12	馬　海軒	中国	外事処幹部	同上	同上
13	余　輝	中国	故宮博物院科学研究処処長	特別展「北京故宮博物院200選」にかかる国際シンポジウムでの研究発表および意見交換のため	24年1月5日～9日
14	陳　韻如	台湾	(台北)故宮博物院書画処副研究員	同上	同上
15	曹　星原	カナダ	ブリティッシュ・コロンビア大学助教授	同上	24年1月5日～8日
16	マシュー・マッケルウェイ	アメリカ合衆国	コロンビア大学准教授	同上	24年1月7日

【京都国立博物館】　21人

	氏名	国名	所属機関・職名	用務	期間
1	陶為衍 Tao Weiyan	中国	上海　作品出品者	「中国近代絵画と日本」展 作品随伴、開梱チェック	12月18日～22日
2	林毓貞 Lin Yuzhen	中国	上海　作品出品者	同上	同上
3	區碧鴻 Ms. Au Pikhung	中国	香港芸術館　学芸員	同上	12月19日～22日
4	孫 峰 Ms. Sun　feng	中国	上海博物館文化交流室　副研究員	同上	12月23日～28日
5	司徒元傑 Mr. YUENKIT SZETO	中国	香港芸術館　館長	「中国近代絵画と日本」開会式出席、出品作品展示状況チェック、作品調査	24年1月4日～7日
6	王 新華 Ms. Wang Xinhua	中国	上海劉海粟美術館党支部書記兼任副館長	同上	24年1月4日～9日
7	李天垠 Mr. Li Tian yin	中国	北京故宮博物院　館員	同上	同上
8	Peter Y K Lam	中国	香港中文大学文物館　館長	「中国近代絵画と日本」開会式出席、出品作品展示状況チェック、作品調査	24年1月5日～8日
9	徐　鎔 Mr. Xu Rong	中国	上海劉海粟美術館　一級美術師	出品作品展示環境確認	24年1月12日～17日
10	呉 洪亮 Mr. Wu Hongliang	中国	北京画院美術館斉白石紀念館館長	土曜講座講師、作品調査	24年1月19日～25日
11	Michaela Pejcochova	チェコ共和国	プラハ・ナショナルギャラリー研究員	国際シンポジウム研究発表、作品調査	24年2月8日～16日
12	李　偉銘 Mr. Li Weiming	中国	広州美術学院研究員	国際シンポジウム研究発表、作品調査	24年2月9日～15日

13	李　超 Mr. Li Chao	中国	上海大学教授	国際シンポジウム研究発表、作品調査	24年2月9日～16日
14	單 国霖 Mr. Shan Guolin	中国	上海博物館書画研究部主任	土曜講座講師、出品作品展示状況チェック、作品調査	24年2月20日～25日
15	陶喻之 Mr. Tao Yuzhi	中国	上海博物館書画研究部　研究員	作品展示状況チェック、作品梱包立ち会い、作品随伴	24年2月24日～29日
16	張潔 Ms. Zhang Jie	中国	上海博物館文化交流弁公室助理館員	同上	同上
17	戴左海 Mr. Dai Zuohai	中国	劉海粟美術館総務部副主任	同上	同上
18	沈婷婷 Ms. Shen Tingting	中国	劉海粟博物館典蔵部　文博館員	同上	同上
19	傅東光 Mr. Fu Dongguang	中国	北京故宮博物院　学芸員	作品展示状況チェック、作品梱包立ち会い	24年2月25日～3月1日
20	區碧鴻 Ms. Au PikhungTwiggy	中国	香港芸術館　学芸員	作品展示状況チェック、作品梱包立ち会い、作品随伴	24年2月26日～29日
21	Genevieve Lacambre	フランス	所属機関なし	内外伝世品の調査ならびに比較に基づく京都製蒔絵の歴史的研究	24年3月5日～17日

【奈良国立博物館】　延べ　20人

	氏名	国名	所属機関・職名	用務	期間
1	辛　龍飛	韓国	国立慶州博物館	当館との学術交流	7月20日～8月19日
2	郭　青生	中国	上海博物館	同上	9月13日～9月22日
3	陳　菁	中国	上海博物館	同上	同上
4	夏　蓓蓓	中国	上海博物館	同上	同上
5	朴　禎雨	韓国	国立慶州博物館	同上	11月29日～12月26日

・その他招へい

	氏名	国名	所属機関・職名	用務	期間
6	朱　佩	中国	洛陽龍門石窟研究院	中国文明展の作品検品及び展示作業立会	3月26日～4月6日
7	任　磊	中国	河南省平頂山市葉県文化局	同上	同上
8	劉　暁紅	中国	河南省文物考古研究所	同上	同上
9	尤　志遠	中国	河南省文物局	同上	同上
10	張　文軍	中国	河南博物院	中国文明展の開会式出席及び視察	4月1日～4月7日
11	李　玉東	中国	河南省文物局	同上	同上
12	任　暁紅	中国	鄭州市文物局	同上	同上
13	王　永興	中国	洛陽龍門石窟世界文化遺産園区管委会	同上	同上
14	王　綉	中国	洛陽博物館	同上	同上
15	李　景増	中国	商丘市文物局	同上	同上
16	胡　永慶	中国	河南省文物考古研究所	中国文明展の作品検品及び撤収作業立会	5月30日～6月8日
17	張　玉芳	中国	河南省落葉博物館	同上	同上
18	郭　桂玲	中国	河南省済源博物館	同上	同上
19	李　栄勲	韓国	国立慶州博物館	第６３回正倉院展視察及び意見交換	10月27日～10月29日
20	裴　泳一	韓国	国立慶州博物館	第６３回正倉院展視察及び意見交換	10月27日～10月29日

【九州国立博物館】　延べ　21人

	氏名	国名	所属機関・役職	用務	期間	備考
1	Somlux Khamtrong	タイ	文化省芸術局博物館部学芸員	アジア友好日本古美術帰国展「日本とタイーふたつの国の巧と美」にかかる展示作業	4月4日～4月15日	他機関負担
2	Booncharoen Homelakhon	タイ	文化省芸術局考古部	アジア友好日本古美術帰国展「日本とタイーふたつの国の巧と美」にかかる展示作業	4月4日～4月15日	他機関負担
3	Wiparat Prasitarchip	タイ	文化省芸術局博物館部	アジア友好日本古美術帰国展「日本とタイーふたつの国の巧と美」にかかる展示作業	4月6日～4月15日	他機関負担
4	Anandha Chuchoti	タイ	文化省芸術局国立博物館部長	アジア友好日本古美術帰国展「日本とタイーふたつの国の巧と美」にかかる開会式および交流事業協議会出席	4月6日～4月15日	他機関負担
5	Amara Srisuchat	タイ	文化省芸術局専門調査官	アジア友好日本古美術帰国展「日本とタイーふたつの国の巧と美」にかかる開会式および交流事業協議会出席	4月10日～4月13日	他機関負担
6	Mano Kleebthong	タイ	チャンタラカセーム国立博物館主任	アジア友好日本古美術帰国展「日本とタイーふたつの国の巧と美」にかかる開会式および交流事業協議会出席	4月10日～4月13日	他機関負担
7	Tossaporn Srisamarn	タイ	バーンチェン国立博物館主任	アジア友好日本古美術帰国展「日本とタイーふたつの国の巧と美」にかかる開会式および交流事業協議会出席	4月10日～4月13日	他機関負担
8	Pramote Phoodee	タイ	文化省芸術局博物館部	アジア友好日本古美術帰国展「日本とタイーふたつの国の巧と美」にかかる撤収作業	6月5日～6月10日	他機関負担
9	Chalit Singhasiri	タイ	文化省芸術局保存修復部	アジア友好日本古美術帰国展「日本とタイーふたつの国の巧と美」にかかる撤収作業	6月5日～6月10日	他機関負担

	氏名	国名	所属機関・役職	用務	期間	備考
10	李　源福	韓国	国立中央博物館・学芸研究室長	平成23年度外国人芸術家・文化財専門家招へい事業	11月2日～11月6日	他機関負担
11	オーエン・エドワード・ケリー	イギリス	大英博物館・日本絵画保存修理技術者	在外日本古美術品に係る博物館・美術館研究協力事業	11月2日～11月30日	他機関負担
12	青　格勒	中国	巴林右旗博物館・副館長	特別展「草原の王朝　契丹」にかかる展示指導及び学術交流	11月26日～12月5日	他機関負担
13	Vu Quoc Hien	ベトナム	ベトナム国立歴史博物館・副館長	平成25年度開催予定の展覧会に係る協議及び学術交流	24年2月28日～3月3日	他機関負担
14	Nguyen Quoc Binh	ベトナム	ベトナム国立歴史博物館・展示課長	平成25年度開催予定の展覧会に係る協議及び学術交流	24年2月28日～3月3日	他機関負担
15	閔　丙贊	韓国	国立中央博物館・展示課長	国際シンポジウム「百済文化と古代日本～百済研究の新展開」出演	24年3月9日～3月11日	他機関負担
16	李　炳鎬	韓国	国立中央博物館・学芸研究官	国際シンポジウム「百済文化と古代日本～百済研究の新展開」出演	24年3月9日～3月11日	他機関負担
17	金　鍾萬	韓国	国立全州博物館・学芸研究室長	国際シンポジウム「百済文化と古代日本～百済研究の新展開」出演	24年3月9日～3月11日	他機関負担
18	王　奇志	中国	南京博物院・院長助理	平成23年度外国人芸術家・文化財専門家招へい事業	24年3月19日～3月22日	他機関負担
19	陳永志	中国	内蒙古文物考古研究所所長	「九州における対外交流文化財の保存と活用に向けた研究基盤の創設」にかかる共同調査	24年3月18日～3月25日	科学研究費
20	于宝東	中国	内蒙古博物院研究員	「九州における対外交流文化財の保存と活用に向けた研究基盤の創設」にかかる共同調査	24年3月18日～3月25日	科学研究費
21	範　奕瑩	中国	呼和浩特博物館内蒙古壁画保護中心・非常勤職員	紙文化財の保存・修理に関する研修	23年4月25日～24年3月30日	他機関負担

※上記には、他機関が招聘し、九州国立博物館を訪問（滞在）したものや、自己負担での外国人研究者の訪問実績は含んでいない。
※上記には、日本国内の機関（大学、研究所等）に所属する外国人研究者の招聘は含んでいない。

【東京文化財研究所】延べ　60人

	氏名	国名	所属機関・職名	用務	期間
1	Adele Schlombs アデーレ・シュロンプス	ドイツ	ケルン東洋美術館 館長	平成２３年度在外事業に関する協議	5月8日～5月16日
2	Venkatachalam Chandrapandian ヴェンカタチャラム・チャンドラパンディアン	インド	インド考古局科学部ファルダプルフィールド研究室 考古化学監査官代理	「アジャンター壁画の保存修復にむけた専門家会議」の開催、日本・インド事業の打合せおよび遺跡保存に関する意見交換	7月23日～7月28日
3	ABDOLLAHI Parisa アブドゥライ・パリサ	イラン	テヘラン　アザッド大学 講師	国際研修「紙の保存と修復」	8月28日～9月17日
4	KEMPAIAH PUTTASWAMY Madhu Rani ケンパイア・プッタースワーミー・マドゥ・ラニ	インド	インド芸術・文化遺産ナショナルトラスト 保存修復技術者	同上	同上
5	BOUDALIS Georgios ブーダリス・ゲオルギオス	ギリシャ	ビザンチン文化博物館 本・紙保存修復技術者	同上	同上
6	CRESPO Luis クレスポ・ルイス	スペイン	スペイン国立図書館 本・紙保存修復主任技術者	同上	同上
7	GINDROZ Florane ジャンドロ・フロラヌ	スイス	ジュネーブ図書館 修復家/保存修復技術者	同上	同上
8	ODOR CHAVEZ Alejandra オドール・チャベス・アレハンドラ	メキシコ	メキシコ国立公文書館 紙保存修復技術者	同上	同上
9	SNITKUTE Daiva スニトクテ・ダイヴァ	リトアニア	ミカロユス・ コンスタンティナス・チュルリオーニス国立美術館 紙保存修復技術者	同上	同上
10	STIGLITZ Marinita スティグリッツ・マリニタ	イギリス	オックスフォード大学ボドリアン図書館 紙保存修復技術者	同上	同上
11	WITKOWSKA Monika ヴィトコヴスカ・モニカ	フランス	パリ第一大学 学生	同上	同上
12	MAHEUX Anne Frances マウ・アン・フランセス	カナダ	カナダ国立図書館公文書館 紙保存修復技術者	同上	同上
13	Bettina Niekamp ベッティーナ・ニーカンプ	スイス	アベック財団 染織修復長	第３５回文化財の保存および修復に関する国際研究集会における講演	9月2日～9月7日
14	Sharon Sadako Takeda シャローン・サダコ・タケダ	アメリカ	ロサンゼルスカウンティー美術館　染織・服飾部門 部長／上級学芸員	同上	同上
15	Anna Jackson アンナ・ジャクソン	イギリス	ヴィクトリア・アルバート美術館 アジア部門 学芸員	同上	同上
16	Henri Simon アンリ・シモン	フランス	国境なき文化遺産 代表	文化遺産国際協力コンソーシアムシンポジウム「文化遺産を危機から救え～緊急保存の現場から～」における講演	10月14日～10月19日
17		アフガニスタン		文化庁「専門家招へい事業」による招へい （ユネスコ文化遺産保存日本信託基金「バーミヤン遺跡保存事業」にかかる第１０回専門家会議出席）	12月4日～12月8日

	氏名	国名	所属機関・職名	用務	期間
18		アフガニスタン		ユネスコ文化遺産保存日本信託基金「バーミヤン遺跡保存事業」にかかる第１０回専門家会議および一般公開シンポジウムにおける講演	12月4日～12月13日
19		アフガニスタン		同上	12月5日～12月13日
20		アフガニスタン		ユネスコ文化遺産保存日本信託基金「バーミヤン遺跡保存事業」にかかる第１０回専門家会議における講演	12月5日～12月9日
21		アフガニスタン		同上	同上
22		アフガニスタン		同上	同上
23		アフガニスタン		同上	同上
24		アフガニスタン		同上	同上
25		アフガニスタン		ユネスコ文化遺産保存日本信託基金「バーミヤン遺跡保存事業」にかかる第１０回専門家会議	12月5日～12月9日
26	Erwin Emmerling エルウィン・エメリング	ドイツ	ミュンヘン工科大学保存科学部 教授	同上	同上
27	Claudio Margottini クラウディオ・マルゴッティーニ	イタリア	イタリア保護環境研究所・イタリア地質研究所・モデナ大学所属工学地質学者、イタリア環境大臣顧問水文地質学的リスク担当	同上	同上
28	Zemaryalaï Tarzi ゼマリアライ・タルズィ	フランス	ストラスブール大学 教授	ユネスコ文化遺産保存日本信託基金「バーミヤン遺跡保存事業」にかかる第１０回専門家会議および一般公開シンポジウムにおける講演	12月5日～12月10日
29	Michael Petzet マイケル・ペツェット	ドイツ	ドイツICOMOS 会長	同上	12月5日～12月13日
30	Georgios Toubekis ゲオルギオス・トゥベキス	ドイツ	アーヘン工科大学・アーヘン情報管理保存センター 研究員	同上	同上
31	Michael Jansen マイケル・ヤンセン	ドイツ	アーヘン工科大学都市史学部 教授	同上	同上
32	Mounir Bouchenaki ムニール・ブシュナキ	イタリア	イクロム 所長	ユネスコ文化遺産保存日本信託基金「バーミヤン遺跡保存事業」にかかる第１０回専門家会議	12月6日～12月7日
33	Nguyen Hong Anh グエン・ホン・アイン	ベトナム	ハノイ古城コーロア遺跡保存センター 管理人事課長	ユネスコ日本信託基金「タンロン・ハノイ文化遺産群の保存」にかかるベトナム人管理スタッフのための海外スタディーツアー	24年1月12日～1月17日
34	Vu Thieu Hoaブ・チエウ・ホア	ベトナム	ハノイ古城コーロア遺跡保存センター　情報コミュニケーション課次長	同上	同上
35	Alfitri アルフィトリィ	インドネシア	アンダラス大学 社会政治学部長	インドネシア・西スマトラ州パダンにおける歴史的地区文化遺産復興支援（専門家交流）にかかる我が国の文化遺産防災対策についての意見交換及び現場視察	24年1月19日～1月25日
36	Roseri Rosdy Putri ロゼリ・ロスディ・プトリィ	インドネシア	歴史考古総局 修復課長	同上	同上
37	Rita Maria Rosari リタ・マリア・ロザリ	インドネシア	歴史考古総局 水中考古学および植民地期担当局保存課長	同上	同上
38	Rohilfa Riza ロフィルファ・リザ	インドネシア	バトゥサンカル遺跡保存事務所 修復課 職員	同上	同上
39	Soni Prasetia Wibawa ソニ・プラセチア・ウィバワ	インドネシア	セラン考古遺産事務所 技官	煉瓦造文化財の保存に関する共同研究	24年1月30日～2月4日
40	Saneh　Mahaphol サネー・マハポル	タイ	タイ国立博物館保存科学部門 保存担当官	同上	同上
41	Chaiyanand　Busayarat チャイヤナンド・ブサヤラット	タイ	アユタヤ歴史公園 部長	同上	同上
42	Nguyen Tien Hung グエン・ティエン・フン	ベトナム	ベトナム社会科学院都城研究センター 研究員	ユネスコ日本信託基金「タンロン・ハノイ文化遺産群の保存」にかかる保存科学研修	24年1月30日～2月11日
43	Le Dinh Ngoc レ・ディン・ゴック	ベトナム	ベトナム社会科学院都城研究センター 研究員	同上	同上
44	Volker Koesling フォルカー・キースリング	ドイツ	ドイツ技術博物館 修復部門責任者	平成２３年度近代文化遺産研究室研究会「近代建築に使用されている油性塗料に関して」における講演	24年2月7日～2月11日

	氏名	国名	所属機関・職名	用務	期間
45	Regina Ng Bélard レジーナ・Ng・ベラルド	アメリカ	フリーアギャラリーとアーサー・M・サックラーギャラリー、スミソニアン 保存修復技術者	海外における日本の装こう修理技術利用に関する研究会講演、調査研究および視察	24年2月14日～2月17日
46	Luis Crespo ルイス・クレスポ	スペイン	スペイン国立図書館 本・紙保存修復主任技術者	同上	24年2月14日～2月18日
47	Yelena Levon Atoyants イェレナ・レヴォン・アトヤンツ	アルメニア	アルメニア歴史博物館 博物館遺物修復室長	文化庁「アジア博物館,美術館交流事業」による招へい （アルメニア歴史博物館所蔵の金属遺物の保存修復・調査研究事業にかかる意見交換）	24年2月26日～3月3日
48	丁　淑君 Shujun Ding　ディン・シュジュン	中国	敦煌研究院保護研究所 館員	諸外国の文化財保存専門家養成	24年2月27日～3月20日
49	于　宗仁 Zongren　Yu　ユー・ゾンレン	中国	敦煌研究院保護研究所 館員	同上	同上
50	孫　勝利 Shengli Sun　スン・シォンリー	中国	敦煌研究院保護研究所 館員	同上	同上
51	Melanie Trede メラニー・トレーデ	ドイツ	ハイデルベルグ大学 教授	八幡縁起絵巻に関する講演会および部内討議への参加	24年3月2日～3月9日
52	Galbadrakh Enkhbat ガルバドラフ・エンフバット	モンゴル	モンゴル国立文化遺産センター センター長	石質文化財保存に関する遺跡現地での活動に関する研究会および今後についての協議、情報交換	24年3月9日～3月15日
53	Samdan Chinzorig サムダン・チンゾリグ	モンゴル	モンゴル国立文化遺産センター 文化遺産修復保存室長	同上	同上
54	Byambasuren Davaatseren ビャムバスレン・ダヴァーツェレン	モンゴル	モンゴル国立文化遺産センター 不動産文化財専門家	同上	同上
55	Nguyen Tien Hung グエン・ティエン・フン	ベトナム	ベトナム社会科学院都城研究センター 研究員	ユネスコ日本信託基金「タンロン・ハノイ文化遺産群の保存」にかかる出土木材遺物の保存手法に関する意見交換および日本国内における遺構保存事例、博物館展示事例等の視察	24年3月12日～3月20日
56	Le Dinh Ngoc レ・ディン・ゴック	ベトナム	ベトナム社会科学院都城研究センター 研究員	同上	同上
57	Mark Woodward マーク・ウッドワード	フィリピン	世界銀行 サステイナブルディベロップメントリーダー	文化遺産国際協力コンソーシアム第10回研究会「文化遺産保護の国際動向」における講演	24年3月14日～3月17日
58	Ainura　Tentieva アイヌラ・テンティエヴァ	キルギス	キルギス・イコモス専門家	［キルギス共和国及び中央アジア諸国における文化遺産保護に関する拠点交流事業」にかかる「キルギスの文化遺産」研究会および来年度以降の打合せ	24年3月14日～3月19日
59	Bakyt Amanbaeva バキット・アマンバエヴァ	キルギス	キルギス共和国国立科学アカデミー歴史文化遺産研究所 文化遺産研究部長	同上	同上
60	Aidai Sulaimanova アイダイ・スレイマノヴァ	キルギス	キルギス共和国国立科学アカデミー歴史文化遺産研究所 研究員	同上	同上

【奈良文化財研究所】延べ59人

	氏名	国名	所属機関・職名	用務	期間
1	銭　国　祥	中国	中国社会科学院考古研究所・洛陽站長	日本考古学協会で発表	5月27日～5月30日
2	王　睿	中国	中国社会科学院考古研究所・助理研究員	同上	同上
3	孫　英民	中国	河南省文物局・副局長	国際共同研究	10月18日～10月27日
4	孔　徳超	中国	河南省文物考古研究所・副所長	同上	同上
5	楊　文勝	中国	河南省文物考古研究所・所長助理	同上	同上
6	武　志江	中国	河南省文物考古研究所・館員	同上	同上
7	宋　智生	中国	河南省文物考古研究所・館員	同上	同上
8	権　宅章	韓国	国立慶州文化財研究所・学芸研究士	発掘調査交流	10月24日～12月2日
9	銭　国　祥	中国	中国社会科学院考古研究所・洛陽站長	共同研究にかかる打ち合わせ及び講演	平成24年2月27日～3月4日
10	朱　岩　石	中国	中国社会科学院考古研究所・漢唐考古研究室主任	同上	同上
11	汪　盈	韓国	中国社会科学院考古研究所・漢唐考古研究室主任	同上	同上
12	Do Thi Ngoc Bic	ベトナム	ベトナム林業大学・工科国際部副部長	文化財保存に関する共同研究	平成24年3月12日～3月20日
13	Le Xusan Phuong	ベトナム	ベトナム林業大学・林産試験センター長	同上	同上
14	Thavy Saronich	カンボジア	王立芸術大学卒業生	共同研究	平成24年3月20日～3月28日
15	Khom Polin	カンボジア	王立芸術大学卒業生	同上	同上
16	Lam Socheata	カンボジア	王立芸術大学卒業生	同上	同上

	氏名	国名	所属機関・職名	用務	期間
17	韓国国立文化財研究所長　　他５名	韓国	韓国国立文化財研究所	研究施設見学	4月11日～4月14日
18	B.ルーシュ	アメリカ	コロンビア大学	コロンビア大学中世日本研究所および建築・計画・保存大学院との共同研究覚書締結	4月22日
19	インドネシア　3名	インドネシア		ACCU個人研修「木造建造物の保存・修復」	7月5日～8月4日
20	Dr.Tarek El Awady	エジプト	エジプト博物館館長	表敬訪問と研究施設見学	7月6日
21	Dr.Ayman Hamed	エジプト	エジプト博物館修復保存科学担当	同上	同上
22	Dr.Sayed Abd El Gawad	エジプト	観光省副長官	同上	同上
23	中華人民共和国　7名	中国		東アジアにおける法の継授と想像」セミナーのエクスカーション	7月25日
24	大韓民国　5名	韓国		同上	同上
25	Le Huy Hoang 他６名	ベトナム	ベトナム社会科学院教授	「京都とフェ：文化遺産と観光発展の比較研究」に関する現況調査	8月2日
26	アジア太平洋各国　16名	アジア太平洋各国		ＡＣＣＵ集団研修「木造建造物の保存・修復」	8月30日～9月29日
27	Angela Perri	イギリス	ダーラム大学ＰＤ	学術振興会による研究交流	10月1日～12月10日
28	Otabek Aripdjanov	ウズベキスタン	ウズベキスタン国立歴史博物館副館長	国際交流基金の知的交流フェローシップ事業による在外研修	10月1日～12月15日
29	PALIDA CHANPRASERT　他19名	タイ	チェンマイ大学日本語学科学生	２１世紀東アジア青少年大交流事業	10月24日
30	Willem van der Molen	オランダ	オランダ王立東南アジア・カリブ研究所　研究員	視察	11月14日
31	ALI Md.Mohshin	バングラディッシュ		ＯＤＡにおける環境影響評価（持続可能な開発のための環境アソスメント研修）の「奈良県における文化財保護」の講義および現地視察	11月18日
32	CHHIM Phalla	カンボジア		同上	同上
33	BERMUDEZ VIVES Pablo Andres	コスタリカ		同上	同上
34	ELBESHISHI Mahmoud Fetouch	エジプト		同上	同上
35	MUHAMAD Nino	インドネシア		同上	同上
36	CHALIK Andry Chresna	インドネシア		同上	同上
37	KIPSEBA Enoch Kiptoo	ケニア		同上	同上
38	WERE Willice Omondi	ケニア		同上	同上
39	LAWAL Maroof Kola	ナイジェリア		同上	同上
40	APAKA Walimu	パプア・ニューギニア		同上	同上
41	SOTO TORRES Raquel Hilianova	ペルー		同上	同上
42	ALKHALIFA Abdelrahman	スーダン		同上	同上
43	KONDO Ally Kassim	タンザニア		同上	同上
44	BASOMA Moses	ウガンダ		同上	同上
45	NGUYEN Trung Thanh	ベトナム		同上	同上
46	BUL Dung Phuong My	ベトナム		同上	同上
47	UNESCO　22名			バーミヤン遺跡保存に関する専門家会議とシンポジウムにおける奈良視察	12月12日
48	Martin Carver	イギリス		視察	平成24年1月10日
49	Nguen Hong Anh	ベトナム		ベトナム・タンロン皇城跡保存研究センターより研修	平成24年1月12日～1月17日
50	Vu Thieu Hoa	ベトナム		同上	同上
51	Nguyen Tien Hung	ベトナム		ベトナム・都城研究センターより研修	平成24年1月30日～2月20日
52	Le Dinh Ngoc	ベトナム		同上	同上
53	Mr. TAHA Hamdan M.M.	パレスチナ	観光遺跡庁副大臣補	平成23年度(国別研修)パレスチナ「観光開発」	平成24年2月2日
54	Mr. HUSSEIN Hansan S.I.	パレスチナ	ジェリコ市長	同上	同上
55	イギリス他各国　5名			立命館大学主催国際シンポジウム参加者のエクスカーション	平成24年3月19日
56	Do Thi Ngoc Bich	ベトナム		ベトナム林業大学とのタンロン遺跡保存のための共同研究	平成24年3月12日～3月21日
57	Le Xuan Phuong	ベトナム		同上	同上
58	金　聖範	韓国		木簡研究の打ち合わせ及び資料調査	平成24年3月26日～3月29日
59	権　宅章	韓国		同上	同上

【アジア太平洋無形文化遺産研究センター】延べ12人

	氏名	国名	所属機関・職名	用務	期間
1	Itonga Natan	キリバス自治国	Culture Center & Museum, Ministry of Internal & Socail Affairs ,Kiribati・Cultural Officer	アジア太平洋無形文化遺産研究センター開設記念シンポジウムにおけるパネリスト出席	9月29日～10月11日（シンポジウム開催日10月4日）
2	Timothy Curtis	タイ王国	UNESCO Office in Bangkok・Programme Specailist for Culture	アジア太平洋無形文化遺産研究センター運営理事会及び開設記念式典にユネスコ事務局代表代理出席	10月2日～10月4日（開催日10月3日）

	氏名	国名	所属機関・職名	用務	期間
3	王　漢傑	中華人民共和国	中国文化部対外文化連絡局・国際処長	アジア太平洋無形文化遺産研究センター運営理事会及び開設記念式典等に中国政府代表（理事）出席	10月2日～10月5日（開催日10月3日）
4	Yi Kyung-hoon	大韓民国	館国文化財庁国際交流課・課長	アジア太平洋無形文化遺産研究センター運営理事会及び開設記念式典等に韓国政府代表（理事）出席	10月2日～10月5日（開催日10月3日）
5	San-Ang Sam	カンボジア国	Ministry of Culture and Fine Arts・Advisor	アジア太平洋無形文化遺産研究センター開設記念シンポジウムにおけるパネリスト出席	10月3日～10月5日（シンポジウム開催日10月4日）
6	Harriet Jane Deacon	イギリス国	Cultural Heritage・Researcher	The First Intensive Researchers Meeting on Communities and the 2003 Convention出席	24年3月1日～3月5日（開催日24年3月3日～3月4日）
7	Matsje Postma	オランダ国	Institute of Cultural Anthrolopology Development Sociology,Leiden University・Lecturer	The First Intensive Researchers Meeting on Communities and the 2003 Convention出席	24年3月1日～3月5日（開催日24年3月3日～3月4日）
8	Wim Van Zanten	オランダ国	Institute of Cultural Anthrolopology Development Sociology,Leiden University・Guest staff member	The First Intensive Researchers Meeting on Communities and the 2003 Convention出席	24年3月1日～3月5日（開催日24年3月3日～3月4日）
9	Luke Taylor	オーストラリア国	Australian Institute of Aboliginal and Torres Strait Inlander Studies ・ Deputy Principal	The First Intensive Researchers Meeting on Communities and the 2003 Convention出席	24年3月1日～3月6日（開催日24年3月3日～3月4日）
10	Laurajane Smith	オーストラリア国	School of Archaeology and Anthropology,Austrarian National University・Research Academic	The First Intensive Researchers Meeting on Communities and the 2003 Convention出席	24年3月1日～3月6日（開催日24年3月3日～3月4日）
11	Shubha Chaudhuri	インド国	Archives and Research Centre for Ethnomusicology, An¥merican Institute of Indian Studies ・Associate Director General	The First Intensive Researchers Meeting on Communities and the 2003 Convention出席	24年3月1日～3月5日（開催日24年3月3日～3月4日）
12	Gopalannair Venu	インド国	Natana Kairali・Director	The First Intensive Researchers Meeting on Communities and the 2003 Convention出席	24年3月1日～3月5日（開催日24年3月3日～3月4日）

2）他機関の共同研究への参画実績

科学研究費補助金の研究分担者等として参画（延べ人数）

国立文化財機構合計	博物館計	東京国立博物館	京都国立博物館	奈良国立博物館	九州国立博物館
78人	45 人	13人	14人	9人	9人
	文化財研究所計	東京文化財研究所		奈良文化財研究所	
	32 人	14人		18人	
	アジア太平洋無形文化遺産研究センター				
	1 人				

【東京国立博物館】延べ13人

	機関名	研究課題	研究代表者名	分担者名
1	法政大学	欧州の博物館等保管の日本仏教美術資料の悉皆調査とそれによる日本及び日本観の研究	法政大学教授 クライナー　ヨーゼフ	副館長　島谷 弘幸
2	法政大学	欧州の博物館等保管の日本仏教美術資料の悉皆調査とそれによる日本及び日本観の研究	法政大学教授 クライナー　ヨーゼフ	博物館教育課教育普及室長伊藤　信二
3	国立歴史民族博物館	デジタル化された歴史研究情報の高度利用に関する研究	鈴木卓治	博物館情報課情報管理室長村田　良二
4	明治大学研究・知財戦略機構「文部科学省私立大学戦略的研究基盤形成支援事業」	「ヒト―資源環境系の歴史的変遷に基づく先史時代人類誌の構築」	明治大学研究・知財戦略機構特任教授　小野　昭	列品管理課登録室アソシエイトフェロー　及川穣
5	東京大学史料編纂所	学術創成研究「目録学の構築と古典学の再生―天皇家・公家文庫の実態復原と伝統的知識体系の解明―」	同所　教授　田島 公	調査研究課長　田良島 哲
6	文化女子大学文化ファッション研究機構	近世・近代風俗画における服飾表現に関する分野横断的研究―小袖及び着物の編年的研究への絵画研究の活用―	共立女子大学教授　長崎 巌	調査研究課絵画・彫刻室長　田沢 裕賀
7	千葉大学	科学研究費補助金基盤研究（Ｂ）「絵巻に描かれた「場」と「もの」に見る中世日本の重層的世界観に関する研究」	池田忍	調査研究課絵画・彫刻室研究員　土屋 貴裕
8	東京文化財研究所	科学研究費補助金基盤研究（Ｂ）「諸先学の作品調書・画像資料類の保存と活用のための研究・開発」	田中淳	調査研究課絵画・彫刻室研究員　土屋 貴裕
9	人間文化研究機構国立民族学博物館	有形文化資源の共同利用を推進するための資料管理基盤形成	教授　園田 直子	保存修復課長　神庭 信幸
10	人間文化研究機構国立民族学博物館	有形文化資源の共同利用を推進するための資料管理基盤形成	教授　園田 直子	保存修復課環境保存室主任研究員　荒木 臣紀
11	人間文化研究機構国立民族学博物館	有形文化資源の共同利用を推進するための資料管理基盤形成	教授　園田 直子	保存修復課環境保存室主任研究員　和田 浩
12	人間文化研究機構国立歴史民俗博物館	洛中洛外図屏風歴博甲本の総合的研究	教授　小島 道裕	保存修復課長　神庭 信幸
13	東京藝術大学	東京美術学校西洋画科卒業制作作品・自画像の技法材料、保存修復に関する基礎的研究VII	大学院絵画科油画技法材料研究室大学院美術研究科兼任教授　佐藤一郎	保存修復課保存修復室主任研究員　土屋 裕子

【京都国立博物館】延べ14人

	機関名	研究課題	研究代表者名	分担者名
1	大阪大学	南アジアおよび東南アジアにおけるデーヴァラージャ信仰とその造形に関する基礎的研究	名誉教授　肥塚隆	学芸部連携協力室主任研究員　浅湫毅
2	成城大学	金剛寺所蔵典籍の集約的調査と研究－聖教の形成と伝播把握を基軸として	教授　後藤昭雄	学芸部上席研究員　赤尾栄慶
3	北海道大学	漢字文化圏における典籍の集積、国際伝播及びその伝承に関する実証的研究	名誉教授　石塚晴通	学芸部上席研究員　赤尾栄慶
4	日本女子大学	蝋管を中心とした初期録音資料の音源保存・音声復元・内容分析に関する横断的研究	教授　清水康行	学芸部保存修理指導室長　村上隆
5	東京国立博物館	東アジアの書道史における料紙と書風に関する調査研究	学芸研究部長　島谷弘幸	学芸部上席研究員　赤尾栄慶 学芸部企画室研究員　羽田聡
6	東京国立博物館	板谷家を中心とした江戸幕府御用絵師に関する総合的研究	学芸研究部絵画・彫刻室長　田沢裕賀	学芸部連携協力室長　山下善也
7	大阪大谷大学	根来寺聖教の基礎的研究－智積院聖教を中心に－	教授　宇都宮啓吾	学芸部上席研究員　赤尾栄慶 学芸部企画室研究員　羽田聡
8	東京大学東洋文化研究所	美術に即した文化的・国家的自己同一性の追求・形成の研究－全アジアから世界へ	教授　小川裕充	学芸部長　西上実 学芸部美術室研究員　呉孟晋
9	北海道大学	漢字字体規範史研究　第二期	名誉教授　石塚晴通	学芸部上席研究員　赤尾栄慶
10	財団法人大阪市博物館協会大阪文化財研究所	京焼の技術系譜をめぐる関西陶磁の成立と展開に関する美術工芸史・考古学の総合的研究	調査課東淀川調査事務所長佐藤隆	学芸部工芸室長　尾野善裕
11	学習院大学	大画面説話画の総合研究	教授　佐野みどり	学芸部企画室研究員　大原嘉豊
12	島根大学	出雲鰐淵寺の歴史的・総合的研究	名誉教授　井上寛司	学芸部連携協力室主任研究員　浅湫毅
13	国際仏教学大学院大学	東アジア仏教写本研究拠点の形成	教授　落合俊典	学芸部上席研究員　赤尾栄慶
14	法政大学	欧州の博物館等保管の日本仏教美術資料の悉皆調査とそれによる日本及び日本観の研究	国際日本学研究所兼担所員 ヨーゼフ・クライナー	学芸部上席研究員　赤尾栄慶

【奈良国立博物館】延べ9人

	機関名	研究課題	研究代表者名	分担者名
1	筑波大学	東国地域及び東アジア諸国における前近代文書等の形態・料紙に関する基礎的研究	教授　山本 隆志	館長　湯山 賢一
2	種智院大学	インド文化圏における仏塔の総合的研究	学長　頼富 本宏	学芸部工芸考古室長　内藤 榮
3	福山市立大学	「ＥＳＤ」にアプローチする「地域・世界遺産教育」の創造	教授　田渕　五十生	学芸部長　西山　厚
4	福山市立大学	「ＥＳＤ」にアプローチする「地域・世界遺産教育」の創造	教授　田渕　五十生	学芸部教育室長　吉澤　悟
5	九州大学	南宋絵画史における仏画の位相－都と地域、中国と周縁－	教授　井手　誠之輔	学芸部保存修理指導室長 谷口　耕生
6	学習院大学	大画面説話画の総合研究	教授　佐野みどり	学芸部保存修理指導室長 谷口　耕生
7	京都大学	美術史における転換期の諸相	教授　根立　研介	学芸部企画室長　稲本　泰生
8	茨城大学	「常陸国風土記」にみえる律令期以前の歴史的景観復原に関する実証的研究	准教授　田中　裕	学芸部教育室長　吉澤　悟
9	大阪大学	科学的調査に基づく半跏思惟像の日韓共同研究	教授　藤岡　穣	学芸部企画室長　稲本　泰生

【九州国立博物館】延べ　9人

	機関名	研究課題	研究代表者名	分担者名
1	岡山大学	副葬品の構造・材質・色彩からみた古墳葬送空間の再現的研究	大学院社会文化科学研究科教授　松木武彦	博物館科学課 環境保全室長　今津　節生
2	同上	同上	同上	文化財課資料登録室 主任研究員　鳥越　俊行
3	関西大学	飛鳥・川原寺裏山遺跡の総合的研究－出土品から見た川原寺の特質－	文学部教授　米田文孝	企画課特別展室 研究員　市元　塁
4	龍谷大学	ガンダーラ美術の資料集成とその統合的研究	文学部教授　宮治　昭	企画課長　小泉　惠英
5	大阪大学	南アジアおよび東南アジアにおけるデーヴァラージャ信仰とその造形に関する基礎的研究	名誉教授　肥塚　隆	文化財課資料登録室 主任研究員　原田　あゆみ （研究協力者）
6	東京大学史料編纂所	対馬宗家文書の料紙研究	富山大学名誉教授　富田正弘	博物館科学課 保存修復室長　藤田　励夫
7	同上	古文書料紙の物理的手法による調査研究－上杉家文書による戦国期料紙の再検討-	米沢市上杉博物館主幹　角屋由美子	博物館科学課 保存修復室長　藤田　励夫
8	東京藝術大学	絵画に生じた結晶様物質に関する研究　-顔料と媒剤の関連性および修復処置について-	非常勤講師　鈴鴨富士子	博物館科学課アソシエイトフェロー　秋山純子
9	明治大学	虎塚古墳壁画の保存	文学部教授　矢島國雄	博物館科学課長　本田光子

【東京文化財研究所】延べ14人

	機関名	研究課題	研究代表者名	分担者名
1	大谷大学	世界遺産エルデニゾー僧院に関する総合的研究－過去の復元から未来への保存へ－	大谷大学文学部教授　松川　節	企画情報部 情報システム研究室長 二神　葉子
2	東京大学	「地図史料学の構築」の新展開－科学的調査・復元研究・データベース－	東京大学史料編纂所 准教授　杉本　史子	保存修復科学センター 分析科学研究室長　早川　泰弘
3	弘前大学	中近世北方交易と蝦夷地の内国化に関する研究	弘前大学人文学部 教授　関根　達人	保存修復科学センター 伝統技術研究室長　北野　信彦
4	東京大学	観世文庫所蔵能楽関係資料のデジタル･アーカイブを活用した新しい能楽史の構築	東京大学大学院総合文化研究科 教授　松岡　心平	無形文化遺産部 無形文化財研究室長 高桑　いづみ
5	広島市立大学	ヒマラヤを越え河西回廊に伝わった密教的造形と表現、その表象芸術に関する研究	広島市立大学芸術学部 教授　服部　等作	客員研究員（名誉研究員） 中野　照男
6	早稲田大学	未翻刻浄瑠璃本の網羅的調査・翻刻と複次的活用・公開に向けての基礎的研究	早稲田大学演劇博物館 名誉教授　鳥越　文蔵	無形文化遺産部 音声・映像記録研究室長 飯島　満
7	京都大学	ミリ波イメージング技術による木質文化財の生物劣化の非破壊診断装置の開発	京都大学農学研究科 准教授　藤井　義久	保存修復科学センター 生物科学研究室長　木川　りか
8	筑波大学	中近東･北アフリカにおけるビザンティン建築遺産の記録、保存、公開に関する研究	筑波大学大学院 人間総合科学研究科 教授　日高　健一郎	保存修復科学センター長 石崎　武志
9	徳島文理大学	タンロン皇城遺跡の保存活用に関する包括的調査研究	徳島文理大学文学部 教授　清水　真一	文化遺産国際協力センター 保存計画研究室長　友田　正彦
10	東北大学	生身と霊験―宗教的意味を踏まえた仏像の基礎的調査研究	東北大学大学院文学研究科 名誉教授　有賀　祥隆	企画情報部 文化財アーカイブス研究室長 津田　徹英
11	明治大学	茨城県ひたちなか市虎塚古墳の保存に関する総合的研究	明治大学文学部 教授　矢島　國雄	保存修復科学センター 主任研究員　犬塚　将英
12	東京藝術大学	迎賓館赤坂離宮天井絵画修復事業に関わる損傷と劣化原因の解明	東京藝術大学大学院美術研究科 教授　木島　隆康	企画情報部 近・現代視覚芸術研究室長 山梨　絵美子
13	九州大学	未解読楽譜のデータベース化に関する総合的研究	九州大学芸術工学研究院 准教授　矢向　正人	無形文化遺産部 無形文化財研究室長 高桑　いづみ
14	茨城大学	微生物細胞内共生工学の基盤技術開発	茨城大学農学部 教授　太田　寛行	保存修復科学センター 研究員　佐藤　嘉則

【奈良文化財研究所】延べ18人

○科学研究費補助金　延べ17人

	機関名	研究課題	代表者名	分担者名
1	東京大学	目録学の構築と古典学の再生-天皇家・公家文庫の実態復原と伝統的知識体系の解明-	教授　田島　公	都城発掘調査部史料研究室長 渡邉 晃宏
2	同志社大学	東北アジアにおける古環境変動と旧石器編年に関する基礎的研究	教授　松藤　和人	企画調整部主任研究員 加藤 真二
3	奈良大学	東アジア木簡学の確立	教授　角谷　常子	都城発掘調査部史料研究室長 渡邉 晃宏
4	徳島文理大学	タンロン皇城遺跡の保存活用に関する包括的調査研究	教授　清水　真一	埋蔵文化財センター保存修復科学研究室長　高妻　洋成
5	歴史民俗博物館	日本産樹木年輪による炭素14年代の高精度較正曲線の作成	准教授　坂本　稔	埋蔵文化財センター客員研究員 光谷　拓実
6	東京大学	ボーンデジタル画像管理システムの確立に基づく歴史史料情報の高度化と構造転換の研究	教授　山家　浩樹	都城発掘調査部主任研究員 馬場　基
7	独立行政法人国立科学博物館	徳川将軍親族遺体のデジタル保存と考古学的・人類学的分析-大奥の実態に迫る-	部長　馬場　悠男	埋蔵文化財センター長 松井 章
8	歴史民俗博物館	考古学と人類学のコラボレーションによる縄文社会の総合的研究	教授　山田　康弘	埋蔵文化財センター環境考古学研究室研究員　山崎 健
9	歴史民俗博物館	考古学と人類学のコラボレーションによる縄文社会の総合的研究	教授　山田　康弘	埋蔵文化財センター客員研究員 茂原 信生
10	山梨県立博物館	日韓内陸地域における雑穀農耕の起源に関する科学的研究	学芸課長　中山　誠二	都城発掘調査部考古第一研究室 研究員　庄田　慎矢
11	北陸学院大学	形・作りとスス・コゲからみた縄文・弥生土器、土師器による調理方法	教授　小林　正史	都城発掘調査部考古第一研究室 研究員　庄田　慎矢
12	神戸女子大学	能・狂言面の創出と派生に関する学際的研究	教授　大谷 節子	埋蔵文化財センター保存修復科学研究室長　高妻　洋成
13	新潟県立看護大学	韓国出土古人骨の形質人類学的研究	准教授　藤田　尚	都城発掘調査部考古第一研究室 研究員　庄田　慎矢
14	立命館大学	『日本霊異記』の文献・書誌及び歴史地理的検討による古代社会像の再構築	教授　本郷　真紹	都城発掘調査部主任研究員 山本 崇
15	鹿児島大学	考古学と地下探査の協同による近世薩摩焼研究再構築のための基礎的研究	教授　渡辺　芳郎	埋蔵文化財センター主任研究員 金田 明大
16	東北大学	長期標準年輪曲線の広域ネットワーク拡充とそれに基づく木材産地推定法の検討	助教　大山　幹成	埋蔵文化財センター客員研究員 藤井 裕之
17	奈良産業大学	正倉院文書による日本語表記成立過程の解明	准教授　桑原　祐子	都城発掘調査部歴史研究室長 渡邉 晃宏

○学術研究助成基金助成金　延べ1人

	機関名	研究課題	代表者名	分担者名
1	北海道大学	ヘリテージツーリズムによる地域の文化遺産マネジメントに関する研究	特任助教　池ノ上　真一	企画調整部国際遺跡研究室特別研究員（AF）　田代　亜紀子

【アジア太平洋無形文化遺産研究センター】延べ1人

	機関名	研究課題	研究代表者名	分担者名
1	金沢大学	伝統音楽における音程の移動パターンに関する研究	教授　中村慎一	研究補佐員　淑瑠ラフマン

3）研究者海外派遣実績（延べ人数）

国立文化財機構合計	博物館計	東京国立博物館	京都国立博物館	奈良国立博物館	九州国立博物館
477人	148 人	48人	25人	19人	56人
	文化財研究所計	東京文化財研究所		奈良文化財研究所	
	314 人	126人		188人	
	アジア太平洋無形文化遺産研究センター				
	15 人				

【東京国立博物館】延べ　48人（先方負担を除く）

○海外交流展経費・国際交流費　23人

	氏名	用務先	期間	用務	備考
1	鬼頭　智美	フランス	4月5～12日	国際展覧会オーガナイザー会議出席およびパリ市内文化施設視察のため	職員旅費（国際交流費）
2	遠藤　楽子	英国	6月21～27日	ロンドン市内博物館訪問・展覧会に関する面談・意見交換のため	職員旅費(海外交流展経費)
3	小山　弓弦葉	アメリカ合衆国	6月28日～7月3日	海外展関係調査のため	職員旅費（海外交流展経費）
4	小林　牧	韓国	7月6～15日	日本・韓国間の学術情報交流ならびに研究推進のため	職員旅費（国際交流費）※一部先方負担(韓国国立中央博物館)
5	松本　伸之	中国	7月11～14日	特別展「誕生！中国文明展」御礼のため	職員旅費(海外交流展経費)
6	鬼頭　智美	中国	9月21～25日	第３回アジア国立博物館協会（ANMA）定期大会出席のため	職員旅費（国際交流費）
7	楊　鋭	中国	9月21～25日	同上	同上
8	松本　伸之	中国	9月22～25日	同上	同上
9	藤田　千織	アメリカ合衆国	11月7～14日	ヒューストン美術館日本室開室記念「洗練の美：東京国立博物館蔵　宮廷美術と宗教美術」展準備打ち合わせのため	職員旅費（海外交流展経費）※一部先方負担（ヒューストン美術館）
10	鬼頭　智美	アメリカ合衆国	11月9～14日	同上	同上
11	遠藤　楽子	アメリカ合衆国	11月7～13日	サンフランシスコアジア美術館での国際フォーラム参加、調査のため	職員旅費（国際交流費）※一部先方負担(アジアファンデーション、サンフランシスコアジア美術館)
12	古谷　毅	韓国	11月28日～12月8日	日本・韓国間の学術交流ならびに研究推進のため	職員旅費（国際交流費）※一部先方負担(韓国国立中央博物館)
13	伊藤　信二	アメリカ合衆国	24年2月6～23日	ヒューストン美術館日本室開室記念「洗練の美：東京国立博物館蔵　宮廷美術と宗教美術」展にかかる作品輸送立会い及び陳列作業のため	職員旅費（海外交流展経費）※一部先方負担（ヒューストン美術館）
14	田沢　裕賀	アメリカ合衆国	24年2月7～15日	同上	同上 ※一部先方負担（ヒューストン美術館）
15	楊　鋭	台湾	24年2月7～9日	台北故宮博物院における会議出席のため	職員旅費（海外交流展経費）
16	鬼頭　智美	アメリカ合衆国	24年2月13～24日	ヒューストン美術館日本室開室記念展および「クリーブランド美術館展（仮称）」のための打ち合わせのため	職員旅費（海外交流展経費）※一部先方負担（ヒューストン美術館）
17	白井　克也	ドイツ	24年2月18～26日	140周年特集陳列にかかる事前調査のため	職員旅費（海外交流展経費）
18	松嶋　雅人	アメリカ合衆国	24年2月19～24日	2014年特別展「クリーブランド美術館展（仮称）」開催のための打合せおよび作品調査のため	職員旅費（海外交流展経費）
19	楊　鋭	台湾	24年3月1～4日	中国美術館精品展（仮称）にかかる調査、打ち合わせのため	職員旅費（海外交流展経費）※一部先方負担（中国美術館）
20	松本　伸之	中国	24年3月20～22日	特別展「北京故宮博物院２００選」の御礼及び今後の中国展の依頼のため	職員旅費（海外交流展経費）
21	楊　鋭	中国	24年3月20～22日	同上	職員旅費（海外交流展経費）
22	井上　洋一	中国	24年3月31日～4月9日	日本・中国間の学術交流ならびに研究推進のため	職員旅費（国際交流費）※一部先方負担(上海博物館)
23	楊　鋭	中国	24年3月31日～4月9日	同上	同上

○職員旅費（その他）：延べ5人

	氏名	用務先	期間	用務	備考
1	島谷　弘幸	中国	9月23～25日	特別展「王羲之とその系譜」の事前交渉	総務課運営費 一部先方負担(毎日新聞社)
2	島谷　弘幸	アメリカ合衆国	11月7～10日	サンフランシスコアジア美術館での国際フォーラム参加、調査のため	総務課運営費 一部先方負担(アジアファンデーション、サンフランシスコアジア

	氏名	用務先	期間	用務	備考
					美術館)
3	島谷　弘幸	アメリカ合衆国	11月10～14日	ヒューストン美術館日本室開室記念「洗練の美：東京国立博物館蔵　宮廷美術と宗教美術」展準備打ち合わせのため	総務課運営費 一部先方負担
4	富田　淳	中国	6月1～4日	台東区立書道博物館と東京国立博物館との共同企画・拓本とその流転にかかる作品返却のため	職員旅費(平常展経費)
5	島谷　弘幸	アメリカ合衆国	24年2月13～24日	ヒューストン美術館日本室開室記念「洗練の美：東京国立博物館蔵　宮廷美術と宗教美術」展開会式出席および講演会講師、クリーブランド美術館調査・打合せのため	総務課運営費 一部先方負担(ヒューストン美術館)

○科学研究費補助金：延べ20人

	氏名	用務先	期間	用務	備考
1	島谷　弘幸	アメリカ合衆国	5月16～21日	カルコン美術対話委員会等出席のため	東アジアの書道史における料紙と書風に関する総合的研究(基盤研究A) ※一部先方負担
2	島谷　弘幸	中国	6月1～4日	東アジアの書道史における料紙と書風に関する総合的研究(基盤研究A)にかかる調査のため	
3	島谷　弘幸	中国	8月8～12日	同上	
4	島谷　弘幸	台湾	9月30日～10月3日	同上	
5	島谷　弘幸	中国	10月25～30日	同上	
6	島谷　弘幸	中国	24年2月7～9日	同上	
7	島谷　弘幸	フランス　スイス	24年3月7～16日	チューリッヒ美術館調査および、チェルヌスキー調査のため	※一部先方負担
8	富田淳	中国	8月8～12日	東アジアの書道史における料紙と書風に関する総合的研究(基盤研究A)にかかる調査のため	
9	和田　浩	中国	8月13～25日	隋唐時代の仏舎利信仰と荘厳に関する総合的調査研究(基盤研究B)にかかる現地調査のため	隋唐時代の仏舎利信仰と荘厳に関する総合的調査研究(基盤研究B) 代表者：立正大学　加島勝
10	神庭　信幸	中国	8月16～21日	東アジア文化遺産保存学会第２回大会での発表のため	博物館における文化遺産の保全と持続的公開を目指した包括的保存システムの研究(基盤研究S)
11	富田　淳	台湾	9月30日～10月3日	東アジアの書道史における料紙と書風に関する総合的研究(基盤研究A)にかかる調査のため	
12	富田　淳	中国	10月25～31日	中国書画の表装に関する基礎的研究（基盤研究C）にかかる調査のため	
13	小山　弓弦葉	アメリカ合衆国	24年1月21～28日	近現代における古日本染織の移動とコレクション形成に関する基礎的研究(若手研究A)にかかる古染織品調査のため	
14	富田　淳	台湾	24年2月7～9日	東アジアの書道史における料紙と書風に関する総合的研究(基盤研究A)にかかる調査のため	
15	丸山　士郎	中国	24年2月7～10日	光学的調査に基づく高雄曼荼羅の発展的研究(基盤研究B)にかかる調査のため	
16	和田　浩	中国	24年2月7～10日	同上	
17	安藤　香織	中国	24年2月7～12日	同上	
18	塚本　麿充	アメリカ合衆国	24年2月14～19日	南宋絵画史における仏画の研究にかかる調査のため	南宋絵画史における仏画の位相―都と地域、中国と周縁―(基盤研究B)　代表者：九州大学　井手誠之輔
19	三田　覚之	中国	24年3月6～10日	法隆寺金堂を中心とした飛鳥・白鳳の荘厳美術研究(特別研究員奨励費)にかかる金銅仏等の調査のため	
20	土屋　貴裕	アメリカ合衆国	24年3月9～17日	作品調査、資料収集、および国際研究集会への参加のため	絵巻の<伝来>をめぐる総合的研究(若手研究A)

○先方負担：延べ54人

	氏名	用務先	期間	用務	備考
1	松本　伸之	台湾	6月10～13日	国立台南藝術大学における招聘のため	先方負担(国立台南藝術大学)
2	井上　洋一	ウズベキスタン	9月23日～10月3日	国際交流基金文化協力事業からの招へいのため	先方負担(国際交流基金)
3	鈴木　みどり	韓国	10月26～31日	韓国国立民俗博物館開催国際シンポジウム「教育改革」参加のため	先方負担（韓国国立民俗博物館）
4	浅見　龍介	韓国	4月7～9日	科研の研究課題に関わる調査への参加のため	先方負担(科研補助金研究代表者・大阪大学大学院文学研究科藤岡穣)
5	北川　美穂	ブータン	7月30日～8月15日	伝統技芸院(Zorig C　usum)における招聘のため	先方負担（財団法人美術工藝振興佐藤基金助成金）
6	富田　淳	中国	9月16～21日	北京故宮博物院「蘭亭特展」にかかる作品輸送立会いおよび陳列作業のため	先方負担（北京故宮博物院）

	氏名	用務先	期間	用務	備考
7	大橋　美織	韓国	9月23～27日	海外展「肖像画の秘密」展の作品輸送立会いおよび陳列作業のため	先方負担（韓国国立中央博物館）
8	塚本　麿充	韓国	10月6～10日	海外展「朝鮮画員大展」の作品輸送立会いおよび陳列作業のため	先方負担（三星美術館Ieeum）
9	田沢　裕賀	韓国	10月28～31日	韓国国立中央博物館でのシンポジウム参加のため	先方負担（韓国国立中央博物館）
10	池田　宏	ポーランド フランス	11月1～10日	在外日本古美術品保存修復協力事業に係る調査のため	先方負担(東文研)
11	北川　美穂	ラオス	11月3～9日	アジア漆工芸学術支援交流事業における招聘のため	先方負担(アジア漆工芸学術支援交流事業)
12	金井　裕子	韓国	11月6～8日	海外展「肖像画の秘密」展にかかる作品輸送立会いおよび撤収作業のため	先方負担(韓国国立中央博物館)
13	塚本　麿充	中国	10月6～10日	北京故宮博物院「蘭亭特展」にかかる作品輸送立会いおよび撤収作業のため	先方負担（北京故宮博物院）
14	後藤　健	バーレーン	12月16～23日	文化遺産国際協力コンソーシアムの協力相手国調査のため	先方負担(文化遺産国際協力コンソーシアム)
15	金井　裕子	韓国	24年1年29～2月1日	海外展「朝鮮画員大展」にかかる作品輸送立会いおよび撤収作業のため	先方負担（三星美術館Ieeum）
16	浅見　龍介	韓国	24年3月4～6日	韓国国立中央博物館への長期貸与品返却にかかる作品輸送立会いおよび撤収作業のため	先方負担（韓国国立中央博物館
17	井上　洋一	アメリカ合衆国	4月3～10日	特別展「写楽」の開催延期による出品協力の継続要請のため	共催展主催者旅費(東京新聞)
18	松本　伸之	中国	6月6～9日	特別展「北京故宮２００選」の契約協議のため	共催展主催者旅費(朝日新聞)
19	松本　伸之	中国	8月17～19日	同上	同上
20	今井　敦	中国	9月6～10日	特別展「北京故宮２００選」の作品調査のため	共催展主催者旅費(朝日新聞)
21	松本　伸之	中国	9月14～17日	同上	共催展主催者旅費(朝日新聞)
22	松本　伸之	中国	9月19～22日	「秦の始皇帝と大兵馬俑展」出品交渉のため	共催展主催者旅費(NHK)
23	松本　伸之	中国	10月13～15日	特別展「北京故宮２００選」事前協議のため	共催展主催者旅費(朝日新聞)
24	松嶋　雅人	アメリカ合衆国	10月31日～11月6日	特別展「京都」（仮）開催にあたっての出品依頼のため	共催展主催者旅費(日本テレビ)
25	松本　伸之	中国	24年1月15～21日	特別展「中国　王朝の至宝」にかかる出品交渉のため	共催展主催者旅費(NHK)
26	松本　伸之	中国	24年2月14～17日	同上	同上
27	川村　佳男	中国	6月12～18日	特別展「誕生！中国文明」出品作品の検品、返却のため	共催展主催者旅費（読売新聞）
28	塚本　麿充	中国	9月6～11日	特別展「北京故宮２００選」作品調査のため	共催展主催者旅費（朝日新聞）
29	小山　弓弦葉	中国	9月6～10日	同上	同上
30	川村　佳男	中国	9月6～11日	同上	同上
31	猪熊　兼樹	中国	9月14～18日	同上	同上
32	富田　淳	中国	9月22～24日	特別展「王羲之の書とその系譜」における出品交渉のため	共催展主催者旅費（毎日新聞）
33	富田　淳	中国	10月12～16日	特別展「北京故宮２００選」作品調査および打ち合わせのため	共催展主催者旅費（朝日新聞）
34	猪熊　兼樹	中国	10月12～16日	同上	同上
35	富田　淳	中国	10月25～31日	特別展「王羲之の書とその系譜」出品交渉・作品調査のため	共催展主催者旅費（毎日）
36	富田　淳	中国	12月4～16日	特別展「北京故宮２００選」作品現地点検・集荷のため	共催展主催者旅費（朝日新聞）
37	塚本　麿充	中国	12月5～19日	同上	同上
38	猪熊　兼樹	中国	12月11～20日	同上	同上
39	川村佳男	中国	12月11～21日	同上	同上
40	土屋　裕子	中国	12月18～19日	同上	同上
41	荒木　臣紀	中国	12月19～20日	同上	同上
42	猪熊　兼樹	中国	12月24～26日	特別展「北京故宮２００選」作品現地集荷のため	同上
43	松本　伸之	中国	24年2月14～17日	特別展「中国　王朝の至宝」にかかる出品交渉のため	共催展主催者旅費（NHK）
44	酒井　元樹	アメリカ合衆国	24年2月21～26日	特別展「ボストン美術館　日本美術の至宝」にかかるボストン美術館での刀剣作品の確認および梱包のため	共催展主催者旅費（NHK）
45	塚本　麿充	中国	24年2月28日～3月8日	特別展「北京故宮博物院２００選」にかかる返却輸送および点検、返却作業のため	共催展主催者旅費（朝日新聞）
46	川村　佳男	中国	24年2月28日～3月8日	特別展「北京故宮博物院２００選」にかかる返却輸送および点検、返却作業のため	同上
47	高木　結美	中国	24年2月29日～3月4日	同上	同上
48	富田　淳	中国	24年3月1～10日	同上	同上
49	猪熊　兼樹	中国	24年3月1～8日	同上	同上
50	土屋　貴裕	中国	24年3月1～4日	同上	同上
51	松本　伸之	中国	24年3月6～10日	特別展「北京故宮博物院２００選」返却作業および御礼のため	同上
52	島谷　弘幸	アメリカ合衆国	24年3月19～22日	特別展「青山杉雨の眼と書」上海展にかかる上海博物館との現地打ち合わせ及び視察のため	共催展主催者旅費（読売新聞）
53	富田　淳	中国	24年3月19～22日	同上	同上

	氏名	用務先	期間	用務	備考
54	井上　洋一	フランス　イタリア　モナコ	24年3月21～28日	特別展「エジプトの王妃(仮)」作品選定会議・作品調査のため	共催展主催者旅費（ＮＨＫ）

【京都国立博物館】延べ25人

	氏名	用務先	期間	用務	備考
1	呉　孟晋	香港	4月28日～30日	香港芸術館での展覧会参観（研修）	私費
2	鬼原　俊枝	アメリカ合衆国	5月17日～21日	カルコン美術対話委員会への参加	先方負担（文化庁）
3	西上　実	中国	6月13日～19日	「中国近代絵画と日本」展出品交渉及び関連調査	職員旅費
4	淺湫　毅	大韓民国	6月19日～23日	金銅仏を中心とした彫刻作品の調査	科学研究費
5	赤尾　栄慶	ベルギー・イギリス	7月9日～18日	日本の古写経および敦煌写経の調査	H度私立大学戦略的研究基盤形成支援事業負担
6	呉　孟晋	台湾	7月17日～19日	台北故宮博物院「山水合璧」展参観	職員旅費
7	久保　智康	台湾	8月9日～12日	国立台湾博物館所蔵銅鏡の調査（学生の調査指導）	京都大学大学院経費
8	赤尾　栄慶	大韓民国	9月1日～4日	国際ワークショップ「新羅写経と奈良写経」参加	韓国技術教育大学校文理閣研究所
9	西上　実	中国	9月2日～6日	「中国近代絵画と日本」展出品交渉及び関連調査	職員旅費
10	永島　明子	ドイツ	9月8日～16日	明治天皇から英国王子への贈答品などの調査	科学研究費
11	久保　智康	中国	9月27日～10月1日	浙江省博物館「呉越勝覧」展学術討論会参加	浙江省博物館
12	山川　暁	大韓民国	10月6日～9日	国立扶余博物館にて展覧会見学・国際シンポジウム参加（研修）	私費
13	呉　孟晋	香港	10月16日～19日	「中国近代絵画と日本」展に関する打ち合わせ	職員旅費
14	永島　明子	オランダ・スイス	10月18日～30日	漆器調査および漆器に関する情報収集	科学研究費
15	尾野　善裕	ベトナム	11月8日～12日	ベトナム歴史博物館所蔵品調査	東芝国際交流財団
16	久保　智康	大韓民国	11月20日～22日	愛知県美術館所蔵「鉄製交椅」保存処理に伴う類品調査	愛知県美術館
17	西上　実	台湾	11月27日～30日	「中国近代絵画と日本」展出品作品借用のため	職員旅費
18	大原　嘉豊	香港	12月15日～18日	「中国近代絵画と日本」展作品借用のため	職員旅費
19	西上　実	中国	12月18日～23日	「中国近代絵画と日本」展出品作品借用のため	職員旅費
20	淺湫　毅	タイ・ミャンマー	12月19日～31日	彫刻作品・遺跡等の調査	科学研究費
21	赤尾　栄慶	フランス	24年1月23日～2月1日	敦煌写本の書誌学的研究	科学研究費
22	村上　隆	ドイツ	24年2月16日～22日	蝋管の調査研究、及び新館設置展示ケースの製作現場視察	科学研究費、職員旅費
23	西上　実	香港・中国	24年2月29日～3月10日	「中国近代絵画と日本」展出陳作品返却	職員旅費
24	呉　孟晋	台湾	24年3月14日～19日	「中国近代絵画と日本」展出陳作品返却	職員旅費
25	赤尾　栄慶	韓国	24年3月23日～25日	韓国口訣学会のメンバーと意見交換会および古印刷物に関する調査研究	科学研究費

【奈良国立博物館】延べ19人

	氏名	用務先	期間	用務	備考
1	佐々木 香輔	韓国	11月9日～12月3日	国立慶州博物館との学術情報交換及び交流促進のため	国立慶州博物館

・その他の調査等のための海外渡航実績

	氏名	用務先	期間	用務	備考
2	湯山　賢一	韓国	5月18日～5月20日	百済展打合せ	職員旅費
3	西山　厚	同上	同上	同上	同上
4	岩田　茂樹	同上	同上	同上	同上
5	内藤　栄	アメリカ	5月17日～5月21日	カルコン美術対話委員会に出席	文化庁
6	稲本　泰生	中国	6月12日～6月18日	中国文明展作品返却	他機関負担
7	湯山　賢一	中国	8月8日～8月8日	中国河南博物院での協定書調印式に出席（台風9号により途中帰国）	職員旅費
8	内藤　栄	同上	同上	同上	同上
9	西山　厚	ベトナム	8月27日～9月2日	正倉院展開催に伴う海外調査	他機関負担
10	谷口　耕生	韓国	9月22日～9月24日	韓国国立中央博物館「肖像画の秘密」展に伴う文化財の輸送及び立ち会い	韓国国立中央博物館
11	稲本　泰生	中国	11月5日～11月9日	「遼寧省仏教文物展」予備調査	職員旅費
12	北澤　菜月	韓国	11月6日～11月8日	韓国国立中央博物館「肖像画の秘密」展に貸与した文化財の撤収立ち合い及び輸送	韓国国立中央博物館
13	湯山　賢一	中国	12月19日～12月21日	中国河南博物院での協定書調印式に出席	職員旅費
14	内藤　栄	同上	同上	同上	同上
15	稲本　泰生	中国	24年2月9日～2月12日	科研「南宋絵画史における仏画の位相」の現地調査	科研費
16	谷口　耕生	同上	同上	同上	同上
17	岩田　茂樹	中国	24年2月17日～2月24日	科学的調査に基づく半跏思惟像の日韓共同研究	他機関負担
18	内藤　栄	インド	24年2月21日～3月4日	科研「インド文化圏における仏塔の総合的研究」の調査	科研費
19	吉澤　悟	アメリカ	24年3月9日～3月17日	「海獣葡萄鏡の研究」に関わる海獣葡萄鏡の調査	他機関負担

【九州国立博物館】延べ　56人

	氏名	用務先	期間	用務	備考
1	臺信祐爾	中国	4月10日～4月16日	大契丹展（仮称）開催に係る調査	職員旅費
2	市元塁	同上	同上	同上	職員旅費
3	今津節生	中国	4月12日～4月21日	X線CTスキャナによる中国古代青銅器の構造技法解析に係る調査	科学研究費
4	谷豊信	韓国	5月18日～5月20日	学術交流協定調印（国立扶餘博物館）	職員旅費

	氏名	用務先	期間	用務	備考
5	三輪嘉六	韓国	5月18日～5月20日	百済展・海外展の開催に関する協議等、学術交流に関する協議のため	職員旅費、他機関負担
6	原田あゆみ	タイ	6月17日～6月24日	トピック展「日本とタイーふたつの国の巧と美」に係る作品返却作業、文化交流展に係る染織作品調査	職員旅費
7	小泉惠英	タイ	6月18日～6月24日	トピック展「ふたつの国の巧と美」にかかる作品輸送・作品点検・返却	職員旅費
8	川畑憲子	中国	7月3日～8日	館蔵品を中心とした漆器の調査研究	自費
9	谷豊信	中国	7月11日～7月22日	今後の交流につき意見交換・交流協定調印および関連行事（中国文物交流中心）	職員旅費
10	三輪嘉六	中国	7月19日～7月22日	交流協定締結・講演・視察（中国文物交流中心）	職員旅費
11	赤司善彦	韓国	7月27日～7月29日	文化財の返却、特別展等についての協議	他機関負担
12	今津節生	中国	8月14日～8月18日	X線CTスキャナによる中国古代青銅器の構造技法解析に関する調査・東アジア文化遺産保存学会第２大会において研究発表・情報収集	科学研究費
13	三輪嘉六	中国	8月16日～8月22日	東アジア文化遺産保存学会第２回大会	他機関負担
14	小林公治	中国	8月19日～9月5日	西安生漆塗料研究所主催「アジア漆国際会議」発表、中国各地での螺鈿に関する調査	科学研究費
15	臺信祐爾	韓国	8月25日～8月28日	大韓民国保税作品返却作業、 文化庁韓国展打合	職員旅費
16	赤司善彦	同上	同上	同上	他機関負担
17	原田あゆみ	タイ	8月30日～9月10日	「南アジアおよび東南アジアにおけるデーヴァラージャ信仰とその造形に関する基礎的研究」にかかる打合せ及び調査	他機関負担
18	市元塁	中国	9月5日～9月10日	草原の王朝契丹開催に係る集荷作業	職員旅費
19	小泉惠英	同上	同上	草原の王朝契丹開催に係る集荷作業、契丹関連遺物の調査	職員旅費
20	藤田励夫	韓国	9月22日～9月26日	韓国装潢研究会シンポジウム参加、韓国手漉き韓紙工房調査、高麗版大般若経調査のため	科学研究費
21	谷豊信	中国	9月27日～10月2日	平成２４年度春開催予定の平山郁夫展の作品調査と出品交渉	職員旅費
22	川畑憲子	フィンランド、ドイツ	10月2日～10月13日	トピック展示「クレスコレクション」にかかわる調査	職員旅費
23	森田稔	ベトナム	10月5日～10月8日	特別展ベトナム展（仮称）打合せ・出品交渉	職員旅費
24	藤田励夫	同上	同上	同上	職員旅費
25	遠藤啓介	同上	同上	同上	他機関負担
26	小林公治	中国	10月18日～10月23日	「広西東南アジア青銅器国際学術会議」発表・参席、南寧市内博物館等調査	他機関負担
27	赤司善彦	中国	10月19日～10月21日	福岡県･江蘇省友好提携20周年記念事業（展示）に係る協議	他機関負担
28	畑靖紀	同上	同上	同上	職員旅費
29	谷豊信	韓国	10月26日～10月30日	国際シンポジウム打合せ・参加、美術館調査	他機関負担
30	三輪嘉六	韓国	11月2日～11月5日	事務打ち合わせ、第２０回韓国文化財保存科学会事前打ち合わせ（財団法人　韓国文化財保存科学会）	職員旅費、他機関負担
31	藤田励夫	中国	11月3日～11月9日	科学研究費にかかる中国西南地区の伝統的製紙技術の調査	科学研究費
32	本田光子	中国	11月3日～11月8日	ユネスコ東アジア紙文化財修復プロジェクトに係る伝統的製紙技術の調整会議並びに中国西南地区の伝統的製紙技術の調査	職員旅費、補助金、他機関負担
33	森田稔	中国	11月3日～11月9日	中国西南地区の伝統的製紙技術の調査	職員旅費
34	小林公治	ベトナム	11月19日～11月27日	科学研究費にかかる調査	科学研究費
35	藤田励夫	ベトナム	12月7日～12月10日	特別展「ベトナム展（仮称）」打合せ・出品交渉、ベトナム歴史博物館との協定書調印	職員旅費
36	三輪嘉六	ベトナム	12月7日～12月10日	特別展「ベトナム展（仮称）」打合せ・出品交渉、ベトナム歴史博物館との協定書調印	職員旅費
37	森實久美子	韓国	12月16日～12月20日	受託作品（本岳寺所蔵「釈迦誕生図」）の貸与	他機関負担
38	藤田励夫	韓国	12月18日～12月20日	文化庁海外展開会式出席及び情報収集	海外展経費
39	三輪嘉六	同上	同上	同上	海外展経費
40	小林公治	ポルトガル、スペイン、オーストリア、ドイツ、イギリス	12月22日～24年1月8日	アジア輸出螺鈿器調査、教会調度品調査、南蛮螺鈿漆器調査、アメリカ製螺鈿器調査、インド製螺鈿調査、器物調査、アジア螺鈿器調査、螺鈿器調査	メトロポリタン東洋美術研究センター研究助成金
41	藤田励夫	韓国	24年1月6日～1月15日	文化庁海外展クーリエのため（韓国中央博物館）	海外展経費
42	小泉惠英	韓国	24年1月12日～1月19日	文化庁海外展「日本仏教美術―琵琶湖周辺の仏教信仰」にかかる点検・陳列替作業	海外展経費
43	末兼俊彦	米国	24年1月20日～1月25日	金工品学術調査（ホノルル美術館）	メトロポリタン東洋美術研究センター研究助成金
44	市元塁	韓国	24年1月24日～2月1日	文化庁海外展に係る作品・会場点検	海外展経費
45	畑靖紀	韓国	24年1月29日～1月31日	受託作品（本岳寺所蔵「釈迦誕生図」）の輸送	先方負担
46	森實久美子	韓国	24年1月30日～2月8日	文化庁主催「日本仏教美術－琵琶湖周辺の信仰仏教－」展作品点検	海外展経費
47	藤田励夫	インドネシア、ベトナム	24年2月1日～2月10日	平成25年度特別展「ベトナム展（仮称）」にかかる出品交渉・作品調査	職員旅費
48	遠藤啓介	インドネシア、ベトナム	24年2月1日～2月10日	平成25年度特別展「ベトナム展（仮称）」にかかる出品交渉・作品調査	職員旅費
49	三輪嘉六	中国	24年2月13日～2月17日	学術文化交流協定更新調印式（南京博物院）及び交流内容の協議・南朝時代の遺跡・墓の調査	職員旅費
50	谷豊信	中国	24年2月13日～2月17日	学術文化交流協定更新調印式（南京博物院）及び交流内容の協議・南朝時代の遺跡・墓の調査のため	職員旅費
51	畑靖紀	中国	24年2月20日～2月23日	文化交流展示におけるトピック展示の調査（南京博物院）	職員旅費
52	原田あゆみ	オランダ	24年2月23日～3月2日	対外交流文化財の調査	科学研究費

	氏名	用務先	期間	用務	備考
53	藤田励夫	中国	24年3月7日～3月11日	科学研究費による「東アジアにおける天台仏教の展開」調査	科学研究費
54	森實久美子	中国	24年3月7日～3月11日	科学研究費による「東アジアにおける天台仏教の展開」調査	科学研究費
55	藤田励夫	ベトナム	24年3月18日～3月26日	「九州における対外交流文化財の保存と活用に向けた研究基盤の創設」にかかるベトナムの日本文化調査	科学研究費
56	遠藤啓介	ベトナム	24年3月18日～3月26日	「九州における対外交流文化財の保存と活用に向けた研究基盤の創設」にかかるベトナムの日本文化調査	科学研究費

【東京文化財研究所】延べ126人

	氏名	用務先	期間	用務	備考
1	邊牟木尚美	アルメニア	4月3日～4月13日	西アジア周辺諸国における文化遺産の調査研究・保護への協力	
2	山内和也	トルクメニスタン	5月1日～5月10日	ユネスコ主催シルクロード会議出席	
3	安倍雅史	トルクメニスタン	5月1日～5月10日	ユネスコ主催シルクロード会議出席	
4	宮田繁幸	韓国	5月11日～5月13日	シンポジウム「The Value and Competitive Power of Naganeupseong Folk Village as World Heritage」参加および発表	
5	友田正彦	タイ、ベトナム	5月22日～5月25日	ユネスコ日本信託基金タンロン皇城遺跡保存事業にかかる現地調査	
6	影山悦子	カザフスタン、タジキスタン	5月23日～5月28日	カザフスタン：カザフスタン国立中央博物館、カザフスタン考古学博物館における遺物の保存修復、保管方法等の調査 タジキスタン：タジキスタン国立古代博物館において今年度の事業打合せ	
7	山内和也	エジプト	5月27日～6月4日	エジプト国大エジプト博物館保存修復センタープロジェクト（フェーズ２）のための協議出席	
8	原田　怜	韓国	5月31日～6月3日	NEACH会議出席および発表	
9	友田正彦	ベトナム、カンボジア	6月1日～6月11日	ベトナム：科研費研究タンロン皇城遺跡に係る現地調査 カンボジア：アンコール遺跡保存開発国際調整委員会出席および現地調査	
10	二神葉子	カンボジア、タイ	6月6日～6月12日	カンボジア:アンコール遺跡の保護と発展に関する国際調整委員会出席および現地調査 タイ：文化省芸術局との協議	
11	宮田繁幸	韓国	6月9日～6月11日	２０１１年アジア太平洋無形文化遺産フェスティバルにおける学術会議出席および発表	
12	山内和也	イタリア、ロシア、アルメニア、キルギス	6月14日～6月30日	イタリア：バーミヤン遺跡保存事業の第４期打合せ ロシア：中央アジア事業打合せ アルメニアおよびキルギスとの拠点交流事業開始のための合意書締結、共同作業・研究詳細内容打合せおよび関連遺跡視察	
13	邊牟木尚美	アルメニア	6月15日～6月25日	「コーカサス諸国等における文化遺産保護のための拠点交流事業」開始のためのアルメニア共和国との合意書締結、共同作業・研究内容打合せおよび関連遺跡視察	
14	亀井伸雄	アルメニア、キルギス	6月17日～6月29日	アルメニアおよびキルギスとの拠点交流事業開始のための合意書締結、共同作業・研究詳細内容打合せおよび関連遺跡視察	
15	二神葉子	フランス	6月18日～7月1日	第３５回世界遺産委員会出席	
16	有村　誠	アルメニア	6月19日～6月25日	「コーカサス諸国等における文化遺産保護のための拠点交流事業」開始のためのアルメニア共和国との合意書締結、共同作業・研究内容打合せおよび関連遺跡視察	
17	友田正彦	モンゴル	6月20日～6月25日	拠点交流事業（モンゴル）にかかる保存管理計画に関するワークショップ実施	
18	森井順之	フランス	6月20日～6月25日	屋外石造文化財の保存に関する国際会議における発表	
19	江村知子	アメリカ	6月23日～6月29日	「在外日本古美術品保存修復協力事業」における絵画調査	
20	加藤雅人	アメリカ	6月23日～6月29日	「在外日本古美術品保存修復協力事業」における絵画調査	
21	安倍雅史	キルギス	6月24日～6月30日	「キルギス共和国及び中央アジア諸国における文化遺産保護に関する拠点交流事業」にかかる合意書締結、共同作業・研究詳細内容打合せおよび関連遺跡視察	
22	山内和也	ウズベキスタン	7月18日～7月23日	ユネスコ「シルクロード世界遺産登録のための支援事業」に関する会議出席	
23	宮田繁幸	中国	8月1日～8月4日	中日韓非物質文化遺産保護比較研究国際シンポジウム参加および発表	
24	友田正彦	ベトナム	8月8日～8月18日	タンロン皇城遺跡内に所在する植民地期建造物等の調査	
25	森井順之	中国	8月16日～8月19日	東アジア文化遺産保存学会参加および発表	
26	友田正彦	モンゴル	8月20日～8月27日	拠点交流事業（モンゴル）にかかる建造物保存修復調査研修および保存管理計画に関するワークショップ実施	
27	宮田繁幸	タイ	8月21日～8月28日	タイ王国無形文化遺産保護関連調査	
28	有村　誠	アルメニア	8月27日～9月13日	「アルメニアの完新世初頭における先史文化の考古学研究」にかかる考古学調査	
29	岡田　健	中国	8月31日～9月9日	敦煌壁画の保護に関する日中共同研究および古代墳墓の発掘保護に関する日中共同研究	
30	原本知実	サモア	9月3日～9月11日	「第３回太平洋世界遺産ワークショップ」参加	
31	森井順之	中国	9月6日～9月9日	古代墳墓の発掘保護に関する日中共同研究	
32	石崎武志	トルコ	9月8日～9月17日	ハギア・ソフィアの保存環境調査	
33	犬塚将英	イタリア	9月9日～9月16日	フレスコ画の保存環境と修復作業についての調査およびタルキニアの墳墓壁画の視察	
34	佐藤　桂	ベトナム	9月14日～9月20日	ユネスコ日本信託基金タンロン皇城遺跡管理計画策定ワーキンググループおよび運営委員会出席	
35	友田正彦	ベトナム	9月14日～9月20日	ユネスコ日本信託基金タンロン皇城遺跡管理計画策定ワーキンググループおよび運営委員会出席	
36	二神葉子	モンゴル	9月15日～9月20日	国際シンポジウム「エルデニゾー　―過去・未来・現在―」参加および研究発表	
37	山内和也	ウズベキスタン	9月19日～9月24日	シルクロード世界遺産一括登録にむけてのワークショップ参加	
38	岡田　健	韓国	9月20日～9月22日	日中韓文化交流フォーラム参加および講演	
39	有村　誠	カザフスタン	9月27日～10月19日	「シルクロード世界遺産登録支援事業」のための地下探査調査の実施	

	氏名	用務先	期間	用務	備考
40	山内和也	カザフスタン、キルギス、アルメニア	9月27日～10月29日	カザフスタン、キルギス：「シルクロード世界遺産登録支援事業」人材育成ワークショップの実施 キルギス：文化遺産国際協力拠点交流事業による調査・人材育成ワークショップ（考古遺跡の測量）の実施 アルメニア：アルメニアにおける染織文化財の保存修復ワークショップ参加	
41	安倍雅史	キルギス	10月3日～10月29日	文化遺産国際協力拠点交流事業による調査・人材育成ワークショップ（考古遺跡の測量）および「シルクロード世界遺産登録支援事業」人材育成ワークショップの実施	
42	亀井伸雄	台湾	10月5日～10月13日	近代文化遺産の保存・修復および活用に関する現地調査	
43	川野邊渉	台湾	10月5日～10月13日	近代文化遺産の保存・修復および活用に関する現地調査	
44	中山俊介	台湾	10月5日～10月15日	近代文化遺産の保存・修復および活用に関する現地調査	
45	影山悦子	タジキスタン	10月9日～11月8日	タジキスタン国立古代博物館が所蔵する壁画の保存修復	
46	早川典子	イタリア	10月10日～10月17日	ワークショップ「Cource on Architectural Heritage coservation」および「FUNORI」における講師	
47	石崎武志	中国	10月11日～10月16日	重慶国際シンポジウム「東アジアにおける文化遺産の永続的な保存と活用」参加	
48	邊牟木尚美	アルメニア	10月23日～11月6日	アルメニア国立歴史博物館と研修詳細打合せおよび２０１２年開催予定の金属遺物保存修復ワークショップ共同準備	
49	木川りか	イギリス	10月25日～10月30日	コンファレンス「Pest Odyssey 2011」における研究発表および会議出席	
50	亀井伸雄	ドイツ	10月26日～10月31日	日独交流１５０周年記念特別展「Goldene Impressionen」視察	
51	川野邊渉	ドイツ、フランス、ポーランド	10月27日～11月6日	「在外日本古美術品保存修復協力事業」にかかる調査	
52	原本知実	オーストリア、コソボ、フランス	11月1日～11月13日	科学研究費助成事業にかかる調査	
53	山下好彦	ポーランド、ドイツ	11月1日～11月24日	「在外日本古美術品保存修復協力事業」にかかる調査およびワークショップ実施	
54	二神葉子	イタリア、オーストリア	11月2日～11月10日	文化財防災に関する調査	
55	安孫子卓史	ドイツ	11月10日～11月18日	「在外日本古美術品保存修復協力事業」にかかるワークショップ視察	
56	亀井伸雄	ドイツ、イタリア	11月10日～11月18日	ドイツ：「在外日本古美術品保存修復協力事業」にかかるワークショップ視察 イタリア：第２７回イクロム総会出席	
57	加藤雅人	ドイツ	11月10日～11月26日	「在外日本古美術品保存修復協力事業」にかかるワークショップ実施および事後調査	
58	楠　京子	ドイツ	11月10日～11月26日	「在外日本古美術品保存修復協力事業」にかかるワークショップ実施	
59	早川典子	ドイツ	11月13日～11月18日	「在外日本古美術品保存修復協力事業」にかかるワークショップ実施	
60	川野邊渉	イタリア	11月13日～11月19日	イクロム理事会出席	
61	友田正彦	インドネシア	11月15日～11月21日	パダン被災文化遺産復興支援のための打合せ	
62	宮田繁幸	タイ、インドネシア	11月17日～12月1日	タイ：無形文化遺産保護関係調査 インドネシア：ユネスコ無形文化遺産保護条約第６回政府間委員会出席	
63	岡田健	中国	11月19日～11月30日	敦煌壁画の保護に関する日中共同研究	
64	原本知実	ミクロネシア連邦	11月20日～11月28日	ナン・マドール遺跡保護にむけたワークショップ支援	
65	今石みぎわ	インドネシア	11月20日～12月2日	ユネスコ無形文化遺産保護条約第６回政府間委員会出席	
66	二神葉子	インドネシア、タイ	11月20日～12月2日	インドネシア：ユネスコ無形文化遺産保護条約第６回政府間委員会出席 タイ：アユタヤ遺跡洪水被害に関する調査および打合せ	
67	皿井　舞	中国	11月21日～11月30日	敦煌壁画の保護に関する日中共同研究	
68	城野誠治	ミクロネシア連邦	11月22日～11月28日	遺跡の現状記録並びにプロジェクトの記録撮影	
69	犬塚将英	中国	11月23日～11月30日	敦煌壁画の保護に関する日中共同研究	
70	原田　怜	フランス	11月27日～12月4日	イコモス総会出席	
71	江村知子	アゼルバイジャン	11月27日～12月6日	国際交流基金文化協力事業「国立美術館所蔵日本関係美術品調査」にかかる日本美術品の選別およびデータ作成	
72	加藤雅人	メキシコ	12月5日～12月15日	「Evaluation of Materials, Techniques and Tools for Paper Preservation in Latin America」セミナー参加	
73	原本知実	韓国	12月7日～12月10日	第１回国際ブルーシールド会議出席	
74	二神葉子	カンボジア、タイ	12月8日～12月22日	カンボジア：アンコール遺跡の保護と発展に関する国際調整委員会出席および現地調査 タイ：アユタヤ遺跡洪水被害に関する調査および打合せ	
75	友田正彦	カンボジア、タイ	12月11日～12月22日	カンボジア：アンコール遺跡の保護と発展に関する国際調整委員会出席、現地調査およびAPSARA機構との覚書締結 タイ：アユタヤ遺跡洪水被害状況調査	
76	亀井伸雄	カンボジア	12月13日～12月17日	APSARA機構との覚書締結およびアンコール、プレアヴィヘア建築調査	
77	佐藤桂	カンボジア	12月13日～12月21日	APSARA機構との覚書締結およびアンコール、プレアヴィヘア建築調査	
78	安倍雅史	バーレーン	12月16日～12月23日	文化遺産コンソーシアム事業にかかる協力相手国調査	
79	原田　怜	バーレーン	12月16日～12月23日	文化遺産コンソーシアム事業にかかる協力相手国調査	
80	川野邊　渉	タイ	12月18日～12月22日	アユタヤ遺跡洪水被害状況調査	
81	楠　京子	タイ	12月18日～12月22日	アユタヤ遺跡洪水被害状況調査	
82	朽津信明	タイ	12月18日～12月22日	アユタヤ遺跡洪水被害状況調査	
83	城野誠治	タイ	12月18日～12月22日	アユタヤ遺跡洪水被害状況調査	
84	岡田　健	中国	12月18日～12月23日	陝西省墳墓壁画の記録保存についての方法研究	
85	安倍雅史	イラン	12月28日～24年1月9日	テヘラン大学保管の考古資料分析	
86	城野誠治	インドネシア	24年1月4日～1月13日	インドネシア・西スマトラ州パダンにおける歴史的地区文化遺産復興支援（専門家交流）事業にかかる写真記録	

	氏名	用務先	期間	用務	備考
87	友田正彦	ベトナム、インドネシア	24年1月4日～1月13日	ベトナム：歴史考古学研究会出席 インドネシア：インドネシア・西スマトラ州パダンにおける歴史的地区文化遺産復興支援（専門家交流）事業にかかるワークショップ実施	
88	亀井伸雄	インドネシア	24年1月6日～1月11日	インドネシア・西スマトラ州パダンにおける歴史的地区文化遺産復興支援（専門家交流）事業にかかるワークショップ出席	
89	川野邊　渉	インドネシア	24年1月6日～1月11日	インドネシア・西スマトラ州パダンにおける歴史的地区文化遺産復興支援（専門家交流）事業にかかるワークショップ出席	
90	佐藤　桂	インドネシア	24年1月6日～1月13日	インドネシア・西スマトラ州パダンにおける歴史的地区文化遺産復興支援（専門家交流）事業にかかるワークショップ実施および建築調査	
91	島津美子	エジプト	24年1月6日～1月13日	大エジプト博物館保存修復センター支援業務における現地運営指導調査	
92	山内和也	エジプト	24年1月8日～1月13日	大エジプト博物館保存修復センタープロジェクト２０１２年度研修計画策定のための現地視察および打合せ	
93	石﨑武志	イタリア、トルコ	24年1月16日～1月26日	イタリア：歴史的建造物のモニタリングに関するワークショップ参加 トルコ：ハギア・ソフィアの環境調査	
94	今石みぎわ	アルメニア	24年1月20日～1月31日	アルメニアにおける無形民俗文化財の調査	
95	邊牟木尚美	アルメニア	24年1月20日～2月13日	アルメニア国立歴史博物館での金属遺物保存修復専門家に対する人材育成ワークショップ実施	
96	有村　誠	アルメニア、スペイン、フランス	24年1月20日～2月26日	アルメニア:アルメニア国立歴史博物館での金属遺物保存修復専門家に対する人材育成ワークショップ実施 スペイン:バルセロナにおける西アジア新石器時代の石器研究に関する国際シンポジウム参加 フランス：先史時代セミナー参加	
97	二神葉子	モンゴル	24年1月21日～1月27日	モンゴル文化遺産保護に関するワークショップ実施	
98	深井　啓	モンゴル	24年1月21日～1月27日	モンゴル文化遺産保護に関するワークショップ実施	
99	境野飛鳥	モンゴル	24年1月21日～1月27日	モンゴル文化遺産保護に関するワークショップ実施	
100	友田正彦	モンゴル	24年1月23日～1月27日	モンゴル文化遺産保護に関するワークショップ実施	
101	山内和也	カザフスタン、タジキスタン、キルギス、アルメニア	24年1月27日～2月15日	カザフスタン：シルクロード世界遺産登録支援事業打合せ タジキスタン：タジキスタン国立古代博物館収蔵壁画の修復事業打合せ キルギス：拠点交流事業にかかる考古遺物実測ワークショップ実施 アルメニア：拠点交流事業にかかる金属遺物保存修復ワークショップ実施	
102	安倍雅史	キルギス	24年2月1日～2月13日	文化遺産国際協力拠点交流事業による調査･人材育成ワークショップ(遺物実測)実施	
103	石﨑武志	韓国	24年2月8日～2月10日	文化財の防災対策に関する国際シンポジウム参加および講演	
104	境野飛鳥	ブータン	24年2月8日～2月16日	「民家等の伝統的建造物保存修復手法に関する技術支援」にかかる調査	
105	友田正彦	ブータン	24年2月8日～2月16日	「民家等の伝統的建造物保存修復手法に関する技術支援」にかかる調査	
106	犬塚将英	中国	24年2月9日～2月21日	古代墳墓の発掘保護に関する日中共同研究および敦煌壁画の保護に関する日中共同研究	
107	岡田　健	中国	24年2月9日～2月21日	古代墳墓の発掘保護に関する日中共同研究および敦煌壁画の保護に関する日中共同研究	
108	皿井　舞	中国	24年2月9日～2月21日	古代墳墓の発掘保護に関する日中共同研究および敦煌壁画の保護に関する日中共同研究	
109	吉田直人	中国	24年2月9日～2月21日	古代墳墓の発掘保護に関する日中共同研究および敦煌壁画の保護に関する日中共同研究	
110	佐藤　桂	ベトナム	24年2月19日～2月24日	ユネスコ日本信託基金タンロン皇城遺跡保存事業にかかる保存修復調査	
111	島津美子	インド	24年2月19日～3月3日	「アジャンター壁画の保存修復に関する調査研究事業」に関する打合せおよび第６次ミッション参加	
112	鈴木　環	インド	24年2月19日～3月3日	「アジャンター壁画の保存修復に関する調査研究事業」に関する打合せおよび第６次ミッション参加	
113	石﨑武志	ベトナム	24年2月20日～2月24日	ユネスコ日本信託基金タンロン皇城遺跡保存事業にかかる保存修復調査	
114	原田　怜	ミャンマー	24年2月20日～2月29日	文化遺産コンソーシアム事業にかかる協力相手国調査	
115	友田正彦	ミャンマー	24年2月21日～2月29日	文化遺産コンソーシアム事業にかかる協力相手国調査	
116	宮田繁幸	メキシコ	24年2月23日～3月1日	国際人類学民族学会議無形文化遺産委員会出席	
117	川野邊　渉	エジプト	24年2月24日～2月28日	大エジプト博物館保存修復センター支援業務における学術研究シンポジウムでの講演	
118	加藤雅人	エジプト	24年2月27日～3月10日	大エジプト博物館保存修復センター支援業務にかかる保存修復材料ワークショップにおける講師	
119	楠　京子	エジプト	24年2月27日～3月10日	大エジプト博物館保存修復センター支援業務にかかる保存修復材料ワークショップにおける講師	
120	山梨絵美子	台湾	24年3月1日～3月3日	台湾近代絵画調査およびアジア近代美術に関する研究会打合せ	
121	亀井伸雄	ベトナム	24年3月7日～3月13日	ユネスコ日本信託基金タンロン皇城遺跡保存事業にかかる保存修復調査	
122	川野邊　渉	ベトナム	24年3月7日～3月13日	ユネスコ日本信託基金タンロン皇城遺跡保存事業にかかる保存修復調査	
123	友田正彦	ベトナム	24年3月9日～3月14日	ユネスコ日本信託基金タンロン皇城遺跡保存事業にかかる保存修復調査	
124	邊牟木尚美	ドイツ	24年3月20日～3月26日	考古金属遺物の保存修復技術に関する調査	
125	山内和也	ウズベキスタン、アルメニア	24年3月20日～3月28日	ウズベキスタン：ユネスコ「シルクロード世界遺産登録のための支援事業」に関する会議出席 アルメニア：拠点交流事業にかかる来年度打合せ	
126	早川泰弘	アメリカ	24年3月27日～4月1日	ナショナル・ギャラリー・オブ・アート「伊藤若冲・動植綵絵」展覧会における研究成果発表およびシンポジウムでの講演	

【奈良文化財研究所】延べ188人

	氏名	用務先	期間	用務	備考
1	加藤　真二	中国	4月17日～4月30日	中国山東、河南、河北３省の細石器の調査	科研費
2	森川　実	中国	同上	同上	同上
3	金田　明大	中国	4月12日～4月17日	Computer Applications and Quantitative Methods in Archaeology で発表	運営費交付金
4	森本　晋	中国	同上	同上	同上
5	箱崎　和久	韓国	4月24日～4月27日	第一次大極殿院復元にかかる類例調査	業務委託経費
6	海野　聡	韓国	同上	同上	同上
7	北山　夏希	韓国	同上	同上	同上
8	杉山　洋	カンボジア王国	4月23日～4月30日	大成建設自然・歴史環境基金「アンコール・トム内における仏教テラスの調査と保護」	助成金
9	佐藤　由似	カンボジア王国	同上	同上	同上
10	森本　晋	トルクメニスタン	4月30日～5月9日	ユネスコ主催第２回シルクロード世界遺産シリアル登録支援委員会出席	運営費交付金
11	田村　朋美	韓国	5月11日～5月15日	大韓民国出土ガラス製遺物の調査および研究会参加	科研費
12	今井　晃樹	中国	5月14日～5月25日	中国社会科学院考古研究所との漢魏洛陽城における共同調査および関連異物の調査	運営費交付金
13	栗山　雅夫	中国	同上	同上	同上
14	井上　和人	ベトナム	5月16日～5月20日	タンロン皇城遺跡の保存にかかわる協力事業	東京文化財研究所
15	杉山　洋	ベトナム	5月21日～5月27日	同上	同上
16	石村　智	ベトナム	同上	同上	同上
17	庄田　慎矢	韓国	5月22日～5月28日	科学研究費補助金による調査	科研費
18	杉山　洋	カンボジア	6月7日～7月11日	アンコール文化遺産保護に関する研究協力	運営費交付金
19	佐藤　由似	カンボジア	6月7日～9月7日	アンコール文化遺産保護に関する研究協力	運営費交付金
20	大林　潤	韓国	6月5日～6月8日	第一次大極殿院復元にかかる類例の調査	業務委託経費
21	海野　聡	韓国	同上	同上	同上
22	井上　麻香	韓国	同上	同上	同上
23	森本　晋	イタリア・ロシア・アルメニア・キルギス	6月13日～6月30日	バーミヤン遺跡保存専門家会議出席ならびに中央アジア関係異物･遺跡調査	運営費交付金
24	丹羽　崇史	中国	6月15日～6月19日	鞏義窯陶瓷国際学術検討会への参加	運営費交付金
25	森川　実	中国	同上	同上	渡航費　運営費交付金 滞在費　先方負担
26	小田　裕樹	中国	同上	同上	同上
27	高橋　透	中国	同上	同上	同上
28	庄田　慎矢	アメリカ	6月25日～6月30日	ハーバード大学韓国研究所主催のワークショップ参加および科学研究費補助金による調査	科研費・先方負担
29	丹羽　崇史	中国	6月27日～7月2日	平成２４年度秋期特別展の事前資料調査・協議	運営費交付金
30	成田　聖	中国	同上	同上	同上
31	加藤　真二	韓国	7月4日～7月7日	飛鳥地域に関わる韓国出土遺物の調査と研究打ち合わせ	運営費交付金
32	庄田　慎矢	韓国	同上	同上	同上
33	小野　健吉	イタリア	7月7日～7月19日	イタリアにおける庭園等の調査	京都大学大学院研究経費
34	田村　朋美	カンボジア	7月11日～7月17日	アンコール文化遺産保護に関する研究協力	運営費交付金
35	脇谷　草一郎	カンボジア	同上	同上	同上
36	鈴木　智大	中国	7月15日～7月20日	第一次大極殿院復元にかかる類例の調査	業務委託経費
37	井上　麻香	中国	同上	同上	同上
38	海野　聡	中国	同上	同上	同上
39	森本　晋	ウズベキスタン	7月18日～7月23日	文化財ドキュメンテーション国際会議の準備会議出席	運営費交付金
40	杉山　洋	カンボジア	7月22日～9月7日	カンボジア･ウドン遺跡およびロンヴェック遺跡等の保存に関する拠点交流事業	業務委託経費
41	田代　亜紀子	カンボジア	7月26日～8月6日	カンボジア･ウドン遺跡およびロンヴェック遺跡等の保存に関する拠点交流事業	業務委託経費
42	石村　智	カンボジア	同上	同上	同上
43	小澤　毅	カンボジア	7月26日～8月7日	同上	同上
44	金田　明大	カンボジア	同上	同上	同上
45	海野　聡	韓国	7月25日～7月30日	第一次大極殿院復元にかかる類例の調査	業務委託経費
46	北山　夏希	韓国	同上	同上	同上
47	鈴木　智大	韓国	同上	同上	同上
48	庄田　慎矢	韓国	7月28日～7月31日	財団法人高梨学術奨励基金による調査研究「磨製石器製作工房遺跡の日韓比較研究」に関する資料調査のため	助成金
49	林　良彦	ベトナム	8月9日～8月19日	ベトナム国ドンナイ省フーホイ･ティエンザン省カイベ―の集落調査および類例調査	他機関負担：昭和女子大学
50	黒坂　貴裕	ベトナム	8月9日～8月18日	同上	同上
51	高橋　知奈津	ベトナム	同上	同上	同上
52	松本　将一郎	ベトナム	同上	同上	同上

	氏名	用務先	期間	用務	備考
53	庄田　慎矢	韓国	8月15日～8月20日	科学研究費補助金による調査	科研費
54	加藤　真二	中国	8月21日～8月28日	科学研究費補助金による泥河湾旧石器の調査	科研費
55	松井　章	台湾	8月22日～8月27日	台湾において講演会に参加	先方負担
56	庄田　慎矢	韓国	8月24日～10月21日	「日韓古代都城制の比較研究」の共同研究	運営費交付金
57	馬場　基	中国	8月28日～8月30日	シンポジウム報告のため	科研費
58	渡辺　晃宏	中国	8月28日～9月1日	同上	同上
59	石村　智	トンガ	8月30日～9月4日	国営公園沖縄海洋博記念公園海洋文化館の新規展示資料の収集	国営公園沖縄海洋博記念公園
60	森本　晋	チェコ	9月11日～9月17日	CIPA（文化遺産記録国際委員会）2011出席	運営費交付金
61	石村　智	サモア	9月5日～9月11日	ユネスコ第３回太平洋世界遺産ワークショップに参加	運営費交付金
62	森本　晋	ウズベキスタン	9月19日～9月24日	文化財ドキュメンテーション国際会議出席・発表	ユネスコ・運営費交付金
63	加藤　真二	中国	9月20日～9月22日	遼寧省との研究・展示に関する調整と協議	運営費交付金
64	小池　伸彦	中国	9月20日～9月22日	遼寧省との共同研究に関する協議	運営費交付金
65	清野　孝之	中国	同上	同上	同上
66	青木　達司	アメリカ	9月24日～10月1日	アメリカ合衆国コロンビア大学との共同研究・研究交流	運営費交付金
67	清水　重敦	アメリカ	9月25日～10月1日	同上	同上
68	惠谷　浩子	アメリカ	9月26日～10月2日	アメリカ合衆国における文化的景観保全制度と運用状況に関する調査	運営費交付金
69	石村　智	アメリカ	9月26日～10月2日	コロンビア大学日本中世研究所との共同研究、およびペンシルバニア大学にて資料調査	運営費交付金：コロンビア大学共同研究
70	佐藤　由似	カンボジア	9月27日～11月18日	アンコール文化遺産保護に関する研究協力	運営費交付金
71	金田　明大	カザフスタン	9月27日～10月19日	ユネスコ・シルクロード世界遺産登録関連ドキュメンテーション事業の調査	東京文化財研究所
72	平澤　毅	韓国	9月28日～10月1日	第5回新羅学国際学術大会への出席・講演等	先方負担
73	箱崎　和久	韓国	10月4日～10月8日	国際学術セミナー「東アジア古代寺址および古代庭園」への出席	先方負担
74	高橋　知奈津	韓国	10月4日～10月8日	同上	同上
75	小澤　毅	キルギス	10月4日～10月19日	文化庁受託「キルギス共和国および中央アジア諸国における文化遺産保護に関する拠点交流事業」の一環として実施される人材育成事業における講義	東京文化財研究所
76	芝　康次郎	キルギス	10月10日～10月19日	同上	同上
77	井上　和人	キルギス	10月10日～10月13日	同上	運営費交付金
78	小野　健吉	キルギス	10月10日～10月16日	同上	運営費交付金
79	小野　健吉	カザフスタン	10月16日～10月19日	同上	同上
80	森本　晋	キルギス	10月10日～10月17日	キルギス国立科学アカデミー歴史文化遺産研究所ほかの収蔵遺物見学ならびに関連遺跡の踏査	助成金
81	北田　正弘	フランス・スイス・ドイツ	10月10日～10月17日	青葉刀剣等の共同研究打ち合わせ及び文化財の調査	科研費
82	鈴木　智大	中国	10月11日～10月15日	日中韓建築文化遺産保存国際会議への出席	渡航費：運営費交付金 滞在費：先方負担
83	箱崎　和久	中国	10月11日～10月22日	日中韓建築文化遺産保存国際会議への出席、第一次大極殿院復元にかかる類例建築調査	業業務委託経費
84	大林　潤	中国	10月11日～10月22日	同上	同上
85	北山　夏希	中国	10月11日～10月22日	同上	同上
86	杉山　洋	カンボジア	10月12日～10月19日	アンコールトム内仏教テラスの研究	助成金
87	林　良彦	中国	10月15日～10月22日	第一次大極殿院復元にかかる類例建築調査	業務委託経費
88	石田　由紀子	中国	10月18日～10月24日	同上	同上
89	今井　晃樹	中国	同上	同上	同上
90	中川　二美	中国	同上	同上	同上
91	清野　孝之	中国	同上	同上	同上
92	森本　晋	タイ	10月18日～10月22日	太平洋近隣友好協会年次大会（PNC）2011に出席発表	科研費
93	平澤　毅	韓国	10月19日～10月22日	名勝の保存と保全に関する国際ワークショップへの出席・発表等	先方負担
94	児島　大輔	中国	10月22日～10月29日	陝西省西安市および彬県における資料調査・踏査および資料収集	助成金
95	松井　章	イギリス	10月24日～10月30日	在英日本大使館において文化財レスキューの講演、セインズベリー日本芸術研究所にて共同研究の打ち合わせ	先方負担
96	井上　和人	中国	10月27日～10月30日	第一次大極殿院復元にかかる類例建築調査	業務委託経費
97	中村　亜希子	中国	10月27日～10月31日	同上	同上
98	中川　二美	中国	同上	同上	同上
99	石田　由紀子	中国	同上	同上	同上
100	鈴木　智大	中国	同上	同上	同上
101	井上　麻香	中国	同上	同上	同上
102	田村　朋美	韓国	10月27日～11月1日	武寧王陵発掘４０周年記念講演会で講演	先方負担、科研費
103	馬場　基	韓国	11月4日～11月7日	韓国木簡学会大会報告	先方負担
103	桑田　訓也	韓国	11月4日～11月7日	韓国木簡学会大会参加	木簡学会
104	清野　孝之	中国	11月5日～11月9日	遼寧省文物考古研究所との国際共同研究	運営費交付金
105	諫早　直人	中国	同上	同上	同上

	氏名	用務先	期間	用務	備考
106	庄田　慎矢	中国	11月5日～11月12日	科学研究費による調査研究のため国際学術会議「全球視野下的青銅時代」における研究発表	科研費
107	石村　智	台湾・フィリピン	11月6日～11月14日	台湾における初期オーストロネシア語族の遺跡の調査、およびフィリピン、マニラで開催されるAsia-Pacific Regional Conference on Underwater Cultural Heritage にて座長および研究発表	科研費
108	加藤　真二	中国	11月7日～11月9日	遼寧省文物考古研究所との研究・展示に関する調整と協議	運営費交付金
109	杉山　洋	カンボジア	11月12日～11月29日	西トップ遺跡の調査研究	運営費交付金
110	田代　亜紀子	インドネシア・ベトナム	11月15日～12月1日	「ヘリテージツーリズムによる地域の文化遺産マネジメントに関する研究」調査および第一次大極殿院復元にかかる類例建築調査	科研費・業務委託経費
111	諫早　直人	韓国	11月20日～11月27日	日韓共同研究「日本列島における金工品生産と新羅」にもとづく調査研究	渡航費：運営費交付金,滞在費：先方負担
112	石村　智	ミクロネシア	11月20日～11月28日	ミクロネシア連邦ナン･マドール遺跡の保護に資する人材育成ワークショップ	先方負担
113	北山　夏希	ベトナム	11月22日～11月30日	第一次大極殿院復元にかかる類例建築調査	業務委託経費
114	児島　大輔	ベトナム	同上	同上	同上
115	中川　二美	ベトナム	同上	同上	同上
116	大林　潤	ベトナム	11月24日～11月30日	同上	同上
117	清野　孝之	ベトナム	11月24日～11月30日	同上	同上
118	番　光	ベトナム	11月24日～11月30日	同上	同上
119	井上　和人	ベトナム	11月27日～11月30日	同上	同上
120	難波　洋三	中国	11月22日～11月27日	河南省・河北省への資料調査	運営費交付金
121	青木　敬	中国	同上	同上	同上
122	丹羽　崇史	中国	同上	同上	同上
123	玉田　芳英	中国	同上	同上	同上
124	栗山　雅夫	中国	同上	同上	同上
125	森川　実	中国	同上	同上	同上
126	青木　敬	韓国	12月2日～12月4日	チャラボン古墳発掘調査見学および古代土木技術関連資料の収集	科研費
127	佐藤　由似	カンボジア	12月5日～12月30日	アンコール遺跡群西トップ遺跡建築装飾群の修復・復元	助成金
128	脇谷　草一郎	中国	12月5日～12月9日	国際会議「伝統技術の継承と人材養成―石とレンガの修理技術」に出席	寄附金
129	降幡　順子	中国	12月7日～12月9日	同上	同上
130	田村　朋美	中国	12月7日～12月9日	国際会議「伝統技術の継承と人材養成―石とレンガの修理技術」に出席同済大学研究協定の協議	寄附金
131	高妻　洋成	中国	同上	同上	同上
132	杉山　洋	カンボジア	12月8日～12月27日	西トップ遺跡の調査研究	運営費交付金
133	丹羽　崇史	中国	12月9日～12月15日	湖北省における失蝋法関連遺物の資料調査	科研費
134	井上　和人	カンボジア	12月12日～12月16日	西トップ事業アプサラとの覚書締結式出席	運営費交付金
135	渡辺　晃宏	韓国	12月14日～12月16日	木簡に関する日韓共同研究	運営費交付金
136	桑田　訓也	韓国	同上	同上	運営費交付金・先方負担
137	森先　一貴	ロシア	12月16日～12月22日	ロシア連邦ハバロフスク地方コンドン１遺跡出土遺物の調査・研究	科研費
138	加藤　真二	中国	12月18日～12月26日	科学研究費による中国細石刃石器群の調査	科研費
139	芝　康次郎	中国	同上	同上	同上
140	青木　敬	韓国	12月19日～12月22日	日韓共同研究にともなう資料調査	渡航費：運営費交付金,滞在費：先方負担
141	廣瀬　覚	韓国	同上	同上	同上
142	若杉　智宏	韓国	同上	同上	同上
143	箱崎　和久	ベトナム	12月22日～12月30日	ベトナム国ドンナイ省フーホイ･ティエンザン省カイベ―の集落調査および類例調査	昭和女子大学
144	大林　潤	ベトナム	同上	同上	同上
145	栗山　雅夫	ベトナム	同上	同上	同上
146	高橋　知奈津	ベトナム	同上	同上	同上
147	林　良彦	ベトナム	12月26日～12月31日	同上	同上
148	児島　大輔	中国	12月28日～12月31日	中国国家博物館・北京石刻芸術博物館等における資料調査	運営費交付金
149	田代　亜紀子	インドネシア	24年1月2日～1月11日	平成度文化庁受託「西スマトラ州パダンにおける歴史的地区日債文化遺産復興支援（専門家交流）」ワークショップ参加	東京文化財研究所
150	加藤　真二	中国	24年1月5日～1月7日	科学研究費による調査打ち合わせ	科研費
151	杉山　洋	ベトナム	24年1月5日～1月7日	日本ユネスコ信託基金タンロン皇城跡保存事業ワークショップ参加	東京文化財研究所
152	井上　和人	ベトナム	24年1月5日～1月8日	同上	同上
153	石村　智	ベトナム	24年1月5日～1月8日	タンロン皇城遺跡保存支援国際協力	東京文化財研究所
154	杉山　洋	カンボジア	24年1月13日～1月21日	西トップ遺跡の調査研究	運営費交付金
155	佐藤　由似	カンボジア	24年1月8日～3月17日	アンコール文化遺産保護に関する研究協力	運営費交付金
156	田村　朋美	カンボジア	24年1月16日～1月20日	同上	同上
157	高妻　洋成	カンボジア	同上	同上	同上
158	脇谷　草一郎	カンボジア	24年1月16日～1月20日	アンコール文化遺産保護に関する研究協力	運営費交付金
159	小野　健吉	カンボジア	24年1月25日～1月30日	アンコール・ワット及びその周辺の水景観等の調査	運営費交付金
160	杉山　洋	カンボジア	24年2月7日～2月25日	カンボジア･ウドン遺跡およびロンヴェック遺跡等の保存に関する拠点交流事業	業務委託経費

	氏名	用務先	期間	用務	備考
161	石村　智	カンボジア	24年2月12日～2月24日	同上	同上
162	田村　朋美	カンボジア	24年2月20日～2月25日	同上	同上
163	森本　晋	カザフスタン	24年2月14日～2月18日	カザフ国立大学収蔵考古資料の調査	助成金
164	芝　康次郎	カザフスタン	同上	同上	同上
165	田代　亜紀子	インドネシア・カンボジア	24年2月12日～2月28日	科研「ヘリテージツーリズムによる地域の文化遺産マネジメントに関する研究」調査および拠点交流事業調査	科研費・業務委託経費
166	高妻　洋成	ベトナム	24年2月19日～2月23日	タンロン皇城遺跡保存に係る現地調査に参加	東京文化財研究所
167	森先　一貴	ロシア	24年2月19日～2月23日	ロシア連邦沿海地方新石器時代遺跡出土遺物の調査	助成金
168	脇谷　草一郎	ベトナム	24年2月20日～2月24日	ベトナム・タンロン皇城遺跡保存に係る現地調査に参加	東京文化財研究所
169	森本　晋	カンボジア	24年3月20日～3月23日	カンボジア・西トップ遺跡修復事業に参加	運営費交付金
170	松井　章	エルサルバドル・グアテマラ	24年2月23日～3月2日	名古屋大学が行う中米遺跡発掘の環境考古学的調査の指導	名古屋大学
171	森本　晋	イギリス・フランス	24年2月25日～3月4日	バーミヤン遺跡群ならびに中央アジア遺跡調査関係資料のデータ化のための調査	運営費交付金
172	加藤　真二	中国	24年2月27日～3月4日	科学研究費による中国細石刃文化の基礎的研究のための史料調査	科研費
173	杉山　洋	カンボジア・ベトナム	24年3月6日～3月25日	西トップ遺跡の調査研究	運営費交付金
174	難波　洋三	カンボジア・ベトナム	24年3月7日～3月11日	西トップ寺院修復工事起工式出席・タンロン皇城遺跡保存事業視察	運営費交付金、東京文化財研究所
175	石村　智	カンボジア	24年3月7日～3月10日	カンボジア・西トップ遺跡の調査研究	運営費交付金
176	田代　亜紀子	ベトナム	24年3月9日～3月12日	ベトナム・タンロン皇城遺跡保存事業協議	東京文化財研究所
177	菊地　大樹	中国	24年3月14日～3月21日	埋蔵文化財ニュース刊行のための調査	運営費交付金
178	小野　健吉	イタリア	24年3月17日～3月25日	イタリアにおける庭園等の調査	京都大学大学院研究経費
179	小池　伸彦	中国	24年3月19日～3月23日	遼寧省文物考古研究所との国際共同研究「遼西地域における都城の研究」嶺寺遺跡出土瓦調査・共同研究計画に関する協議	運営費交付金
180	栗山　雅夫	中国	同上	同上	同上
181	森先　一貴	中国	同上	同上	同上
182	難波　洋三	韓国	24年3月19日～3月23日	韓国出土唐三彩の調査	運営費交付金
183	木村　理恵	韓国	同上	同上	同上
184	玉田　芳英	韓国	同上	同上	同上
185	小田　裕樹	韓国	同上	同上	同上
186	森川　実	韓国	同上	同上	同上
187	若杉　智宏	韓国	同上	同上	同上
188	森本　晋	カンボジア	24年3月20日～3月23日	カンボジア・西トップ遺跡の調査研究	運営費交付金

【アジア太平洋無形文化遺産研究センター】延べ15人

	氏名	用務先	期間	用務	備考
1	大貫美佐子	韓国（ソウル）	6月1日～6月3日	第７回アジア文化ネットワーク会議におけるＡＳＥＡＮ加盟国とアジア太平洋Ｃ２Ｃの協力強化会議出席	文化庁受託経費
2	松山直子	インド（デリー、アーメダバード）	7月10日～7月20日	アジア太平洋地域における無形文化遺産保護に関する調査（伝統染織技術に関する情報収集）	文部科学省受託経費
3	松山直子	タイ（バンコク）	8月21日～8月27日	アジア太平洋地域における無形文化遺産保護に関する調査（行政組織構築と法的枠組形成の現状調査）	文部科学省受託経費
4	大貫美佐子	フランス（パリ）、イギリス（ロンドン）	8月29日～9月3日	フランス世界文化機関会長及び無形文化遺産条約専門家会合委員との打合せ	文化庁受託経費
5	松山直子	インド（ジャイプル、アーメダバード）	11月10日～11月23日	無形文化遺産保護活動の現状調査（更紗制作技術及び木版制作技術の伝承状況調査）	文部科学省受託経費
6	大貫美佐子	インドネシア（バリ）	11月25日～12月1日	無形文化遺産保護条約第６回政府間委員会（６ＣＯＭ）出席	文部科学省受託経費
7	淑瑠ラフマン	インドネシア（バリ）	11月25日～12月1日	無形文化遺産保護条約第６回政府間委員会（６ＣＯＭ）出席	文部科学省受託経費
8	藤井知昭	韓国（ソウル）	11月28日～11月29日	アジア太平洋のＩＣＨの保護のための地域連携に関する国際会議出席及び発表報告	文部科学省受託経費
9	松山直子	タイ（バンコク）	12月14日～12月18日	アジア太平洋地域における無形文化遺産保護活動の現地調査（研究状況調査）	文部科学省受託経費
10	淑瑠ラフマン	新疆ウイグル自治区	12月23日～24年1月3日	ウイグル伝統音楽における音程変化の移行パターンとウイグル社会における人々の音楽に対する意識や音楽の社会環境に対する調査研究	先方負担：金沢大学
11	松山直子	タイ（バンコク、アユタヤ）	24年1月10日～1月15日	無形文化遺産保護活動の現状調査（染織技術の変遷と研究状況調査）	文部科学省受託経費
12	松山直子	タイ（バンコク）	24年1月25日～1月29日	無形文化遺産保護活動の現状調査（染織技術の調査）	文部科学省受託経費
13	児玉茂昭	カンボジア（ネピトー、ヤンゴン、マンダレー）	24年2月14日～2月24日	アジア太平洋地域における無形文化遺産保護に関する調査（無形文化遺産の現状について調査研究）	文部科学省受託経費
14	淑瑠ラフマン	中国（北京）	24年2月21日～26日	ユネスコアジア太平洋無形文化遺産育成センター（CHIHAP）開所式出席及び北京大学（楊　哲峰教授）と研究打合せ	文化庁受託経費

	氏名	用務先	期間	用務	備考
15	松山直子	インド（ハイデラバード、スリカラハスティ、マチリパトナム、アーメダバード）	24年2月27日～3月7日	無形文化遺産保護活動の現状調査（更紗制作技術の伝承状況調査）	文部科学省受託経費

c-② 調査研究テーマ一覧

国立文化財機構合計	博物館計	東京国立博物館	京都国立博物館	奈良国立博物館	九州国立博物館
140 件	88 件	39 件	12 件	13 件	24 件
	文化財研究所計	東京文化財研究所	奈良文化財研究所	共同研究（東京・奈良文化財研究所）	
	51 件	24 件	27 件	0 件	
	アジア太平洋無形文化遺産研究センター				
	1 件				

【東京国立博物館】　計39件

○有形文化財の収集・保存・管理・展示・教育活動等にかかる調査・研究

	調査研究テーマ名	担当部課	事業責任者　（役職・名前）
1	収蔵品・寄託品及び関連品に関する調査研究	学芸研究部	調査研究課長　田良島哲
2	特別調査法隆寺献納宝物（第３３次）「聖徳太子絵伝」第７回	学芸研究部	調査研究課絵画・彫刻室長　田沢裕賀
3	特別調査「書跡」第９回	学芸研究部	調査研究課長　田良島哲
4	特別調査「工芸」第３回	学芸研究部	調査研究課工芸室長　竹内奈美子
5	特別調査「彫刻」第１回	学芸研究部	調査研究課東洋室長　浅見龍介
6	特別調査「金地屏風の金箔地についての調査研究」―尾形光琳風神雷神屏風を中心に	学芸研究部	調査研究課絵画・彫刻室長　田沢裕賀
7	板谷家を中心とした江戸幕府御用絵師に関する総合的研究（科学研究費補助金）	学芸研究部	調査研究課絵画・彫刻室長　田沢裕賀
8	油彩画の材料・技法に関する共同調査	学芸研究部	保存修復課長　神庭信幸
9	目録学の構築と古典学の再生に関する調査研究（科学研究費補助金）	学芸研究部	調査研究課長　田良島哲
10	文化財保護の歴史に関する基礎的研究（科学研究費補助金）	学芸研究部	学芸企画部博物館情報課長　高橋裕次
11	占領期の教育政策における国立博物館の役割に関する調査研究（科学研究費補助金）	学芸研究部	学芸企画部博物館教育課　神辺知加
12	宮廷工芸に関する物質文化的研究（科学研究費補助金）	学芸研究部	列品管理課　猪熊兼樹
13	日本近世実景図研究	学芸研究部	調査研究課絵画・彫刻室長　田沢裕賀
14	光学的調査に基づく高雄曼荼羅の発展的研究（科学研究費補助金	学芸研究部	学芸企画部長　松本伸之
15	古筆切紙背の史料学的研究（学術研究助成基金助成金	学芸研究部	調査研究課長　田良島哲
16	家形埴輪の群構成と階層性からみた東アジアにおける古墳葬送儀礼に関する基礎的研究（学術研究助成基金助成金	学芸研究部	列品管理課　古谷毅
17	近現代における古日本染織の移動とコレクション形成に関する基礎的研究（科学研究費補助金	学芸研究部	調査研究課　小山弓弦葉
18	絵巻の＜伝来＞をめぐる総合的研究（科学研究費補助金	学芸研究部	調査研究課　土屋貴裕
19	狩野晴川院養信による寺社宝物摸本の基礎的研究（学術研究助成基金助成金	学芸研究部	列品管理課　安藤香織
20	黒耀石の獲得と消費からみた完新世初期人類社会の形成過程（学術研究助成基金助成金	学芸研究部	列品管理課　及川穣
21	東京国立博物館所蔵国際交流史料データベース（科学研究費補助金・研究成果公開促進費	学芸研究部	調査研究課　髙梨真行
22	隋唐時代の仏舎利信仰と荘厳に関する総合的調査研究（科学研究費補助金	学芸研究部	保存修復課　和田浩
23	諸先学の作品調書・画像資料類の保存と活用のための研究・開発（科学研究費補助金	学芸研究部	調査研究課　土屋貴裕
24	絵巻に描かれた「場」と「もの」に見る中世日本の重層的世界観に関する研究（科学研究費補助金	学芸研究部	調査研究課　土屋貴裕
25	南宋絵画史における仏画の位相－都と地域、中国と周縁－（科学研究費補助金	学芸研究部	調査研究課　塚本麿充
26	アジアの木地螺鈿－その源流、正倉院宝物への道をたどる－（科学研究費補助金	学芸研究部	列品管理課　猪熊兼樹
27	草創期の磁器における『和様化』の背景について　（メトロポリタン東洋美術研究センター研究助成金	学芸研究部	学芸企画部企画課　横山梓
28	古筆切の発生とその鑑賞に関する基礎的研究（メトロポリタン東洋美術研究センター助成金）	学芸研究部	調査研究課　恵美千鶴子
29	高雄曼荼羅の調査研究（メトロポリタン東洋美術研究センター研究助成金	学芸研究部	学芸企画部長　松本伸之
30	館蔵の漢籍・洋書に関する基礎的研究	学芸研究部	学芸企画部博物館教育課長　高橋裕次
31	東洋民族資料に関する調査研究	学芸研究部	保存修復課　川村佳男
32	東アジアの書道史における料紙と書風に関する総合的研究（科学研究費補助金）	学芸研究部	副館長　島谷弘幸
33	中国書画の表装に関する基礎的研究（科学研究費補助金）	学芸研究部	列品管理課長　富田淳
34	博物館の環境保存に関する研究	学芸研究部	保存修復課長　神庭信幸
35	博物館における文化遺産の保全と持続的公開を目指した包括的保存システムの研究（科学研究費補助金）	学芸研究部	保存修復課長　神庭信幸
36	博物館環境デザインに関する調査研究	学芸企画部	企画課デザイン室長　木下史青
37	博物館美術教育に関する調査研究	学芸企画部	博物館教育課長　今井敦
38	博物館資料・業務の情報処理に関する調査研究	学芸企画部	博物館情報課情報管理室長　村田良二
39	凸版印刷と共同で、ミュージアム・シアターでの公開に向けた研究	学芸企画部	企画課長　井上洋一

【京都国立博物館】　計12件

○有形文化財の収集・保存・管理・展示・教育活動等にかかる調査・研究

	調査研究テーマ名	担当部課	事業責任者　（役職・名前）
1	訓点資料としての典籍に関する調査研究	学芸部	上席研究員　赤尾栄慶
2	彫刻に関する調査研究	学芸部	主任研究員　淺湫 毅
3	出土・伝世古陶磁に関する調査研究	学芸部	工芸室長　尾野善裕
4	近代建築に関する調査研究	学芸部	文化財管理監　中村　康
5	特別展覧会「中国近代絵画と日本」に関する調査	学芸部	学芸部長　西上　実
6	特別展覧会「王朝文化の華　陽明文庫名宝展」に関する調査研究	学芸部	上席研究員　赤尾栄慶
7	近畿地区（特に京都）社寺文化財の調査研究	学芸部	館長　佐々木 丞平
8	近世絵画に関する調査研究	学芸部	連携協力室長　山下 善也
9	鎌倉仏教とその造形に関する調査研究	学芸部	上席研究員　赤尾栄慶
10	修復文化財に関する資料収集及び調査研究	学芸部	保存修理指導室長　村上 隆
11	文化財の保存・修復に関する調査研究	学芸部	保存修理指導室長　村上 隆
12	文化財情報に関する調査研究	学芸部	企画室長　久保智康

【奈良国立博物館】　計13件

○有形文化財の収集・保存・管理・展示・教育活動等にかかる調査・研究

	調査研究テーマ名	担当部課	事業責任者　（役職・名前）
1	館蔵品・寄託品等の基礎的・総合的調査を進め、作品の適切な収集及び魅力的な展示に反映させる。	学芸部	学芸部長　西山　厚
2	歴史学・考古学・美術史学などの人文諸学の見地から館蔵品・寄託品等の調査研究を行い、その成果を積極的に公表する。	学芸部	学芸部長　西山　厚
3	中国・韓国などアジア諸国の文化財に関する調査研究を積極的に進め、日本の文化財との比較検討や相互理解に資する。	学芸部	学芸部長　西山　厚
4	日本とアジア諸国の文化交流に関する調査研究を進め、その成果を展示や公刊物等に反映させる。	学芸部	学芸部長　西山　厚
5	平成２４年度春季特別展「貞慶（仮称）」、２５年度春季特別展「当麻寺展（仮称）」など、将来の特別展実施に向けた調査研究を行う。	学芸部	学芸部長　西山　厚
6	南都諸社寺等における文化財調査を積極的に実施して宗教文化に関する調査研究の成果を蓄積し、平成２３年度特別展「天竺へ－三蔵法師三万キロの旅」及び特別陳列「初瀬にますは与喜の神垣－與喜天満神社の秘宝と神像」、毎年恒例の特別陳列「お水取り」「おん祭と春日信仰の美術」、２４年度特別展「貞慶（仮称）」、２５年度特別展「当麻寺（仮称）」等に反映させる。	学芸部	学芸部長　西山　厚
7	正倉院宝物や奈良の出土遺物・伝世品・伝統工芸・芸能など、当該地域に密着した文化財に関する調査研究を実施し、展覧会等に反映させる。	学芸部	学芸部長　西山　厚
8	東京文化財研究所と共同で行う天台高僧像（一乗寺蔵）、信貴山縁起絵巻（朝護孫子寺蔵）の調査など、仏教美術の光学的調査研究を実施し、作品の材料・技術等の解明に寄与する。	学芸部	学芸部長　西山　厚
9	収蔵庫・展示室・ケース内部等における環境の、文化財に与える影響などに関する調査研究を持続的に実施し、収蔵品の保存環境の向上を図る。	学芸部	学芸部保存修理指導室長　谷口耕生
10	館蔵品・寄託品等の調査研究を文化財修理の観点から実施し、文化財の活用及び後世への継承に資する。	学芸部	学芸部保存修理指導室長　谷口耕生
11	館蔵品・寄託品等の調査研究を保存科学の観点から実施し、貴重な文化財の後世への継承に資する。	学芸部	学芸部保存修理指導室長　谷口耕生
12	歴史、伝統文化の教育普及に資するための調査研究を行い、その成果を児童・生徒を対象として行う「世界遺産学習」等に反映させる。	学芸部	学芸部教育室長　吉澤　悟
13	文化財アーカイブズの形成に関する理論的・実践的研究を行い、その成果をデジタル画像の作成・各種データベースの構築（収蔵品・画像・図書）・各種情報資源の公開推進に反映させる。	学芸部	資料室長　宮崎幹子

【九州国立博物館】　計24件

○有形文化財の収集・保存・管理・展示・教育活動等にかかる調査・研究

	調査研究テーマ名	担当部課	事業責任者　（役職・名前）
1	Ｘ線ＣＴスキャナによる中国古代青銅器の構造技法解析（科学研究費補助金）	博物館科学課	環境保全室長　今津　節生
2	平成20年度特別展「工芸のいま　伝統と創造」に関連した九州・沖縄の伝統工芸作家への調査を受けて、継続的かつ発展的に調査研究活動を行う	学芸部	学芸部長　谷　豊信
3	旧石器から弥生時代の日本人の起源に関する調査研究	博物館科学課	主任研究員　志賀　智史
4	縄文時代の火焔土器に関する調査研究	展示課	展示課長　赤司　善彦
5	中国内蒙古自治区出土の契丹文化に属する考古遺物に関する調査研究	企画課	研究員　市元　塁
6	館蔵水墨画を中心とした日・中・韓の水墨画に関する調査研究	企画課	主任研究員　畑　靖紀
7	中国湖南省の馬王堆漢墓に関する調査研究	企画課	企画課長　小泉　惠英
8	朝鮮半島、三国時代の考古・美術に関する調査研究	展示課	展示課長　赤司　善彦
9	日本とアジア諸国との文化交流に関する調査研究	企画課	企画課長　小泉　惠英
10	アジアの木地螺鈿－その源流、正倉院宝物への道をたどる－（科学研究費補助金）	文化財課	資料管理室長　小林　公治
11	琉球との交流の視点から京都檀王法林寺に関する調査研究	博物館科学課	保存修復室長　藤田　励夫
12	文化財の材質・構造等に関する共同研究	博物館科学課	環境保全室長　今津　節生
13	博物館における文化財保存修復に関する研究	博物館科学課	主任研究員　志賀　智史
14	博物館危機管理としての市民協同型IPMシステム構築に向けての基礎研究	博物館科学課	博物館科学課長　本田　光子
15	東アジアの文化財修復用手漉き和紙の調査研究（UNESCOとの共同）	博物館科学課	保存修復室長　藤田　励夫
16	日本の文化財修理と保存、復元に関する調査研究	博物館科学課	博物館科学課長　本田　光子
17	九博に関連する絵本の次シリーズの企画に関する調査研究	企画課	研究員　市元　塁
18	NHKと協同で高精細画像を活用したシアター4000での映像公開に向けた研究	展示課	展示課長　赤司　善彦
19	特別展のテーマに則した、解説パネル、冊子、ワークショップ等、観覧者の理解促進のための教育普及プログラムの調査研究	企画課	企画課長　小泉　惠英
20	学校教育との連携を図りながら、学校貸出キット「きゅうぱっく」の研究・開発	交流課	主任研究員　池内一誠
21	Ｘ線ＣＴによる九州所在彫像重要作例の三次元的解析（科学研究費補助金）	展示課	主任研究員　楠井　隆志
22	南アジアと東方アジアの螺鈿構造―技術比較の視点から―（メトロポリタン東洋美術研究センター研究助成）	文化財課	資料管理室長　小林　公治
23	平山郁夫　画業と文化財保護活動に関する調査研究	文化財課	文化財課長　臺信祐爾
24	館蔵品を中心とした漆器の調査研究	企画課	研究員　川畑　憲子

【東京文化財研究所】計24件

○文化財に関する基礎的・体系的な調査・研究の推進（7件）

	調査研究テーマ名	担当部課	事業責任者　（役職・名前）
1	文化財の研究情報の公開・活用のための総合的研究	企画情報部	文化財アーカイブズ研究室長　津田徹英
2	文化財の資料学的研究	企画情報部	文化形成研究室長　塩谷　純
3	近現代美術に関する交流史的研究	企画情報部	近現代視覚芸術研究室長　山梨絵美子
4	美術の表現・技法・材料に関する多角的研究	企画情報部	広領域研究室長　綿田　稔
5	無形文化財の保存・活用に関する調査研究	無形文化遺産部	無形文化遺産部長　宮田繁幸
6	無形民俗文化財の保存・活用に関する調査研究	無形文化遺産部	無形文化遺産部長　宮田繁幸
7	無形文化遺産分野の国際研究交流事業	無形文化遺産部	無形文化遺産部長　宮田繁幸

○文化財の研究に関する調査手法の研究・開発の推進（1件）

	調査研究テーマ名	担当部課	事業責任者　（役職・名前）
1	文化財デジタル画像形成に関する調査研究	企画情報部	文化財アーカイブズ研究室長　津田徹英

○科学技術の活用等による文化財の保存科学や修復技術に関する中核的な支援拠点として、先端的調査研究等の推進（10件）

	調査研究テーマ名	担当部課	事業責任者　（役職・名前）
1	文化財のカビ被害予防と対策のシステム化についての研究	保存修復科学センター	保存修復科学センター長　石﨑武志
2	文化財の保存環境の研究	保存修復科学センター	保存修復科学センター長　石﨑武志
3	文化財の材質及び劣化調査法に関する研究	保存修復科学センター	保存修復科学センター長　石﨑武志
4	周辺環境が文化財に及ぼす影響評価とその対策に関する研究	保存修復科学センター	修復材料研究室長　朽津信明
5	文化財の災害対策及び被災文化財の救援と保存修復手法に関する研究	保存修復科学センター	修復材料研究室長　朽津信明
6	伝統的修復材料及び合成樹脂に関する調査研究	保存修復科学センター	伝統技術研究室長　北野信彦
7	国際研修「紙の保存と修復」	文化遺産国際協力センター	文化遺産国際協力センター長　川野邊　渉
8	在外日本古美術品保存修復協力事業	文化遺産国際協力センター	文化遺産国際協力センター長　川野邊　渉
9	近代の文化遺産の保存修復に関する研究	保存修復科学センター	近代文化遺産研究室長　中山俊介
10	文化庁が行う高松塚古墳・キトラ古墳の壁画の調査及び保存・活用に関する技術的協力	保存修復科学センター	保存修復科学センター長　石﨑武志

○保存・修復事業を実施するために必要な研究基盤の整備（1件）

	調査研究テーマ名	担当部課	事業責任者　（役職・名前）
1	文化財保護に関する国際情報の収集・研究・発信	文化遺産国際協力センター	保存計画研究室長　友田正彦

○諸外国における文化財の保存・修復に関する技術移転の推進（4件）

	調査研究テーマ名	担当部課	事業責任者　（役職・名前）
2	東アジア諸国文化遺産保存修復協力	文化遺産国際協力センター	保存修復科学センター長　岡田　健
3	東南アジア諸国文化遺産保存修復協力	文化遺産国際協力センター	保存計画研究室長　友田正彦
4	西アジア諸国等文化遺産保存修復協力事業	文化遺産国際協力センター	地域環境研究室長　山内和也
5	文化財保存修復手法の国際的研究	文化遺産国際協力センター	文化遺産国際協力センター長　川野邊　渉

○研修、専門家の派遣を通じた諸外国における人材育成、技術移転（1件）

	調査研究テーマ名	担当部課	事業責任者　（役職・名前）
1	諸外国の文化財保護に係る人材育成	文化遺産国際協力センター	保存計画研究室長　友田正彦

【奈良文化財研究所】計27件

○文化財に関する基礎的・体系的な調査・研究の推進（14件）

	調査研究テーマ名	担当部課	事業責任者　（役職・名前）
1	近畿を中心とする古寺社等所蔵の歴史資料等に関する調査研究	文化遺産部	歴史研究室長　吉川　聡
2	我が国の建造物及び伝統的建造物群に関する調査・研究	文化遺産部	建造物研究室長　林　良彦
3	我が国の記念物に関する調査・研究	文化遺産部	遺跡整備研究室長　平澤　毅
4	我が国の記念物に関する調査・研究	文化遺産部	遺跡整備研究室長　平澤　毅
5	東アジアにおける工芸技術及び飛鳥時代の建築遺物等の研究	企画調整部	学芸室長　加藤真二
6	平城宮跡東院地区（第４８１次）の発掘調査	都城発掘調査部　平城地区	副所長　井上和人
7	古代官衙、集落遺跡等に関する研究集会の実施、報告書の刊行	都城発掘調査部　平城地区	副所長　井上和人
8	平城京跡出土遺物・遺構の調査研究等	都城発掘調査部　平城地区	副所長　井上和人
9	アジアにおける古代都城遺跡、生産遺跡、墓制及び陶磁器に関する中国、韓国との共同研究及びカザフスタンへの研究協力	都城発掘調査部　平城地区	副所長　井上和人
10	藤原宮跡朝堂院地区（第１６９次）の発掘調査	都城発掘調査部　飛鳥・藤原地区	都城発掘調査部長　深澤芳樹
11	甘樫丘東麓遺跡（第１７１次）の発掘調査	都城発掘調査部　飛鳥・藤原地区	都城発掘調査部長　深澤芳樹
12	飛鳥・藤原京跡出土遺物・遺構に関する調査研究等	都城発掘調査部　飛鳥・藤原地区	都城発掘調査部長　深澤芳樹
13	文化的景観及びその保存・活用に関する調査研究	文化遺産部	文化遺産部長　小野健吉
14	遺構の安定化方法を検討するための基礎データを収集	埋蔵文化財センター	保存修復科学研究室長　高妻洋成

○文化財に関する新たな調査手法の研究・開発の推進（4件）

	調査研究テーマ名	担当部課	事業責任者　（役職・名前）
1	遺跡データベースの作成と公開	埋蔵文化財センター	遺跡・調査技術研究室長　小澤　毅
2	文化財の測量･探査等に関する研究	埋蔵文化財センター	遺跡・調査技術研究室長　小澤　毅
3	年輪年代学研究	埋蔵文化財センター	年代学研究室長　大河内隆之
4	動植物遺存体による環境考古学的研究	埋蔵文化財センター	環境考古学研究室長　松井　章

○文化財の保存科学や修復技術に関する中心的な支援拠点として先端的調査研究等の推進（2件）

	調査研究テーマ名	担当部課	事業責任者　（役職・名前）
1	出土遺物の材質構造調査、鉄製品及び木製品の埋蔵環境調査	埋蔵文化財センター	保存修復科学研究室長　高妻洋成
2	ミリ波イメージングにかかる基礎実験及び装置の改良等	埋蔵文化財センター	保存修復科学研究室長　高妻洋成

○国・地方公共団体の要請に応じた保存措置等のために必要な実践的な調査・研究の実施（6件）

	調査研究テーマ名	担当部課	事業責任者　（役職・名前）
1	文化庁が行う高松塚古墳・キトラ古墳の壁画の調査及び保存・活用に関する技術的協力	都城発掘調査部　飛鳥・藤原地区	都城発掘調査部長　深澤芳樹
2	国土交通省が行う国営飛鳥歴史公園キトラ古墳周辺地区公園予定地の調査及び保存活用に関する技術的協力	都城発掘調査部　飛鳥・藤原地区	都城発掘調査部長　深澤芳樹
3	農林水産省が行う大和紀伊平野土地改良事業大和平野県営飛鳥工区２号幹線の調査及び保存活用に関する技術的協力	都城発掘調査部　飛鳥・藤原地区	都城発掘調査部長　深澤芳樹
4	国土交通省が行う国営飛鳥歴史公園キトラ古墳周辺地区公園予定地内の体験学習館の建設への協力	都城発掘調査部　飛鳥・藤原地区	都城発掘調査部長　深澤芳樹
5	国土交通省が行う平城宮跡展示館（仮称）の建設への協力	企画調整部	企画調整部長　難波洋三
6	国土交通省が行う平城宮跡第一次大極殿院復原への協力	都城発掘調査部　平城地区	副所長　井上和人

〇諸外国における文化財の保存・修復に関する技術移転の推進（1件）

	調査研究テーマ名	担当部課	事業責任者　（役職・名前）
1	カンボジア・アンコールワット遺跡群の西トップ寺院遺跡、ベトナム・タンロン皇城遺跡の建築史的、考古学的、保存科学的調査	企画調整部	国際遺跡研究室長　杉山　洋

【東京文化財研究所と奈良文化財研究所との共同研究】計0件

【アジア太平洋無形文化遺産研究センター】計1件

〇アジア太平洋地域における無形文化遺産保護に関する基礎的な調査・研究（1件）

	調査研究テーマ名	担当部課	事業責任者　（役職・名前）
1	アジア太平洋無形文化遺産研究センターの設置、およびアジア太平洋地域における無形文化遺産保護に関する基礎的な調査・研究	アジア太平洋無形文化遺産研究センター	副所長　大貫美佐子

（参考）受託研究一覧

合計	東京文化財研究所	奈良文化財研究所	アジア太平洋無形文化遺産研究センター
51 件	16 件	33 件	2 件

【東京文化財研究所】計16件

	調査研究テーマ名	担当部課
1	ＧＥＭによる超高感度・大面積ガンマ線イメージセンサー（受託）	保存修復科学センター
2	あるぜんちな丸一等食堂漆棚に於ける制作技法と修復処置の研究（受託）	保存修復科学センター
3	霧島神宮における彩色剥落止めの手法開発及び施工監理（受託）	保存修復科学センター
4	国宝高松塚古墳壁画恒久保存対策に関する調査等業務（受託）	保存修復科学センター
5	特別史跡キトラ古墳保存対策等調査（受託）	保存修復科学センター
6	文化遺産国際協力コンソーシアム事業（受託）	文化遺産国際協力センター
7	文化遺産国際協力拠点交流事業（モンゴル）（受託）	文化遺産国際協力センター
8	ユネスコ　タンロン・ハノイ文化遺産群の保存事業（受託）	文化遺産国際協力センター
9	文化遺産保護国際貢献事業（専門家交流）（アユタヤ遺跡洪水被害状況調査事業）（受託）	文化遺産国際協力センター
10	文化遺産保護国際貢献事業（専門家交流）（受託）	文化遺産国際協力センター
11	ユネスコ　シルクロード世界遺産登録のための支援事業（受託）	文化遺産国際協力センター
12	文化遺産国際協力拠点交流事業（コーカサス）（受託）	文化遺産国際協力センター
13	文化遺産国際協力拠点交流事業（キルギス）（受託）	文化遺産国際協力センター
14	エジプト国大エジプト博物館保存修復センタープロジェクト（フェーズⅠ、Ⅱ）に係る国内支援業務(受託)	文化遺産国際協力センター
15	関西大学博物館所蔵登録有形文化財津雲貝塚出土縄文時代甕棺の復元修理（受託）	保存修復科学センター
16	東北地方太平洋沖地震被災文化財等救援事業（文化財レスキュー事業）（受託）	保存修復科学センター

【奈良文化財研究所】計33件

	調査研究テーマ名	担当部課
1	兵庫県近代和風建築総合調査（受託）	文化遺産部
2	比叡山延暦寺建造物調査（受託）	文化遺産部
3	旧高梁尋常高等小学校本館建造物調査（受託）	文化遺産部
4	興福寺北円堂門跡・回廊跡の発掘調査（受託）	都城発掘調査部(平城)
5	薬師寺収蔵庫建設予定地の発掘調査（受託）	都城発掘調査部(平城)
6	京都岡崎の文化的景観に関する保存計画策定調査（受託）	文化遺産部
7	相川地区文化的景観　景観変遷・景観構造調査　業務委託（受託）	文化遺産部
8	平成23年度長良川流域の文化的景観における伝統的家屋等総合調査業務委託（受託）	文化遺産部
9	京都岡崎の文化的景観に関する普及啓発事業（受託）	文化遺産部
10	「発掘調査のてびき」作成に係る業務（受託）	埋蔵文化財センター
11	出雲大社建築金物の材質分析（受託）	埋蔵文化財センター
12	田熊石畑遺跡武器形青銅器の保存処理及び保存台作製（受託）	埋蔵文化財センター
13	史跡ガランドヤ古墳１号墳における熱・水分同時移動解析に関する研究（受託）	埋蔵文化財センター
14	天良七堂遺跡の総合的探査（受託）	埋蔵文化財センター
15	真福寺貝塚地下レーダー探査業務（受託）	埋蔵文化財センター
16	周防国庁における総合的探査（受託）	埋蔵文化財センター
17	三軒屋遺跡総合的探査（受託）	埋蔵文化財センター
18	神野向遺跡レーダー探査業務委託（受託）	埋蔵文化財センター
19	平成23年度大宰府史跡・蔵司地区における総合的探査業務（受託）	埋蔵文化財センター
20	永保寺開山堂の年輪年代補足調査および観音堂の年輪年代調査（受託）	埋蔵文化財センター
21	東名遺跡出土動物遺存体調査（受託）	埋蔵文化財センター
22	平成23年度小竹貝塚出土骨角器同定調査業務（受託）	埋蔵文化財センター
23	国宝高松塚古墳壁画恒久保存対策に関する研究等業務（受託）	都城発掘調査部（藤原）
24	特別史跡キトラ古墳保存・活用等調査業務（受託）	都城発掘調査部（藤原）
25	キトラ古墳周辺地区檜隈寺跡周辺遺跡発掘調査業務（受託）	都城発掘調査部(藤原)
26	大和紀伊平野農業水利事業に係る埋蔵文化財発掘調査（受託）	都城発掘調査部(藤原)
27	文化遺産国際協力拠点交流事業（受託）	企画調整部
28	海のシルクロードに関する観光研究（受託）	企画調整部
29	第一次大極殿院建造物復原整備にかかる調査委託（受託）	都城発掘調査部(平城)
30	朱雀大路緑地遺跡発掘調査（受託）	都城発掘調査部(平城)
31	特別史跡藤原宮跡（高殿町徳田宅倉庫）発掘調査（受託）	都城発掘調査部（藤原）
32	藤原宮跡（高殿町集会所）発掘調査（受託）	都城発掘調査部（藤原）
33	藤原宮跡（法花寺水路改修）発掘調査（受託）	都城発掘調査部（藤原）

【アジア太平洋無形文化遺産研究センター】計2件

	調査研究テーマ名	担当部課
1	日本／ユネスコ　パートナーシップ事業　アジア太平洋地域無形文化遺産保護活動の調査研究（受託）	アジア太平洋無形文化遺産研究センター
2	無形文化遺産保護パートナーシッププログラム（受託）	アジア太平洋無形文化遺産研究センター

c-③ 学会、研究会等発表実績一覧

国立文化財機構合計	博物館計	東京国立博物館	京都国立博物館	奈良国立博物館	九州国立博物館
327 件	194 件	72 件	18 件	61 件	43 件
	文化財研究所計	東京文化財研究所	奈良文化財研究所	共同研究（東京・奈良文化財研究所）	
	131 件	42 件	89 件	0 件	
	アジア太平洋無形文化遺産研究センター				
	2 件				

【東京国立博物館】72件

〇有形文化財の収集・保存・管理・展示・教育活動等にかかる調査・研究

	研究テーマ	発表テーマ	発表者（職名・名前）	実施日	学会等名
1	収蔵品・寄託品及び関連品に関する調査研究	赤糸威大鎧の魅力とその修復	上席研究員　池田　宏	4月16日	春日大社(国宝　赤糸威鎧修復記念シンポジウム)
2	同上	江戸の甲冑～徳川家康とその四天王を中心に～	同上	12月8日	日比谷図書館文化館
3	同上	東京国立博物館所蔵の正倉院裂―なぜ正倉院の染織品が東博にあるの―	特任研究員　澤田むつ代	5月7日	東博　平成館大講堂
4	同上	染色や刺繍糸、技法からみた天寿国繍帳の変遷	同上	7月31日	九州国立博物館
5	同上	槐安居コレクションと聴氷閣コレクション～高島菊次郎氏と三井高堅氏～	列品管理課長　富田淳	10月22日	関西中国書画コレクションの過去と未来―収集から一世紀、その意義を考える―(関西書画コレクション研究会)
6	同上	趙孟頫蘭亭十三跋小考～焼残時期について～	同上	10月30日	2011年蘭亭国際学術研討会(北京故宮博物院)
7	同上	江戸時代後期の伊万里染付大皿にみられる〈中国趣味〉について	博物館教育課長 今井敦	7月9日	東洋陶磁学会平成23年度第1回研究会
8	同上	古九谷研究の変遷について ―美術史学と陶磁史研究―	同上	11月27日	東洋陶磁学会第39回大会
9	同上	長谷川等伯のゆくえ―桃山絵画から江戸絵画へ	企画課特別展室長　松嶋雅人	11月30日	出光美術館　第277回水曜講演会
10	同上	Japanese Museums in the Wake of Disaster（災害発生時における日本の博物館）	企画課国際交流室　鬼頭智美	4月8日	国際展覧会オーガナイザー会議
11	同上	Likeness and Presence on Japanese Portrait（「日本の肖像画における型と肖似性について」）	調査研究課絵画・彫刻室長田沢裕賀	10月29日	The International Symposium on East Asian Portrait.（韓国国立中央博物館）
12	同上	室町時代の舞楽装束に見る染織技術	同上	9月5日	第35回　文化財の保存と修復に関する国際研究集会「染織技術の伝統と継承―研究と保存修復の現状―」、東京文化財研究所
13	同上	室町時代の舞楽装束	同上	10月1日	月例講演会、東京国立博物館
14	同上	奈良金春座伝来　能面・能装束について	同上	10月23日	『金沢能楽美術館　開館5周年記念特別展　東京国立博物館所蔵　金春座伝来能面・能装束』展　講演会、金沢能楽美術館
15	同上	細川家伝来　挽家袋・仕覆について	同上	11月12日	茶の湯文化学会
16	同上	東京国立博物館の対症修理―古い額縁を安全に利用するための工夫―	保存修復課保存修復室主任研究員　土屋裕子、保存修復課長神庭信幸、金鐘旭	6月4・5日	文化財保存修復学会第33回大会(奈良)
17	同上	メトロポリタン美術館所蔵「聖徳太子絵伝」について	調査研究課絵画・彫刻室研究員　土屋貴裕	5月11日	東京文化財研究所企画情報部研究会
18	同上	絵画史研究は染織技術を明らかにすることができるか ―中世職人歌合絵を起点として―	同上	9月5日	第35回文化財の保存と修復に関する国際研究集会「染織技術の伝統と継承―研究と保存修復の現状―」
19	同上	山陽地域における古墳時代中期の埴輪	調査研究課考古室研究員　山田俊輔	11月26日	中国四国前方後円墳研究会　第14回研究集会
20	同上	「宋代開封の文物配置と大相国寺壁画の意味」	調査研究課東洋室研究員塚本麿充	4月16日	宋代史談話会（大阪市立大学）
21	同上	「公開研究会 実物とデジタル画像による文化財考察―中国花鳥画の彩りに迫る―」	竹浪遠（黒川古文化研究所）、西尾歩（立命館大学）、塚本麿充（東京国立博物館東洋室研究員）	11月12日	黒川古文化研究所
22	同上	「清明上河図から見た開封の文化的空間」	調査研究課東洋室研究員塚本麿充	12月4日	シンポジウム「前近代中国都市社会と公共空間」（大阪市立大学）
23	同上	「徽宗、後白河院と『清明上河図』の視覚文化」	同上	24年1月7日	「北京故宮博物院200選」開催記念国際シンポジウム 「『清明上河図』の魅力に迫る―東アジア文化史のなかの『清明上河図』」
24	同上	「北京故宮博物院展 文化交流講座 日本からみた中国文化の特質」	同上	24年3月30日	中国大使館青年読書会
25	同上	大正～昭和初期における近代数寄者の影響 ―茶陶コレクションの形成と公開に関連して―	学芸企画部企画課特別展室研究員　横山梓	11月28日	東洋陶磁学会第39回大会
26	同上	"Media Art and Archaeology: Special attention on how to understand the technique of lithic reduction sequences from	列品管理課登録室アソシエイトフェロー　及川穣・河内晋平（東京藝術大学	11月27日	The 4th Annual Meeting of the Asian Palaeolithic Association・National Museum of Nature and Science, Tokyo

	研究テーマ	発表テーマ	発表者（職名・名前）	実施日	学会等名
		stereoscopic 3D”	助手）・森田正彦（慶応義塾大学大学院政策・メディア研究科）・小菅将夫（岩宿博物館館長）・品川欣也（学芸研究部調査研究課考古室研究員）・井上洋一（学芸企画部企画課長）・横山　真（株式会社ラング）・千葉　史（株式会社ラング）		
27	同上	東京国立博物館蔵の江戸時代女性服飾品模写図「小袖図」等について	列品管理課登録室アソシエイトフェロー　佐々木佳美	11月19日	服飾美学会 平成23年度第1回研究会
28	同上	フィルム・エンキャプシュレーションによる資料の保護 --東京国立博物館資料館の図書資料への予防保存の実例--	米倉乙世（保存修復課アソシエイトフェロー）・鈴木晴彦（保存修復課アソシエイトフェロー）・沖本明子（保存修復課アソシエイトフェロー）・神庭信幸（保存修復課長）・土屋裕子（保存修復課主任研究員）・平野はな子（修理技術者）・中村春佳（修理技術者）	6月5日	文化財保存修復学会第３３回大会（奈良）
29	同上	モバイル環境における文化財情報の活用	博物館情報課情報管理室アソシエイトフェロー・佐藤 祐介	6月11日	アート・ドキュメンテーション学会
30	博物館資料の情報管理	ミュージアムにおける作品ドキュメンテーションとその活用—最近の事例を中心に—	調査研究課長　田良島哲	12月17日	アート・ドキュメンテーション学会 研究会
31	有形文化財の収集・保管・公衆への観覧にかかる調査・研究	古墳時代金属製品における製作技術の調査･研究方法 －観察･記録･公開(展示)－	列品管理課主任研究員 古谷　毅	12月6日	韓国・中央博物館学術交流 学術交流報告会(国立中央博物館)
32	同上	近年の韓国国立博物館・考古分野特別展における調査･企画･公開(展示･図録･報告書)の実例	同上	24年1月11日	韓国・中央博物館学術交流 調査報告会(東京国立博物館)
33	有形文化財に係る調査研究（収集・保管、公衆への観覧にかかる調査研究）	春秋・戦国時代の薄造り青銅器の製作技術	保存修復課保存修復室研究員　川村佳男	8月28日	アジア鋳造技術史学会大会
34	博物館の環境保存に関する研究	東京国立博物館の対症修理—古い額を安全に利用するための工夫	保存修復課長　神庭信幸、保存修復課環境保存室主任研究員　土屋裕子	6月4・5日	文化財保存修復学会第33回大会(奈良)
35	同上	文化財輸送の安全性向上とCAEシミュレーション解析	保存修復課長　神庭信幸	6月10日	HyperWorks Technology Conference（東京）
36	同上	CAEシミュレーション解析による防振機材の特性評価	保存修復課環境保存室主任研究員　和田浩、保存修復課長　神庭信幸	7月8日	日本包装学会第20回年次大会（京都）
37	同上	Applying CAE Simulation with Vibration Experiment to Evaluate a Vibration Isolator	神庭信幸(東京国立博物館)、高木雅広(エクサーチLLC合同会社)、星野裕昭(アルテアエンジニアリング㈱)	9月21日	2011 ISTA-CHINA PACKAGING SYMPOSIUM(中国)
38	文化財の保存技術と材料の開発に関する調査研究	「簡易万能型太巻芯」の新たな展開 － 博物館における対症修理-	保存修復課保存修復室アソシエイトフェロー 鈴木晴彦、保存修復課保存修復室アソシエイトフェロー 米倉乙世、保存修復課アソシエイトフェロー　沖本明子、保存修復課長 神庭信幸、保存修復課保存修復室主任研究員 土屋裕子、国立歴史民俗博物館非常勤 松田麻美	6月4・5日	文化財保存修復学会第 33 回大会(奈良)
39	文化遺産の被災･復興状況の情報集約と支援の現状	文化財レスキューの現状と課題	企画課長　井上洋一	6月11日	アート・ドキュメンテーション学会 2011年度年次大会
40	博物館環境デザインに関する調査研究	谷中放談 Vol.3For Everest　石川直樹 × 木下史青》	企画課デザイン室長　木下史青	10月1日	art-link上野-谷中2011実行委員会／東京藝術大学美術学部絵画科油画研究室
41	同上	テーマ『一座建立』 お茶!LIVE《行の茶会》	学芸企画部企画課デザイン室長　木下史青	10月8日	art-link上野-谷中2011実行委員会
42	博物館資料･業務の情報処理に関する調査研究	国宝・重要文化財のデジタル・アーカイブ構築とその展望	博物館情報課情報管理室長　村田良二	6月11日	アート・ドキュメンテーション学会 2011年度年次大会
43	博物館の広報	東京国立博物館の広報活動	広報室長　小林牧	7月8日	韓国・中央博物館学術交流　研究発表会
44	同上	韓国の博物館における広報活動について	同上	8月9日	韓国・中央博物館学術交流　調査報告会

	研究テーマ	発表テーマ	発表者（職名・名前）	実施日	学会等名
45	博物館美術教育に関する調査研究	盲学校のためのスクールプログラム	博物館教育課教育普及室主任研究員　藤田千織	9月27日	文化庁文化財部美術学芸課　ミュージアム・エデュケーター研修
46	東アジアの書道史における料紙と書風に関する総合的研究（科学研究費補助金）	博物館の業務と書跡の展示	副館長　島谷弘幸	5月30日	茨城県文化財保護協会
47	同上	書の変遷　その必然性と未来	同上	8月6日	大正大学書道カレッジ
48	同上	伝統から創造へ	同上	11月27日	現代書道研究所
49	同上	近衛家の書跡―その価値と魅力―	同上	24年1月29日	東京大学史料編纂所主催・陽明講座
50	同上	仏教美術と宮廷のみやび	同上	24年2月19日	ヒューストン美術館
51	東アジアの書道史における料紙と書風に関する総合的研究	東京国立博物館の書跡と館の現状	副館長　島谷弘幸	24年3月24日	東京大学「日本の健康を考える会」勉強会
52	同上	日・中・韓の料紙について	博物館情報課長　高橋裕次	12月11日	和紙文化研究会　第19回和紙文化講演会（昭和女子大学）
53	博物館における文化遺産の保全と持続的公開を目指した包括的保存システムの研究（科学研究費補助金）	東京国立博物館の臨床保存（口頭）	保存修復課長　神庭信幸	8月17～18日	東アジア文化遺産保存学会第２回大会（内モンゴル・フフホト）
54	同上	東京国立博物館の臨床保存（ポスター）	同上	8月17～18日	東アジア文化遺産保存学会第２回大会（内モンゴル・フフホト）
55	同上	博物館における包括的保存システムの構築に関する研究（その３）	保存修復課長　神庭信幸、保存修復課環境保存室主任研究員　和田浩、保存修復課環境保存室主任研究員　荒木臣紀、保存修復課保存修復室主任研究員土屋裕子、環境保存室研究支援者　佐藤香子	6月4・5日	文化財保存修復学会第33回大会（奈良）
56	同上	文化財分野における、デジタルエックス線撮影の現状と課題	保存修復課環境保存室主任研究員　荒木臣紀、環境保存室主任研究員　和田浩、保存修復室主任研究員土屋裕子、保存修復課長神庭信幸	6月4・5日	文化財保存修復学会第33回大会（奈良）
57	同上	文化財梱包に用いる緩衝材の適切な使用法の検討-ワイヤーロープの振動特性	保存修復課環境保存室主任研究員　和田浩、保存修復課長　神庭信幸	6月4・5日	文化財保存修復学会第33回大会（奈良）
58	同上	「簡易万能型太巻芯」の利用と展開 － 博物館における対症修理-	保存修復室アソシエイトフェロー　鈴木晴彦、保存修復室アソシエイトフェロー　米倉乙世、保存修復室アソシエイトフェロー沖本明子、保存修復課長神庭信幸、保存修復課保存修復室主任研究員　土屋裕子	6月4・5日	文化財保存修復学会第33回大会（奈良）
59	同上	テラヘルツ派イメージングの一事例―柳橋水車図屏風（東京国立博物館蔵）の修理前調査を例として―	保存修復室アソシエイトフェロー　沖本明子、保存修復課長　神庭信幸、保存修復課保存修復室主任研究員　土屋裕子、保存修復室アソシエイトフェロー鈴木晴彦、保存修復室アソシエイトフェロー　米倉乙世、保存修復課環境保存室主任研究員　荒木臣紀、環境保存室主任研究員和田浩	6月4・5日	文化財保存修復学会第33回大会（奈良）
60	同上	ポリエステルフィルムによるブックカバーの実用例---エンキャプシュレーションによる本の保護 ---	保存修復室アソシエイトフェロー　米倉乙世、保存修復室アソシエイトフェロー　鈴木晴彦、保存修復室アソシエイトフェロー沖本明子、保存修復課長神庭信幸、保存修復課保存修復室主任研究員　土屋裕子	6月4・5日	文化財保存修復学会第33回大会（奈良）
61	同上	東京国立博物館における臨床保存の取り組みの事例研究報告―　書跡の対症修理の最新報告　―	保存修復室アソシエイトフェロー　鈴木晴彦、保存修復室アソシエイトフェ	6月4・5日	文化財保存修復学会第33回大会（奈良）

	研究テーマ	発表テーマ	発表者（職名・名前）	実施日	学会等名
			ロー　米倉乙世、保存修復室アソシエイトフェロー沖本明子、保存修復課長神庭信幸、保存修復課保存修復室主任研究員　土屋裕子		
62	同上	文化財分野におけるデジタルエックス線撮影の現状と課題	保存修復課環境保存室主任研究員･荒木臣紀、保存修復課環境保存室主任研究員･和田浩、保存修復課長･神庭信幸	6月4・5日	文化財保存修復学会第33回大会（奈良）
63	同上	文化財分野におけるデジタルエックス線撮影の現状と課題	保存修復課環境保存室主任研究員･荒木臣紀、保存修復課環境保存室主任研究員･和田浩、保存修復課長･神庭信幸	6月12日	日本文化財科学会第28回大会
64	同上	文化財分野における、デジタルエックス線撮影の現状と課題	保存修復課環境保存室主任研究員　荒木臣紀、環境保存室主任研究員　和田浩、保存修復室主任研究員土屋裕子、保存修復課長神庭信幸	6月11・12日	日本文化財科学会
65	同上	文化財分野における、デジタルエックス線撮影の現状と課題	保存修復課環境保存室主任研究員　荒木臣紀、環境保存室主任研究員　和田浩、保存修復室主任研究員土屋裕子、保存修復課長神庭信幸	12月2日	非破壊検査協会放射線部門講演会
66	宮廷工芸に関する物質文化的研究	日本宮廷生活文化的伝承　―以賀茂祭為中心―	列品管理課貸与特別観覧室主任研究員　猪熊兼樹	7月16日	非物質文化遺産保護「東亜経験」国際学術研討会（於：中国四川省四川音楽学院綿陽芸術学院）
67	文部科学省グローバル COE プログラム「日本文化デジタルヒューマニティーズ拠点」立命館大学	東京国立博物館における立体物の展示と3D展示	調査研究課考古室研究員　品川欣也	12月7日	第2回デジタルヒューマン人材育成ワークショップ「3D文化財のデジタル化とデジタル展示」
68	私立大学戦略的研究基盤形成支援事業・シンポジウム『文化資源学と日本古代学研究』	考古遺物の文化資源化への取り組み	調査研究課考古室研究員　品川欣也	24年3月3日	明治大学古代学研究所
69	博物館美術教育に関する調査研究	東京国立博物館盲学校のためのスクールプログラム	博物館教育課ボランティア室長　鈴木みどり	9月27日	文化庁ミュージアム・エデュケーターズ研修
70	博物館美術教育に関する調査研究	Museum for everyone - through the development of School Programs for Visually Impaired	博物館教育課ボランティア室長　鈴木みどり	10月27日	韓国国立民俗博物館国際シンポジウム ”Learning Innovation Symposium 2011”
71	博物館美術教育に関する調査研究	東京国立博物館とミュージアムエデュケーターの役割	博物館教育課ボランティア室長　鈴木みどり	11月12日	跡見学園シンポジウム「マイライフ」
72	博物館美術教育に関する調査研究	東京国立博物館盲学校のためのスクールプログラム	博物館教育課ボランティア室長　鈴木みどり	9月27日	文化庁ミュージアム・エデュケーターズ研修

【京都国立博物館】18件

○有形文化財の収集・保存・管理・展示・教育活動等にかかる調査・研究

	研究テーマ	発表テーマ	発表者（職名・名前）	実施日	学会等名
1	文化財の保存・修復に関する調査研究	京都国立博物館蔵「紺紙銀字華厳経（二月堂焼経）」の科学的調査　―文字素材の材質を中心に―」	村上　隆（上席研究員）他	6月4日	『文化財保存修復学会第33回大会
2	同上	奈良県御所市室宮山古墳外堤住居址から出土したベンガラの材料科学的キャラクタリゼーション	同上	6月4日	文化財保存修復学会第33回大会
3	同上	金属材料技術史と放射光	村上　隆（上席研究員）	9月12日	SPrng-8研究会（招待講演）
4	同上	金・銀・銅の日本史	同上	10月4日	軽金属学会東海支部記念講演会（招待講演）
5	同上	金・銀・銅のモノづくり	同上	11月14日	日本銅学会（招待講演）
6	近世絵画に関する調査研究	きらめく京都、きらめく近世の絵画	山下善也（連携協力室長）	11月13日	静岡県立美術館講演
7	彫刻に関する調査研究	観音の聖地から天台寺院へ ー伝来文化財よりみた鰐淵寺―	淺湫　毅（主任研究員）	5月21日	島根大学山陰文化研究センター
8	同上	シンポジウム司会	同上	11月13日	国際シンポジウム　半跏像はどこで作られたか
9	同上	ピュー時代およびパガン時代の彫刻編年について	同上	2月4日	東南アジア彫刻史研究会
10	染織品の調査研究	古沢厳島神社の能装束	山川　曉（主任研究員）	5月1日	和歌山県立博物館　記念講演会

	研究テーマ	発表テーマ	発表者（職名・名前）	実施日	学会等名
11	同上	典雅なる御装束	同上	6月22日	京都きものサローネ　講演会
12	同上	行状絵図が伝える中世の染織	同上	7月2日	フォーラム「国宝法然上人行状絵図の魅力とその時代」
13	同上	釈尊の袈裟を尋ねて　日本における律衣の展開	同上	7月16日	四天王寺仏教文化講演会
14	同上	近世・近代の宮廷装束	同上	8月24日	徳川美術館夏期講座
15	同上	行状絵図が伝える中世の染織	同上	11月13日	フォーラム「国宝法然上人行状絵図の魅力とその時代」
16	仏画に関する調査研究	浄土宗の仏画	大原嘉豊（研究員）	4月29日	仏教美術研究上野記念財団助成研究会研究発表と座談会「浄土宗の文化と美術」
17	日本近世絵画に関する調査・研究	「絵空事の写生―円山応挙の龍門図を中心として―」	水谷亜希（アソシエイトフェロー）	10月29日	第14回美学芸術学会
18	同上	「絵空事の写生―円山応挙の龍門図を中心として―」	同上	11月13日	日本近世絵画研究会

【奈良国立博物館】　61件

〇有形文化財の収集・保存・管理・展示・教育活動等にかかる調査・研究

	研究テーマ	発表テーマ	発表者（職名・名前）	実施日	学会等名
1	歴史学・考古学・美術史学などの人文諸学の見地から館蔵品・寄託品等の調査研究を行い、その成果を積極的に公表する。	和紙の歴史	湯山賢一（館長）	6月8日	立命館大学リレー講義「日本文化の奔流」
2	同上	文書と古文書―文書が古文書になる時―	同上	7月27日	法隆寺夏季大学
3	同上	武家文書の始まり―口頭から文書へ―	同上	8月6日	大阪國學院大學院友会講演会
4	同上	料紙の変遷表「覚書」	同上	9月24日	日本古文書学会大会基調講演
5	正倉院宝物や奈良の出土遺物・伝世品・伝統工芸・芸能など、当該地域に密着した文化財に関する調査研究を実施し、展覧会等に反映させる。	「飛鳥サミット」パネルディスカッション	同上	9月4日	奈良県万葉文化館10周年記念シンポジウム「飛鳥サミット」
6	同上	今年の正倉院展の見どころ	同上	10月2日	正倉院フォーラム2011基調講演
7	歴史学・考古学・美術史学などの人文諸学の見地から館蔵品・寄託品等の調査研究を行い、その成果を積極的に公表する。	書は人なり―古文書と筆跡―	同上	11月27日	大仏書道大会
8	正倉院宝物や奈良の出土遺物・伝世品・伝統工芸・芸能など、当該地域に密着した文化財に関する調査研究を実施し、展覧会等に反映させる。	正倉院の楽器と天平の音楽	西山　厚（学芸部長）	10月2日	正倉院フォーラム2011対談
9	日本とアジア諸国の文化交流に関する調査研究を進め、その成果を展示や公刊物等に反映させる。	玄奘三蔵フォーラムパネルディスカッション	同上	7月23日	奈良国立博物館玄奘三蔵フォーラム
10	歴史学・考古学・美術史学などの人文諸学の見地から館蔵品・寄託品等の調査研究を行い、その成果を積極的に公表する。	神像と仏像	岩田茂樹（学芸部長補佐）	8月7日	奈良市民講座
11	南都諸社寺等における文化財調査を積極的に実施して宗教文化に関する調査研究の成果を蓄積し、平成２３年度特別展「天竺へ－三蔵法師三万キロの旅」及び特別陳列「初瀬にますは与喜の神垣－與喜天満神社の秘宝と神像」、毎年恒例の特別陳列「お水取り」「おん祭と春日信仰の美術」、２４年度特別展「貞慶（仮称）」、２５年度特別展「当麻寺（仮称）」等に反映させる。	與喜天満神社の神像	同上	8月27日	奈良国立博物館公開講座
12	歴史学・考古学・美術史学などの人文諸学の見地から館蔵品・寄託品等の調査研究を行い、その成果を積極的に公表する。	二軀の僧形坐像－その像主をめぐって－	同上	11月20日	奈良国立博物館サンデートーク
13	南都諸社寺等における文化財調査を積極的に実施して宗教文化に関する調査研究の成果を蓄積し、平成２３年度特別展「天竺へ－三蔵法師三万キロの旅」及び特別陳列「初瀬にますは与喜の神垣－與喜天満神社の秘宝と神像」、毎年恒例の特別陳列「お水取り」「おん祭と春日信仰の美術」、２４年度特別展「貞慶（仮称）」、２５年度特別展「当麻寺（仮称）」等に反映させる。	中世甲賀の仏たち	同上	12月18日	あいこうか歴史塾
14	歴史学・考古学・美術史学などの人文諸学の見地から館蔵品・寄託品等の調査研究を行い、その成果を積極的に公表する。	牛玉の話	内藤　栄（学芸部長補佐）	4月17日	奈良国立博物館サンデートーク
15	同上	空海はなぜ東寺を造営したのか	同上	5月11日	奈良女子大学古代学学術研究センター
16	中国・韓国などアジア諸国の文化財に関する調査研究を積極的に進め、日本の文化財との比較検討や相互理解に資する。	正倉院宝物と河南省の文物	同上	5月28日	奈良国立博物館公開講座
17	日本とアジア諸国の文化交流に関する調査研究を進め、その成果を展示や公刊物等に反映させる。	鑑真和上御将来の舎利について	同上	6月6日	唐招提寺
18	正倉院宝物や奈良の出土遺物・伝世品・伝統工芸・芸能など、当該地域に密着した文化財に関する調査研究を実施し、展覧会等に反映させる。	正倉院宝物が成立するまで―陽剣・陰剣、薬を中心に	同上	6月17日	芦屋市読書会
19	同上	仏教工芸入門―正倉院宝物を中心に	同上	6月19日	姫路市立美術館

	研究テーマ	発表テーマ	発表者（職名・名前）	実施日	学会等名
20	同上	工芸意匠に見る鳳凰と獅子―正倉院宝物をめぐって	同上	6月25日	サントリー美術館
21	同上	光明皇后と聖武天皇	同上	9月10日	(財)大阪労働協会 エル・カレッジ
22	南都諸社寺等における文化財調査を積極的に実施して宗教文化に関する調査研究の成果を蓄積し、平成２３年度特別展「天竺へ－三蔵法師三万キロの旅」及び特別陳列「初瀬にますは与喜の神垣－與喜天満神社の秘宝と神像」、毎年恒例の特別陳列「お水取り」「おん祭と春日信仰の美術」、２４年度特別展「貞慶（仮称）」、２５年度特別展「当麻寺（仮称）」等に反映させる。	金亀舎利塔について	同上	9月17日	仏教文学会
23	正倉院宝物や奈良の出土遺物・伝世品・伝統工芸・芸能など、当該地域に密着した文化財に関する調査研究を実施し、展覧会等に反映させる。	第６３回正倉院展について	同上	10月1日	名古屋カルチャーセンター
24	同上	正倉院宝物の歴史と正倉院展の楽しみ方	同上	10月9日	正倉院展の楽しみ方～まほろばの集いIN福岡
25	同上	正倉院展の楽しみ方	同上	10月15日	奈良経済記者クラブ
26	歴史、伝統文化の教育普及に資するための調査研究を行い、その成果を児童・生徒を対象として行う「世界遺産学習」等に反映させる。	正倉院展親子鑑賞会	同上	11月3日	奈良国立博物館
27	中国・韓国などアジア諸国の文化財に関する調査研究を積極的に進め、日本の文化財との比較検討や相互理解に資する。	宝冠仏の系譜－龍門石窟の彫像を中心に	稲本泰生（企画室長）	5月14日	奈良国立博物館公開講座
28	歴史学・考古学・美術史学などの人文諸学の見地から館蔵品・寄託品等の調査研究を行い、その成果を積極的に公表する。	奈良時代の仏像	同上	7月2日	姫路市市民教養講座
29	日本とアジア諸国の文化交流に関する調査研究を進め、その成果を展示や公刊物等に反映させる。	鄭県阿育王塔と菩薩の捨身行－鑑真による模造塔将来とその周辺	同上	7月24日	中国美術研究会
30	同上	玄奘三蔵の将来図像と東アジアの仏教美術	同上	8月24日	奈良国立博物館夏季講座
31	正倉院宝物や奈良の出土遺物・伝世品・伝統工芸・芸能など、当該地域に密着した文化財に関する調査研究を実施し、展覧会等に反映させる。	宝物献納と布施行	同上	10月30日	正倉院学術シンポジウム2011「正倉院宝物のはじまりと国家珍宝帳」
32	日本とアジア諸国の文化交流に関する調査研究を進め、その成果を展示や公刊物等に反映させる。	『半跏思惟像はどこで作られたか？』パネルディスカッション	同上	11月13日	国際シンポジウム『半跏思惟像はどこで作られたか？』
33	同上	鏡を観てためいき－正倉院南倉と千葉県香取神宮に伝わる大型海獣葡萄鏡－	吉澤　悟（教育室長）	8月27日	帝塚山大学考古学研究所市民大学講座
34	同上	蘭ジャ待について	同上	10月16日	奈良市市民連携企画実行委員会『寧樂尽し紅葉茶会』
35	歴史学・考古学・美術史学などの人文諸学の見地から館蔵品・寄託品等の調査研究を行い、その成果を積極的に公表する。	茶室八窓庵をのぞいてみましょう	同上	10月16日	奈良国立博物館サンデートーク
36	正倉院宝物や奈良の出土遺物・伝世品・伝統工芸・芸能など、当該地域に密着した文化財に関する調査研究を実施し、展覧会等に反映させる。	正倉院の中近東系宝物	同上	10月22日	中近東文化センター『中近東の世界遺産－その神秘と歴史－パート２』
37	南都諸社寺等における文化財調査を積極的に実施して宗教文化に関する調査研究の成果を蓄積し、平成２３年度特別展「天竺へ－三蔵法師三万キロの旅」及び特別陳列「初瀬にますは与喜の神垣－與喜天満神社の秘宝と神像」、毎年恒例の特別陳列「お水取り」「おん祭と春日信仰の美術」、２４年度特別展「貞慶（仮称）」、２５年度特別展「当麻寺（仮称）」等に反映させる。	與喜天満神社の歴史と信仰	野尻　忠（情報サービス室長）	7月30日	奈良国立博物館公開講座
38	日本とアジア諸国の文化交流に関する調査研究を進め、その成果を展示や公刊物等に反映させる。	奈良時代における大般若経（玄奘訳）の受容―藤田美術館・薬師寺ほか所蔵の大般若経（魚養経）を中心に―	同上	8月23日	奈良国立博物館夏季講座
39	歴史学・考古学・美術史学などの人文諸学の見地から館蔵品・寄託品等の調査研究を行い、その成果を積極的に公表する。	写経生の労務管理	同上	12月18日	奈良国立博物館サンデートーク
40	収蔵庫・展示室・ケース内部等における環境の、文化財に与える影響などに関する調査研究を持続的に実施し、収蔵品の保存環境の向上を図る。	奈良国立博物館における無線LAN温湿度モニタリングシステム・新展示ケース導入の経緯と成果	谷口耕生（保存修理指導室長）	6月4日	文化財保存修復学会第33回大会
41	日本とアジア諸国の文化交流に関する調査研究を進め、その成果を展示や公刊物等に反映させる。	憧憬の天竺―玄奘三蔵絵の世界	同上	8月25日	奈良国立博物館夏季講座
42	南都諸社寺等における文化財調査を積極的に実施して宗教文化に関する調査研究の成果を蓄積し、平成２３年度特別展「天竺へ－三蔵法師三万キロの旅」及び特別陳列「初瀬にますは与喜の神垣－與喜天満神社の秘宝と神像」、毎年恒例の特別陳列「お水取り」「おん祭と春日信仰の美術」、２４年度特別展「貞慶（仮称）」、２５年度特別展「当麻寺（仮称）」等に反映させる。	海住山寺本堂旧壁画と解脱上人貞慶の観音信仰	同上	11月26日	シンポジウム『木津川ものがたり～縁起絵巻の世界』

	研究テーマ	発表テーマ	発表者（職名・名前）	実施日	学会等名
43	歴史学・考古学・美術史学などの人文諸学の見地から館蔵品・寄託品等の調査研究を行い、その成果を積極的に公表する。	吉祥天と金光明経の美術	同上	24年1月15日	奈良国立博物館サンデートーク
44	文化財アーカイブズの形成に関する理論的・実践的研究を行い、その成果をデジタル画像の作成・各種データベースの構築（収蔵品・画像・図書）・各種情報資源の公開推進に反映させる。	アメリカにおける博物館収蔵品情報の連携―OCLC報告書と現地調査を中心に―	宮崎幹子（資料室長）	6月11日	アート・ドキュメンテーション学会2011年度年次大会 研究発表会
45	同上	文化遺産オンラインにおける収蔵品情報の連携基盤について―奈良国立博物館との連携事例を中心に―	同上 （国立情報学研究所特任准教授 丸川雄三氏と共同発表）	6月11日	アート・ドキュメンテーション学会2011年度年次大会 研究発表会
46	同上	文化遺産情報のメタデータ連携―海外の動向から	同上	12月2日	「文化遺産オンライン構想」成果報告フォーラム　～文化遺産とデジタル・アーカイブの最前線を知る～
47	同上	文化財アーカイブズの形成にむけて―奈良国立博物館での取り組みから―	同上	12月16日	全国美術館会議 情報・資料専門部会企画セミナーⅢ
48	歴史学・考古学・美術史学などの人文諸学の見地から館蔵品・寄託品等の調査研究を行い、その成果を積極的に公表する。	奈良国立博物館の近代建築－仏教美術資料研究センター（旧奈良県物産陳列所）の過去と現在－	同上	24年3月18日	奈良国立博物館サンデートーク
49	歴史学・考古学・美術史学などの人文諸学の見地から館蔵品・寄託品等の調査研究を行い、その成果を積極的に公表する。	山形の話――作り物閑話之弐	清水　健（研究員）	6月20日	奈良国立博物館サンデートーク
50	同上	奈良国立博物館の活動について	同上	9月21日	昭和女子大学博物館学芸員課程臨時講義
51	正倉院宝物や奈良の出土遺物・伝世品・伝統工芸・芸能など、当該地域に密着した文化財に関する調査研究を実施し、展覧会等に反映させる。	正倉院展――過去・現在・未来	同上	9月23日	正倉院展の楽しみ方～まほろばの集いIN名古屋
52	正倉院宝物や奈良の出土遺物・伝世品・伝統工芸・芸能など、当該地域に密着した文化財に関する調査研究を実施し、展覧会等に反映させる。	香と仏教	同上	11月12日	奈良国立博物館公開講座
53	南都諸社寺等における文化財調査を積極的に実施して宗教文化に関する調査研究の成果を蓄積し、平成２３年度特別展「天竺へ－三蔵法師三万キロの旅」及び特別陳列「初瀬にますは与喜の神垣－與喜天満神社の秘宝と神像」、毎年恒例の特別陳列「お水取り」「おん祭と春日信仰の美術」、２４年度特別展「貞慶（仮称）」、２５年度特別展「当麻寺（仮称）」等に反映させる。	春日信仰の美術	同上	12月11日	奈良学セミナー（後期）「神と仏との出会い」
54	中国・韓国などアジア諸国の文化財に関する調査研究を積極的に進め、日本の文化財との比較検討や相互理解に資する。	中国古代の建築－七層楼閣に見る明器の世界	岩戸晶子（研究員）	4月16日	奈良国立博物館公開講座
55	歴史学・考古学・美術史学などの人文諸学の見地から館蔵品・寄託品等の調査研究を行い、その成果を積極的に公表する。	鬼か龍か－統一新羅の鬼瓦－	同上	7月17日	奈良国立博物館サンデートーク
56	南都諸社寺等における文化財調査を積極的に実施して宗教文化に関する調査研究の成果を蓄積し、平成２３年度特別展「天竺へ－三蔵法師三万キロの旅」及び特別陳列「初瀬にますは与喜の神垣－與喜天満神社の秘宝と神像」、毎年恒例の特別陳列「お水取り」「おん祭と春日信仰の美術」、２４年度特別展「貞慶（仮称）」、２５年度特別展「当麻寺（仮称）」等に反映させる。	当麻寺縁起絵巻について	北澤菜月（研究員）	7月30日	葛城市歴史博物館公開講座（葛城学へのいざない）
57	歴史学・考古学・美術史学などの人文諸学の見地から館蔵品・寄託品等の調査研究を行い、その成果を積極的に公表する。	法然上人周辺の絵画	同上	9月18日	奈良国立博物館サンデートーク
58	同上	男はなぜ烏帽子を被るのか―かぶり物と髪型の文化史―	斎木涼子（研究員）	5月15日	奈良国立博物館サンデートーク
59	正倉院宝物や奈良の出土遺物・伝世品・伝統工芸・芸能など、当該地域に密着した文化財に関する調査研究を実施し、展覧会等に反映させる。	正倉院宝物にみられる経帙をめぐって	永井洋之（研究員）	11月3日	奈良国立博物館公開講座
60	歴史学・考古学・美術史学などの人文諸学の見地から館蔵品・寄託品等の調査研究を行い、その成果を積極的に公表する。	脚と格狭間	同上	24年2月19日	奈良国立博物館サンデートーク
61	歴史学・考古学・美術史学などの人文諸学の見地から館蔵品・寄託品等の調査研究を行い、その成果を積極的に公表する。	空海の伝えた仏画	原瑛莉子（研究員）	8月21日	奈良国立博物館サンデートーク

【九州国立博物館】　43件

○有形文化財の収集・保存・管理・展示・教育活動等にかかる調査・研究

	研究テーマ	発表テーマ	発表者（職名・名前）	実施日	学会等名
1	博物館危機管理としての市民協同型IPMシステム構築に向けての基礎研究	市民と共に歩む、自然との共生を目指す博物館の取り組み	博物館科学課長　本田光子	4月29日	九州国立博物館ボランティア研修会

	研究テーマ	発表テーマ	発表者（職名・名前）	実施日	学会等名
2	タイ国立博物館との共催展におけるタイ彫刻研究	「日本とタイ―ふたつの国の巧と美」展―ドヴァーラヴァティーの彫刻 中央タイと東北タイの作例から―	文化財課資料登録室主任研究員 原田あゆみ	5月21日	東南アジア彫刻史研究会 第53回例会
3	博物館危機管理としての市民協同型IPMシステム構築に向けての基礎研究	博物館における環境ボランティアの取り組み―九州国立博物館のIPM活動13―	博物館科学課長　本田光子	6月4日	文化財保存修復学会第34回大会
4	同上	博物館における文化財害虫の出現とその対応－九州国立博物館のＩＰＭ活動１２－	博物館科学課アソシエイトフェロー　秋山純子	6月4日・5日	文化財保存修復学会第33回大会
5	文化財の材質・構造等に関する共同研究	内蒙古自治区吐爾基山（ﾄﾙｷｻﾝ）遼墓出土彩色木棺の保存　４―頭蓋骨と頭髪の保存修復―	博物館科学課環境保全室長 今津節生	6月4日・5日	文化財保存修復学会第33回大会研究発表要旨集
6	博物館危機管理としての市民協同型IPMシステム構築に向けての基礎研究	博物館の環境管理―九州国立博物館における8年間のIPM実践から―	博物館科学課長　本田光子	6月5日	文化財保存修復学会第34回大会
7	Ｘ線ＣＴスキャナによる中国古代青銅器の構造技法解析	中国古代青銅器における分鋳技法の検討	博物館科学課環境保全室長 今津節生	6月11日・12日	日本文化財科学会第二十八回大会要旨集
8	文化財の材質・構造等に関する共同研究	トレハロース含浸処理法の実用化－漆製品への有効性について－	博物館科学課環境保全室長 今津節生	6月11日・12日	日本文化財科学会第二十八回大会要旨集
9	朝鮮半島、三国時代の考古・美術に関する調査研究	トレハロース含浸法における結晶化と乾燥法の検討	同上	同上	同上
10	博物館における文化財保存修復に関する研究	文化財の保存と修復―九州国立博物館の取り組み―	博物館科学課長　本田光子	6月30日	佐賀大学特別講座
11	博物館危機管理としての市民協同型IPMシステム構築に向けての基礎研究	曝涼はIPMのルーツ？－虫干しにかわるものは何か－	博物館科学課長　本田光子	7月2日	九州国立博物館第1回文化財保存交流セミナー
12	博物館における文化財保存修復に関する研究	「よみがえる国宝―まもり伝える日本の美」	博物館科学課長　本田光子	7月30日	九州国立博物館特別展開催記念特別講演会（那珂川町
13	日本とアジア諸国との文化交流に関する調査研究	生きている！聖福寺釈迦如来坐像	展示課主任研究員 楠井隆志	7月30日	長崎歴史文化博物館 調査成果報告講演会
14	同上	像内から発見された内臓模型について	アソシエイトフェロー 末兼俊彦	同上	同上
15	博物館危機管理としての市民協同型IPMシステム構築に向けての基礎研究	博物館とIPM－九州国立博物館の取り組み－	博物館科学課長　本田光子	8月3日	久留米大学公開講座
16	博物館における文化財保存修復に関する研究	「よみがえる国宝―まもり伝える日本の美」	博物館科学課長　本田光子	8月7日	京都造形芸術大学通信制大学
17	同上	同上	同上	8月12日	NHKネットクラブ特別鑑賞会
18	文化財の材質・構造等に関する共同研究	Study with structural dissection on the bronze works of Yin and Zhou Dynasty of China using the large-scale X-ray CT scanner	博物館科学課環境保全室長 今津節生	8月16日～18日	The second Annual Symposium of the Society for Conservation of Cultural Heritage in East Asia" 2011
19	Ｘ線ＣＴスキャナによる中国古代青銅器の構造技法解析	The conservation of a coloring wooden casket discovered by Tuerji Hill Tomb by the Chinese-Japanese collaborative investigation	同上	同上	同上
20	アジアの文化財に関する研究	中国の螺鈿史研究状況と課題―アジアの螺鈿史構築を目標として―	文化財課資料管理室長 小林公治	8月20日	国際生漆産業発展高峰論壇, International Lacquer Top Meeting 西安、中国
21	螺鈿に関する調査研究	中国・山東省菏澤出土の螺鈿箱について	企画課研究員 川畑憲子	9月3日	第35回漆工史学会総会（大阪市立美術館）
22	文化財の材質・構造等に関する共同研究	長崎県松浦市鷹島海底遺跡出土品のX線CT調査	博物館科学課環境保全室長 今津節生	9月16日	『長崎県松浦市鷹島海底遺跡発掘調査報告書』
23	中国内蒙古自治区出土の契丹文化に属する考古遺物に関する調査研究	契丹と日本	企画課特別展室研究員 市元塁	9月30日	ふるさと館ちくしの展示解説講座
24	同上	契丹文化への招待	同上	10月1日	契丹大学秋季講座
25	同上	壁画から見た契丹社会	文化財課長 臺信祐爾	同上	同上
26	朝鮮半島、三国時代の考古・美術に関する調査研究	斉明天皇と大宰府の成立　－朝倉橘廣庭宮はどこにあったのか－	展示課長　赤司善彦	10月2日	九州古代史の会
27	中国内蒙古自治区出土の契丹文化に属する考古遺物に関する調査研究	草原の王朝 契丹	企画課特別展室研究員 市元塁	10月4日	西日本会パートナーズクラブ特別鑑賞会
28	アジアの文化財に関する研究	三次元計測法による同笵青銅器の識別―日本の青銅器分析を通じて―	文化財課資料管理室長 小林公治	10月19日	広西-アセヤン青銅文化国際学術検討会、南寧、中国
29	中国内蒙古自治区出土の契丹文化に属する考古遺物に関する調査研究	奇跡の彩色木棺を救え！－日本・内モンゴルの共同保存事業	博物館科学課環境保全室長 今津節生	10月8日	契丹大学秋季講座
30	同上	陶磁器が語る草原の王朝	展示課研究員 遠藤啓介	10月22日	同上
31	同上	蒼天にそびえる白亜の仏塔	企画課長 小泉恵英	同上	同上

	研究テーマ	発表テーマ	発表者（職名・名前）	実施日	学会等名
32	文化財の材質・構造等に関する共同研究	「トルキ山古墓の保存修復」	博物館科学課環境保全室長 今津節生	10月22日	『草原の王朝　契丹―美しき三人のプリンセス』、九州国立博物館2011
33	中国内蒙古自治区出土の契丹文化に属する考古遺物に関する調査研究	草原の王朝 契丹のみどころ	企画課特別展室研究員 市元塁	10月28日	福岡県高等学校歴史研究会・平成23年度第1回世界史研究会
34	博物館危機管理としての市民協同型IPMシステム構築に向けての基礎研究	資料保存の実践　~IPMの視点から~ 九州国立博物館のIPM活動	博物館科学課長　本田光子	11月9日	図書館総合展　第1会場金剛（株）主催フォーラム
35	博物館における文化財保存修復に関する研究	博物館と文化財保存修理－守り継ぐ伝統－　九州国立博物館の文化財保存システム	博物館科学課長　本田光子	11月18日	国宝修理装潢師連盟定期研修会 京都テルサホール
36	アジアの文化財に関する研究	ベトナムの螺鈿―生産・製品・消費に関する調査研究報告―	文化財課資料管理室長 小林公治	11月21日	ベトナム国家博物館（歴史博物館）報告会、ハノイ、ベトナム
37	博物館における文化財保存修復に関する研究	中越地震における活動の課題「救援の要請と被災資料の修理」	博物館科学課長　本田光子	12月3日	文化財保存修復学会公開シンポジウム　大阪民族学博物館
38	博物館危機管理としての市民協同型IPMシステム構築に向けての基礎研究	環境ボランティアに期待するもの 今後の活動（長期・中期・短期）についての提案	博物館科学課長　本田光子	12月24日	九州国立博物館ボランティア研修会
39	中国内蒙古自治区出土の契丹文化に属する考古遺物に関する調査研究	契丹王朝と3人のプリンセス	企画課特別展室研究員 市元塁	24年1月8日	静岡県立美術館特別展「草原の王朝 契丹」連続講演会
40	アジアの文化財に関する研究	唐代装飾鏡制作技術の検討―漆と天然樹脂の使い分けの可能性を中心に―	文化財課資料管理室長 小林公治	24年1月13日	漆サミット2012講演会、明治大学、東京
41	朝鮮半島、三国時代の考古・美術に関する調査研究	黄檗山萬福寺の隠元隆琦倚像について	展示課主任研究員 楠井隆志	24年1月21日	美術史学会西支部例会
42	館蔵水墨画を中心とした日・中・韓の水墨画に関する調査研究	雪舟と大内文化	企画課特別展室主任研究員 畑靖紀	24年2月4日	北九州市立いのちのたび博物館特別展「大内文化と北九州」記念講演会
43	無形文化財としての伝統工芸技術に関する研究	宋・元時代の陶磁器研究史について	展示課研究員　遠藤啓介	24年3月2日	陶芸散歩の会第10回記念講演

【東京文化財研究所】計42件

○文化財に関する基礎的・体系的な調査・研究の推進（21件）

	研究テーマ	発表テーマ	発表者（職名・名前）	実施日	学会等名
1	文化財の資料学的研究	浄瑠璃本「かるかや」の画風	企画情報部客員研究員　相澤正彦	7月27日	企画情報部研究会
2	同上	平安時代前期から後期へ―六波羅蜜寺十一面観音像の造像	企画情報部研究員　皿井　舞	11月11日	第45回企画情報部オープンレクチャー
3	近現代美術に関する総合的研究	日本におけるゴッホ受容―1912年を中心に	企画情報部長　田中　淳	7月8日	第13回国際日本学シンポジウム「感覚・文学・美術の国際日本学　ファン・ゴッホと日本―ガシェ芳名録紹介本をめぐって―」
4	同上	『画を仕上げる力』とは―青木繁の芸術	同上	8月6日	「没後100年　青木繁」展
5	同上	中川一政とゴッホについて	同上	10月22日	「没後20年記念展　中川一政が愛した芸術」展
6	美術の表現・技法・材料に関する多角的研究	室町漢画の基盤―周文と雪舟の場合―	企画情報部広領域研究室長　綿田稔	11月22日	第45回企画情報部オープンレクチャー
7	同上	『御絵鑑』について	同上	24年2月28日	企画情報部研究会
8	無形文化財の保存・活用に関する調査研究	ゴマがあらわす謡のフシ―世阿弥自筆本から文秋譜まで―	無形文化遺産部無形文化財研究室長　高桑いづみ	5月7日	能楽学会第10回大会
9	同上	日本の伝統楽器―種類と歴史―	同上	6月4日	島根県立古代出雲歴史博物館特別講座
10	同上	狂言小舞謡の伝承を考える	同上	6月13日	能楽学会例会
11	同上	日本における染織技術保護の現状と課題　－わざを守り伝えるために－	無形文化遺産部研究員　菊池理予	9月4日	第35回文化財の保存及び修復に関する国際研究集会
12	同上	能『梅枝』と小書『越天楽』	無形文化遺産部無形文化財研究室長　高桑いづみ	11月18日	銕仙会特別講座
13	無形民俗文化財の保存・活用に関する調査研究	青潮文化とタブノキ	無形文化遺産部研究員　今石みぎわ	6月18日	東北芸術工科大学研究会
14	同上	民俗芸能のネットワークについて	無形文化遺産部長　宮田繁幸	10月23日	フォーラム「民俗芸能ネットワークと地域活性化」
15	同上	民俗技術と自然環境―削りかけ状祭具と樹木との関わりを中心に	無形文化遺産部研究員　今石みぎわ	24年1月10日	東京文化財研究所 第3回総合研究会
16	無形文化遺産分野の国際研究交流	日本の世界遺産(無形文化遺産分野)登載現況と見通し	無形文化遺産部長　宮田繁幸	5月12日	The Value and Competitive Power of Naganeupseong Folk Village as World Heritage
17	同上	The Safeguarding of Intangible Cultural Heritage in Japan	同上	6月10日	2011年アジア太平洋無形文化遺産フェスティバル国際学術会議
18	同上	日本における無形文化遺産の保護	同上	8月2日	中日韓非物質文化遺産保護比較研究国際シンポジュウム

	研究テーマ	発表テーマ	発表者（職名・名前）	実施日	学会等名
19	同上	日韓におけるアナログ音声資料の保存と活用	無形文化遺産部音声・映像記録研究室長　飯島　満	8月9日	日韓無形文化遺産学術発表会
20	同上	日韓における楽器製作者の現状	無形文化遺産部無形文化財研究室長　高桑いづみ	同上	同上
21	同上	Documentation of Japanese Intangible Cultural Heritage	無形文化遺産部長　宮田繁幸	24年2月25日	国際人類学民族学連合無形文化遺産委員会

○文化財の研究に関する調査手法の研究・開発の推進（1件）

	研究テーマ	発表テーマ	発表者（職名・名前）	実施日	学会等名
1	文化財デジタル画像形成に関する調査研究	西秦王候騎馬図屏風との新しい出会い	企画情報部専門職員　城野誠治	11月15日	開館50周年記念「美を結ぶ。美をひらく。」 Ⅳ 南蛮美術の光と影　泰西王侯騎馬図屏風の謎

○科学技術の活用等による文化財の保存科学や修復技術に関する中核的な支援拠点として、先端的調査研究等の推進（18件）

	研究テーマ	発表テーマ	発表者（職名・名前）	実施日	学会等名
1	文化財のカビ被害予防と対策のシステム化についての研究	水、塩水で被災した文化財の殺菌燻蒸計画時の注意点について	保存修復科学センター生物科学研究室長　木川りか、保存修復科学センター保存科学研究室長　佐野千絵、保存修復科学センター研究員　佐藤嘉則、保存修復科学センター主任研究員　犬塚将英、保存修復科学センター主任研究員　早川典子、企画情報部近・現代視覚芸術研究室長　山梨絵美子、企画情報部長　田中淳、保存修復科学センター研究員　森井順之、保存修復科学センター副センター長　岡田　健、保存修復科学センター長　石崎武志	12月21日-22日	保存科学研究集会
2	文化財の保存環境の研究	展示収蔵環境に用いられる内装材料に関する研究その２　放散ガスのデータベース構築	保存修復科学センター保存科学研究室長　佐野千絵、客員研究員　呂俊民	6月4日-5日	第33回文化財保存修復学会大会
3	同上	温湿度解析による耐震工事の影響評価	保存修復科学センター主任研究員　犬塚将英、保存修復科学センター長　石崎武志	同上	同上
4	同上	フィルム保管庫における酢酸雰囲気の改善	保存修復科学センター保存科学研究室長　佐野千絵、客員研究員　呂俊民	12月8日-9日	平成23年度室内環境学会学術大会
5	文化財の材質及び劣化調査法に関する研究	琉球絵画の彩色材料調査	保存修復科学センター分析科学研究室長　早川泰弘、保存修復科学センター主任研究員　吉田直人、保存修復科学センター保存科学研究室長　佐野千絵、保存修復科学センター客員研究員　三浦定俊	6月11日-12日	日本文化財科学会第28回大会
6	同上	近世絵図資料に使われた彩色材料の科学的調査	保存修復科学センター主任研究員　吉田直人、保存修復科学センター分析科学研究室長　早川泰弘　他	同上	同上
7	周辺環境が文化財に及ぼす影響評価とその対策に関する研究	石塔保存のための覆屋効果に関する研究	保存修復科学センター修復材料研究室長　朽津信明	6月4日	文化財保存修復学会第33回大会
8	同上	Environmental Control in Conservation of the Buddhist Image Carved on Natural Cliff	保存修復科学センター研究員　森井順之	6月22日	Conference internationale - Jardins de Pierres - Conservation de la pierre dans les parcs, jardins et cimetieres
9	同上	国宝・臼杵磨崖仏保存のための管理計画について	保存修復科学センター研究員　森井順之、保存修復科学センター主任研究員　早川典子、保存修復科学センター修復材料研究室長　朽津信明、文化遺産国際協力センター長　川野邊　渉　他	8月16日	東アジア文化遺産保存学会第二回学術研究会
10	同上	国宝・臼杵磨崖仏における劣化とその対策	保存修復科学センター研究員　森井順之	9月28日	地盤工学会ACT19平成23年度第一回国内委員会
11	同上	風化環境の違いによる石造文化財の風化速度の違い	保存修復科学センター修復材料研究室長　朽津信明	10月27日	日本応用地質学会平成23年研究発表会
12	文化財の防災計画に関する研究	仏像の耐震対策に関する研究―縮小模型を用いた振動台実験―	保存修復科学センター研究員　森井順之　他	8月23日	日本建築学会2011年度大会（関東）
13	伝統的修復材料及び合成樹脂に関する調査研究	絵画修復に用いられたポリビニルアルコールの除去における酵素の利用可能性について	保存修復科学センター主任研究員　早川典子、文化遺産国際協力センター長　川野邊　渉　他	6月4日	文化財保存修復学会第33回大会（奈良）
14	同上	顔料剥落止めとして使用されたポリビニルアルコールの白化に対する顔料や他の樹脂の影響について	保存修復科学センター主任研究員　早川典子、保存修復科学センター客員研究員　中條利一郎、文化遺産国際協力センター長　川野邊　渉　他	同上	同上
15	同上	古糊と古糊様多糖の接着力について	保存修復科学センター主任研究員　早川典子、文化遺産国際協力センター長　川野邊　渉　他	6月5日	同上
16	同上	紫外線照射したPVAフィルムの白化とそのメカニズム	保存修復科学センター主任研究員　早川典子、保存修復科学センター客員研究員　中條利一郎、文化遺産国際協力センター長　川野邊　渉　他	7月7日	北陸先端科学技術大学院大学 東京 サテライト

	研究テーマ	発表テーマ	発表者（職名・名前）	実施日	学会等名
17	近代の文化遺産に関する調査研究	日本に於ける近代化遺産の保存・修復及び活用	保存修復科学センター近代文化遺産研究室長　中山俊介、保存修復科学センター研究員　森井順之　他	8月16日-18日	東アジア文化遺産保存学会第2回学術研究会
18	同上	近代文化遺産の修復に使われる油性塗料について	保存修復科学センター近代文化遺産研究室長　中山俊介	24年2月10日	近代建築に使用されている油性塗料に関しての研究会

○諸外国における文化財の保存・修復に関する技術移転の推進（2件）

	研究テーマ	発表テーマ	発表者（職名・名前）	実施日	学会等名
1	東アジア諸国文化遺産保存修復協力	敦煌莫高窟内の壁画の劣化に及ぼす塩の影響に関する研究－外界気象条件の変化、上下層窟を考慮した窟内温湿度環境の解析－	保存修復科学センター副センター長　岡田　健、文化遺産国際協力センター客員研究員　小椋大輔　他	6月19日	平成23年度日本建築学会近畿支部研究発表会
2	同上	第285窟南壁龕びの彩色技法	保存修復科学センター副センター長　岡田　健、文化遺産国際協力センター客員研究員　渡邉真樹子　他	6月11日-12日	日本文化財科学会第28回大会

【奈良文化財研究所】計89件

○文化財に関する基礎的・体系的な調査・研究の推進（32件）

	研No.	研究テーマ	発表テーマ	発表者（職名・名前）	実施日	学会等名
1	6	我が国の建造物及び伝統的建造物群に関する調査・研究	本門寺五重塔の解体修理にともなう構造上の諸問題	文化遺産部建造物研究室長　林良彦	10月13日	日中韓建築遺産保存学術会議
2	同上	同上	日本の木造塔の構造と変遷	都城発掘調査部研究員　鈴木智大	10月12日	同上
3	同上	同上	古代東アジアの八角木塔とその構造推定	都城発掘調査部遺構研究室長　箱崎和久	10月11日	同上
4	10	我が国の記念物に関する調査・研究	遺跡の整備と活用	文化遺産部長、小野健吉	10月16日	文化庁拠点交流事業事業人材育成事業研修（ビシュケク／キルギス）
5	同上	同上	遺跡の整備と活用	同上	10月17日	ユネスコ日本信託基金による国際ワークショップ（アルマトイ／カザフスタン）
6	同上	同上	歴史的庭園の現状と保存 ～特に発掘庭園の整備について～	遺跡整備研究室長、平澤毅	5月25日	文化比較：イタリアと日本における文化遺産の保護（主催：法政大学陣内研究室、於：イタリア文化会館）
7	同上	同上	日本における先史時代遺跡の整備と活用	同上	9月24日	縄文遺跡群世界遺産登録推進　国際シンポジウム（主催：文化庁・縄文遺跡群世界遺産登録推進本部、於：ホテル青森）
8	同上	同上	日本における名勝の保護　－保存と活用、その方策と動向－	同上	10月21	東北アジアの名勝保存と活用方案（主催：大韓民國・國立文化財研究所自然文化財研究室）
9	同上	同上	名勝の保存管理計画策定に関する考察	同上	11月13日	平成23年度日本造園学会全国大会
10	同上	同上	名勝及び史跡としての三徳山の保全－総体的な価値と行者道－	文化遺産部長、小野健吉	10月9日	平成23年度三徳山シンポジウム(主催：三徳山世界遺産登録運動推進協議会)
11	同上	同上	平城宮跡の整備	遺跡整備研究室長、平澤毅	9月29日	第５回　新羅學國際學術大會　「東亜細亞 今의 新羅 都城 復元問題」（「東亜細亜における新羅都城復元問題」、主催：大韓民国・新羅文化遺産研究院）
12	11	同上	平泉の庭園に見る中国庭園の影響	文化遺産部長、小野健吉	11月12日	「平泉文化の国際性と地域性」に関するワークショップ（主催：岩手大学）
13	同上	同上	文化財としての鎌倉時代庭園	文化遺産部主任研究員、青木達司	10月29日	平成23年度　庭園の歴史に関する研究会（主催：奈良文化財研究所文化遺産部）
14	同上	同上	「桂垣」の研究	同上	11月10日	京都造園懇談会　例会
15	同上	同上	「桂垣」と「桂垣」裏ハチク林に関する研究	同上	11月13日	平成23年度日本造園学会全国大会

	研No.	研究テーマ	発表テーマ	発表者（職名・名前）	実施日	学会等名
16	同上	同上	日本古代庭園の研究現況と課題	都城発掘調査部遺構研究室研究員、高橋知奈津	10月5日	國際學術大會「동아시아 古代庭園 및 寺址의 연구 현황과 과제」（「東アジア古代庭園と寺跡の研究現況と課題」、主催：大韓民國・扶餘國立文化財研究所）
17	同上	同上	鎌倉時代の風景表現と作庭	同上	10月29日	平成23年度　庭園の歴史に関する研究会（主催：奈良文化財研究所文化遺産部）
18	同上	同上	Authenticity and Dismantling Repair System in Architectural Restoration in Japan　（日本の建築修復における解体修理とオーセンティシティ）	景観研究室長、清水重敦	9月27日	JAPAN Architecture + Preservation (Columbia University's Guraduate School of Architecture, Planning and Preservation; Columbia University's Institute for Medieval Japanese Studies; Nara National Research Institute for Cultural Properties)
19	同上	同上	Memories of Sacred Landscape: Lost Female Rituals and Remaining Cultural Landscape in the Amami Islands, Southern Japan　（聖なる景観の記憶：奄美の消えゆく女性祭祀と生き続ける文化的景観）	国際遺跡研究室研究員、石村智	同上	同上
20	19	アジアにおける古代都城遺跡、生産遺跡、墓制及び陶磁器に関する中国、韓国との共同研究及びカザフスタンへの研究協力	中国漢魏洛陽城－北魏宮城中枢部の発掘調査－	副所長、井上和人・都城発掘調査部（平城）主任研究員、今井晃樹・早稲田大学専任講師、城倉正祥・中国社会科学院考古研究所、王巍・銭国祥・肖淮雁・郭曉涛・劉涛	5月29日	日本考古学協会第77回総会
21	同上	同上	鉛釉陶器の多彩装飾およびその変遷	客員研究員、巽淳一郎	6月17日	中国鞏義窯陶磁学術研討会
22	同上	同上	窯道具から見た鞏義窯―三叉トチンを中心として―	企画調整部 研究員、　丹羽崇史	6月18日	同上
23	同上	同上	中国細石刃文化の基礎的研究から	飛鳥資料館学芸室長・　加藤真二	24年2月12日	第14回北アジア調査研究報告会
24	同上	同上	The Microblade technique of the Lingjing, Henan, China	飛鳥資料館学芸室長・　加藤真二／河南省文物考古研究所研究員・李占揚	11月27日	第４回アジア旧石器協会日本大会
25	20	文化的景観及びその保存・活用に関する調査研究	文化的景観をわかりやすく－ 複合性、重層性、変化と価値評価－	景観研究室長　清水重敦	6月9日	文化庁　平成23年度文化的景観保護実務研修会
26	同上	同上	農学・造園学における文化的景観	研究員　惠谷浩子	12月17日	文化的景観研究集会（第４回）
27	同上	同上	山本地区の生活・生業	同上	24年1月28日	亀岡市山本地区文化的景観保存調査中間報告会
28	同上	同上	山本集落の伝統的家屋と文化的景観	景観研究室長　清水重敦	同上	同上
29	同上	同上	文化的景観とは何か	同上	24年2月14日	京都市みやこ文化財愛護委員育成事業　事前講座
30	同上	同上	文化的景観としてみる都市と町並み	同上	24年2月26日	シンポジウム「雲州平田木綿街道の町並み保全に向けて　現状と課題」
31	23	遺構の安定化方法を検討するための基礎データを収集	千足古墳における水分移動解析	研究員　脇谷草一郎	6月11日	日本文化財科学会
32	同上	同上	宮畑遺跡における土質遺構露出展示保存の取組み	同上	9月28日	地盤工学会ATC19

○文化財の研究に関する調査手法の研究・開発の推進（39件）

	研No.	研究テーマ	発表テーマ	発表者（職名・名前）	実施日	学会等名
1	25	文化財の測量･探査等に関する研究	The CEDACH DMT: a volunteer-based data management team for the documentation of the earthquake-damaged cultural heritage in Japan	主任研究員　金田明大	4月12日-16日	Computer Applications and Quantitative Methods in Archaeology 2011 Beijing

	研No.	研究テーマ	発表テーマ	発表者（職名・名前）	実施日	学会等名
2	同上	同上	The Applications of the EFDs Analysis for Pottery Classification in Japan	同上	同上	同上
3	同上	同上	To separate the soil from soil -Archaeological Prospection in the Heijo-kyo capital, Japan-	同上	同上	同上
4	同上	同上	「被災文化遺産救援コンソーシアム」について	同上	4月23日	考古学研究会緊急集会
5	同上	同上	何を測るのか？残すのか？－文化財保護と三次元計測－	同上	5月18日	三次元計測フォーラム2011
6	同上	同上	近世窯業遺跡における探査と発掘の連携- 美山苗代川窯跡群における実践-	同上	6月11日	日本文化財科学会
7	同上	同上	救援体験から考える文化遺産の防災・復興の課題	同上	7月9日	奈良歴史研究会公開シンポジウム
8	同上	同上	日本古代史における移動コスト分析のシミュレーション結果とGPSを活用した実地データの比較検討- 藤原仲麻呂の乱における東山道と田原道の比較実験から-	同上	10月16日	地理情報システム学会
9	同上	同上	古代日本の官衙・寺院遺跡探査の実践－奈良文化財研究所による近年のGPR探査－	同上	11月24日	情報通信学会宇宙・航行エレクトロニクス研究会
10	26	年輪年代学研究	木を識る・組織でわかる木の特性と樹種	客員研究員　伊東隆夫	4月23日	兵庫県立考古博物館「木のうつわ　６００年の技」展 特別講演
11	同上	同上	国宝永保寺開山堂の年輪年代調査	年代学研究室長　大河内隆之、客員研究員　光谷拓実	6月11日	日本文化財科学会第28回大会
12	同上	同上	日本産ツガ属の年輪年代測定（その４）―ツガとクロスデート可能なヒノキ古材試料について―	客員研究員　藤井裕之	同上	同上
13	同上	同上	生産地周辺における近世のトガサワラ利用について―談山神社権殿・木部材の樹種調査から―	同上	6月12日	同上
14	同上	同上	年代を測る―年輪年代法と自然科学的年代測定法―	特別研究員　児島大輔	7月13日	公益財団法人黒川古文化研究所「見る会」
15	同上	同上	Dendrochronological analysis of Yakushi Hall and wooden statues of Chikouji Temple in Nagano Prefecture	客員研究員　光谷拓実	8月6日-9日	Wood Culture and Science Kyoto 2011
16	同上	同上	Species Identification and Tree-Ring Dating of Wooded Boxes Excavated from Shinan Shipwreck, Korea	客員研究員　光谷拓実ほか	同上	同上
17	同上	同上	Dendrochronological potential of Japanese Hemlocks: the third species available for dating of modern wooden architectures in Japan	客員研究員　藤井裕之	同上	同上
18	同上	同上	年輪と木の文化	客員研究員　光谷拓実	10月15日	第22回いのちの科学フォーラム市民公開講座「日本人と木の文化」
19	同上	同上	年輪が語る国宝永保寺の歴史	特別研究員　児島大輔	10月16日	文化庁委託多治見市教育委員会事業「知られざる永保寺Part2」
20	同上	同上	描かれた大乗院庭園	同上	24年3月3日	名勝大乗院庭園文化館主催文化講演会
21	27	動植物遺存体による環境考古学的研究	遺跡出土の骨からみた動物利用の歴史	研究員　山崎健	5月13日	同志社大学公開講座『自然科学からみた歴史』
22	同上	同上	縄文貝塚出土のトウカイハマギギ *Plicofollis nella* (Valenciennes)とその意義	埋蔵文化財センター長　松井章、大江文雄、田嶋正憲	6月12日	日本文化財科学会第28回つくば大会
23	同上	同上	愛知県朝日遺跡から出土した石鏃の刺さった獣骨	研究員　山崎健	同上	同上
24	同上	同上	考古学から見た食・トイレ	埋蔵文化財センター長　松井章	6月28日	千里ライフサイエンスフォーラム
25	同上	同上	日本における家畜の移入に関する動物考古学的研究の成果	同上	8月24日	2011年日本専業學者交流活動（国立台湾大学）
26	同上	同上	ペットと家畜と人間と―動物・環境考古学の世界	同上	9月25日	第24回濱田青陵賞授賞記念講演シンポジウム

	研No.	研究テーマ	発表テーマ	発表者（職名・名前）	実施日	学会等名
27	同上	同上	現場からの報告―東日本大震災の文化財レスキュー事業―	研究員　山崎健	10月19日	平成23年度愛知県博物館等職員研修会「―想定東海東南海地震に備える―被災館と被災地域にある博物館
28	同上	同上	世界の貝塚・日本の貝塚―貝塚から見えてくる縄文人の姿と生活―	埋蔵文化財センター長　松井章	10月23日	富山県埋蔵文化財センター特別展記念シンポジウム　富山の考古学
29	同上	同上	Rescuing Archaeology and Culture: assessing the impact of the March 2011 disaster on cultural heritage	同上	10月26日	在英日本大使館
30	同上	同上	動物遺存体をめぐる民族考古学と実験考古学の実践―モンゴルにおける動物資源利用を事例として―	研究員　山崎健	10月29日	第216回近江貝塚研究会10月例会
31	同上	同上	寛永寺出土徳川将軍親族遺体の研究6環境考古学的分析	埋蔵文化財センター長　松井章、金原正明、金原正子	11月4日	第65回日本人類学会沖縄大会
32	同上	同上	先史時代琉球列島へのイノシシ・家畜ブタ導入に関する動物考古学的研究：古DNA・形態解析から	高橋遼平、佐藤孝雄、埋蔵文化財センター長　松井章、姉崎智子、石黒直隆、本郷一美	同上	同上
33	同上	同上	東日本大震災にともなう文化財レスキュー活動	埋蔵文化財センター長　松井章	11月6日	同上
34	同上	同上	東日本大震災と文化財レスキュー	同上	11月13日	生き物文化誌学会第9回学術大会　東京農大
35	同上	同上	韓国・金海会峴里貝塚の発掘と弥生文化への影響―骨角器と金属器を中心に―	同上	11月23日	大阪府立弥生文化博物館開館20周年記念シンポジウム　弥生文化のはじまり
36	同上	同上	歴史時代の動物考古学	同上	11月27日	第15回動物考古学研究集会
37	同上	同上	奈良県橿原遺跡から出土した骨角器のライフヒストリー研究	研究員　山崎健	同上	同上
38	同上	同上	自然との交流	同上	24年1月21日	奈良文化財研究所・大阪歴史講座「交流」
39	同上	同上	動物考古学からみた日本における農耕牧畜の起源	埋蔵文化財センター長　松井章	24年3月17日	立命館大学国際シンポジウム「農耕の起源」

○科学技術の活用等による文化財の保存科学や修復技術に関する中核的な支援拠点として、先端的調査研究等の推進（12件）

	研No.	研究テーマ	発表テーマ	発表者（職名・名前）	実施日	学会等名
1	22	出土遺物の材質構造調査、鉄製品及び木製品の埋蔵環境調査	文化財建造物塗装材料の分析（1）～談山神社塗装のFT-IR分析～	保存修復科学研究室長　高妻洋成	6月4日	文化財修復学会第33回大会
2	同上	同上	テラヘルツ分光イメージングによる高松塚古墳壁画の漆喰の状態調査	同上	同上	文化財修復学会第33回大会
3	同上	同上	高松塚古墳壁画の材料調査－蛍光X線分析法による下地漆喰に関する調査（3）－	都城発掘調査部主任研究員　降幡順子	6月11日	日本文化財科学会第28回大会
4	同上	同上	海洋出土鉄製遺物の腐食に及ぼす埋蔵環境の影響	研究員　田村朋美	同上	同上
5	同上	同上	日本出土ソーダ石灰ガラス製小玉の種類とその変遷	同上	同上	同上
6	同上	同上	顕微赤外分析による絹製文化財の劣化状態の研究	客員研究員　佐藤昌憲	同上	同上
7	同上	同上	文化財建造物塗装材料の分析（2）～談山神社塗装のPyro-GC/MS分析～	保存修復科学研究室長　高妻洋成	同上	同上
8	同上	同上	油系塗装材料の劣化に関する研究	同上	同上	同上
9	同上	同上	山城国府出土銅インゴットの自然科学的研究	都城発掘調査部主任研究員　降幡順子	同上	同上
10	同上	同上	ガラスから見た武寧王時代の国際関係	研究員、田村朋美	10月28日	武寧王陵発掘40周年国際学術会議　「百済の国際性と武寧王」
11	31	ミリ波イメージングにかかる基礎実験及び装置の改良等	木造文化財における彩色の劣化機構に対する電磁波の応用(2)	保存修復科学研究室長　高妻洋成	6月11日	日本文化財科学会第28回大会
12	同上	同上	テラヘルツ分光イメージングによる高松塚古墳壁画の漆喰の状態調査	同上	6月4日	文化財修復学会第33回大会

○国・地方公共団体の要請に応じた保存措置等のために必要な実践的な調査・研究の実施（2件）

	研No.	研究テーマ	発表テーマ	発表者（職名・名前）	実施日	学会等名
1	39	文化庁が行う高松塚古墳・キトラ古墳の壁画の調査及び保存・活用に関する技術的協力	高松塚古墳壁画の材料調査－蛍光X線分析法による下地漆喰に関する調査（3）－	考古第一研究室主任研究員　降幡順子・飛鳥資料館特別研究員　辻本与志一、保存修復科学研究室研究員　脇谷草一郎・保存修復科学研究室室長　高妻洋成(以上、奈良文化財研究所)・早川泰弘、吉田直人、佐野千絵（以上、東京文化財研究所）、宇田川滋正、建石徹（以上、文化庁）	6月11日	日本文化財化学会第28回大会
2	同上	同上	テラヘルツ分光イメージングによる高松塚古墳壁画の漆喰の状態調査	保存修復科学研究室室長　　高妻洋成、考古第一研究室主任研究員　降幡順子・保存修復科学研究室　研究員　脇谷草一郎(以上、奈良文化財研究所)・佐野千絵（東京文化財研究所）・福永香（情報通信研究機構）・宇田川滋正・建石徹（以上、文化庁）	6月4日	文化財保存修復学会第33回大会

○諸外国における文化財の保存・修復に関する技術移転の推進（2件）

	研No.	研究テーマ	発表テーマ	発表者（職名・名前）	実施日	学会等名
1	45	カンボジア・アンコールワット遺跡群の西トップ寺院遺跡、ベトナム・タンロン皇城遺跡の建築史的、考古学的、保存科学的調査	西トップ遺跡の調査と修復	国際遺跡研究室長 杉山　洋	6月18日	アンコール遺跡国際調整会議
2	同上	同上	カンボジア･クランコー遺跡の調査	研究補佐員　佐藤由似	11月26日	東南アジア考古学学会

○情報資料の収集・整備及び調査研究成果の発信（2件）

	研No.	研究テーマ	発表テーマ	発表者（職名・名前）	実施日	学会等名
1	55	文化財に関するデータベースの充実	遺構情報モデルに基づくデータ取得と発掘調査プロセスの整合性	文化財情報研究室長　森本晋ほか	10月16日	地理情報システム学会
2	同上	同上	奈良文化財研究所におけるデータベース	文化財情報研究室長　森本晋	24年1月7日	公開シンポジウム「人文科学とデータベース」

【アジア太平洋無形文化遺産研究センター】計2件

○アジア太平洋地域における無形文化遺産保護に関する基礎的な調査・研究（2件）

	研究テーマ	発表テーマ	発表者（職名・名前）	実施日	学会等名
1	アジア太平洋地域の無形文化財保護に関する基礎的な調査･研究	危機に瀕する無形文化遺産の復興と継承を考える	藤井知昭（センター所長）	10月4日	ユネスコアジア太平洋無形文化遺産研究センター開設記念シンポジウム
2	同上	北東アジアにおける無形文化遺産の課題	藤井知昭（センター所長）	11月28日	アジア太平洋のＩＣＨの保護のための地域連携に関する国際会議

c-④ シンポジウム開催実績一覧

平成24年3月31日現在

国立文化財機構合計	博物館計	東京国立博物館	京都国立博物館	奈良国立博物館	九州国立博物館
12件	8 件	1件	1件	2件	4件
	文化財研究所計	東京文化財研究所		奈良文化財研究所	
	3 件	3件		0件	
	アジア太平洋無形文化遺産研究センター				
	1 件				

【東京国立博物館】

○特別展「北京故宮博物院２００選」開催記念国際シンポジウム「「清明上河図」の魅力に迫る―東アジア文化史のなかの「清明上河図」」
開 催 日　24年1月7日
開催場所　東京国立博物館平成館大講堂
主　　催　東京国立博物館
参加人数　323人
事業内容　『清明上河図』の絵画的魅力、主題、伝来、後世への影響、宋代史からの位置づけ、日本への影響や東アジア文化史の中での位置づけについて、美術史、宋代史研究など幅広い分野の国内外の研究者10名を招へいし、その魅力に迫った。

【京都国立博物館】

○国際シンポジウム『中国近代絵画の形成と日本』
開 催 日　24年2月11日
開催場所　国立京都国際会館　アネックスホール
主　　催　京都国立博物館
参加人数　150人
事業内容　特別展覧会「中国近代絵画と日本」展の開催を記念し、国外の高名な研究者３名を招き、日中欧三者の視点から、最新の中国近代絵画研究の成果について研究発表、パネルディスカッションを行った。

【奈良国立博物館】

○特別展「天竺へ　三蔵法師3万キロの旅」関連イベント　「玄奘三蔵フォーラム」
開 催 日　7月23日
開催場所　奈良県新公会堂 能楽ホール
主　　催　奈良国立博物館、朝日新聞社、薬師寺
参加人数　390名
事業内容　特別展「天竺へ 三蔵法師3万キロの旅」の開催を記念し、薬師寺管主 山田法胤氏、俳優 滝田栄氏を迎え、当館学芸部長とともにパネルディスカッションを行い、玄奘の魅力と人物像について議論を深めた。

○正倉院学術シンポジウム2011「正倉院宝物のはじまりと国家珍宝帳」
開 催 日　10月30日
開催場所　奈良市ならまちセンター　小ホール
主　　催　奈良国立博物館
後　　援　読売新聞社
参加人数　179名
事業内容　「国家珍宝帳」に綴られた宝物献納の意図、献納された宝物のその後、そしてそれ自体が比類ない価値をもつ宝物である「国家珍宝帳」の意義などについて多角的な観点から議論を行った。第一部は当館研究員1名を含む研究者4名による研究発表を行い、第二部は、同研究者4名に司会者を加えてのパネルディスカッションを行い「国家珍宝帳」の奥深い魅力に迫った。

【九州国立博物館】

○公開シンポジウム　全国縦断古代史講演会　第16回明日香村まるごと博物館フォーラム「斉明天皇と飛鳥～牽牛子塚古墳の発掘から」
開 催 日　7月30日
開催場所　ミュージアムホール
主　　催　奈良県明日香村、財団法人古都飛鳥保存財団、財団法人明日香村観光開発公社、読売新聞社
後　　援　九州国立博物館、福岡県教育委員会、太宰府市教育委員会
参加者数　300人
事業内容　最近の発掘成果の報告や牽牛子塚古墳を中心に飛鳥の天皇陵についての講演、パネルディスカッション等。

○公開シンポジウム　「市民と共にミュージアムIPM」
開 催 日　24年1月14日
開催場所　ミュージアムホール
主　　催　ミュージアムIPM実行委員会事務局
参加者数　107人
事業内容　「モノ・ヒト・環境にやさしい」ミュージアムIPM（化学薬剤処置に頼らない日常管理を基本とした虫菌害対策）。専門家と市民が共に取り組む活動の重要性・必要性を伝える。

○記念シンポジウム　九州歴史資料館開館1周年記念シンポジウム「祈りの世界－北部九州の霊山と経塚－」
開 催 日　24年1月29日
開催場所　ミュージアムホール
主　　催　九州歴史資料館、九州国立博物館、財団法人 太宰府顕彰会
参加者数　170人
事業内容　大宰府地域を中心とした北部九州の経塚文化の広がりと多様性、その背景を探るとともに、経塚の全国的な展開やもうひとつの経塚の集中地域である、近畿地方との対比の中でその特色を浮き彫りにしていく。

○国際シンポジウム　「百済文化と古代日本～百済研究の新展開～」
開 催 日　24年3月10日
開催場所　ミュージアムホール
主　　催　九州国立博物館
後　　援　駐福岡大韓民国総領事館、(財)九州国立博物館振興財団、福岡県教育委員会、太宰府市、太宰府市教育委員会、九州文化財国際交流基金
参加者数　263人
事業内容　韓国の第一線の研究者を招いて、百済の華麗な仏教文化とわが国とのかかわりなど、最新の研究成果や研究動向について話を伺う。

【東京文化財研究所】

○国際シンポジウム「第35回文化財の保存および修復に関する国際研究集会「染織技術の伝統と継承―研究と保存修復の現状―」」
・開 催 日：9月3～5日
・開催場所：東京国立博物館平成館大講堂
・主　　催：東京文化財研究所
・参加人数：のべ404人
・事業内容：国内外から染織品制作の技術者、染織品修復技術者、学芸員、研究者など様々な立場の各専門家を招き、有形である染織品を「つくる」「まもる」「つたえる」 といった無形の側面よりアプローチすることで、今後の「染織技術」研究の道筋を示すことを目的とた。また、主催者としては、今日

における染織品の 制作や修復の際に直面する原材料・道具の問題、技術を次世代へと伝えていくための後継者養成をめぐるシステム、多角的な染織技術研究のあり方などについて、この機会に情報の共有化を図り、議論を深めることも意図した。

○国際シンポジウム「大仏破壊から１０年　世界遺産バーミヤーン遺跡の現状と未来」
・開 催 日：12月9日
・開催場所：東京国立博物館平成館大講堂
・主　　催：東京文化財研究所、奈良文化財研究所
・参加人数：164人
・事業内容：バーミヤーン遺跡の保存活動をこれまでどのように実施してきたのか、各国の代表が報告する。また、長期的な視野に立ち、バーミヤーン遺跡の保護と活用について将来の展望を示す。

○国際シンポジウム「大仏破壊から１０年　世界遺産バーミヤーン遺跡の現状と未来」
・開 催 日：12月11日
・開催場所：龍谷大学アバンティ響都ホール
・主　　催：東京文化財研究所、奈良文化財研究所、龍谷大学アジア仏教文化研究センター、龍谷ミュージアム
・参加人数：125人
・事業内容：バーミヤーン遺跡の保存活動をこれまでどのように実施してきたのか、各国の代表が報告する。また、長期的な視野に立ち、バーミヤーン遺跡の保護と活用について将来の展望を示す。

【奈良文化財研究所】

該当なし

【アジア太平洋無形文化遺産研究センター】

○国際シンポジウム「ユネスコアジア太平洋無形文化遺産研究センター開設記念シンポジウム」
・開 催 日：10月4日
・開催場所：リーガロイヤルホテル堺　4階ロイヤルホール
・主　　催：文化庁、アジア太平洋無形文化遺産研究センター、堺市
・参加人数：250人
・事業内容：「危機に瀕する無形文化遺産の復興と継承を考える」をテーマに、太平洋地域からキリバス自治国、東南アジアからカンボジア国、日本と国内外の研究者等による事例発表とパネルディスカッションを行う。また、東日本大震災の被災地から、平成21年度ユネスコの無形文化遺産の代表的一覧表記載の岩手県花巻市「早池峰神楽」の芸能公演を行う。

c-⑤ 論文等発表実績一覧

国立文化財機構合計	博物館計	東京国立博物館	京都国立博物館	奈良国立博物館	九州国立博物館
375件	240件	91件	72件	29件	48件
	文化財研究所計	東京文化財研究所	奈良文化財研究所	共同研究（東京・奈良文化財研究所）	
	135件	35件	100件	0件	
	アジア太平洋無形文化遺産研究センター				
	0件				

【東京国立博物館】　91件

○有形文化財の収集・保存・管理・展示・教育活動等にかかる調査・研究

	研究テーマ	発表者（職名・名前）	論文テーマ	掲載誌名	発行元	掲載年月日	レフェリー有無
1	収蔵品・寄託品及び関連品に関する調査研究	伊藤嘉章(学芸研究部長)	茶の湯を舞台とした鑑賞と“感賞”	『陶説』第702号	日本陶磁協会	9月1日	無
2	同上	今井敦(博物館教育課長)	宗箇	「上田宗箇 武人茶の世界展」	NHKプロモーション	12月30日	無
3	同上	池田宏(上席研究員)	赤糸威大鎧(竹虎雀金物)の特色	『春日』第86号	春日大社社務所	8月	無
4	同上	池田宏(上席研究員)	小桜黄返威鎧	『国華』1396号	国華社	24年2月1日	有
5	同上	沢田むつ代(特任研究員)	「染織品の修理」特に近世の衣装について	『東博の臨床保存―使命は公開と保存を支えること―』	東京国立博物館	4月8日	無
6	同上	沢田むつ代(特任研究員)	「染色や刺繍糸、技法からみた天寿国繍帳の変遷」	『守り伝える日本の美　よみがえる国宝』	九州国立博物館	6月28日	無
7	同上	富田淳(列品管理課長)	呉昌碩と長尾雨山	呉昌碩の書・画・印	台東区立芸術文化財団	9月13日	無
8	同上	列品管理課長・富田淳	槐安居コレクションと聴氷閣コレクション―高島菊次郎氏と三井高堅氏―	関西中国書画コレクションの過去と未来	関西中国書画コレクション研究会	24年3月9日	無
9	同上	井上洋一(企画課長)	銅鐸	「弥生時代（下）」講座 日本の考古学6	青木書店	9月5日	無
10	同上	井上洋一(企画課長)	佐原真－銅鐸、戦争	「弥生研究のあゆみと行方」弥生時代の考古学9	同成社	11月5日	無
11	同上	佐藤 祐介(博物館情報課情報管理室アソシエイトフェロー)	モバイル環境におけるデジタル文化財の活用	アート・ドキュメンテーション研究 第19号	アート・ドキュメンテーション学会	24年3月31日	有
12	同上	井上洋一（学芸企画部企画課長）・品川欣也（学芸研究部調査研究課考古室研究員）・及川穣（学芸研究部列品管理課登録室アソシエイトフェロー）・河内晋平（東京藝術大学助手）・森田正彦（慶応義塾大学大学院政策・メディア研究科）	「特集陳列　石に魅せられた先史時代の人びと」	『特集陳列　石に魅せられた先史時代の人びと』（展示リーフレット）全4頁	東京国立博物館	8月2日	無
13	同上	及川穣（列品管理課登録室アソシエイトフェロー）	「後期旧石器時代後半期における黒耀石原産地開発の一様相―杉久保型ナイフ形石器の製作技術と和田群黒耀石の獲得と消費―」	『資源環境と人類』第2号（頁未定）	明治大学黒耀石研究センター	24年3月31日	有
14	同上	及川穣（列品管理課登録室アソシエイトフェロー）	「黒耀石地下採掘活動の起源と縄文文化の形成過程」	『リバティアカデミーブックレット　明治大学黒曜石研究センター公開講座　黒曜石をめぐるヒトと資源利用』（頁未定）	明治大学リバティ・アカデミー	24年3月31日	有
15	同上	安藤香織（列品管理課登録室アソシエイトフェロー）	《調査報告》木挽町狩野家伝来「法隆寺什物図」	『MUSEUM』631号	東京国立博物館	4月15日	有
16	同上	安藤香織（列品管理課登録室アソシエイトフェロー）	《調査報告》木挽町狩野家伝来「法隆寺什物図」	『MUSEUM』631号	東京国立博物館	4月15日	有
17	同上	伊藤信二(教育普及室長)	幡と華鬘	『日本の美術』第542号	ぎょうせい	7月10日	無
18	同上	伊藤信二(教育普及室長)	絵巻にみる幡と華鬘	『日本の美術』第542号	ぎょうせい	7月10日	無
19	同上	伊藤信二(教育普及室長)	Buddhist Ritual Implements	『Elegance Perfection』	The Museum of Fine Arts, Houston	24年2月17日	無
20	同上	伊藤信二(教育普及室長)	工芸品　解題	宗家文庫史料絵図類等史料絵図類等目録	長崎県立対馬歴史民俗資料館	24年3月24日	無
21	同上	関紀子(調査研究課絵画・彫刻室アソシエイトフェロー)	万国博覧会の残影―東京国立博物館が草創期に収集した写真資料について―	特別展「孫文と梅屋庄吉―１００年前の中国と日本」	東京国立博物館	7月	無
22	同上	後藤健（東京国立博物館上席研究員）	先イスラーム時代　―湾岸古代文明の展開―	『アラブ首長国連邦（UAE）を知るための60章』	明石書店	24年3月18日	無
23	同上	高橋裕次(博物館情報課長)	特別展「法然と親鸞 ゆかりの名宝」について	特別展「法然と親鸞 ゆかりの名宝」図録	東京国立博物館	10月	無
24	同上	今井敦(博物館教育課長)	「鑑賞陶器」の成立とこれから	『陶説』第702号	日本陶磁協会	9月1日	無
25	同上	今井敦(博物館教育課長)	南宋の青磁について	『根津美術館紀要 此君』第3号	根津美術館	11月15日	無
26	同上	今井敦(博物館教育課長)	南宋官窯研究の現在と米内山陶片	『常盤山文庫中国陶磁研究会会報4 米内山陶片２』	常盤山文庫	12月10日	無
27	同上	山田俊輔(調査研究課考古室研究員)	ミヤケと埴輪生産－緑野ミヤケと猿田埴輪窯群－	埴輪研究会誌　第15号	埴輪研究会	5月29日	無
28	同上	竹内奈美子(調査研究課工芸室長)	Musical Instruments and the Lacquer Arts Tradition	Elegant Perfection―Masterpieces of Courtly and Religious Art from the Tokyo National Museum	Tokyo National Museum, The Museum of Fine Arts,Houston, Distributed by Yale University Press, New Haven and London	24年2月	無
29	同上	小山弓弦葉(工芸室主任研究員)	奈良金春座伝来の能面・能装束	金沢能楽美術館偏『金沢能楽美術館　開館5周年記念特別展 東京国立博物館所蔵　金春座伝来能面・能装束』展図録	金沢能楽美術館	10月	無
30	同上	小山弓弦葉(工芸室主任研究員)	江川文庫所蔵染織　解題	静岡県教育委員会偏『江川文庫古文書史料調査報告書七　―古写真・染織－』	静岡県教育委員会	24年2月	無

	研究テーマ	発表者 （職名・名前）	論文テーマ	掲載誌名	発行元	掲載 年月日	レフェリー 有無
31	同上	小山弓弦葉（工芸室主任研究員）	色彩用語解説	『日本史色彩事典』	吉川弘文館	24年3月	無
32	同上	小山弓弦葉（工芸室主任研究員）	染織取り扱い	『博物館資料・文化財取り扱いハンドブック』（仮）	ぎょうせい	24年3月	無
33	同上	瀬谷愛（列品管理課平常展調整室員）	法然と浄土の美術	『特別展 法然と親鸞 ゆかりの名宝』	東京国立博物館	10月	無
34	同上	瀬谷愛（列品管理課平常展調整室員）	Nirvana Paintings in Japan	『Elegance Perfection』	The Museum of Fine Arts, Houston	24年2月	無
35	同上	塚本麿充（調査研究課東洋室研究員）	『北宋三館秘閣における文物の収集・公開活動と「北宋絵画史」の成立』	学位請求論文（東北大学）		7月	無
36	同上	塚本麿充（調査研究課東洋室研究員）	「皇帝の文物と北宋初期の開封-啓聖禅院、大相国寺、宮廷をめぐる文物とその意味について-（上）」	『美術研究』404号	東京文化財研究所	8月	無
37	同上	塚本麿充（調査研究課東洋室研究員）	「呉昌碩の画―近代・東アジアの光のなかで―」	『呉昌碩の書・画・印』	東京国立博物館、台東区書道博物館	9月	無
38	同上	塚本麿充（調査研究課東洋室研究員）	「「清明上河図巻」の魅力―「清明上河図巻」と宋代の視覚文化―」	『特別展 北京故宮博物院200選』	東京国立博物館	24年1月	無
39	同上	塚本麿充（学芸研究部調査研究課東洋室研究員）	「清朝の国際交流」	『特別展 北京故宮博物院200選』	東京国立博物館	24年1月	無
40	同上	塚本麿充（学芸研究部調査研究課東洋室研究員）	「皇帝の文物と北宋初期の開封-啓聖禅院、大相国寺、宮廷をめぐる文物とその意味について-（下）」	『美術研究』406号	東京文化財研究所	24年3月	無
41	同上	土屋貴裕（調査研究課絵画・彫刻室研究員）	中近世移行期における伊勢物語絵の図様展開に関する調査研究	鹿島美術研究　年報28号別冊	鹿島美術財団	11月15日	無
42	同上	保存修復課保存修復室主任研究員　土屋裕子、保存修復課長　神庭信幸、東京藝術大学　金鍾旭	東京国立博物館の対症修理ー古い額縁を安全に利用するための工夫ー	文化財保存修復学会第33回大会研究発表要旨集	文化財保存修復学会	6月4・5日	有
43	同上	保存修復課保存修復室主任研究員　土屋裕子（東京藝術大学美術学部非常勤講師）	58. 辻永（明治39年4月卒業）自画像　東京藝術大学大学美術館　学生制作品ー1234　（「東京美術学校西洋画科卒業制作作品・自画像の技法材料、保存修復に関する基礎的研究VII」	東京藝術大学美術学部紀要、第49号、2011年	東京藝術大学美術学部	12月30日	有
44	同上	保存修復課長　神庭信幸、保存修復課保存修復室主任研究員　土屋裕子、東京藝術大学教授　木島隆康、東京藝術大学非常勤講師鈴鴨富士子、東京国立博物館中安知佳	東京国立博物館および東京藝術大学による油彩画の共同研究（1）―東京国立博物館蔵　原撫松筆《老婆》《影の自画像》の光学調査―	MUSEUM、631号、2011	東京国立博物館	4月15日	有
45	同上	保存修復課保存修復室主任研究員　土屋裕子（東京藝術大学美術学部非常勤講師）	58. 辻永（明治39年4月卒業）自画像　東京藝術大学大学美術館　学生制作品ー1234　（「東京美術学校西洋画科卒業制作作品・自画像の技法材料、保存修復に関する基礎的研究VII」	東京藝術大学美術学部紀要、第49号、2011年	東京藝術大学美術学部	12月30日	有
46	同上	保存修復課長　神庭信幸、保存修復課保存修復室主任研究員　土屋裕子、東京藝術大学教授　木島隆康、東京藝術大学非常勤講師鈴鴨富士子、東京国立博物館中安知佳	東京国立博物館および東京藝術大学による油彩画の共同研究（1）―東京国立博物館蔵　原撫松筆《老婆》《影の自画像》の光学調査―	MUSEUM、631号、2011	東京国立博物館	4月15日	有
47	同上	保存修復課保存修復室主任研究員　土屋裕子、東京藝術大学教授　木島隆康、東京藝術大学大学院　富山恵介	《調査報告》東京国立博物館および東京藝術大学による油彩画の共同研究（2）―東京国立博物館蔵　高橋由一筆《最上川舟行の図》、アントニオ・フォンタネージ筆《風景（不忍池）》の光学調査―	MUSEUM、635号、2011	東京国立博物館	12月15日	有
48	同上	白井克也（列品管理課平常展調整室彫）	東アジア実年代論の現状	古墳時代の考古学1古墳時代史の枠組み	同成社	12月25日	無
49	同上	調査研究課研究員 品川欣也	Jomon-period Pottery and Clay Figurines	『Elegance Perfection』	The Museum of Fine Arts, Houston	24年2月17日	無
50	同上	保存修復課アソシエイト・フェロー 米倉乙世、保存修復課アソシエイト・フェロー 鈴木晴彦、保存修復課アソシエイト・フェロー 沖本明子、保存修復課長 神庭信幸、保存修復課主任研究員 土屋裕子、修理技術者 平野はな子、修理技術者 中村春佳	フィルム・エンキャプシュレーションによる資料の保護―東京国立博物館資料館の図書資料への予防保存の実例―	文化財保存修復学会第３３回大会研究発表要旨集	文化財保存修復学会	6月4・5日	有
51	同上	横山梓 （学芸企画部企画課特別展室研究員）	≪新収品紹介≫瑠璃地染付蓮図水指	『MUSEUM』632号	東京国立博物館	6月15日	有
52	同上	鈴木晴彦（保存修復課アソシエイトフェロー）、米倉乙世（保存修復課アソシエイトフェロー）、沖本明子（保存修復課アソシエイトフェロー）、神庭信幸（保存修復課長）、土屋裕子（保存修復課保存修復室主任研究員）、松田麻美（国立歴史民俗博物館）	「簡易万能型太巻芯」の利用と展開 -博物館における対症修理-	文化財保存修復学会第33回大会in奈良研究発表要旨集	文化財保存修復学会	6月4日	有
53	同上	高橋裕次（博物館情報課長）	特別展「法然と親鸞 ゆかりの名宝」について	特別展「法然と親鸞 ゆかりの名宝」図録	東京国立博物館	10月	無
54	有形文化財に係る調査研究（収集・保管、公衆への観覧にかかる調査研究）	松本伸之（学芸企画部長）	THE HISTORY AND COLLECTION OF TOKYO NATIONAL MUSEUM	Elegant Perfection	The Museum of Fine Arts, Houston	12月	無
55	同上	保存修復課保存修復室研究員　川村佳男	中国三峡地区の塩竈形明器について	塩の生産と流通ー東アジアから南アジアまでー	雄山閣	6月10日	無

	研究テーマ	発表者 （職名・名前）	論文テーマ	掲載誌名	発行元	掲載 年月日	レフェリー 有無
56	同上	保存修復課保存修復室研究員　川村佳男	春秋・戦国時代の薄造り青銅器の製作技術	アジア鋳造技術史学会　研究発表概要集　5号	アジア鋳造技術史学会	8月	有
57	同上	保存修復課保存修復室研究員　川村佳男	清朝の文化事業－伝統の継承と再編－	東京国立博物館特別展『北京故宮博物院200選』図録	東京国立博物館特別展	24年1月2日	無
58	同上	調査研究課長　田良島　哲	東叡山寛永寺（特集陳列リーフレット）		東京国立博物館	9月	無
59	博物館の環境保存に関する研究	保存修復課長　神庭信幸	展示手法の変化に見る保存とデザインの関係	博物館研究　平成２４年１月号	財団法人日本博物館協会	24年1月25日	有
60	臨床保存に関する研究	保存修復課主任研究員	生物対策	東博の臨床保存	東京国立博物館	4月8日	無
61	同上	保存修復課主任研究員	空気環境	東博の臨床保存	東京国立博物館	4月8日	無
62	同上	保存修復課長　神庭信幸	彫刻の修理	東博の臨床保存	東京国立博物館	4月8日	無
63	同上	保存修復課環境保存室主任研究員･和田浩	「温湿度管理」、「光の管理」、「梱包と輸送」	東博の臨床保存	東京国立博物館	4月8日	無
64	博物館環境デザインに関する調査研究	デザイン室長 木下史青	『光で見せる展示デザイン』	『国語３』（中学校３年生・国語教科書）	光村図書	24年　（2月28日文部科学省検定）	有
65	同上	デザイン室長 木下史青	コラム文化財を守る 『東京国立博物館の展示照明―この10年間と次世代の可能性―』	『月刊文化財 4月/平成』文化財と博物館	第一法規㈱	4月1日	無
66	同上	デザイン室長 木下史青	表紙解説　『国宝阿修羅展』―阿修羅像の展示デザイン	『月刊文化財 4月/平成』文化財と博物館	第一法規㈱	4月1日	無
67	同上	デザイン室長 木下史青	東京国立博物館　本館12室『漆工』―リニューアル	『月刊文化財 4月/平成24年』文化財と博物館	第一法規㈱	4月1日	無
68	博物館資料・業務の情報処理に関する調査研究	博物館情報課情報管理室長 村田良二	国宝・重要文化財のデジタル・アーカイブ構築とその展望	アート・ドキュメンテーション学会2011年度年次大会 予稿集	アート・ドキュメンテーション学会	6月11日	無
69	文化財に関する調査及び研究　特別調査法隆寺献納宝物「聖徳太子絵伝」	沢田むつ代(特任研究員)	「献納本　国宝・聖徳太子絵伝の料絹について」	法隆寺献納宝物特別調査概報ＸＸＸⅡ『聖徳太子絵伝５』	東京国立博物館	24年	無
70	鑑賞補助教材の研究	主任研究員　藤田千織	《報告》館内ガイドの新しいかたちースマートフォンによる位置連動型ガイド「とーはくナビ」製作と貸出について－	MUSEUM　第636号	東京国立博物館	24年2月15日	有
71	東アジアの書道史における料紙と書風に関する総合的研究	副館長 島谷弘幸	伝統と創造	『第51回現日選抜書展　講演会録』	現日会	5月	無
72	同上	副館長 島谷弘幸	西川寧図録　プロローグ	新井光風監修『西川寧　墨　ニュークラシック・シリーズ』	芸術新潮社	8月30日	無
73	同上	副館長 島谷弘幸	一休一行書	『聚美』第2号	青月社	24年1月10日	無
74	同上	副館長 島谷弘幸	Buddhist Art and Courtly Elegance	『Elegance Perfection』	The Museum of Fine Arts, Houston	24年2月17日	無
75	同上	副館長 島谷弘幸	日本の書 - 伝統から創造へ	『ＳＨＯ１』(現代日本の書代表作家41人展図録)	ギメ東洋美術館、毎日新聞社、毎日書道会	24年3月	無
76	同上	副館長 島谷弘幸	書	『博物館展示論』	財団法人放送大学教育振興会	24年3月20日	無
77	同上	副館長 島谷弘幸	残された書　文化財と日本人のアイデンティティ	『BIO CITY』50号	ブックエンド	24年3月27日	無
78	同上	調査研究課書跡・歴史室アソシエイトフェロー 恵美千鶴子	江戸時代の出版物における古筆鑑賞の普及と展開－『丹鶴図譜』の「岡寺切」を発端として－	『MUSEUM』631号	東京国立博物館	4月15日	有
79	同上	調査研究課書跡・歴史室アソシエイトフェロー 恵美千鶴子	平家納経に魅せられた人々　田中親美「平家納経模本」	『BIO CITY』49号	ブックエンド	12月28日	無
80	同上	調査研究課書跡・歴史室アソシエイトフェロー 恵美千鶴子	平家納経に魅せられた人々　山高信離と「平家納経模本」	『BIO CITY』50号	ブックエンド	24年3月27日	無
81	同上	博物館情報課長 高橋裕次	漢籍善本紹介-東京国立博物館(4)-」	『新しい漢字漢文教育』第52号	全国漢文教育学会	5月30日	無
82	同上	博物館情報課長 高橋裕次	漢籍善本紹介-東京国立博物館(5)-」	『新しい漢字漢文教育』第53号	全国漢文教育学会	11月30日	無
83	同上	高橋裕次（学芸企画部博物館情報課長）	「日・中・韓の料紙に関する科学的考察」	東京国立博物館紀要第47号	東京国立博物館	24年3月	無
84	博物館における文化遺産の保全と持続的公開を目指した包括的保存システムの研究	保存修復課長　神庭信幸	フランス文化通信省、フランス国立科学研究センター、日本学術振興会主催による日仏ワークショップ『文化遺産保存のための科学』	MUSEUM　No.633	東京国立博物館	8月15日	有
85	同上	保存修復室アソシエイトフェロー　沖本明子、保存修復課長　神庭信幸、保存修復課保存修復室主任研究員　土屋裕子、保存修復室アソシエイトフェロー　鈴木晴彦、保存修復室アソシエイトフェロー　米倉乙世、保存修復課環境保存室主任研究員　荒木臣紀、環境保存室主任研究員　和田浩	テラヘルツ派イメージングの一事例―柳橋水車図屏風(東京国立博物館蔵)の修理前調査を例として―	文化財保存修復学会第33回大会研究発表要旨集、p.34-35	文化財保存修復学会	6月4日	有
86	同上	保存修復課環境保存室主任研究員･和田浩、保存修復課長･神庭信幸	文化財梱包に用いる緩衝材の適切な使用法の検討-ワイヤーロープの振動特性	文化財保存修復学会第33回大会研究発表要旨集、p.34-35	文化財保存修復学会	6月4日	有
87	近現代における古日本染織の移動とコレクション形成に関する基礎的研究（科学研究費補助金Ａ）	主任研究員・小山弓弦葉	「辻が花」の誕生　―〈ことば〉と〈染織技法〉をめぐる文化資源学	単著	東京大学出版会	24年3月	有
88	宮廷工芸に関する物質文化的研究	列品管理課貸与特別観覧室主任研究員　猪熊兼樹	清朝の礼制文化	東京国立博物館特別展『北京故宮博物院200選』図録	東京国立博物館特別展	24年1月2日	無

	研究テーマ	発表者 （職名・名前）	論文テーマ	掲載誌名	発行元	掲載 年月日	レフェリー 有無
89	博物館美術教育に関する調査研究	鈴木みどり（博物館教育課ボランティア室長）	Museum for Everyone - through the development of School Programs for Visually Impaired	Learning Innovation Symposium 2011	韓国国立民俗博物館	10月27日	無
90	同上	鈴木みどり（博物館教育課ボランティア室長）	西洋の博物館教育　米国　－デンバー美術館の例を中心に－	博物館教育論	ぎょうせい	24年3月1日	無
91	同上	鈴木みどり（博物館教育課ボランティア室長）	「東京国立博物館　盲学校のためのスクールプログラム」から始める博物館のアクセシビリティ―みんなが楽しむ博物館のための第一歩－	東京国立博物館紀要第47号	東京国立博物館	24年3月30日	無

【京都国立博物館】　72件

○有形文化財の収集・保存・管理・展示・教育活動等にかかる調査・研究

	研究テーマ	発表者 （職名・名前）	論文テーマ	掲載誌名	発行元	掲載 年月日	レフェリー 有無
1	収蔵品・寄附品及び関連品に関する調査研究	西上　実（学芸部長）	陳箴筆鳥花山水図補遺	『学叢』３３号	京都国立博物館	23年5月	無
2	文化財の保存・修復に関する調査研究	村上　隆（上席研究員）他	京都国立博物館蔵「紺紙銀字華厳経（二月堂焼経）」の科学的調査　―文字素材の材質を中心に―	文化財保存修復学会第33回大会研究発表要旨集	文化財保存修復学会	23年6月4日	無
3	同上	村上　隆（上席研究員）	三角縁神獣鏡の組成と金属組織　―椿井大塚山古墳出土の三角縁神獣鏡を中心に―	『学叢』33号	京都国立博物館	23年5月27日	無
4	文化財の保存・修復に関する調査研究	同上	『美を伝える　京都国立博物館文化財保存修理所の現場から』	『美を伝える　京都国立博物館文化財保存修理所の現場から』	京都国立博物館	23年7月11日	無
5	同上	同上	「京都国立博物館蔵「紺紙銀字華厳経（二月堂焼経）」の科学的調査　―文字素材の材質を中心に―	文化財保存修復学会第33回大会研究発表要旨集	文化財保存修復学会	23年6月4日	無
6	収蔵品・寄附品及び関連品に関する調査研究	同上	みんぞく資料をまもる	文化財の保存と修復１３	文化財保存修復学会	23年6月	無
7	同上	同上	奈良県御所市室宮山古墳外堤住居址から出土したベンガラの材料科学的キャラクタリゼーション	文化財保存修復学会第33回大会研究発表要旨集	文化財保存修復学会	23年6月	無
8	文化財の保存・修復に関する調査研究	同上	「近代日米文化交流の一側面　…三角縁神獣鏡に映る人間ドラマ…」	『藝文京』118号	京都市芸術文化協会	23年7月11日	無
9	同上	同上	「住友銅吹所跡　―発掘調査20周年―」	『近畿産業考古学会誌』5号	近畿産業考古学会		無
10	同上	同上	「銀の履歴書」	『聖なる銀　…アジアの装身具…』	INAXギャラリー（INAXBOOKLET）	23年12月15日	無
11	収蔵品・寄附品及び関連品に関する調査研究	赤尾栄慶（上席研究員）	元時代・至元二十八年の華厳経　―角筆の使用を確認―	『学叢』３３号	京都国立博物館	23年5月	無
12	同上	同上	扉解説・作品解説	『百獣の楽園―美術にすむ動物たち―』特別展観目録	京都国立博物館	23年7月	無
13	同上	同上	作品解説	『京都国立博物館名品展　京都千年の美の系譜―祈りと風景』展覧会目録	静岡県立美術館	23年10月	無
14	同上	久保智康（企画室長）	扉解説・作品解説	『百獣の楽園―美術にすむ動物たち―』特別展観目録	京都国立博物館	23年7月	無
15	同上	同上	作品解説	『京都国立博物館名品展　京都千年の美の系譜―祈りと風景』展覧会目録	静岡県立美術館	23年10月	無
16	同上	同上	日宋の浄土教における鏡という装置	呉越勝覧国際学術研討会論文集	北京・中国書店	23年12月	無
17	同上	永島明子（主任研究員）	人と美術と動物のあいだ	展覧会図録　百獣の楽園　美術にすむ動物たち	京都国立博物館	23年7月16日	無
18	江戸時代中期の輸出漆器	同上	“Maki-e production of the Mid-Edo period as seen through historical European collections”	East Asian Lacquer: Material, Culture, Science and Conservation（東洋漆器：その文化史、科学と保存修復）	Archetype Books in association with V&A,	23年12月11日	無
19	蒔絵の輸出と生産の歴史	同上	蒔絵の輸出と生産に関する史的研究	京都大学　学位論文　博士（人間・環境学）	京都大学	24年3月26日	有
20	収蔵品・寄附品及び関連品に関する調査研究	同上	人と美術と動物の間（概説）	『百獣の楽園―美術にすむ動物たち―』特別展観目録	京都国立博物館	23年7月	無
21	同上	同上	扉解説・作品解説	『百獣の楽園―美術にすむ動物たち―』特別展観目録	京都国立博物館	23年7月	無
22	同上	同上	京都国立博物館　特別展観　百獣の楽園－美術にすむ動物たち－	『文化庁月報』514	文化庁	23年7月	無
23	同上	同上	作品解説	『京都国立博物館名品展　京都千年の美の系譜―祈りと風景』展覧会目録	静岡県立美術館	23年10月	無
24	蒔絵の輸出と生産の歴史	同上	表紙解説　松喰鶴蒔絵冠箱　国宝　阿須賀神社伝来古神宝のうち	第２７４回―平成二十三年十月歌舞伎公演　国立劇場	独立行政法人日本芸術文化振興会	23年10月	無
25	仏画に関する調査研究	大原嘉豊（研究員）	作品解説	（真宗高田派本山専修寺京都別院所蔵）仏涅槃図	真宗高田派本山専修寺京都別院	23年4月	無
26	同上	同上	作品解説	（真宗高田派本山専修寺京都別院所蔵）光明本尊	真宗高田派本山専修寺京都別院	23年4月	無
27	収蔵品・寄附品及び関連品に関する調査研究	同上	扉解説・作品解説	『百獣の楽園　美術にすむ動物たち』	京都国立博物館	23年7月	無
28	同上	同上	仏教絵画と動物	『博物館Dictionary』168号	京都国立博物館	23年7月	無
29	同上	羽田　聡（研究員）	扉解説・作品解説	『百獣の楽園―美術にすむ動物たち―』特別展観目録	京都国立博物館	23年7月	無
30	同上	同上	作品解説	『京都国立博物館名品展　京都千年の美の系譜―祈りと風景』展覧会目録	静岡県立美術館	23年10月	無
31	同上	鬼原俊枝（列品管理室長）	文化財保存の歴史の中の今	『清風会々報』１６４号	清風会	23年10月25日	無
32	同上	山川　暁（主任研究員）	淡浅葱縮緬地帰雁菊水文様友禅染繍小袖	『学叢』３３号	京都国立博物館	23年5月	無
33	同上	同上	白縮子地御御簾松文様絞繍小袖	『学叢』３３号	京都国立博物館	23年5月	無
34	同上	同上	扉解説・作品解説	『百獣の楽園―美術にすむ動物たち―』特別展観目録	京都国立博物館	23年7月	無
35	同上	同上	作品解説ほか	『典雅なる御装束―宮廷のオートクチュール―』展覧会図録	細見美術館	23年10月	無
36	同上	同上	作品解説	『京都国立博物館名品展　京都千年の美の系譜―祈りと風景』展覧会目録	静岡県立美術館	23年10月	無
37	日本近世絵画の研究	山下善也（連携協力室長）	狩野永良の秘伝画法書について	『學叢』第33号	京都国立博物館	23年5月	無
38	同上	同上	きらめく京都、きらめく近世の絵画	『京都千年の美の系譜　－祈りと風景』	静岡県立美術館	23年10月	無
39	収蔵品・寄附品及び関連品に関する調査研究	同上	扉解説・作品解説	『百獣の楽園―美術にすむ動物たち―』特別展観目録	京都国立博物館	23年7月	無
40	同上	同上	作品解説	『京都国立博物館名品展　京都千年の美の系譜―祈りと風景』展覧会目録	静岡県立美術館	23年10月	無
41	同上	浅湫　毅（主任研究員）	扉解説・作品解説	『百獣の楽園―美術にすむ動物たち―』特別展観目録	京都国立博物館	23年7月	無

	研究テーマ	発表者 （職名・名前）	論文テーマ	掲載誌名	発行元	掲載 年月日	レフェリー 有無
42	同上	同上	作品解説	『京都国立博物館名品展　京都千年の美の系譜―祈りと風景』展覧会目録	静岡県立美術館	23年10月	無
43	同上	山本英男（美術室長）	画僧の系譜	『名僧でたどる日本の仏教』（別冊・太陽　日本のこころ182）	平凡社	23年5月	無
44	同上	同上	狩野元信筆浄瓶倒図（龍安寺蔵）と大徳寺瑞峯院障壁画	『學叢』第33号	京都国立博物館	23年5月	無
45	同上	同上	大徳寺所蔵の狩野永徳筆織田信長像について―修理で得られた新知見を中心に―	『學叢』第33号	京都国立博物館	23年5月	無
46	同上	同上	長谷川等伯物語～孤高の絵師長谷川等伯（第一回　能登の絵仏師・長谷川信春　および口絵解説 ）	『茶道雑誌』75巻６号	河原書店	23年6月	無
47	同上	同上	元秀印　源氏物語図屏風	『國華』１３８８号	朝日新聞出版	23年6月	無
48	同上	同上	長谷川等伯物語～孤高の絵師長谷川等伯（第二回　絵仏師の枠を超えて　および口絵解説）	『茶道雑誌』75巻7号	河原書店	23年7月	無
49	同上	同上	扉解説・作品解説	『百獣の楽園―美術にすむ動物たち―』特別展観目録	京都国立博物館	23年7月	無
50	同上	同上	長谷川等伯物語～孤高の絵師長谷川等伯（第三回　狩野派入門　および口絵解説）	『茶道雑誌』75巻8号	河原書店	23年8月	無
51	同上	同上	信春試論―狩野派との関係を中心に―	『長谷川等伯展～「信春時代」―等伯のプレリュード～』展覧会目録	石川県七尾美術館	23年8月	無
52	同上	同上	長谷川等伯物語～孤高の絵師長谷川等伯（第四回　京都への移住　および口絵解説）	『茶道雑誌』75巻9号	河原書店	23年9月	無
53	同上	同上	長谷川等伯物語～孤高の絵師長谷川等伯（第五回　空白の十七年　および口絵解説）	『茶道雑誌』75巻10号	河原書店	23年10月	無
54	同上	同上	長谷川等伯物語～孤高の絵師長谷川等伯（第六回　堺への進出　および口絵解説）	『茶道雑誌』75巻11号	河原書店	23年11月	無
55	同上	同上	長谷川等伯物語～孤高の絵師長谷川等伯（第七回　大徳寺に描く　および口絵解説）	『茶道雑誌』75巻12号	河原書店	23年12月	無
56	同上	呉孟晋（研究員）	扉解説・作品解説	『百獣の楽園―美術にすむ動物たち―』特別展観目録	京都国立博物館	23年7月	無
57	同上	同上	ある外交官が見た中国近代絵画―須磨弥吉郎の東西美術批評を手がかりに―	『アジア遊学』１４６号（民国期美術へのまなざし）	勉誠出版	23年10月	無
58	同上	同上	作品解説	『京都国立博物館名品展　京都千年の美の系譜―祈りと風景』展覧会目録	静岡県立美術館	23年10月	無
59	出土・伝世古陶磁に関する調査研究	尾野善裕（工芸室長）	初代伊東陶山と西洋陶磁―エミール・ミュラー社製辰砂釉花瓶―	『學叢』第33号	京都国立博物館	23年5月	無
60	同上	同上	仁清・乾山が名工たる所以―京焼名工の選定基準―	『淡交　別冊』№59	淡交社	23年6月	無
61	収蔵品・寄附品及び関連品に関する調査研究	同上	扉解説・作品解説	『百獣の楽園―美術にすむ動物たち―』特別展観目録	京都国立博物館	23年7月	無
62	同上	同上	萩焼の乾山写し―「ピラ掛け茶碗」小考―	『清風会々報』１６３号	清風会	23年7月	無
63	同上	同上	作品解説	『京都国立博物館名品展　京都千年の美の系譜―祈りと風景』展覧会目録	静岡県立美術館	23年10月	無
64	同上	宮川禎一（考古室長）	東南アジアの銅鼓二例	『學叢』第33号	京都国立博物館	23年5月	無
65	同上	同上	扉解説・作品解説	『百獣の楽園―美術にすむ動物たち―』特別展観目録	京都国立博物館	23年7月	無
66	同上	同上	作品解説	『京都国立博物館名品展　京都千年の美の系譜―祈りと風景』展覧会目録	静岡県立美術館	23年10月	無
67	日本近世絵画に関する調査・研究	水谷亜希（アソシエイトフェロー）	「新出の〈やすらい祭絵巻〉・〈牛祭絵巻〉（京都国立博物館蔵）について―松村景文・河村文鳳・上田秋成らによる祭礼の記録―」	『學叢』第33号	京都国立博物館	23年5月	無
68	美術のなかの動物	同上	作品解説、コラム	『百獣の楽園　美術にすむ動物たち』展覧会図録	京都国立博物館	23年7月	無
69	日本近世絵画に関する調査・研究	同上	作品解説	『京都国立博物館名品展　京都千年の美の系譜―祈りと風景―』展覧会図録	京都千年の美の系譜展実行委員会	23年10月	無
70	収蔵品・寄託品に関する調査研究	同上	「京都国立博物館のこれまでとこれから」	『京都国立博物館名品展　京都千年の美の系譜―祈りと風景―』展覧会図録	京都千年の美の系譜展実行委員会	23年10月	無
71	鑑賞教育に関する調査研究	同上	「京博のいい話〈見て感じる〉楽しみを」	『毎日新聞』	毎日新聞社	24年2月2日	無
72	日本近世絵画に関する調査・研究	同上	「円山応挙の写生と絵空事―登龍門図をもとに―」	『美学芸術学』第27号	同志社大学美学芸術学研究室	24年3月15日	有

【奈良国立博物館】　29件

○有形文化財の収集・保存・管理・展示・教育活動等にかかる調査・研究

	研究テーマ	発表者 （職名・名前）	論文テーマ	掲載誌名	発行元	掲載 年月日	レフェリー 有無
1	館蔵品・寄託品等の調査研究を文化財修理の観点から実施し、文化財の活用及び後世への継承に資する。	湯山賢一（館長）	紙の修復と保存	『化学と工業』４月号	日本化学会	4月	無
2	同上	同上	古文書修理の歴史と現在	九州国立博物館特別展「よみがえる国宝」図録	九州国立博物館	6月28日	無
3	南都諸社寺等における文化財調査を積極的に実施して宗教文化に関する調査研究の成果を蓄積し、平成度特別展「天竺へ－三蔵法師三万キロの旅」及び特別陳列「初瀬にますは与喜の神垣－與喜天満神社の秘宝と神像」、毎年恒例の特別陳列「お水取り」「おん祭と春日信仰の美術」、２４年度特別展「貞慶（仮称）」、２５年度特別展「当麻寺（仮称）」等に反映させる。	同上	東大寺文書	東大寺ミュージアム開館記念特別展「奈良時代の東大寺」目録	東大寺	10月9日	無
4	同上	西山厚（学芸部長）	平安時代の東大寺	東大寺ミュージアム開館記念特別展「奈良時代の東大寺」目録	東大寺	10月9日	無
5	同上	岩田茂樹（学芸部長補佐）	與喜天満神社の神像	特別陳列「初瀬にますは与喜の神垣－與喜天満神社の秘宝と神像－」図録	奈良国立博物館	7月16日	無

	研究テーマ	発表者 （職名・名前）	論文テーマ	掲載誌名	発行元	掲載 年月日	レフェリー 有無
6	文化財アーカイブズの形成に関する理論的・実践的研究を行い、その成果をデジタル画像の作成・各種データベースの構築（収蔵品・画像・図書）・各種情報資源の公開推進に反映させる。	同上	無題、今のところ	『文化財写真研究』２２号	文化財写真技術研究会	7月23日	無
7	南都諸社寺等における文化財調査を積極的に実施して宗教文化に関する調査研究の成果を蓄積し、平成度特別展「天竺へ－三蔵法師三万キロの旅」及び特別陳列「初瀬にますは与喜の神垣－與喜天満神社の秘宝と神像」、毎年恒例の特別陳列「お水取り」「おん祭と春日信仰の美術」、２４年度特別展「貞慶（仮称）」、２５年度特別展「当麻寺（仮称）」等に反映させる。	同上	法隆寺金堂　釈迦・阿弥陀三尊像下座の板絵四天王像をめぐって	『MUSEUM』６３３号	東京国立博物館	8月15日	無
8	同上	同上	平安時代東大寺の造像をめぐって	東大寺ミュージアム開館記念特別展「奈良時代の東大寺」目録	東大寺	10月9日	無
9	歴史学・考古学・美術史学などの人文諸学の見地から館蔵品・寄託品等の調査研究を行い、その成果を積極的に公表する。	内藤栄（学芸部長補佐）	工芸品に表された鳳凰と獅子	サントリー美術館特別展「不滅のシンボル　鳳凰と獅子」図録	サントリー美術館	6月	無
10	正倉院宝物や奈良の出土遺物・伝世品・伝統工芸・芸能など、当該地域に密着した文化財に関する調査研究を実施し、展覧会等に反映させる。	同上	宝物献納と蓮花台蔵世界海―「陽剣」・「陰剣」銘大刀をめぐって―	第６３回正倉院展図録	奈良国立博物館	10月28日	無
11	南都諸社寺等における文化財調査を積極的に実施して宗教文化に関する調査研究の成果を蓄積し、平成度特別展「天竺へ－三蔵法師三万キロの旅」及び特別陳列「初瀬にますは与喜の神垣－與喜天満神社の秘宝と神像」、毎年恒例の特別陳列「お水取り」「おん祭と春日信仰の美術」、２４年度特別展「貞慶（仮称）」、２５年度特別展「当麻寺（仮称）」等に反映させる。	同上	正倉院宝物と東大寺	東大寺ミュージアム開館記念特別展「奈良時代の東大寺」目録	東大寺	10月9日	無
12	同上	稲本泰生（企画室長）	菩薩坐像（薬師寺東塔塑像のうち）	『薬師寺』１６８号	薬師寺	6月	無
13	日本とアジア諸国の文化交流に関する調査研究を進め、その成果を展示や公刊物等に反映させる。	同上	玄奘三蔵の求法行と七～八世紀アジア諸国の崇仏君主－戒日王から聖武天皇まで	特別展「天竺へ　～三蔵法師三万キロの旅」図録	奈良国立博物館・朝日新聞社	7月16日	無
14	南都諸社寺等における文化財調査を積極的に実施して宗教文化に関する調査研究の成果を蓄積し、平成度特別展「天竺へ－三蔵法師三万キロの旅」及び特別陳列「初瀬にますは与喜の神垣－與喜天満神社の秘宝と神像」、毎年恒例の特別陳列「お水取り」「おん祭と春日信仰の美術」、２４年度特別展「貞慶（仮称）」、２５年度特別展「当麻寺（仮称）」等に反映させる。	同上	東大寺の塑像をめぐる諸問題	東大寺ミュージアム開館記念特別展「奈良時代の東大寺」目録	東大寺	10月9日	無
15	正倉院宝物や奈良の出土遺物・伝世品・伝統工芸・芸能など、当該地域に密着した文化財に関する調査研究を実施し、展覧会等に反映させる。	吉澤悟（教育室長）	春日東塔院の調査－第477次	奈良文化財研究所紀要　二〇一一	奈良文化財研究所	6月15日	無

	研究テーマ	発表者 （職名・名前）	論文テーマ	掲載誌名	発行元	掲載 年月日	レフェリー 有無
16	日本とアジア諸国の文化交流に関する調査研究を進め、その成果を展示や公刊物等に反映させる。	野尻忠（情報サービス室長）	藤田美術館・薬師寺ほか所蔵の大般若経（魚養経）について	特別展「天竺へ　～三蔵法師三万キロの旅」図録	奈良国立博物館・朝日新聞社	7月16日	無
17	南都諸社寺等における文化財調査を積極的に実施して宗教文化に関する調査研究の成果を蓄積し、平成度特別展「天竺へ－三蔵法師三万キロの旅」及び特別陳列「初瀬にますは与喜の神垣－與喜天満神社の秘宝と神像」、毎年恒例の特別陳列「お水取り」「おん祭と春日信仰の美術」、２４年度特別展「貞慶（仮称）」、２５年度特別展「当麻寺（仮称）」等に反映させる。	同上	総説　与喜天神の歴史と信仰	特別陳列「初瀬にますは与喜の神垣－與喜天満神社の秘宝と神像－」図録	奈良国立博物館	7月16日	無
18	正倉院宝物や奈良の出土遺物・伝世品・伝統工芸・芸能など、当該地域に密着した文化財に関する調査研究を実施し、展覧会等に反映させる。	同上	そのとき倉から出されたものは、どこへ行ったのか。—雑札42の詳細解説—	第６３回正倉院展図録	奈良国立博物館	10月28日	無
19	日本とアジア諸国の文化交流に関する調査研究を進め、その成果を展示や公刊物等に反映させる。	谷口耕生 （保存修理指導室長）	総説　玄奘三蔵絵—三国伝灯の祖師絵伝—	特別展「天竺へ　～三蔵法師三万キロの旅」図録	奈良国立博物館・朝日新聞社	7月16日	無
20	東京文化財研究所と共同で行う天台高僧像（一乗寺蔵）、信貴山縁起絵巻（朝護孫子寺蔵）の調査など、仏教美術の光学的調査研究を実施し、作品の材料・技術等の解明に寄与する。	同上	春日権現験記絵披見台の光学調査	特別陳列「おん祭りと春日信仰の美術」図録	財団法人仏教美術協会	12月5日	無
21	正倉院宝物や奈良の出土遺物・伝世品・伝統工芸・芸能など、当該地域に密着した文化財に関する調査研究を実施し、展覧会等に反映させる。	宮崎幹子（資料室長）	仏教美術資料研究センターの再開によせて—奈良県物産陳列所と奈良の近代—	奈良国立博物館だより78号	奈良国立博物館	7月	無
22	同上	同上	仏教美術資料研究センター　—重要文化財 旧奈良県物産陳列所—（執筆編集）	仏教美術資料研究センター　—重要文化財 旧奈良県物産陳列所—	奈良国立博物館	7月15日	無
23	文化財アーカイブズの形成に関する理論的・実践的研究を行い、その成果をデジタル画像の作成・各種データベースの構築（収蔵品・画像・図書）・各種情報資源の公開推進に反映させる。	同上	ミュージアムライブラリーの可能性　—奈良国立博物館仏教美術資料研究センターの再出発によせて—	『アート・ドキュメンテーション通信』９０号	アート・ドキュメンテーション研究会	8月	無
24	正倉院宝物や奈良の出土遺物・伝世品・伝統工芸・芸能など、当該地域に密着した文化財に関する調査研究を実施し、展覧会等に反映させる。	清水健（研究員）	両種の御香—全浅香と黄熟香—	第６３回正倉院展図録	奈良国立博物館	10月28日	無
25	南都諸社寺等における文化財調査を積極的に実施して宗教文化に関する調査研究の成果を蓄積し、平成度特別展「天竺へ－三蔵法師三万キロの旅」及び特別陳列「初瀬にますは与喜の神垣－與喜天満神社の秘宝と神像」、毎年恒例の特別陳列「お水取り」「おん祭と春日信仰の美術」、２４年度特別展「貞慶（仮称）」、２５年度特別展「当麻寺（仮称）」等に反映させる。	同上	おん祭と春日信仰の美術 総論	特別陳列「おん祭りと春日信仰の美術」図録	財団法人仏教美術協会	12月5日	無
26	日本とアジア諸国の文化交流に関する調査研究を進め、その成果を展示や公刊物等に反映させる。	北澤菜月（研究員）	高階隆兼にとっての「玄奘三蔵絵」	特別展「天竺へ　～三蔵法師三万キロの旅」図録	奈良国立博物館・朝日新聞社	7月16日	無
27	中国・韓国などアジア諸国の文化財に関する調査研究を積極的に進め、日本の文化財との比較検討や相互理解に資する。	斎木涼子（研究員）	版木に託された護国の願い—世界文化遺産・海印寺大蔵経板殿—	奈良国立博物館だより77号	奈良国立博物館	4月	無
28	日本とアジア諸国の文化交流に関する調査研究を進め、その成果を展示や公刊物等に反映させる。	同上	中世南都における玄奘三蔵と天竺観	特別展「天竺へ　～三蔵法師三万キロの旅」図録	奈良国立博物館・朝日新聞社	7月16日	無
29	同上	原瑛莉子（研究員）	釈迦十六善神像にみる玄奘像の変遷	特別展「天竺へ　～三蔵法師三万キロの旅」図録	奈良国立博物館・朝日新聞社	7月16日	無

【九州国立博物館】　48件

○有形文化財の収集・保存・管理・展示・教育活動等にかかる調査・研究

	研究テーマ	発表者 （職名・名前）	論文テーマ	掲載誌名	発行元	掲載 年月日	レフェリー 有無
1	日本とアジア諸国との文化交流に関する調査研究	文化財課資料登録室主任研究員　原田あゆみ	「海を渡ったアユタヤ仏」	『アジア友好日本古美術帰国展日本とタイ—ふたつの国の巧と美』図録	九州国立博物館	4月	無

	研究テーマ	発表者 （職名・名前）	論文テーマ	掲載誌名	発行元	掲載 年月日	レフェリー 有無
2	博物館における文化財の保存と修復	博物館科学課長　本田光子	文化財の収蔵庫	マテリアルライフ学会誌	マテリアルライフ学会	5月31日	有
3	朝鮮半島、三国時代の考古・美術に関する調査研究	展示課長　赤司善彦	レーザー計測による古代山城の研究	西日本文化451	西日本文化協会	6月1日	無
4	館蔵品を中心とした漆器の調査研究	企画課文化交流展室　川畑憲子	X線ＣＴスキャンによる彫漆器の木地構造調査	『彫漆　漆に刻む文様の美』図録	九州国立博物館	6月14日	無
5	博物館における文化財の保存と修復	館長　三輪嘉六、博物館科学課長　本田光子	「文化財保存修理の道筋」	『よみがえる国宝』図録	九州国立博物館	6月27日	無
6	博物館における文化財の保存と修復	博物館科学課長　本田光子、副館長　森田稔	「九州国立博物館の文化財保存システム」	『よみがえる国宝』図録	九州国立博物館	6月27日	無
7	博物館における文化財の保存と修復	博物館科学課保存修復室長　藤田励夫	「九州国立博物館　保存修復施設について」	『よみがえる国宝』図録	九州国立博物館	6月27日	無
8	博物館における文化財の保存と修復	博物館科学課環境保全室長　今津節生	「文化財の科学的調査」	『よみがえる国宝』図録	九州国立博物館	6月27日	無
9	文化財の材質・構造等に関する共同研究	博物館科学課環境保全室長　今津節生	The conservation of a coloring wooden casket discovered by Tuerji Hill Tomb by the Chinese-Japanese collaborative investigation	The 2011 International Symposium on Conservation of Cultural Heritage in East Asia	Society for Conservation of Cultural Heritage in East Asia	8月16日	無
10	Ｘ線ＣＴスキャナによる中国古代青銅器の構造技法解析	博物館科学課環境保全室長　今津節生	Study with structural dissection on the bronze works of Yin and Zhou Dynasty of China using the large-scale X-ray CT scanner	The 2011 International Symposium on Conservation of Cultural Heritage in East Asia	Society for Conservation of Cultural Heritage in East Asia	8月18日	無
11	中国内蒙古自治区出土の契丹文化に属する考古遺物に	企画課特別展室研究員　市元塁	九州国立博物館特別展「草原の王朝 契丹－美しき3人のプリンセス－」	『電気と九州』2011年8月号	社団法人日本電気協会九州支部会	8月	無
12	文化財の材質・構造等に関する共同研究	博物館科学課環境保全室長　今津節生	長崎県松浦市鷹島海底遺跡出土品のX線CT調査	『長崎県松浦市鷹島海底遺跡発掘調査報告書』	長崎県松浦市教育委員会	9月16日	無
13	中国内蒙古自治区出土の契丹文化に属する考古遺物に関する調査研究	企画課特別展室研究員　市元塁	契丹の歴史と文化	『草原の王朝 契丹-美しき3人のプリンセス－』図録	西日本新聞社	9月27日	無
14	文化財の材質・構造等に関する共同研究	博物館科学課環境保全室長　今津節生	トルキ山古墓の保存修復	『草原の王朝 契丹-美しき3人のプリンセス－』図録	九州国立博物館	9月27日	無
15	中国内蒙古自治区出土の契丹文化に属する考古遺物に関する調査研究	企画課長　小泉惠英	「契丹仏教と皇帝」	『草原の王朝 契丹-美しき3人のプリンセス－』図録	九州国立博物館	9月27日	無
16	中国内蒙古自治区出土の契丹文化に属する考古遺物に関する調査研究	展示課研究員　遠藤啓介	「契丹陶器の種類と造形」	『草原の王朝 契丹-美しき3人のプリンセス－』図録	九州国立博物館	9月27日	無
17	館蔵水墨画を中心とした日・中・韓の水墨画研究に関する調査研究	企画課特別展室主任研究員　畑靖紀	総論　水墨画の魅力―名品の筆墨にせまる―	『トピック展示　館蔵水墨画名品展』展覧会図録	九州国立博物館	9月28日	無
18	展覧会における教育普及事業の実践に関する調査研究	交流課主任研究員　池内一誠	「日本とタイ　ふたつの国の巧と美　関連事業について」	『月刊文化財』10月号	文化庁	41182	無
19	中国内蒙古自治区出土の契丹文化に属する考古遺物に関する調査研究	企画課特別展室研究員　市元塁	1000年の時を越える草原国家。美を謳歌した契丹のプリンセス	『美術の窓』336	生活の友社	9月	無
20	魏晋南北朝時代の東アジア世界	企画課特別展室研究員　市元塁	出土陶俑からみた五胡十六国と北魏政権	『古代文化』63（2）	古代学協会	9月	有
21	中国内蒙古新疆ウイグル自治区出土の契丹文化に関する工芸・考古遺物に関する調査研究	文化財課長　臺信祐爾	「契丹墓の壁画に見る風俗」	『草原の王朝 契丹』	九州国立博物館・西日本新聞社	9月	無
22	アジアの文化財に関する研究	文化財課資料管理室長　小林公治	「中国螺鈿史研究状況与課題ー以亜洲螺鈿史建設為目標」	『中国生漆』2011年第3期	西安生漆塗料研究所	10月25日	無
23	タイ国立博物館との共催展に関する研究	文化財課資料登録室主任研究員　原田あゆみ	「日本とタイ－ふたつの国の巧と美　企画・展示について」	『月刊文化財』	文化庁	10月号	無
24	日本とアジア諸国との文化交流に関する調査研究	企画課文化交流展室長　河野一隆	「威信財経済の論理－威信財と公権力の関係性についての理論的素描－」	季刊『考古学』第117号 特集：古墳時代を大系的にみる	(株)雄山閣	11月1日	無
25	琉球との交流の視点から京都檀王法林寺に関する調査研究	博物館科学課保存修復室長　藤田励夫	「琉球と袋中上人」	「琉球と袋中上人展」図録	九州国立博物館	11月1日	無
26	中近世土佐派の絵画と工芸制作について	企画課研究員　鷲頭桂	「絵画と工芸における意匠の交流－室町時代の土佐派を中心に－」	『鹿島美術研究』年報２８号別冊	財団法人　鹿島美術財団	11月15日	無
27	東アジアの書道史における料紙と書風に関する総合的	文化財課資料登録室主任研究員　丸山猶計	「講演　小野道風の筆跡の特色と能書像」 佛教大学国語国文学会　平成22年度大会講演録	『京都語文』第18号	佛教大学国語国文学会	11月26日	無
28	文化財の材質・構造等に関する共同研究	博物館科学課環境保全室長　今津節生	長崎市聖福寺釈迦如来坐像の像内納入品X線CTスキャナーによる調査	月刊考古学ジャーナル621号	ニューサイエンス社	11月30日	無
29	日本とアジア諸国との文化交流に関する調査研究	博物館科学課保存修復室長　藤田励夫	오미近江의 고경전古経典	『日本　仏教美術－琵琶湖周辺の仏教信仰』図録	韓国・国立中央博物館	12月19日	無
30	博物館危機管理としての市民協同型PMシステム構築に向けての基礎研究	博物館科学課長　本田光子	「IPMの体制作り」	『文化財IPMコーデイネータ資格取得講習会』	公益財団法人　文化財虫害研究所	12月15日	無
31	博物館危機管理としての市民協同型PMシステム構築に向けての基礎研究	博物館科学課長　本田光子	「文化財IPMと曝涼・曝書」	『文化財の虫菌害』62	公益財団法人　文化財虫害研究所	12月26日	無
32	徳川美術館所蔵　国宝「初音の調度」に関する研究	企画課文化交流展室 川畑憲子	「九州国立博物館文化交流展　新春特別公開　徳川美術館所蔵　国宝　初音の調度」	「文部科学時報」	文部科学省	12月号	無
33	館蔵水墨画を中心とした日・中・韓の水墨画研究に関する調査研究	企画課特別展室主任研究員　畑靖紀	雪舟の心境をめぐる前提―人生の節目と選択	『聚美』第２号	青月社	平成24年1月10日	無
34	アジアの文化財に関する研究	文化財課資料管理室長　小林公治	「唐代装飾鏡制作技術の検討ー漆と天然樹脂との使い分けの可能性を中心にー」	『「漆サミット2012」講演要旨集　テーマ：資源、歴史・文化、科学』	明治大学	平成24年1月12日	無
35	Ｘ線ＣＴスキャナによる中国古代青銅器の構造技法解析	博物館科学課環境保全室長　今津節生	X線ＣＴによる殷周青銅器の構造解析	『神秘のデザインー中国青銅技術の粋』	泉屋博古館	平成24年2月26日	無
36	朝鮮半島、三国時代の考古・美術に関する調査研究	展示課長 赤司善彦	百済文化と古代日本	国際シンポジウム「百済研究の新展開」資料集	九州国立博物館	平成24年3月10日	無
37	博物館と保存修理	博物館科学課保存修復室長　藤田励夫	「博物館と保存修理」	『博物館資料保存論』	財団法人放送大学教育振興会	平成24年3月20日	無
38	日本とアジア諸国との文化交流に関する調査研究	企画課特別展室研究員 市元塁	調査の目的と成果	『中国出土塼仏調査集報（科学研究費基盤研究（B）「飛鳥・川原寺裏山遺跡の総合的研究-出土品から見た川原寺の特質-」研究代表者：米田文孝　研究課題番号00298837）による研究分担調査の中間報告』	九州国立博物館	平成24年3月23日	無

	研究テーマ	発表者 （職名・名前）	論文テーマ	掲載誌名	発行元	掲載 年月日	レフェリー 有無
39	日本とアジア諸国との文化交流に関する調査研究	博物館科学課保存修復室長 藤田励夫	「朝鮮国信使絵巻」、「中村家和船関係史料」解題	長崎県文化財調査報告書第二〇九集『対馬宗家文庫史料絵図類等目録』	長崎県教育委員会	平成24年3月24日	無
40	魏晋南北朝時代の東アジア世界	企画課特別展室研究員 市元塁	南北朝時代から唐時代の陶磁器と社会	『東京国立博物館横河民輔コレクション-中国陶磁名品選-』	東京国立博物館	平成24年3月31日	有
41	徳川美術館所蔵　国宝「初音の調度」に関する研究	企画課文化交流展室 川畑憲子	「初音の調度のCTレントゲン撮影および科学的分析」	国宝「初音の調度」シンポジウム報告	徳川美術館	平成24年3月31日	無
42	朝鮮半島、三国時代の考古・美術に関する調査研究	企画課文化交流展室長 河野一隆	館蔵「新羅古墳資料」の冠・冠帽と飾履～その伝来と製作技術を中心として～	紀要「東風西声」	九州国立博物館	平成24年3月31日	無
43	朝鮮半島、三国時代の考古・美術に関する調査研究	展示課長 赤司善彦	大野城の築城年代再考　太宰府口城門出土木柱の年輪年代の測定から	紀要「東風西声」	九州国立博物館	平成24年3月31日	無
44	展覧会における教育普及事業の実践に関する調査研究	交流課主任研究員　池内一誠	体験用資料を活用した視覚障害児童の展示観覧支援について	紀要「東風西声」	九州国立博物館	平成24年3月31日	無
45	日本とアジア諸国との文化交流に関する調査研究	展示課主任研究員　進村真之	福岡県久山町中久原出土の埋蔵銭大甕のＸ線ＣＴ分析	紀要「東風西声」	九州国立博物館	平成24年3月31日	無
46	日本とアジア諸国との文化交流に関する調査研究	展示課研究員　遠藤啓介	明代・華南三彩陶の紹介と一考察	紀要「東風西声」	九州国立博物館	平成24年3月31日	無
47	Ｘ線ＣＴによる九州所在彫像重要作例の三次元的解析	展示課主任研究員　楠井隆志 文化財課主任研究員　鳥越俊行	長崎市・興福寺所蔵　媽祖倚像および侍女立像―九州所在木彫像基礎資料　四―	紀要「東風西声」	九州国立博物館	平成24年3月31日	無
48	日本の近代における博物館成立期の研究	企画課　高久彩	明治初期の博物館における列品分類についての基礎的考察―産業政策と美術政策の交錯―	紀要「東風西声」	九州国立博物館	平成24年3月31日	無

【東京文化財研究所】　35件

○文化財に関する基礎的・体系的な調査・研究の推進（15件）

	研究テーマ	発表者 （職名・名前）	論文テーマ	掲載誌名	発行元	掲載 年月日	レフェリー 有無
1	文化財の資料学的研究	企画情報部文化形成研究室長　塩谷　純	秋元洒汀と明治の日本画（１）	『美術研究』404	東京文化財研究所	8月	有
2	同上	企画情報部主任研究員　江村知子	江戸時代初期風俗画の表現世界	『美術研究』405	同上	24年1月	有
3	近現代美術に関する交流史的研究	企画情報部近・現代視覚芸術研究室長　山梨絵美子	美術教育者としての黒田清輝の一面－内弟子・森岡柳造という受容者を通して	『森岡柳造展』図録	鳥取県立博物館	4月	無
4	同上	企画情報部長　田中　淳	中川一政の芸術の糧となった愛蔵品―近代日本のゴッホ受容と関連して	「没後20年記念展　中川一政が愛した芸術」展（展覧会図録）	真鶴町立中川一政美術館	9月	無
5	同上	同上	創作と評価―萬鉄五郎《風船を持つ女》を中心に―	『美術研究』405	東京文化財研究所	24年1月	有
6	美術の表現・技法・材料に関する多角的研究	企画情報部広領域研究室長　綿田　稔	山水長巻考―雪舟の再評価にむけて―	『美術研究』405	同上	24年1月	有
7	同上	企画情報部文化財アーカイブズ研究室長　津田徹英	中世真宗の祖師先徳彫像の制作をめぐって	『美術研究』406	同上	24年3月	有
8	無形文化財の保存・活用に関する調査研究	無形文化遺産部無形文化財研究室長　高桑いづみ	「『梅枝』と越天楽今様」	『銕仙』608号	能楽書林	12月	無
9	同上	同上	「狂言小舞謡の伝承を考える―野村万蔵家と狂言共同社のフシの比較を中心に―」	『金沢大学日中無形文化遺産プロジェクト報告書』第17集	金沢大学	24年1月	無
10	同上	音声映像記録研究室長、飯島満	「フランス・パテー盤に関する調査報告」	『無形文化遺産研究報告』6	東京文化財研究所	24年3月	無
11	無形民俗文化財の保存・活用に関する調査研究	無形文化遺産部研究員　今石みぎわ	「鵜と鵜飼の民俗」	『人と動物の近代―絵はがきのなかの動物たち』	東北芸術工科大学東北文化研究センター	9月	無
12	同上	同上	「莚と莚織の技術」	『無形文化遺産研究報告』6	東京文化財研究所	24年3月	無
13	無形文化遺産分野の国際研究交流	無形文化遺産部長、宮田繁幸	「岐路に立つ無形文化遺産保護条約」	同上	同上	9月	無
14	同上	音声映像記録研究室長、飯島満	「日韓におけるアナログ音声資料の保存と活用　－SPレコードを中心に」	『日韓無形文化遺産研究』	韓国国立文化財研究所・東京文化財研究所	11月	無
15	同上	無形文化財研究室長、高桑いづみ	「日韓における楽器製作者の現状　－重要無形文化財と選定保存技術のはざまで－」	同上	同上	同上	無

○文化財の研究に関する調査手法の研究・開発の推進（2件）

	研究テーマ	発表者 （職名・名前）	論文テーマ	掲載誌名	発行元	掲載 年月日	レフェリー 有無
1	文化財デジタル画像形成に関する調査研究	企画情報部繊毛職員　城野誠治	有関〈萬壑松風図〉光学探測方法的画像資訊化	李唐萬壑松風図光学検測報告	台湾故宮博物院	12月	無
2	同上	同上	科学写真撮影法の概要と結果	平等院鳳凰堂 仏後壁 光学調査報告書	東京文化財研究所	24年3月	無

○科学技術の活用等による文化財の保存科学や修復技術に関する中核的な支援拠点として、先端的調査研究等の推進（18件）

	研究テーマ	発表者 （職名・名前）	論文テーマ	掲載誌名	発行元	掲載 年月日	レフェリー 有無
1	文化財のカビ被害予防と対策のシステム化についての研究	保存修復科学センター研究員　佐藤嘉則、保存修復科学センター研究員　森井順之、保存修復科学センター生物科学研究室長　木川りか、保存修復科学センター近代文化遺産研究室長　中山俊介、保存修復科学センター客員研究員　間渕創、文化遺産国際協力センター長　川野邊　渉　他	霧島神宮の塗装部位から分離された糸状菌の諸性質	保存科学　51	東京文化財研究所	24年3月	有
2	同上	保存修復科学センター研究員　佐藤嘉則、保存修復科学センター保存科学研究室長　佐野千絵、保存修復科学センター生物科学研究室長　木川りか　他	津波等で被災した文書等の救済法としてのスクウェルチ・ドライイング法の検討	同上	同上	同上	有
3	文化財の保存環境の研究	保存修復科学センター保存科学研究室長　佐野千絵、保存修復科学センター客員研究員　呂　俊民　他	展示収蔵環境で用いられる内装材料の放散ガス試験法	同上	同上	同上	有

	研究テーマ	発表者 （職名・名前）	論文テーマ	掲載誌名	発行元	掲載 年月日	レフェリー 有無
4	同上	保存修復科学センター保存科学研究室長　佐野千絵、保存修復科学センター客員研究員　呂　俊民、企画情報部文化財アーカイブズ研究室長　津田徹英、企画情報部特別研究員（アソシエイトフェロー）　井上さやか　他	フィルム保管庫における酢酸雰囲気の改善の試み	同上	同上	同上	有
5	文化財の材質及び劣化調査法に関する研究	保存修復科学センター分析科学研究室長　早川泰弘	泰西王侯騎馬図屏風の彩色材料調査	同上	同上	同上	有
6	同上	保存修復科学センター分析科学研究室長　早川泰弘、保存修復科学センター主任研究員　吉田直人　他	重要文化財元禄および天保国絵図に使われた彩色材料と色彩表現に関する考察	同上	同上	同上	有
7	周辺環境が文化財に及ぼす影響評価とその対策に関する研究	保存修復科学センター研究員　森井順之	屋外石造文化財の環境計測および環境制御	マテリアルライフ学会誌　23-2	マテリアルライフ学会	5月1日	無
8	同上	保存修復科学センター主任研究員　早川典子、保存修復科学センター研究員　森井順之、保存修復科学センター客員研究員　舘川　修　他	厳島神社大鳥居修理のための充填材料評価試験	保存科学　51	東京文化財研究所	24年3月	有
9	同上	保存修復科学センター修復材料研究室長　朽津信明	近世の島根県における石材の利用	日韓共同研究報告書2011	東京文化財研究所	24年3月31日	無
10	同上	保存修復科学センター研究員　森井順之	日韓共同研究～この五カ年の方向性	同上	同上	同上	無
11	文化財の防災計画に関する調査研究	保存修復科学センター研究員　森井順之	″3.3 Salvage Project of Cultural Properti es Damaged by the Earthquake and Tsunami″	The Great East Japan Earthquake -Report on the Damage to the Cultural Heritage-	Japan ICOMOS National Committee	11月1日	無
12	伝統的修復材料及び合成樹脂に関する調査研究	保存修復科学センター伝統技術研究室長　北野信彦	建築文化財にける伝統的な塗装材料の使用と歴史　-問題の所在と通史-	建築文化財における塗装材料の調査と修理	東京文化財研究所	24年1月17日	無
13	同上	同上	A Mechanism for Ultraviolet Light Irradeiation -induced Whitening of Poly(vinyl alcohol) Film	マテリアルライフ学会誌　24-1	マテリアルライフ学会	24年2月	無
14	同上	同上	都久夫須麻神社本殿の木彫彩色材料に関する調査報告	伝統的修復材料及び合成樹脂に関する調査研究報告書　2011年度	東京文化財研究所	２4年3月30日	無
15	同上	保存修復科学センター主任研究員　早川典子、客員研究員　中條利一郎、文化遺産国際協力センター長　川野邊　渉　他	A Mechanism for Ultraviolet Light Irradeiation -induced Whitening of Poly(vinyl alcohol) Film	マテリアルライフ学会誌　24-1	マテリアルライフ学会	24年2月	無
16	近代の文化遺産に関する調査研究	保存修復科学センター近代文化遺産研究室長　中山俊介、客員研究員　大河原典子、客員研究員　安倍倫子　他	フィルモン音帯の修復手法の開発	保存科学　51	東京文化財研究所	24年3月	有
17	同上	保存修復科学センター近代文化遺産研究室長　中山俊介	音声・映像記録メディアの保存と修復	未来につなぐ人類の技１１「音声・映像記録メディアの保存と修復」	同上	24年3月	無
18	同上	同上	Conservation and Restoration of Concrete Structures	Conservation and Restoration of Concrete Structures	同上	24年3月	無

○保存・修復事業を実施するために必要な研究基盤の整備（0件）

○諸外国における文化財の保存・修復に関する技術移転の推進（0件）

【奈良文化財研究所】 100件

○文化財に関する基礎的・体系的な調査・研究の推進（51件）

	研No.	研究テーマ	発表者（職名・名前）	論文テーマ	掲載誌名	発行元	掲載年月日	レフェリー有無
1	5	近畿を中心とする古寺社等所蔵の歴史資料等に関する調査研究	歴史研究室長 吉川 聡、前歴史研究室任期付研究員 谷本 啓、埋蔵文化財センター特別研究員 児島大輔	明日香村八釣の明神講関係資料調査	奈良文化財研究所紀要2011	奈良文化財研究所	6年15日	無
2	6	我が国の建造物及び伝統的建造物群に関する調査・研究	文化遺産部建造物研究室長 林良彦	本門寺五重塔の解体修理にともなう構造上の諸問題	第3次中日韓建築遺産保存国際学術会議論文集	中国文化遺産研究院	10年12日	無
3	同上	同上	都城発掘調査部遺構研究室研究員　鈴木智大	日本の木造塔の構造と変遷	同上	同上	同上	無
4	同上	同上	都城発掘調査部遺構研究室長　箱崎和久	古代東アジアの八角木塔とその構造推定	同上	同上	同上	無
5	同上	同上	文化遺産部前建造物研究室長　島田敏男	高知県竹林寺客殿の調査	奈良文化財研究所紀要2011	奈良文化財研究所	6月	無
6	同上	同上	都城発掘調査部遺構研究室長　箱崎和久	ベトナム南部民家の特質－ドンナイ省フーホイ村の調査から－	同上	同上	同上	無
7	同上	同上	都城発掘調査部遺構研究室研究員大林潤、埋蔵文化財センター保存修復科学研究室長　高妻洋成、研究員 脇谷草一郎、研究員　田村朋美	法隆寺所蔵古材調査２－金堂支輪板の顔料分析調査－	同上	同上	同上	無
8	同上	同上	都城発掘調査部遺構研究室研究員　黒坂貴裕	若狭町熊川宿倉見屋荻野家住宅の調査	同上	同上	同上	無
9	同上	同上	都城発掘調査部遺構研究室研究員　鈴木智大	古代建築の研究と復元の最前線－日中韓建築文化遺産保存国際学術会議から－	同上	同上	同上	無
10	10	我が国の記念物に関する調査・研究	文化遺産部長、小野健吉	文化財庭園（庭園遺構）の発掘と整備における留意事項	『日本庭園学会誌』第25号	日本庭園学会	10月	無
11	同上	同上	遺跡整備研究室長、平澤毅	遺跡の総合的マネジメント	奈良文化財研究所紀要2011	奈良文化財研究所	6月	無
12	同上	同上	同上	文化的景観と世界遺産　－「紀伊山地の霊場と参詣道」「石見銀山」「平泉」などの事例から－	『国際シンポジウム　大山・隠岐・三徳山－山岳信仰と文化的景観－　報告書』	鳥取環境大学建築・デザイン学科／鳥取県教育委員会文化財課歴史遺産室	9月	無
13	同上	同上	同上	日本における名勝の保護　－保存と活用、その方策と動向－	『韓・中・日 명승 보존과 활용방안 』	（大韓民国）国立文化財研究所自然文化財研究室	10月	無
14	同上	同上	同上	火山噴火罹災地の歴史的庭園復元・自然環境変遷とランドスケープの保全活用	『遺跡学研究』第8号	日本遺跡学会	11月	無
15	同上	同上	同上	地域と遺跡・遺産　－「総合的マネジメント」について－	『地域における遺跡の総合的マネジメント　－平成22年度遺跡整備・活用研究集会（第５回）報告書－』	奈良文化財研究所	同上	無
16	同上	同上	同上	平城宮跡の整備	『2011新羅學國際學術大會論文集　東亞細亞속의新羅都城復元問題』	（大韓民国）新羅文化遺産研究院	12月	無
17	11	同上	文化遺産部長、小野健吉	日本庭園の歴史をたどる	『一個人』2011年8月号	KKベストセラーズ	6月	無
18	同上	同上	同上	『春日権現験記絵』に描かれた藤原俊盛邸の庭園	『都市歴史博覧』	笠間書院	12月	有
19	同上	同上	同上	日本庭園のはじまり	『古代はいま』	クバプロ	同上	無
20	同上	同上	文化遺産部主任研究員、青木達司	桂離宮庭園「桂垣」の基礎的調査	奈良文化財研究所紀要2011	奈良文化財研究所	6月	無
21	同上	同上	文化遺産部主任研究員、青木達司 遺跡整備研究室長、平澤毅	文化財としての鎌倉時代庭園	『平成23年度　庭園の歴史に関する研究会　鎌倉時代の庭園－京と東国－　資料集』	同上	10月	無
22	同上	同上	都城発掘調査部遺構研究室研究員、高橋知奈津	萬翠荘の立地と庭園	奈良文化財研究所紀要2011	同上	6月	無
23	同上	同上	同上	日本古代庭園の研究現況と課題	『「동아시아 古代庭園 및 寺址의 연구 현황과 과제』（「東アジア古代庭園と寺跡の研究現況と課題」）	（大韓民国）扶餘國立文化財研究所	9月	無
24	同上	同上	同上	鎌倉初期の風景表現と作庭	『平成23年度　庭園の歴史に関する研究会　鎌倉時代の庭園－京と東国－　資料集』	奈良文化財研究所	10月	無
25	12	平城宮東院地区（第481次）の発掘調査	都城発掘調査部（平城）研究員、鈴木智大	平城宮東院地区の調査－第481次－	奈良文化財研究所紀要 2012	同上	24年6月	無
26	同上	同上	同上	平城宮東院地区の調査－第481次－	奈文研ニュースNo.42	同上	9月	無
27	19	アジアにおける古代都城遺跡、生産遺跡、墓制及び陶磁器に関する中国、韓国との共同研究及びカザフスタンへの研究協力	文化庁文化財部、国武貞克・企画調整部文化財情報研究室長、森本晋・展示企画室長、加藤真二・カザフ国立大学、カイマガンベトフ	カザフスタン南部の多層遺跡	旧石器研究第７号	日本旧石器学会	5月	有
28	同上	同上	都城発掘調査部（藤原）研究員、庄田慎矢	日韓発掘調査交流に参加して	奈文研ニュースNo.44	奈良文化財研究所	24年3月	無
29	同上	同上	都城発掘調査部 考古第二研究室長、玉田芳英	河北省邢州窯出土唐三彩の調査	奈良文化財研究所紀要 2012	同上	24年6月	無
30	同上	同上	同上	中国河南省文物考古局との共同研究	同上	同上	同上	無
31	同上	同上	飛鳥資料館学芸室長・　加藤真二	中国細石刃文化の基礎的研究から	第14回北アジア調査研究報告会要旨集	北アジア調査研究報告会実行員会・東京大学	24年2月	無
32	14	藤原宮跡朝堂院地区(第169次)の発掘調査	考古第一研究室研究員　廣瀬　覚	藤原宮朝堂院朝庭の調査　　（飛鳥藤原169次）	奈文研ニュースNo.43	奈良文化財研究所	12月1日	無
33	同上	同上	遺構研究室研究員 高橋知奈津・考古第一研究室研究員 廣瀬　覚	朝堂院の調査－第169次	奈良文化財研究所紀要2012	同上	24年6月	無

	研No.	研究テーマ	発表者（職名・名前）	論文テーマ	掲載誌名	発行元	掲載年月日	レフェリー有無
34	15	甘樫丘東麓遺跡(第171次)の発掘調査	考古第三研究室長 清野孝之・考古第二研究室研究員 小田裕樹	甘樫丘東麓遺跡の調査　　－第１７１次調査	同上	同上	同上	無
35	同上	同上	考古第二研究室研究員　小田裕樹	甘樫丘東麓遺跡の調査　　（飛鳥藤原171次）	奈文研ニュースNo.44	同上	24年3月	無
36	17	飛鳥・藤原京跡出土遺物・遺構に関する調査研究等	考古第三研究室研究員　石田由紀子	第20次調査SD1901A(運河)出土瓦報告	奈良文化財研究所紀要2012	同上	24年6月	無
37	同上	同上	考古第二研究室特別研究員(AF) 高橋　　透	第23次調査SD2300出土土器報告(1)	同上	同上	同上	無
38	同上	同上	史料研究室主任研究員　山本崇・埋蔵文化財センター客員研究員　藤井裕之	藤原宮木簡の樹種	同上	同上	同上	無
39	同上	同上	考古第二研究室研究員　若杉智宏・遺構研究室研究員 番　光・環境考古学研究室 山崎　健・奈良教育大学教授 金原正明・古環境研究所　杉山真二	藤原宮朝堂院朝庭(第163次)、藤原京右京六条二・三坊(第167次)の自然科学分析	同上	同上	同上	無
40	同上	同上	考古第一研究室研究員 庄田慎矢	水落遺跡の珪藻分析報告－第165次(東区)	同上	同上	同上	無
41	同上	同上	考古第一研究室特別研究員 木村理恵	飛鳥藤原地域出土の木製食器	同上	同上	同上	無
42	20	文化的景観及びその保存・活用に関する調査研究	景観研究室長　清水重敦	都市を文化的景観として見ること-佐渡相川、京都岡崎の調査から-	奈良文化財研究所紀要2011	同上	6月15日	無
43	同上	同上	研究員　惠谷浩子	文化的景観の持続可能性－生きた関係を継承するための整備と活用－	同上	同上	同上	無
44	同上	同上	特別研究員（アソシエイトフェロー）　松本将一郎	宇治の文化的景観における白川の茶業と家屋	同上	同上	同上	無
45	同上	同上	研究員　惠谷浩子	アメリカ合衆国における保全史の聖地	『遺跡学研究』第８号	日本遺跡学会	11月20日	無
46	同上	同上	特別研究員（アソシエイトフェロー）　松本将一郎	1960年代の景観論　再考	同上	同上	同上	無
47	同上	同上	景観研究室長　清水重敦	文化的景観における都市建築	『文化的景観研究集会（第３回）報告書』	奈良文化財研究所	12月16日	無
48	同上	同上	研究員　惠谷浩子	文化的景観とは	飛鳥資料館カタログ第26冊『飛鳥の考古学2011』	飛鳥資料館	24年1月20日	無
49	同上	同上	同上	奥飛鳥の文化的景観	同上	同上	同上	無
50	23	遺構の安定化方法を検討するための基礎データを収集	研究員　脇谷草一郎	史跡ガランドヤ古墳における水の挙動に関する調査研究２	奈良文化財研究所紀要2011	奈良文化財研究所	6月15日	無
51	同上	同上	同上	千足古墳における水分移動解析	日本文化財科学会第28回大会発表予稿集	日本文化財科学会	6月11日	無

○文化財の研究に関する調査手法の研究・開発の推進（31件）

	研No.	研究テーマ	発表者（職名・名前）	論文テーマ	掲載誌名	発行元	掲載年月日	レフェリー有無
1	25	文化財の測量･探査等に関する研究	主任研究員　金田明大	胡桃館遺跡の遺跡探査	『胡桃館遺跡詳細分布調査報告書』	北秋田市教育委員会	4月	無
2	同上	同上	同上	第34次調査の地中レーダー探査（１）	『大内氏館跡12』	山口市教育委員会	4月	無
3	同上	同上	同上	古代日本の官衙・寺院遺跡探査の実践-奈良文化財研究所による近年のGPR探査-	『信学技報』Vol.111	電気情報通信学会	11月24日	有
4	同上	同上	同上	Organizing diverse and dispersed information on the endangered cultural properties by a voluntary initiative: consortium for the earthquake-damaged cultural heritage (CEDACH)	ISPRS SC Newsletter5 (1) 4-4	ISPRS	5月	有
5	同上	同上	同上	日本古代史における移動コスト分析のシミュレーション結果とGPSを活用した実地データの比較検討 －藤原仲麻呂の乱における東山道と田原道の比較実験から	地理情報システム学会大会発表資料集	地理情報システム学会	10月16日	有
6	26	年輪年代学研究	歴史研究室長　吉川 聡、前歴史研究室任期付研究員 谷本 啓、特別研究員　児島大輔	明日香村八釣の明神講関係資料調査	奈良文化財研究所紀要2011	奈良文化財研究所	6月15日	無
7	同上	同上	客員研究員　伊東隆夫	カラー版 日本有用樹木誌	カラー版 日本有用樹木誌（共著）	海青社	7月10日	無
8	同上	同上	年代学研究室長　大河内隆之	年輪年代学的視点からみた與喜天満神社の神像群	特集陳列「初瀬にますは与喜の神垣」展図録	奈良国立博物館	7月16日	無
9	同上	同上	客員研究員　伊東隆夫	シルクロードと木材	環境と健康Vol.24No.3 Autumn2011	（公財）体質研究会・（公財）ひと・健康・未来研究財団	9月1日	無
10	同上	同上	特別研究員　児島大輔	北円堂の諸像	大橋一章・片岡直樹編『興福寺―美術史研究のあゆみ―』	里文出版	11月9日	無
11	同上	同上	客員研究員　　光谷拓実	年輪年代法と木質古文化財への応用	環境と健康Vol.24No.4 Winter2011	（公財）体質研究会・（公財）ひと・健康・未来研究財団	12月1日	無
12	同上	同上	客員研究員　藤井裕之	樹種同定	藤原宮木簡三	奈良文化財研究所	24年1月30日	無
13	同上	同上	客員研究員　光谷拓実、特別研究員　児島大輔	東大寺法華堂（正堂）ならびに八角二重壇の年輪年代調査	仏教芸術321	毎日新聞社	24年3月25日	有
14	同上	同上	年代学研究室長　大河内隆之、特別研究員　児島大輔	マイクロフォーカスX線CTを用いた木造神像彫刻の非破壊年輪年代調査（１）	埋蔵文化財ニュース147	奈良文化財研究所	24年3月25日	無
15	27	動植物遺存体による環境考古学的研究	埋蔵文化財埋蔵文化財センター長　松井章	The Use of Livestock Carcasses in Japanese History: An Archaeological Perspective	Coexistence and Cultural Transmission in East Asia	LEFT2 COAST PRESS, INC.California	4月	無

	研No.	研究テーマ	発表者（職名・名前）	論文テーマ	掲載誌名	発行元	掲載年月日	レフェリー有無
16	同上	同上	研究員　山崎健、橋本裕子、客員研究員　茂原信生	京都大学大学院理学研究科自然人類学研究室所蔵の動物標本―とくに動物遺存体と動物化石について―	動物考古学28号	動物考古学研究会	5月1日	有
17	同上	同上	張穎、袁靖、黄蘊平、埋蔵文化財センター長　松井章、孫国平	田螺山遺跡2004年出土哺乳動物遺存体の初歩的分析	田螺山遺跡自然遺存総合研究　北京大学中国考古学研究中心、浙江省文物考古研究所編	文物出版社	5月	無
18	同上	同上	南川雅男、埋蔵文化財センター長　松井章、中村慎一、孫国平	人骨および動物骨のコラーゲン炭素窒素同位体組成より推測される食資源と家畜利用	同上	同上	同上	無
19	同上	同上	宮腰健司、研究員　山崎健、年代学研究室長　大河内隆之、原田幹	朝日遺跡から出土した石鏃の刺さったシカ腰椎について	研究紀要12	愛知県埋蔵文化財センター	5月31日	無
20	同上	同上	研究員　山崎健	藤原宮造営期の馬の骨に認められる骨病変	奈良文化財研究所紀要2011	奈良文化財研究所	6月15日	無
21	同上	同上	同上	動物遺存体（朝堂院朝庭の調査―第163次）	同上	同上	同上	無
22	同上	同上	研究員　廣瀬覚、研究員　山崎健	その他（右京六条二・三坊の調査―第167次）	同上	同上	同上	無
23	同上	同上	同上	その他（水落遺跡の調査―第165次）	同上	同上	同上	無
24	同上	同上	研究員　山崎健	動物遺存体・植物遺存体（甘樫東麓遺跡の調査―第161次）	同上	同上	同上	無
25	同上	同上	研究員　山崎健、客員研究員　中村亜希子	法華寺旧境内の調査―第468次	同上	同上	同上	無
26	同上	同上	Habu, J., A. Matsui（埋蔵文化財センター長　松井章）, N. Yamamoto, T. Kannno	Shell midden archaeology in Japan : Aquatic food acquisition and long-term change in the Jomon culture	Quaternary International 239	ELSEVIER	7月	有
27	同上	同上	埋蔵文化財センター長　松井章	HERITAGE RESCUE IN THE WAKE OF THE GREAT EASTERN JAPAN EARTHQUAKE	The SAA Archaeological Record 11(4)	SOCIETY FOR AMERICAN ARCHAEOLOGY	9月1日	有
28	同上	同上	研究員　山崎健	池島・福万寺遺跡の炉跡から出土した魚類遺存体	池島・福万寺遺跡13	大阪府文化財センター	11月30日	無
29	同上	同上	同上	弥生時代の狩猟活動	考古学ジャーナル625	ニューサイエンス社	24年2月29日	無
30	同上	同上	同上	六反田南遺跡から出土した動物遺存体	六反田南遺跡	新潟県埋蔵文化財調査事業団	24年3月31日	無
31	同上	同上	研究員　山崎健、埋蔵文化財センター長　松井章	環境考古学10　魚類遺存体標本リスト	埋蔵文化財ニュース146	奈良文化財研究所	24年2月15日	無

○科学技術の活用等による文化財の保存科学や修復技術に関する中核的な支援拠点として、先端的調査研究等の推進（5件）

	研No.	研究テーマ	発表者（職名・名前）	論文テーマ	掲載誌名	発行元	掲載年月日	レフェリー有無
1	22	出土遺物の材質構造調査、鉄製品及び木製品の埋蔵環境調査	研究員　田村朋美	鉄製遺物の腐食と埋蔵環境（1）	奈良文化財研究所紀要2011	奈良文化財研究所	6月15日	無
2	同上	同上	保存修復研究室長　高妻洋成	平城宮跡の木簡出土深度の土壌調査	同上	同上	同上	無
3	同上	同上	同上	法隆寺所蔵古材調査２－金堂支輪板の顔料分析調査－	同上	同上	同上	無
4	同上	同上	都城発掘調査部主任研究員　降幡順子	特別史跡キトラ古墳出土遺物の保存処理と調査	同上	同上	同上	無
5	同上	同上	研究員　田村朋美	ガラスから見た古代の交易ルート－武寧王陵出土品と日本出土品の比較を中心に－	百済文化 第46輯	公州大学校附設百済文化研究所	24年2月29日	有

○国・地方公共団体の要請に応じた保存措置等のために必要な実践的な調査・研究の実施（7件）

	研No.	研究テーマ	発表者（職名・名前）	論文テーマ	掲載誌名	発行元	掲載年月日	レフェリー有無
1	39	文化庁が行う高松塚古墳・キトラ古墳の壁画の調査及び保存・活用に関する技術的協力	考古第一研究室主任研究員　降幡順子・飛鳥資料館特別研究員　辻本与志一、保存修復科学研究室研究員　脇谷草一郎・保存修復科学研究室室長　高妻洋成(以上、奈良文化財研究所)・早川泰弘、吉田直人、佐野千絵（以上、東京文化財研究所）、宇田川滋正、建石徹（以上、文化庁）	高松塚古墳壁画の材料調査－蛍光Ｘ線分析法による下地漆喰に関する調査（3）－	日本文化財化学会第28回大会研究発表要旨集	日本文化財科学会	6月11日	無
2	同上	同上	保存修復科学研究室室長　高妻洋成、考古第一研究室主任研究員　降幡順子・保存修復科学研究室　研究員　脇谷草一郎(以上、奈良文化財研究所)・佐野千絵（東京文化財研究所）・福永香（情報通信研究機構）・宇田川滋正・建石徹（以上、文化庁）	テラヘルツ分光イメージングによる高松塚古墳壁画の漆喰の状態調査	文化財保存修復学会第33回大会研究発表要旨集	一般社団法人文化財保存修復学会	6月4日	無
3	同上	同上	考古第二研究室研究員　若杉智宏	キトラ古墳石室内の調査（飛鳥藤原170次）	奈文研ニュース No.42	奈良文化財研究所	9月	無
4	同上	同上	同上	キトラ古墳の調査－飛鳥藤原第170次	奈良文化財研究所紀要2012	同上	24年6月	無
5	40	国土交通省が行う国営飛鳥歴史公園キトラ古墳周辺地区公園予定地の調査及び保存活用に関する技術的協力	遺構研究室主任研究員　黒坂貴裕・考古第一研究室研究員　小田裕樹・考古第三研究室主任研究員　渡辺丈彦	檜隈寺周辺の調査　－第172次	同上	同上	同上	無
6	同上	同上	遺構研究室主任研究員　黒坂貴裕	檜隈寺の調査（飛鳥藤原172次）	奈文研ニュースNo.44	同上	24年3月	無

	研No.	研究テーマ	発表者（職名・名前）	論文テーマ	掲載誌名	発行元	掲載年月日	レフェリー有無
7	41	農林水産省が行う大和紀伊平野土地改良事業大和平野県営飛鳥工区２号幹線の調査及び保存活用に関する技術的協力	同上	2010年度 都城発掘調査部（飛鳥藤原地区）発掘調査・立会調査一覧	奈良文化財研究所紀要2012	同上	24年6月	無

○地方公共団体への協力等による文化財保護の質的向上（6件）

	研No.	研究テーマ	発表者（職名・名前）	論文テーマ	掲載誌名	発行元	掲載年月日	レフェリー有無
1	80	地方公共団体が行う平城京域発掘調査への援助・助言	都城発掘調査部（平城）主任研究員、森川　実	平城京右京三条一坊一坪の調査－第484次－	奈良文化財研究所紀要 2012	奈良文化財研究所	24年6月	無
2	81	地方公共団体が行う飛鳥・藤原地区の発掘調査への援助・助言	遺構調査室主任研究員　黒坂貴弘	2010年度 都城発掘調査部（飛鳥藤原地区）小規模調査等の概要	同上	同上	同上	無
3	同上	同上	考古第二研究室研究員　若杉智宏	東方官衙北地区の調査第168-1次調査	同上	同上	同上	無
4	同上	同上	考古第三研究室研究員　森先一貴・考古第二研究室長玉田芳英・考古第一研究室研究員 廣瀬覚	東面中門・大垣の調査第168-2次調査	同上	同上	同上	無
5	同上	同上	考古第三研究室研究員　森先一貴・考古第一研究室特別研究員 木村理恵	東方官衙北地区の調査第168-5・6次調査	同上	同上	同上	無
6	同上	同上	考古第一研究室特別研究員木村理恵・考古第一研究室研究員 庄田慎矢	左京二条二坊・東二坊大路の調査第168-8次調査	同上	同上	同上	無

【東京文化財研究所と奈良文化財研究所との共同研究】0件

【アジア太平洋無形文化遺産研究センター】　0件

c-⑥ 調査研究刊行物一覧

【東京国立博物館】

○調査研究刊行物

刊　行　物　名	発行部数	配　　布　　先
「ＭＵＳＥＵＭ」６３１～６３６号	各1,900	美術館・博物館・大学・研究所等 2,787件 (631～633号 各462件、634～636号 各467件)
「東京国立博物館紀要」４７号	700	美術館・博物館・大学等　342件
「東京国立博物館文化財修理報告」ＸⅡ	800	美術館・博物館・大学等　91件
「法隆寺献納宝物特別調査概報」ＸＸＸⅡ　聖徳太子絵伝５	600	美術館・博物館・大学等　181件

○展覧会図録

刊　行　物　名		発行部数	配　　布　　先
特別展	「手塚治虫のブッダ展」	—	美術館・博物館・大学等　112件
	「写楽」	—	美術館・博物館・大学等　112件
	「空海と密教美術」	—	美術館・博物館・大学等　112件
	「法然と親鸞ゆかりの名宝」	—	美術館・博物館・大学等　112件
	「孫文と梅屋庄吉 100年前の中国と日本」	—	美術館・博物館・大学等　112件
	「北京故宮博物院200選」	—	美術館・博物館・大学等　112件
	「ボストン美術館 日本美術の至宝」	—	美術館・博物館・大学等　112件
特集陳列	「天翔ける龍」	2000	美術館・博物館・大学等　16件

【京都国立博物館】

○調査研究刊行物

刊　行　物　名	発行部数	配　　布　　先
研究紀要「学叢」第33号	780	美術館・博物館・大学等
文化財保存修理所　修理報告書8	450	大学・図書館・研究機関等

○展覧会図録

刊　行　物　名	発行部数	配　　布　　先
特別展覧会「法然－生涯と美術」	—	美術館・博物館・大学等
特別展観「百獣の楽園－美術にすむ動物たち－」	—	美術館・博物館・大学等
特別展覧会「細川家の至宝－珠玉の衛星文庫コレクション－」	—	美術館・博物館・大学等
特別展覧会「中国近代絵画と日本」	—	美術館・博物館・大学等

【奈良国立博物館】

○調査研究刊行物

23年度は実績なし。

○名品図録

刊　行　物　名	発行部数	配　　布　　先
なら仏像館名品図録（改訂版）	5,000部	美術館・博物館・大学・研究機関等

○展覧会図録

刊　行　物　名	発行部数	配　　布　　先
特別展　天竺へ～三蔵法師3万キロの旅	-	美術館・博物館・大学・研究機関等
特別陳列　初瀬にますは与喜の神垣	-	美術館・博物館・大学・研究機関等
第６３回正倉院展	-	美術館・博物館・大学・研究機関等
The 63rd Annual Exhibiton of Shoso-in Treasures	-	美術館・博物館・大学・研究機関等
特別陳列　おん祭と春日信仰の美術	-	美術館・博物館・大学・研究機関等

【九州国立博物館】

○調査研究刊行物

刊　行　物　名	発行部数	配　　布　　先
九州国立博物館紀要「東風西声」　第7号	1,000部	美術館・博物館・大学・研究機関等
博物館科学の設備パンフレット	2,000部	美術館・博物館・大学・研究機関等
「市民と共に　ミュージアムIPM」事業報告書［増刷］	2,000部	美術館・博物館・大学・研究機関等
「市民と共に　ミュージアムIPM」事業報告書（研修編）	300部	美術館・博物館・大学・研究機関等
「市民と共に　ミュージアムIPM」事業報告書（報告会・シンポジウム編）	300部	美術館・博物館・大学・研究機関等
「市民と共に　ミュージアムIPM」事業報告書（総集編）	1,000部	美術館・博物館・大学・研究機関等
本岳寺釈迦誕生図録	1,000部	美術館・博物館・大学・研究機関等
金子量重寄贈・論考　アジアの民族造形	450部	美術館・博物館・大学・研究機関等
「Ｘ線ＣＴスキャナによる中国古代青銅器の構造技法解析」	500部	美術館・博物館・大学・研究機関等

○展覧会図録

		発行部数	配　　布　　先
特別展	「黄檗」	—	美術館・博物館・大学・研究機関等
	「よみがえる国宝」	5,700部	美術館・博物館・大学・研究機関等
	「草原の王朝　契丹－美しき3人のプリンセス」	—	美術館・博物館・大学・研究機関等
	「細川家の至宝」	—	美術館・博物館・大学・研究機関等
海外展	「日本　仏教美術－琵琶湖周辺の仏教信仰」	—	美術館・博物館・大学・研究機関等
トピック展示	「日本とタイ－ふたつの国の巧と美」	2,500部	美術館・博物館・大学・研究機関等
	「彫漆　漆に刻む文様の美」	1,200部	美術館・博物館・大学・研究機関等
	「館蔵水墨画名品展」	1,400部	美術館・博物館・大学・研究機関等
	「琉球と袋中上人」	2000部	美術館・博物館・大学・研究機関等
	「九州最古の狩人とその時代」	2000部	美術館・博物館・大学・研究機関等

【東京文化財研究所】

○調査研究刊行物

刊　行　物　名	発行部数	配　　布　　先
東京文化財研究所年報	1,000	博物館・美術館・大学・研究機関等
東京文化財研究所概要	5,000	博物館・美術館・大学・研究機関等
東文研ニュース 第45～48号	各5,000	博物館・美術館・大学・研究機関等
東文研ニュースダイジェスト（東文研ニュース英語版）第10～11号	各3,500	博物館・美術館・大学・研究機関等
平成22年版　日本美術年鑑	600	博物館・美術館・大学・研究機関等
美術研究 404～406号	各400	博物館・美術館・大学・研究機関等
無形文化遺産研究　第6号	600	博物館・美術館・大学・研究機関等
第6回無形民俗文化財研究協議会報告書	700	博物館・美術館・大学・研究機関等
保存科学 51号	650	博物館・美術館・大学・研究機関等
第34回文化財の保存及び修復に関する国際研究集会報告書（日本語版・英語版）	各300	参加者、大学、研究機関、博物館・美術館等
平等院鳳凰堂仏後壁調査報告書	400	博物館・美術館・大学・研究機関・図書館等
「文化財の保存環境」報告書	500	博物館・美術館・大学・研究機関・図書館等
映像・音声メディアの保存と修復	1,000	博物館・美術館・大学・研究機関・図書館等
伝統的修復材料及び合成樹脂に関する調査研究報告書2011年度	300	研究集会参加者、関係各所
日韓共同研究報告書2011	100	研究集会参加者、関係各所
建築文化財における塗装材料の調査と修理	500	研究集会参加者、関係各所
「コンクリート構造物の保存と修復」（英語版）	1,000	研究集会参加者、関係各所
アジア文化遺産国際会議報告書　西アジアの文化遺産－その保護の現状と課題－（英語・日本語）	各200	会議出席者・関係機関等
平成22年度協力相手国調査　ミクロネシア連邦ナン・マドール遺跡報告書（英語）	570	関係機関等
平成22年度協力相手国調査　ミクロネシア連邦ナン・マドール遺跡報告書（日本語）	1,200	関係機関等
2011年度敦煌壁画の保護に関する日中共同研究報告書	100	関係機関等
アジナ・テパ仏教寺院考古学調査報告（英語版）	500	関係機関等
タジキスタン国立古代博物館所蔵壁画断片の保存修復　2010（第8次～第10次ミッション）	450	関係機関等
アジャンター壁画の保存修復に関する調査研究事業　第2窟、9窟壁画のデジタルドキュメンテーション	400	関係機関等
Preliminary Report on the Safeguarding of the Bamiyan Site 2009-201　-9th&10th Mission-	500	関係機関等
バーミヤン遺跡資料集１　バーミヤーン谷中心部の文化的景観：1970年代	300	関係機関等
タジキスタン共和国科学アカデミー歴史・考古・民族研究所アーカイブ　カフカハ遺跡群の図面と出土品（土器と木彫）	300	関係機関等
「海外の日本美術品の修復」リーフレット	5,000	美術館・関係機関等
ミクロネシア　ナン・マドール遺跡紹介パンフレット（日本語版）	500	関係機関等
ミクロネシア　ナン・マドール遺跡紹介パンフレット（英語）	1,000	関係機関等
文化遺産国際協力コンソーシアムシンポジウム「文化遺産を危機から救え」予稿集	350	関係機関等
平成22年度協力相手国調査　アルメニア共和国調査報告書（日本語）	1,200	関係機関等
平成22年度協力相手国調査　アルメニア共和国調査報告書（英語）	95	関係機関等
平成22年度協力相手国調査　ミクロネシア連邦　ナン・マドール遺跡現状調査報告書（日本語）	1,200	関係機関等
平成22年度協力相手国調査　ミクロネシア連邦　ナン・マドール遺跡現状調査報告書（英語）	70	関係機関等
東南アジア諸国文化遺産保護修復協力　平成23年度成果報告書	70	関係機関等
文化遺産国際協力コンソーシアムパンフレット（日本語・英語）	各1,500	関係機関等
文化遺産国際協力事業紹介2010（英語・日本語）（再版）	各1,000	関係機関等
文化遺産国際協力事業紹介2011（英語・日本語）	各1,500	関係機関等
文化遺産国際協力情報資源共有化に関する報告書	500	関係機関等
アルメニア歴史博物館所蔵の考古金属資料の保存修復・調査研究事業およびそれに係わる人材育成・技術移転のための協力 平成23年度業務報告書	50	関係機関等
アルメニア歴史博物館における考古青銅遺物保存修復ワークショップ	50	関係機関等
キルギス共和国および中央アジア諸国における文化遺産保護に関する拠点交流事業　平成23年度業務報告書	50	関係機関等
キルギス共和国および中央アジア諸国における文化遺産保護に関する拠点交流事業　平成23年度講義資料集	50	関係機関等
平成23年度活動報告：モンゴル教育・文化・科学省及びモンゴル国立文化遺産センターとの拠点交流事業	100	関係機関等
協力相手国ミャンマー報告書冊子（日本語・英語）	各50	関係機関等
ブータン　文化遺産協力相手国調査報告書（英文）（再版）	200	関係機関等
ベトナム北部出土建築遺物資料調査台帳印刷　報告書	20	関係機関等
文化遺産国際協力事業　アルメニア講義資料集	50	関係機関等
海外における日本の装潢修理技術利用に関する研究会	100	関係機関等
イリーナ・ボコバ　ユネスコ事務局長講演記録	520	関係機関等
アユタヤ歴史公園における文化財の洪水による被害に関する調査報告書（日本語・英語）	各150	関係機関等
パダン復興支援報告書（日本語・インドネシア語）	各200	関係機関等
パダン歴史地区文化遺産復興支援報告書	170	関係機関等
国際資料室蔵書目録	100	関係機関等
文化財保護関連法令シリーズ　イタリア	300	関係機関等

刊　行　物　名	発行部数	配　　布　　先
文化財保護関連法令シリーズ　エジプト	300	関係機関等
文化財保護関連法令シリーズ　ベトナム	50	関係機関等

【奈良文化財研究所】

○調査研究刊行物

刊　行　物　名	発行部数	配　　布　　先
奈良文化財研究所紀要2011	3000	大学、研究機関、図書館等
奈良文化財研究所概要2011	3000	大学、研究機関、図書館等
奈文研ニュース№41～44	各3000	大学、研究機関、図書館等
奈良文化財研究所リーフレット	10,000	来訪者等
埋蔵文化財ニュース№146～149	146：2,500 147：2,500 148：2,500 149：2,500	教育委員会、図書館、博物館等
『星々と日月の考古学』飛鳥資料館図録第54冊	1,800	館内観覧者
『鋳造技術の考古学―東アジアにひろがる鋳物師のわざ―』飛鳥資料館カタログ第25冊	1,600	館内観覧者
『飛鳥遺珍―のこされた至宝たち―』飛鳥資料館図録第55冊	1,800	館内観覧者
『飛鳥の考古学2011』飛鳥資料館カタログ第26冊	1,600	館内観覧者
『奈良県橿原市内膳北八木遺跡・大阪府堺市大井遺跡出土冶金関連遺物の調査』飛鳥資料館研究図録第14冊	600	大学、研究機関等
『奈良県明日香村古宮遺跡出土金銅製四鐶壺の調査』飛鳥資料館研究図録第15冊	500	大学、研究機関等
西トップ遺跡調査報告書　英語版『Western Prasat Top Site Archaeological Survey：Report on Joint Research for the Protection of the Angkor Historic Site』	2,000	大学、研究機関等
ニュースレター　第4号、5号	1,000	関係機関等
『地下の正倉院展－コトバと木簡』	10,000	館内観覧者
『発掘速報展 平城2011／文化財レスキュー展』	10,000	館内観覧者
『地域における遺跡の総合的マネジメント』平成22年度遺跡整備・活用研究集会（第5回）報告書	1,000	大学、研究機関等
『鎌倉時代の庭園 －京と東国－』平成23年度庭園の歴史に関する研究会報告書	300	大学、研究機関等
『文化的景観研究集会（第３回）報告書　文化的景観の持続可能性- 生きた関係を継承するための整備と活用- 』	1,000	大学、研究機関等
重要文化財建造物現状変更説明1953～1955（本文編）	500	大学、研究機関、教育委員会、図書館等
重要文化財建造物現状変更説明1953～1955（図版編）	500	大学、研究機関、教育委員会、図書館等
木奥家所蔵大工道具調査報告書	800	大学、研究機関等
国宝・重要文化財写真乾板目録Ⅴ	500	大学、研究機関等
特別史跡藤原宮跡(英語版)	2,000	館内観覧者
特別史跡藤原宮跡(韓国語版)	2,300	館内観覧者
特別史跡藤原宮跡(中国語版)	2,300	館内観覧者
『四面廂建物を考える』第15回　古代官衙・集落研究会研究報告資料	600	大学、研究機関等
奈良文化財研究所研究報告第６冊　官衙・集落と鉄	600	大学、研究機関等
平城宮発掘調査出土木簡概報（四十一）	1,000	大学、研究機関等
遼寧省朝陽地区隋唐墓の整理と研究	600	大学、研究機関等
鞏義白河窯の考古新発見（日本語版）	800	大学、研究機関等
東アジア金属工芸史研究15	500	大学、研究機関、教育委員会、図書館等
東アジア金属工芸史研究14	600	大学、研究機関、教育委員会、図書館等
ベトナムフォックティック村集落調査報告書（英文）	700	大学、研究機関、図書館等
奈良文化財研究所史料88冊　藤原宮木簡　三	700	大学、研究機関、教育委員会、図書館等

【アジア太平洋無形文化遺産研究センター】

○調査研究刊行物

刊　行　物　名	発行部数	配　　布　　先
アジア太平洋無形文化遺産研究センターパンフレット（英語）	300	来訪者用

c-⑦ 科学研究費助成事業による調査研究

件数	国立文化財機構計	博物館					文化財研究所		
		計	東京国立博物館	京都国立博物館	奈良国立博物館	九州国立博物館	計	東京文化財研究所	奈良文化財研究所
合計	76	25	15	4	1	5	51	17	34
科学研究費補助金	58	16	11	2	0	3	42	13	29
学術研究助成基金助成金	18	9	4	2	1	2	9	4	5

※平成 22 年度までの科学研究費補助金事業は、平成 23 年度より「科学研究費補助金」と「学術研究助成基金助成金」による科学研究費助成事業として取り扱うこととなった。
※アジア太平洋無形文化遺産研究センターは、平成 23 年度については科学研究費助成事業の申請を行っていない。
※各施設に所属する研究員が研究代表者として交付された研究課題のみ記載している。(特別研究員奨励費、奨励研究を除く)

【東京国立博物館】

1) 科学研究費補助金　11件

	研究テーマ	名前	役職	研究種目	交付決定額（千円）
1	博物館における文化遺産の保全と持続的公開を目指した包括的保存システムの研究	神庭　信幸	学芸研究部保存修復課長	基盤研究（S）	4,680
2	東アジアの書道史における料紙と書風に関する総合的研究	島谷　弘幸	副館長	基盤研究（A）	6,240
3	板谷家を中心とした江戸幕府御用絵師に関する総合的研究	田沢　裕賀	学芸研究部調査研究課絵画・彫刻室長	基盤研究（A）	6,760
4	文化財保護の歴史に関する基礎的研究	高橋　裕次	学芸企画部博物館情報課長	基盤研究（B）	3,900
5	光学的調査に基づく高雄曼荼羅の発展的研究	松本　伸之	学芸企画部長	基盤研究（B）	12,220
6	中国書画の表装に関する基礎的研究	富田　淳	学芸研究部列品管理課長	基盤研究（C）	1,040
7	占領期の教育政策における国立博物館の役割に関する調査研究	神辺　知加	学芸企画部博物館教育課教育講座室主任研究員	基盤研究（C）	650
8	宮廷工芸に関する物質文化的研究―生活感のある工芸史の構築をめざして―	猪熊　兼樹	学芸研究部列品管理課貸与特別観覧室主任研究員	基盤研究（C）	2,080
9	近現代における古日本染織の移動とコレクション形成に関する基礎的研究	小山　弓弦葉	学芸研究部調査研究課工芸室主任研究員	若手研究（A）	2,470
10	絵巻の〈伝来〉をめぐる総合的研究	土屋　貴裕	学芸研究部調査研究課絵画・彫刻室研究員	若手研究（A）	4,810
11	東京国立博物館所蔵国際交流史料データベース	高梨　真行	学芸企画部博物館教育課ボランティア室主任研究員	研究成果公開促進費（研究成果データベース）	2,100

2) 学術研究助成基金助成金　4件

	研究テーマ	名前	役職	研究種目	交付決定時の当年度予算(千円)	備考
1	古筆切紙背の史料学的研究	田良島　哲	学芸研究部調査研究課長	基盤研究（C）	2,080	交付決定額：5,070千円（平成23～25年度）
2	家形埴輪の群構成と階層性からみた東アジアにおける古墳葬送儀礼に関する基礎的研究	古谷　毅	学芸研究部列品管理課主任研究員	基盤研究（C）	1,170	交付決定額：4,680千円（平成23～25年度）
3	狩野晴川院養信による寺社宝物摸本の基礎的研究	安藤　香織	学芸研究部列品管理課登録室アソシエイトフェロー	若手研究（B）	2,340	交付決定額：3,250千円（平成23～24年度）
4	黒曜石の獲得と消費からみた完新世初期人類社会の形成過程	及川　穣	学芸研究部列品管理課登録室アソシエイトフェロー	若手研究（B）	1,170	交付決定額：1,820千円（平成23～24年度）

【京都国立博物館】

1) 科学研究費補助金　2件

	研究テーマ	名前	役職	研究種目	交付決定額(千円)
1	南山城地域の仏教文化と歴史に関する総合的研究	佐々木　丞平	館長	基盤研究（B）	9,100
2	内外伝世品の調査ならびに比較に基づく京都製蒔絵の歴史的研究	永島　明子	学芸部企画室主任研究員	若手研究（A）	2,340

2) 学術研究助成基金助成金　2件

	研究テーマ	名前	役職	研究種目	交付決定時の当年度予算(千円)	備考
1	「鎖国」下の日本における清朝陶磁の受容とその影響に関する調査研究	尾野　善裕	学芸部工芸室長	基盤研究（C）	1,040	交付決定額：4,160千円（平成23～26年度）
2	足利尊氏願経の原本調査を中心とした中世一切経の資料的研究	羽田　聡	学芸部企画室研究員	若手研究（B）	650	交付決定額：1,300千円（平成23～24年度）

【奈良国立博物館】

1）科学研究費補助金　　0件

2）学術研究助成基金助成金　　1件

	研究テーマ	名前	役職	研究種目	交付決定時の当年度予算(千円)	備考
1	文化財アーカイブズの形成に関する研究－近代文化財修理記録のメタデータ分析を中心に	宮崎　幹子	学芸部資料室長	若手研究（Ｂ）	1,430	交付決定額：4,896千円（平成23～24年度）

【九州国立博物館】

1）科学研究費補助金　　3件

	研究テーマ	名前	役職	研究種目	交付決定額(千円)
1	九州における対外交流文化財の保存と活用に向けた研究基盤の創設	伊藤　嘉章	学芸部付	基盤研究（Ａ）一般	11,700
2	Ｘ線ＣＴスキャナーによる中国古代青銅器の構造技法解析	今津　節生	学芸部博物館科学課環境保全室長	基盤研究（Ｂ）一般	4,810
3	アジアの木地螺鈿－その源流、正倉院宝物への道をたどる－	小林　公治	学芸部文化財課資料管理室長	基盤研究（Ｃ）一般	910

2）学術研究助成基金助成金　　2件

	研究テーマ	名前	役職	研究種目	交付決定時の当年度予算(千円)	備考（千円）
1	中性大般若経の史料学構築に向けての基礎的研究	藤田　励夫	博物館科学課保存修復室長	基盤研究（Ｃ）一般	2,210	交付決定額：5,200（平成23～25年度）
2	デジタル計測技術を使用した文化財の予防保存	今津　節生	学芸部博物館科学課環境保全室長	挑戦的萌芽研究	2,470	交付決定額：3,770（平成23～24年度）

【東京文化財研究所】

1）科学研究費補助金　13件

	研究テーマ	名前	役職	研究種目	交付決定額(千円)
1	諸先学の作品調書・画像資料類の保存と活用のための研究・開発－美術史家の眼を引継ぐ	田中　　淳	企画情報部長	基盤研究（Ｂ）	4,290
2	文化財修復材料の劣化と文化財に及ぼす影響に関する基礎的研究	早川　典子	保存修復科学センター主任研究員	基盤研究（Ｂ）	1,430
3	敦煌芸術の科学的復原研究―壁画材料の劣化メカニズムの解明によるアプローチ	岡田　　健	保存修復科学センター副センター長	基盤研究（Ｂ）	5,720
4	文化財展示収蔵施設の実状に即したカビ調査技術と制御に関する研究	木川　りか	保存修復科学センター生物科学研究室長	基盤研究（Ｂ）	6,760
5	文化財の被災履歴データベースによる脆弱性評価と保存計画策定への活用に関する研究	二神　葉子	企画情報部情報システム研究室長	基盤研究（Ｃ）	650
6	日本絵画材料の時代的変遷に関する調査研究	早川　泰弘	保存修復科学センター分析科学研究室長	基盤研究（Ｃ）	1,300
7	大村西崖の研究	塩谷　　純	企画情報部文化形成研究室長	基盤研究（Ｃ）	1,950
8	移動が困難な文化財のためのエックス線を用いた非破壊調査手法の構築	犬塚　将英	保存修復科学センター主任研究員	若手研究（Ａ）	2,080
9	染織技法の分業化の展開に関する基礎的研究－技法書・絵画資料・実作品の分析を通して	菊池　理予	無形文化遺産部研究員	若手研究（Ｂ）	1,430
10	亜酸化窒素発生における土壌糸状菌の生態学的役割の解明	佐藤　嘉則	保存修復科学センター研究員	若手研究（Ｂ）	1,170
11	寺院造営組織からみた平安前期彫刻の研究	皿井　　舞	企画情報部研究員	若手研究（Ｂ）	1,170
12	アルメニアの完新世初頭における先史文化の考古学研究	有村　　誠	文化遺産国際協力センター特別研究員	若手研究（Ｂ）	1,170
13	カンボジア北部山岳地域クメール寺院のインベントリー作成	佐藤　　桂	文化遺産国際協力センターアソシエイトフェロー	研究活動スタート支援	1,495

2）学術研究助成基金助成金　4件

	研究テーマ	名前	役職	研究種目	交付決定時の当年度予算(千円)	備考
1	建築文化財における伝統的な塗装彩色材料の再評価と劣化防止に関する研究	北野　信彦	保存修復科学センター伝統技術研究室長	基盤研究（Ｃ）	2,600	交付決定額：5,330（平成23～26年度）
2	政治的危機に瀕する『越境文化遺産』の保護と平和活用－国際政治・公共政策研究の貢献	原本　知実	文化遺産国際協力センターアソシエイトフェロー	基盤研究（Ｃ）	2,080	交付決定額：5,330（平成23～25年度）
3	科学的原理に基づいたモノクローム資料写真からの色材分析	吉田　直人	保存修復科学センター主任研究員	挑戦的萌芽研究	2,210	交付決定額：2,990（平成23～24年度）
4	イラン、マルヴ、ダシュト盆地における新石器化の考古学的研究	安倍　雅史	文化遺産国際協力センターアソシエイトフェロー	若手研究（Ｂ）	910	交付決定額：1,690（平成23～24年度）

【奈良文化財研究所】

1）科学研究費補助金　　29件

	研究テーマ	名前	役職	研究種目	交付決定額(千円)
1	木簡など出土文字資料釈読支援システムの高次化と綜合的研究拠点データベースの構築	渡邉　晃宏	都城発掘調査部史料研究室長	基盤研究（S）	23,010
2	ミリ波およびテラヘルツ波を用いた文化財の新たな非破壊診断技術の開発研究	高妻　洋成	埋蔵文化財センター保存修復科学研究室長	基盤研究（A）	9,880
3	東アジアにおける家畜の伝播とその展開に関する動物考古学的研究	松井　章	埋蔵文化財センター長	基盤研究（A）	9,620
4	南都における廃仏毀釈後の資料動態に関する調査研究	吉川　聡	文化遺産部歴史研究室長	基盤研究（B）	3,770
5	文化財および美術工芸材料のナノ構造・物性の解明	北田　正弘	埋蔵文化財センター客員研究員	基盤研究（B）	4,810
6	中国細石刃文化の基礎的研究-河南省霊井遺跡石器群の分析を中心として-	加藤　真二	企画調整部展示企画室長	基盤研究（B）海外	5,200
7	青銅製祭器の生産と流通からみた弥生時代の社会変化の研究	難波　洋三	企画調整部長	基盤研究（C）	780
8	古代の鉛調整加工技術に関する考古学的研究	小池　伸彦	都城発掘調査部考古第一研究室長	基盤研究（C）	650
9	奈良県「飛鳥・藤原」地域における「方格地割」創出過程の考古学的研究	黒崎　直	文化遺産部客員研究員	基盤研究（C）	1,040
10	古代律令国家の官衙と寺院の占地に関する比較研究	小澤　毅	埋蔵文化財センター遺跡・調査技術研究室長	基盤研究（C）	650
11	発掘調査成果の総合的な機械可読化に関する研究	森本　晋	企画調整部文化財情報研究室長	基盤研究（C）	1,300
12	古代ガラス・釉薬の物性から探る製作技術に関する科学的研究	降幡　順子	都城発掘調査部主任研究員	基盤研究（C）	1,430
13	近世建築に使われた木曽ヒノキの流通に関する年輪年代学的研究	光谷　拓実	埋蔵文化財センター客員研究員	基盤研究（C）	1,040
14	東北アジアにおける金属器の拡散と在地社会の変化に関する考古学的研究	庄田　慎矢	都城発掘調査部考古第一研究室研究員	若手研究（A）	1,430
15	古代中世東アジアにおける八角塔・八角堂の構造と意匠に関する研究	箱崎　和久	都城発掘調査部遺構研究室長	若手研究（B）	650
16	オセアニア島嶼環境へのラピタ人の適応戦略を探る先史学的研究	石村　智	企画調整部国際遺跡研究室研究員	若手研究（B）	1,300
17	古代日韓における土木技術の系譜にかんする考古学的研究	青木　敬	都城発掘調査部考古第二研究室研究員	若手研究（B）	780
18	東アジアにおける失蝋法の出現と展開に関する考古学的研究	丹羽　崇史	企画調整部展示企画室研究員	若手研究（B）	1,040
19	古代東アジアにおける都城と葬送地に関する考古学的研究	小田　裕樹	都城発掘調査部考古第二研究室研究員	若手研究（B）	650
20	校倉造りの歴史的変遷と地域特性に関する研究	黒坂　貴裕	都城発掘調査部主任研究員	若手研究（B）	1,040
21	復元設計を方法とする東アジア古代建築の空間及び造形原理の解明	清水　重敦	文化遺産部景観研究室長	若手研究（B）	910
22	中世日本と中国における木造建築の架構システムに関する比較研究	鈴木　智大	都城発掘調査部遺構研究室研究員	若手研究（B）	910
23	土質遺構保存のための基礎的研究-動水勾配を利用した塩類析出抑制法の開発-	脇谷　草一郎	埋蔵文化財センター保存修復科学研究室研究員	若手研究（B）	650
24	東アジアにおけるインド・パシフィックビーズの材質と流通に関する科学的研究	田村　朋美	埋蔵文化財センター保存修復科学研究室研究員	若手研究（B）	780
25	令前木簡と古代文書の機能論的検討による日本における古代文書行政成立史の研究	山本　崇	都城発掘調査部主任研究員	若手研究（B）	910
26	九州における更新世末の移動・居住システムの変遷過程に関する研究	芝　康次郎	都城発掘調査部考古第一研究室研究員	若手研究（B）	650
27	奈良時代の中央と地方における建築技術の研究	海野　聡	都城発掘調査部遺構研究室研究員	若手研究（B）	650
28	近世建造物の年代測定を目指したツガ年輪パターンの拡充と産地推定	藤井　裕之	埋蔵文化財センター客員研究員	若手研究（B）	650
29	絹文化財の簡易的な劣化指標の作成	赤田　昌倫	埋蔵文化財センター保存修復科学研究室特別研究員（AF）	若手研究（B）	520

2）学術研究助成基金助成金　　5件

	研究テーマ	名前	役職	研究種目	交付決定時の当年度予算(千円)	備考
1	中国における木質文化財の用材観	伊東　隆夫	埋蔵文化財センター客員研究員	基盤研究（C）	2,990	交付決定額：5,200千円（平成23～25年度）
2	木彫仏像を中心とした日本彫刻史研究における年代決定法の調査・研究	児島　大輔	埋蔵文化財センター年代学研究室特別研究員（AF）	若手研究（B）	1,820	交付決定額：4,420千円（平成23～26年度）
3	GT-Map等時空間解析システムを利用した木簡等出土文字資料分析の基礎的研究	馬場　基	都城発掘調査部主任研究員	若手研究（B）	1,040	交付決定額：2,340千円（平成23～25年度）
4	三次元計測による飛鳥時代の石工技術の復元的研究	廣瀬　覚	都城発掘調査部考古第一研究室研究員	若手研究（B）	1,040	交付決定額：3,770千円（平成23～26年度）
5	古代における骨角製品の動物考古学的研究	丸山　真史	埋蔵文化財センター客員研究員	若手研究（B）	1,950	交付決定額：4,290千円（平成23～25年度）

c-⑧ 客員研究員一覧

国立文化財機構合計	博物館計	東京国立博物館	京都国立博物館	奈良国立博物館	九州国立博物館
123人	34 人	24人	5人	5人	0人
	文化財研究所計	東京文化財研究所		奈良文化財研究所	
	89 人	56人		33人	
	アジア太平洋無形文化遺産研究センター				
	0 人				

【東京国立博物館】　24人

	氏 名（所 属）	研 究 課 題
1	松原　茂（財団法人根津美術館学芸部長）	当館所蔵の絵画に関する研究
2	岩崎　均史（たばこと塩の博物館主席学芸員）	当館所蔵の大小絵暦に関する研究
3	松田　清（京都外国語大学専任教員）	当館所蔵の江戸幕府旧蔵の洋書、シーボルト献納本などの古洋書に関する研究
4	宮永 美知代（東京藝術大学美術学部助教）	解剖学・美術解剖学および医学関係の館史資料に関する調査研究
5	東野　治之（奈良大学文学部教授）	法隆寺献納宝物の資料の研究
6	田辺　龍太（財団法人切手の博物館研究員）	当館所蔵の切手に関する調査研究
7	水上　嘉代子（財団法人遠山記念館学芸員）	当館に所蔵される小袖形を中心とする日本近世染織の調査・研究
8	小笠原　小枝	当館所蔵のインド更紗に関する研究
9	大脇　　潔（近畿大学文芸学部教授）	当館所蔵古瓦の整理および、当館所蔵の藤原宮および藤原京内寺院出土瓦に関する研究
10	金子　浩昌（日本考古学協会会員）	当館所蔵原始・古代骨角製品に関する研究
11	宮下　佐江子（古代オリエント博物館学芸課長）	西アジア古代ガラスの研究
12	丸山　清志（城西国際大学物質文化研究センター研究員・助手）	東洋民族オセアニア採集品の調査研究
13	湊　信幸（元副館長）	当館所蔵の絵画に関する研究
14	鍋島　稲子（台東区立書道博物館主任研究員）	中国書跡の調査研究
15	西岡　康宏（元副館長）	当館所蔵の東洋漆工に関する研究
16	小野　博（美術刀剣研磨技師）	刀剣コレクションに関する保存状態の評価と保存修理の対策
17	大橋　美織（静嘉堂文庫美術館学芸員）	当館所蔵の近世絵画に関する研究
18	若杉　準治（前京都国立博物館）	法隆寺献納宝物を中心とした館蔵中世絵画の研究
19	保坂　裕興（学習院大学大学院人文科学研究科教授）	館史資料アーカイブズ学的研究
20	田中　淑江（共立女子大学家政学部准教授）	当館所蔵の江戸時代を中心とする小袖に関する研究
21	佐々木　利和（北海道大学アイヌ・先住民研究センター教授）	アイヌ・琉球民族資料に関する調査研究
22	望月　幹夫（元東京国立博物館）	当館所蔵の考古資料（原史・有史）に関する調査研究
23	歌田　眞介（東京藝術大学名誉教授）	東京国立博物館所蔵油彩画の材料・技法および保存状態についての調査・研究
24	松井　敏也（筑波大学大学院人間総合科学研究科准教授）	考古出土遺物に関する保存科学的研究

【京都国立博物館】　5人

	氏 名（所 属）	研 究 課 題
1	奥平　俊六（大阪大学大学院文学研究科教授）	京狩野に関する調査研究
2	山田　奨治（国際日本文化研究センター研究部准教授）	文化財情報に関する調査研究
3	宇都宮　啓吾（大阪大谷大学文学部教授）	訓点資料としての典籍に関する調査研究
4	狩野　博幸（同志社大学文化情報学部教授）	近世絵画に関する調査研究
5	井上　一稔（同志社大学文学部教授）	南山城の彫刻に関する調査研究

【奈良国立博物館】　5人

	氏 名（所 属）	研 究 課 題
1	井出誠之輔（九州大学大学院人文科学研究院教授）	仏教絵画の調査及び整理
2	木村法光（元宮内庁正倉院事務所保存課長）	漆工品の調査及び研究
3	清水　昭博（帝塚山大学人文学部准教授）	飛鳥・奈良時代の仏教考古、斑鳩地区出土瓦の調査及び整理
4	根立研介（京都大学大学院文学研究科教授）	仏教彫刻の調査と整理
5	板倉聖哲（東京大学東洋文化研究所准教授）	中国・朝鮮絵画の調査及び整理

【九州国立博物館】　0人

【東京文化財研究所】　56人

	氏 名（所 属）	研 究 課 題
1	吉田千鶴子（東京藝術大学非常勤講師）	近代美術資料群の調査・研究
2	相澤正彦（成城大学文芸学部芸術学科教授）	研究プロジェクト「東アジアの美術に関する資料学的研究」の調査研究と研究助言
3	森下正昭（立命館アジア太平洋大学学長室IR AACSBプロジェクトコーディネーター）	研究プロジェクト「東アジアの美術に関する資料学的研究」の調査研究と研究助言
4	三上　豊（和光大学表現学部教授）	近・現代美術の調査研究および関連資料の整理・収集・公開に関する調査研究
5	中村佳史（国立情報学研究所研究員）	研究所アーカイブにおける情報の横断検索の構築のための調査研究と研究助言
6	丸川雄三（国立情報学研究所特任准教授）	近・現代美術の調査研究および関連資料の整理・収集・公開に関する調査研究
7	中野照男（大東文化大学非常勤講師）	美術の表現・技法・材料に関する多角的研究
8	永井美和子（早稲田大学非常勤嘱託（演劇博物館））	無形文化財の記録作成
9	今岡謙太郎（武蔵野美術大学造形学部教授）	無形文化財の記録作成
10	齋藤裕嗣	無形民俗文化財の調査研究
11	原田一敏（東京藝術大学大学美術館教授）	無形文化財工芸技術（金工分野）の調査研究
12	荒川正明（学習院大学文学部哲学科（美術史専攻）教授）	無形文化財工芸技術（陶芸分野）の調査研究
13	山崎　剛（金沢美十工芸大学准教授）	無形文化財工芸技術（漆工分野）の調査研究
14	俵木　悟（成城大学文学部准教授）	無形民俗文化財の調査研究

	氏 名（所 属）	研 究 課 題
15	松山直子（アジア太平洋無形文化遺産研究センターアソシエイトフェロー）	無形文化遺産分野における国際研究交流
16	三浦定俊（公益財団法人文化財虫害研究所理事長）	光学的方法による文化財の技法材料に関する研究
17	藤井義久（京都大学農学部准教授）	文化財の生物劣化対策の研究
18	呂　俊民	文化財公開施設の室内空気汚染と空気清浄化に関する研究
19	三村　衛（京都大学防災研究所准教授）	古墳墳丘部の地盤工学的調査・研究
20	白石靖幸（北九州市立大学国際環境工学部環境空間デザイン学科准教授）	文化財保存環境における環境制御および環境解析に関する研究
21	小椋大輔（京都大学大学院工学研究科助教）	文化財保存環境における環境制御および環境解析に関する研究
22	小峰幸夫（(財)文化財虫害研究所研究員）	文化財の生物劣化対策の研究
23	北原博幸（トータルシステム研究所）	文化財保存環境における環境制御および環境解析に関する研究
24	高見雅三（北海道立総合研究機構）	文化財保存環境における劣化のメカニズムの解明および環境解析に関する研究
25	間渕　創（三重県立博物館）	文化財展示収蔵施設における浮遊菌調査手法の改良および自然共生型博物館における微生物管理のあり方についての研究
26	板垣義郎（(株)ＡＣＭ）	修復材料に関する調査・研究
27	舘川　修	伝統材料に関する調査研究
28	横山晋太郎	近代文化遺産の保存修復に関する調査・研究
29	長島宏行（(財)日本航空協会）	近代の文化遺産の保存修復、特に航空機保存に関する調査・研究
30	小堀信幸（(財)船の科学館）	近代文化遺産の保存修復に関する調査・研究
31	安部倫子（ＳＤラボラトリー）	キトラ古墳及び高松塚古墳壁画修復に関する調査研究
32	本多貴之	文化財の伝統的修復に関する調査研究
33	大林賢太郎（京都造形芸術大学歴史遺産学科準教授、京都造形芸術大学日本庭園・歴史研究センター歴史遺産研究部門長）	修復材料に関する調査研究
34	中條利一郎（帝京科学大学名誉教授）	修復材料に関する調査研究
35	大河原典子	キトラ古墳及び高松塚古墳壁画修復に関する調査研究
36	山下好彦（修復家）	伝統的修復に関する調査研究
37	川口　孝（修復家）	修復材料に関する調査研究
38	田畔徳一（修復家）	キトラ古墳及び高松塚古墳壁画修復に関する調査研究
39	今井健一郎	国内外の文化財保護法を中心とした文化財保護法についての調査研究
40	鋒井修一（京都大学大学院工学研究科建築学専攻教授）	タイ・スコータイ遺跡スリチュム寺院において、大仏の表面に生物を発生しにくくさせる環境条件に関する研究
41	柏谷博之（国立科学博物館名誉研究員）	石造文化財の劣化と保存に対する植物の関与についての調査研究
42	津村（高林）弘実（京都市立芸術大学）	壁画に見られる「劣化」現象に焦点をあて、莫高窟壁画の材料と技法の調査研究
43	前田耕作（和光大学名誉教授）	西アジア諸国等文化遺産保存修復協力事業の推進に関する業務についての研究協力
44	谷口陽子（筑波大学大学院人文社会学研究科歴史・人類　助教）	西アジア諸国等文化遺産保存修復協力事業の推進に関する業務についての研究協力
45	津村宏臣（同志社大学文化情報学部文化情報学科　准教授）	文化財保存修復国際情報のデータベース化に関する研究
46	佐藤　桂（早稲田大学助教）	文化財国際コンソーシアム事業」における文化遺産情報共有化に関する研究
47	松田泰典（国際協力機構大エジプト博物館保存修復センタープロジェクト･専門家、東京藝術大学･東洋美術学校非常勤講師）	「エジプト国大エジプト博物館保存修復センタープロジェクト」人材育成と技術移転事業における研究協力
48	伏屋智美	「エジプト国大エジプト博物館保存修復センタープロジェクト（フェーズⅠ）」国内支援業務における研究協力
49	末森　薫（国際協力機構　専門家）	「エジプト国大エジプト博物館保存修復センタープロジェクト（フェーズⅠ）」国内支援業務における研究協力
50	藤澤　明	「エジプト国大エジプト博物館保存修復センタープロジェクト（フェーズⅠ）」国内支援業務における研究協力
51	渡邉真樹子	敦煌莫高窟壁画の彩色技法・材料に関する包括的研究
52	山藤正敏（金沢大学国際文化資源学研究センター客員研究員）	文化遺産国際協力拠点交流事業の推進に関する業務における研究協力
53	渡抜由季	西アジア諸国等文化遺産保存修復協力事業の推進に関する業務についての研究協力
54	秋枝（内藤）ユミイザベル	文化財の保護と制度や施策の国際動向および国際協力等の情報を収集・分析・活用するための調査・研究
55	後藤多聞（公益財団法人平山郁夫シルクロード美術館理事）	「文化財国際コンソーシアム事業」における文化遺産国際協力に関する研究
56	岡村知明	文化財建造物の修復計画の立案及び海外での人材育成のための調査・研究

【奈良文化財研究所】　33人

	氏 名（所 属）	研 究 課 題
1	加藤　優（徳島文理大学文学部教授）	寺院史、古文献学の研究
2	宮城　俊作（奈良女子大学生活環境学部教授）	ランドスケープデザイン及び都史デザインに関する調査研究
3	小浦　久子（大阪大学大学院工学研究科准教授）	都市計画、環境デザインの研究
4	黒崎　直（元富山大学人文学部人文学科教授）	日本考古学（弥生時代～古代・中世）の研究
5	EDWARDS Walter Drew（元天理大学国際文化学部教授）	考古学、文化人類学の研究
6	巽　淳一郎（京都橘大学文学部文化財学科教授）	歴史考古学の研究
7	松村　恵司（元文化庁文化財部文化財監査官）	歴史時代金属器及び古代都城遺跡、寺院の研究
8	西口　壽生（元奈良文化財研究所都城発掘調査部考古第二研究室長）	歴史時代土器及び古代都城遺跡、寺院の研究
9	市　大樹（大阪大学大学院文学研究科准教授）	木簡及び都城の研究ならびに日本古代地方支配の研究
10	肥塚　隆保（元奈良文化財研究所副所長）	文化財科学、保存修復科学の研究
11	山中　敏史（元奈良文化財研究所文化遺産部長）	遺跡及びその調査技術の研究
12	丸山　真史	動物考古学に関する調査研究
13	千田　剛道（元奈良文化財研究所企画調整部上席研究員）	遺物及びその調査技術、文化財情報に関する調査研究
14	小林　謙一（財団法人ユネスコ・アジア文化センター文化遺産保護協力事務所研修事業部長）	遺物及びその調査技術、文化財情報に関する調査研究
15	増井　正哉（奈良女子大学生活環境学部教授）	建築史、保存修復計画、地域計画に関する調査研究
16	MARES Emmanuel Bernard（元（株）京都通信社編集者	日本文学・日本庭園・日本建築とその文化に関する研究
17	中村亜希子（元奈良文化財研究所任期付研究員）	中国考古学の研究
18	渡辺　伸行（元神戸市埋蔵文化財センター所長）	日本考古学（弥生時代～古代）の研究
19	藤沼　邦彦（元弘前大学教授）	縄文文化の研究

	氏 名（所 属）	研 究 課 題
20	北田　正弘（元（独）物質・材料研究機構特別研究員）	金属材料工学、文化財科学の研究
21	佐藤　昌憲（元京都工芸繊維大学名誉教授）	文化財科学、分析化学の研究
22	秦　小麗（カナダロイヤルオンタリオ博物館共同研究員）	考古学、先史学の研究
23	芹原　信生（元京都大学霊長類研究所教授）	自然人類学、動物考古学の研究
24	大江　文雄（愛知県環境審議会専門調査委員）	古生物学（魚類系統進化）の研究
25	菊地　大樹（元奈良文化財研究所任期付研究員）	中国考古学、動物考古学の研究
26	光谷　拓実（大学共同利用機関法人人間文化研究機構総合地球環境学研究所研究推進戦略センター客員教授）	年輪年代学及び木材解剖学についての調査研究
27	伊東　隆夫（南京林業大学（中国）特別招聘教授）	木材組織学の研究
28	藤井　裕之	年輪年代学の研究
29	西村　康（財団法人ユネスコ・アジア文化センター文化遺産保護協力事務所長）	遺跡探査及び測量の調査研究
30	狭川　真一（財団法人元興寺文化財研究所研究部長）	遺跡及びその調査技術の研究
31	西口　和彦（元兵庫県立考古博物館調査専門委員）	遺跡探査の研究
32	安田　龍太郎（元奈良文化財研究所埋蔵文化財センター長）	遺跡・遺物とその調査技術の研究
33	百橋　明穂（神戸大学大学院人文学研究科教授）	日本美術史の研究

【アジア太平洋無形文化遺産研究センター】　0人

d ウェブサイトアクセス件数

平成24年3月末日現在

	H19	H20	H21	H22	H23
国立博物館計	―	―	―	9,202,862	6,480,930
東京国立博物館	5,504,468	5,211,261	5,687,673	4,971,306	2,772,633
京都国立博物館	― (参考:733,885)	― (参考:1,409,634)	― (参考:848,486)	2,077,562 (参考:805,935)	1,835,640
奈良国立博物館	― (参考:1,402,834)	― (参考:1,230,774)	639,030 (参考:2,630,035)	769,293 (参考:3,121,270)	722,249
九州国立博物館	1,164,425	1,480,341	1,956,287	1,384,701	1,150,408
文化財研究所計	―	―	1,988,486	2,130,786	1,771,695
東京文化財研究所	1,526,409	1,405,278	1,417,203	1,489,091	1,314,541
奈良文化財研究所	― (参考:923,466)	― (参考:701,711)	571,283 (参考:1,030,905)	641,695 (参考:4,977,076)	457,154
アジア太平洋無形文化遺産研究センター					1,838 (H23.12.16サイト開設)
機構本部	190,624	228,029	293,317	270,913	208,982
e国宝	473,006	383,864	630,399	659,056	1,139,318

※アクセス件数の単位は、ユーザーセッション数である。
※過去の実績においてユーザーセッション数未集計の場合、”－”を記している。その際の括弧内の参考値は、当時の実績評価で使用していた単位でのアクセス件数（京都国立博物館：トップページビュー数、奈良国立博物館・奈良文化財研究所：ページビュー数）である。

附属資料

平成 23 年度平常展・特別展アンケート結果

＜平常展＞

１．東京国立博物館総合文化展
２．奈良国立博物館名品展
３．九州国立博物館文化交流展

＜特別展＞

東京国立博物館

４．特別展「写楽」
５．特別展「手塚治虫のブッダ展」
６．特別展「空海と密教美術」
７．特別展「法然と親鸞　ゆかりの名宝」
８．特別展「北京故宮博物院２００選」
９．特別展「孫文と梅屋庄吉　１００年前の中国と日本」

京都国立博物館

１０．特別展覧会「法然　生涯と美術」
１１．特別展観「百獣の楽園　―美術にすむ動物たち―」
１２．特別展覧会「細川家の至宝―珠玉の永青文庫コレクション―」
１３．特別展覧会「中国近代絵画と日本」

奈良国立博物館

１４．特別展「誕生！中国文明」
１５．特別展「天竺へ　三蔵法師３万キロの旅」
１６．特別展「第 63 回正倉院展」

九州国立博物館

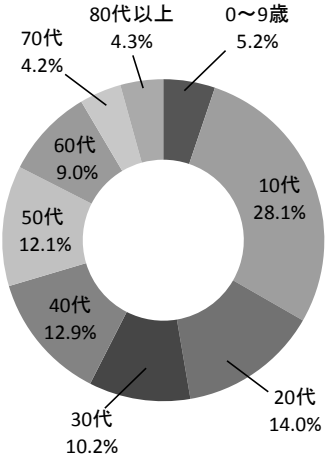
１７．特別展「黄檗―OBAKU」
１８．特別展「よみがえる国宝 － 守り伝える日本の美」
１９．特別展「草原の王朝　契丹－美しき 3 人のプリンセス」
２０．特別展「細川家の至宝－珠玉の永青文庫コレクション」

東京国立博物館

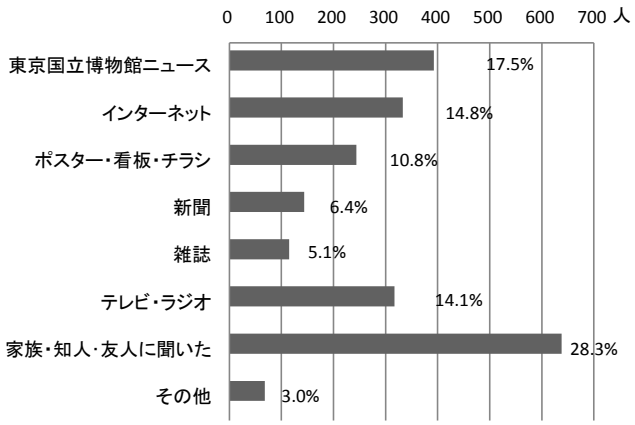
平常展（総合文化展）
アンケート集計結果

開催期間：平成２３年４月１日（金）～平成２４年３月３１日（土）　開館日数：３１４日間
回答者数：２，６１７人（来館者数：３１１，３６０人　　アンケート回収率：０．８４％）

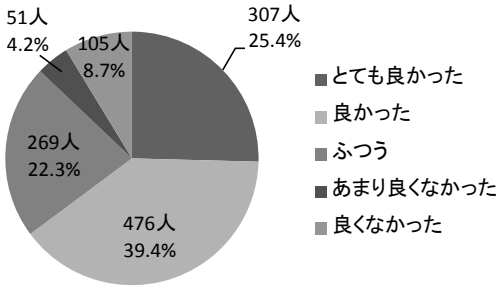
①年齢層



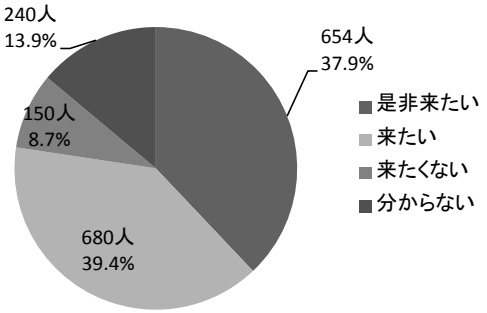
②認知経路（複数回答）



③展示に関する満足度



④再来館率



⑤主な意見・感想

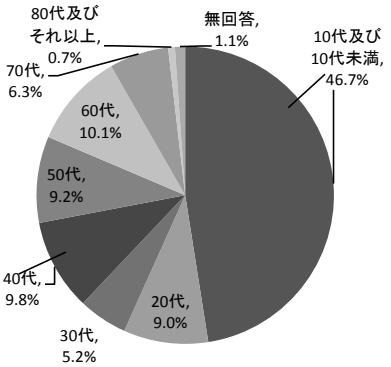
・良かった、楽しかった、面白かった、素晴らしかった。
・展示の仕方が良かった。見やすい展示だった。
・色々な展示物があったのが良かった。たくさんの作品を見ることができて良かった。
・屏風や浮世絵など、絵画作品が良かった。
・説明文の文字が小さくて読みづらい。もっと文字を大きくしてほしい。
・展示方法に工夫がない。作品が見えにくい。
・説明をもっと詳しくしてほしい。
・英語の説明文をもっと増やしてほしい。

奈良国立博物館

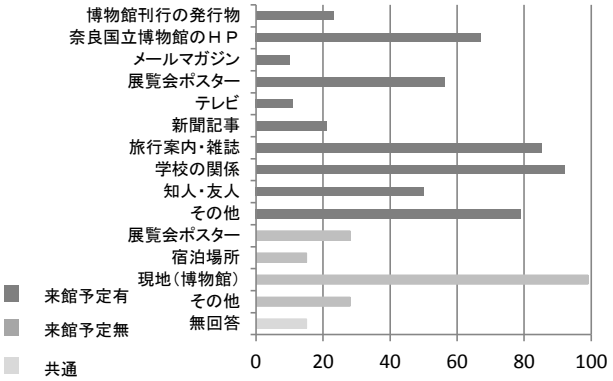
平常展（名品展）
アンケート集計結果

開催期間：平成２３年４月１日（金）～平成２４年３月３１日（土）　開館日数：３２１日間
回答者数：６１２人（来館者数：１３０，８３９人　アンケート回収率：　０．４７％）

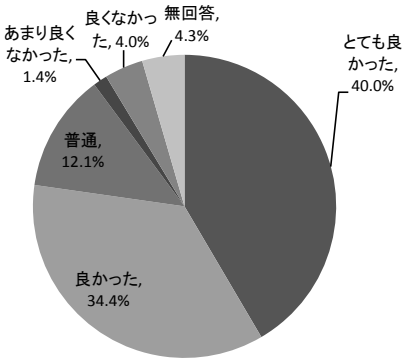
①年齢層



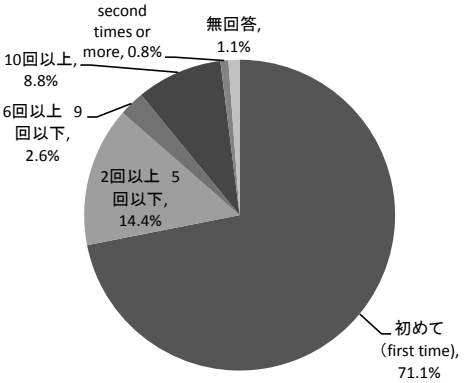
②認知経路（複数回答）



③展示に関する満足度



④再来館率



④主な意見・感想

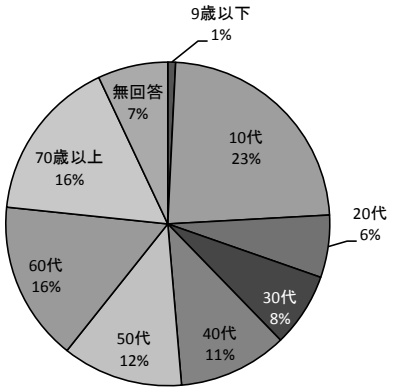
・国宝・重文級の大変貴重な仏像の数々が美しく印象的で、圧倒された。
・一点一点の解説が（英語解説も含め）展示品の内容をしっかりと伝えていて、実に分かりやすい。
・展示のグループ分けが分かりやすく、落ち着いた雰囲気のライティングが素晴らしい。
・仏像の製作工程を再現した展示が楽しかった。
・ボランティアの方の解説が丁寧でわかりやすく、楽しく学べました。
・仏像の見分け方クイズで、少し知識があればとても楽しめることがわかっておもしろかった。
・開館時間の延長日がありがたい。

九州国立博物館

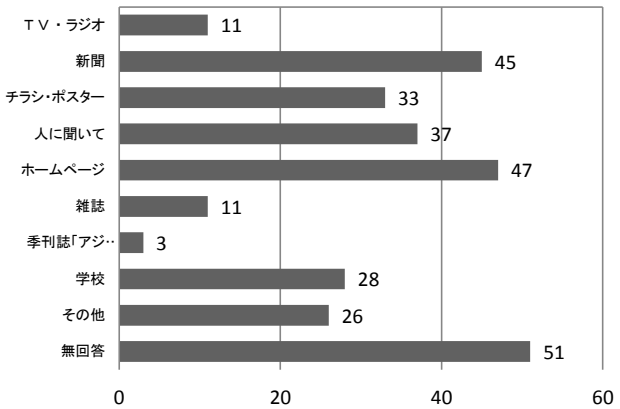
文化交流展　アンケート集計結果

開催期間：平成23年4月1日(金)～平成24年3月31日(土)　　開館日数：310日間
総回答者数：　257人（総来館者数：712,594人　アンケート回収率：0.04%）

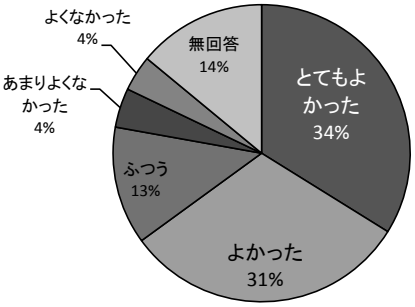
①年齢層



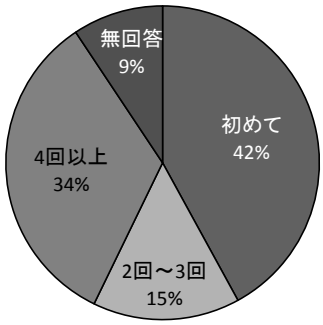
②認知経路（複数回答）



③展示に関する満足度



④再来館率



④主な意見・感想

・とても勉強になった。もっと歴史を知りたくなった。あじっぱが面白かった。
・初めて訪れましたがとても内容が濃く見ごたえがあり、又、ゆっくりと来訪しようと思います。
・照明が暗く、順路がよくわからなかった。
・スタッフの人数が多すぎる。スタッフの対応がよくなかった。
・展示室内に休憩のための椅子を増やしてほしい。

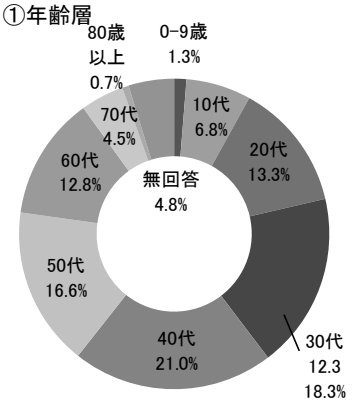
東京国立博物館

特別展「 写　楽 」
アンケート集計結果

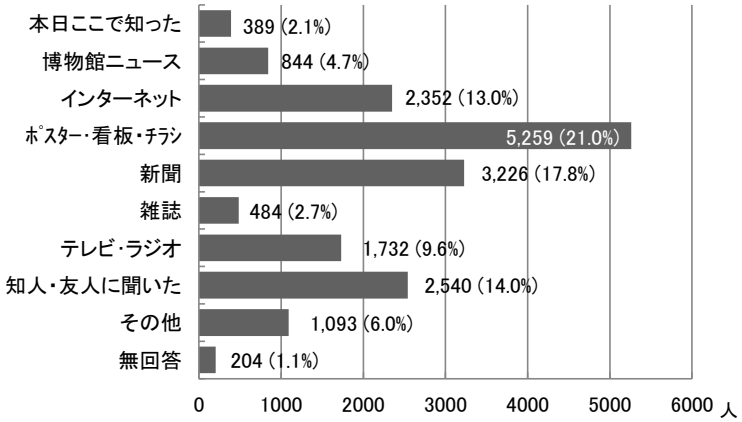
開催期間：平成23年5月1日（日）～6月12日（日）（41日間）

回答者数：14,802人（総来館者数：229,625人　アンケート回収率：6.45%）

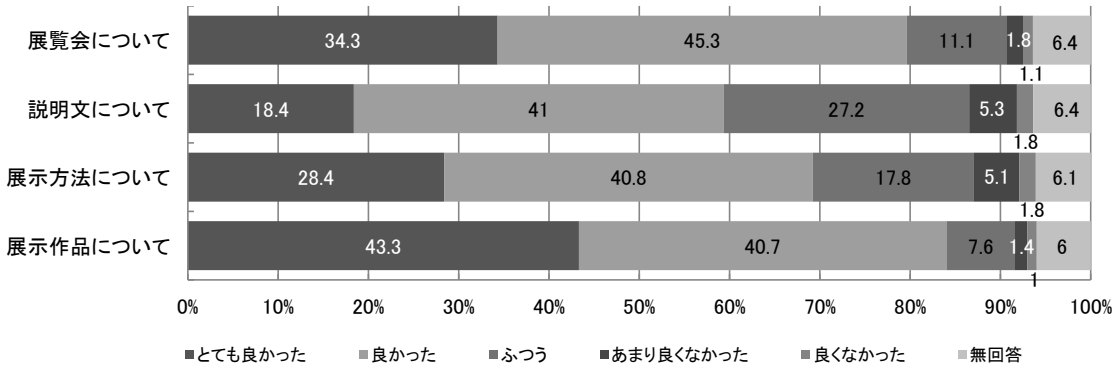
①年齢層



②認知経路（複数回答）



③展示に関する満足度



④主な意見・感想

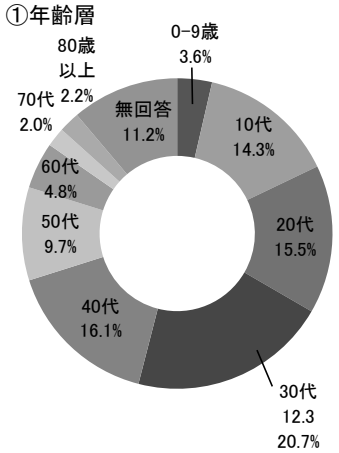
・とても良かった。楽しかった。面白かった。素晴らしかった。感動した。
・写楽の作品を一堂に見ることができ感激した。
・同じ役者、題材の絵を写楽と写楽以外の作者別に見比べることができて、とても興味深かった。
・震災の渦中、作品を貸し出してくれた各美術館に感謝。
・震災の影響がありながらも開催されて良かった。
・混雑していてもゆったり、じっくり見られるよう展示方法を考えてほしい。
・展示作品数が多すぎて疲れてしまった。

東京国立博物館

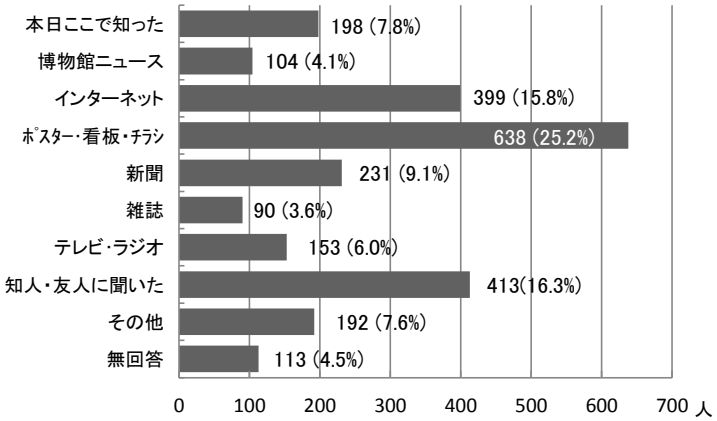
特別展「 手塚治虫のブッダ展 」
アンケート集計結果

開催期間：平成23年4月26日（火）～6月26日（日）（57日間）
回答者数：2,353人（総来館者数：99,088人　アンケート回収率：2.37%）

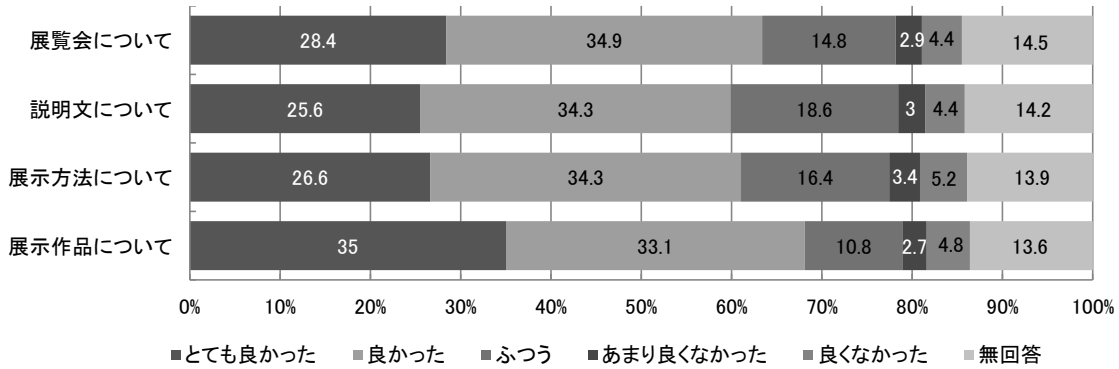
①年齢層



②認知経路（複数回答）



③展示に関する満足度



④主な意見・感想
・漫画と仏像を一緒に展示したのは新しい試み。分かりやすく楽しかった。
・とても良かった。楽しかった。面白かった。
・手塚治虫氏の原画を見ることができて感動した。
・水樹奈々さんの声が聞きやすくて良かった。（音声ガイド）
・展示作品数が少なくて物足りなかった。
・もっと広いスペースでゆったりと鑑賞したかった。
・原画の展示位置が高くて見づらかった。

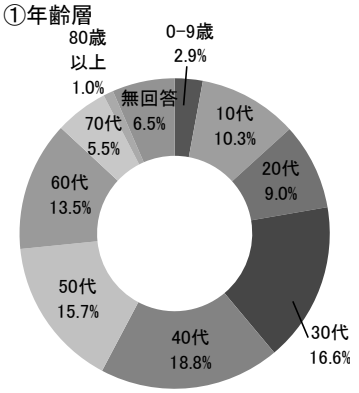
東京国立博物館

特別展「 空海と密教美術 」
アンケート集計結果

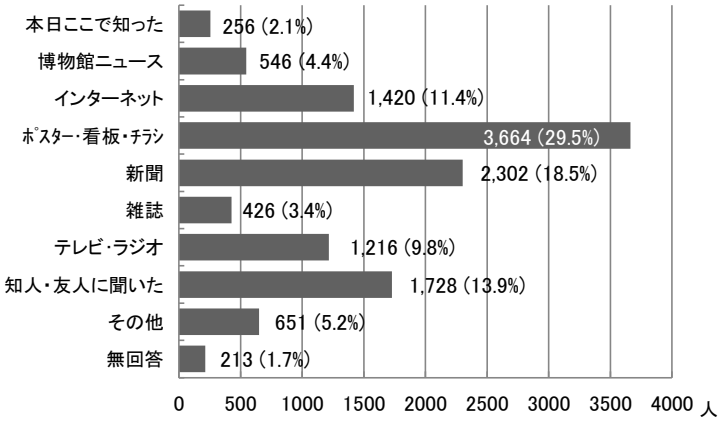
開催期間：平成23年7月20日（水）～9月25日（日）（61日間）

回答者数：9,816人（総来館者数：550,399人　アンケート回収率：1.78%）

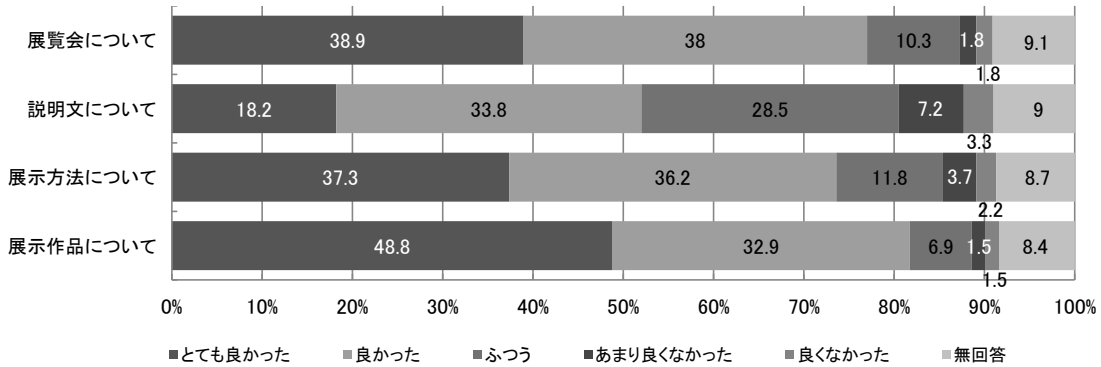
①年齢層



②認知経路（複数回答）



③展示に関する満足度



④主な意見・感想

・ 良かった。楽しかった。素晴らしかった。感動した。興味深かった。
・ 仏像曼荼羅の展示は圧巻で、素晴らしかった。
・ 仏像を360度見ることができてとても良かった。
・ 空海直筆の書に感動した。
・ 貴重な作品を間近に見ることができて感動した。
・ 会場内が混雑し過ぎて、ゆっくり作品を見ることができなかった。
・ 照明が暗く足元が危なかった。

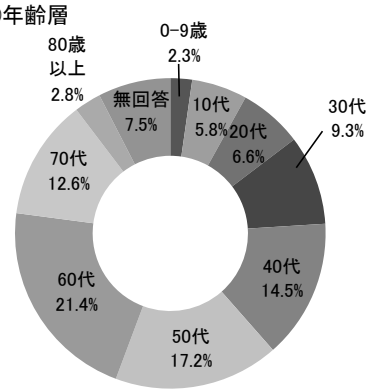
東京国立博物館

特別展「 法然と親鸞 ゆかりの名宝　」
アンケート集計結果

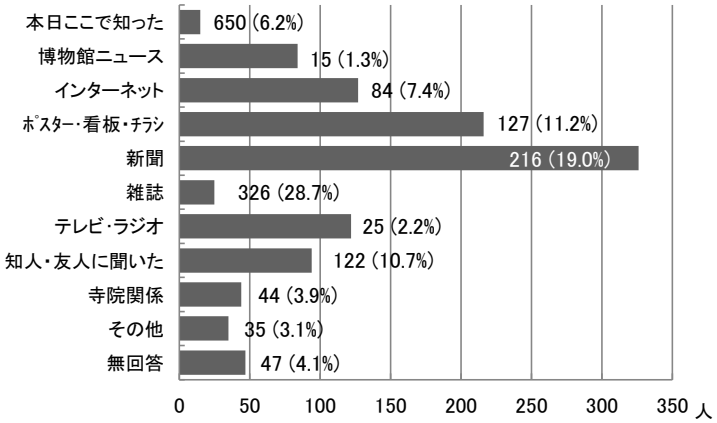
開催期間：平成23年10月25日（火）～12月4日（日）（36日間）

回答者数：3,007人（総来館者数：212,150人　アンケート回収率：1.42%）

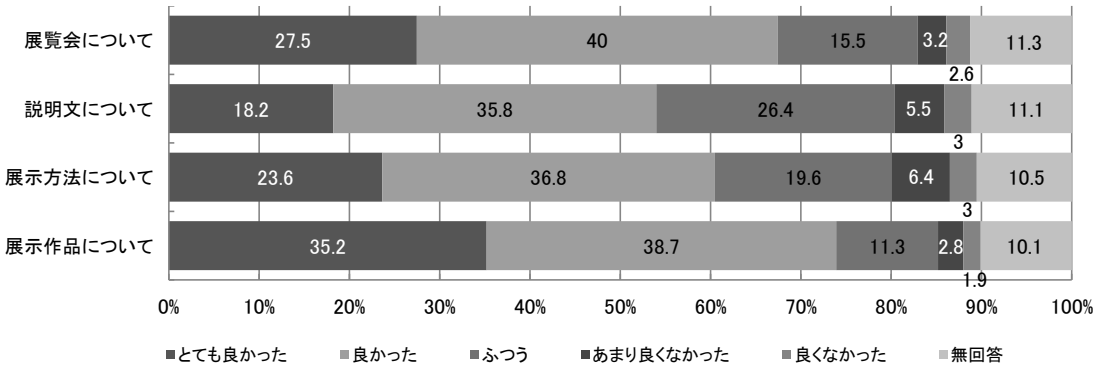
①年齢層



②認知経路（複数回答）



③展示に関する満足度



④主な意見・感想

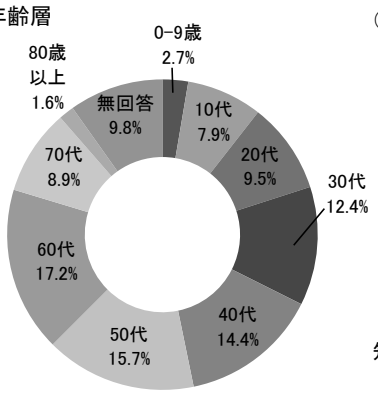
・良かった。面白かった。素晴らしかった。感動した。
・仏像の展示が良かった。
・書の展示が良かった。（うち、「法然と親鸞の直筆の書が良かった。」「歎異抄が良かった。」、「本願寺三十六人家集が良かった。」という意見を含む。）
・法然と親鸞についてよく分かった。
・音声ガイドが分かりやすかった。
・書などは読めないところも多く内容が分からないので、書下し文や現代語訳、注釈をつけてほしい。
・法然と親鸞、浄土宗と浄土真宗について、もっと掘り下げた展示をしてほしかった。

東京国立博物館

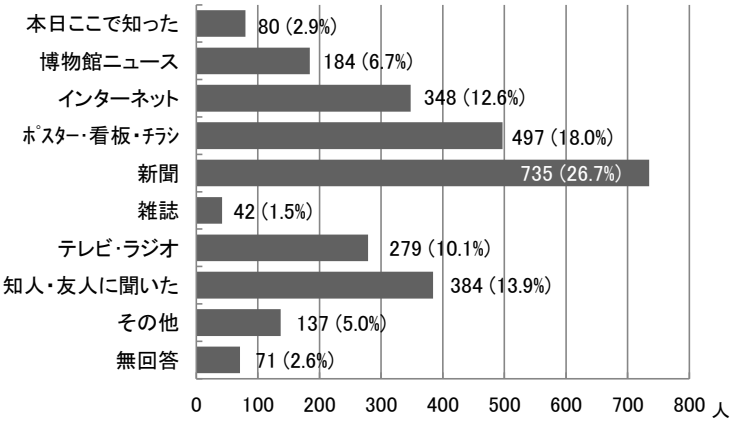
特別展「 北京故宮博物院200選　」
アンケート集計結果

開催期間：平成24年1月2日（月・休）～2月19日（日）（43日間）
回答者数：2,321人（総来館者数：258,252人　アンケート回収率：0.90%）

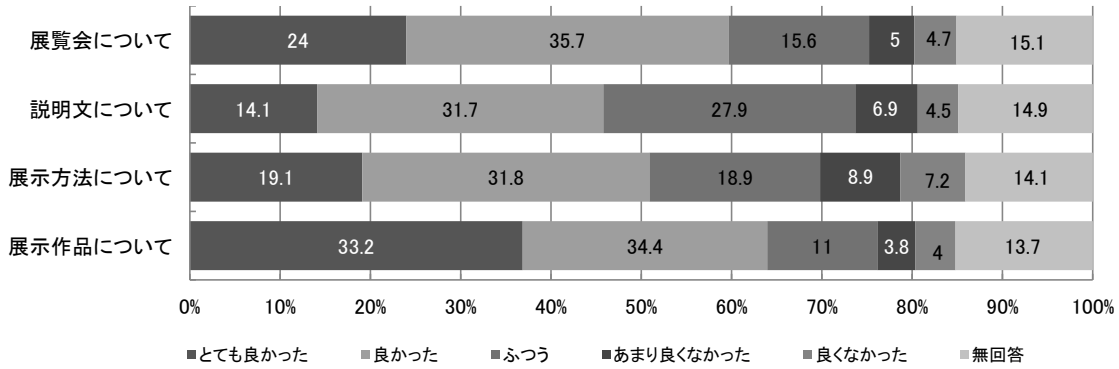
①年齢層



②認知経路（複数回答）



③展示に関する満足度



④主な意見・感想
・とても良かった。素晴らしかった。面白かった。感動した。
・清明上河図巻がとても素晴らしかった。
・普段見ることができない貴重な作品を見ることができて良かった。
・中国の歴史や文化等の勉強になった。
・清明上河図巻の待ち時間が長すぎる。

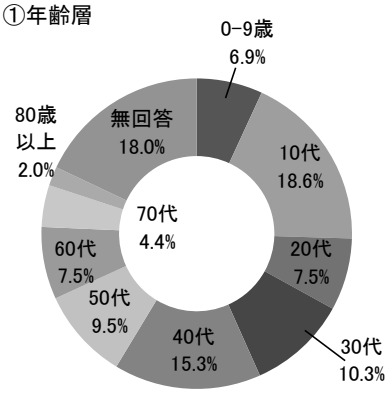
東京国立博物館

特別展「 孫文と梅屋庄吉 」
アンケート集計結果

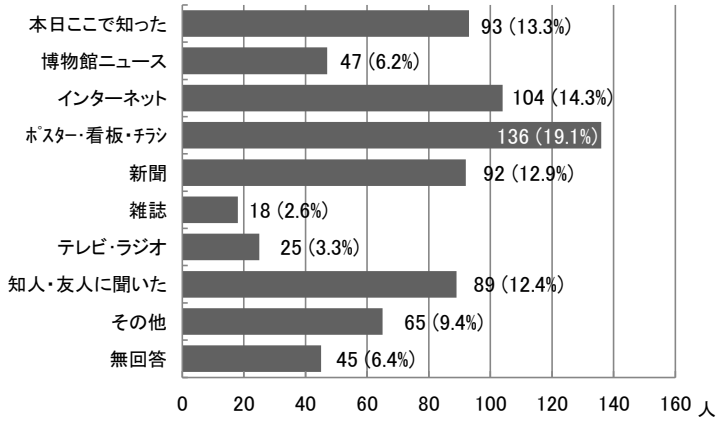
開催期間：平成23年7月26日（火）～9月4日（日）（37日間）

回答者数：757人（総来館者数：28,780人　アンケート回収率：2.63%）

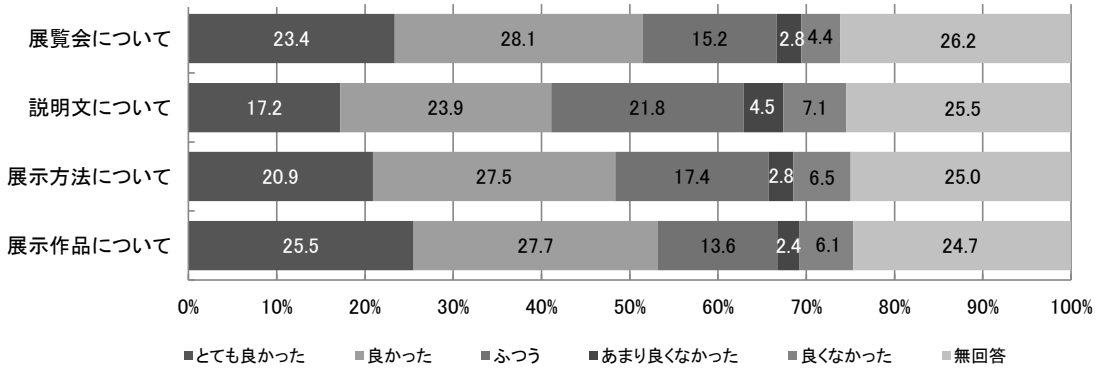
①年齢層



②認知経路（複数回答）



③展示に関する満足度



④主な意見・感想

- おもしろかったです。
- とても見ごたえがありました。
- 大変すばらしかったです。
- 本特別展で大変勉強になりました。ありがとうございました。
- 解説文をもう少し増やしてほしいです。
- 未だ見たことのない写真と思い期待したが、展示数が少なかったです。
- 保護のために照明をおとしていますが、もう少し明るくしてほしいです。

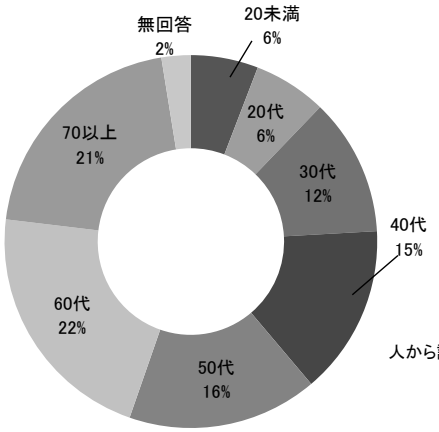
※総入場者数における10代以下の割合は全体の約6%でしたが、アンケートの結果を見ると10代以下の回答が全体の約25%と不自然な結果となっていますが、集計上、手を加えておりません。

京都国立博物館

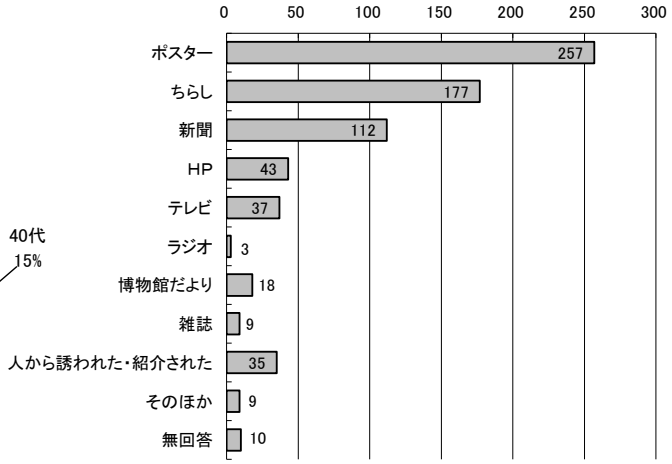
特別展覧会「法然　―生涯と美術―」
アンケート集計結果

開催期間：平成23年3月26日（土）～5月8日（日）（39日間）
回答者数：394人（総来館者数　92,929人　アンケート回収率0.42%）

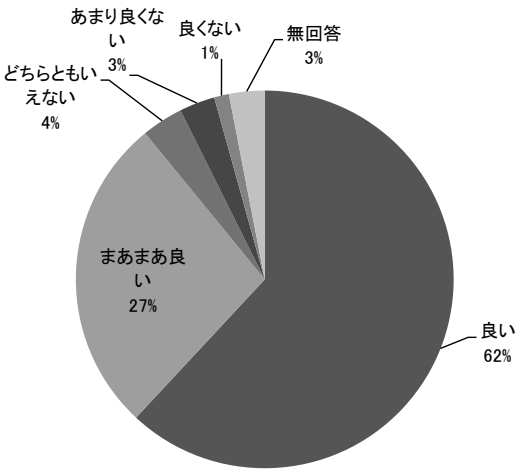
①年齢層



②認知経路（複数回答）



③展示に関する満足度



④主な意見・感想

・良い内容だった、とても面白かった、楽しめた、感動した。（同様24件）
・（題せんの）字が小さい、大きい文字で表示がほしい。（同様12件）
・平常展示が無くて残念だ。（同様11件）
・（特別展示館が）素晴らしい、趣深い、美しい建物だった。（同様10件）

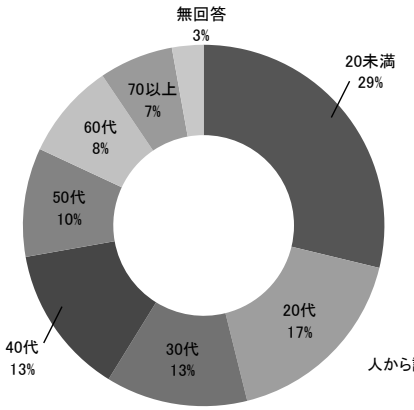
京都国立博物館

特別展観「百獣の楽園―美術にすむ動物たち―」

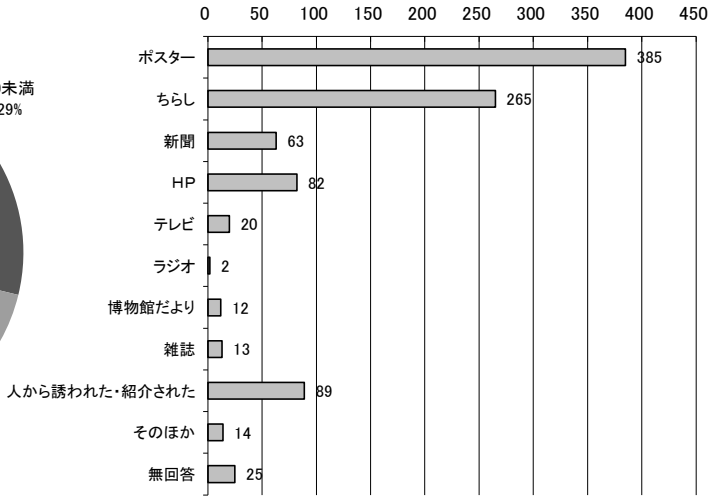
アンケート集計結果

開催期間：平成23年7月16日（土）～8月28日（日）（38日間）
回答者数：709人（総来館者数 35,259人　アンケート回収率 2.01%）

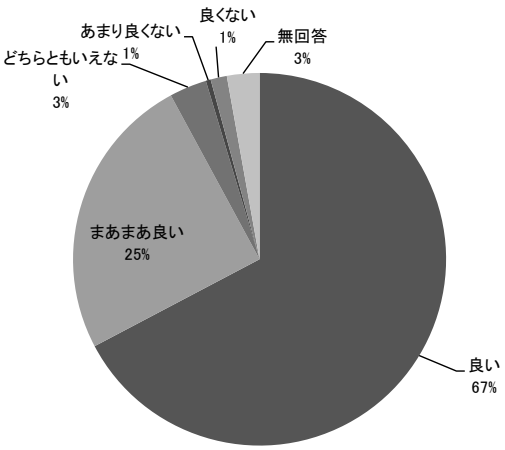
①年齢層



②認知経路（複数回答）



③展示に関する満足度



④主な意見・感想

・良かった、面白かった、素晴らしかった、感動した。（同様90件）
・（特別展示館が）素晴らしい、趣深い、美しい建物だった。（同様42件）
・（題せんが）とても楽しめた、おもしろかった、読みやすかった（同様39件）
・また来たいと思う（同様32件）
・平常展示が無くて残念だ。（同様31件）

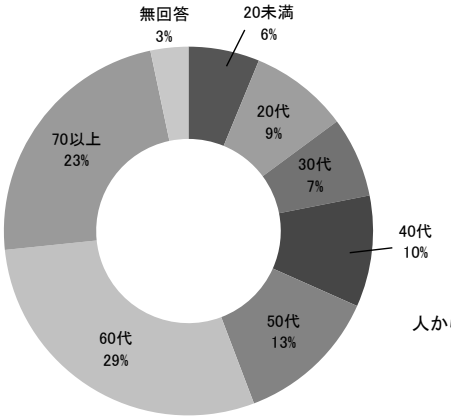
京都国立博物館

特別展覧会「細川家の至宝―珠玉の永青文庫コレクション―」

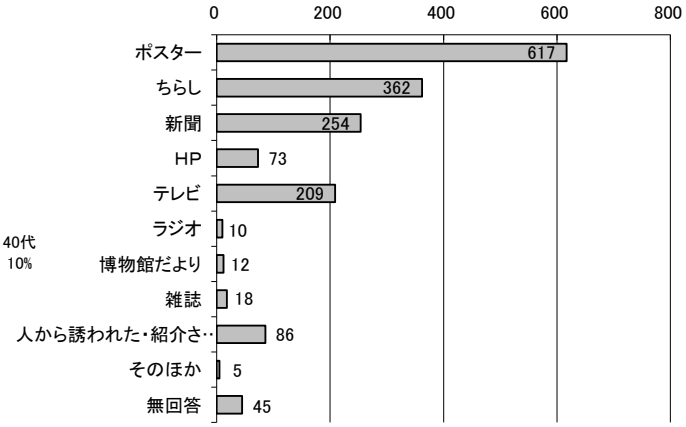
アンケート集計結果

開催期間：平成23年10月8日（土）～11月23日（水・祝）（40日間）
回答者数：995人（総来館者数　106,536人　アンケート回収率 0.93%）

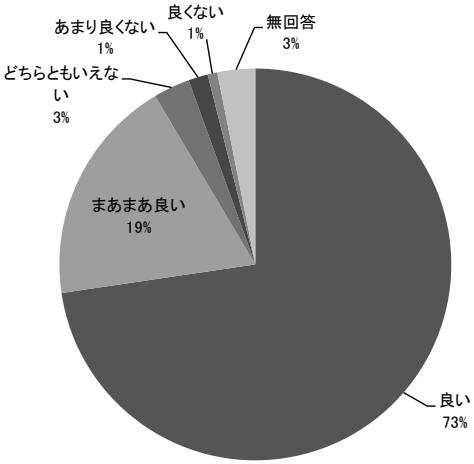
①年齢層



②認知経路（複数回答）



③展示に関する満足度



④主な意見・感想

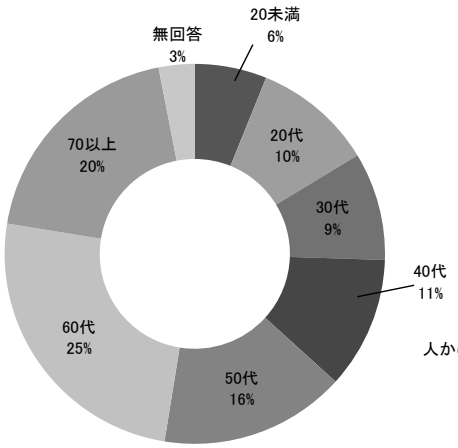
・良かった、素晴らしかった、感動した、面白かった（同様91件）
・今後も、今回のような充実した展覧会を期待する。（同様37件）
・貴重な作品を多くみれて満足だ、充実した内容だった。（同様31件）
・（書跡の展示で）なんと書いてあるか、書き下し、現代語訳がほしい。（同様29件）
・（特別展示館が）素晴らしい、趣深い、美しい建物だった。（同様29件）

京都国立博物館

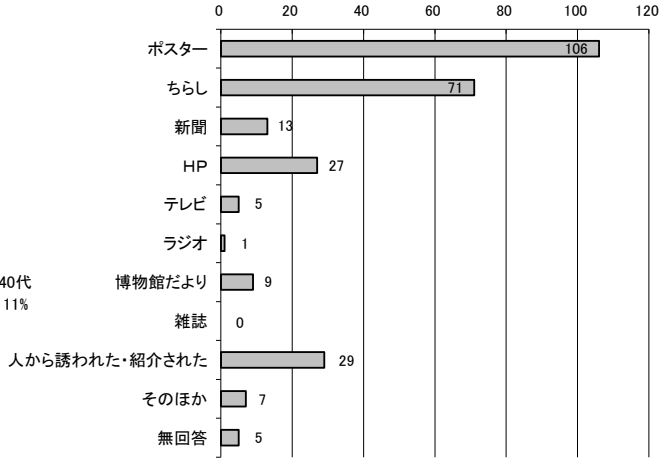
特別展覧会「中国近代絵画と日本」
アンケート集計結果

開催期間：平成24年1月7日（土）～2月26日（日）（44日間）
回答者数：196人（総来館者数 13,286人　アンケート回収率 1.47%）

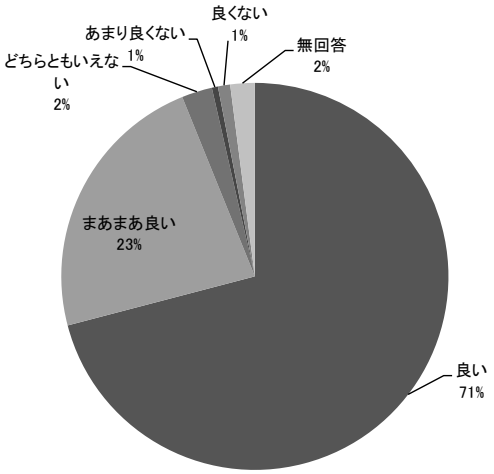
①年齢層



②認知経路（複数回答）



③展示に関する満足度



④主な意見・感想

・感動した、すばらしかった。（同様36件）
・普段見る機会のない中国近代絵画をみられて非常に良かった、新鮮だった（同様29件）
・多くの作品をみれて満足だ、充実した内容だった（同様20件）
・中国油画の存在を知るきっかけとなり良かった（同様15件）
・中国と日本の交流を知ることが出来、良かった（同様11件）

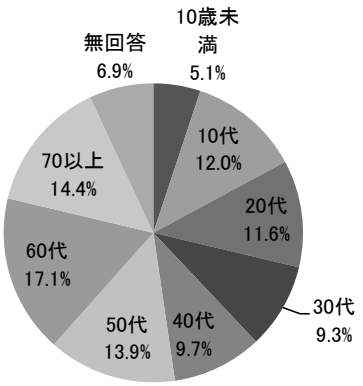
奈良国立博物館

特別展「誕生！中国文明」

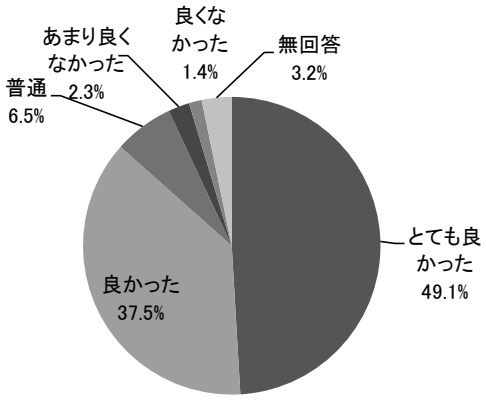
アンケート集計結果

開催期間：平成23年4月5日(火)～5月29日(日)(49日間)
回答者数：216人　来館者数35,679人　回収率 0.61%

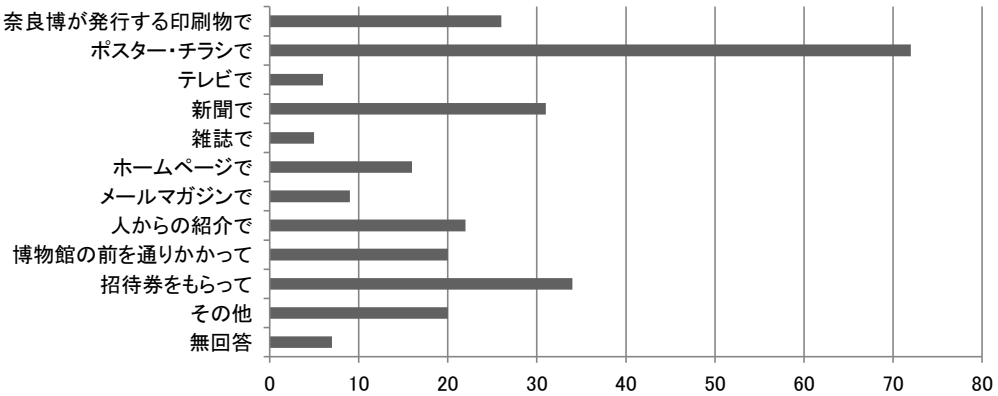
①年齢層



②展示に関する満足度



③認知経路(複数回答)



④主な意見・感想

・異形かつ美しい世界へ旅した気分。美しいもので繋がれていてとても面白く、いつもながら美的感覚の確かさに感動。
・バラエティに富んでいて、造形的におもしろいものが多く、見ていて楽しかった。展示物の構成や配分も良かった。
・従来の企画に被らないように、よく作品選定がなされていた。量もちょうどで、大変楽しく目新しく見ることができた。
・2回目ですが、質・量ともに大満足で新しい発見もありました。
・展示が明るく工夫が随所に見られた。
・果物型入れ物の「収納方法解説」も良かった。使うものは、使い方を具体的に説明してもらうとすごく良く分かる。
・部品である展示物は、全体のどこの部分に当たるかイラストや写真で図示されてあって、とても分かりやすかった。
・音声ガイド心良く、素敵な時間を過ごせました。

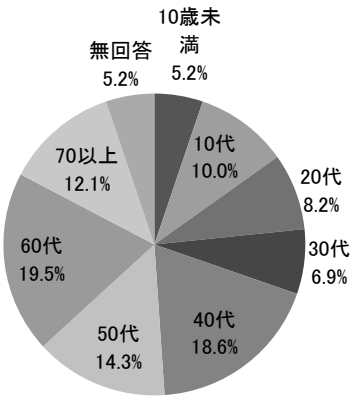
奈良国立博物館

特別展「天竺へ−三蔵法師3万キロの旅」

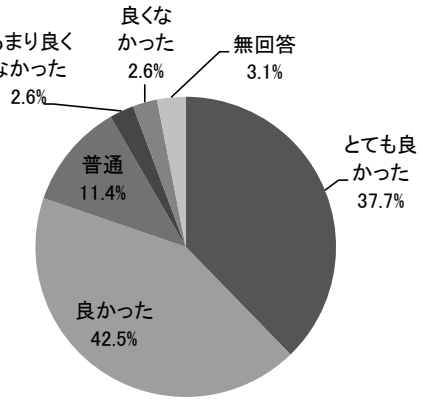
アンケート集計結果

開催期間：平成23年7月16日(土)～8月28日(日)(39日間)
回答者数：228人　来館者数63,364人　回収率 0.36%

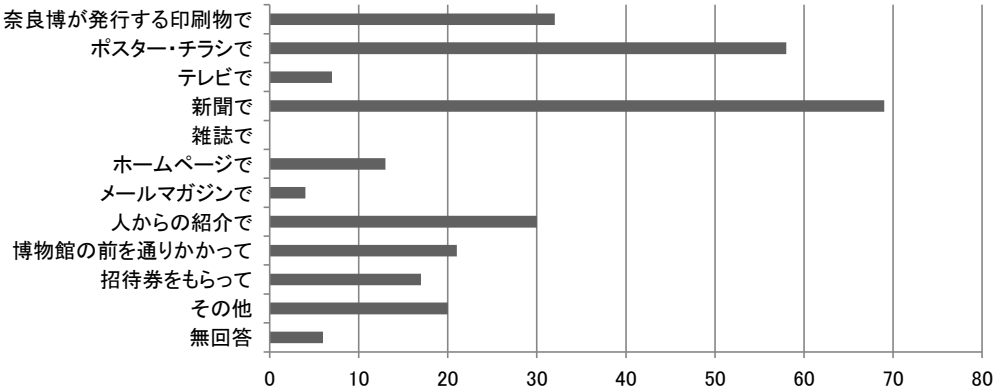
①年齢層



②展示に関する満足度



③認知経路(複数回答)



④主な意見・感想

・物語として知っている法師と、実際旅をして苦労をして経文を持ち帰り衆生に広めた法師の違いが良く分かった。
・絵巻の保存状態が信じられぬほど良く、端麗な絵巻物を通して求法の旅を堪能できた。

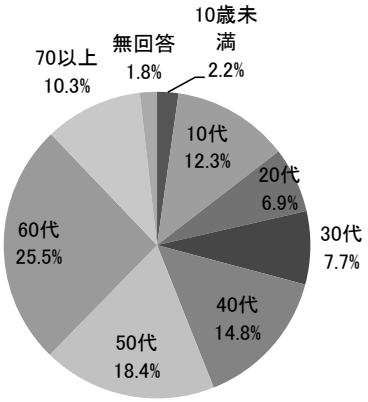
・全体の巻を全て順次見ることができる機会はない。絵巻物の展覧としては類を見ず、素晴らしいの一言に尽きる。
・三蔵法師の決意、足跡が充分解説され、多くの図が助けになっていた。
・順路が分かりやすくて良かったです。一冊の本を読んでいる気分で展示を見ることができました。
・前後期の展示替えで見られない部分をパネルやディスプレイで表示し解説していて、配慮が大変良かった。

特別展「第63回正倉院展」

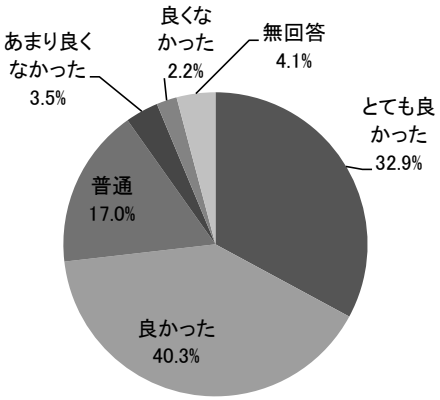
アンケート集計結果

開催期間：平成23年10月29日(土)～11月14日(月)(17日間)
回答者数：1,335人　来館者数239,581人　回収率 0.56%

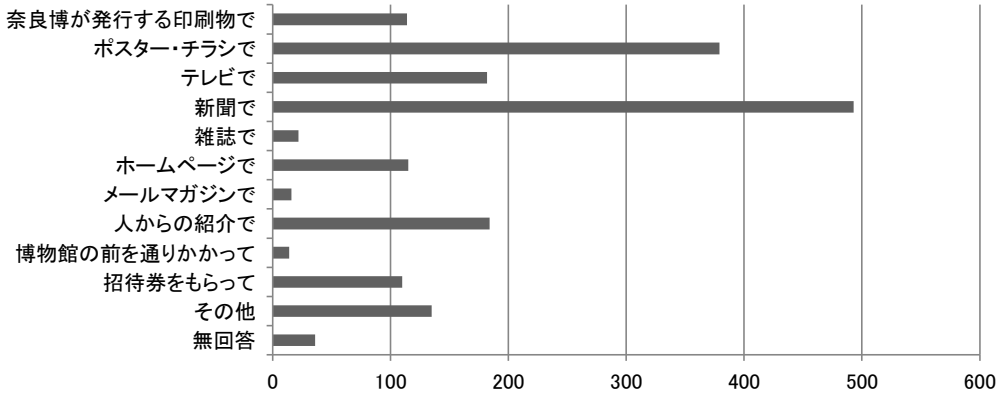
①年齢層



②展示に関する満足度



③認知経路(複数回答)



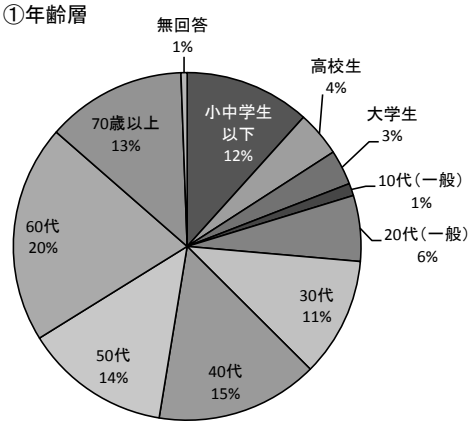
④主な意見・感想
・何とも言えない雰囲気に包まれ、先人の技術や色彩感覚に感激した。
・太刀展示に2通りの観覧方法があって、選択できるのが良かった。
・展示物の配置がよく、人の流れもスムーズだった。
・観覧前にボランティアの見どころ解説を聞くことで、理解が深まって、より楽しむことができた。
・子ども用の音声ガイドがわかりやすく、小学生の子供が退屈することなく楽しめた。
・託児所がありがたかった。

九州国立博物館

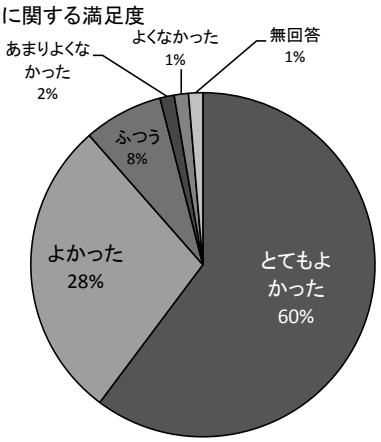
特別展「黄檗―OBAKU」アンケート集計結果

開催期間：平成23年3月15日(火)～5月22日(日)（61日間）
総回答者数：　523人（総来館者数：55,539人　アンケート回収率：0.94%）

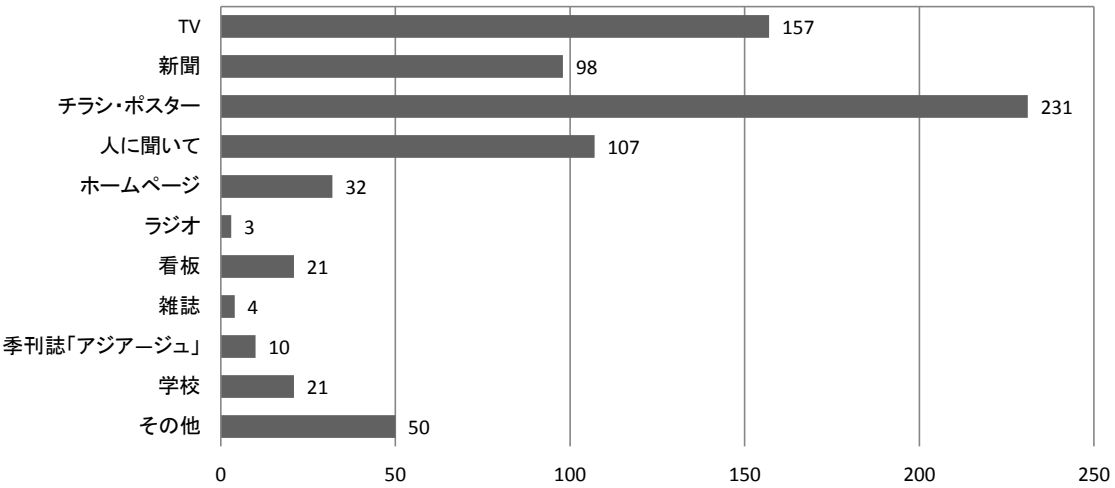
①年齢層



②展示に関する満足度



③認知経路(複数回答)



④主な意見・感想

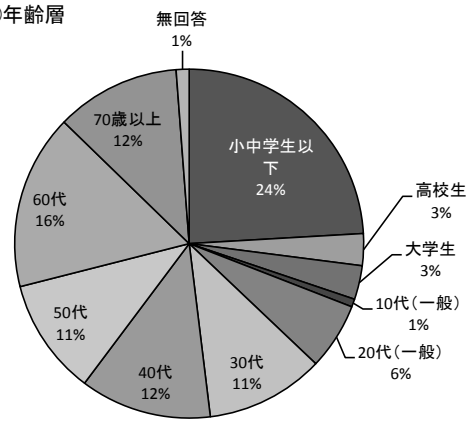
・隠元禅師のことが良く解かりました、レイアウトもわかり易くよかった。すごく感動しました。
・落ち着いてみることが出来とても良い時間でした。
・出口にビデオの部屋を設けると集中できません、もう少し静かな場所に。もっと多く展示物があったほうが良い。
・もっと詳しい説明がほしい。説明の文字が小さい。暗くて説明文が見えにくい。
・少し暑かった。もう少し椅子を増やしてほしい。
・黄檗について、イラストでの解説があったので誰でも興味をもって、見ることが出来たと思った。

九州国立博物館

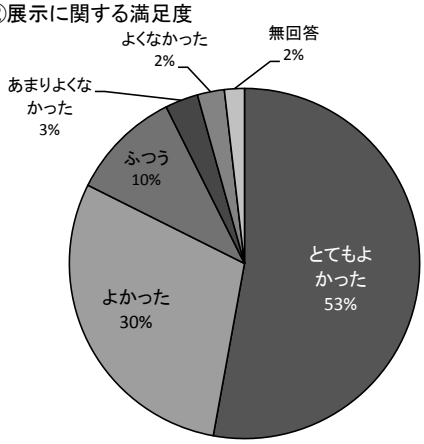
特別展「よみがえる国宝 － 守り伝える日本の美」
アンケート集計結果

開催期間：平成23年6月28日(火)～8月28日(日)（54日間）
総回答者数：1,084人（総来館者数：118,528人　アンケート回収率：0.91%）

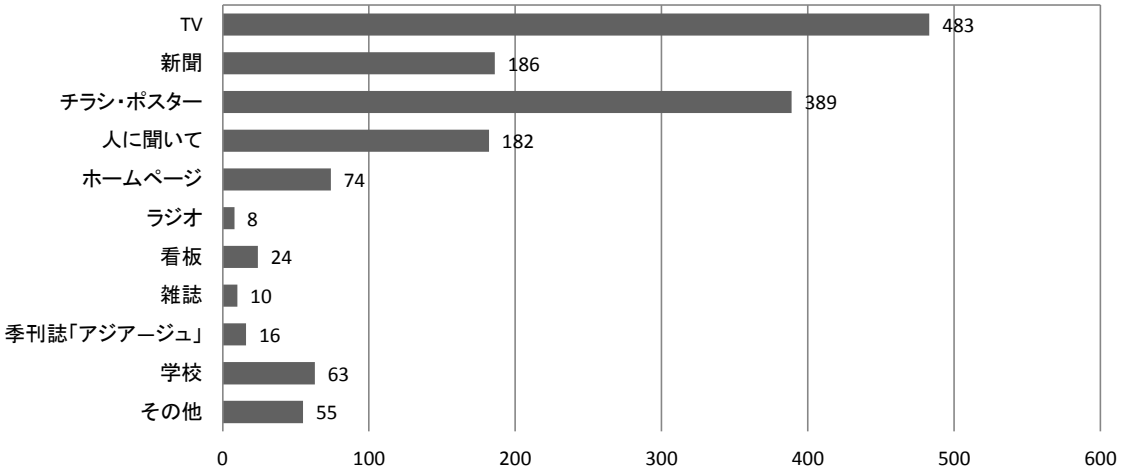
①年齢層



②展示に関する満足度



③認知経路(複数回答)



④主な意見・感想

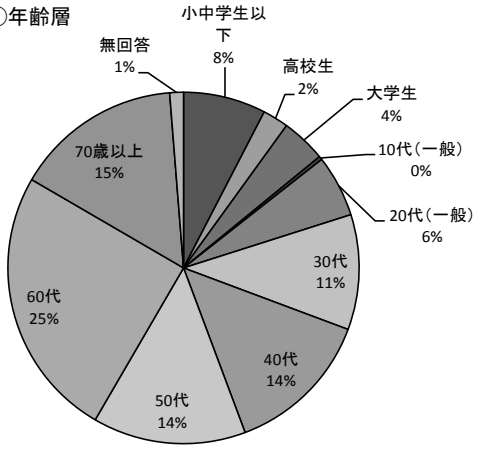
・文化財の保存修復という新しい側面から見ることができ、知らない所で文化財を支えている人達がいることも知ることができ面白かった。
・展示の説明や流れも解かり易くとてもよかった。 源頼朝像感動致しました。
・展示品が思ったより少なかった。茶・盆・蒔絵・螺鈿の箱等、車椅子からは少し高い、子供さんも抱き上げられて見学していました。
・キャプションの字が小さくて読めない、古文書の解説が欲しかった。 ビデオには字幕を付けてください。〔聴覚障害者用〕
・日本語以外の説明文も欲しい。音声ガイドが使いにくかった。
・暗くてよく見えない。少し冷房が効きすぎていた。 休憩する場所を増やしてほしい。
・修復方法のビデオがすごく勉強になりました。
・展示品も良かったが、それ以上に修理保存という観点で創られているところが大変興味深かった。

九州国立博物館

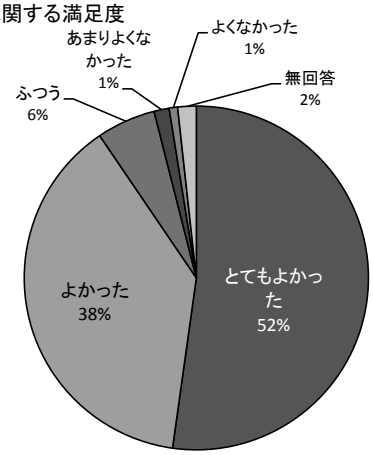
特別展「草原の王朝　契丹－美しき3人のプリンセス」アンケート集計結果

開催期間：平成23年9月27日(火)～11月27日(日)（54日間）
総回答者数：632人（総来館者数：75,880人　アンケート回収率：0.83%）

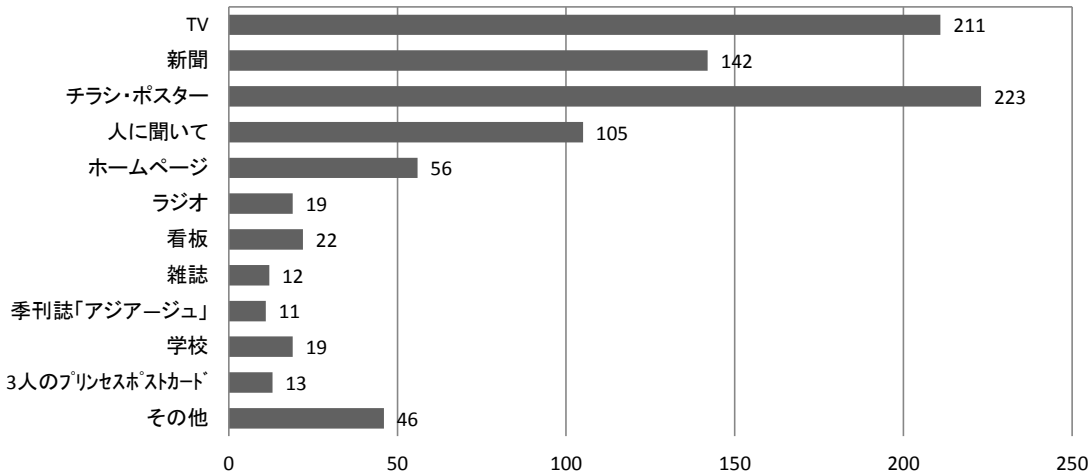
①年齢層



②展示に関する満足度



③認知経路(複数回答)



④主な意見・感想

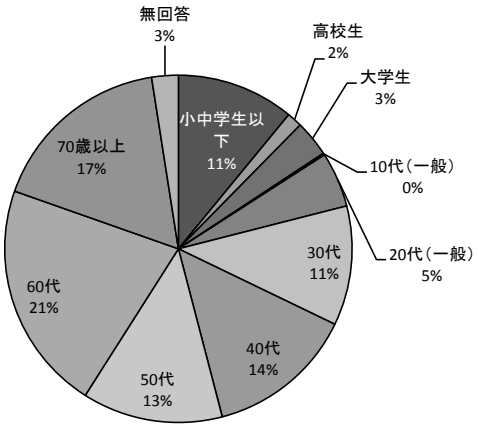
・力を入れた展示ゆえ、大変見応えがありました、有難うございました。契丹について全く知らない状態で来ましたが、楽しめました
・解説パネルが面白かった。来てよかったです、契丹のことを知らなかったので新しい発見でした。
・もっと詳しい説明があった方がよかった。外国語の説明もほしい。もう少し大きな字にして欲しい、漢字には全てカナを振ってほし
・契丹のビデオは、出口でなく入口でやった方が良いと思う。展示品で見え難いところがあった、鏡など置いてあったらもっと良かっ
・館内が暗くてよく見えなかった。もう少し休憩のための椅子があったらよい。
・この展示で内容が理解できた、３人のプリンセスに興味をもっていたので、より印象的でした。
・ゆとりがあって見やすく、内容もよく理解できた。

九州国立博物館

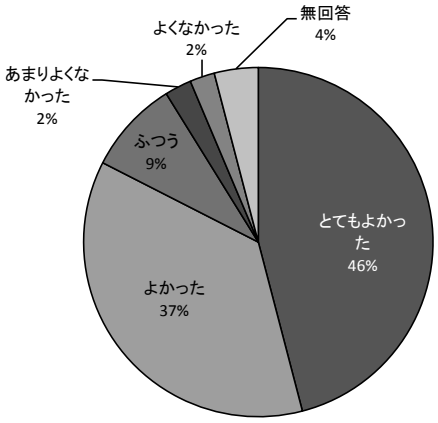
特別展「細川家の至宝－珠玉の永青文庫コレクション」アンケート集計結果

開催期間：平成24年1月1日（日）～3月4日（日）（56日間）
総回答者数：566人（総来館者数：113,290人　アンケート回収率：0.50%）

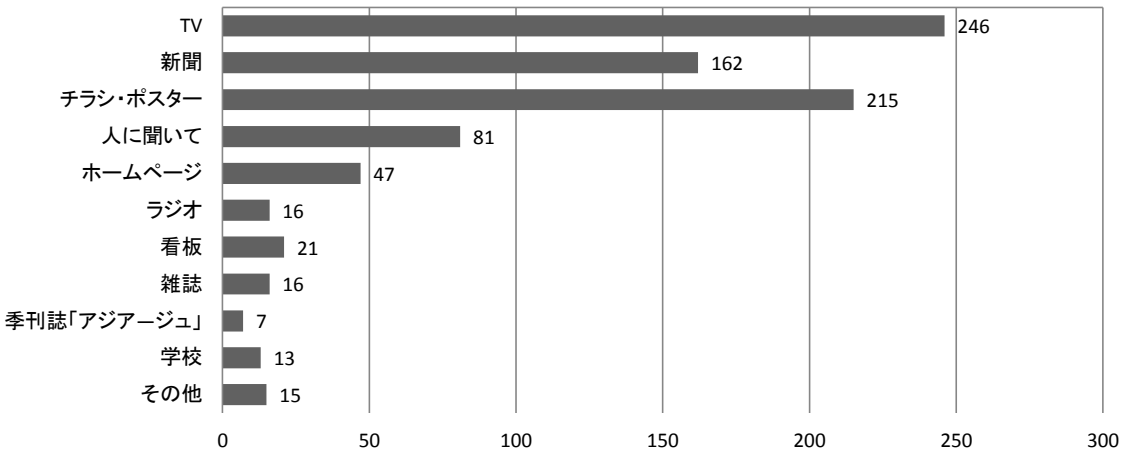
①年齢層



②展示に関する満足度



③認知経路（複数回答）



④主な意見・感想

・いろんな種類の展示物があり、おもしろかった。見応えのある充実した内容でした。
・日本の文化・細川家の文化に触れる事ができてうれしかった。
・展示品の底や裏が見える様に展示してほしい。順路が分りにくかった。展示替えが多い。
・字をもう少し大きくしてほしい。パネルをもっと見やすい場所に置いてほしい。子供にも分りやすい説明にしてほしい。
・ガラスの清掃をきちんとしてほしい。会場が暗い、もっと明るくしてほしい。照明が暗く、説明が読みにくい。
・音声ガイドの内容がよくなかった。音声ガイドを使用している人が止まって進まない。
・イラスト解説がとても面白くて楽しめました。